

---

# JD Edwards EnterpriseOne 一般 会計 9.0 製品ガイド

---

2008 年 12月

JD Edwards EnterpriseOne 一般会計 9.0 製品ガイド  
SKU E190AGA-B 1208JPN

Copyright © 2003, 2008, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

## 商標と登録商標について

OracleはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

## ライセンス制約の保証と結果的に生じる損害の免責

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

米国特許第5,781,908、5,828,376、5,950,010、5,960,204、5,987,497、5,995,972、5,987,497、6,223,345号により保護されています。その他の特許は申請中です。

## 保証免責

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

## 制限付権利

このソフトウェアまたは関連ドキュメントが、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供される場合は、次のNoticeが適用されます。

### U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are “commercial computer software” or “commercial technical data” pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

## 危険な用途への使用について

このソフトウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、このソフトウェアを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

## 第三者のコンテンツ、製品、サービスに対する免責

このソフトウェアおよびドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても、一切の責任を負いかねます。

Contains GNU libgmp library; Copyright © 1991 Free Software Foundation, Inc. This library is free software which can be modified and redistributed under the terms of the GNU Library General Public License.

Includes Adobe® PDF Library, Copyright 1993–2001 Adobe Systems, Inc. and DL Interface, Copyright 1999–2008 Datalogics Inc. All rights reserved. Adobe® is a trademark of Adobe Systems Incorporated.



Portions of this program contain information proprietary to Microsoft Corporation. Copyright 1985–1999 Microsoft Corporation.

Portions of this program contain information proprietary to Tenberry Software, Inc. Copyright 1992–1995 Tenberry Software, Inc.

Portions of this program contain information proprietary to Premia Corporation. Copyright 1993 Premia Corporation.

This product includes code licensed from RSA Data Security. All rights reserved.

This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>).

This product includes cryptographic software written by Eric Young ([ey@cryptsoft.com](mailto:ey@cryptsoft.com)).

This product includes software written by Tim Hudson ([tjh@cryptsoft.com](mailto:tjh@cryptsoft.com)). All rights reserved.

This product includes the Sentry Spelling–Checker Engine, Copyright 1993 Wintertree Software Inc. All rights reserved.

## Open Source Disclosure

Oracle takes no responsibility for its use or distribution of any open source or shareware software or documentation and disclaims any and all liability or damages resulting from use of said software or documentation. The following open source software may be used in Oracle's JD Edwards EnterpriseOne products and the following disclaimers are provided:

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>). Copyright (c) 1999–2000 The Apache Software Foundation. All rights reserved. THIS SOFTWARE IS PROVIDED “AS IS” AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE APACHE SOFTWARE FOUNDATION OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.



# 目次

## はじめに

この PeopleBook について .....	xxxv
JD Edwards EnterpriseOneアプリケーション導入の事前要件.....	xxxv
アプリケーションの基礎.....	xxxv
最新版ドキュメンテーションの入手とドキュメンテーションのダウンロード.....	xxxvi
最新版ドキュメンテーションの入手(英語版のみ).....	xxxvi
ドキュメンテーションのダウンロード.....	xxxvi
追加情報.....	xxxvi
表記規則.....	xxxviii
表記規則.....	xxxviii
注意事項の表示.....	xxxix
国、地域、業種の表記.....	xxxix
通貨コード.....	xl
ご意見、ご要望をお寄せください.....	xl
製品ガイドで使用する共通フィールド.....	xl

## まえがき

JD Edwards EnterpriseOne一般会計 - まえがき.....	xlili
JD Edwards EnterpriseOne製品.....	xlili
JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基礎.....	xlili
この製品ガイドで使用する共通フィールド.....	xlili

## 第 1 章

JD Edwards EnterpriseOne一般会計 - はじめに.....	1
JD Edwards EnterpriseOne一般会計の概要.....	1
JD Edwards EnterpriseOne一般会計のビジネス・プロセス.....	1
JD Edwards EnterpriseOne一般会計の統合.....	2
JD Edwards EnterpriseOne一般会計の導入.....	4
グローバル導入の手順.....	5
JD Edwards EnterpriseOne一般会計の導入手順.....	5

## 第 2 章

一般会計システムについて.....	7
-------------------	---

一般会計システムの機能.....	7
------------------	---

### 第 3 章

一般会計システムのセットアップ.....	11
一般会計システムのセットアップについて.....	11
事前設定.....	12
一般会計固定情報の設定.....	12
一般会計固定情報について.....	12
事前設定.....	13
一般会計固定情報の設定に使用するフォーム.....	14
一般会計固定情報の設定.....	14
一般会計のユーザー定義コードの設定.....	16
一般会計システムの元帳タイプの設定.....	18
一般会計システムの元帳タイプ規則の設定.....	20
元帳タイプ規則について.....	20
元帳タイプ規則の設定に使用するフォーム.....	21
元帳タイプ規則の設定.....	21
一般会計システムのAAIの設定.....	23
一般勘定科目について.....	23
繰越利益に対する勘定科目について.....	25
財務諸表合計について.....	26
スピード・コードについて.....	27
勘定集計について.....	28
調整可能範囲について.....	28
前年度の勘定科目の除去について.....	29
ビジネスユニット補足データの設定.....	29
事前設定.....	29
Vertex Sales Taxの設定.....	29

### 第 4 章

間接費の設定.....	31
間接費の設定について.....	31
セグメント情報の設定.....	32
セグメントと間接費カテゴリについて.....	32
間接費計算方法について.....	32
間接費基本規則について.....	33
事前設定.....	33
セグメント情報の設定に使用するフォーム.....	34

セグメント定義の設定.....	34
間接費計算方法の設定.....	36
間接費基本規則の設定.....	36
プール情報の設定.....	37
プール定義について.....	38
プール・グループ・コードについて.....	38
事前設定.....	38
プール情報の設定に使用するフォーム.....	39
プール定義の追加.....	39
プール・グループ・コードの追加.....	40
間接費レートの設定.....	42
間接費レートについて.....	42
間接費レートの設定に使用するフォーム.....	42
間接費レートの追加.....	42
 <b>第 5 章</b>	
<b>詳細変数配賦の設定.....</b>	<b>45</b>
詳細変数配賦の設定について.....	45
間接費ベースの配賦について.....	47
ビジネスユニット一時変更の設定.....	47
ビジネスユニット一時変更について.....	48
ビジネスユニット一時変更の設定に使用するフォーム.....	48
例: 勘定残高ベースの配賦のビジネスユニット一時変更.....	49
例: 間接費ベースの配賦のビジネスユニット一時変更.....	49
ビジネスユニット一時変更の設定.....	50
勘定残高ベースの配賦のバージョンの設定.....	51
勘定残高ベースの配賦のバージョン設定について.....	51
間接費ベースの配賦のバージョンの設定.....	51
間接費ベースの配賦のバージョン設定について.....	51
詳細変数配賦の指定の設定.....	52
詳細変数配賦の指定について.....	52
詳細変数配賦指定の設定に使用するフォーム.....	53
「詳細変数配賦の処理」フォームについて.....	53
詳細変数配賦 (P09123) の処理オプションの設定.....	54
勘定残高ベースの配賦の指定の設定.....	54
間接費ベースの配賦の指定の設定.....	61

**第 6 章**

<b>勘定残高調整の設定</b> .....	<b>67</b>
勘定残高調整について.....	67
勘定残高調整のAAIの設定.....	67
残高調整コードの設定.....	68

**第 7 章**

<b>自動銀行取引明細処理の設定</b> .....	<b>69</b>
自動銀行取引明細処理のUDCの設定.....	69
自動銀行取引明細処理のUDCの設定について.....	69
自動銀行取引明細のUDCの設定.....	69
相互参照の設定.....	74
相互参照について.....	74
相互参照の設定に使用するフォーム.....	75
銀行口座相互参照の設定.....	75
取引タイプ相互参照の設定.....	77
自動銀行勘定残高調整の設定.....	78
自動銀行勘定残高調整について.....	78
自動銀行勘定残高調整の設定に使用するフォーム.....	79
自動残高調整ルールの設定.....	79
自動残高調整ルールのグループへの割当.....	82
グループの自動銀行取引明細勘定への割当.....	83

**第 8 章**

<b>予算の予測と計画の設定</b> .....	<b>85</b>
予算の予測と計画設定について.....	85
成長パターンの設定.....	85
成長パターンについて.....	85
成長パターンの設定に使用するフォーム.....	86
成長パターンの設定.....	86
ビジネスユニットへの成長パターンの割当.....	87

**第 9 章**

<b>資金予測の設定</b> .....	<b>89</b>
資金予測の設定について.....	89
資金タイプ・コードについて.....	89
資金タイプ規則の設定.....	90

資金タイプ規則について.....	90
資金タイプ予測の設定に使用するフォーム.....	91
売掛管理と買掛管理の資金タイプ規則の設定.....	91
一般会計の資金タイプ規則の設定.....	94
資金予測レポート構造の定義.....	95
資金予測レポート構造について.....	95
事前設定.....	96
資金予測レポートに使用するフォーム.....	96
資金予測レポート構造の設定プログラム (P09523) の処理オプションの設定.....	96
資金予測レポート構造の定義.....	97

## 第 10 章

キャッシュフロー計算書の設定.....	101
資金管理について.....	101
キャッシュフロー計算書について.....	101
キャッシュフロー活動コードの設定.....	102
通常残高コードの設定.....	102
キャッシュフロー規則の設定.....	103
キャッシュフロー規則について.....	103
キャッシュフロー規則の設定に使用するフォーム.....	103
キャッシュフロー規則の設定.....	104

## 第 11 章

現金主義会計の設定.....	107
現金主義会計の設定について.....	107
現金主義伝票タイプの設定.....	107
現金主義伝票タイプの設定に使用するフォーム.....	108
現金主義仕訳の伝票タイプの設定.....	108
現金主義仕訳を除外する伝票タイプの設定.....	108
AA元帳への現金主義伝票タイプの割当.....	109
現金主義会計用AAIの設定.....	109
未充当入金 of AAI の設定.....	109
残高調整勘定の AAI の設定.....	110

## 第 12 章

52期間会計の設定.....	111
52期間会計の会計期間パターンの設定.....	111

52期間会計の会計期間パターンについて.....	111
52期間会計の会計期間パターンの設定に使用するフォーム.....	112
52期間会計の会計期間パターンの定義.....	112
52期間会計の報告日付の設定.....	112
52期間会計の報告日付について.....	112
52期間会計の報告日付の設定に使用するフォーム.....	112
会社への52期間会計の報告日付の割当.....	113
52期間会計への変更.....	113
52期間用再転記プログラム(R0902B)について.....	113
事前設定.....	113
52期間用再転記プログラムの実行.....	113
52期間用再転記プログラムのデータ選択の設定.....	114

## 第 13 章

仕訳の処理.....	115
仕訳の処理について.....	115
その他の仕訳入力の方法について.....	116
仕訳の処理.....	116
仕訳入力プログラムについて.....	117
仕訳の種類について.....	117
仕訳入力の機能について.....	118
未登録勘定科目コードの一時入力許可について.....	119
仕訳入力に使用するフォーム.....	120
仕訳入力(P0911)の処理オプションの設定.....	120
仕訳入力マスター・ビジネス関数(P0900049)の処理オプションの設定.....	121
基本仕訳の入力.....	122
仕訳への添付の追加.....	124
未登録勘定科目コードを使用した仕訳入力.....	124
パーセント仕訳の入力.....	124
未転記仕訳の改訂.....	125
仕訳のコピー.....	125
未転記仕訳の削除.....	126
逆仕訳の処理.....	126
逆仕訳について.....	126
逆仕訳の入力.....	126
逆仕訳の確認.....	127
転記済仕訳の逆仕訳への変更.....	127
モデル仕訳の処理.....	127
モデル仕訳について.....	127



モデル仕訳の作成.....	128
既存の仕訳からのモデル仕訳の作成.....	128
モデルを使用した仕訳の入力 - モデルのコピー.....	128
モデルを使用した仕訳の入力 - モデルの選択.....	129
仕訳の検討.....	129
仕訳の検討に使用するフォーム.....	130
仕訳の検討 (P0011) の処理オプションの設定.....	130
仕訳の検討.....	130
仕訳の転記.....	130
総勘定元帳への転記処理について.....	131
総勘定元帳への転記 (R09801) の処理オプションの設定.....	132
仕訳の転記.....	135
転記済仕訳の改訂と無効化.....	135
転記済仕訳の改訂について.....	135
転記済仕訳の改訂と無効化に使用するフォーム.....	136
転記済仕訳の改訂.....	136
転記済仕訳の無効化.....	136

## 第 14 章

<b>バッチ仕訳の処理.....</b>	<b>137</b>
仕訳のバッチ処理について.....	137
仕訳のアップロードのバッチ処理.....	138
仕訳のアップロードのバッチ処理について.....	138
仕訳のバッチ処理の実行.....	139
仕訳のバッチ処理 (R09110Z) の処理オプションの設定.....	139
バッチ仕訳処理.....	140
仕訳の改訂プログラムについて.....	140
バッチ仕訳処理に使用するフォーム.....	141
仕訳の改訂 (P0911Z1) の処理オプションの設定.....	141
バッチ仕訳の追加.....	141
処理済バッチ仕訳の転記.....	142
処理済バッチ仕訳の除去.....	142

## 第 15 章

<b>配賦の処理.....</b>	<b>143</b>
配賦について.....	143
配賦作成の処理について.....	144
多階層配賦について.....	145

この章で使用する共通フィールド.....	146
定期仕訳の処理.....	147
定期仕訳について.....	147
定期仕訳の計算および印刷プログラムについて.....	147
事前設定.....	148
定期仕訳処理に使用するフォーム.....	148
定期仕訳の作成.....	148
定期仕訳の計算および印刷プログラムの実行.....	150
定期仕訳の計算および印刷のデータ選択の設定.....	150
定期仕訳の計算および印刷 (R09302) の処理オプションの設定.....	150
インデックス配賦の処理.....	150
インデックス配賦について.....	150
インデックス計算および印刷プログラムについて.....	152
事前設定.....	152
インデックス配賦の作成に使用するフォーム.....	153
インデックス配賦の作成.....	153
インデックス計算および印刷プログラムの実行.....	155
インデックス計算および印刷プログラムのデータ選択とデータ順序の設定.....	155
インデックス計算および印刷 (R093021) の処理オプションの設定.....	155
詳細変数配賦の処理.....	156
詳細変数配賦について.....	156
勘定残高ベースの配賦について.....	157
間接費ベースの配賦について.....	159
事前設定.....	161
詳細変数配賦の計算.....	161
詳細変数配賦の計算のデータ選択の設定.....	161
詳細変数配賦の計算 (R09123) の処理オプションの設定.....	161

## 第 16 章

間接費の処理.....	165
間接費処理について.....	165
事前設定.....	165
間接費取引の作成.....	166
間接費取引の作成プログラムについて.....	166
間接費取引の作成 (R52G11) の処理オプションの設定.....	167
間接費取引の作成プログラムの実行.....	168

**第 17 章**

<b>遡及調整の処理</b> .....	<b>169</b>
遡及調整処理について.....	169
遡及調整の処理.....	169
遡及調整取引の処理プログラムについて.....	170
遡及調整取引の作成プログラムについて.....	170
遡及調整取引の作成プログラムの設定に使用するフォーム.....	171
遡及調整取引の作成プログラムの設定.....	171
遡及調整取引の作成プログラムの実行.....	173
遡及調整取引グループの検討、承認および削除.....	173
遡及調整取引グループの検討、承認および削除について.....	174
遡及調整取引グループの検討、承認および削除に使用するフォーム.....	174
遡及調整取引グループの詳細の検討.....	174
遡及調整取引グループの承認.....	175
遡及調整取引グループの削除.....	175
遡及調整取引による請求明細ワークファイル・テーブルの更新.....	176
遡及調整ワークファイルの生成プログラムについて.....	176
遡及調整ワークファイルの生成プログラムの実行.....	176

**第 18 章**

<b>実績レート計算の処理</b> .....	<b>177</b>
実績レート計算について.....	177
事前設定.....	178
実績レートの計算.....	178
実績レートの計算に使用するフォーム.....	178
実績レート計算処理 (P52G60) の処理オプションの設定.....	178
実績レート計算プログラムの設定.....	179
実績レート計算プログラムの実行.....	180
実績レート計算の参照IDの検討.....	180
“実績レート計算の参照IDの検討”プログラムについて.....	180
実績レート計算の参照IDの検討に使用するフォーム.....	180
参照IDの検討.....	180
参照IDの削除.....	181
参照IDの詳細の検討.....	181

**第 19 章**

<b>銀行勘定科目の残高調整</b> .....	<b>183</b>
銀行勘定残高調整について.....	183

無効な支払および入金の高調整.....	183
無効支払/入金の自動高調整プログラムについて.....	183
無効な支払の高調整.....	184
無効な入金の高調整.....	184
勘定科目の高調整情報の更新.....	184
高調整テーブルの再作成プログラムについて.....	184
事前設定.....	185
高調整テーブルの再作成プログラムの実行.....	185
高調整テーブルの再作成のデータ選択の設定.....	185
高調整テーブルの再作成 (R09130) の処理オプションの設定.....	185
銀行勘定科目の手動高調整.....	186
銀行勘定科目の手動高調整について.....	186
高調整レポートについて.....	186
勘定科目の手動高調整に使用するフォーム.....	187
手動高調整 (P09131) の処理オプションの設定.....	187
銀行勘定科目の手動高調整.....	187
調整済取引の未調整取引への変更.....	189

## 第 20 章

借方と貸方の調整.....	191
借方と貸方の調整処理について.....	191
事前設定.....	191
借方取引と貸方取引の調整.....	191
借方取引と貸方取引の高調整に使用するフォーム.....	192
手動高調整 (P09131) の処理オプションの設定.....	192
借方取引と貸方取引の手動高調整.....	192

## 第 21 章

銀行テープによる高調整.....	195
銀行テープによる高調整処理について.....	195
銀行テープの再フォーマット.....	197
銀行テープの再フォーマットに使用するプログラムについて.....	197
カスタム再フォーマット UBE プログラムの実行.....	197
カスタム再フォーマット UBE (R09501) の処理オプションの設定.....	197
勘定科目の高調整情報の更新.....	198
銀行テープと高調整ワークファイルの照合.....	198
取引の高調整に使用するプログラムについて.....	198
テープ・ファイルと高調整テーブルの照合プログラムの実行.....	198

テープ・ファイルと残高調整テーブルの照合 (R09510) の処理オプションの設定.....	199
銀行テープによる残高調整の検証.....	199

## 第 22 章

<b>銀行取引明細の処理.....</b>	<b>201</b>
銀行取引明細の処理について.....	201
この章で使用する共通フィールド.....	201
取引コードについて.....	202
仮勘定について.....	203
銀行取引明細取引の入力.....	204
銀行取引明細取引について.....	204
銀行取引明細取引の入力に使用するフォーム.....	204
銀行取引明細の入力 (P09160) の処理オプションの設定.....	205
銀行取引明細取引の入力.....	208
勘定科目の残高調整情報の更新.....	210
残高調整テーブルの再作成プログラムについて.....	210
事前設定.....	210
残高調整テーブルの再作成プログラムの実行.....	210
残高調整テーブルの再作成のデータ選択の設定.....	210
残高調整テーブルの再作成 (R09130) の処理オプションの設定.....	210
銀行取引明細処理プログラムの実行.....	211
銀行取引明細処理プログラムについて.....	211
事前設定.....	212
銀行取引明細処理プログラムの実行.....	212
銀行取引明細処理のデータ順序の設定.....	213
銀行取引明細処理 (R09170) の処理オプションの設定.....	213
銀行取引明細の処理レポートの検討.....	215
入金バッチ取引の処理.....	215

## 第 23 章

<b>銀行取引明細の自動処理.....</b>	<b>217</b>
自動銀行取引明細の処理について.....	217
銀行からのフラット・ファイルの処理.....	219
自動銀行取引明細フラット・ファイルの処理プログラムについて.....	219
自動銀行取引明細フラット・ファイルの処理プログラム (R09600) の処理オプションの設定.....	219
自動銀行取引明細フラット・ファイルの処理プログラム (R09600) の実行.....	220
中間テーブルのデータの改訂.....	220
中間テーブルのデータの改訂について.....	221

中間テーブルのデータ改訂に使用するフォーム.....	221
電子銀行取引明細の改訂 (P09610) の処理オプションの設定.....	221
中間データの改訂.....	222
銀行取引明細テーブルへのデータのロード.....	223
銀行取引明細のロード・プログラムについて.....	224
銀行取引明細のロード・プログラムの実行.....	224
銀行取引明細のロード (R09612) の処理オプションの設定.....	224
銀行取引明細テーブルのデータの改訂.....	224
銀行取引明細テーブルのデータの改訂について.....	225
銀行取引明細テーブルのデータの改訂に使用するフォーム.....	226
自動銀行取引明細の改訂プログラム (P09616) の処理オプションの設定.....	226
銀行取引明細データの改訂.....	227
顧客番号のない取引の改訂.....	228
自動銀行取引明細の処理.....	229
自動銀行取引明細プログラムについて.....	229
自動銀行取引明細レポートおよびメッセージについて.....	230
自動銀行取引明細の処理プログラムの実行.....	231
自動銀行取引明細の処理 (R09616) の処理オプションの設定.....	231
銀行取引明細の未調整取引の残高調整.....	232
手動銀行取引明細の残高照合プログラムについて.....	232
銀行取引明細取引の手動残高調整に使用するフォーム.....	233
手動銀行取引明細の残高照合 (P09631) の処理オプションの設定.....	233
未調整銀行取引の残高調整.....	233
銀行取引明細テーブルの除去.....	237
銀行取引明細の除去プログラムについて.....	237
中間テーブルの除去.....	237
中間テーブルの除去 (R09610) の処理オプションの設定.....	237
自動銀行取引明細テーブルの除去プログラム.....	238
自動銀行取引明細テーブルの削除プログラム (R09615) の処理オプションの設定.....	238

## 第 24 章

予算の作成.....	239
予算について.....	239
予算パターンについて.....	240
予算パターン・コードの作成.....	242
予算パターン・コードの作成に使用するフォーム.....	242
予算パターン・コードの作成.....	242
勘定科目グループの予算パターン・コードの変更.....	243
予算パターン・コードの変更について.....	243

勘定科目グループの予算パターン・コードの変更に使用するフォーム.....	243
勘定科目グループの予算パターン・コードの変更.....	243
年間予算の入力.....	245
年間予算について.....	245
予算サイクルについて.....	245
事前設定.....	246
年間予算金額の入力に使用するフォーム.....	247
ビジネスユニット別申請済予算 (P14102) と勘定科目別申請済予算 (P14103) の処理オプションの 設定.....	247
ビジネスユニット別の年間予算金額の入力.....	248
勘定科目別の年間予算金額の入力.....	249
年間予算金額の各期間への配賦.....	250
年間予算の配賦方法について.....	250
システムによる年間予算金額の配賦方法について.....	251
予算入力時の年間予算金額の各期間への配賦.....	252
年間予算の期間配賦プログラムの実行.....	252
年間予算の期間配賦 (R14801) の処理オプションの設定.....	252
予算ワークシートの作成.....	253
予算ワークシートについて.....	253
予算ワークシートの実行.....	254
予算ワークシートのデータ選択とデータ順序の設定.....	254
予算ワークシート (R14113) の処理オプションの設定.....	255
予算/実績のオンライン比較の検討.....	256
オンライン予算比較プログラムについて.....	256
予算/実績のオンライン比較の検討に使用するフォーム.....	257
オンライン予算比較 (P09210A) の処理オプションの設定.....	257
予算/実績のオンライン比較の検討.....	258
予算超過の管理.....	258
予算超過の管理について.....	258
予算チェック計算について.....	259
G/L 予算チェック・レポートの実行.....	260
G/L 予算チェック・レポート (R14115) の処理オプションの設定.....	260
予算明細金額の入力.....	261
勘定科目別予算明細プログラムについて.....	261
予算明細金額の入力に使用するフォーム.....	261
勘定科目別の予算明細金額の入力.....	261
予算仕訳の入力.....	262
予算仕訳について.....	262
事前設定.....	263
予算仕訳の入力に使用するフォーム.....	263
予算仕訳の入力.....	263

**第 25 章**

<b>予算データのアップロード</b> .....	<b>265</b>
予算のアップロード処理について.....	265
スプレッドシートからの予算データのインポート.....	265
スプレッドシートからの予算のインポート処理について.....	266
スプレッドシートからの予算データのインポートに使用するフォーム.....	266
アップロード/変換の改訂 (P0902Z1) の処理オプションの設定.....	266
スプレッドシートからの予算データのインポート.....	267
テキスト・ファイルからの予算データのインポート.....	268
テキスト・ファイルからの予算のインポート処理について.....	268
事前設定.....	268
F0902Z2テキスト・ファイルへの予算データのコピー.....	268
予算インポート・フィールドのマッピング・プログラムの実行.....	269
予算インポート・フィールドのマッピング (R14110M) の処理オプションの設定.....	270
インポートされた予算データの改訂.....	270
インポートされた予算データの改訂について.....	271
インポートされた予算データの改訂に使用するフォーム.....	271
インポートされた予算データの改訂.....	271
F0902テーブルへの予算データのアップロード.....	272
アップロード/変換プログラムについて.....	272
アップロード/変換プログラムの実行.....	273
アップロード/変換 (R14110) の処理オプションの設定.....	273
F0902Z1テーブルの処理済レコードの除去.....	275
処理済アップロードの除去プログラムについて.....	276
処理済アップロードの除去プログラムの実行.....	276

**第 26 章**

<b>予算の予測と計画</b> .....	<b>277</b>
予算の予測と計画について.....	277
勘定科目の定義と基準金額の取込み.....	278
勘定科目定義と基準金額について.....	279
手作業による勘定科目の定義と基準金額の取込みに使用するフォーム.....	280
手作業による勘定科目の定義と基準金額の取込み.....	280
勘定科目と基準金額の自動作成.....	281
予測基準の作成 (R1403) の処理オプションの設定.....	281
勘定科目と基準金額の改訂.....	282
勘定科目と基準金額の改訂について.....	282
勘定科目と基準金額の改訂に使用するフォーム.....	282
勘定科目と基準金額の改訂.....	282



予算予測金額の作成.....	284
予算予測金額の作成について.....	284
事前設定.....	285
予測結果の作成プログラムの実行.....	285
予測結果の作成プログラムのデータ選択の設定.....	285
予測結果の作成(R1404)の処理オプションの設定.....	285
予算予測金額の改訂.....	285
予算予測金額の改訂について.....	285
予算予測金額の改訂に使用するフォーム.....	286
予算予測金額の改訂.....	286
予算予測レコードの更新.....	288
予算予測の更新プログラムについて.....	288
事前設定.....	288
予算への予測の適用プログラムの実行.....	288
予算への予測の適用プログラムのデータ選択の設定.....	288
予算への予測の適用(R1407)の処理オプションの設定.....	289
予算予測レコードの除去.....	289
予算予測の除去プログラムについて.....	289
予測基準の除去プログラムと予測結果の除去プログラムの実行.....	289
予測基準の除去プログラムと予測結果の除去プログラムのデータ選択の設定.....	289

## 第 27 章

資金予測データの処理.....	291
資金予測データのリフレッシュ.....	291
資金予測データのリフレッシュ・プログラムについて.....	291
資金予測データのリフレッシュ.....	293
資金予測データのリフレッシュ(R00522)の処理オプションの設定.....	293
資金予測情報の分析.....	294
資金予測情報について.....	294
銀行勘定科目開始残高について.....	294
事前設定.....	295
資金予測情報の分析に使用するフォーム.....	295
資金予測分析(P09522)の処理オプションの設定.....	295
資金予測情報の分析.....	296
予測データの除去.....	296
資金予測の除去について.....	297
資金予測データの除去.....	297
資金予測データの除去(R09522B)の処理オプションの設定.....	297

**第 28 章**

<b>現金主義仕訳の作成</b> .....	<b>299</b>
現金主義会計について.....	299
発生主義会計の仕訳について.....	299
現金主義仕訳について.....	300
メニューからの現金主義会計プログラムの実行.....	304
メニューから現金主義会計プログラムを実行するタイミングについて.....	304
マルチスレッド・ジョブ待ち行列について.....	304
メニューからの現金主義仕訳の作成プログラムの実行.....	305
現金主義仕訳の作成プログラム (R11C850) の処理オプションの設定.....	305
転記プログラムからの現金主義会計プログラムの実行.....	305
転記プログラムから現金主義会計プログラムを実行するタイミングについて.....	305
総勘定元帳への転記プログラム (R09801) からの現金主義仕訳プログラムの実行.....	306
総勘定元帳への転記 (R09801) の処理オプションの設定.....	306
例外レポートの検討.....	306
現金主義仕訳の検討.....	307
未転記レポートのデータ選択の設定.....	307
未転記レポートの印刷.....	307
現金主義仕訳の転記.....	307

**第 29 章**

<b>52期間会計の使い方</b> .....	<b>309</b>
52期間会計仕訳の転記.....	309
52期間会計転記プログラムについて.....	309
52期間会計転記プログラムの実行.....	310
52期間会計転記 (R098011) の処理オプションの設定.....	310
52期間の年度締め.....	310
52期間用年度締めプログラムについて.....	310
事前設定.....	310
52期間用年度締めプログラムの実行.....	311
52期間用年度締め (R09820B) のデータ選択の設定.....	311
52期間損益計算書の作成.....	311
事前設定.....	311
52期間損益計算書のデータ選択とデータ順序の設定.....	311
52期間損益計算書 (R10252) の処理オプションの設定.....	312
52期間損益計算書の作成.....	312

**第 30 章**

<b>勘定科目の連結について</b> .....	<b>313</b>
勘定科目の連結.....	313
オンライン連結方法.....	313
バッチ連結方法.....	314
複数サイト連結方法.....	315

**第 31 章**

<b>オンライン連結の処理</b> .....	<b>317</b>
組織レポート構造について.....	317
事前設定.....	318
階層型組織レポート構造の作成.....	318
組織レポート構造の定義方法と作成方法について.....	318
階層型組織レポート構造の作成に使用するフォーム.....	319
組織レポート構造の定義.....	319
組織レポート構造の作成.....	319
ビジネスユニット構造の作成 (R10450) の処理オプションの設定.....	319
カテゴリ・コードを使用しない組織レポート構造の追加.....	320
カテゴリ・コードを使用しない組織レポート構造について.....	320
カテゴリ・コードを使用しない組織レポート構造の追加に使用するフォーム.....	320
カテゴリ・コードを使用しない組織レポート構造の追加.....	320
組織レポート構造の確認と再編成.....	320
組織レポート構造の改訂について.....	321
組織レポート構造の確認と再編成に使用するフォーム.....	321
組織レポート構造の確認と再編成.....	321
ビジネスユニットの追加作成とレポート構造のコピー.....	321
ビジネスユニットの追加作成とレポート構造のコピーに使用するフォーム.....	322
組織構造の照会/改訂 (P0050) の処理オプションの設定.....	322
子ビジネスユニットの追加作成.....	322
組織レポート構造のコピー.....	323
オンライン連結の作成.....	324
オンライン連結の作成について.....	324
オンライン連結の作成に使用するフォーム.....	326
ビジネスユニットの連結.....	326
オンライン連結の検討.....	328
オンライン連結の検討に使用するフォーム.....	328
オンライン連結 (P09218) の処理オプションの設定.....	328
オンライン連結財務諸表の検討.....	330

**第 32 章**

<b>バッチ連結の処理</b> .....	<b>331</b>
バッチ連結の処理について.....	331
前のバッチ連結の削除.....	331
前の連結の削除プログラムについて.....	332
前の連結の削除.....	332
前の連結の削除(R10861)の処理オプションの設定.....	332
バッチ連結の作成.....	332
連結データの再作成プログラムについて.....	333
架空ビジネスユニットの構造について.....	333
連結データの再作成プログラムで作成されるレコードについて.....	333
事前設定.....	334
バッチ連結の検討に使用するフォーム.....	334
連結データの再作成プログラムの実行.....	334
連結データの再作成のデータ選択およびデータ順序の設定.....	334
連結データの再作成(R10862)の処理オプションの設定.....	334
バッチ連結の検討.....	335
バッチ連結の検討について.....	335
連結の検討(P09210A)の処理オプションの設定.....	335
バッチ連結の検討.....	337

**第 33 章**

<b>複数サイト連結処理</b> .....	<b>339</b>
ソース・サイトとターゲット・サイトのタスクについて.....	339
複数の連結階層について.....	340
複数サイトの連結構造およびテーブルについて.....	340
制御ファイル・レポートの実行.....	341
制御ファイル・レポートについて.....	341
事前設定.....	341
UDC制御ファイルの作成レポートの実行.....	341
UDC制御ファイルの作成(R10005)の処理オプションの設定.....	342
主科目/補助科目制御ファイルの作成レポートの実行.....	342
主科目/補助科目制御ファイルの作成(R10909)の処理オプションの設定.....	342
組織構造の作成.....	342
組織構造について.....	342
組織構造の作成に使用するフォーム.....	342
組織構造の定義.....	342
勘定科目構造の作成.....	343
勘定科目構造の構成要素について.....	343

勘定科目構造の定義に使用するフォーム.....	344
勘定科目構造の定義.....	344
勘定科目構造の作成.....	345
勘定科目構造の作成用のデータ順序設定.....	345
勘定科目構造の作成(R10430)の処理オプションの設定.....	345
勘定科目構造の改訂と印刷.....	346
勘定科目構造の改訂について.....	346
勘定科目構造の改訂に使用するフォーム.....	346
勘定科目構造の改訂.....	346
勘定科目構造レポートの印刷.....	347
勘定科目構造レポート(R10445)の処理オプションの設定.....	347
複数サイト連結規則の定義.....	347
複数サイト連結規則の内容について.....	347
連結規則について.....	347
消去規則について.....	348
連結および消去規則の定義に使用するフォーム.....	348
連結規則の定義.....	348
消去規則の定義.....	350
連結残高の作成.....	351
連結処理プログラムについて.....	351
連結処理.....	352
連結処理(R10550)の処理オプションの設定.....	352
複数サイト連結レポートの実行.....	354
複数サイト連結の整合性レポートについて.....	355
ビジネスユニット/勘定科目月次比較レポートについて.....	355
前期残高の整合性レポートの実行.....	356
前期残高の整合性(R10700)の処理オプションの設定.....	356
ユーザー定義コード値制御例外レポートの実行.....	356
ユーザー定義コード値制御例外(R107011)の処理オプションの設定.....	356
主科目/補助科目制御例外レポートの実行.....	356
主科目/補助科目制御例外レポート(R107021)の処理オプションの設定.....	357
ビジネスユニット/勘定科目月次比較レポート(R10701)の実行.....	357
ビジネスユニット/勘定科目月次比較レポートのデータ選択およびデータ順序の設定.....	357
ビジネスユニット/勘定科目月次比較レポート(R10701)の処理オプションの設定.....	357
連結貸借対照表レポートの実行.....	357
連結貸借対照表(R10150)の処理オプションの設定.....	357
連結損益計算書レポートの実行.....	358
連結損益計算書(R10250)の処理オプションの設定.....	358
連結状況の検討.....	358
連結コンソール・プログラムについて.....	359

連結残高の検討に使用するフォーム.....	360
連結状況の検討.....	360
ターゲット会社への連結残高のバッチ送信.....	360
ターゲット会社への連結残高の送信処理について.....	361
複数サイト連結データ伝送プログラムについて.....	361
事前設定.....	361
複数サイト連結データ伝送プログラムの実行.....	361
複数サイト連結データ伝送(R10610)の処理オプションの設定.....	361
ターゲット会社への連結残高のオンライン送信.....	363
ターゲット会社への連結残高の送信処理について.....	363
連結コンソール・プログラムについて.....	363
ターゲット会社への連結残高のオンライン送信に使用するフォーム.....	364
連結コンソール(P10610)の処理オプションの設定.....	364
ターゲット会社への連結残高のオンライン送信.....	364
EnterpriseOne以外のソース・サイトから受信した連結残高の処理.....	365
受信複数サイト連結について.....	365
受信複数サイト連結の処理について.....	365
受信連結データの処理.....	366
受信連結データの処理(R1002Z1)の処理オプションの設定.....	366
受信連結の改訂.....	366
受信連結の改訂について.....	366
受信連結の改訂に使用するフォーム.....	367
受信連結の改訂.....	367
受信連結データの除去.....	367
受信連結データの除去.....	367
複数サイトのバッチ仕訳の作成.....	367
連結残高仕訳プログラムについて.....	368
事前設定.....	368
複数サイトのバッチ仕訳の作成.....	369
連結残高仕訳のデータ選択の設定.....	369
連結残高仕訳(R10480)の処理オプションの設定.....	369
複数サイトのバッチ仕訳の処理および除去.....	370
複数サイトのバッチ仕訳の処理および除去について.....	370
バッチ仕訳の処理.....	371
処理済の複数サイト仕訳の除去.....	371
 <b>第 34 章</b>	
<b>勘定残高と取引明細の検討.....</b>	<b>373</b>
オンライン照会について.....	373

法定照会について.....	373
試算表の照会について.....	374
取引明細および勘定残高の照会について.....	374
試算表、元帳および補助元帳の検討.....	375
試算表と元帳の比較について.....	375
勘定残高、元帳および補助元帳の検討に使用するフォーム.....	376
試算表と元帳の比較(P09210A)の処理オプションの設定.....	376
試算表と元帳の比較の検討.....	377
補助元帳別試算表の情報の検討.....	379
試算表の検討.....	379
試算表の検討について.....	379
試算表の検討に使用するフォーム.....	380
試算表(主科目別)(P09214)の処理オプションの設定.....	380
試算表(会社別)(P09216)の処理オプションの設定.....	381
試算表(補助元帳別)(P09215)の処理オプションの設定.....	381
主科目別残高の検討.....	381
会社別残高の検討.....	383
補助元帳別残高の検討.....	383
取引明細の検討.....	384
取引明細照会について.....	384
主科目別取引明細について.....	385
カテゴリ・コード別取引明細について.....	385
取引明細の検討に使用するフォーム.....	386
取引明細照会(P09200)の処理オプションの設定.....	386
勘定科目の照会(主科目別)(P09201)の処理オプションの設定.....	388
勘定科目の照会(カテゴリ・コード別)(P09202)の処理オプションの設定.....	388
取引明細レコードの検討.....	388
主科目別元帳の検討.....	389
カテゴリ・コード別元帳の検討.....	390
月別勘定残高の検討.....	390
勘定残高の検討について.....	391
勘定残高の検討に使用するフォーム.....	391
勘定残高(月別)(P0902P1)の処理オプションの設定.....	391
月別勘定残高の検討.....	391
補助元帳別残高の検討.....	392
 <b>第 35 章</b>	
<b>財務レポートの作成.....</b>	<b>395</b>
財務レポートについて.....	395

損益計算書および貸借対照表のデータ選択とデータ順序の設定.....	396
損益計算書の作成.....	397
損益計算書について.....	397
事前設定.....	397
損益計算書の印刷.....	397
損益計算書のデータ選択の設定.....	398
損益計算書(R10211B)の処理オプションの設定.....	398
貸借対照表の作成.....	399
貸借対照表について.....	399
事前設定.....	400
貸借対照表の印刷.....	400
貸借対照表のデータ選択の設定.....	400
貸借対照表(R10111B)の処理オプションの設定.....	400
キャッシュフロー計算書の作成.....	401
キャッシュフロー計算書について.....	401
事前設定.....	404
キャッシュフロー計算書の印刷.....	404
キャッシュフロー計算書レポートのデータ選択の設定.....	404
キャッシュフロー計算書レポート(R10521)の処理オプションの設定.....	404
連結財務レポートの作成.....	404
連結財務レポートについて.....	405
事前設定.....	405
連結損益計算書 - 7桁式の印刷.....	405
連結損益計算書 - 7桁式のデータ選択とデータ順序の設定.....	405
連結損益計算書 - 7桁式(R103121A)の処理オプションの設定.....	406
連結貸借対照表の印刷.....	406
連結貸借対照表のデータ選択とデータ順序の設定.....	406
連結貸借対照表(R10311A)の処理オプションの設定.....	406
月別損益計算書の作成.....	407
月別損益計算書について.....	407
事前設定.....	407
月別損益計算書の印刷.....	407
月別損益計算書(R10412A)の処理オプションの設定.....	408
差異分析レポートの作成.....	408
差異分析レポートの印刷.....	409
差異分析(R10212A)の処理オプションの設定.....	409
差異分析(5か月分)の印刷.....	409
差異分析(5か月分)(R10411A)の処理オプションの設定.....	409



## 第 36 章

一般会計のデータ整合性の検証.....	411
一般会計の整合性レポートについて.....	411
取引とバッチ見出しの整合性レポートの実行.....	414
取引とバッチ見出しの整合性レポートについて.....	414
取引とバッチ見出しの整合性レポートの印刷.....	414
取引とバッチ見出しの整合性 (R007021) の処理オプションの設定.....	414
取引とバッチ見出しの不整合の修正.....	417
バッチと取引明細の整合性レポートの実行.....	417
バッチと取引明細の整合性レポートについて.....	417
事前設定.....	418
バッチと取引明細の整合性レポートの印刷.....	418
バッチと取引明細の整合性 (R007031) の処理オプションの設定.....	418
未転記バッチ・レポートの実行.....	420
未転記バッチ・レポートについて.....	420
事前設定.....	420
未転記バッチ・レポートの印刷.....	420
貸借不一致のバッチ・レポートの実行.....	420
貸借不一致のバッチ・レポートについて.....	420
貸借不一致のバッチ・レポートの印刷.....	421
貸借不一致のバッチのデータ選択の設定.....	421
貸借不一致のバッチ (R007032) の処理オプションの設定.....	421
貸借不一致のバッチ・レポートの不整合の修正.....	421
バッチ別貸借不一致の会社レポートの実行.....	422
バッチ別貸借不一致の会社レポートについて.....	422
事前設定.....	423
バッチ別貸借不一致の会社レポートの印刷.....	423
バッチ別貸借不一致の会社 (R09706) の処理オプションの設定.....	423
バッチ別貸借不一致の会社レポートの不整合の修正.....	423
貸借一致の会社レポートの実行.....	423
貸借一致の会社レポートについて.....	423
貸借一致の会社レポートの印刷.....	424
貸借不一致の会社の特定.....	424
貸借一致の会社レポートの不整合の修正.....	425
貸借一致の会社間勘定科目レポートの実行.....	426
貸借一致の会社間勘定科目レポートについて.....	427
貸借一致の会社間勘定科目レポートの印刷.....	427
貸借一致の会社間勘定科目 (R097011) の処理オプションの設定.....	427
貸借不一致の会社間勘定科目の特定.....	427
貸借一致の会社間勘定科目の不整合の修正.....	428

勘定残高と取引の整合性レポートの実行.....	428
勘定残高と取引の整合性レポートについて.....	428
勘定残高と取引の整合性レポートの印刷.....	429
勘定残高と取引の整合性 (R09705) の処理オプションの設定.....	429
勘定残高と取引の整合性レポートの不整合の修正.....	430
ビジネスユニットなしの勘定科目レポートの実行.....	431
ビジネスユニットなしの勘定科目レポートについて.....	431
ビジネスユニットなしの勘定科目レポートの印刷.....	432
ビジネスユニットなしの勘定科目 (R097041) の処理オプションの設定.....	432
勘定科目マスターなしの勘定残高レポートの実行.....	432
勘定科目マスターなしの勘定残高レポートについて.....	432
事前設定.....	433
勘定科目マスターなしの勘定残高レポートの印刷.....	433
勘定科目マスターなしの勘定残高 (R097031) の処理オプションの設定.....	433
勘定科目マスターなしの勘定残高レポートの不整合の修正.....	433
勘定科目マスターなしの取引レポートの実行.....	433
勘定科目マスターなしの取引レポートについて.....	434
事前設定.....	434
勘定科目マスターなしの取引レポートの印刷.....	434
勘定科目マスターなしの取引 (R097021) の処理オプションの設定.....	434
勘定科目マスターなしの取引レポートの不整合の修正.....	434

## 第 37 章

バッチ見出しの管理.....	435
バッチ見出しの改訂について.....	435
事前設定.....	436
バッチ見出しの処理.....	436
バッチ見出しの処理に使用するフォーム.....	437
バッチ見出しの検討.....	437
バッチ見出しの追加と改訂.....	438
貸借不一致バッチの改訂.....	439

## 第 38 章

取引明細の再転記と会計年度の再計算.....	441
再転記プログラムについて.....	441
事前設定.....	441
取引明細の再転記.....	442
取引明細の再転記のタイミングについて.....	442

事前設定.....	443
取引明細の再転記プログラムの実行.....	443
取引明細の再転記のデータ選択と順序の設定.....	443
取引明細の再転記(R099102)の処理オプションの設定.....	443
会計年度と期間の再計算.....	444
会計年度と期間の再計算のタイミングについて.....	444
会計年度および期間の計算プログラムの実行.....	445
会計年度および期間の計算のデータ選択とデータ順序の設定.....	446
会計年度および期間の計算(R099103)の処理オプションの設定.....	446

## 第 39 章

<b>組織の改訂.....</b>	<b>447</b>
組織の改訂について.....	447
勘定科目構造の改訂について.....	448
勘定科目構造の改訂により影響を受けるテーブルについて.....	448
事前設定.....	449
複数勘定科目のビジネスユニットの変更.....	449
ビジネスユニットの変更について.....	449
事前設定.....	449
複数勘定科目のビジネスユニットの変更に使用するフォーム.....	450
複数勘定科目のビジネスユニットの変更.....	450
勘定科目の主科目の変更.....	450
勘定科目の主科目の変更について.....	450
勘定科目の主科目の変更に使用するフォーム.....	451
勘定科目の主科目の変更.....	451
勘定科目の補助科目の変更.....	451
勘定科目の補助科目の変更について.....	451
勘定科目の補助科目の変更に使用するフォーム.....	451
補助科目の変更.....	452
F0911テーブルとF0902テーブルの更新.....	452
F0911テーブルとF0902テーブルの更新処理について.....	452
事前設定.....	452
標準勘定科目の仕訳への反映プログラムの実行.....	452
標準勘定科目の仕訳への反映プログラムの実行後の処理.....	453
ビジネスユニットの会社番号の変更.....	453
ビジネスユニットの会社番号の変更について.....	453
別の会社へのビジネスユニットの移動.....	454
勘定科目情報の変更.....	455
勘定科目情報の変更について.....	455

勘定科目情報の変更プログラムの実行.....	455
勘定科目情報変更のデータ選択の設定.....	455
勘定科目情報の変更(R09813)の処理オプションの設定.....	456
モデル/連結フィールドの更新.....	457
モデル/連結フィールドの更新について.....	457
モデル/連結フィールドの更新プログラムの実行.....	457
ビジネスユニットのカテゴリ・コードの更新.....	458
カテゴリ・コードの更新について.....	458
事前設定.....	458
カテゴリ・コードの更新F0101 -> F0006プログラムの実行.....	458

## 第 40 章

会計期間とレポート期間の締め処理.....	459
期末締めタスクについて.....	459
会計期間の締め処理.....	459
会計期間の締め処理について.....	460
会計期間の締め処理による影響について.....	460
会計期間とレポート期間の締めに使用するフォーム.....	461
1つの会社の会計期間の締め処理.....	461
1つの会社の会計期間と年度の締め処理.....	462
複数の会社の会計期間の締め処理.....	462
財務レポート期間の変更.....	463
財務報告日付について.....	463
財務レポート期間の変更.....	463

## 第 41 章

会計年度の締め処理.....	465
会計年度の締め処理について.....	465
事前設定.....	466
設定要件と一般タスクについて.....	466
会計年度の設定要件について.....	466
年度末の締め処理の一般タスクについて.....	467
会計年度の締め処理.....	468
年度締めプログラムについて.....	468
年度締めプログラムの実行.....	468
年度締めのデータ選択とデータ順序の設定.....	468
年度締め(R098201)の処理オプションの設定.....	469
予算用会計年度の締め処理.....	469

予算元帳タイプの会計年度の締めについて.....	469
--------------------------	-----

## 第 42 章

<b>レコードの集計と除去.....</b>	<b>471</b>
集計、削除、および除去について.....	471
取引明細レコードの集計.....	471
取引の集計プログラムについて.....	471
事前設定.....	472
取引の集計.....	472
取引の集計 (R09811) の処理オプションの設定.....	473
前年度レコードの除去.....	473
前年度仕訳の除去プログラムについて.....	474
事前設定.....	475
前年度レコードの除去.....	475
前年度仕訳の除去のデータ選択の設定.....	475
前年度仕訳の除去 (R09911) の処理オプションの設定.....	475
前年度の勘定残高の除去.....	475
前年度勘定残高の除去プログラムについて.....	476
事前設定.....	476
前年度の勘定残高の除去.....	476
勘定科目マスター・レコードの削除.....	476
勘定科目マスター・レコードの削除について.....	476
事前設定.....	477
勘定科目マスター・レコードの削除プログラムの実行.....	477
勘定科目マスター・レコードの削除 (R09814) の処理オプションの設定.....	477
ビジネスユニットと会社の削除.....	477
ビジネスユニット/会社の削除プログラムについて.....	477
事前設定.....	478
ビジネスユニット/会社の削除プログラムの実行.....	478
ビジネスユニット/会社の削除 (R09925) の処理オプションの設定.....	478

## 付録 A

<b>一般会計のテーブル.....</b>	<b>479</b>
基本テーブル.....	479
補足テーブル.....	479

**付録 B**

<b>バッチ仕訳処理のフィールドのマッピング</b> .....	<b>483</b>
F0911Z1テーブルのフィールドのマッピング.....	483
間接費設定に対するF0911Z1テーブルのフィールドのマッピング.....	486
収益性分析に対するF0911Z1テーブルのフィールドのマッピング.....	488
システム外で調整した取引に対するF0911Z1テーブルのフィールドのマッピング.....	497
EnterpriseOneのシステム外で調整した取引について.....	497

**付録 C**

<b>自動銀行取引明細処理のフィールドのマッピング</b> .....	<b>499</b>
F09610テーブルからF09611テーブルへのBAI2フィールドのマッピング.....	499
レコード01.....	500
レコード02.....	501
レコード03.....	502
レコード16.....	503
レコード88.....	505
レコード49.....	506
レコード98.....	506
レコード99.....	507
F09610テーブルからF09611テーブルへのSWIFTフィールドのマッピング.....	507
ブロック2.....	508
ブロック4.....	509

**付録 D**

<b>予算データのインポートのフィールドのマッピング</b> .....	<b>513</b>
F0902Z1テーブルのフィールドのマッピング.....	513

**付録 E**

<b>受信複数サイト連結のフィールドのマッピング</b> .....	<b>517</b>
F1001Z1テーブルのフィールドのマッピング.....	517
F1002Z1テーブルのフィールドのマッピング.....	520

**付録 F**

<b>JD Edwards EnterpriseOne一般会計の標準ワークフロー</b> .....	<b>523</b>
JD Edwards EnterpriseOne一般会計の標準ワークフロー.....	523
仕訳のバッチ承認.....	523

経費精算書の承認経路.....	524
-----------------	-----

## 付録 G

<b>JD Edwards EnterpriseOne一般会計レポート.....</b>	<b>525</b>
一般会計レポートの種類.....	525
仕訳帳レポート.....	525
試算表レポート.....	525
カテゴリ・コード・レポート.....	526
総勘定元帳レポート.....	526
JD Edwards EnterpriseOne一般会計のすべてのレポート.....	526
JD Edwards EnterpriseOne一般会計の主なレポート.....	528
R00650 - ビジネスユニット別データ.....	529
ビジネスユニット別データ(R00650)の処理オプション.....	529
R09205P、R09206、R09207 - 勘定科目マスター・レポート.....	529
勘定科目マスター・レポート(R09205P、R09206、R09207)の処理オプション.....	529
R09301 - 仕訳帳(未転記)、仕訳帳(バッチ別)、現金主義会計未転記レポート.....	530
仕訳帳(未転記)と現金主義会計未転記レポート(R09301)の処理オプション.....	530
R09311 - 仕訳帳(勘定科目別).....	530
仕訳帳(勘定科目別)(R09311)の処理オプション.....	530
R09321 - 取引仕訳.....	531
取引仕訳(R09321)の処理オプション.....	531
R09410 - 試算表.....	531
試算表(R09410)の処理オプション.....	531
R094121 - 試算表(主科目別).....	533
試算表(主科目別)(R094121)の処理オプション.....	533
R09421 - 総勘定元帳(主科目別).....	534
総勘定元帳(主科目別)(R09421)の処理オプション.....	534
R09422 - 総勘定元帳(補助元帳合計付き).....	537
総勘定元帳(補助元帳合計付き)(R09422)の処理オプション.....	537
主科目別取引(R09423).....	538
主科目別取引のデータ選択.....	539
主科目別取引(R09423)と補助科目別取引(R09424)の処理オプション.....	539
R09424 - 補助科目別取引.....	540
補助科目別取引のデータ選択.....	540
補助科目別取引(R09424)の処理オプション.....	540
R09451 - 勘定科目合計(仕入先/顧客別).....	540
勘定科目合計(仕入先/顧客別)(R09451)の処理オプション.....	540
R09470 - 総勘定元帳(カテゴリ・コード別).....	541
総勘定元帳(カテゴリ・コード別)(R09470)の処理オプション.....	541

R09472 – 試算表(カテゴリ・コード別) – 借方/貸方形式.....	543
試算表(カテゴリ・コード別) – 借方/貸方形式(R09472)の処理オプション.....	543
R11C750 – 現金主義会計整合性テスト.....	543
現金主義会計整合性レポートのデータ選択とデータ順序.....	543
現金主義会計整合性テスト(R11C750)の処理オプション.....	544
R11C760 – 現金主義会計監査レポート.....	544
現金主義会計監査レポートのデータ選択とデータ順序.....	544
現金主義会計監査レポート(R11C760)の処理オプション.....	544
 JD Edwards EnterpriseOne用語集.....	 545
 索引 .....	 561



# この PeopleBook について

JD Edwards EnterpriseOne製品ガイドでは、オラクル社のJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの導入と使用に必要な情報が提供されています。

この章では、次の内容について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOneアプリケーション導入の事前要件
- アプリケーションの基礎
- 最新版ドキュメンテーションの入手とドキュメンテーションのダウンロード
- 追加情報
- 表記規則
- ご意見、ご要望について
- 製品ガイドで使用する共通フィールド

---

**注意:** 製品ガイドでは、追加の説明が必要な場合のみ、フィールドやチェックボックスなどの説明を記載しています。処理や業務の説明箇所に、そこで使用されるフィールドの説明がない場合は、追加の説明が必要ないか、または、項、章、製品ガイド全体、製品ライン全体で使用される共通フィールドとして説明されています。すべてのJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションで共通して使用されるフィールドは、この章で説明します。

---

## JD Edwards EnterpriseOneアプリケーション導入の事前要件

このガイドの内容を十分に理解して活用するには、JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基本的な使い方を熟知している必要があります。

また、少なくとも1つの入門トレーニング・コースを修了することをお薦めします。

この製品ガイドでは、ユーザーがJD Edwards EnterpriseOneのメニューやフォーム、ウィンドウを使用して、アプリケーションを操作したり、情報を追加、更新、削除したりできることを前提としています。また、Webブラウザと、Microsoft WindowsまたはWindows NTの操作に習熟していることも必要です。

これらの製品ガイドでは、JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションを効果的に導入および使用するために必要な情報を提供します。そのため、アプリケーションの操作手順など基本的な説明は省略されています。

---

## アプリケーションの基礎

各アプリケーションの製品ガイドでは、それぞれのJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションを導入して使用するための情報を提供しています。

一部のアプリケーションでは、システムの設定や設計に必要な基本情報は、このガイドの姉妹編ともいえるアプリケーションの基礎製品ガイドに記載されています。ほとんどの製品ラインには、アプリケーションの基礎製品ガイドが用意されています。それぞれの製品ガイドのまえがきの章に、関連するアプリケーションの基礎製品ガイドの情報が記載されています。

アプリケーションの基礎製品ガイドで取り上げている項目は、どのJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションにも当てはまる、あるいはその多くに共通する重要なものです。JD Edwards EnterpriseOneシステムを導入する際は、製品ラインの中から1つのアプリケーションだけを導入する場合でも、いくつかのアプリケーションを組み合わせで導入する場合でも、あるいは製品ライン全体を導入する場合でも、アプリケーションの基礎製品ガイドに書かれている内容を十分に理解しておく必要があります。このガイドの内容が、アプリケーションの導入に着手する出発点となります。

---

## 最新版ドキュメンテーションの入手とドキュメンテーションのダウンロード

この項では、次の方法について説明します。

- 最新版ドキュメンテーションの入手（英語版のみ）
- ドキュメンテーションのダウンロード

### 最新版ドキュメンテーションの入手（英語版のみ）

本リリースおよび旧リリースの最新版および追加ドキュメンテーションは、オラクル社のPeopleSoft Customer Connection Webサイトから入手できます。オラクル社のPeopleSoft Customer ConnectionのDocumentationセクションから、ファイルをダウンロードして製品ガイド・ライブラリに追加することができます。このセクションでは、CD-ROMで提供されているすべてのJD Edwards EnterpriseOneドキュメンテーションに対する更新事項など、最新かつ有益な資料が提供されます。

---

**重要:** アップグレードを行う際は、その前にオラクル社のPeopleSoft Customer Connectionサイトで、アップグレードに関する最新情報があるかどうかを確認してください。オラクル社では、アップグレード手法の向上に伴い、常に最新の情報を掲載するようにしています。

---

#### 関連項目:

オラクル社のPeopleSoft Customer Connection: [http://www.oracle.com/support/support\\_peoplesoft.html](http://www.oracle.com/support/support_peoplesoft.html)

### ドキュメンテーションのダウンロード

すべてのJD Edwards EnterpriseOneドキュメンテーションは、CD-ROMで提供されているだけでなく、オラクル社のWebサイトでも提供されています。Oracle Technology Networkから、PDF版のJD Edwards EnterpriseOneドキュメンテーションをダウンロードできます。PDFファイルは、ソフトウェアの出荷後すぐにメジャー・リリース別にオンラインで提供されます。

参照: Oracle Technology Network: <http://www.oracle.com/technology/documentation/psftent.html>

---

## 追加情報

オラクル社のPeopleSoft Customer Connection Webサイトから、次の情報を入手できます。

情報	ナビゲーション
アプリケーションのメンテナンス情報	「Updates + Fixes」
ビジネス・プロセス図	「Support」、「Documentation」、「Business Process Maps」
インタラクティブ・サービス・リポジトリ	「Support」、「Documentation」、「Interactive Services Repository」
ハードウェア要件とソフトウェア要件	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Implementation Documentation and Software」、「Hardware and Software Requirements」
インストール・ガイド	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Implementation Documentation and Software」、「Installation Guides and Notes」
統合情報	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Implementation Documentation and Software」、「Pre-Built Integrations for PeopleSoft Enterprise and JD Edwards EnterpriseOne Applications」
最低要件	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Supported Platforms」
最新版ドキュメンテーション	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」
製品ガイド・サポート・ポリシー	「Support」、「Support Policy」
プレリリース・ノート	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Release Notes」
製品出荷予定	「Support」、「Roadmaps + Schedules」
リリース・ノート	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Release Notes」
リリース・バリュープロポジション	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Release Value Proposition」
製品概要	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Statement of Direction」
トラブルシューティング情報	「Support」、「Troubleshooting」
アップグレード関連のドキュメンテーション	「Support」、「Documentation」、「Upgrade Documentation and Scripts」

# 表記規則

ここでは、次の事項について説明します。

- 表記規則
- 注意事項の表示
- 国、地域、業種の表記
- 通貨コード

## 表記規則

製品ガイドは、次の表記規則に従って記述されています。

表記規則	説明
太字	PeopleCodeの関数名、メソッド名、言語要素や、関数呼び出しでそのまま記述すべきPeopleCodeの予約語は太字で記述しています。
斜体	PeopleCodeの構文で、プレースホルダとなる引数部分は斜体になっています。
キー+キー	キーを組み合わせる操作を示しています。キー名とキー名の間にプラス記号がある場合は、最初のキーを押しながら2番目のキーを押すという意味です。たとえば、[Alt]+[W]は、[Alt]キーを押しながら[W]キーを押すことを表します。
固定幅のフォント	PeopleCodeのプログラムや、その他のコードの例の表記には、この固定幅のフォントを使用しています。
... (省略記号)	PeopleCodeの構文で、先行要素の任意の繰り返しを示します。
{ } (中かっこ)	PeopleCodeの構文で、2つの選択肢のうちいずれか一方を選択することを示します。選択肢は縦棒( )で区切られています。
[ ] (角かっこ)	PeopleCodeの構文で、省略できる要素を示します。
& (アンパサンド)	PeopleCodeの構文で、アンパサンドが頭に付いたパラメータはインスタンス化されたオブジェクトであることを示します。  また、PeopleCodeの変数は必ずアンパサンドが頭に付きます。

## 注意事項の表示

### 表記規則

#### 注意

JD Edwards EnterpriseOneシステムを使って作業するときの注意事項が書かれています。

---

**注意:** 注意事項は、このような形式で示しています。

---

システムが正しく機能するために必ず守っていただきたい大切な事柄は、“重要:”と示されています。

---

**重要:** 重要な注意事項は、このような形式で示しています。

---

#### 警告

システムの導入にあたって、特に注意しなければならない重要な事柄は、“警告:”と示されています。“警告:”と書かれた部分には十分な注意を払ってください。

---

**警告:** 警告は、このような形式で示しています。

---

#### 相互参照

相互参照は、“参照”または“関連項目”という形で示しています。通常は、それぞれの説明の後に、その内容に関連する他のドキュメンテーションが示されています。

## 国、地域、業種の表記

特定の国、地域、業種にのみ関連する情報については、国や地域名などをかっこ書きで付記して示しています。このような国や地域の表示は、通常は項の見出しに付記されますが、注意事項などに付記されることもあります。

特定の国を対象とした見出しの例: 「(FRA)従業員の採用」

特定の地域を対象とした見出しの例: 「(中南米)減価償却の設定」

#### 国の表記

国際標準化機構(ISO)が定める国コードを使って表記しています。

#### 地域の表記

地域を表す名称で表記しています。以下に例を示します。

- アジア太平洋
- ヨーロッパ
- 中南米
- 北米

#### 業種の表記

業種を表す名称か略称を使用して表記しています。以下に例を示します。

- USF(米国連邦政府)

- E&G(教育/公的機関)

## 通貨コード

金額はISOが定める通貨コードを使って表記しています。

---

## ご意見、ご要望をお寄せください

お客様のご意見は非常に貴重です。製品ガイドおよびその他のオラクル社の参考資料やトレーニング・ガイドについて、変更のご希望がございましたら、ぜひご一報ください。日本オラクル株式会社WPTG-Japanのランゲージ・マネージャまで、ご意見、ご要望をお寄せください(宛先: 〒107-0061 東京都港区北青山2-5-8 オラクル青山センター)。電子メール(etsjpn\_us@oracle.com)でも受け付けております。

いただいた電子メールすべてにご返答のできない場合もありますが、弊社では皆様のご意見やご要望に留意し、貴重な情報として今後の参考にさせていただきます。

---

## 製品ガイドで使用する共通フィールド

住所録番号	エンティティのマスター・レコードを識別する固有の番号を入力します。住所録番号は、顧客、仕入先、会社、従業員、応募者、加入者、テナントなどのIDとして使用できます。アプリケーションによっては、フォーム上の住所録番号フィールドが、顧客番号、仕入先番号、会社番号、従業員ID、応募者ID、加入者番号などに相当する場合もあります。
仮定通貨コード	取引金額の表示に使用される通貨を指定する3文字のコードを入力します。このコードを指定することにより、取引の入力時に実際に使用された通貨ではなく、指定した通貨に基づいて取引金額を参照することができます。
バッチ番号	システムによって処理される取引のグループを識別する番号が表示されます。入力フォームでは、ユーザーがバッチ番号を割り当てるか、または自動採番プログラム(P0002)を使用して自動的に割り当てることができます。
バッチ日付	バッチが作成される日付を入力します。このフィールドを空白のままにすると、システム日付がバッチ日付として使用されます。
バッチ状況	<p>バッチの転記状況を示すユーザー定義コード(UDC)テーブル(98/1C)のコードが表示されます。値は次のとおりです。</p> <p>空白: バッチは転記されず、承認が保留状態になります。</p> <p>A: バッチにエラーがなく転記が承認されますが、保留状態でまだ転記されていません。</p> <p>D: バッチが正常に転記されています。</p> <p>E: バッチにエラーが発生しました。転記の前にエラーを修正する必要があります。</p> <p>P: バッチの転記処理中です。転記処理が完了するまで、バッチにアクセスすることはできません。転記中にエラーが発生した場合は、バッチ状況コードがEに変更されます。</p>

	U: 別のユーザーがバッチを操作中のため一時的に使用できないか、またはバッチの処理中に停電があったため、バッチが使用中と認識されています。
<b>事業所</b>	倉庫、作業、プロジェクト、作業場、支店、工場など、配送業務や製造業務が行われる場所や単位を表すコードを入力します。システムによっては、ビジネスユニットと呼ばれる場合もあります。
<b>ビジネスユニット</b>	原価のトラッキング対象となる個々の事業単位を表す英数字のコードを入力します。システムによっては、事業所と呼ばれる場合もあります。
<b>カテゴリ・コード</b>	特定のカテゴリ・コードを表すコードを入力します。カテゴリ・コードはユーザー定義コードの1つで、各組織の情報追跡(トラッキング)やレポートの要件に合わせてカスタマイズできます。
<b>会社</b>	特定の企業、組織、団体などを識別するコードを入力します。会社コードはF0010テーブルにすでに存在しており、完全な貸借対照表を持つ法人に対応する必要があります。
<b>通貨コード</b>	取引の通貨を表す3文字のコードを入力します。JD Edwards EnterpriseOneでは、国際標準化機構(ISO)が定める通貨コードを使用しています。通貨コードは、F0013テーブルに定義されています。
<b>伝票会社</b>	<p>伝票に関連付けられている会社番号を入力します。この番号は、伝票番号、伝票タイプ、元帳日付とあわせて使用され、当初伝票を一意に識別します。</p> <p>会社と会計年度別に次の番号を割り当てる場合は、伝票会社に基づいて、該当する会社に正確な“次の番号”が割り当てられます。</p> <p>2つ以上の当初伝票が同じ伝票番号と伝票タイプを持つ場合は、伝票会社を使用して必要な伝票を表示できます。</p>
<b>伝票番号</b>	伝票、請求書、仕訳、タイム・シートなどの当初伝票を識別する番号が表示されます。入力フォームでは、ユーザーが当初伝票番号を割り当てるか、または自動採番プログラムを使用して自動的に割り当てることができます。
<b>伝票タイプ</b>	<p>ユーザー定義コード・テーブル(00/DT)に定義された、取引の発生元と目的を表す2文字のユーザー定義コード(伝票、請求書、仕訳、タイム・シートなど)を入力します。JD Edwards EnterpriseOneでは、伝票タイプ用に次のプレフィックスが予約されています。</p> <p>P: 買掛金伝票  R: 売掛金伝票  T: 時間および給与伝票  I: 在庫伝票  O: 購買オーダー伝票  S: 受注オーダー伝票</p>
<b>有効日付</b>	<p>住所、品目、取引、またはレコードがアクティブになる日付を入力します。このフィールドの意味は、プログラムによって異なります。たとえば、有効日付で次の日付を表すことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 住所の変更が有効になる日付</li> <li>• 賃貸契約が有効になる日付</li> </ul>

- 価格が有効になる日付
- 為替レートが有効になる日付
- 税率が有効になる日付

**会計期間、会計年度**

元帳で使用される会計期間および会計年度を示す数値を入力します。多くのプログラムでは、このフィールドを空白のままにできます。その場合、会社名および番号プログラム(P0010)で定義された現在の会計期間と会計年度が使用されます。

**元帳日付**

取引を転記する会計期間を特定する日付を入力します。取引で入力した日付と会社割り当てられた会計期間パターンが比較されて、適切な会計期間番号と会計年度が取得されると同時に、日付検証が実行されます。



# JD Edwards EnterpriseOne一般会計 – まえがき

この章では、次の内容について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOne製品
- JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基礎
- この製品ガイドで使用する共通フィールド

---

## JD Edwards EnterpriseOne製品

この製品ガイドには、オラクル社の次のJD Edwards EnterpriseOne製品が関連しています。

- JD Edwards EnterpriseOne買掛管理
- JD Edwards EnterpriseOne売掛管理

---

## JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基礎

システムの設定や設計に必要な基本情報は、このドキュメンテーションの姉妹編とも言える『JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド』に記載されています。

JD Edwards EnterpriseOneの最低要件に記載されているとおりに、リリースでサポートされているプラットフォームに準拠する必要があります。また、JD Edwards EnterpriseOneは、オラクル社の他の製品と統合、連結または連携する場合があります。オラクル社の様々な製品の互換性を確保するため、プログラムの事前設定やバージョンの相互参照マニュアルについて<http://oracle.com/contracts/index.html>のプログラム・ドキュメンテーションにある相互参照資料を参照してください。

### 関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementアプリケーションの基礎 – はじめに」、「JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementアプリケーションの基礎 – 導入」

---

## この製品ガイドで使用する共通フィールド

### 銀行/支店

連邦準備制度によって特定の銀行に割り当てられた番号を入力します。この番号を使用することで、入金決済を容易に処理できます。

### 予算パターン

季節パターンを表す3文字のコードを入力します。このコードを使用して、会計期間の予算額が計算されます。

- 元帳タイプ1、元帳タイプ2** UDCテーブル09/LTに、2つの元帳タイプを識別するコードを入力します。たとえば、「元帳タイプ1」フィールドに「AA」と入力し、「元帳タイプ2」フィールドに「BA」と入力すると、F0911テーブル内のすべてのAA元帳タイプのレコードと、BA元帳タイプに一致するすべてのレコードを表示できます。
- 特定のフォームに元帳タイプ2フィールドを表示するには、プログラムの処理オプションを設定する必要があります。
- 転記額** 指定した期間または年度の転記額を表す累計額が表示されます。
- 取引コード** 銀行取引明細に表示され、取引の種類を識別するコードを入力します。UDCテーブル09/BJに設定されているコードを使用します。このコードは、仕訳入力、顧客の支払などの処理に使用されます。

# 第 1 章

## JD Edwards EnterpriseOne一般会計 – はじめに

この章では、次の内容について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOne一般会計の概要
- JD Edwards EnterpriseOne一般会計のビジネス・プロセス
- JD Edwards EnterpriseOne一般会計の統合
- JD Edwards EnterpriseOne一般会計の導入

---

### JD Edwards EnterpriseOne一般会計の概要

多くの企業では、財務処理の効果的な管理のために、なんらかの総勘定元帳アプリケーションが使用されています。財務処理には、会社内の様々な部門における収益と支出の配賦、会社間取引の除外、残高の照合、予算見積の作成とそれらの実際の活動との比較検討が含まれる場合があります。

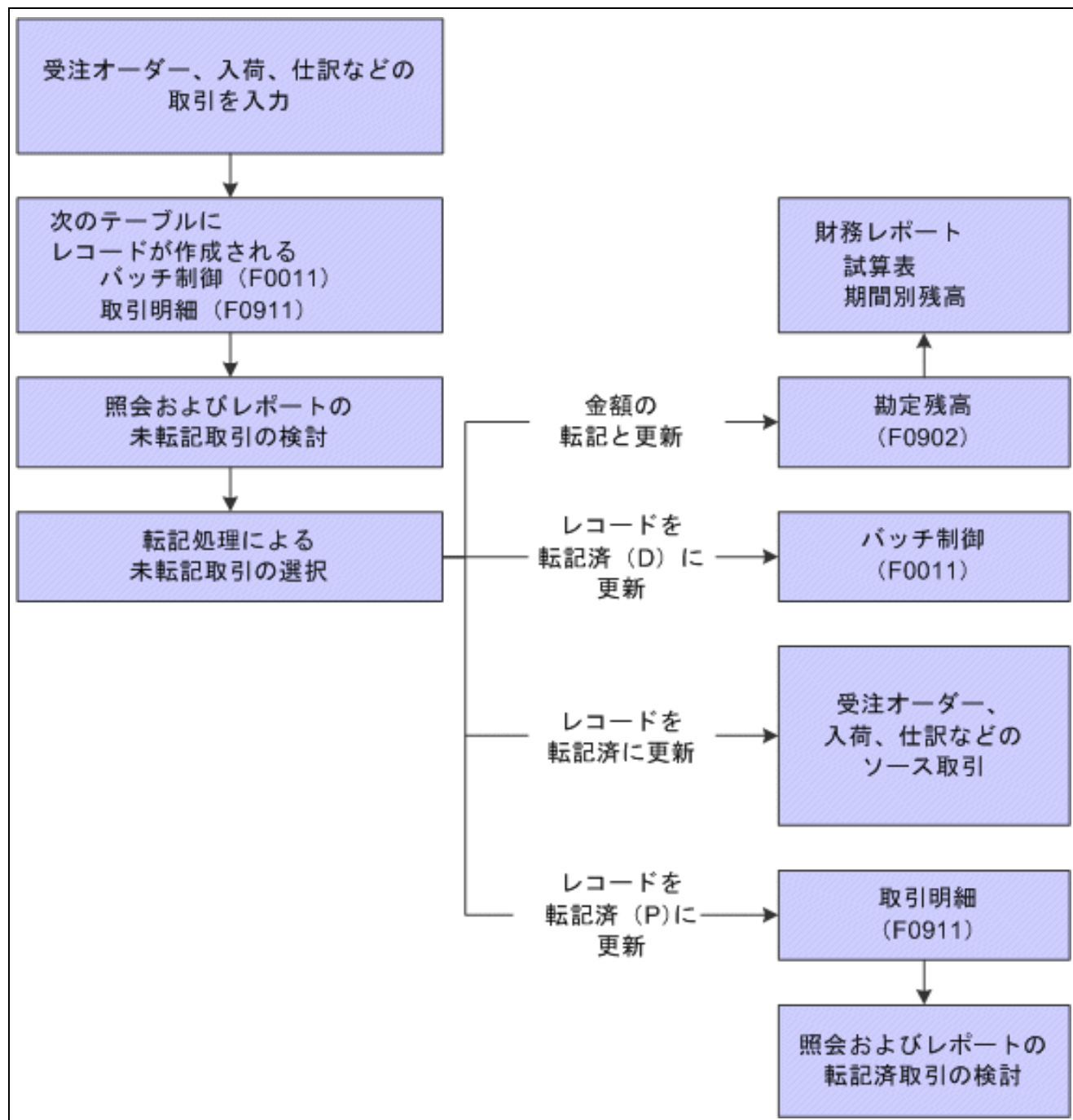
オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne一般会計システムを使用することにより、財務情報を整理、管理、記録および分析できます。たとえば、次のようにできます。

- 会計期間中のどの時点でも、勘定残高や連結情報にアクセスできます。
- 任意の時間枠を使用して、予算の概算見積や予算詳細を作成し、オンラインで予算対実績の比較を行うことができます。
- 15年先までの収益/支出予算額を予測できます。
- 将来の支払予定を計画し、現金勘定を効果的に管理できます。
- 指定した過去の業務期間における現金および現金等価物の変動を示すキャッシュフロー計算書を作成できます。
- 会社間の取引の決済を自動的に処理できます。

---

### JD Edwards EnterpriseOne一般会計のビジネス・プロセス

次のプロセス・フローは、JD Edwards EnterpriseOne一般会計のビジネス・プロセスを表しています。

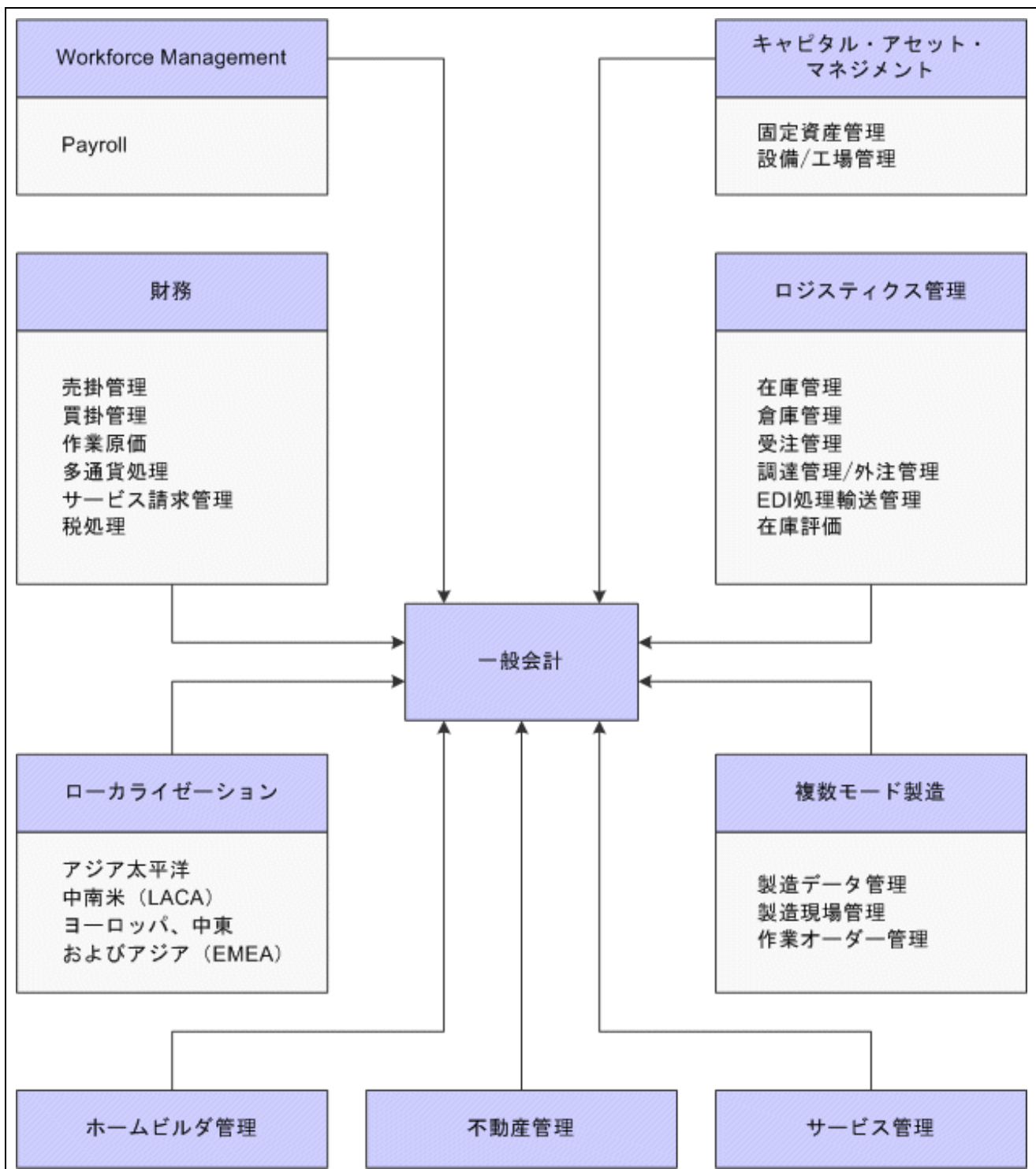


一般会計のプロセス・フロー

これらのビジネス・プロセスについては、この製品ガイドの各ビジネス・プロセスの章で説明します。

## JD Edwards EnterpriseOne一般会計の統合

JD Edwards EnterpriseOne一般会計システムは、次に示すJD Edwards EnterpriseOneシステムと統合されています。



一般会計システムと各システムの統合

JD Edwards EnterpriseOne一般会計システムは、その他のJD Edwards EnterpriseOneシステムと連動して機能し、すべての情報が総勘定元帳に完全に取り込まれます。統合における考慮事項については、この製品ガイドの導入に関する章で説明します。サード・パーティ・アプリケーションとの統合についての補足情報は、オラクル社のPeopleSoft Customer Connection Webサイトを参照してください。

## JD Edwards EnterpriseOne Workforce Management

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne Payrollシステムでは、給与計算サイクル中の労務費、労務費請求配賦、支払などに対する総勘定元帳取引が作成されます。

## JD Edwards EnterpriseOne Financial Management

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne Financial Managementシステムでは、請求書、伝票、入金および支払処理などの総勘定元帳取引が作成されます。

JD Edwards EnterpriseOne一般会計では請求明細ワークファイル・テーブル(F4812)に間接費取引を指定できるため、JD Edwards EnterpriseOne一般会計はJD Edwards EnterpriseOne契約請求システムとも統合されます。

## JD Edwards EnterpriseOneローカライゼーション

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOneローカライゼーション・システムでは、各国の税制に対応した仕訳入力の総勘定元帳取引が作成されます。

## JD Edwards EnterpriseOneキャピタル・アセット・マネジメント

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOneキャピタル・アセット・マネジメント・システムでは、減価償却、資産振替、伝票、設備、請求などに対する総勘定元帳取引が作成されます。

## JD Edwards EnterpriseOneロジスティクス管理

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOneロジスティクス管理システムでは、受注オーダー更新、入荷確認、伝票照合などの処理中に総勘定元帳取引が作成されます。

## JD Edwards EnterpriseOne複数モード製造

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne複数モード製造システムでは、製造会計処理中に、資材出庫、完了、労務時間、差異などに対する総勘定元帳取引が作成されます。

## JD Edwards EnterpriseOneホームビルダ管理

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOneホームビルダ管理システムでは、ロット契約の締めと出来高払いの総勘定元帳取引が作成されます。

## JD Edwards EnterpriseOne不動産管理

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne不動産管理システムでは、請求書と伝票の入力中に総勘定元帳取引が作成されます。

## JD Edwards EnterpriseOneサービス管理

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOneサービス管理システムでは、在庫原価の総勘定元帳取引が作成されます。

---

# JD Edwards EnterpriseOne一般会計の導入

この項では、JD Edwards EnterpriseOne一般会計システムを導入するために必要な手順の概要を説明します。

導入の計画段階では、インストール・ガイドやトラブルシューティング情報など、JD Edwards EnterpriseOne に関して提供されるすべての情報を活用してください。『この製品ガイドについて』のまえがきの章では、参考となるリソースの一覧が提供されています。また、各リソースの最新バージョンの掲載場所についても記載があります。

JD Edwards EnterpriseOne一般会計について、どのESU(電子ソフトウェア更新)をインストールするかを決める際は、EnterpriseOne and World Change Assistantを使用します。JavaベースのツールであるEnterpriseOne and World Change Assistantを使用すると、必要となるESUを検索してダウンロードするためにかかる時間を75%以上削減できます。さらに、複数のESUを一度にインストールすることも可能です。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Software Update Guide

JD Edwards EnterpriseOne一般会計を導入するためのOracle Business Acceleratorソリューションの詳細は、公開されているドキュメンテーションを参照してください。

参照: [http://www.peoplesoft.com/corp/en/iou/implement/rapid\\_start/rapid\\_start\\_prtr\\_notes.jsp](http://www.peoplesoft.com/corp/en/iou/implement/rapid_start/rapid_start_prtr_notes.jsp)

## グローバル導入の手順

次の表に、JD Edwards EnterpriseOne一般会計システムの推奨導入手順を示します。

手順	参照
1. 会計期間パターン、会社およびビジネスユニットを設定します。	JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「組織の設定」
2. 勘定科目表を作成し、勘定科目と補助元帳を設定します。	JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「勘定科目表の作成」
3. 一般会計固定情報を設定します。	第 3 章、「一般会計システムのセットアップ」、「一般会計固定情報の設定」、12ページ
4. 多通貨処理を設定します。	
5. 元帳タイプ規則を設定します。	第 3 章、「一般会計システムのセットアップ」、「一般会計システムの元帳タイプ規則の設定」、20ページ
6. 住所録レコードを入力します。	JD Edwards EnterpriseOne 住所録 9.0 製品ガイド、「住所録レコードの入力」

## JD Edwards EnterpriseOne一般会計の導入手順

次の表に、JD Edwards EnterpriseOne一般会計のアプリケーション別の推奨導入手順を示します。

手順	参照
1. ユーザー定義コード(UDC)、元帳タイプ、AAI(自動仕訳)、ビジネスユニット補足データを設定します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>第 3 章、「一般会計システムのセットアップ」、「一般会計のユーザー定義コードの設定」、16ページ</li> <li>第 3 章、「一般会計システムのセットアップ」、11ページ</li> <li>第 3 章、「一般会計システムのセットアップ」、「一般会計システムのAAIの設定」、23ページ</li> <li>第 3 章、「一般会計システムのセットアップ」、「ビジネスユニット補足データの設定」、29ページ</li> </ul>

手順	参照
2. システム別および会社/会計年度別の自動採番を設定します。	JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「自動採番の設定」
3. 仕訳入力のバッチ承認と転記セキュリティを設定します。承認者と入力者を設定します。	JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「バッチ承認と転記セキュリティの設定」
4. 勘定残高調整のAAIと残高調整コードを設定します。	<u>第 6 章、「勘定残高調整の設定」、67ページ</u>
5. UDC、銀行口座相互参照、自動銀行取引明細勘定、自動残高調整ルールおよびグループを設定します。	<u>第 7 章、「自動銀行取引明細処理の設定」、69ページ</u>
6. 増額(成長)パターンを設定し、ビジネスユニットに割り当てます。	<u>第 8 章、「予算の予測と計画の設定」、「成長パターンの設定」、85ページ</u>
7. JD Edwards EnterpriseOne売掛管理、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理およびJD Edwards EnterpriseOne一般会計システムの資金タイプ規則を設定し、資金予測レポートの構造を定義します。	<u>第 9 章、「資金予測の設定」、89ページ</u>
8. キャッシュフロー活動コード、通常残高コード、およびキャッシュフロー規則を設定します。	<u>第 10 章、「キャッシュフロー計算書の設定」、101ページ</u>
9. 現金主義仕訳の伝票タイプを設定し、実績金額(AA)元帳に伝票タイプを割り当て、仮受金、買掛金、および売掛金残高勘定のAAIを設定します。	<u>第 11 章、「現金主義会計の設定」、107ページ</u>
10. 52期間の会計期間パターンを設定し、期間を会社に割り当てます。	<u>第 12 章、「52期間会計の設定」、111ページ</u>
11. Vertex Sales Tax Q Seriesを使用して売上税を設定します。	



## 第 2 章

# 一般会計システムについて

この章では、一般会計の機能の概要を説明します。

## 一般会計システムの機能

次の表は、JD Edwards EnterpriseOne 一般会計システムで利用できる機能の一部とその説明です。

機能	説明
レポート作成	<p>JD Edwards EnterpriseOne 一般会計システムには、オンライン集計情報を補足する標準レポートが用意されています。管理者は、これらのレポートを頻繁に使用して詳細な業務分析を行います。</p> <p>追加的なレポート作成や分析のために、ビジネスユニットに割り当てるカテゴリ・コードに基づく組織構造（複数可）を作成して、親子関係のシミュレーションを行うことができます。提供されているGUI（グラフィカル・ユーザー・インターフェイス）を使用して、構造（親子関係）の検討、ノードの展開/折り畳み、構成要素のドラッグ・アンド・ドロップによる構造の再編成を行うことができます。</p> <p>親会社と子会社の両方の要件に応じて、勘定科目表を管理できます。各国の法定レポート要件に対応する多様なレポートが用意されています。</p>
勘定残高の連結	<p>会計期間中のどの時点でも、勘定残高や連結情報にアクセスできます。財務情報をオンラインで検討する場合も、印刷したレポートで検討する場合も、最適な詳細レベルで情報を検討できます。</p> <p>オンラインで勘定残高を検討しながら、当初の取引の明細に簡単にアクセスできます。取引に関して疑問が生じた場合は、この機能を使用して迅速に解決できます。</p> <p>連結された財務レポートは、多通貨、多言語で、オンラインで随時検討できます。</p> <p>また、JD Edwards EnterpriseOne ソフトウェアを使用していないロケーションを含む、複数のロケーションからの勘定残高情報を連結できます。</p>

機能	説明
複数の元帳による柔軟な機能	<p>複数の元帳を使用する際にも不要なデータや重複したデータを入力する必要がなく、柔軟な会計処理を行うことができます。複数の元帳を使用して、次のような処理を行うことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実績元帳や予算元帳などの単位元帳や通貨元帳のタイプをいくつでも定義できます。</li> <li>個別の勘定科目コードを作成せずに、製品別全社収益から従業員別経費まで、あらゆる切り口でデータを収集できます。</li> <li>適切な元帳で取引を管理し、集計または明細取引別に総勘定元帳に転記できます。</li> <li>2つの元帳を同時に表示できます。たとえば、オンラインで差異を計算しながら予算元帳と実績元帳を検討できます。</li> </ul>
予算作成	<p>予算に含める情報の詳細度を指定できます。たとえば、プロジェクト/ビジネスユニット・レベル、資産区分別、または特定の勘定科目別で予算を作成できます。また、各勘定科目と予算の金額に関する仕訳を作成することもできます。詳細予算を作成するこの方式は、正式な監査証跡が残るため、当初予算に対する補正予算を記録する必要がある建設業者や政府機関で使用されます。</p> <p>年累計、期間累計、その他の時間枠を指定して、予算対実績をオンラインで比較できます。これにより、差異に対して迅速に対応できます。予算が変更された場合は、変更の理由を説明する仕訳を作成して、次の年度の予算をより正確に作成できます。</p> <p>各部門の管理者がPCのスプレッドシートで部門予算を作成し、その内容をJD Edwards EnterpriseOne一般会計システムにアップロードして最終予算を作成することもできます。</p>
配賦	<p>費用の配分や年次/月次予算の作成など、様々な目的で配賦を定義することが可能です。一度の簡単な配賦で、前年度の予算や実績の増減を反映した予算を作成できます。</p> <p>ある勘定科目から別の勘定科目への配賦を第3勘定科目に基づいて行うことができます。たとえば、毎月の水道光熱費を占有面積に基づいて間接費勘定から各部門に配賦できます。その他の配賦に基づいて新たに配賦を作成し、それらを同時に処理することも可能です。</p> <p>JD Edwards EnterpriseOne一般会計システムには、定期仕訳入力、インデックス配賦、変数配賦および詳細変数配賦という4つの配賦機能があります。</p>
勘定残高調整	<p>必要な初期設定をした後に、勘定科目の残高調整を定期的に行うことができます。銀行取引明細と同様に、選択した経費勘定と銀行勘定の残高調整も可能です。JD Edwards EnterpriseOne一般会計システムには、手動と自動の両方による銀行取引明細の残高調整プログラムが用意されています。</p> <p>国によっては、銀行取引の慣例として、債務の決済に磁気メディア処理や電子資金決済が利用される場合や、銀行が直接関与する場合があります。このような国では、銀行取引明細が、すべての銀行取引のソース伝票の役割を果たします。</p>

機能	説明
会社間決済	会社間決済によって、確実に各会社の正味残高をゼロにし、借方残高と貸方残高を等しくすることができます。会社間の取引を入力する場合、会社間貸借一致仕訳を作成して転記しなければ、双方の会社で貸借不一致が発生します。会社間決済は手動で作成することも、使用する会社間決済方法を選択して自動作成することもできます。
柔軟な組織再編成	<p>従来、レポート構造を変更すると、勘定科目表を修正した後の既存レコードのデータ変換に時間がかかっていました。</p> <p>JD Edwards EnterpriseOne一般会計システムでは、勘定科目コードを変更すると、関連する取引明細と残高履歴が自動的に更新されるため、データを変換する必要はありません。</p> <p>最初にJD Edwards EnterpriseOne一般会計システムに移行する際には、旧勘定科目コードの相互参照用として、自由形式の勘定科目コードを使用できます。</p>



## 第 3 章

# 一般会計システムのセットアップ

この章では、一般会計システムのセットアップの概要と、次の方法について説明します。

- 固定情報の設定
- ユーザー定義コードの設定
- 元帳タイプの設定
- 元帳タイプ規則の設定
- AAIの設定
- ビジネスユニット補足データの設定
- Vertex Sales Taxの設定

## 一般会計システムのセットアップについて

JD Edwards EnterpriseOne一般会計システムを使用する前に、処理に必要な情報を設定し定義する必要があります。システムは、この情報を基にビジネス・ニーズにあわせてカスタマイズされます。たとえば、仕訳入力後にバッチ合計額が検証されるように、バッチ制御を設定できます。

次の表は、JD Edwards EnterpriseOne一般会計システムのセットアップ機能をまとめたものです。

機能	説明
固定情報	固定情報では、次のようなシステムの基本情報を設定します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• 仕訳入力のバッチ内の金額および伝票数と、ユーザーが入力した実際金額および伝票数との比較検証を実行するかどうか</li><li>• バッチを転記する前に、管理者の承認を必須とするかどうか</li><li>• 現行年度内の前会計期間に対して、バッチを転記できるかどうか</li><li>• 仕訳入力で、未登録の勘定科目コードをシステムでどのように管理するか</li><li>• 伝票の逆仕訳をどの日付で行うか</li><li>• 入力する勘定科目コードのフォーマットを識別するのに使用する記号は何か</li><li>• 多通貨を使用するかどうか</li><li>• 会社間決済の仕訳入力をシステムでどのように処理するか</li></ul>
ユーザー定義コード	ユーザー定義コードは、ビジネス・ニーズに応じてカスタマイズできるコードです。JD Edwards EnterpriseOne一般会計システムおよびその他のJD Edwards EnterpriseOneシステムの様々なプログラムで、これらのコードは使用されています。

機能	説明
自動採番	入力する伝票番号の自動採番システムを設定します。 参照: JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「自動採番の設定」
元帳タイプ	一般会計で管理する元帳を定義します。元帳タイプには、AA(実績金額)およびBA(予算金額)があります。
元帳タイプ規則	元帳タイプ設定後、各元帳タイプの会計規則を設定します。
AAI	勘定科目表の規則を定義し、AAI(自動仕訳)の作成方法を設定します。多言語環境で作業している場合は、AAIの記述を翻訳できます。

## 事前設定

会社、会計期間パターン、ビジネスユニットおよび勘定科目を設定します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「組織の設定」

## 一般会計固定情報の設定

この項では、一般会計固定情報の概要と、その設定方法について説明します。

### 一般会計固定情報について

固定情報では、JD Edwards EnterpriseOne 一般会計システムの基本的な枠組みを設定します。通常、1人のユーザーが一般会計固定情報の設定を行います。一度設定した固定情報は変更しないことをお勧めします。変更すると、予期しない結果が生じる可能性があります。

固定情報はキャッシュされます。固定情報の設定を変更した場合、システム管理者に連絡して、変更結果が有効になるように必要な追加ステップを確認する必要があります。

一般会計固定情報は、会社固定情報(F0010)および一般会計固定情報(F0009)テーブルに保存されます。

固定情報	説明
バッチ制御必須	仕訳などの伝票バッチを作成する際、バッチの伝票の合計数と合計金額を検証する場合があります。バッチ制御必須機能を設定すると、入力前に予測した合計金額とバッチを入力した直後の実際の合計金額とを比較検証できます。
管理者承認	管理者承認固定情報により、バッチ転記前に管理者のバッチ承認が必須かどうかを指定できます。

固定情報	説明
PBCO (過去期間) 転記の許可	<p>特に導入の際に、前会計期間へのバッチの転記が必要な場合があります。これが実行できるかどうかは、固定情報により制御されます。</p> <p>固定情報で前期間への転記の許可が設定されていない場合でも、前期間へ転記する方法があります。会社の現行期間を前期間に変更して、その期間に転記します。いずれの場合も、前期間を再度縮めて、その期間以降について更新された期末財務レポートを処理する必要があります。</p>
未登録勘定科目の許可	<p>仕訳入力で、未登録勘定科目コードを入力できるようにするかどうかを制御します。未登録勘定科目コードとは、ビジネスユニット・マスター (F0006) にすでに存在しているビジネスユニットに対して、まだシステムに設定されていない勘定科目のことです。未登録勘定科目コードを入力できると、入力を終了したりデータを失うことなくバッチを完了できます。</p> <p>未登録勘定科目コードを許可した場合、次のことが実行されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>未登録勘定科目コードが修正されるまで、バッチをエラー状態で未転記のまま維持する。</li> <li>自動作成が設定されている場合は、新しい勘定科目を自動的に作成する。</li> </ul>
逆仕訳の期間末日付を使用	<p>伝票の逆仕訳を翌会計期間の初日または末日のいずれに行うかを指定します。逆仕訳の主な用途は、未払費用や未収収益を定期的に計上することです。</p>
会社間決済	<p>組織で会社間取引がある場合、会社間で貸借が一致する仕訳を作成して転記しなければ貸借不一致が発生します。確実に各会社の正味残高をゼロにし、借方残高と貸方残高を等しくなるように、会社間決済を作成します。会社間決済は手入力で作成することも、システムにより自動作成することもできます。使用する会社間決済方法/方式は次のいずれかを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ハブ方法</li> <li>詳細方式</li> <li>構成ハブ方法</li> </ul>
勘定科目記号	<p>データ入力で勘定科目コードを入力する際、次の3つの形式のいずれかを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ビジネスユニット.主科目.補助科目</li> <li>略式ID (システムによって自動的に割り当てられる8桁のコード)</li> <li>第3勘定科目コード</li> </ul> <p>勘定科目コードの前に形式を区別する記号を付けることで、使用する形式を指定します。通常、よりすばやくデータ入力ができるように、最もよく使用される形式の勘定科目記号は指定しません。また、ビジネスユニット.主科目.補助科目の各コンポーネントを区切る記号を定義することもできます。</p>

## 事前設定

権限のある担当者以外は一般会計固定情報へのアクセスと変更ができないようにしてください。

## 一般会計固定情報の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
システム・セットアップ	W0000A	「一般会計システム・セットアップ」(G0941)、「一般会計固定情報」	一般会計システムまたはその他のシステムの固定情報にアクセスします。
一般会計固定情報	W0000B	「システム・セットアップ」フォームの「一般会計固定情報」をクリックします。	一般会計システムの固定情報を設定します。

## 一般会計固定情報の設定

「一般会計固定情報」フォームにアクセスします。

「一般会計固定情報」フォーム

### バッチ制御必須

バッチ制御を必須とするかどうか指定します。

このチェックボックスを選択すると、バッチ入力の際に追加フォームが表示されます。バッチに含まれると予測される伝票総数および合計金額を入力します。各バッチの入力を完了してプログラムを終了すると、予測値と実際に入力した値が異なる場合には、その差異が表示されます。

### 管理者承認

バッチ転記前に、管理者による一般会計バッチの承認を必須とするかどうかを指定します。

このチェックボックスを選択すると、管理者によるバッチの承認が必須となります。バッチに保留の状況が割り当てられ、バッチが転記される前に管理者による承認が必要となります。

このチェックボックスの選択を解除すると、バッチには承認済の状況が割り当てられ、管理者承認は不要となります。

### PBCO(過去期間)転記の許可

前期間への転記を許可するかどうかを指定します。このチェックボックスを選択すると、過去の期間へ転記しようとしたときに、誤って転記しないように警告メッセージが表示されます。

### 未登録勘定科目の許可

伝票や請求書、仕訳の入力時に、未登録の勘定科目コードを入力できるようにするかどうかを指定します。このチェックボックスを選択すると、未登



**逆仕訳の期間末日付を使用**

録勘定科目記号として#を前に付けて、未登録勘定科目コードを入力できます。

未登録勘定科目コードを実際に入力した場合、バッチを転記する前に有効な勘定科目コードに変更するか、入力した勘定科目コードを新規に設定する必要があります。

勘定科目コードは、勘定科目マスター (F0901) にあるかどうか検証されます。

このチェックボックスを使用して、伝票の逆仕訳の元帳日付として、翌会計年度の初日または末日のいずれを使用するかを指定します。チェックボックスを選択すると翌期間の末日が指定され、選択を解除すると翌期間の初日が指定されます。

仕訳を転記すると、この固定情報で指定した日付を使用して逆仕訳が作成され、転記されます。

**会社間決済**

組織内の会社間取引 (会社間決済) での仕訳自動作成に使用される方法 / 方式を指定します。値は次のとおりです。

1: ハブ方法。ハブ会社を使用して会社間決済を作成します。

2: 詳細方式。ハブ会社なしで会社間決済を作成します。

この方式は多通貨処理に有効です。

3: 構成ハブ方法。構成ハブを使用して会社間決済を作成します。

この方式は多通貨処理に有効です。

N: 会社間決済を作成しません。会社間取引を含む場合、バッチは転記されません。

\*: 会社間決済を作成しません。会社間取引を含んでいても、バッチは転記されます。

**略式IDの識別記号**

データ入力時に、略式ID (8桁のコード) の前に入力する、「\*」または「/」などのコードを指定します。

通常使用する略式IDが1つの場合、このフィールドは空白にします。ほとんど使用しない場合は、システムで識別できるように記号を入力します。

勘定科目記号に使用する3つのフィールドのうち、1つだけ空白にできます。通常使用する勘定科目コードのタイプを空白にします。他の2つのフィールドにはそれぞれ固有な値を使用してください。ピリオドやカンマなどの記号が、システム内で別の目的に使用されていないことを確認する必要があります。

**標準勘定科目 (BU.主.補助) 識別記号**

データ入力時に、標準勘定科目 (ビジネスユニット.主.補助) の前に入力する、「\*」または「/」などのコードを指定します。

勘定科目コード、「ビジネスユニット.主.補助」は最も頻繁に使用されます。通常使用する勘定科目コードがこのタイプの場合、このフィールドは空白にします。ほとんど使用しない場合は、システムで識別できるように記号を入力します。

勘定科目記号に使用する3つのフィールドのうち、1つだけ空白にできます。他の2つのフィールドにはそれぞれ固有な値を使用してください。ピリオドやカンマなどの記号が、システム内で別の目的に使用されていないことを確認する必要があります。

**第3勘定科目の識別記号**

データ入力時に、第3勘定科目コード(自由形式勘定科目コード)の前に入力する、「\*」または「/」などのコードを指定します。

第3勘定科目コードが通常使用するコードの場合、このフィールドは空白にします。ほとんど使用しない場合は、システムで識別できるように記号を入力します。

勘定科目記号に使用する3つのフィールドのうち、1つだけ空白にできます。他の2つのフィールドにはそれぞれ固有な値を使用してください。ピリオドやカンマなどの記号が、システム内で別の目的に使用されていないことを確認する必要があります。

**勘定科目区切り記号**

フォームやレポートで勘定科目コードのビジネスユニット、主科目、補助科目の各要素、または任意の勘定科目コード要素を区切るための文字を入力します。区切り文字として、#(無効な勘定科目記号)または¥(作業オーダー・プレフィックス)以外の特殊文字を入力してください。英数字は使用できません。空白の場合、デフォルト文字の「.」(ピリオド)が使用されます。

---

## 一般会計のユーザー定義コードの設定

レコードが自動作成される取引を入力する際は、多くの場合フィールドにユーザー定義コードを入力する必要があります。たとえば、配賦を作成する際は、配賦元勘定と配賦先勘定の元帳タイプを識別するユーザー定義コードを入力する必要があります。

JD Edwards EnterpriseOne一般会計システムでは、元帳タイプ・コードの他に、次のユーザー定義コードが使用されます。

- ビジネスユニット・カテゴリ・コード
- 勘定科目カテゴリ・コード
- ビジネスユニット・タイプ・コード
- 補助元帳タイプ・コード
- 残高調整コード
- 取引コード
- 間接費カテゴリ
- 間接費レート・タイプ
- セグメントID

**ビジネスユニット・カテゴリ・コード(00/01から50)**

財務レポート用に、ビジネスユニットをグループに分類できます。グループと、各グループに属するビジネスユニットを指定します。各グループに対して、UDCテーブル00/01から50にビジネスユニット・カテゴリ・コードを設定します。次のように、ビジネスユニットに必要な文字数によってコードは異なります。

- コード・タイプ01から20を使用(3文字のコード)
- コード・タイプ21から50を使用(10文字のコード)

ビジネスユニット・カテゴリ・コードは、ビジネスユニット・マスター(F0006)に保存されます。

## 勘定科目カテゴリ・コード(09/01から43)

財務レポート用に、主科目をグループにまとめることができます。各グループに対して、UDCテーブル09/01から43に勘定科目カテゴリ・コードを設定します。これらのコードは企業幹部向けレポート作成のために組織構造を示すものです。

勘定科目カテゴリ・コードは通常、第2の勘定科目表を提供するために使用されます。たとえば、社内用の勘定科目表の他に、政府に対するレポート用の法定勘定科目表が必要な場合などです。システムでは43のカテゴリ・コードが提供されています。そのうちの23のコードには、第2の勘定科目コードを含めることができます。

次のように、勘定科目に必要な文字数によってコードは異なります。

- タイプ01から20を使用(3文字のコード)
- タイプ21から43を使用(10文字のコード)

国によっては、法定レポートの作成に10文字のカテゴリ・コードを使用します。(CHLおよびPERU)チリとペルーでは、法定レポートにカテゴリ・コード21から23を使用します。

勘定科目カテゴリ・コードは、勘定科目マスター(F0901)に保存されています。

## ビジネスユニット・タイプ・コード(00/MC)

UDCテーブル00/MCにビジネスユニット・タイプ・コードを割り当てて、類似したビジネスユニットをグループにまとめることができます。これらのコードは、勘定科目を自動作成したり、ビジネスユニットをコピーする際に便利です。たとえば、同じビジネスユニット・タイプ・コードを持つ勘定科目は、モデル・ビジネスユニットから新しいビジネスユニットのグループに自動的にコピーできます。

また、ビジネスユニット・タイプ・コードを使用して、ビジネスユニットが請求可能かどうかを指定できます。請求可能な場合は、特殊取扱フィールドにコードとして「10」を入力します。

経費精算管理システムでは、請求可能なビジネスユニット・タイプを使用して、経費精算規則や割り当てる経費勘定、税の種類が決定されます。

## 補助元帳タイプ・コード(00/ST)

UDCテーブル00/STの補助元帳タイプ・コードを使用すると、勘定科目内により詳しい会計構造を設定できます。住所録を表すAなどの補助元帳タイプ・コードは、従業員番号などの番号に関連付けられています。また、補助元帳タイプは、仕訳の作成時にシステムが補助元帳の値をどのように検証するかも制御します。

## 残高調整コード(09/RC)

残高調整手順で標準とは異なる条件を使用している場合、手動または自動による銀行残高調整を行う際に、R(ハードコード)以外の残高調整コードを使用する場合があります。UDCテーブル09/RCに必要な調整コードを追加できます。

## 取引コード(09/BJ)

取引コードは、銀行取引明細処理に使用されます。銀行取引明細上の取引をシステムに入力する際、UDCテーブル09/BJの取引コードをその取引に割り当てます。取引コードにより、仕訳入力や顧客支払などの取引タイプが識別され、その取引タイプの残高調整に必要な明細情報が指定されます。

### 調整可能伝票タイプ (09/AA)

特定の伝票タイプを調整仕訳可能にする指定は、UDCテーブル09/AAのみで行うことができます。その後、勘定科目またはビジネスユニット・レベルで、その勘定科目のみ、またはそのビジネスユニットに関連付けられているすべての勘定科目に対して調整仕訳の転記を許可するフラグを設定します。たとえば、JA(仕訳配賦)およびXX(遡及調整)のコードを設定した場合、これらのタイプの取引は、調整仕訳が可能な勘定科目に対してのみ転記できます。

### 間接費カテゴリ (48S/BC)

間接費が発生する場合、間接費カテゴリを使用して間接費のタイプを識別します。次のリストに例を示します。

FR: 諸手当

GA: 一般管理費

MH: 材料取扱

OH: 間接費

RC: 原価

---

**注意:** RCの値はハードコード化されているため、変更しないでください。

---

### 間接費レート・タイプ (48S/RT)

間接費レート・タイプを使用して、間接費レートのタイプを識別します。次に例を示します。

PR: 暫定

TA: 目標

### セグメントID (48S/SI)

セグメントとは、会社内のレポート単位を表すコードです。セグメントは、発生した原価および配賦する原価のタイプを定義するために、間接費処理で使用されます。

### 関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Foundation Guide

---

## 一般会計システムの元帳タイプの設定

UDCテーブル09/LT内で、一般会計で管理する元帳を定義します。元帳には次の項目を管理および制御する情報が含まれています。

- 統計または数量
- 予算
- 予測
- 発生主義金額
- 現金主義金額

JD Edwards EnterpriseOne 一般会計システムの元帳タイプの例として、次のものがあります。

- AA(実績金額)
- AU(実績数量)
- BA(予算金額)
- BU(予算数量)

数量元帳はシステムにより基本金額元帳と関連付けられています。たとえば、AU(実績数量)元帳は、AA(実績金額)元帳に関連付けられている数量元帳で、BU(予算数量)元帳は、BA(予算金額)元帳に関連付けられている数量元帳です。

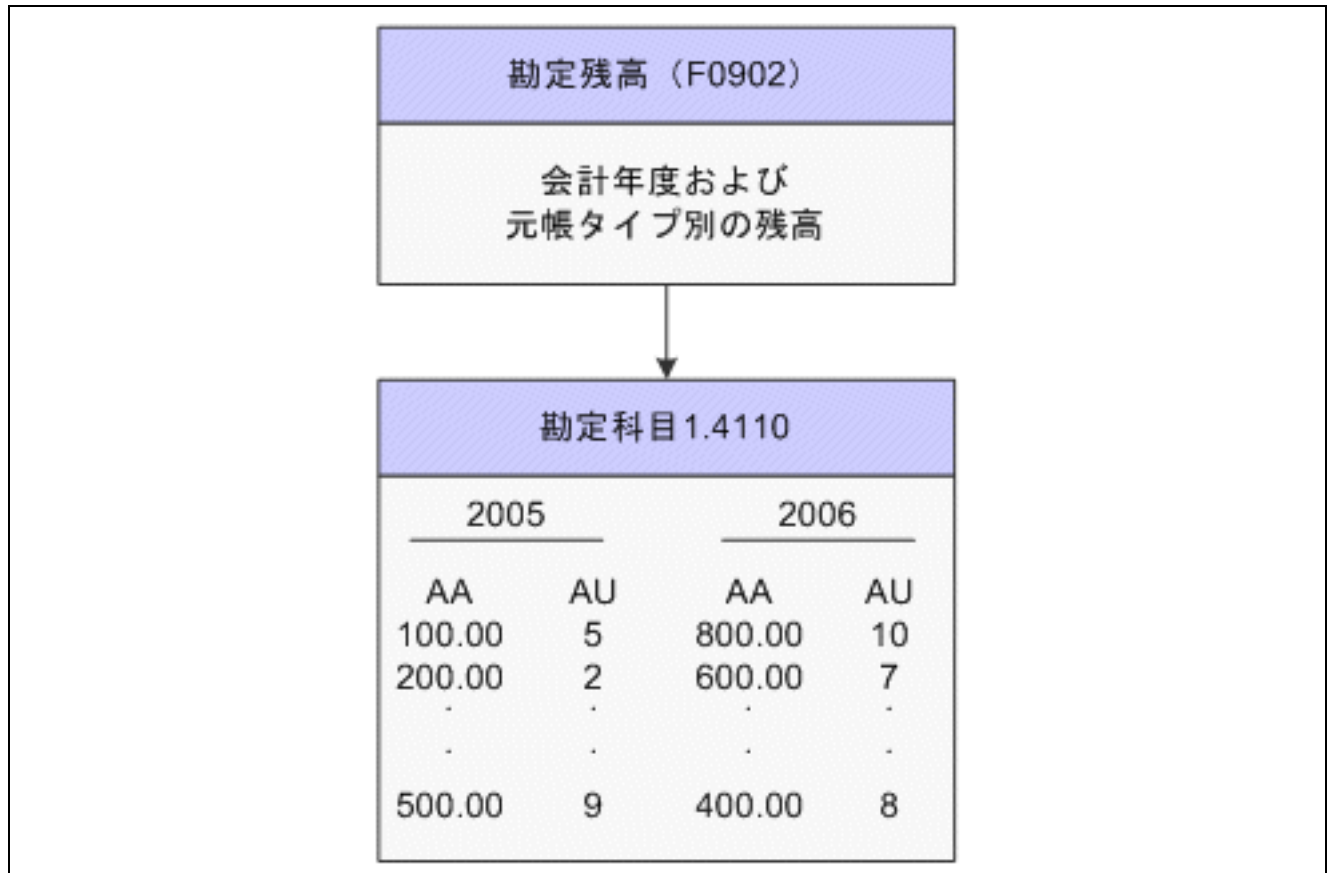
数量を持つ仕訳を入力する際、F0911テーブルに追加レコードは作成されず、別のフィールドに数量が保存されるだけです。ただし、数量を持つ仕訳を転記する際には、金額元帳に関連付けられている数量元帳に数量を記録するために使用される、個別のF0902レコードが作成されます。たとえば、金額がAA元帳に転記される場合、数量はAU元帳に転記されます。

新しい元帳タイプを作成することもできます。元帳タイプU1からU9およびUAからUZまでが、ビジネス・ニーズに応じて使用できるよう提供されています。これらの元帳タイプは各ユーザー専用として使用されるもので、JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアの将来のリリースで上書きをしたり、その他の目的に使用したりすることはできません。

元帳タイプの情報は、元帳タイプ・マスター・ファイル(F0025)に保存されています。

### 例: 元帳タイプ

次の図は、F0902テーブルで、各会計年度について実績金額(AA)と実績数量(AU)が元帳タイプ別にどのように分類されるかを示しています。



AA元帳とAU元帳

## 一般会計システムの元帳タイプ規則の設定

この項では、元帳タイプ規則の概要と、それらの設定方法について説明します。

### 元帳タイプ規則について

JD Edwards EnterpriseOne一般会計システムには様々な元帳タイプがあり、数量をトラッキングしたり、予算を管理したり、年度締めを制御するなど、統計をとるために使用されます。UDC 09/LTで定義する各元帳の会計規則を設定する必要があります。設定する規則は1つのフォームにまとめられており、元帳タイプ・マスターの設定プログラム(P0025)からアクセスできます。

元帳タイプの会計規則は、元帳タイプ・マスター・ファイル(F0025)に保存されています。

## 元帳タイプ規則の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
元帳タイプ規則の設定	W0025FR	「一般会計システム・セットアップ」(G0941)、「元帳タイプ・マスターの設定」  「元帳タイプの処理」フォームで元帳を選択して、「選択」をクリックします。	元帳タイプ規則を設定します。

## 元帳タイプ規則の設定

「元帳タイプ規則の設定」フォームにアクセスします。

元帳タイプ・マスターの設定 - 元帳タイプ規則の設定 i ?

元帳タイプの処理 **元帳タイプ規則の設定**

OK(O) 取消(L) フォーム(F) 前 次 ツール(T)

元帳タイプ \* AA 実績金額

数量元帳タイプ AU General Ledger Units

**会計規則**

☒ 繰越利益の計算
 ☐ 当初予算の次年度繰越

☒ 元帳の貸借一致必須
 ☐ DNS(予算配賦禁止)コードの一時変更

☒ 会社間決済の作成
 ☐ 換算先元帳として使用

☒ 残高を直接更新しない
 ☐ 仕訳を作成しない

**元帳比較カラム・タイトル**

上 Actual

下 Amounts

**元帳通貨**

指定通貨コード

「元帳タイプ規則の設定」フォーム

### 数量元帳タイプ

数量元帳タイプの値を入力します。数量元帳は金額元帳に関連付けられています。最初の文字はいずれの元帳でも同じです。数量元帳の2番目の文字はUです。

この規則の1つの例外は、AZ(現金主義)金額元帳です。AZ金額元帳に対する数量元帳を入力しないと、デフォルトの数量元帳ZUが転記で使用されます。数量元帳は有効な元帳タイプである必要があります。

AZ元帳は例外ですが、通常は適用する実際の金額元帳タイプの最初の文字と同じ文字で数量元帳タイプを設定します。たとえば、AAの数量元帳はAUです。数量元帳を設定して、UDC 09/LTで設定した元帳とともに使用できます。ただし、数量元帳タイプFU、HUおよびIUはそれぞれFA、HA、およびIA元帳とのみしか使用できません。たとえば、実績金額のFX元帳を設定して、数量のFU元帳とともに使用することはできません。

## 繰越利益の計算

このチェックボックスを選択すると、年度締め時にこの元帳の繰越利益が計算されます。元帳タイプがAAおよびAZの場合に、このチェックボックスを選択する必要があります。

このオプションでは、年度締めプログラム (R098201) で繰越利益勘定に対してこの元帳の勘定を締めるかどうかを指定します。

## 元帳の貸借一致必須

この元帳に貸借一致 (残高ゼロ) が必須かどうかを指定します。このチェックボックスの指定では、「会社間決済の作成」チェックボックスとは異なり、この元帳内での会社の貸借が一致しているかどうかは確認されません。この元帳の仕訳の貸借が一致していることのみが確認されます。

## 会社間決済の作成

このチェックボックスを選択すると、この元帳に会社間取引を入力する際に、貸借一致仕訳が作成されます。このチェックボックスは、「一般会計固定情報」フォームの会社間決済方式とともに使用されます。このチェックボックスを選択した場合、転記時にこの元帳の仕訳の貸借が会社別に一致しているかどうかを検証されます。会社の貸借が不一致の場合、会社間決済方式が使用されて、貸借一致仕訳が作成されます。このチェックボックスが選択されており、会社間決済方式がN (会社間取引なし) に設定されているときに、会社の貸借が不一致の場合、会社間取引は転記されません。オフの場合は、この元帳内の会社の貸借が一致しているかどうかは検証されません。

## 残高を直接更新しない

このチェックボックスを選択すると、ユーザーが勘定残高テーブル (F0902) にこの元帳の金額を直接入力できなくなります。

---

**注意:** 元帳タイプがAA、CA、AZの場合、このチェックボックスを選択しておく必要があります。それ以外の場合は、エラー・メッセージが表示されます。ある金額元帳に関連付けられている数量元帳がある場合は、数量元帳タイプのチェックボックスの値はその金額元帳と同じである必要があります。ユーザーが予算プログラムにアクセスできないように、このチェックボックスは元帳タイプAAに対しては選択する必要があります。これにより、元帳タイプや勘定残高の変更などができなくなります。ただし、AC元帳は再換算残高の計算プログラム (R11414) によって直接更新されるため、AC元帳に対してはこのチェックボックスを選択する必要はありません。

---

たとえば、BA元帳に対して金額を入力する場合、予算プログラムを使用して金額を入力できるように、このチェックボックスの選択を解除します。金額の入力が終わったら、F0902テーブルへの更新を防ぐためにこのチェックボックスを選択してください。

## 当初予算の次年度繰越

予算元帳タイプに対して、年度締めプログラムで当初予算を次年度に繰越すかどうかを指定します。

作業原価システムでこの機能が使用されます。

## DNS (予算配賦禁止) コードの一時変更

予算元帳タイプに対して、このチェックボックスを選択すると、年間予算の期間配賦プログラム (R14801) でDNS (配賦なし) コードが一時変更され、DNSコードが割り当てられた勘定科目の各期間に年間金額が均等に配賦されます。

オフの場合、年間予算の期間配賦プログラムにより、DNSコードが割り当てられた勘定科目に対して年間予算金額は配賦されません。金額は手動で配賦する必要があります。



仕訳を作成しない	この元帳の仕訳を作成できないようにするかどうかを指定します。AA、CA、AZ元帳に対して仕訳を作成できないようにすると、エラー・メッセージが表示されます。
上	レポートまたはフォームのカラム見出しに使う記述の1行目を入力します。この記述は、できるだけデータ項目サイズを超えないようにしてください。カラム見出しが1行のみの場合は、このカラムに入力します。1行目だけでは不十分な場合は、カラム・タイトルの2行目を使用してください。
下	レポートまたはフォームのカラム見出しに使う記述の2行目を入力します。この記述は、できるだけデータ項目サイズを超えないようにしてください。カラム見出しが1行のみの場合は、最初のカラムに入力します。

**関連項目:**

JD Edwards EnterpriseOne 固定資産管理 9.0 製品ガイド、「固定資産管理システムの設定」、「固定資産管理システムの元帳タイプ規則の設定」

---

## 一般会計システムのAAIの設定

AAI(自動仕訳)項目の名称(GLGなど)はハードコード化されています。AAI項目の勘定科目コードは、ビジネスユニット、主科目、および補助科目からなり、勘定科目表にマッピングされています。

JD Edwards EnterpriseOne一般会計システムでは、自動生成される仕訳の処理方法がAAIによって決定されます。JD Edwards EnterpriseOne一般会計システムでは、AAIを使用して次のものを定義します。

- 一般勘定科目
- 繰越利益
- 財務諸表合計
- スピード・コード
- 勘定集計
- 調整可能範囲
- 前年度の勘定科目の除去

AAI項目についての情報は、AAIマスター(F0012)に保存されます。

**関連項目:**

JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「AAI(自動仕訳)の設定」、「AAIの設定」

## 一般勘定科目について

GLGxというAAIは、勘定科目表内の様々なカテゴリの勘定科目範囲を定義します。たとえば、資産の勘定科目範囲(GLG2)は主科目1000から、負債の勘定科目範囲(GLG3)は主科目2000から開始するなど定義できます。AAI項目GLGxは主に財務諸表に使用されます。

次の表に、AAI項目GLG1の設定に必要な情報を示します。

AAI項目	記述	会社	ビジネスユニット	主科目	補助科目	順序番号
GLG1	一般勘定科目	00000	不使用	必須	任意	1.010

AAI項目 GLGxは、会社00000に対してのみ設定します。(システムはすべての会社で同じ勘定科目構造を使用しているとみなします。)ただし、繰越利益勘定を定義するため会社ごとに設定する必要があるAAI項目 GLG4は例外です。

次の表には、AAI項目 GLGxの設定時に考慮する事項が示されています。

AAI	設定に関する考慮事項
GLG2	資産の開始勘定科目。主科目のみを入力します。
GLG3	負債と資本の開始勘定科目。主科目のみを入力します。 このAAI項目は、財務レポートの符号を反転するために使用できます。
GLG4	繰越利益用の勘定科目コード。ビジネスユニットおよび主科目を入力します。すべての会社でビジネスユニットが会社番号と同一の場合、会社00000に対する主科目のみを入力してください。それ以外の場合は、会社ごとにGLG4を設定し、ビジネスユニットと主科目を指定してください。 GLG4の勘定科目コードは、GLG1の勘定科目コードよりも大、GLG4の勘定科目コードよりも小である必要があります。
GLG5	年累計損益に対する終了勘定科目コード。主科目のみを入力します。 この勘定科目コードは、貸借対照表用の勘定科目範囲の最後の勘定科目です。非転記勘定科目として設定してください。このAAI項目を使用して、貸借対照表の負債と資本の合計(計算値)が資産と等しいかが確認されます。
GLG6	収益の開始勘定科目。主科目のみを入力します。 このAAI項目は、自動的にレポートの符号を反転し、レポートに記載する収益率や年度締め時の繰越利益を計算するために使用されます。
GLG7	収益の終了勘定科目。主科目を入力し、必要に応じて補助科目を入力します。 このAAI項目は、自動的に符号を反転し、レポートに記載する収益率を計算するために使用されます。
GLG8	売上原価の開始勘定科目。主科目のみを入力します。このAAI項目は、財務レポートの経費勘定の符号を反転するために使用できます。
GLG9	売上原価の終了勘定科目。主科目を入力し、必要に応じて補助科目を入力します。

AAI	設定に関する考慮事項
GLG11	<p>営業外収益の開始勘定科目。主科目のみを入力します。</p> <p>この項目は、財務レポートの収益勘定の符号を反転するために使用できます。</p> <p><b>注意:</b> GLG11(営業外収益)の開始勘定科目を空白にしないでください。有効な勘定科目を入力しない場合は、GLG13(営業外費用)の開始勘定科目と同じ勘定科目コードを入力します。</p> <p>開始勘定科目に有効な勘定科目コードを入力しない場合は、GLG12(終了損益勘定)の開始勘定科目と同じ勘定科目コードを入力します。</p>
GLG12	<p>利益および損失(損益計算書)の終了勘定科目で、年度締め時の繰越利益を計算するために使用されます。これは、損益計算書に表示される最後の勘定科目です。この勘定科目コードよりも大きい勘定科目はすべて損益計算書に表示されず、繰越勘定科目にも計上されません。</p> <p>主科目を入力し、必要に応じて補助科目を入力します。主科目を入力しない場合は、勘定科目 999999 が使用されます。</p> <p>収益(GLG6) + 費用(GLG12) = 繰越利益(GLG4)</p>
GLG13	<p>営業外費用の開始勘定科目。主科目のみを入力します。</p> <p>このAAI項目は、財務レポートの営業外費用勘定の符号を反転するために使用できます。</p> <p><b>注意:</b> 開始勘定科目に有効な勘定科目コードを入力しない場合は、GLG12(終了損益勘定)の開始勘定科目と同じ勘定科目コードを入力します。</p>

## 繰越利益に対する勘定科目について

AAI項目GLG4は、会社の繰越利益に対する勘定科目を定義します。この勘定科目は、自動作成された仕訳を許可する転記勘定科目である必要があります。年度締めの際に、AAI項目GLG4に割り当てられた勘定科目に繰越利益が転記されます。

通常、貸借対照表のビジネスユニットと会社番号は一致しています。たとえば、会社00100にはビジネスユニット100が使用されます。会社とビジネスユニットが一致するように設定され、すべての会社で繰越利益の主科目が同じ場合、会社00000に対して1つのGLG4項目のみを設定し、主科目を割り当てます。

次の例では、繰越利益金額を転記するために、会社00000のGLG4に割り当てられた主科目(4980)が使用されています。次の表に示されているように、会社番号と貸借対照表のビジネスユニットはすべての会社で同じです。

会社	ビジネスユニット	繰越利益の主科目
00100	100	4980
00200	200	4980
00300	300	4980

貸借対照表勘定でビジネスユニットと会社番号が異なる場合、会社ごとにAAI項目GLG4を設定し、貸借対照表のビジネスユニットと主科目を指定する必要があります。

次の例では、繰越利益金額を転記するために、会社固有のGLG4が使用されています。次の表に示されているように、すべての会社で会社番号と貸借対照表のビジネスユニットが異なります。

会社	ビジネスユニット	繰越利益の主科目	会社固有のGLG4
00100	110	4980	00100.110.4980
00200	210	4980	00200.210.4980
00300	310	4980	00300.310.4980

1つの会社で貸借対照表のビジネスユニットが複数ある場合、その会社に対してAAI項目GLG4を設定し、貸借対照表の勘定科目を1つ指定する必要があります。次に、年度末処理のために、その会社のGLG4に指定された貸借対照表のビジネスユニットに、貸借対照表のビジネスユニットすべてを割り当てる必要があります。割り当てなかった場合、会社は貸借不一致になります。これは、貸借対照表のビジネスユニットすべてにではなく、その会社のGLG4に指定された貸借対照表のビジネスユニット1つに対する勘定科目が当期利益の相殺金額に反映されるからです。

次の例では、繰越利益金額を転記するために、会社固有のGLG4が使用されています。次の表に示されているように、すべての会社で会社番号と貸借対照表のビジネスユニットが異なり、会社00100には貸借対照表のビジネスユニットが複数あります。

会社	ビジネスユニット	繰越利益の主科目	会社固有のGLG4
00100	110	4980	00100.110.4980
	210		
	310		
00400	410	4980	00400.410.4980
00500	510	4980	00500.510.4980

**注意:** GLG4は、会社別に設定できる唯一の一般勘定科目に対するAAI項目です。その他すべての一般勘定科目の項目は、会社00000用にのみ設定されます。

## 財務諸表合計について

財務諸表を作成する際、レポートの小計はAAI項目FSxxに基づいて作成されます。これらのAAI項目は損益勘定科目にのみ使用するもので、任意です。AAI項目FSxxは損益勘定科目以外の勘定科目に使用しないでください。使用した場合、財務諸表に予期せぬ結果をもたらす可能性があります。意味のあるレポートにするためには、すべての会社で勘定科目コードが一致している必要があります。

財務諸表合計で指定された勘定科目範囲より前に、各AAI項目（FS01からFS98）の小計が印刷されます。次の小計が損益計算書に表示されます。

- 粗利益
- 営業利益
- 税引前純利益
- 当期利益（損失）

「単一AAI項目の設定」フォームの「勘定科目の用途」で、1行目に表示される各小計のテキストを指定できます。

次の表に、AAI項目FS01の設定に必要な情報を示します。

AAI項目	記述	ビジネスユニット	主科目	補助科目	順序番号
FS01	財務諸表合計	不使用	必須	任意	1.130

AAI項目FSxxを設定する際、次のガイドラインに従ってください。

- 会社00000にのみAAI項目FSxxを設定します。
- ビジネスユニットは入力しないでください。
- 予期せぬ結果が生じないように、取引が転記される主科目は入力しないでください。
- 貸借対照表勘定にAAI項目FSxxを設定しないでください。

JD Edwards EnterpriseOne一般会計システムでは、各財務諸表合計に対して、AAI項目FSxxに基づいた小計を持つレポート・バージョンが設定されています。小計を含んだレポート・バージョンを選択する必要があります。たとえば、損益計算書(R10211B)のAAI項目FSxxの小計を印刷するためには、事業所別損益計算書ではなく、AAI小計を持つ事業所別損益計算書のレポート・バージョンを選択します。

### AAI項目FS99

AAI項目FS99には財務諸表の当期利益についての説明が含まれ、レポート合計の前後に1行または2行を印刷するかどうかを指定します。AAI項目FS99について、「単一AAI項目の設定」フォームの「勘定科目の用途」の1行目に入力するテキストは、財務諸表の最後の行に印刷される説明です。他のAAIとは異なり、AAI項目FS99には勘定科目情報は必要ありません。

**注意:** 財務諸表には、当期利益を計算するかどうかを指定できる処理オプションがあります。当期利益を計算し、AAI項目FS99も設定すると、財務諸表に2行の当期利益が印刷されます。財務諸表に2行の当期利益が印刷されないようにするには、AAI項目FS99を設定するか、処理オプションで当期利益を計算しないように指定してください。

レポート合計の前後に1行または2行を印刷するには、「単一AAI項目の設定」フォームの「勘定科目の用途」の4行目または5行目に、次の値のいずれかを入力します。

値	説明
*BEFORE(-)	合計の前に1行印刷されます。
*BEFORE(=)	合計の前に2行印刷されます。
*AFTER(-)	合計の後に1行印刷されます。
*AFTER(=)	合計の後に2行印刷されます。

### スピード・コードについて

AAI項目SPxは、勘定科目のビジネスユニット.主科目.補助科目といった標準的な組合せのかわりに使用可能な1文字のスピード・コードを定義します。

スピード・コードを使用して、ビジネスユニット、主科目、補助科目全体、主科目コードと補助科目、または主科目コードのみを差し換えることができます。スピード・コードを設定して補助科目だけを差し換えることはできません。

次の表に、AAI項目SPxの設定に必要な情報を示します。

AAI項目	記述	会社	ビジネスユニット	主科目	補助科目	順序番号
SPx	スピード・コード		任意	必須	任意	1.289

AAI項目にビジネスユニットを指定すると、会社固有のスピード・コードを使用できます。

スピード・コード項目に含まれるxは、ユーザー定義された1つの文字です。ビジネスユニットが数値の場合は、このフィールドには英字(AからZ)のみを使用することをお勧めします。

AAI項目SPBを設定し、スピード・コードとして主科目(1110)のみを定義したとします。データ入力の際に、ビジネスユニットと、必要に応じて補助科目を入力します。たとえば1.Bと入力すると、1.1110と解釈されます。

勘定科目コードのかわりにスピード・コードを入力するには、スピード・コードを設定した後で、JD Edwards EnterpriseOneシステムを一度終了して再起動する必要があります。

勘定科目表で任意形式を使用している場合、スピード・コードは使用できません。

## 勘定集計について

AAI項目GLSMxxは、集計を行わない勘定科目範囲を定義します。たとえば、流動資産の勘定科目を集計しない場合、勘定科目範囲を次のように設定します。

- GLSM01: 主科目 1000
- GLSM02: 主科目 1199、補助科目 99999999

開始と終了の両方のAAI項目を定義する必要があります。最初の範囲は、必ずGLSM01で開始するようにします。また、次に続く番号GLSM02で最初の範囲を終了することをお勧めします。次の範囲が必要な場合は、GLSM03で始めてGLSM04で終わるように定義してください。

次の表に、AAI項目GLSMxxの設定に必要な情報を示します。

AAI項目	記述	ビジネスユニット	主科目	補助科目	順序番号
GLSMxx	集計しない勘定科目	不使用	必須	任意	1.300

## 調整可能範囲について

AAI項目GLRCxxは勘定残高調整処理の一貫として調整を行う勘定科目の範囲を定義します。集計を行う前に、これらの勘定科目を調整する必要があります。

開始と終了の両方のAAI項目を定義する必要があります。最初の範囲は、必ずGLRC01で開始するようにします。また、次に続く番号GLRC02で最初の範囲を終了することをお勧めします。次の範囲が必要な場合は、GLRC03で始めてGLRC04で終わるように定義してください。

次の表に、AAI項目GLRCxxの設定に必要な情報を示します。

AAI項目	記述	ビジネスユニット	主科目	補助科目	順序番号
GLRCxx	調整可能範囲	不使用	必須	任意	1.400

## 前年度の勘定科目の除去について

AAI項目 GLPRxxは、除去を行わない勘定科目範囲を定義します。

開始と終了の両方のAAI項目を定義する必要があります。最初の範囲は、必ずGLPR01で開始するようにします。また、次に続く番号GLPR02で最初の範囲を終了することをお勧めします。次の範囲が必要な場合は、GLPR03で始めてGLPR04で終わるように定義してください。

次の表に、AAI項目 GLPRxxの設定に必要な情報を示します。

AAI項目	記述	ビジネスユニット	主科目	補助科目	順序番号
GLPRxx	除去しない勘定科目	不使用	必須	任意	1.440

## ビジネスユニット補足データの設定

標準のマスター・テーブルにないビジネスユニットに関する情報を検証、トラッキング、レポートする必要がある場合があります。このタイプの情報は補足データと呼ばれます。

補足データには、業務固有の情報が含まれます。たとえば、建設会社では補足データを使用して、各作業(ビジネスユニット)の進捗をトラッキングします。補足データには、作業現場、地質、作業日報などの法的記述を含めることができます。

補足データ・タイプの設定やフォーマットの指定など補足データベースの設定をしたら、使用するデータを入力し、特定の業務にあわせてデータをカスタマイズできます。標準のマスター・テーブルにない情報をトラッキングするには、テキスト・データ・タイプおよびコード・データ・タイプを使用してください。

## 事前設定

補足データのトラッキングが必要なビジネスユニットを設定します。

**関連項目:**

JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「補足データについて」

## Vertex Sales Taxの設定

売上税を自動的に適用する場合、Vertex Sales Tax Q Seriesシステムを、他のJD Edwards EnterpriseOneシステムと同様、JD Edwards EnterpriseOne一般会計システムと連動して使用できます。





## 第 4 章

# 間接費の設定

この章では、間接費の設定の概要と、次の方法について説明します。

- セグメント情報の設定
- プール情報の設定
- 間接費レートの設定

---

## 間接費の設定について

間接費処理とは、費用を関連業務の直接費(原価)に適用するプロセスです。適用される間接費には、次のものが含まれます。

- 諸手当
- 間接費
- 材料取扱
- 一般管理費(G&A)

間接費取引の作成プログラム(R52G11)では、総勘定元帳テーブル(F0911)内の取引(タイム・カード、伝票など)を使用し、これらのレコードに含まれている原価とみなされる金額を使用して、それらに間接費レートを適用します。

間接費を設定するには、最初に請求固定情報プログラム(P48091)で間接費固定情報を設定します。その後、次の設定タスクを完了します。

- PLxx AAI(自動仕訳)の範囲の設定

AAI項目PLxxは、間接費取引の作成プログラム(R52G11)の実行に含める勘定科目の範囲を定義します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「AAI(自動仕訳)の設定」、「AAIについて」

- ユーザー定義コード(UDC)テーブル52G/BLの設定

このUDCテーブルには、R52G11プログラムの実行に含める取引の元帳タイプが格納されています。

最後に、セグメント定義、間接費計算方法、間接費基本規則、プール定義、原価プール・グループおよび間接費レートを設定します。この設定方法を使用して、間接費明細元帳テーブル(F52G11)と間接費集計元帳テーブル(F52G02)に間接費取引が作成されます。

---

## セグメント情報の設定

この項では、セグメントと間接費カテゴリ、間接費計算方法、間接費基本規則および事前設定の概要と、次の方法について説明します。

- セグメント定義の設定
- 間接費計算方法の設定
- 間接費基本規則の設定

### セグメントと間接費カテゴリについて

セグメントは会社内のレポート単位を表すコードで、発生した原価および配賦する原価のタイプを定義するために使用されます。セグメントごとに異なる方法で間接費を計算できます。間接費カテゴリ、間接費レートのソース、および間接費カテゴリの計算順序と処理順序を定義して、各セグメントを設定します。

たとえば、次の順序で間接費カテゴリが定義されたセグメントを設定します。

1. 諸手当
2. 間接費
3. 材料取扱
4. 一般管理費

間接費カテゴリRCと順序番号「.01」を使用して、各セグメントの原価レコードが自動的に作成されます。ただし、このレコードは、「セグメント定義の改訂」フォームには表示されません。このレコードは、間接費計算方法を設定するときに使用します。間接費カテゴリとしてRCを追加しようとすると、エラー・メッセージが表示されます。

---

**注意:** 同じ間接費カテゴリを複数のセグメントに設定することもできます。各セグメントの間接費計算は、他の方法で変更することもできます。

---

間接費カテゴリの計算では順序番号が大きい間接費カテゴリのみを使用できるため、間接費カテゴリの順序が重要です。たとえば、間接費カテゴリの順序を諸手当、間接費、材料取扱、一般管理費の順にした場合、諸手当は原価に基づいてのみ計算できます。間接費の計算には、原価と諸手当を使用できます。間接費計算方法プログラム(P48S81)を使用して、使用可能な値のうち、どの値を計算に使用するかを指定できます。

---

**注意:** 間接費計算方法テーブル(F48S81)、間接費基本規則テーブル(F48S82)、プール定義テーブル(F48S83)、プール・グループ・コード・テーブル(F48S84)または間接費レート・テーブル(F48S85)に従属間接費レコードのあるセグメントまたは間接費カテゴリは、削除できません。セグメントまたは間接費カテゴリが削除可能になるのは、従属間接費テーブルを確認し、そのセグメントまたは間接費カテゴリに付加されているレコードを削除してからです。

---

### 間接費計算方法について

間接費計算方法は、各間接費カテゴリの合算規則を識別するために使用されます。間接費カテゴリの間接費計算方法では、その間接費カテゴリよりも低い順序番号の間接費カテゴリのみを使用できます。

たとえば、前述のセグメントの例と同じ間接費カテゴリを使用した場合、あるセグメントには、次の計算方法を指定できます。

- 原価を諸手当の計算対象に含める。

- 原価と諸手当を間接費の計算対象に含める。
- 原価を材料取扱の計算対象に含める。
- 原価、諸手当、間接費および材料取扱のすべてを一般管理費の計算対象に含める。

これと同じ間接費カテゴリが同じ順序で定義された別のセグメントには、たとえば次の計算方法を指定できます。

- 原価を諸手当の計算対象に含める。
- 原価を間接費の計算対象に含める。
- 原価を材料取扱の計算対象に含める。
- 労務関連の勘定科目については、原価、諸手当および間接費を一般管理費の計算対象に含める。
- その他の直接費勘定科目（材料費と外注費を除く）については、原価を一般管理費の計算対象に含める。
- 材料費と外注費の勘定科目については、材料取扱のみを一般管理費の計算対象に含める（原価は含めない）。

---

**注意:** 勘定ごとに、同じ間接費カテゴリに対して異なる計算方法を設定できます。それには、その間接費カテゴリに対して複数の計算方法を設定して、間接費基本規則の設定時に勘定科目範囲ごとに計算方法を指定します。

---

## 間接費基本規則について

間接費基本規則プログラム (P48S82) で間接費基本規則を設定して、各間接費カテゴリの間接費計算方法を特定の作業番号、契約番号または職務タイプに関連付けます。デフォルト規則を定義することもできます。また、主科目および補助科目の範囲ごとに間接費基本規則をさらに定義することもできます。

間接費処理中に間接費基本規則テーブル (F48S82) が検索され、特定の間接費カテゴリ（諸手当、間接費など）がその取引に適用されるかどうか判别されます。間接費カテゴリが適用される場合は、間接費金額の計算に使用する間接費計算方法が間接費基本規則テーブルから読み取られます。このテーブルの検索は、その取引に最も固有の情報から固有度の低い情報へと、一致するレコードが見つかるまで行われます。一致するレコードが見つからない場合は、間接費カテゴリは適用されません。検索階層は、作業番号、契約番号、職務タイプ、デフォルト・レコードの順です。規則は、特定の主科目および補助科目の範囲ごとにさらに定義できます。

## 事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- UDC 48S/SIでのセグメントIDの設定
- UDC 48S/BCでの間接費カテゴリの設定

---

**注意:** 間接費カテゴリ・コードは、UDC 48/CMの構成品コードとは異なっている必要があります。

---

## セグメント情報の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
セグメントの処理	W48S80A	「間接費の設定」(G48S43)、「セグメント定義」	セグメントとセグメントに適用される間接費規則を追加および管理します。
セグメント定義の改訂	W48S80B	「セグメントの処理」フォームで「追加」をクリックして新しいセグメントを設定するか、既存のセグメントを選択して、「選択」をクリックします。	セグメント定義を設定します。
間接費計算方法の処理	W48S81A	「セグメント定義の改訂」フォームで間接費カテゴリを選択し、「ロー」メニューから「計算方法」を選択します。	特定の間接費カテゴリに対して設定されている既存の計算方法を確認します。
間接費計算方法の改訂	W48S81B	「間接費計算方法の処理」フォームで「追加」をクリックして新しい計算方法を設定するか、既存の計算方法を選択して、「選択」をクリックします。	間接費計算方法を設定します。
間接費基本規則	W48S82A	「セグメント定義の改訂」フォームで間接費カテゴリを選択し、「ロー」メニューから「基本規則」を選択します。	間接費基本規則を設定します。

## セグメント定義の設定

「セグメント定義の改訂」フォームにアクセスします。

**セグメント定義 - セグメント定義の改訂**

OK(O) 検索(I) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

セグメントID \*  セグメント1

有効日付 \*

レコード 1 - 5 グリッドのカスタマイズ   

<input type="checkbox"/>	間接費 * カテゴリ	間接費カテゴリ 記述	間接費 * ソース	間接費ソース 記述	順序 No.	FCCM
<input type="checkbox"/>	FR	諸手当	1	従業員	1.00	0
<input type="checkbox"/>	OV	間接費	1	従業員	2.00	0
<input type="checkbox"/>	MH	材料取扱	2	プロジェクト	3.00	0
<input type="checkbox"/>	GA	一般管理費	2	プロジェクト	4.00	0
<input type="checkbox"/>						

「セグメント定義の改訂」フォーム

#### セグメントID

セグメントを識別するUDC 48S/SIのコードを入力します。

#### 間接費カテゴリ

間接費のタイプ(諸手当、間接費など)を識別するUDC 48S/BCのコードを入力します。

#### 間接費ソース

プール・グループ・コードのソースを指定するコードを入力します。プール・グループ・コードは、従業員の所属ビジネスまたはプロジェクトのいずれかのカテゴリ・コード12から導出できます。

間接費カテゴリに関連付けられている間接費ソースを使用して、プール・グループ・コード・テーブル(F48S84)からプールIDが取得されます。値は次のとおりです。

1(従業員): 「従業員プール・グループ・コード」フィールド(EPGC)から、労務トランザクションのプール・グループ・コードが取得されます。

2(プロジェクト): 「職務プール・グループ・コード」フィールド(JPGC)から、トランザクションのプール・グループ・コードが取得されます。

#### 順序No.

間接費計算における間接費カテゴリの順序を指定する数値を入力します。このフィールドをブランクにすると、前の行の次の番号が順序番号として指定されます。

**注意:** 順序番号が自動的に入力されるのは、セグメント定義を追加するときのみで、セグメント定義を改訂するときには自動的に入力されません。

#### FCCM(施設資本 - 資本コスト)

間接費カテゴリを“施設資本 - 資本コスト”(FCCM)のコストに指定します。通常、FCCMは資産、事業所、施設および事業の運営で使用される特定の無形資産の新しい簿価として定義され、営業資本を含みません。値は次のとおりです。

Yまたは1: 間接費カテゴリはFCCMコストです。

Nまたは0: 間接費カテゴリはFCCMコストではありません。

間接費計算方法の設定

「間接費計算方法の改訂」フォームにアクセスします。

セグメント定義 - 間接費計算方法の改訂

OK(O) 検索(I) 取消(L) ツール(T)

セグメントID

001

セグメントI

有効日付

2005/01/01

間接費カテゴリ

GA

一般管理費

計算方法 \*

004

レコード 1 - 4

グリッドのカスタマイズ

使用可能な間接費カテゴリ

使用可能な間接費カテゴリ記述

組込み \*

☐

RC

原価

N

☐

FR

諸手当

N

☐

OV

間接費

N

☒

MH

材料取扱

Y

「間接費計算方法の改訂」フォーム

注意: 選択した間接費カテゴリよりも小さい順序番号が指定されている間接費カテゴリが、使用可能な間接費カテゴリとしてグリッドに自動的に表示されます。使用可能な間接費カテゴリを追加または削除することはできません。

- 計算方法

「間接費計算方法の処理」フォームで「追加」をクリックした場合は、間接費計算方法を識別するコードを入力します。入力するコードは、セグメントごとに一意である必要があります。
- 組込み

「間接費計算方法の処理」フォームで「選択」をクリックした場合は、このフィールドは無効になり、変更できません。
- 選択した間接費カテゴリの計算に使用可能な間接費カテゴリを含める場合は、「Y」と入力します。使用可能な間接費カテゴリを除外する場合は、「N」と入力します。

間接費基本規則の設定

「間接費基本規則」フォームにアクセスします。

セグメント定義 - 間接費基本規則

OK(O) 検索(D) 削除(D) 取消(L) ツール(T)

セグメントID001セグメントI

有効日付2005/01/01

間接費カテゴリFR諸手当

レコード 1 - 2

グリッドのカスタマイズ

	ビジネス ユニット	契約 No.	契約 タイプ	契約 会社	職務 タイプ	記述	開始 主科目	終了 主科目	開始 補助科目	終了 補助科目	間接費 計算方法
<input checked="" type="radio"/>						Engineering Assessment	1341	1341			001
<input type="radio"/>											

「間接費基本規則」フォーム

- ビジネスユニット

F0006テーブルからの作業番号を入力して、間接費計算方法を特定の作業に関連付けます。作業番号を入力する場合、同じ行に契約番号または職務タイプを入力することはできません。
- 契約No.

契約番号を入力して、間接費計算方法を特定の契約に関連付けます。契約番号を入力すると、「契約タイプ」フィールドと「契約会社」フィールドに値が自動的に入力されます。契約マスター(F5201)で、契約番号、契約タイプおよび契約会社の組合せを定義する必要があります。契約番号を入力する場合、同じ行に作業番号または職務タイプを入力することはできません。
- 契約タイプ、契約会社

契約番号に対応する伝票タイプと会社が表示されます。
- 職務タイプ

UDC 00/MCからの職務タイプを入力して、間接費計算方法を特定の職務タイプに関連付けます。職務タイプを入力する場合、同じ行に作業番号または契約番号を入力することはできません。
- 開始主科目、終了主科目

間接費計算方法を関連付ける主科目の範囲を指定します。基本規則をすべての勘定科目に適用するには、これらのフィールドをブランクにします。
- 開始補助科目、終了補助科目

間接費計算方法を関連付ける補助科目の範囲を指定します。基本規則をすべての補助科目に適用するには、これらのフィールドをブランクにします。

注意:

基本規則に対して指定する勘定科目の範囲は、補助科目の範囲が異なる場合を除き、同じセグメントID、開始日付、間接費カテゴリ、ビジネスユニット、契約番号または職務タイプの値が指定されている別のレコードと重複できません。
- 間接費計算方法

その行に指定した情報に関連付ける間接費計算方法を指定します。このフィールドは必須です。

注意:

デフォルト基本規則を作成するには、「ビジネスユニット」、「契約No.」および「職務タイプ」フィールドをブランクにします。

## プール情報の設定

この項では、プール定義とプール・グループ・コードの概要、事前設定および次の方法について説明します。

- プール定義の追加

- プール・グループ・コードの追加

## プール定義について

プール定義プログラム (P48S83) を使用して、プールID、開始日付およびプールIDの記述を定義します。また、このプログラムでは、各プールIDがセグメントIDと間接費カテゴリ(諸手当、間接費など)に関連付けられます。

間接費処理中に、プール定義とセグメントID、日付および間接費カテゴリを組み合わせ使用して、間接費金額の計算の正しいレートが決定されます。プール定義テーブル (F48S83) は、間接費金額の計算中にはアクセスされません。このテーブルは、プールIDを定義する設定テーブルです。定義したプールIDは、その後、特定の原価プールおよびレートに関連付けられます。

---

**注意:** プール・グループ・テーブルまたは間接費レート・テーブルで使用されているプールIDは、削除できません。プールIDは、そのプールIDをプール・グループ・テーブルと間接費レート・テーブルから削除した後で初めて削除できます。

---

## プール・グループ・コードについて

間接費計算の対象となるすべての作業と従業員を1つのプール・グループ・コードに関連付ける必要があります。すべてのグループ・コードを1つのセグメントIDに関連付ける必要があります。プール・グループ・コード・プログラム (P48S84) では、プール・グループ・コードごとに、特定のプールIDをセグメントに対して定義されている各間接費カテゴリ(諸手当、間接費など)に関連付けることができます。各間接費カテゴリには、関連付けられたプールIDが必要です。

## 事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- UDC 00/12にプール・グループ・コードを設定する。
- 間接費計算の対象となる作業および従業員所属ビジネスユニットのカテゴリ・コード12に、プール・グループ・コードを割り当てる。



## プール情報の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
プール定義の処理	W48S83A	「間接費の設定」(G48S43)、「プール定義」	既存のプール定義を検索し、検討します。
プール定義の追加	W48S83B	「プール定義の処理」フォームで、「追加」をクリックします。	プール定義を追加します。
プール定義の改訂	W48S83B	「プール定義の処理」フォームで既存のプール定義レコードを選択し、「選択」をクリックします。	プール定義テーブル(F48S83)で既存のレコードを更新します。  「セグメントID」、「開始日付」、「間接費カテゴリ」および「プールID」フィールドは保護されており、変更できません。これらのキー値を変更する必要がある場合は、レコードを削除してから再び追加してください。更新できるフィールドは、「プール記述」と「終了日付」のみです。
プール・グループ・コードの処理	W48S84A	「間接費の設定」(G48S43)、「プール・グループ・コード」	既存のプール・グループ・コードを検索し、検討します。
プール・グループ・コードの追加	W48S84B	「プール・グループ・コードの処理」フォームで、「追加」をクリックします。	プール・グループ・コードを追加します。
プール・グループ・コードの改訂	W48S84C	「プール・グループ・コードの処理」フォームで既存のプール・グループ・コードを選択し、「選択」をクリックします。	プール・グループ・コード・テーブル(F48S84)内の既存のレコードを更新します。

## プール定義の追加

「プール定義の追加」フォームにアクセスします。

プール定義 - プール定義の追加

OK(O) 削除(D) 取消(L) ツール(T)

セグメントID \* 001 セグメント1

レコード 1-2 グリッドのカスタマイズ

開始 *	間接費 *	記述	プール *	プール *	適用信方勘定	相殺貸方
日付	カテゴリ		ID	記述		
2008/01/01	FR	諸手当	DEN	Denver Engineering		

「プール定義の追加」フォーム

**開始日付**

プールIDの開始日付を入力します。

---

**注意:** プールIDの開始日付は、セグメントの開始日付と正確に一致していなくてもかまいません。このフォームに入力した日付と同じまたはそれ以前の開始日付の他に、セグメントIDと間接費カテゴリの組合せがセグメント定義テーブル(F48S80)に存在している必要があります。

---

**プールID**

プールIDを識別するコードを入力します。

セグメントID、間接費カテゴリ、開始日付およびプールIDの値によってプール定義テーブル(F48S83)に対する一意のキーが構成されるため、これらの値の組合せは一意である必要があります。ただし、同じプールIDを複数の間接費カテゴリまたは他のセグメントに関連付けることは可能です。

**適用借方勘定**

間接費処理および遡及調整処理中に過剰または不足適用仕訳を計算および作成するために使用される勘定科目コードを入力します。勘定科目コードは、ビジネスユニット.主科目.補助科目の形式で入力します。

これらの勘定科目コードは、合計適用間接費の仕訳の作成時に使用されます。

**相殺貸方勘定**

間接費処理および遡及調整処理中に過剰または不足適用仕訳を計算および作成するために使用される勘定科目コードを入力します。勘定科目コードは、ビジネスユニット.主科目.補助科目の形式で入力します。

これらの勘定科目コードは、合計適用間接費の仕訳の作成時に使用されます。

**終了日付**

開始日付より後の終了日付を入力します。このフィールドは任意フィールドです。多くの場合、終了日付は自動的に管理されます。このフォームに新しいプール定義を追加するたびに、同じセグメントID、間接費カテゴリおよびプールIDが指定されている既存の定義が自動的に更新され、追加するレコードの開始日付より1日前の日付が終了日付として指定されます。

## プール・グループ・コードの追加

「プール・グループ・コードの追加」フォームにアクセスします。

**プール・グループ・コード - プール・グループ・コードの追加**

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

プール・グループ・コード ★  カリフォルニア

開始日付 ★  終了日付

セグメントID ★  セグメント1

レコード 1 - 4 グリッドのカスタマイズ   

	間接費 カテゴリ	カテゴリ 記述	プール ★ ID	プール 記述
<input checked="" type="radio"/>	FR	諸手当		
<input type="radio"/>	OV	間接費		
<input type="radio"/>	MH	材料取扱		
<input type="radio"/>	GA	一般管理費		

「プール・グループ・コードの追加」フォーム

フォームの見出し部分部分にある「プール・グループ・コード」、「開始日付」および「セグメントID」フィールドに値を入力してカーソルをグリッドに移動すると、セグメント定義プログラム (P48S80) でその開始日付に対して定義されている適切な間接費カテゴリがグリッドにロードされます。グリッド行を追加または削除することはできません。

**プール・グループ・コード**

作業または従業員を原価プール・セットに関連付けるコードを入力します。

**注意:** プール・グループ・コードは、指定した日付の1つのセグメントIDにのみ関連付けることができます。ただし、新しい開始日付を入力すれば、プール・グループ・コードを別のセグメントIDに移動できます。

**開始日付**

プール・グループ・コードが有効になる日付を入力します。

**終了日付**

プール・グループ・コードが無効になる日付を入力します。既存のコードに対して新しいプール・グループ・コードを入力すると、既存のレコードのこのフィールドに、新しいレコードの開始日付より1日前の日付が自動的に入力されます。

**セグメントID**

セグメントを識別するUDC 48S/SIのコードを入力します。

**プールID**

間接費カテゴリのプールIDを識別するコードを入力します。

開始日付のセグメントIDに関連付けられているすべての間接費カテゴリに対して、有効なプールIDが必要です。

**注意:** このグリッドに入力するプールIDは、プール定義プログラム (P48S83) で、同じセグメントIDと間接費カテゴリの組合せと「プール・グループ・コードの追加」フォームの見出し部分に入力した開始日付と同じかまたはそれ以前の開始日付を使用して設定されている必要があります。関連するプール定義レコードに含まれる終了日付は、このフォームの見出し部分に入力した開始日付よりも後である必要があります。

このフィールドで「検索」ボタンを使用すると、「プールIDの検索/選択」フォームにアクセスできます。このフォームには、現在選択されているグリッド行で有効なプールIDのみが表示されます。このフォームでプールIDを選択すると、選択したプールIDが有効になります。

## 間接費レートの設定

この項では、間接費レートの概要と間接費レートの追加方法について説明します。

### 間接費レートについて

間接費レートは、間接費取引の計算に使用され、間接費レート・テーブル (F48S85) に格納されます。間接費レートは、セグメント、開始日付、間接費カテゴリ、間接費レート・タイプおよびプールIDごとに定義します。

ワークファイルの生成プログラム (R48120) または元帳取引の選択プログラム (P48124) を実行すると、請求明細ワークファイル・テーブル (F4812) の基本取引の開始日付、間接費カテゴリおよびプールIDに一致する各間接費レート・タイプの間接費レートが間接費レート・テーブル (F48S85) から取得されます。

### 間接費レートの設定に使用するフォーム





フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
間接費レートの処理	W48S85A	「間接費の設定」 (G48S43)、「間接費レート」	既存の間接費レートを検索し、検討します。
間接費レート入力	W48S85B	「間接費レートの処理」フォームで、「追加」をクリックします。	間接費レートを追加します。
間接費レートの改訂	W48S85C	「間接費レートの処理」フォームで既存の間接費レートを選択し、「選択」をクリックします。	間接費レート・テーブル (F48S85) で既存のレコードを更新します。  更新できる値は、間接費レートのみです。

### 間接費レートの追加

「間接費レート入力」フォームにアクセスします。

間接費レート - 間接費レート入力 1 ?

OK(O) 削除(D) 取消(L) ツール(T)




---

セグメントID  セグメント1

有効日付

通貨コード  U.S. Dollar

---

レコード 1-2 グリッドのカスタマイズ   

間接費 カテゴリ	間接費カテゴリ 記述	プール ID	プールID 記述	レート	レート 基準	レート基準 記述	間接 レー プ
<input checked="" type="radio"/> FR	諸手当	P01		5.00000	1	金額	PR
<input type="radio"/>							

「間接費レート入力」フォーム

**間接費カテゴリ**

間接費のタイプ(諸手当、間接費など)を識別するUDC 48S/BCのコードを入力します。

**プールID**

プールIDを識別するコードを入力します。

**レート**

間接費金額の計算に使用されるレートを入力します。このフィールドには、パーセンテージを指定する必要があります。パーセンテージは整数で入力してください。たとえば、25%のレートの場合は「25」と入力します。

**レート基準**

基準が金額基準であるか、単位基準であるかを指定します。値は次のとおりです。

**1: 基準金額**

計算の基準は取引金額で、レートはパーセントです。間接費金額は、レート・パーセントに間接費明細元帳テーブル(F52G11)の基本取引からの原価、代替原価、請求書または収益金額を乗算して計算されます。

**2: 数量**

計算の基準は数量で、レートは固定額です。間接費金額は、固定額にF52G11テーブルの基本取引の数量を乗算して計算されます。

このフィールドの値は、UDCテーブル48S/BRに格納されます。これらの値はハードコード化されています。

**間接費レート・タイプ**

間接費レートのタイプ(暫定、目標など)を識別するUDC 48S/RTのコードを入力します。



## 第 5 章

# 詳細変数配賦の設定

この章では、詳細変数配賦の設定の概要と、次の方法について説明します。

- ビジネスユニット一時変更の設定
- 勘定残高ベースの配賦のバージョンの設定
- 間接費ベースの配賦のバージョンの設定
- 詳細変数配賦の指定の設定

**関連項目:**

第 15 章、「配賦の処理」、「詳細変数配賦の処理」、156ページ

---

## 詳細変数配賦の設定について

詳細変数配賦の設定プログラムには、次のタイプが用意されています。

- 勘定残高ベースの配賦
- 間接費ベースの配賦

配賦計算のための詳細変数配賦方法は、変数配賦方法で使用可能な基本機能を提供しますが、より複雑な配賦もサポートしており、各種の基準比率に基づいた配賦先ビジネスユニット一時変更が可能になります。詳細方法では、直接配賦と間接配賦の両方が計算され、次のテーブルから勘定残高ベースの配賦の配賦元金額と基準金額が取得されます。

- ビジネスユニット・マスター (F0006)
- 勘定科目マスター (F0901)
- 勘定残高 (F0902)

勘定残高ベースの配賦で使用する配賦元データと基準データを選択するには、プログラムのバージョンを作成し、データ選択を使用してF0006、F0901およびF0902テーブルから取得するデータを指定します。バージョンの作成に使用するプログラムは、“勘定残高ベースの配賦を行う場合に配賦元/基準データ選択バージョンを作成”(R09123B)という名前で、詳細変数配賦の設定に使用するプログラムの1つです。その他の設定プログラムは、次のとおりです。

- ビジネスユニット一時変更の作成 (P09123A)
- 詳細変数配賦指定の作成 (P09123)

次の例に示すように、詳細変数配賦の設定プログラム (P09123B) は各プログラムの起動ポイントになります。

詳細変数配賦の設定

OK(O)

取消(L)

ツール(T)

ビジネスユニット一時変更の作成

勘定残高ベースの配賦を行う場合に配賦元/基準データ選択バージョンを作成

間接費ベースの配賦を行う場合に配賦元/基準データ選択バージョンを作成

間接費ベースの配賦を行う場合に配賦元/基準グループコード・データ選択バージョンを作成

詳細変数配賦指定の作成

「詳細変数配賦の設定」フォーム

次の表に、「詳細変数配賦の設定」フォームからアクセスできる設定プログラムを示します。

プログラム(プログラム番号)	説明
ビジネスユニット一時変更の作成 (P09123A)	このプログラムを使用して、特定の基準比率に基づいて配賦先ビジネスユニットの一時変更を設定します。
勘定残高ベースの配賦を行う場合に配賦元/基準データ選択バージョンを作成 (R09123B)	<p>このプログラムを使用して、データ選択を使用して配賦元と基準を指定し、勘定残高ベースの配賦のバージョンを作成します。このプログラムでは、次のテーブルからデータを取得します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ビジネスユニット・マスター (F0006)</li> <li>• 勘定科目マスター (F0901)</li> <li>• 勘定残高 (F0902)</li> </ul>
間接費ベースの配賦を行う場合に配賦元/基準データ選択バージョンを作成 (R09123C)	<p>このプログラムを使用して、データ選択を使用して配賦元または基準を指定し、間接費ベースの配賦のバージョンを作成します。このプログラムでは、次のテーブルからデータを取得します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ビジネスユニット・マスター (F0006)</li> <li>• 勘定科目マスター (F0901)</li> <li>• 間接費集計元帳 (F52G02)</li> </ul> <p>参照: 第 5 章、「詳細変数配賦の設定」、「間接費ベースの配賦のバージョンの設定」、51 ページ</p>



プログラム(プログラム番号)	説明
間接費ベースの配賦を行う場合に配賦元/基準プール・グループ・コード・データ選択バージョンを作成(R0948S84)	このプログラムを使用して、データ選択を使用して配賦元または基準を指定し、間接費ベースの配賦のバージョンを作成します。このプログラムでは、プール・グループ・コード・テーブル(F48S84)からデータを取得します。  参照: 第 5 章、「 <u>詳細変数配賦の設定</u> 」、「 <u>間接費ベースの配賦のバージョンの設定</u> 」、51 ページ
詳細変数配賦指定の作成(P09123)	このプログラムを使用して、配賦を完了するための配賦元、基準、配賦先および相手勘定の指定を設定します。

「詳細変数配賦の設定」フォームには、設定プログラムへのナビゲーション方法のみが含まれており、詳細変数配賦の計算に使用される実際の設定プログラムは含まれていません。これらのプログラムには、「詳細変数配賦」メニュー(24/G0923)からアクセスできます。

## 間接費ベースの配賦について

間接費ベースの配賦計算のための詳細変数配賦方法は、勘定残高ベースの変数配賦方法で使用可能な機能と同じ機能を提供しますが、より複雑な労務費、原価プールおよび間接費の配賦もサポートします。詳細方法では、直接配賦と間接配賦の両方が計算され、次のテーブルから間接費ベースの配賦の配賦元金額と基準金額が取得されます。

- ビジネスユニット・マスター(F0006)
- 勘定科目マスター(F0901)
- 間接費集計元帳(F52G02)

間接費ベースの配賦で使用する配賦元データと基準データを選択するには、2つのプログラムのバージョンを作成し、データ選択を使用してF0006、F0901およびF52G02テーブルから取得する配賦元勘定科目と基準勘定科目を指定します。バージョンの作成には、次のプログラムを使用します。

- 間接費ベースの配賦を行う場合に配賦元/基準データ選択バージョンを作成(R09123C)
- 間接費ベースの配賦を行う場合に配賦元/基準プール・グループ・コード・データ選択バージョンを作成(R0948S84)

間接費ベースの配賦では、次の設定プログラムも使用します。

- ビジネスユニット一時変更の作成(P09123A)
- 詳細変数配賦(P09123)

## ビジネスユニット一時変更の設定

この項では、ビジネスユニット一時変更の概要を説明し、例を示してビジネスユニット一時変更の設定方法を説明します。

## ビジネスユニット一時変更について

詳細変数配賦では、ビジネスユニットのみでなく各種の基準比率に基づいて配賦を計算できます。ビジネスユニット一時変更を設定して、各種の基準比率の配賦を計算するときに使用される配賦先ビジネスユニットを識別します。ビジネスユニット一時変更を設定することにより、基準値に基づいて、配賦先ビジネスユニットごとに異なるパーセントを配賦できます。

UDCテーブル09/RTで定義される基準比率には、次のものがあります。

- ビジネスユニット
- 関連ビジネスユニット
- ビジネスユニット・タイプ
- カテゴリ・コード1から50
- 契約タイプ
- 従業員プール・グループ・コード
- 職務プール・グループ・コード

ビジネスユニット一時変更には、次のガイドラインが適用されます。

- カテゴリ・コードとビジネスユニット・タイプに対して、ビジネスユニット一時変更を設定する必要があります。ビジネスユニット一時変更配賦先ビジネスユニットを指定しないと、配賦を計算できません。
- ビジネスユニットと関連ビジネスユニットに対してもビジネスユニット一時変更を設定できますが、これは必須ではありません。ビジネスユニットと関連ビジネスユニットに対してビジネスユニット一時変更を設定しない場合、基本配賦プログラムの場合と同様に、配賦先ビジネスユニットの基準ビジネスユニットが使用されます。

ビジネスユニット一時変更の作成プログラム(P09123A)で、ビジネスユニット一時変更を設定します。次に、詳細変数配賦プログラム(P09123)で、基準比率を指定して配賦先ビジネスユニットの一時変更名を入力します。詳細変数配賦の計算プログラム(R09123)を実行すると、P09123Aプログラムからビジネスユニット一時変更の値が取得され、配賦先ビジネスユニットがこれらの値に置き換えられ、基準比率の基準値に基づいて配賦パーセントが計算されます。

**注意:** 各基準値のビジネスユニット一時変更を指定しないと、R09123プログラムは異常終了します。

## ビジネスユニット一時変更の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
詳細変数配賦の設定	W09123BA	「詳細変数配賦」(24/G0923)、「詳細変数配賦の設定」	詳細変数配賦用の設定プログラムの1つにナビゲートします。
ビジネスユニット一時変更の処理	W09123AA	「詳細変数配賦の設定」フォームで、「ビジネスユニット一時変更の作成」をクリックします。	ビジネスユニット一時変更のリストを確認します。
ビジネスユニット一時変更の編集	W09123AB	「ビジネスユニット一時変更の処理」フォームで、「追加」をクリックします。	ビジネスユニット一時変更を設定します。

## 例：勘定残高ベースの配賦のビジネスユニット一時変更

この例では、カテゴリ・コード04に対して設定されたビジネスユニット一時変更を示します。

**詳細変数配賦の設定 - ビジネスユニット一時変更の編集**

OK(O) 削除(D) 取消(L) ツール(T)

一時変更名 \* CAT04 BU Overrides for Cat Code 04

基準比率 \* 04 カテゴリ・コード04

レコード 1 - 5 グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Basis Value *	基準値 記述	ビジネスユ ニット 一時変更 *	ビジネスユニット 一時変更記述
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	410	デンバー事業所	3	Central Branch
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	420	ロンドン事業所	5	Western Branch
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	440	ニューヨーク事業所	6	Northern Branch
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	450	パリ事業所	9	Corporate Administration
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

「ビジネスユニット一時変更の編集」フォーム

基準比率に対して選択したカテゴリ・コードの値が、「Basis Value」カラムに表示されます。カテゴリ・コード410（デンバー事業所）の配賦先ビジネスユニットは3（中央事業所）で、カテゴリ・コード420（ロンドン事業所）の配賦先ビジネスユニットは5（西部事業所）になっています。配賦を計算すると、基準値とそれぞれのパーセントが取得され、「ビジネスユニット一時変更」フィールドに指定した配賦先ビジネスユニットに金額が書き込まれます。

## 例：間接費ベースの配賦のビジネスユニット一時変更

この例では、契約タイプに対して設定されたビジネスユニット一時変更を示します。

**詳細変数配賦の設定 - ビジネスユニット一時変更の編集**

OK(O) 削除(D) 取消(L) ツール(T)

一時変更名 \* CONTR Contract Type

基準比率 \* 54 契約タイプ

レコード 1 - 4 グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Basis Value *	基準値 記述	ビジネスユ ニット 一時変更 *	ビジネスユニット 一時変更記述
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	C3	原価+マージン(詳細レベル3)	9	Corporate Administration
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	C4	原価+マージン(詳細レベル4)	9	Corporate Administration
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	C9	原価+マージン(詳細レベル9)	9	Corporate Administration
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

「ビジネスユニット一時変更の編集」フォーム

基準比率に対して選択したカテゴリ・コードの値が、「Basis Value」カラムに表示されます。カテゴリ・コードC3(詳細レベル3の原価加算)の配賦先ビジネスユニットは9(法人管理)で、カテゴリ・コードC4(詳細レベル4の原価加算)の配賦先ビジネスユニットは9(法人管理)になっています。配賦を計算すると、基準値とそれぞれのパーセントが取得され、「ビジネスユニット一時変更」フィールドに指定した配賦先ビジネスユニットに金額が書き込まれます。

## ビジネスユニット一時変更の設定

「ビジネスユニット一時変更の編集」フォームにアクセスします。

詳細変数配賦の設定 - ビジネスユニット一時変更の編集

OK(O) 削除(D) 取消(L) ツール(T)

一時変更名 ★ CAT04 Destination BUs for CAT 04

基準比率 ★ 04 カテゴリ・コード04

レコード 1 - 5				グリッドのカスタマイズ	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Basis Value *	基準値 記述	ビジネスユ ニット 一時変更 *	ビジネスユニット 一時変更記述
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	410	デンバー事業所	3	Central Branch
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	420	ロンドン事業所	5	Western Branch
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	440	ニューヨーク事業所	6	Northern Branch
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	450	パリ事業所	9	Corporate Administration
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

「ビジネスユニット一時変更の編集」フォーム

### 一時変更名

ビジネスユニット一時変更を識別する最大5文字の名前を入力します。

### 基準比率

UDCテーブル09/RTから、配賦比率タイプを入力します。ハードコード化された値は、次のとおりです。

01から50: カテゴリ・コード01から50

51: ビジネスユニット

52: 関連ビジネスユニット

53: ビジネスユニット・タイプ

54: 契約タイプ(間接費ベースの配賦で使用)

55: 従業員プール・グループ・コード(間接費ベースの配賦で使用)

56: 職務プール・グループ・コード(間接費ベースの配賦で使用)

### Basis Value

一時変更する基準比率に関連付けられている値を入力します。基準比率に応じて、値は次のようになります。

UDCテーブルのカテゴリ・コード00/01から00/50

ビジネスユニット・マスター(F0006)のビジネスユニット

F0006テーブルの関連ビジネスユニット

UDCテーブルのビジネスユニット・タイプ00/MC

UDCテーブルの契約タイプ・コード51/CT

UDCテーブルのビジネスユニット・レポート・コード00/12

たとえば、基準比率が04である場合は、UDCテーブルの値00/04を入力します。

#### ビジネスユニット一時変更記述

基準値を一時変更または置換するビジネスユニットを入力します。

## 勘定残高ベースの配賦のバージョンの設定

この項では、勘定残高ベースの配賦のバージョン設定の概要について説明します。

### 勘定残高ベースの配賦のバージョン設定について

配賦で使用する配賦元/基準データを指定するには、“勘定残高ベースの配賦を行う場合に配賦元/基準データ選択バージョンを作成”(R09123B)のバージョンを設定する必要があります。R09123Bプログラムはデータ選択専用で、プログラム・ロジックは含まれていません。

JD Edwards EnterpriseOneでは、R09123Bプログラムのデフォルト・バージョンとして次の2つが提供されています。

- XJDE0001 (F0902配賦元の選択)
- XJDE0002 (F0902基準の選択)

R09123Bプログラムのバージョンを作成して、データ選択で配賦元勘定科目または基準勘定科目を指定します。各配賦について、詳細変数配賦プログラム(P09123)で使用する配賦元バージョンと基準バージョンを指定します。次に、詳細変数配賦の計算プログラム(R09123)を実行すると、P09123で指定したバージョンが取得され、次のテーブルのデータに基づいて配賦が計算されます。

- ビジネスユニット・マスター (F0006)
- 勘定科目マスター (F0901)
- 勘定残高 (F0902)

## 間接費ベースの配賦のバージョンの設定

この項では、間接費ベースの配賦のバージョン設定の概要について説明します。

### 間接費ベースの配賦のバージョン設定について

配賦に応じて使用する配賦元データと基準データを指定するために、次のプログラムのバージョンを設定する必要があります。

- 間接費ベースの配賦を行う場合に配賦元/基準データ選択バージョンを作成 (R09123C)
- 間接費ベースの配賦を行う場合に配賦元/基準プール・グループ・コード・データ選択バージョンを作成 (R0948S84)

R09123CプログラムとR0948S84プログラムはデータ選択専用で、プログラム・ロジックは含まれていません。JD Edwards EnterpriseOneでは、これらのプログラムのデフォルト・バージョンとして次のものが提供されています。

プログラム	配賦元バージョン 名前/番号	基準バージョン 名前/番号
R09123C	F52G02配賦元の選択 XJDE0001	F52G02基準の選択 XJDE0002
R0948S84	配賦元F48S84プール・グループ・コードの選択 XJDE0001	基準F48S84プール・グループ・コードの選択 XJDE0002

データ選択で配賦元勘定科目または基準勘定科目を指定するために、これらの各プログラムのバージョンを作成します。各配賦について、詳細変数配賦プログラム(P09123)でこれらのバージョンを指定します。次に、詳細変数配賦の計算プログラム(R09123)を実行すると、P09123プログラムで指定したバージョンが取得され、次のテーブルのデータに基づいて配賦が計算されます。

- F0006
- F0901
- F52G02

## 詳細変数配賦の指定の設定

この章では、詳細変数配賦の指定および「詳細変数配賦の処理」フォームの概要と、次の方法について説明します。

- 詳細変数配賦(P09123)の処理オプションの設定
- 勘定残高ベースの配賦の指定の設定
- 間接費ベースの配賦の指定の設定

### 詳細変数配賦の指定について

詳細変数配賦を計算するには、次の指定を設定する必要があります。

- 配賦元: 配賦される金額
- 基準: 配賦される配賦元金額のパーセントを設定するために使用される数値
- 配賦先: 配賦金額が書き込まれるビジネスユニットまたは勘定科目
- 相殺: 相殺金額が書き込まれるビジネスユニットまたは勘定科目

詳細変数配賦の指定プログラム(P09123)を使用して、詳細変数配賦の指定を設定します。このプログラムでは、詳細変数配賦テーブル(F09123)に情報を格納します。

詳細変数配賦定義の印刷レポート(R0123A)では、配賦と配賦元、基準および配賦先の各指定のリストが提供されます。R0123Aレポートでは、F09123テーブルと詳細変数配賦ビジネスユニット一時変更テーブル(F09123A)から情報が読み込まれます。

## 詳細変数配賦指定の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
詳細変数配賦の処理	W09123A	「詳細変数配賦の設定」フォームで、「詳細変数配賦指定の作成」(P09123)をクリックします。	配賦のリストを確認します。
詳細変数配賦計算の指定	W09123B	「詳細変数配賦計算の指定」フォームで、「追加」をクリックします。	詳細変数配賦指定を設定します。

## 「詳細変数配賦の処理」フォームについて

配賦を設定した後、「詳細変数配賦の処理」フォームで配賦を確認して、「ロー」および「レポート」メニューから各種機能を実行できます。

「詳細変数配賦の処理」フォーム

### 配賦タイプ

「詳細変数配賦の処理」フォームに表示される配賦のタイプを制限するために、「配賦タイプ」フィールドで次のいずれかの値を指定します。

- 0: 勘定残高ベースの配賦
- 1: 間接費ベースの配賦

### 「ロー」メニュー

次の表に、「詳細変数配賦の処理」フォームの「ロー」メニューからアクセスできるプログラムを示します。これらのプログラムには、「詳細変数配賦」メニュー(24/G0923)から直接アクセスできるものもあります。

「ロー」メニューでの選択	説明
配賦の指定	「詳細変数配賦計算の指定」フォームにアクセスします。このフォームには、「詳細変数配賦の処理」フォームで「選択」をクリックしてアクセスすることもできます。
指定内容の印刷	選択した配賦に対して、詳細変数配賦定義の印刷レポート(R0123A)が自動的に実行されます。 R0123Aレポートでは、配賦が識別され、配賦元、基準、配賦先および相殺の指定が表示されます。
状況の変更	選択した配賦の状況がH(保留)からA(承認済)、またはA(承認済)からH(保留)に変更されます。 承認済の取引に対してのみ、仕訳の作成と勘定科目の更新が行われます。

「ロー」メニューでの選択	説明
配賦の計算 - テスト	詳細変数配賦の計算プログラム (R09123) が自動的に実行され、選択した配賦がテスト・モードで計算されます。
配賦の計算 - 最終	R09123 プログラムが自動的に実行され、選択した配賦が最終モードで計算されます。

## 「レポート」メニュー

次の表に、「詳細変数配賦の処理」フォームの「レポート」メニューからアクセスできるプログラムを示します。これらのプログラムには、「詳細変数配賦」メニュー (24/G0923) からアクセスすることもできます。

「レポート」メニューでの選択	説明
配賦の計算	<p>詳細変数配賦の計算 (R09123) のバージョンのリストにアクセスします。</p> <p>「使用可能なバージョン」フォームでバージョンを選択して、テスト・モードまたは最終モードで配賦を計算します。</p>
指定内容の印刷	<p>詳細変数配賦定義の印刷 (R0123A) のバージョンのリストにアクセスします。</p> <p>「使用可能なバージョン」フォームでバージョンを選択します。データ選択を使用して特定の配賦を選択します。選択しない場合、すべての配賦が指定されたものとしてレポートに印刷されます。</p> <p>R0123A レポートでは、配賦が識別され、配賦元、基準および配賦先の各指定値が表示されます。</p>

## 詳細変数配賦 (P09123) の処理オプションの設定

P09123 の処理オプションは、「詳細変数配賦」メニュー (24/G0923) から「詳細変数配賦」を選択した場合にのみ表示されます。これらの処理オプションは、「詳細変数配賦の設定」フォームから同じプログラム (詳細変数配賦指定の作成) を選択した場合には表示されません。

### 選択

**テスト・モード**                      詳細変数配賦の計算 (R09123) のバージョンをテスト・モードで実行することを指定します。この処理オプションをブランクにすると、バージョン XJDE0001 が使用されます。

**最終**                                  詳細変数配賦の計算 (R09123) のバージョンを最終モードで実行することを指定します。この処理オプションをブランクにした場合は、バージョン XJDE0002 が使用されます。

## 勘定残高ベースの配賦の指定の設定

「詳細変数配賦計算の指定」フォームにアクセスします。



詳細変数配賦の設定 - 詳細変数配賦計算の指定

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

配賦タイプ ★ 勘定残高ベースの配賦

伝票番号/タイプ/会社 ★ 3932 JA 00001 Financial/Distribution Company

ID 配賦元/基準 配賦先

元帳日付 ★ 2005/06/30 ☐ 逆仕訳

摘要 ★ Salary and Benefits 状況

停止日付 ☐ 承認済

定期頻度 MO ☐ 保留

転記グループ

転記順序 0

「詳細変数配賦計算の指定」フォーム

選択した配賦タイプに応じて、「詳細変数配賦計算の指定」フォームの特定のフィールドが表示または非表示になります。

### 配賦タイプ

配賦のタイプを選択します。

勘定残高ベースの配賦: 勘定残高テーブル(F0902)に基づいて配賦が計算されます。

間接費ベースの配賦: 間接費集計元帳テーブル(F52G02)に基づいて配賦が計算されます。

参照: 第 5 章、「詳細変数配賦の設定」、「間接費ベースの配賦の指定の設定」、61 ページ

注意: この項に示すフィールドは、勘定残高ベースの配賦に基づいています。

### 伝票番号/タイプ/会社

これらのフィールドでは、配賦ごとに値の一意の組合せを入力します。

### ID

このタブを選択します。

### 元帳日付

配賦先取引および相殺取引を作成する日付を入力します。

<b>停止日付</b>	<p>配賦を無効にする日付を入力します。このフィールドをブランクにすると、配賦が有効になります。</p> <p>このフィールドに日付を入力し、入力した日付が「元帳日付」フィールドの日付よりも後である場合は、配賦は有効になります。</p> <p>このフィールドに日付を入力し、入力した日付が「元帳日付」フィールドの日付以前である場合は、配賦は無効になります。</p>
<b>定期頻度</b>	<p>配賦の頻度を識別するUDCテーブル09/RQの値を入力します。値は次のとおりです。</p> <p>AN: 年次</p> <p>MO: 月次</p> <p>QT: 四半期</p> <p>SA: 半期</p> <p>WK: 週次</p>
<b>転記グループ</b>	<p>多階層配賦を計算するグループを設定する場合は、このフィールドに数値を入力します。それ以外の場合は、このフィールドをブランクにします。</p> <p>数値を入力するのは、関連しあう配賦が複数あり、ある配賦の結果が同じグループ内の後続の配賦に含まれる場合です。</p>
<b>転記順序</b>	<p>多階層配賦を計算する順序を設定する場合は、このフィールドに数値を入力します。それ以外の場合は、このフィールドをブランクにします。</p> <p>1: 階層1: 支社。この階層では、支社A、B、C間での請求書の配賦の比率またはパーセントを指定します。</p> <p>2: 階層2: 支社Aの部門。この階層では、支社Aの部門X、Y、Z間での請求書の配賦の比率またはパーセントを指定します。</p>
<b>逆仕訳</b>	<p>このチェックボックスを選択すると、取引の逆仕訳が自動的に作成されます。詳細変数配賦の計算プログラムを実行するとき、取引の逆仕訳を行わない場合にはこのチェックボックスを上書きできます。</p> <p>取引を転記すると、「一般会計固定情報」での指定に応じて翌月の初日または末日に逆仕訳が作成されます。</p>
<b>状況</b>	<p>このオプションを選択して、配賦が承認済または保留中のいずれであるかを指定します。「詳細変数配賦の処理」フォームの「ロー」メニューから「状況の変更」を選択すると、複数の配賦の状況を同時に変更できます。</p>
<b>配賦元/基準</b>	<p>このタブを選択します。</p>

詳細変数配賦の設定 - 詳細変数配賦計算の指定

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

配賦タイプ ★ 勘定残高ベースの配賦

伝票番号/タイプ/会社 ★ 3932 JA 00001 Financial/Distribution Company

ID 配賦元/基準 配賦先

**配賦元指定**

データ選択 ★ XJDE0001  
Select F0902 Source

配賦率 1.00000000

元帳タイプ AA

数量元帳を含める ☐ 単位 ☐

基準期間 月累計

特別期間/年度

**基準指定**

データ選択 ★ XJDE0002  
Select F0902 Basis

比率 ビジネスユニット

元帳タイプ AU

基準期間 開始日以降累計

特別期間/年度

「詳細変数配賦計算の指定」フォーム: 「配賦元/基準」タブ

このフォームの「配賦元指定」領域には、次のフィールドが表示されます。

### データ選択

F0006、F0901およびF0902テーブルから配賦元データを選択するために使用される、F0902配賦元/基準の選択プログラム(R09123B)のバージョンを入力します。

### 配賦率

インデックスまたはレートを示す数値を入力します。配賦元金額にこの係数を掛けて、配賦金額が計算されます。プラスまたはマイナスの値を指定でき、小数の最大桁数は8桁です。小数を9桁以上入力すると、8桁に四捨五入されます。

整数部と小数部に大きい数値を指定すると、全桁が表示されない場合があります。小数部がすべて表示されない場合でも、最大8桁まではテーブルに正しく格納されます。

**注意:** 年間予算の場合、0(ゼロ)を指定して残高をすべて消去し、新しく予算を作成できます。

### 元帳タイプ

ソース・レコードの有効な元帳タイプを入力します。このフィールドを空白にすると、AAが使用されます。

### 数量元帳を含める、単位

配賦先および相殺仕訳の単位を計算するには、「数量元帳を含める」チェックボックスを選択します。このチェックボックスを選択した場合は、「単位」フィールドにUDCテーブル00/UMからの値を入力する必要があります。

## 基準期間

配賦の基準となる日付を選択します。勘定残高ベースの配賦の場合の値は、次のとおりです。

開始日以降累計: 基準は、「特別期間」フィールドに指定した月の末日までの累計残高になります。開始日以降累計の配賦には、前月の修正と前年度からの転記すべてが含まれます。

月累計: 基準は、現在の月(会計期間)の正味転記残高になります。月累計の配賦の場合、配賦基準に前月の修正は含まれません。

月累計 - 異なる会計年度: 基準は、現在の月(会計期間)の正味転記残高ですが、会社の現行会計年度が配賦会社の現行会計年度の前年度または翌年度、あるいは同じ年度であるかぎり、会社が別の会計年度であってもかまいません。

ユーザー指定日: 基準は、ユーザーが指定した開始日付から終了日付までの累計残高になります。ユーザー指定日には、詳細変数配賦の計算プログラム(R09123)の処理オプションで指定された開始日付と同じまたはそれより後の月の残高と、終了日付と同じまたはそれより前の月の残高を指定します。

年累計: 基準は、期末残高です。損益勘定の場合は、その年の指定した月末までの全転記額の合計が基準となります。貸借対照表勘定の場合は、「特別期間」フィールドに指定した月末までの累計残高です。年累計の配賦の場合、配賦基準には前月の修正が含まれます。

## 特別期間/年度

「特別期間/年度」フィールドが表示されるのは、期間基準が開始日以降累計、月累計または年累計である場合のみです。

基準金額に使用する総勘定元帳の期間および年度を数値で入力します。このフィールドをブランクにすると、配賦会社の現在の期間が使用されます。

「特別期間/年度」フィールドは、期間基準が次のものである場合は表示されません。

月累計 - 異なる会計年度。選択した会社の現在の期間と現行会計年度が使用されます。選択した会社の現行会計年度は、配賦会社の現行会計年度と同じであるか、この年度の前年または翌年である必要があります。

ユーザー指定日。詳細変数配賦の計算プログラム(R09123)の処理オプションで指定した期間および年度が使用されます。

このフォームの「基準指定」領域には、次のフィールドが表示されます。

## データ選択

F0006、F0901およびF0902テーブルから基準データと金額を選択するために使用される、F0902配賦元/基準の選択プログラム(R09123B)のバージョンを入力します。

## 比率

配賦の計算に使用される基準比率を指定するUDCテーブル09/RTのコードを入力します。値は次のとおりです。

00から50: カテゴリ・コード01から50

51: ビジネスユニット

52: 関連ビジネスユニット

53: ビジネスユニット・タイプ

コード54から56: 間接費取引

参照: 第 5 章、「詳細変数配賦の設定」、「間接費ベースの配賦の指定の設定」、61 ページ

### 元帳タイプ

ソース・レコードの有効な元帳タイプを入力します。

### 基準期間

配賦の基準となる日付を指定します。値は次のとおりです。

開始日以降累計: 基準は、「特別期間年度」フィールドに指定した月の末日までの累計残高になります。開始日以降累計の配賦には、前月の修正と前年度からの転記すべてが含まれます。

月累計: 基準は、その月(会計期間)の正味転記残高になります。月累計の配賦の場合、配賦基準に前月の修正は含まれません。

月累計 - 異なる会計年度: 基準は、現在の月(会計期間)の正味転記残高ですが、会社の現行会計年度が配賦会社の現行会計年度の前年度または翌年度、あるいは同じ年度であるかぎり、会社が別の会計年度であってもかまいません。

ユーザー指定日: 基準は、ユーザーが指定した開始日付から終了日付までの累計残高になります。ユーザー指定日には、詳細変数配賦の計算プログラム(R09123)の処理オプションで指定された開始日付と同じまたはそれより後の月の残高と、終了日付と同じまたはそれより前の月の残高を指定します。

年累計: 基準は、期末残高です。損益勘定の場合は、その年の指定した月末までの全転記額の合計が基準となります。貸借対照表勘定の場合は、「特別期間」フィールドに指定した月末までの累計残高です。年累計の配賦の場合、配賦基準には前月の修正が含まれます。

### 特別期間/年度

基準金額に使用する総勘定元帳の期間および年度を数値で入力します。このフィールドをブランクにすると、指定した会社の現在の期間が使用されます。

### 配賦先

このタブを選択します。

詳細変数配賦の設定 - 詳細変数配賦計算の指定

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

配賦タイプ ★ 勘定残高ベースの配賦

伝票番号/タイプ/会社 ★ 3932 JA 00001 Financial Distribution Company

ID 配賦元/基準 配賦先

配賦先勘定

ビジネスユニット 基準

元帳タイプ AA

	配賦元	基準	指定
主科目	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/> 7970
補助科目	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
タイプ/補助元帳	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>

相手勘定

	配賦元	指定
ビジネスユニット	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/> 9
主科目	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/> 8799
補助科目	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
タイプ/補助元帳	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>

「詳細変数配賦計算の指定」フォーム: 「配賦先」タブ

このフォームの「配賦先勘定」領域には、次のフィールドが表示されます。

## ビジネスユニット

「ビジネスユニット」フィールドに表示される値は、「配賦元/基準」タブで指定された基準比率に基づきます。このフィールドは、配賦先ビジネスユニットの元を表します。

基準比率がビジネスユニットである場合は、ドロップダウン・リストから値（基準、一時変更、関連ビジネスユニット、配賦元、指定）を選択し、該当する場合はラベルのないフィールドに値を入力します。

基準比率がビジネスユニット・タイプである場合は、このフィールドに「一時変更」と表示され、ラベルのないフィールドに一時変更名を入力する必要があります。

基準比率がカテゴリ・コード01から50である場合は、このフィールドに「一時変更」と表示され、ラベルのないフィールドに一時変更名を入力する必要があります。

基準比率が関連ビジネスユニットである場合は、このフィールドに「関連ビジネスユニット」と表示され、その他のアクションは必要ありません。

## 主科目、補助科目、タイプ/補助元帳

これらのフィールドでは、配賦先勘定の取得元を識別する、次のいずれかのオプションを選択します。

配賦元: 配賦元の主科目、補助科目または補助元帳タイプを使用します。

基準: 基準の主科目、補助科目または補助元帳タイプを使用します。

指定: ラベルのないフィールドに指定した主科目、補助科目または補助元帳タイプを使用します。

### 元帳タイプ

配賦先および相手勘定金額を書き込む元帳タイプを指定します。

このフォームの「相手勘定」領域には、次のフィールドが表示されます。

### ビジネスユニット、主科目、補助科目、タイプ/補助元帳

これらのフィールドでは、相手勘定の取得元を識別する、次のいずれかのオプションを選択します。

配賦元: 配賦元のビジネスユニット、主科目、補助科目または補助元帳タイプを使用します。

指定: ラベルのないフィールドに指定した主科目、補助科目または補助元帳タイプを使用します。

## 間接費ベースの配賦の指定の設定

この項では、「詳細変数配賦計算の指定」フォームについて説明し、間接費ベースの配賦に適用できるフィールドを示します。

**詳細変数配賦の設定 - 詳細変数配賦計算の指定**

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

配賦タイプ \* 勘定残高ベースの配賦

伝票番号/タイプ/会社 \*  JA 00001 Financial/Distribution Company

ID 配賦元/基準 配賦先

元帳日付 \* 2008/06/30 ☐ 逆仕訳

摘要 \* Monthly Allocations **状況**

停止日付  ☒ 承認済

定期頻度 MO ☐ 保留

転記グループ

転記順序

「詳細変数配賦計算の指定」フォーム

選択した配賦タイプに応じて、「詳細変数配賦計算の指定」フォームの特定のフィールドが表示または非表示になります。

### 配賦タイプ

間接費集計元帳テーブル(F52G02)に基づいて配賦を計算するには、「間接費ベースの配賦」を選択します。

### 「配賦元/基準」タブ

このタブを選択します。

詳細変数配賦の設定 - 詳細変数配賦計算の指定

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

配賦タイプ \*

間接費ベースの配賦

伝票番号/タイプ/会社 \*

Financial/Distribution Company

ID

配賦元/基準

配賦先

**配賦元指定**

データ選択 \*

XJDE0001

配賦率

4.00000000

元帳タイプ

AA

数量元帳を含める ☐ 単位 ☐

基準期間

月累計

特別期間/年度

**間接費**

金額タイプ

代替原価

プール・グループ・ソース

従業員プール・グループ・コード

プールID/間接費カテゴリ・バージョン

XJDE0001

**基準指定**

データ選択 \*

XJDE0002

比率

ビジネスユニット

元帳タイプ

AA

基準期間

年累計

特別期間/年度

**間接費**

金額タイプ

原価

プール・グループ・ソース

職務プール・グループ・コード

プールID/間接費カテゴリ・バージョン

XJDE0002

「詳細変数配賦計算の指定」フォーム: 「配賦元/基準」タブ

## 間接費ベースの配賦のフィールド

次のフィールドは、「配賦元指定」領域と「基準指定」領域の両方に表示されます。

### データ選択

F0006、F0901およびF52G02テーブルから配賦元データまたは基準データを選択するために使用される、R09123Cプログラムの配賦元または基準バージョンを入力します。

### 基準期間

配賦の基準となる日付を選択します。間接費ベースの配賦の場合の値は、次のとおりです。

月累計: 基準は、現在の月(会計期間)の正味転記残高になります。月累計の配賦の場合、配賦基準に前月の修正は含まれません。

月累計 - 異なる会計年度: 基準は、現在の月(会計期間)の正味転記残高ですが、会社の現行会計年度が配賦会社の現行会計年度の前年度または翌年度、あるいは同じ年度であるかぎり、会社が別の会計年度であってもかまいません。

ユーザー指定日: 基準は、ユーザーが指定した開始日付から終了日付までの累計残高になります。ユーザー指定日には、詳細変数配賦の計算プログラム(R09123)の処理オプションで指定された開始日付と同じまたはそれより後の月の残高と、終了日付と同じまたはそれより前の月の残高を指定します。



年累計: 基準は、期末残高です。損益勘定の場合は、その年の指定した月末までの全転記額の合計が基準となります。貸借対照表勘定の場合は、「特別期間」フィールドに指定した月末までの累計残高です。年累計の配賦の場合、配賦基準には前月の修正が含まれます。

### 金額タイプ

次のいずれかの値を選択します。

原価

代替原価

### プール・グループ・ソース

次のいずれかの値を選択します。

従業員プール・グループ・コード

職務プール・グループ・コード

このフィールドに値を入力する場合は、「プールID/間接費カテゴリ・バージョン」フィールドにバージョンを入力する必要があります。

### プールID/間接費カテゴリ・バージョン

プール・グループ・コード・テーブル (F48S84) から配賦元または基準プール・グループ・コードを選択するために使用する、R0948S84プログラムの配賦元または基準バージョンを入力します。

このフィールドに値を入力する場合は、「プール・グループ・ソース」フィールドでも値を選択する必要があります。

### 「配賦先」タブ

このタブを選択します。

詳細変数配賦の設定 - 詳細変数配賦計算の指定

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

配賦タイプ ★ 間接費ベースの配賦

伝票番号/タイプ/会社 ★ JA 00001 Financial/Distribution Company

ID 配賦元/基準 配賦先

配賦先勘定

ビジネスユニット 基準

	配賦元	基準	指定
主科目	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
補助科目	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
タイプ/補助元帳	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>

相手勘定

	配賦元	指定
ビジネスユニット	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
主科目	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
補助科目	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
タイプ/補助元帳	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>

元帳タイプ

間接費

住所番号

代替所属ビジネスユニット 1

Financial/Distribution Company

職務タイプ 0A-4

会計士

職階 4

レベルIV

☒ 職務プール・グループ・コード・フラグ

「詳細変数配賦計算の指定」フォーム: 「配賦先」タブ

## 間接費ベースの配賦のフィールド

「配賦先勘定」領域には、次のフィールドが表示されます。

### ビジネスユニット

「ビジネスユニット」フィールドに表示される値は、「配賦元/基準」タブで指定された基準比率に基づきます。このフィールドは、配賦先ビジネスユニットの元を表します。

基準比率が従業員プール、職務プールまたは契約タイプである場合は、このフィールドに「一時変更」と表示され、ラベルのないフィールドに一時変更名を入力する必要があります。

基準比率がビジネスユニットである場合は、ドロップダウン・リストから値（「基準」、「一時変更」、「関連ビジネスユニット」、「配賦元」、「指定」）を選択し、該当する場合はラベルのないフィールドに値を入力します。

基準比率がビジネスユニット・タイプである場合は、このフィールドに「一時変更」と表示され、ラベルのないフィールドに一時変更名を入力する必要があります。

基準比率がカテゴリ・コード01から50である場合は、このフィールドに「一時変更」と表示され、ラベルのないフィールドに一時変更名を入力する必要があります。

基準比率が関連ビジネスユニットである場合は、このフィールドに「関連ビジネスユニット」と表示され、その他のアクションはありません。

「間接費」領域には、次のフィールドが表示されます。

<b>代替所属ビジネスユニット</b>	従業員が通常所属するビジネスユニット番号を入力します。従業員プール・グループ・コードは、このフィールドに入力したビジネスユニットの「カテゴリ・コード12」フィールドから取得されます。
<b>職務タイプ</b>	組織内の職務を識別するUDCテーブル06/Gのユーザー定義コードを入力します。職務タイプに給与および福利厚生情報を関連付けて、その情報をその職務タイプが指定されている従業員に適用できます。
<b>職階</b>	職務タイプ内の特定のレベルを識別するUDCテーブル06/GSのコードを入力します。
<b>職務プール・グループ・コード・フラグ</b>	このチェックボックスを選択すると、配賦先または相殺ビジネスユニットの「カテゴリ・コード12」フィールドから職務プール・グループ・コードが取得されます。



## 第 6 章

# 勘定残高調整の設定

この章では、勘定残高調整の概要と、次の設定方法について説明します。

- 勘定残高調整のAAI
- 残高調整コード

---

## 勘定残高調整について

期末処理の一環として、システム内にある特定のタイプの勘定科目の調整が必要になる場合があります。たとえば、銀行勘定科目の残高を銀行取引明細の残高と調整することがあります。または、取引や仮勘定での貸借を調整する場合もあります。

JD Edwards EnterpriseOne一般会計システムでは、次の4つの勘定残高調整方法が用意されています。

- 銀行勘定科目の残高調整  
銀行勘定科目を手動で調整します。
- 借方と貸方の調整  
決済勘定または仮勘定のような勘定科目の貸借を手動で調整します。
- 銀行テープによる残高調整  
銀行勘定科目を自動で調整します。銀行が取引情報を磁気メディアで提供する場合のみ、この方法を使用できます。
- 銀行取引明細の処理  
銀行取引明細から直接EnterpriseOneソフトウェアに取引情報を入力します。磁気メディアによる処理や電子資金決済が一般的で、未払債務の処理に銀行が直接関与するケースが多い国では通常、この方法を使用します。

---

## 勘定残高調整のAAIの設定

勘定残高調整処理を開始する前に、AAI項目GLRCxxを設定する必要があります。これらのAAIは調整する勘定科目の範囲を定義するもので、勘定残高調整の4つの方法すべてで必要になります。調整する勘定科目がGLRCxx AAI範囲に含まれていない場合は、残高調整テーブルの再作成プログラム(R09130)でその勘定科目のWF取引明細調整ワークテーブル(F0911R)が作成されず、その勘定科目の調整を行うことはできません。

開始と終了の両方のAAI項目を定義する必要があります。最初の範囲は、必ずGLRC01で開始するようにします。また、次に続く番号GLRC02で最初の範囲を終了することをお勧めします。次の範囲が必要な場合は、GLRC03で始めてGLRC04で終わるように定義してください。

次の例は、GLRCxxのAAIの設定方法を示しています。

項目番号	記述行1	記述行2	会社	ビジネスユニット	主科目	補助科目
GLRC01	調整可能範囲	開始範囲1	00000		1110	
GLRC02	調整可能範囲	終了範囲1	00000		1110	99999999
GLRC03	調整可能範囲	開始範囲2	00000		4110	
GLRC04	調整可能範囲	終了範囲2	00000		4110	99999999

### 関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「AAI(自動仕訳)の設定」、「AAIの設定」

## 残高調整コードの設定

勘定残高調整の“銀行勘定科目の残高調整”および“借方と貸方の調整”方法の設定の一環として、取引の調整状況を示すために使用される残高調整コードを変更できます。勘定科目内の取引を調整する際には、この残高調整コードでWF取引明細調整ワークテーブル(F0911R)と取引明細テーブル(F0911)の取引が更新されます。残高調整テーブルの再作成プログラム(R09130)では、残高調整コードを使用して、F0911Rワークテーブルの再作成時に調整済の取引を特定します。残高調整コードのデフォルトはRです。ただし、調整に関して組織独自の条件があり、それに対応したコードにする場合は、新規の残高調整コードを追加できます。

新しい残高調整コードを追加する場合は、UDCテーブル09/RCで新規コードを定義する必要があります。任意の英数字を入力できます。フィールドの長さは1です。ただし、銀行取引明細を使用している場合、AまたはDは銀行取引明細プログラムで使用されているため使用できません。

**注意:** 無効支払の自動残高調整プログラム(R09551)および無効入金の自動残高調整プログラム(R09552)では、デフォルトの残高調整コードRが使用されます。これらのプログラム用に残高調整コードを変更することはできません。

## 第 7 章

# 自動銀行取引明細処理の設定

自動銀行取引明細処理は、JD Edwards EnterpriseOne一般会計システムの取引に対して銀行取引明細の取引を調整する有効な方法です。

この章では、次の方法について説明します。

- 自動銀行取引明細処理のユーザー定義コード(UDC)の設定
- 銀行口座相互参照の設定
- 自動銀行勘定残高調整の設定

**関連項目:**

第 23 章、「銀行取引明細の自動処理」、217ページ

---

## 自動銀行取引明細処理のUDCの設定

この項では、自動銀行取引明細処理のUDCの設定の概要を示し、その設定方法について説明します。

### 自動銀行取引明細処理のUDCの設定について

自動銀行取引明細処理の取引の入力と残高調整を容易にするために、UDCを設定します。UDCによって、例外処理の金額が最小限に抑えられ、銀行勘定科目の取引の作成と残高調整を自動的に行う機能が最大限に高められます。自動銀行取引明細プログラムでは、11 UDCテーブルの値が使用されます。

**警告:** UDCテーブルにはコードを追加しないでください。自動銀行取引明細プログラムのプログラム・ロジックは、情報を正しく処理するために、特定のコードおよび特殊取扱コードの値に依存しています。ハードコード化されていないUDCの記述とコードは変更できます。ただし、コードの説明や特殊取扱コードがある場合その値は変更できません。

たとえば、UDCテーブル09/DTのコード2はハードコード化されていませんが、特殊取扱コード20が設定されています。この場合、コードを2から4に、記述を今日の日付から現在の日付に変更できますが、コードの説明にある日付や特殊取扱コード20については変更できません。

---

### 自動銀行取引明細のUDCの設定

この項では、自動銀行取引明細のUDCの設定方法について説明します。

#### 09/TT - 自動銀行取引明細の取引タイプ

UDCテーブル09/TTには銀行口座取引の取引タイプが含まれます。

UDCテーブル09/TTの取引タイプはユーザー定義が可能であり、次のようなコードで識別されます。

コード	記述	特殊取扱コード
CK	支払決済	08
CR	入金決済	04
DP	支払済手形決済	07
JE	仕訳入力	01
RJE	仕訳のみ調整	02

**注意:** 取引タイプ・コードRJE（または特殊取扱コード02が付いたその他のUDC）は、JD Edwards EnterpriseOne一般会計システムの仕訳入力としてすでに存在する銀行取引に使用されます。これらの取引の場合、自動銀行取引明細の処理では重複した取引は作成されず、かわりに、既存の仕訳と総勘定元帳が調整されます。この取引タイプ・コードは、銀行手数料や振込手数料などの銀行取引に使用できます。

### 09/DT - デフォルト日付

UDCテーブル09/DTには、取引タイプに使用されるデフォルト日付を指定するコードが含まれます。UDCテーブル09/DTのデフォルト日付コードはユーザー定義が可能であり、次のようなコードで識別されます。

コード	記述	特殊取扱コード
1	銀行取引明細日付	10
2	今日の日付	20
3	決済日付	30

### 09/FT - 電子銀行取引明細フォーマット

UDCテーブル09/FTには、電子銀行取引明細に使用できる2つのフォーマットがあります。

UDCテーブル09/FTのフォーマット・コードはハードコード化されています。

コード	記述	特殊取扱コード
SWIFT	Swift MT 940	1
BAI2	BAI2	2

### 09/TD - 取引借方/貸方インディケータ

UDCテーブル09/TDには、取引金額の符号を指定する借方/貸方インディケータが含まれます。

UDCテーブル09/TDの取引借方/貸方インディケータ・コードはハードコード化されています。



コード	記述
C	貸方
D	借方
RC	取消貸方
RD	取消借方

### 09/RR - 残高調整済理由コード

UDCテーブル09/RRには、特定の取引が調整された理由を説明する理由コードが含まれています。たとえば、金額が予測と異なっても許容限度額内である場合、理由コードVWTが使用されます。「自動銀行取引明細の改訂」フォームおよび「銀行取引明細と取引明細の調整」フォームに、これらのコードの記述が表示されます。

UDCテーブル09/RRの残高調整済理由コードはハードコード化されています。

コード	記述	特殊取扱コード
ABR	自動バッチ入金作成済み	10
DPC	支払済手形決済	20
CR	集計入金	30
VWT	許容限度内の差異	40

### 09/RU - 調整コード

UDCテーブル09/RUには、取引が調整済であるかどうかを示すコードが含まれています。調整コードを指定することによって、「銀行取引明細と取引明細の調整」フォームに表示する取引を選択できます。

UDCテーブル09/RUの調整コードはユーザー定義が可能であり、次のコードで識別されます。

コード	記述	特殊取扱コード
1	未調整	10
2	調整済み	20
3	すべて	30

### 09/UR - 残高未調整理由コード

UDCテーブル09/URには、特定の取引が調整された理由を説明する理由コードが含まれています。「自動銀行取引明細の改訂」フォームおよび「銀行取引明細と取引明細の調整」フォームに、これらのコードとその記述が表示されます。コードはF09617テーブルに保存されます。

UDCテーブル09/URの残高未調整理由コードはハードコード化されています。

コード	記述	特殊取扱コード
ANC	自動バッチ入金が作成されていない	20
ANE	金額が等しくない	30
CLD	決済日付が元帳日付より前	40
CNV	顧客/仕入先が無効	50
DPN	F0411に支払済手形がない	120
IAC	勘定科目が無効	60
IGO	相手勘定が無効	160
IVA	差異勘定科目が無効	150
JE	JE作成に失敗	70
NMJ	元帳に一致する仕訳がない	80
NMP	元帳に一致する支払がない	90
NMR	元帳に一致する入金がない	100
OEN	相殺入力を作成されていない	140
PEC	転記編集コードが無効	110
VNT	差異が許容限度を超えている	130

## 09/BA – BAI2取引タイプ

UDCテーブル09/BAには、BAIで定義される取引タイプが含まれます。BAI2フォーマットは銀行の電子決済に使用する北米フォーマットです。

BAI2フォーマットの取引タイプは、F09611中間テーブルに自動入力されます。銀行口座相互参照プログラムを使用して、BAI2取引タイプをUDCテーブル09/TTのEnterpriseOne取引タイプにマッピングします。

次の表に示される範囲でBAI2取引のタイプが識別されます。

取引タイプ範囲	記述
001から099	勘定科目レベル状況コード
100	貸方集計合計
101から399	貸方集計と貸方詳細コード
400	借方集計合計

取引タイプ範囲	記述
401から699	借方集計と借方詳細コード
700から899	範囲がBAIで使用されていない
900から919	勘定科目レベル状況コード(カスタマイズUDC)
920から959	貸方集計と貸方詳細コード(カスタマイズUDC)
960から999	借方集計と借方詳細コード(カスタマイズUDC)

UDCテーブル09/BAIにあるコードはすべてハードコード化されています。BAIで提供されている伝票のコード一覧を表示できます。また、JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアにもBAI2コードが含まれています。BAIで取引タイプに変更があった場合、手動でUDCテーブルを確実に更新してください。

BAI2取引タイプの一部を次に示します。

コード	記述01	記述02	特殊取扱コード
010	処理中の元帳	状況	なし
105	貸方要約	集計	CR
224	コミッション	明細	CR
400	借方合計	集計	DB
506	帳簿振替借方	明細	DB
622	ブローカー借方	明細	DB

### 09/ST - SWIFT取引タイプ

UDCテーブル09/STには、国際銀行間電気通信協会 (SWIFT) で定義される取引タイプが含まれます。SWIFTフォーマットは銀行の電子決済に使用する欧州フォーマットです。これらの取引タイプはF09611中間テーブルに自動入力されます。銀行口座相互参照プログラム (P09621) を使用して、SWIFT取引タイプをUDCテーブル09/TTの取引タイプにマッピングします。

UDCテーブル09/STにあるコードはすべてハードコード化されています。SWIFTで提供されている伝票のコード一覧を表示できます。また、JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアにもSWIFTコードが含まれています。SWIFTで取引タイプに変更があった場合は、必ず手動でUDCテーブルを更新してください。

SWIFT取引タイプには次のものがあります。

コード	記述01	記述02
BOE	為替手形	なし
COL	回収	元本金額とともに使用
SEC	証券	元本金額とともに使用

コード	記述01	記述02
001	個人小切手	ユーロ小切手以外
076	電話注文	なし
204	信用状	なし

### 09/BU - 相殺ビジネスユニット

UDCテーブル09/BUには、自動銀行取引明細の処理プログラムで仕訳を作成する際に、勘定科目の相殺に使用するビジネスユニットを特定するコードが含まれます。取引コードJE(仕訳)の相互参照を作成する際に、そのビジネスユニットが銀行勘定科目または代替相殺勘定科目のいずれに使用されるかを指定します。

コード	記述	特殊取扱コード
1	銀行勘定科目のビジネスユニット	10
2	代替相殺ビジネスユニット	20

## 相互参照の設定

この項では、相互参照の概要と次の方法について説明します。

- 銀行口座相互参照の設定
- 取引タイプ相互参照の設定

### 相互参照について

電子銀行取引明細に表示する銀行口座番号と取引タイプは、JD Edwards EnterpriseOne一般会計システムの口座番号と取引タイプにマッピングする必要があります。

銀行口座相互参照プログラム(P09621)を使用して、電子銀行取引明細の口座番号をEnterpriseOne口座番号に相互参照(またはマッピング)します。情報を追加または改訂すると、銀行口座相互参照テーブル(F09621)が更新されます。

取引タイプ相互参照プログラム(P09622)を使用して、取引タイプをEnterpriseOne取引タイプに相互参照します。情報を追加または改訂すると、取引タイプ相互参照テーブル(F09622)が更新されます。

F09621およびF09622テーブルには、トラッキングおよびセキュリティ目的に使用される監査フィールドが含まれています。これらのフィールドによって、ユーザーID、プログラムID、マシン名、日時のトラッキングが行われます。

## 相互参照の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
銀行勘定相互参照の処理	W09621A	「自動銀行取引明細の設定」(G09214)、「銀行口座相互参照」	銀行口座の電子銀行情報を確認したり、銀行口座を選択して、改訂または削除を行います。
銀行勘定相互参照の改訂	W09621B	「銀行勘定相互参照の処理」フォームで、「追加」をクリックします。  「銀行勘定相互参照の改訂」フォームで、「フォーム」メニューから「銀行勘定科目」を選択して、既存の銀行勘定科目の検索または新規銀行勘定科目の設定を行うことができます。	銀行口座の相互参照を設定します。
取引タイプ相互参照の処理	W09622A	「自動銀行取引明細の設定」(G09214)、「取引タイプ相互参照」	電子銀行取引明細に表示する取引タイプを確認します。
取引タイプ相互参照の改訂	W09622C	「取引タイプ相互参照の処理」フォームで、「追加」をクリックします。	取引タイプの相互参照を設定します。







## 銀行口座相互参照の設定

「銀行勘定相互参照の改訂」フォームにアクセスします。

**銀行口座相互参照 - 銀行勘定相互参照の改訂**

銀行勘定相互参照の処理    **銀行勘定相互参照の改訂**

OK(O) 取消(L) フォーム(F) 前 次 ツール(T)

電子銀行口座番号	<input type="text" value="3664831509"/>	
電子フォーマット・インディケータ *	<input type="text" value="BAI2"/>	BAI2
EnterpriseOne勘定科目コード *	<input type="text" value="1.1110.AUTOBST1"/>	Auto Bank Statement 1
代替相殺ビジネスユニット	<input type="text" value="3"/>	Central Branch

「銀行勘定相互参照の改訂」フォーム

**電子銀行取引明細番号**

電子銀行取引明細に表示されている銀行口座番号を入力します。

**電子フォーマット・インディケータ**

UDCテーブル09/FTのフォーマット・コードを入力します。値は次のとおりです。

BAI2

SWIFT

フォーマット・コードはハードコード化されています。

**EnterpriseOne勘定科目コード**

電子銀行取引明細の銀行勘定の勘定科目コードを入力します。

**代替相殺ビジネスユニット**

相殺勘定科目の仕訳の作成に使用するビジネスユニットを入力します。このビジネスユニットは銀行勘定科目または代替相殺勘定科目に使用されます。（「取引タイプ相互参照の改訂」フォームで主科目および補助科目とともに使用する相殺ビジネスユニットを特定します。）

このフィールドを使用して、各取引タイプに相殺ビジネスユニットを割り当てることができます。このフィールドをブランクにすると、銀行勘定科目のビジネスユニットがデフォルト値として使用されます。

自動銀行取引明細の処理プログラムでは、JE（仕訳）取引の相殺勘定科目のみが作成されます。

## 取引タイプ相互参照の設定

「取引タイプ相互参照の改訂」フォームにアクセスします。

「取引タイプ相互参照の改訂」フォーム

### 電子フォーマット・インディケータ

取引タイプにUDCテーブル09/FTのフォーマット・コードを入力します。

### 電子商取引タイプ

「電子フォーマット・インディケータ」フィールドに入力したフォーマットに対して、UDCテーブル09/ST (SWIFT) または 09/BA (BAI2) の取引タイプ・コードを入力します。これら2つのフィールドは連動します。

### 借方/貸方インディケータ

BAI2にフォーマットおよび電子取引タイプ・コードを入力すると、フォームに「借方/貸方インディケータ」フィールドが表示されます。取引タイプの「特殊取扱コード」フィールドの値で、金額が借方(D)または貸方(C)のいずれであるかが判別されます。

SWIFTのフォーマットを入力すると、SWIFTの銀行フラット・ファイルにすでに借方/貸方インディケータが含まれているため、「借方/貸方インディケータ」フィールドはフォームに表示されません。

### 取引コード

UDCテーブル09/TTの値を入力します。このフィールドに「JE」を入力すると、フォームに「相殺ビジネスユニット」、「主科目」、および「補助科目」フィールドが表示されます。

### 相殺ビジネスユニット

UDCテーブル09/BUの値を入力して、相殺勘定科目の仕訳の作成に使用するビジネスユニットを指定します。値は次のとおりです。

- 1: 銀行勘定科目のビジネスユニット
- 2: 代替相殺ビジネスユニット

「2」を入力した場合、「銀行勘定相互参照の改訂」フォームで代替相殺ビジネスユニットを指定する必要があります。入力なかった場合は、銀行勘定科目のビジネスユニットが使用されます。

**主科目、補助科目**

相殺仕訳の主科目および補助科目を入力します。補助科目の入力は必須ではありません。

---

## 自動銀行勘定残高調整の設定

この項では、自動銀行勘定残高調整の概要と次の方法について説明します。

1. 自動残高調整ルールの設定
2. 自動残高調整ルールのグループへの割当
3. グループの自動銀行取引明細勘定への割当

### 自動銀行勘定残高調整について

電子銀行取引明細の自動残高調整を行うために、自動銀行取引明細の処理プログラムでは次の情報が使用されます。

- 残高調整ルール
- 残高調整グループ
- 銀行取引明細の勘定科目

#### 残高調整ルール

残高調整ルールによって、システムで自動残高調整される取引数を最大限にし、手動処理を最小限にすることができます。自動銀行取引明細の処理プログラムではデフォルト・ルールが使用され、銀行勘定が決済済のF0911テーブルの入金、支払、および手形が調整されます。

各残高調整ルールには最大5つまで取引タイプを設定できます。「自動残高調整ルールの改訂」のタブはそれぞれ取引タイプに対応しています。各取引タイプにUDCテーブル09/RCの残高調整コードを割り当てるか、それ以外の場合は、デフォルト値R(残高調整済1対1)が割り当てられます。取引タイプに定義する残高調整ルールには、差異勘定科目、伝票タイプ、許容限度額などが含まれます。残高調整ルールは、F09626テーブルに保存されます。

#### 残高調整グループ

残高調整ルールを設定したら、残高調整グループを設定し、グループにルールを割り当てます。1つのグループに1つの残高調整ルールのみ割り当てることができますが、同じ残高調整ルールを複数のグループに使用することも可能です。

自動銀行取引明細の処理プログラムでは、グループに割り当てられた残高調整ルールにアクセスし、銀行取引明細勘定科目を取得します。残高調整グループは、F09627テーブルに保存されます。

#### 自動銀行取引明細

次に、残高調整グループを銀行勘定科目に割り当てます。1つの勘定科目に1つの残高調整グループのみ割り当てることができますが、同じグループを複数の銀行勘定科目に使用することも可能です。自動銀行取引明細の勘定科目の設定時に情報を上書きしないかぎり、グループの残高調整ルールが銀行勘定科目に適用されます。自動銀行取引明細の勘定科目は、F09628テーブルに保存されます。



## 自動銀行勘定残高調整の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
自動残高調整ルール の処理	W09626A	「自動銀行取引明細の設定」(G09214)、「自動残高調整ルールの設定」	残高調整ルールを確認したり、既存ルールを選択して改訂したり、既存ルールのコピーや削除を行います。
自動残高調整ルール の改訂	W09626D	「自動残高調整ルールの処理」フォームで「追加」をクリックするか、既存のルールを選択して改訂します。	残高調整ルールを設定します。
自動残高調整グループ の処理	W09627A	「自動銀行取引明細の設定」(G09214)、「自動残高調整グループ」	残高調整グループを確認したり、既存グループを選択して改訂したり、既存グループのコピーや削除を行います。
自動残高調整グループ の改訂	W09627B	「自動残高調整グループの処理」フォームで「追加」をクリックするか、既存のグループを選択して改訂します。	残高調整グループを設定します。
自動銀行取引明細設定 の処理	W09628A	「自動銀行取引明細の設定」(G09214)、「自動銀行取引明細勘定の設定」	自動銀行取引明細勘定を確認したり、既存勘定を選択して改訂したり、既存勘定のコピーや削除を行います。
自動銀行取引明細勘 定設定の改訂	W09628B	「自動銀行取引明細の処理」フォームで「追加」をクリックするか、既存の勘定を選択して改訂します。	自動銀行取引明細勘定を設定します。

## 自動残高調整ルールの設定

「自動残高調整ルールの改訂」フォームにアクセスします。

自動残高調整ルールの設定 - 自動残高調整ルールの改訂

OK(O) 取消(L) ツール(T)

残高調整ルール ★ AUTOBK AUTO BANK STATEMENT RULE

支払決済 入金決済 仕訳入力作成 仕訳入力の残高調整 支払済み手形

☒ 支払差異 ☒ 支払残高調整日付の例外

残高調整コード R 残高調整済み(1対1)

差異勘定科目 9.8650 Cash Shortages

差異日付モード 3 決済日付

許容限度額 5

差異伝票タイプ JE 仕訳入力

「自動残高調整ルールの改訂」フォーム

**残高調整ルール** 取引タイプ・ルールを割り当てる残高調整ルールの名前を入力します。

## 支払決済

銀行による決済済の支払に対して残高調整ルールが適用される場合に使用します。

## 支払差異

支払差異のためのチェックボックスです。このチェックボックスを選択すると、必須の「差異勘定科目」、「差異日付モード」、「許容限度額」、および「差異伝票タイプ」フィールドが表示されます。

## 支払残高調整日付の例外

F09617テーブルの決済日付がF0911テーブルの元帳日付より前の場合、支払調整を行うために、このチェックボックスを選択します。

## 残高調整コード

UDCテーブル09/RCの値を入力します。この値は自動銀行取引明細の処理プログラムで使用され、銀行取引明細が承認済または処理済か、支払が無効かなどが示されます。このフィールドをブランクにすると、R(残高調整済1対1)がデフォルト値として使用されます。

## 差異勘定科目

この取引タイプと残高調整ルールの差異金額の記録に使用される勘定科目を入力します。「支払差異」チェックボックスが選択されている場合にのみ、このタブのこのフィールドと残りのフィールドが表示されます。

## 差異日付モード

UDCテーブル09/DTの値を入力して、差異の仕訳が自動的に作成される際に使用するデフォルト日付を指定します。値は次のとおりです。

- 1: 銀行取引明細日付
- 2: 今日の日付
- 3: 決済日付

**許容限度額** 自動小額消去レコードの作成に許容される最大金額または最高のパーセントを入力します。

**差異伝票タイプ** 自動銀行取引明細の処理プログラム実行時に、支払の差異仕訳の作成に使用するための値をUDCテーブル00/DTから入力します。このフィールドをブランクにすると、デフォルト値としてPN(手入力支払)が使用されます。

## 入金決済

銀行による決済済の入金に対して残高調整ルールが適用される場合に使用します。「残高調整コード」、「差異日付モード」、および「許容限度額」フィールドは、「支払決済」タブのフィールドと同様に機能します。

**入金差異** 入金差異のためのチェックボックスです。このチェックボックスを選択すると、必須の「差異勘定科目」、「差異日付モード」、「許容限度額」、および「差異伝票タイプ」フィールドが表示されます。

**入金残高調整日付の例外** F09617テーブルの決済日付がF0911テーブルの元帳日付より前の場合、入金調整を行うために、このチェックボックスを選択します。

**自動バッチ入金の作成** バッチ入金を自動的に作成する場合に、このチェックボックスを選択します。このチェックボックスを選択すると、必須の「自動バッチ入金日付モード」フィールドが表示されます。自動バッチ入金を作成され、顧客番号のある取引に関してのみそれらの入金が請求書に消し込まれます。顧客番号がブランクの場合は、仮入金が作成され、請求書との消込は行われません。

自動バッチ入金を作成されるのは、入金する通貨と請求書の通貨が同じ場合のみです。代替通貨は、自動バッチ入金に消し込むことはできません。

**自動バッチ入金日付モード** UDCテーブル09/DTの値を入力して、バッチ入金自動作成時に使用するデフォルト日付を指定します。値は「差異日付モード」フィールドと同じです。「自動バッチ入金の作成」チェックボックスを選択した場合のみ、このフィールドは必須です。

**差異勘定科目** この取引タイプと残高調整ルールの差異金額の記録に使用される勘定科目を入力します。「入金差異」チェックボックスが選択されている場合にのみ、このタブのこのフィールドと残りのフィールドが表示されます。

**差異伝票タイプ** 自動銀行取引明細の処理プログラム実行時に、入金の差異仕訳の作成に使用するための値をUDCテーブル00/DTから入力します。このフィールドをブランクにすると、デフォルト値としてRC(入金)が使用されます。

## 仕訳入力の作成

銀行手数料、振込手数料、発生した利息などの仕訳入力に対して残高調整ルールが適用される場合に使用します。このタブの「残高調整コード」および「元帳日付モード」フィールドは、「支払決済」タブのフィールドと同様に機能します。

**伝票タイプ** 自動銀行取引明細の処理プログラム実行時に、仕訳入力の作成に使用するための値をUDCテーブル00/DTから入力します。このフィールドをブランクにすると、デフォルト値としてJE(仕訳入力)が使用されます。

## 仕訳入力の残高調整

UDCテーブル09/TTの取引タイプRJE(または特殊取扱コード02の付いたその他のユーザー指定取引コード)に対して、残高調整ルールが適用される場合に使用します。

この取引タイプは、JD Edwards EnterpriseOne一般会計システムで仕訳としてすでに存在する銀行取引に使用されます。これらの取引の場合、自動銀行取引明細の処理では重複した取引は作成されず、かわりに、既存の仕訳と総勘定元帳が調整されます。

<b>仕訳入力残高調整差異</b>	仕訳入力差異のためのチェックボックスです。このチェックボックスを選択すると、必須の「差異勘定科目」、「差異日付モード」、「許容限度額」、および「差異伝票タイプ」フィールドが表示されます。
<b>仕訳入力残高調整日付の例外</b>	F09617テーブルの決済日付がF0911テーブルの元帳日付より前の場合、仕訳入力の調整を行うために、このチェックボックスを選択します。
<b>差異勘定科目</b>	この取引タイプと残高調整ルール of 差異金額の記録に使用される勘定科目を入力します。「仕訳入力残高調整差異」チェックボックスが選択されている場合にのみ、このタブのこのフィールドと残りのフィールドが表示されます。
<b>差異伝票タイプ</b>	自動銀行取引明細の処理プログラム実行時に、仕訳入力の差異の作成に使用するための値をUDCテーブル00/DTから入力します。このフィールドをブランクにすると、デフォルト値としてJE(仕訳入力)が使用されます。

## 支払済手形

銀行による支払済の手形に対して残高調整ルールが適用される場合に使用します。

<b>元帳日付モード</b>	UDCテーブル09/DTの値を入力して、銀行勘定科目と支払手形勘定との仕訳が自動的に作成される際に使用するデフォルト日付を指定します。このフィールドは必須です。
<b>手形伝票タイプ</b>	自動銀行取引明細の処理プログラム実行時に、仕訳入力の作成に使用するための値をUDCテーブル00/DTから入力します。このフィールドをブランクにすると、デフォルト値としてJE(仕訳入力)が使用されます。

## 自動残高調整ルールのグループへの割当

「自動残高調整グループの改訂」フォームにアクセスします。

**自動残高調整グループ - 自動残高調整グループの改訂**

OK(O) 取消(L) ツール(T)





残高調整グループ ★
GROUP A

残高調整グループ記述
Auto Bank Statement Group

残高調整ルール ★
AUTOBK
AUTO BANK STATEMENT RULE

☒ 参照3フィールドの銀行取引明細番号の更新

「自動残高調整グループの改訂」フォーム

<b>残高調整グループ</b>	残高調整グループを特定するための名前を入力します。
<b>残高調整ルール</b>	残高調整ルール of 名前を入力します。

### 参照3フィールドの銀行取引明細番号の更新

このチェックボックスを選択すると、F0911テーブルのGLR3フィールドに銀行取引明細番号が自動入力されます。残高調整グループではデフォルト値が指定されます。このチェックボックスは、「自動銀行取引明細勘定設定の改訂」フォームにも表示されます。

## グループの自動銀行取引明細勘定への割当

「自動銀行取引明細勘定設定の改訂」フォームにアクセスします。

**自動銀行取引明細勘定の設定 - 自動銀行取引明細勘定設定の改訂**

OK(O) 取消(L) ツール(T)

勘定科目コード \*

1.1110.AUTOBST2

Auto Bank Statement2

残高調整グループ \*

GROUP A

Auto Bank Statement Group

残高調整ルール

AUTOBK

AUTO BANK STATEMENT RULE

会社番号

00001

Financial/Distribution Company

**税**

☐ 税トラッキング

税率/税域

税目コード

☒ 参照3フィールドの銀行取引明細番号の更新

「自動銀行取引明細勘定設定の改訂」フォーム

### 勘定科目コード

銀行の勘定科目コードを入力します。

### 残高調整グループ

この銀行勘定の自動銀行取引明細を処理する際に使用される、残高調整グループを特定するコードを入力します。

### 残高調整ルール

この銀行勘定の自動銀行取引明細を処理する際に使用される、残高調整ルールを特定するコードを入力します。このフィールドに入力するルールは、前のフィールドで入力したグループの一部である必要があります。「残高調整グループ」と「残高調整ルール」フィールドは連動します。

このフィールドをブランクにすると、前のフィールドで入力したグループに割り当てられている残高調整ルールが使用されます。

### 税トラッキング

このチェックボックスを選択すると、この銀行勘定科目の税のトラッキングが行われます。F0911テーブルの税目コード、税率/税域、および課税対象品目No.のフィールドを更新するためには、残りの2つの税フィールドに値を入力して、このチェックボックスを選択する必要があります。

### 税率/税域

「税トラッキング」チェックボックスを選択した場合、このフィールドは必須です。

この銀行勘定科目の税率/税域のコードを入力します。このコードには、F4008テーブルに設定されているものを入力してください。この銀行勘定のすべての取引の元帳日付が、このフィールドに入力する税率/税域の有効日付以降で、失効日付以前である必要があります。

このフィールドを空白にすると、F0901テーブルの勘定科目コードに指定した税率/税域が使用されます。指定されていない場合、エラー・メッセージが表示されます。

## 税目コード

「税トラッキング」チェックボックスを選択した場合、このフィールドは必須です。

V(消費税コード)で始まる値をUDCテーブル00/EXから入力します。この税目コードと税率/税域、税規則を組み合わせ、税額の計算方法が決まります。「税率/税域」フィールドに値が入力されている場合、このフィールドは常に必須です。

## 第 8 章

# 予算の予測と計画の設定

この章では、予算の予測と計画の概要、および成長パターンの設定方法について説明します。

---

## 予算の予測と計画設定について

予測および計画プログラムを使用すると、最大15年間の収益および費用の予算金額を予測できます。収益および費用の予算金額を予測するには、事前に次の設定を完了しておく必要があります。

- 成長パターンの設定

成長パターンには、固定金額またはパーセントのいずれかを設定できます。

- ビジネスユニットへの成長パターンの割当

成長パターンは、必要に応じて勘定レベルで変更できます。

予算金額を予測するために、成長パターンが勘定残高テーブル (F0902) の転記額から取得された基準額に適用されます。

**関連項目:**

第 26 章、「予算の予測と計画」、277ページ

---

## 成長パターンの設定

この項では、成長パターンの概要および次の方法について説明します。

- 成長パターンの設定

- ビジネスユニットへの成長パターンの割当

## 成長パターンについて

成長パターンを使用して、予算金額の計算時に収益および費用の勘定に適用される増加額または増加率を指定します。

成長パターン・タイプ (UDCテーブル14/GP) を成長パターン・コードに割り当てて、固定金額またはパーセントで予算金額を指定します。たとえば、成長金額に「1.00」を入力すると、次の処理が行われます。

- 成長パターン・タイプにFIX (固定金額) を使用した場合は、勘定残高に1が追加されます。

- 成長パターン・タイプにPCT (パーセント) を使用した場合は、勘定残高に1.01が乗算されます。これは、勘定残高に1%を乗算して、その結果を勘定残高に追加した値に等しくなります。

成長パターンには、固定金額またはパーセント金額を、最大15年間年度ごとに個別に指定できます。各年度に入力する成長金額は合算されます。たとえば、成長パターンのパーセントとして年度1に1.0%、年度2に2.0%を入力すると、最初の年度は勘定残高に1.01が乗算され、その次の年度は、その金額に1.02が乗算されます(合計で3.02%)。

成長パターン・コードを設定したら、そのコードをビジネスユニットに割り当てて改訂番号を指定します。改訂番号を使用すると、同じビジネスユニットに対して複数の予算を作成できます。

成長パターン情報は、予測成長パターン・テーブル(F1406)に保管されます。

## 成長パターンの設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
予測成長パターンの処理	W1406A	「予測および計画」(G1411)、「予測成長パターン」	既存の成長パターンを検討します。
予測成長パターンの改訂	W1406B	「予測成長パターンの処理」フォームで、「追加」をクリックします。	成長パターンを追加および改訂します。
ビジネスユニット成長パターンの処理	W1405A	「予測および計画」(G1411)、「ビジネスユニット成長パターン」	ビジネスユニットへ割り当てた成長パターンを検討します。
ビジネスユニット成長パターンの改訂	W1405C	「ビジネスユニット成長パターンの処理」フォームで、「追加」をクリックします。	ビジネスユニットへの成長パターン・コードと改訂番号の割当および改訂を行います。

## 成長パターンの設定

「予測成長パターンの改訂」フォームにアクセスします。



予測成長パターン - 予測成長パターンの改訂

OK(O) 取消(L) ツール(T)

✖

🔧

成長パターン・コード \*

FIXED5YR

Fixed Over 5 Years

成長パターン・タイプ

FIX

固定金額

予測金額 - 年度 1	500.00
予測金額 - 年度 2	500.00
予測金額 - 年度 3	500.00
予測金額 - 年度 4	500.00
予測金額 - 年度 5	500.00
予測金額 - 年度 6	.00
予測金額 - 年度 7	.00
予測金額 - 年度 8	.00
予測金額 - 年度 9	.00
予測金額 - 年度 10	.00
予測金額 - 年度 11	.00
予測金額 - 年度 12	.00
予測金額 - 年度 13	.00
予測金額 - 年度 14	.00
予測金額 - 年度 15	.00

「予測成長パターンの改訂」フォーム

成長パターン・コード

予算金額の計算時に収益および費用の勘定に適用される増加額または増加率を指定するコードを入力します。

成長パターン・タイプ

ユーザー定義コードをUDCテーブル14/GPから割り当てて、予測する予算金額の表示に固定金額 (FIX) とパーセント (PCT) のいずれを使用するかを指定します。

予測金額 - 年度1 から予測金額 - 年度15





予算金額の予測を立てる年度ごとに、予測される増額率を入力します。

ビジネスユニットへの成長パターンの割当

「ビジネスユニット成長パターンの改訂」フォームにアクセスします。

ビジネスユニット 成長パターン -ビジネスユニット 成長パターンの改訂

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

ビジネスユニット

4

Southern Branch

改訂No.

1

ビジネスユニットの改訂

成長パターン

予算コード

ビジネスユニット \*

4

Southern Branch

改訂No. \*

1

成長パターン・コード

FIXED5YR

Fixed Over 5 Years

成長パターン・タイプ

FIX

Fixed Amount

「ビジネスユニット成長パターンの改訂」フォーム

## ビジネスユニットの改訂

「ビジネスユニットの改訂」タブを選択します。

**改訂No.** 予算改訂を識別する番号を入力します。予算の予測を立てる様々なシナリオに対していくつでも予算改訂番号を作成できます。

**成長パターン・タイプ** 成長パターン・コードに割り当てられたコード(PCTまたはFIX)が表示されます。

## 成長パターン

「成長パターン」タブを選択します。

**予測金額 - 年度1 から予測金額 - 年度15** 予算パターンに設定された金額が表示されます。

## 予算コード

「予算コード」タブおよび関連のフィールドは、将来使用するために用意されています。

## 第 9 章

# 資金予測の設定

この章では、資金予測の設定と資金タイプ・コードの概要、および次の方法について説明します。

- 資金タイプ規則の設定
- 資金予測レポート構造の定義

---

## 資金予測の設定について

JD Edwards EnterpriseOneの資金予測プログラムを使用すると、将来の支払予定の予測および現金勘定の効果的な管理ができます。資金予測を行うことにより、1つまたは複数の銀行勘定を分析して、計画された日付に基づいて毎日または定期的に資金状況を予測できます。

資金予測の初期設定では、次の設定を行います。

- 資金タイプ・コード
- 資金タイプ規則
- 資金タイプ予測構造

初期設定後、JD Edwards EnterpriseOne売掛管理、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理およびJD Edwards EnterpriseOne一般会計の各システムからデータを取り出してリフレッシュし、資金予測データ・テーブル (F09522) を更新します。データをリフレッシュしたら、照会とレポートの各プログラムを使用して資金状況の分析と予測を行います。処理を再実行してデータをリフレッシュする場合は、その前にF09522テーブルの既存データを除去する必要があります。

---

## 資金タイプ・コードについて

「資金予測分析」フォームと資金予測レポート (R095221) の見出しと詳細ローの記述に表示する資金タイプ・コードを、UDCテーブル09/CTに設定します。

JD Edwards EnterpriseOne一般会計ソフトウェアには、見出し資金タイプ・コードが5つあります。これらの見出しのコードは変更できませんが記述は変更できます。特殊取扱フィールドに数値10が設定されている資金タイプ・コードが、見出し資金タイプ・コードです。

次の表は、ソフトウェアに含まれる見出し資金タイプ・コードを示しています。

コード	コード記述	特殊取扱
1_TOTCF	資金予測	10
1_BAL	期首残高	10
1_NETOP	純営業利益/費用予測	10
1_IN	現金収入	10
1_OUT	現金支出	10

追加の見出し資金タイプ・コードを設定できます。たとえば、INVOPN(未決済請求書)の見出しコードを設定して、現金収入の見出しの下に表示できます。

見出し資金タイプ・コードに金額をロール・アップする詳細ローの資金タイプ・コードを設定する必要があります。たとえば、見出し“未決済請求書”には、INVCK(未決済請求書 - 小切手)またはINVEFT(未決済請求書 - EFT)の詳細コードを設定できます。

上の例では、「資金予測分析」フォームと資金予測レポートに次の項目が表示されます。

現金収入

未決済請求書

未決済請求書(EFT)

1.1110.FIB

請求書(小切手)

1.1110.BEAR

詳細資金タイプ・コードには規則を設定する必要があります。規則には銀行勘定科目コードなどの情報が含まれます。見出し資金タイプ・コードには規則を設定する必要はありません。

## 資金タイプ規則の設定

この項では、資金タイプ規則の概要と、次の設定方法について説明します。

- 売掛管理と買掛管理の資金タイプ規則
- 一般会計の資金タイプ規則

### 資金タイプ規則について

資金タイプ・コードを設定したら、詳細ローの記述の資金タイプ・コードに対応する規則をUDCテーブル 09/CTに設定する必要があります。見出し資金タイプ・コードの規則は設定しません。この詳細資金タイプ規則を使用して、JD Edwards EnterpriseOne売掛管理、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理およびJD Edwards EnterpriseOne一般会計の各システムからのデータの取得と資金予測の分析が行われます。

詳細コードごとに、その資金タイプ規則を適用するシステムを指定します。規則に対する要件は、システムによって異なります。たとえば、JD Edwards EnterpriseOne一般会計システムの詳細コードの資金タイプ規則に必要な銀行勘定は複数ですが、JD Edwards EnterpriseOne売掛管理システムおよびJD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムの詳細コードの規則に必要な銀行勘定は1つです。これらの規則によって、キャッシュフローデータのリフレッシュ時に、該当する詳細テーブルからレコードが選択されます。

詳細コードごとに、加重係数を指定することにより、金額をより現実に即した予測値に補正できます。たとえば、未決済請求書の詳細コードの場合は、未決済請求書の約80%が期日までに支払われると予測すると、加重係数に80%を設定します。また、資金タイプ・コードはアクティブまたは非アクティブに指定できます。キャッシュフローデータをリフレッシュすると、アクティブなコードに関連した金額のみが含まれます。

資金タイプ規則は、F09521テーブルに保管されます。

## 資金タイプ予測の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
資金タイプ規則の処理	W09521A	「資金予測」(G09319)、「資金タイプ規則の設定」	資金タイプ規則の一覧を検討します。
資金タイプ規則の改訂	W09521B	「資金タイプ規則の処理」フォームで「追加」をクリックします。	JD Edwards EnterpriseOne売掛管理、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理およびJD Edwards EnterpriseOne一般会計の各システムの資金タイプ規則を設定します。

## 売掛管理と買掛管理の資金タイプ規則の設定

「資金タイプ規則の改訂」フォームにアクセスします。「A/R」または「A/P」タブを選択します。

資金タイプ規則の設定 - 資金タイプ規則の改訂

OK(O) 取消(L) ツール(T)

データ・ソース

☐ A/R ☒ A/P ☐ G/L

資金タイプ  未払伝票(小切手) ☒ 状況 加重係数

ノード通貨  U.S. Dollar ☐ 期限超過資金タイプ

A/R A/P G/L

銀行勘定科目コード  Bear Creek National Bank

伝票タイプ  伝票 支払手段

基本通貨  発生元モジュール

「資金タイプ規則の改訂」フォーム: 「A/P」タブ

「資金タイプ規則の改訂」フォームの見出し領域、および「A/R」と「A/P」タブに表示されるフィールドは同じです。

## 見出し領域フィールド

A/R 、 A/P

「データ・ソース」見出し下の「A/R」または「A/P」オプションを選択します。

資金タイプ

資金の流入や流出(未決済請求書、未払伝票、銀行勘定など)の起因を示すコードをUDCテーブル09/CTから入力します。

見出し用の資金タイプ(UDCテーブル09/CTの特殊取扱フィールドに10が設定されているコード)を入力すると、エラー・メッセージが表示されます。見出し用の規則は設定しません。

状況

資金タイプ規則をアクティブに指定する場合に、このチェックボックスを選択します。状況がアクティブの資金タイプ規則のみ、この資金タイプの資金予測データのリフレッシュに使用されます。

期限超過資金タイプ

期限超過の資金タイプを指定する場合に、このチェックボックスを選択します。

このチェックボックスを選択して資金予測データをリフレッシュすると、リフレッシュの日付より前の期日範囲が選択されます。日付は、この資金タイプ規則に指定された開始/終了期限超過日数に基づいて設定されます。

このチェックボックスの選択を解除して資金予測データをリフレッシュすると、リフレッシュの日付以降の期日範囲が選択されます。

加重係数

取引の実績金額の回収見込みレベルを乗数として入力します。たとえば、未決済請求書の約80%が期日までに支払われると予測した場合は、この

フィールドに「0.80」と入力します。想定外の事象を調整する場合は、一定のパーセントの金額を増やすことができます。たとえば、このフィールドに「1.10」を入力すると、未払伝票金額を10%増加できます。デフォルト値は1（加重係数なし）です。

#### ノード通貨

複数の詳細レコードの金額を再評価する場合に使用する共通通貨を入力します。このフィールドをブランクにすると、会社00000に割り当てられた通貨が使用されます。

#### 「A/R」または「A/P」タブ

##### 銀行勘定科目コード

総勘定元帳の銀行勘定科目コード（勘定科目IDではない）を識別する値を入力します。

資金タイプが売掛管理の場合は、特定の銀行勘定科目コードを入力します。入金が入力されるまでは銀行勘定を決定できないため、この特定の銀行勘定科目コードを入力して、指定した請求書に使用する必要があります。「\*」を入力してすべての銀行勘定科目は指定できません。資金予測データをリフレッシュすると、F09522テーブルの銀行勘定科目コードが、このフィールドに入力した値で更新され、資金タイプ規則の他の条件に一致するF03B11詳細レコードから資金予測レコードが作成されます。

資金タイプが買掛管理の場合は、特定の銀行勘定科目に関連付けられている伝票のみを選択するために、その銀行勘定科目コードを入力します。資金予測データをリフレッシュすると、この勘定科目コードを使用して、同じ銀行勘定科目コードを持つF0411詳細レコードが選択され、同じ勘定科目コードに対してその資金タイプ規則の資金予測レコードが作成されます。また、「\*」を入力すると、すべての銀行勘定科目を指定できます。

##### 伝票タイプ

UDCテーブル00/DTから特定の伝票タイプを入力します。または、すべての伝票タイプを指定する場合は「\*」を入力します。

---

**注意:**「基本通貨」、「支払手段」、「発生元モジュール」フィールドは、「\*」を入力してすべての値を含めることができます。これら3つのフィールドのいずれかをブランクにすると、ブランクの詳細レコードのみが選択され、その資金タイプ規則の資金予測データが作成されます。

---

##### 発生元モジュール

売掛管理の場合は、このフィールドにUDCテーブル03B/OSのシステム・コード「0」、「1」、「2」、「3」、または「4」を入力します。

買掛管理の場合は、このフィールドにソフトウェア・モジュール・コード「P」、「R」、「C」、「M」、または「L」を入力します。

売掛管理と買掛管理の「発生元モジュール」にはそれぞれ、異なるエイリアス（OMODとRP3）が指定されます。

##### 期限超過日数 - 開始

資金予測データの更新日前の開始日数を入力します。この日数によって、期日範囲を選択でき、特定の期限超過金額を資金予測に含めることができます。たとえば、このフィールドに「1」を入力して、「期限超過日数 - 終了」フィールドに「7」を入力すると、最大1週間期限が超過した資金予測金額を表示できます。

##### 期限超過日数 - 終了

資金予測データの更新日前の終了日数を入力します。この日数によって、期日範囲を選択でき、特定の期限超過金額を資金予測に含めることができます。たとえば、このフィールドに「7」、「期限超過日数 - 開始」フィールドに「1」を入力すると、最大1週間期限が超過した資金予測金額を表示できます。

最初の日付カラムに期限超過金額を表示、期限超過カラムに期限超過金額を表示

期日超過資金タイプの場合にのみ、この2つのオプションから1つを選択します。この2つのオプションを使用して、この資金タイプ規則の期限超過金額を「資金予測分析」フォームに表示するカラムを指定します。

いずれかのオプションを選択すると、期限超過金額が最初の日付範囲カラムに表示されます。いずれのオプションも選択しない場合は、期限超過金額が別の期限超過カラムに表示されます。

## 一般会計の資金タイプ規則の設定

「資金タイプ規則の改訂」フォームにアクセスします。「G/L」タブを選択します。

資金タイプ規則の設定 - 資金タイプ規則の改訂

OK(O) 取消(L) ツール(T)

データ・ソース

☐ A/R ☐ A/P ☒ G/L

資金タイプ  銀行口座預金 ☒ 状況 加重係数

ノード通貨  U.S. Dollar

A/R A/P G/L

開始主科目  開始補助科目

終了主科目  終了補助科目

「資金タイプ規則の改訂」フォーム: 「G/L」タブ

### 見出しフィールド

G/L

「データ・ソース」見出し下のこのオプションを選択します。

資金タイプ

見出し用の資金タイプ(UDCテーブル09/CTの特殊取扱フィールドが10のコード)を入力すると、エラー・メッセージが表示されます。見出し用の規則は設定しません。

### 開始/終了主科目と開始/終了補助科目のフィールド

所定の一般会計資金タイプに適用されるすべての銀行勘定科目が含まれていることを確認します。指定範囲に含まれない勘定科目は、「資金予測分析」フォームに表示される、その資金タイプの純営業利益/費用予測金額には含まれないため、開始残高が不正確になります。



<b>開始主科目</b>	勘定科目範囲の開始主科目を入力します。開始主科目と開始補助科目を組み合わせる銀行勘定科目を指定します。開始主科目は終了主科目と同じ値か、終了主科目より小さい値にする必要があります。
<b>開始補助科目</b>	勘定科目範囲の開始補助科目を入力します。開始補助科目と開始主科目を組み合わせる銀行勘定科目を指定します。開始補助科目は終了補助科目と同じ値か、終了補助科目より小さい値にする必要があります。
<b>終了主科目</b>	勘定科目範囲の終了主科目を入力します。終了主科目と終了補助科目を組み合わせる銀行勘定科目を指定します。終了主科目は開始主科目と同じ値か、開始主科目より大きい値にする必要があります。
<b>終了補助科目</b>	勘定科目範囲の終了補助科目を入力します。終了補助科目と終了主科目を組み合わせる銀行勘定科目を指定します。終了補助科目は開始補助科目と同じ値か、開始補助科目より大きい値にする必要があります。

---

**注意:**「開始補助科目」と「終了補助科目」フィールドへの値の入力方法は次のとおりです。

特定の補助科目を入力する場合は、「開始補助科目」と「終了補助科目」フィールドの両方に有効な補助科目を入力します。たとえば、1110.BEARから1110.FIBを指定すると、BEARからFIBまでの補助科目のみが含まれます。

特定の開始補助科目以降のすべての補助科目を含める場合は、「開始補助科目」に有効な補助科目を入力して、「終了補助科目」フィールドに「\*」を入力します。たとえば、1110.BEARから1110.\*を指定すると、BEAR以降のすべての補助科目が含まれます。

特定の開始補助科目までのすべての補助科目を含める場合は、「開始補助科目」に「\*」を入力して、「終了補助科目」フィールドに有効な補助科目を入力します。たとえば、1110.\*から1110.FIBを指定すると、FIBまでのすべての補助科目が含まれます。

主科目のすべての補助科目を含める場合は、「開始補助科目」と「終了補助科目」の両方に「\*」を入力します。たとえば、1110.\*から1110.\*を指定すると、主科目1110のすべての補助科目が含まれます。

---

## 資金予測レポート構造の定義

この項では、資金予測レポート構造の概要と、次の方法について説明します。

- 資金予測レポート構造の設定プログラムの処理オプションの設定
- 資金予測レポート構造の定義

### 資金予測レポート構造について

資金タイプ・コードとコードに対応する規則を設定したら、資金予測のレポート構造、つまりレポートのフォーマットを定義する必要があります。レポート構造は、親子ツリー構造内のレポート階層に資金タイプ・コードを配置して定義します。

レポート構造を使用して、「資金予測分析」フォームと資金予測レポート(R095221)がフォーマットされます。

資金予測レポート構造の設定プログラム(P09523)の処理オプションを設定することにより、UDCテーブル09/CTに設定されている中から次の標準レポート見出しを、レポート構造に自動的に含めることができます。

- 資金予測(1\_TOTCF)
- 期首残高(1\_BAL)

- 純営業利益/費用予測 (1\_NETOP)
- 現金収入 (1\_IN)
- 現金支出 (1\_OUT)

これらのデフォルト見出しを含めることにより、親子ツリー構造定義時に他のユーザー定義の見出しおよび詳細の資金タイプ・コードを追加する枠組みができます。

ツリー構造の各ローはUDCテーブル09/CTの見出しまたは詳細の資金タイプ・コードに対応し、見出し以外の各資金タイプ・コードには資金タイプ規則が関連付けられています。ツリー構造内に資金タイプ・コードを追加、移動することにより、レポート構造を定義できます。複数のレポート構造を定義できます。

“当座”などの詳細ローの記述を表示する詳細資金タイプ・コードは、ツリー構造の資金タイプ・コードの下に表示されます。ツリー構造を展開すると、その詳細資金タイプ・コードに対して選択されている勘定科目データが詳細ローの記述の下に表示されます。詳細ローの金額が見出しローにロール・アップされます。たとえば、詳細ローの当座金額は、見出しの開始残高にロール・アップされます。

許可されていない親子ツリー構造内に資金タイプ・コードを追加または移動すると、詳細エラー・メッセージが表示されます。詳細資金タイプ・コードに関連付けられた資金タイプ規則を改訂すると、その規則を使用するすべてのレポート構造が影響を受けるという警告が表示されます。

## 事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- UDCテーブル09/CTへ詳細資金タイプ・コード、および見出し資金タイプ・コード(任意)を設定します。
- 詳細資金タイプ・コードの資金タイプ規則を設定します。
- 資金予測レポート構造の設定プログラムの処理オプションを設定して、標準レポート・セクションを含めます。

## 資金予測レポートに使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
資金予測レポート構造の処理	W09523E	「資金予測」(G09319)、 「資金予測レポート構造 の設定」	レポート構造の一覧を 検討します。
レポート構造名の改訂	W09523C	「資金予測レポート構造 の処理」で、「追加」をク リックします。	レポート構造と記述を 入力します。
資金予測レポート構造の改訂	W09523A	「資金予測レポート構造の 処理」で「選択」をクリック します。	レポートの構造を定義 します。

## 資金予測レポート構造の設定プログラム(P09523)の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、資金予測レポート構造のデフォルトにレポート見出しを含めるかどうかを指定します。

### 「デフォルト」タブ

1. 標準レポート・セクション 資金予測レポート構造にUDCテーブル09/CTの次のレポート見出しを含めるかどうかを指定します。

資金予測(1\_TOTCF)

期首残高(1\_BAL)

純営業利益/費用予測(1\_NETOP)

現金収入(1\_IN)

現金支出(1\_OUT)

値は次のとおりです。

ブランクまたは0: レポート見出しを省略する。

1: レポート見出しを追加する。

資金予測レポート構造定義時に、これらの見出しに詳細資金タイプ・コードを追加できます。

## 資金予測レポート構造の定義

「資金予測レポート構造の改訂」フォームにアクセスします。

資金予測レポート構造の設定 - 資金予測レポート構造の改訂

検索(F) フォーム(E) ロー(R) ツール(T)

レポート構造 ★ TYPE 1 Corporate

ノードの削除(D) ノードの追加(A)

レコード 1 - 11

レポート構造:

- 資金予測
  - 開始残高
  - 銀行口座預金
  - 純営業利益/費用予測
  - 現金収入
    - 未決済請求書<小切手>
    - 1から7日期限超過請求書
    - 8から14日期限超過請求書
    - 未決済請求書<EFT>
  - 現金支出

保存(M) 取消(L)

「資金予測レポート構造の改訂」フォーム

資金予測レポート構造の定義は、次の手順で行います。

1. 「レポート構造名の改訂」で、階層レポート構造を一意に識別する名前を入力します。レポート構造によって、資金予測データの表示方法が決まります。レポート構造はF09523テーブルに設定されている必要があります。
2. ツリー構造を展開します。

処理オプションの設定で標準レポート・セレクションを含めるとした場合は、見出し資金タイプ・コード(UDCテーブル09/CT)が階層順に表示されます。

3. 詳細資金タイプ・コードを既存のレポート構造に追加する場合は、追加先のノードを選択して、「ノードの追加」をクリックします。

たとえば、現金収入の見出しコードに未決済請求書(小切手)の資金タイプ・コードを追加する場合は、「現金収入」を選択します。

4. 「使用言語の資金タイプUDCの選択」で、次のオプションの1つを選択して「検索」をクリックします。
  - 明細
  - 見出し
5. 詳細グリッドで、必要に応じてスクロール・ダウンして、追加するコードに対応したローを選択します。
6. 「OK」をクリックして、データベースを更新します。
7. ノードを移動(切り取りと貼り付け)する場合は、ノードを選択して「切り取り」(はさみボタン)をクリックします。
8. 切り取ったノードを移動する先のノードを選択して、「貼り付け」をクリックします。
9. 移動先のノードとその子を見る場合は、ツリー構造を展開します。
10. 「保存」をクリックして、データベースを更新します。
11. 「資金予測レポート構造の改訂」で、追加、削除、または移動を行って、レポート構造を完成させます。
 

許可されていない親子ツリー構造内に資金タイプ・コードを追加または移動すると、エラー・メッセージが表示されます。
12. フォームを終了せずに資金タイプ規則の検討や改訂を行う場合は、ステップ13に進みます。それ以外は、「取消」をクリックします。

---

**重要:** 「取消」をクリックして「資金予測レポート構造の改訂」フォームを終了すると、「このレポート構造で行われた変更を検証するために資金タイプ規則に自動的に接続しますか？」というメッセージ・ウィンドウが表示されます。

「はい」をクリックして、レポート構造で指定した資金タイプ規則を検証し、オーバーラップした勘定科目範囲または値がないか確認します。資金タイプ規則を追加した場合は、勘定科目範囲と値は確認できません。かわりに、レポート構造の作成または改訂時に規則を検証する必要があります。範囲および値が正しくない場合は、分析で示される資金予測データが不正確な結果になる可能性があります。

---

13. 資金タイプ規則を検討または改訂する場合は、次のステップを実行します。
  - プログラムを終了せずに資金タイプ規則を改訂する場合は、ステップ14と15を実行します。
  - レポート構造内の複数の資金タイプ規則を検討する場合は、ステップ16と17を実行します。
  - レポート構造内の複数の資金タイプ規則を改訂する場合は、ステップ16から19を実行します。
14. 「資金予測レポート構造の改訂」で、詳細の資金タイプを選択した後「ロー」メニューから「資金タイプ規則」を選択します。
15. 「資金予測タイプ規則の改訂」で、必要なフィールドを変更して「OK」をクリックします。
16. 「資金予測レポート構造の改訂」で、「フォーム」メニューから「レポート構造規則」を選択します。

17. 「レポート構造資金タイプ規則の改訂」で、「データ・ソース」のオプションの中から次の資金タイプ・グループの1つを選択して、「検索」をクリックします。
  - すべて
  - A/R
  - A/P
  - G/L

「資金予測レポート構造の改訂」フォームを使用して、レポート構造内のグループの複数の資金タイプ規則を検討して、規則にオーバーラップした勘定科目がないか、銀行勘定科目コードが正確かなどを検証します。
18. 特定のレポート構造内の複数の資金タイプ・コードを改訂する場合は、QBE（例示照会プログラム）ローに新しい値を入力して「OK」をクリックします。
19. メッセージ・フォームで、「OK」をクリックして改訂を反映させます。

---

**重要:** このレポート構造の資金タイプ規則の基準を変更すると、この資金タイプ規則を使用するすべてのレポート構造の基準が変更されます。

---



## 第 10 章

# キャッシュフロー計算書の設定

この章では、資金管理とキャッシュフロー計算書の各概要と次の方法について説明します。

- キャッシュフロー活動コードの設定
- 通常残高コードの設定
- キャッシュフロー規則の設定

---

## 資金管理について

JD Edwards EnterpriseOne一般会計システムの資金管理機能を使用して、キャッシュフローを定期的に予測し、現金勘定をより効率的に管理できます。資金管理機能は、JD Edwards EnterpriseOne売掛管理、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理およびJD Edwards EnterpriseOne一般会計の各システム間でデータが重複することなく、キャッシュフローを正確に予測できるように完全に統合されています。自動銀行取引明細の処理は、残高調整済の取引から自動で入金、伝票および仕訳を作成しますが、この処理は、資金管理およびキャッシュフロー予測と統合されています。現金勘定の開始残高と終了残高だけでなく、未決済の請求書と伝票の合計金額を見積もることにより、短期資金の予測管理全体を改善できます。

---

## キャッシュフロー計算書について

国際会計基準 (IAS) により、欧州連合 (EU) の会社は、会社の指定した業務期間における現金および現金等価物の変動を示すキャッシュフロー計算書の作成が義務付けられています。JD Edwards EnterpriseOne一般会計システムの資金管理機能を使用すると、規定に準拠した、営業、投資、財務の活動別のキャッシュフロー計算書を作成できます。

- 営業 - 商品やサービスの売上や、投資および財務活動以外の活動による入金など、主たる収益活動に伴うキャッシュフロー
- 投資 - 現金等価物に含まれない長期資産などの投資の取得および売却に伴うキャッシュフロー
- 財務 - 自己資本と借入れの規模および構成の変化に伴うキャッシュフロー

これら3つの活動は資金に影響を与えるため、IAS-7の規定に従って活動ごとにキャッシュフロー計算書で分析を行い、業務の資金に関連する活動を示す必要があります。

キャッシュフロー計算書によって、次のことがわかります。

- 業務におけるキャッシュフローの主な資金源についての概要
- 業務の現在の流動資金の評価
- 過去の変動を基準とした今後のキャッシュフローの予測

- ・取引やその他の財務活動により生成されるキャッシュフローに関する情報

キャッシュフロー計算書を使用して、キャッシュフローを分析し、会社の1つまたは複数の銀行勘定に対する会計期間のレポートを作成できます。

## キャッシュフロー活動コードの設定

ユーザー定義コード(UDC)テーブル10/CFで定義されている活動コードは、国際会計基準(IAS)7に準拠しており、ハードコード化されています。

活動コードの一覧およびコードに関連した勘定科目タイプについては、次の表を確認してください。

コード	コード記述	説明
10	税引前純利益	AAI項目FSxxに割り当てられた勘定科目を含みます。
20	営業資本前営業利益	減価償却累計額、非流動資産の売却による損益、支払利息など、営業資本前営業利益への補正を含みます。
30	営業より得た資金	在庫、売掛金、買掛金などの営業資本を含みます。
40	営業活動より得たキャッシュフロー	支払利息、配当、納税などの流出を含みます。
50	投資活動より得たキャッシュフロー	非流動資産、および資産の売却による収入を含みます。
60	財務活動より得たキャッシュフロー	株式の発行と融資による収入、および特定の株式と融資金額の回収を含みます。
70	現金および現金等価物	現金と銀行勘定を含みます。

活動コード記述は参考用の情報で、キャッシュフロー計算書レポートには印刷されません。活動コードの記述は変更可能ですが、目的は変更できません。たとえば、活動コード10の記述を“税引前純利益”から“純損益”に変更することはできますが、この活動コードがキャッシュフロー計算書レポートで使用される目的は変更できません。

「キャッシュフロー活動」フォームで勘定科目を活動コードに割り当てます。このフォームの見出し領域に表示される活動コードと記述を使用して、活動に割り当てられている勘定科目を容易に追跡できます。

## 通常残高コードの設定

UDCテーブル10/NB(通常残高)のコードにより、次の勘定残高が識別されます。

- ・借方
- ・貸方



これらのコードにはそれぞれ特殊取扱フィールドがハードコード化されており、D(借方)またはC(貸方)が設定されています。キャッシュフロー規則を設定する場合は、DまたはCの値を各ローに割り当てて、そのローの勘定科目の通常残高に借方と貸方のいずれかを指定します。キャッシュフロー計算書を印刷すると、通常残高に基づいて、勘定科目の記述の前に“増加”または“減少”が挿入されます。

## キャッシュフロー規則の設定

この項では、キャッシュフロー規則の概要と、キャッシュフロー規則の設定方法について説明します。

### キャッシュフロー規則について

UDCテーブル10/CFの活動コードを確認したら、キャッシュフロー規則を設定する必要があります。これらの規則により、各活動コードに関連付けられている勘定科目、キャッシュフロー計算書に表示される勘定科目の順序、および記述が指定されます。

たとえば、キャッシュフロー計算書上の活動コード30は、“営業より得た資金”の小計に含まれるすべての勘定科目を表します。活動コード30のキャッシュフロー規則を設定する場合は、勘定科目ごとに個別の行と記述を作成します。たとえば、活動コード30に次の行を作成できます。

- 取引およびその他の売掛金
- 在庫
- 買掛金

キャッシュフロー規則レポート・プログラム(P10520)を使用して、活動コード20から70までのキャッシュフロー規則を設定して、キャッシュフロー計算書レポート(R10521)に表示する各行に勘定科目と記述を割り当てます。また、行の勘定科目に、通常残高として借方と貸方のいずれかを指定します。活動コード10の場合のみ、使用するプログラムは同じですが、税引前純利益にAAI項目FSxxを割り当て、その金額を取り込みます。

レポートに印刷される小計の記述は、活動コードによって異なります。小計の記述は、IAS 7に準拠しており、レポートにハードコード化されています。

キャッシュフロー計算書の規則は、キャッシュフロー計算書の規則テーブル(F10520)に保存されます。

### キャッシュフロー規則の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
キャッシュフロー規則の処理	W10520A	「キャッシュフロー計算書」(G1031)、「キャッシュフロー規則レポート」	キャッシュフロー活動コードのリストを検討します。
キャッシュフロー活動	W10520D	「キャッシュフロー規則の処理」フォームで「追加」をクリックします。	キャッシュフロー規則を設定します。
キャッシュフロー勘定科目の選択	W10520E	「キャッシュフロー活動」フォームで、「勘定科目選択」フィールドの「勘定科目の選択」リンクをクリックします。	勘定科目をキャッシュフロー活動コードに割り当てます。

## キャッシュフロー規則の設定

「キャッシュフロー活動」フォームにアクセスします。

**キャッシュフロー活動**      キャッシュフロー計算書レポートに特定の活動を指定する活動コードをUDCテーブル10/CFから入力します。このUDCテーブルの値はIAS 7に準拠しており、ハードコード化されています。

次のタスクは、活動コード10と活動コード20から70のキャッシュフロー規則の設定方法を説明しています。「キャッシュフロー活動」フォームに表示されるフィールドは、活動コードが10の場合異なります。

### 活動コード10

「キャッシュフロー活動」フィールドに「10」を入力します。

キャッシュフロー規則レポート - キャッシュフロー活動

OK(O) 検索(I) 削除(D) 取消(L) ロー(R) ツール(T)

キャッシュフロー活動 ★ 10 税引前純利益

レコード 1-2		グリッドのカスタマイズ
<input type="checkbox"/>	FS AAI	記述
<input type="checkbox"/>	FS06	Net Profit Before Taxes
<input type="checkbox"/>		

「キャッシュフロー活動」フォーム

**FS AAI**      会社の税引前純利益のAAI項目FSxxを入力します。

**記述**      必要に応じて、記述を入力します。

この記述は、キャッシュフロー計算書に印刷されます。デフォルト値は、前のステップで入力したAAI項目の記述です。記述を変更すると、F10520テーブルが更新され、キャッシュフロー計算書のみに記述が印刷されます。

### 活動コード20から70

「キャッシュフロー活動」フィールドに「20」から「70」の値を入力します。

キャッシュフロー規則レポート - キャッシュフロー活動

OK(O) 検索(I) 削除(D) 取消(L) ロー(R) ツール(T)  
     

キャッシュフロー活動 \*

70

現金および現金等価物

レコード 1-2

グリッドのカスタマイズ   

<input type="checkbox"/>		記述	通常残高	勘定科目選択
<input type="checkbox"/>		Cash and Cash Equivalents	D	<a href="#">勘定科目の選択</a>
<input type="checkbox"/>				

「キャッシュフロー活動」フォーム

活動コード20および減価償却のローの場合は、減価償却費勘定ではなく、減価償却累計勘定を入力します。減価償却累計は、貸方勘定です。この勘定金額は逆仕訳されて、税引前純利益行に追加されます。

活動コード20から70の場合は、複数の行、記述、および勘定科目を入力できます。

- 記述

キャッシュフロー計算書の1行として印刷する記述を入力します。
- 通常残高

このフィールドには「C」または「D」を入力して、この行の勘定の通常残高に貸方と借方のいずれかを指定します。これらの値はUDCテーブル10/NBにハードコード化されています。
- 勘定科目選択

「勘定科目の選択」リンクをクリックして、「キャッシュフロー勘定科目の選択」フォームにアクセスし、主科目および補助科目の範囲を指定して割り当てます。

### 「キャッシュフロー勘定科目の選択」フォーム

このフォームを使用して、主科目と補助科目の開始科目と終了科目を割り当てます。

キャッシュフロー規則レポート - キャッシュフロー勘定科目の選択

OK(O) 検索(D) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

キャッシュフロー活動  現金および現金等価物  
 行No.   
 記述

レコード 1 - 3 グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	開始 主科目	開始 補助科目	終了 主科目	終了 補助科目
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	1105		1110	ZZZZZZZZ
<input type="checkbox"/>		1137		1137	
<input type="checkbox"/>					

「キャッシュフロー勘定科目の選択」フォーム

**開始主科目、開始補助科目** 「開始主科目」フィールドに勘定科目を入力します。

その主科目のすべての補助科目を指定するには、「開始補助科目」フィールドに「\*」を入力します。このフィールドをブランクにすると、「開始」主科目または指定範囲の科目に関連付けされている最初の空白の補助科目が使用されます。

**終了主科目、終了補助科目** これらのフィールドの値は、「開始主科目」と「開始補助科目」各フィールドの値に等しいか、または大きい必要があります。複数の行に重複する勘定科目は指定できません。「開始および終了の値が無効です」というエラー・メッセージが表示されます。

## 第 11 章

# 現金主義会計の設定

この章では、現金主義会計の設定の概要と、次の方法について説明します。

- 現金主義伝票タイプの設定
- 現金主義会計用のAAIの設定

---

## 現金主義会計の設定について

現金主義会計を使用すると、AA(実績金額)元帳の発生主義会計仕訳に基づいてAZ元帳に現金主義仕訳が作成されます。現金主義会計のシステムを設定するには、現金主義仕訳を使用する伝票タイプを決めて、必要に応じて、伝票タイプを設定してUDCテーブルに割り当てます。また、現金主義仕訳の作成から除外する伝票タイプを指定する必要があります。

現金主義会計のシステムを設定する場合、現金主義会計用のAAIが適切に設定されていることを確認してください。現金主義会計では、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理およびJD Edwards EnterpriseOne売掛管理の各システムで、税や多通貨、割引の計算で生じる四捨五入差異をトラッキングするAAI項目が使用されます。また、現金主義会計では、現金主義仕訳用の仮収益勘定が指定されたAAI項目が未充当入金に対して使用されます。

---

## 現金主義伝票タイプの設定

この項では、次の方法について説明します。

- 現金主義仕訳の伝票タイプの設定
- 現金主義仕訳で除外する伝票タイプの設定
- AA元帳への現金主義伝票タイプの割当

## 現金主義伝票タイプの設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
ユーザー定義コードの処理	W0004AA	「現金主義会計」(G09314)、「有効な伝票タイプ」または「除外する伝票タイプ」	UDCテーブル00/DTに設定されている現金主義仕訳の対象となる伝票タイプを確認します。  UDCテーブル00/DXに設定されている現金主義仕訳の対象外となる伝票タイプを確認します。
ユーザー定義コード	W0004A1	「ユーザー定義コードの処理」フォームで、「追加」をクリックします。	現金主義仕訳に含める伝票タイプをUDCテーブル00/DTに追加します。または、現金主義仕訳から除外する伝票タイプをUDCテーブル00/DXに追加します。

## 現金主義仕訳の伝票タイプの設定

現金主義仕訳作成時に使用する伝票タイプを設定する必要があります。AZ元帳とAA元帳の両方に同じ伝票タイプは使用しません。同じ伝票タイプを使用すると、AA元帳とAZ元帳の両方のレコードが表示されるため、レコードの重複入力となり、仕訳検索の際に混乱が生じる可能性があります。また、F0911テーブル内で2つのレコードを区別する必要があるため、処理時間が増える原因にもなります。

現金主義伝票タイプが未設定の場合、当初の仕訳に基づいた伝票タイプが割り当てられます。その際、伝票タイプは、AA元帳の仕訳の伝票タイプの先頭1文字の後にZが付けられます。たとえば、AA元帳の仕訳の伝票タイプがPTで、現金主義伝票タイプが未設定の場合は、現金主義仕訳の伝票タイプとして、PZが使用されます。

JD Edwards EnterpriseOne買掛管理のすべての伝票タイプはP(PK、PN、PT)で始まるため、別の伝票タイプを設定しないかぎり、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムのすべての現金主義仕訳には、伝票タイプPZが割り当てられます。現金主義仕訳に対する支払が自動、手動、オンラインのどの取引であるかを区別する場合は、それぞれの取引に異なる伝票タイプを設定します。たとえば、自動支払の伝票タイプはPZ、手動はMZ、オンラインの支払はTZなどのようにします。

現金主義仕訳に使用する各伝票タイプは、UDCテーブル00/DTに設定されている必要があります。

## 現金主義仕訳を除外する伝票タイプの設定

AZ元帳に現金主義仕訳を生成する場合は、除外する伝票タイプをAA元帳内で識別する必要があります。AA元帳の仕訳の中で伝票タイプがUDCテーブル00/DXに設定されていない仕訳がすべてAZ元帳に作成されます。

伝票タイプPV(伝票)とRI(請求書)は除外してください。これらの伝票タイプの現金主義仕訳は実際の支払後に作成されるからです。また、現金取引として計上されない次の伝票タイプも除外伝票タイプとして設定してください。

- 自動仕訳(AE)
- クレジット・メモ(PM)
- デビット・メモ(RM)
- 調整(RA)

- 定期伝票 (PRおよびRR)
- 延滞利息金 (RF)
- 未払固定資産税 (JT)
- 減価償却仕訳 (DP)

ユーザー独自にカスタマイズした伝票タイプがある場合は、除外対象とするかどうか確認してください。伝票タイプPO(無効支払)とRO(無効入金)は除外しないでください。

## AA元帳への現金主義伝票タイプの割当

「ユーザー定義コード」フォームにアクセスします。

現金主義仕訳に使用する伝票タイプを設定したら、その伝票タイプをAA元帳の伝票タイプに割り当てる必要があります。AA元帳の伝票タイプを基にして現金主義仕訳が作成されます。

### 記述02

最初の2桁に現金主義伝票タイプの2文字のコードを入力します。

PZ、RZ、JZなど、システムにより割り当てられる伝票タイプを使用する場合は、このフィールドに入力する必要はありません。

---

## 現金主義会計用AAIの設定

この項では、次の設定について説明します。

- 未充当入金のAAI
- 残高調整勘定のAAI

### 関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「AAI(自動仕訳)の設定」、「AAIの設定」

## 未充当入金のAAIの設定

現金主義仕訳が入金に対して作成される場合、借方が銀行勘定(入金)、貸方が収益勘定(支払われた請求書)になります。

ただし、未充当入金を入力する場合は、請求書との消込を行わずに入金を記録します。後で、未充当入金を該当する請求書に照合します。現金主義仕訳が未充当入金に対して作成される場合は、借方が銀行勘定、貸方が収益仮勘定になります。後で入金を請求書に照合するときに現金主義仕訳が作成される場合は、借方が収益仮勘定、貸方が請求書収益勘定になります。

収益仮勘定用のAAIを設定する場合は、ビジネスユニットを指定する必要があります。

未充当入金を入力する場合は、収益仮勘定用のAAI項目を設定する必要があります。未充当入金の収益仮勘定を取得する場合、次の順序でAAI項目の1つが使用されます。

- CByyyy。最初にCByyyyが検索されます(yyyyは未充当入金の相手勘定)。相手勘定は、入金入力時に指定するか、処理オプションの設定に基づいて顧客マスター・レコードから取り込むことができます。

- CBUC。CByyyyが設定されていない、または相手勘定を使用しない場合に、CBUCが検索されます。相手勘定を指定しないで未充当入金を入力すると、相手勘定フィールドのデフォルト値としてUCが使用されます。
- RCyyyy。CBUCが見つからない場合は、RCyyyyが検索されます（yyyyは入金入力で指定された相手勘定）。
- RCUC。RCyyyyが設定されていない、または相手勘定を使用しない場合に、RCUCが検索されます。相手勘定を指定しないで未充当入金を入力すると、相手勘定フィールドのデフォルト値としてUCが使用されます。RCUCが見つからない場合は、エラー・メッセージが表示されます。

---

**注意:** 不動産管理システムを使用している場合、未充当請求コード・フィールド（GLC）は、標準、スピード、手形入力の各プログラムで使用される相手勘定フィールドと同じです。CByyyyが検索されます（yyyyは未充当請求コード）。

---

## 残高調整勘定のAAIの設定

複数支払項目、割引、税金の計算により四捨五入差異が発生した場合、残高調整勘定が使用されます。四捨五入差異をトラッキングする場合は、次のAAI項目を設定する必要があります。

- CBAP – 現金主義会計買掛金残高調整勘定
- CBAR – 現金主義会計売掛金残高調整勘定



## 第 12 章

# 52 期間会計の設定

この章では、52 期間会計の概要および次の方法について説明します。

- 52 期間会計の会計期間パターンの設定
- 52 期間会計の報告日付の設定
- 52 期間会計への変更

---

## 52 期間会計の会計期間パターンの設定

この項では、会計期間パターンの概要および 52 期間会計の会計期間パターンの定義方法について説明します。

### 52 期間会計の会計期間パターンについて

52 期間会計では、各週に期間終了日付を設定した会計期間パターンを使用します。監査調整には期間 53 と 54 を使用できます。

同じ会計期間パターンを使用する複数の会社がある場合は、一度にすべての会社の会計期間パターンを設定します。

52 期間パターンは、F0008B テーブルに保存されます。

現行年度、前年度、将来の年度の期間パターンを追加します。将来の年度の期間パターンを設定すると、その期間パターン内の日付の取引は入力できますが、取引が PACO (未来期間) または WACO (次年度以降) である場合は警告が表示されます。

各期間には、少なくとも 1 日を転記用に設定する必要があります。同じ終了日付や重複した日付を持つ期間は設定できません。

日付は正しい形式で入力する必要があります。たとえば、07/09/01 は 2007 年 9 月 1 日を示す正しい形式です。各日付は同じパターン名の標準期間パターンに対応している必要があります。

会計期間パターンは次の項目を使用して設定します。

- 各期間の日付

日付入力時にエラー・メッセージが表示された場合は、期間パターンを確認します。データ入力時に期間パターンで設定されていない日付を入力すると、無効であると判断されます。

- 連番の期間番号と、標準会計年度と同じ開始および終了日付

この設定を行わない場合は、標準会計年度パターンを使用して正しい会計年度が決められます。

- 連番の会計年度

期間パターンと会計年度にギャップがあると、転記が正しく行われません。

## 52期間会計の会計期間パターンの設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
52期間会計の処理	W0008BG	「52期間会計」(G09313)、 「52期間パターンの設定」	52会計期間パターンのリストを検討します。
52期間会計の設定	W0008BF	「52期間会計の処理」で次のようにします。 「追加」をクリックします。 「レポート」メニューから 「52期間の印刷」を選択します。	会計期間パターンを設定します。 設定した会計期間パターンのレポートを印刷します。

## 52期間会計の会計期間パターンの定義

「52期間会計の設定」フォームにアクセスします。

### 会計期間パターン

期間パターンを識別するためのコードを入力します。15のコードのいずれか1つを入力します。52期間会計用の特殊コード(文字AからN)、または、ユーザーの業務環境に固有の期間パターンを他に設定する必要があります。デフォルト・コードRは、通常のカレンダー・パターンを示しています。

### 会計年度開始日付

会計年度の初日を入力します。

### 期間終了日付

52期間会計の期間終了日付を入力します。

## 52期間会計の報告日付の設定

この項では、52期間会計を使用している会社の財務報告日付の概要、および52期間会計の報告日付を会社に割り当てる方法について説明します。

## 52期間会計の報告日付について

会社に対して現行会計期間がデフォルト値として自動的に設定されることはありません。このため、会社ごとに現行の52期間会計の期間と年度を設定する必要があります。この情報は財務報告に使用されます。財務報告の期間が正しくない場合は、レポート期間と年度を確認して訂正します。

## 52期間会計の報告日付の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
会社の処理	W0010C	「組織と勘定科目の設定」 (G09411)、「会社名および番号」	会社のリストを検討します。
会社の設定	W0010B	「会社の処理」フォームで、会社を選択します。	52期間会計の報告日付を会社に割り当てます。

## 会社への52期間会計の報告日付の割当

「会社の設定」フォームにアクセスします。

### 52期間会計

「52期間会計」タブを選択します。

#### 期間数

実際の会計期間数を入力します。調整期間は含めません。

#### レポート期間

52期間会計の財務報告日付を指定する期間を入力します。このレポート期間は、複数のEnterpriseOne財務報告に使用されます。

この期間は、会社の会計期間に指定する現行期間とは同じではありません。

#### レポート年度

財務諸表の作成対象年度を入力します。

---

**注意:** 2006から2007にまたがる会計年度は06と表されます。

---

## 52期間会計への変更

この項では、52期間用再転記プログラム(R0902B)の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 52期間用再転記プログラムの実行
- 52期間用再転記プログラムのデータ選択の設定

### 52期間用再転記プログラム(R0902B)について

期間12から14の勘定残高の金額を52期間会計の勘定残高に変更できます。変更するには、最初にF0902テーブルに取引を転記してから、52期間用再転記プログラム(R0902B)を実行します。

52期間用再転記プログラムにより、F0911テーブルがF0902Bテーブルに再転記されます。このプログラムにより、F0008Bテーブルの54期間終了日付が使用され、期間が決められます。このプログラムを実行すると、レポート設計ツール(RDA)を使用して残高を確認するレポートを設計できるようになります。

元帳日付または会計期間がF0008Bテーブルに設定されていない場合は、F0911テーブルからの取引でF0902テーブルが更新されることはありません。

再転記されるのは、転記済の非集計レコードのみです。

### 事前設定

F0902テーブルに取引を転記します。総勘定元帳への転記プログラム(R09801)の処理オプションを52期間用の転記を行うように設定します。F0902テーブルとF0902Bテーブルが更新されます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「財務取引の転記」、「財務バッチの転記」

### 52期間用再転記プログラムの実行

「52期間会計」(G09313)の「52期間用再転記」を選択します。

## 52期間用再転記プログラムのデータ選択の設定

データ選択に会計期間は入力しないでください。会計年度を入力します。

## 第 13 章

# 仕訳の処理

仕訳は、総勘定元帳の勘定科目の取引を調整または追加するために使用します。

この章では、仕訳の処理、その他の仕訳入力の方法、未登録勘定科目コードの一時入力許可の概要と、次の方法について説明します。

- 仕訳の処理
- 逆仕訳の処理
- モデル仕訳の処理
- 仕訳の検討
- 仕訳の転記
- 転記済仕訳の改訂と無効化

---

## 仕訳の処理について

JD Edwards EnterpriseOneのすべてのシステムでは、取引のバッチを3つのステップで処理します。仕訳の処理でも、この3ステップでの処理を行います。

“3ステップ”とは、次のように3段階のステップに分けて仕訳の処理を実行するという意味です。

### 1. 仕訳の入力

バッチ制御レコード・テーブル(F0011)にレコードが1件、取引明細テーブル(F0911)にレコードが複数作成されます。

**注意:** 多通貨を使用している場合、8.11より前のリリースでは、F0911テーブルとF0902テーブルに国内通貨金額および外貨金額が作成されていました。両方のテーブルで、国内通貨金額はAA(実績金額)元帳レコードの金額フィールド、外貨金額はCA(外貨)元帳レコードの金額フィールドに保管されていました。

8.11リリースでは、国内通貨金額と外貨金額の両方がF0911テーブルの1つのレコードに保管されます。外貨金額は、F0911レコードの外貨金額フィールド、およびCA(外貨)元帳の金額フィールドに保管されます。この2つのフィールドにはどちらも同じ金額が入ります。

今後リリースされるJD Edwards EnterpriseOneでは、CA元帳に外貨金額が保管されるF0911レコードは削除される予定です。全システムにおいて、外貨金額の自動入力および取得が、国内通貨金額と外貨金額の両方が保管されている共有の1つのAA元帳レコードから、外貨金額が自動的に入力、取得されるようになります。この変更により、F0902テーブルへの残高の保管方法が変更されることはありません。

### 2. バッチの検討と承認

一般会計固定情報の管理者による承認を必須にした場合は、状況が保留のバッチ・レコードが作成されます。転記を行う前にバッチを承認することが必要です。状況が保留のバッチを承認すると、バッチ制御レコードのバッチ状況のみが更新されます。

### 3. 仕訳の転記

仕訳を転記すると、バッチ制御レコードの状況がD(転記済)に更新されます。また、勘定残高テーブル(F0902)にレコードが作成され、F0911テーブルの仕訳の転記状況がP(転記済)に更新されます。

#### 関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「入力処理を管理するためのバッチ制御の使い方」

---

## その他の仕訳入力の方法について

取引の未払費用、調整、再分類などの仕訳を手入力で行う他に、オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne 売掛管理、JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理、JD Edwards EnterpriseOne Payrollなどの他のシステムでの取引を使用して仕訳を自動作成することもできます。

その他にも、次の方法でも仕訳を作成できます。

- バッチ処理により、外部システムまたはサード・パーティ・ソフトウェア・パッケージから仕訳をアップロードします。

参照: 第 14 章、「バッチ仕訳の処理」、137ページ

- スプレッドシートを使用して仕訳を作成する場合、F0911テーブルに仕訳を直接インポートします。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Foundation Guide

- 財務レポート作成ツールを使用して、仕訳で作成するレポートを設計します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Development Tools: Report Design Aid Guide

参照: JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Development Tools: Report Printing Administration Technologies Guide

- 次の配賦を作成します。

- 定期仕訳
- インデックス配賦
- 変数配賦

参照: 第 15 章、「配賦の処理」、143ページ

---

## 仕訳の処理

この項では、仕訳入力プログラム、仕訳の種類と機能、一時的に入力可能な未登録勘定科目コードの各概要と、次の方法について説明します。

- 仕訳入力の処理オプションの設定

- 仕訳入力マスター・ビジネス関数の処理オプションの設定
- 基本仕訳の入力
- 仕訳への添付の追加
- 未登録勘定科目コードの仕訳入力
- パーセント仕訳の入力
- 未転記仕訳の改訂
- 仕訳のコピー
- 未転記仕訳の削除

## 仕訳入力プログラムについて

仕訳入力プログラム(P0911)では、入力できる明細行の数に制限はありません。総勘定元帳の様々な勘定科目に金額を配賦できます。

JD Edwards EnterpriseOne一般会計システムでは、データ入力のたびに特定のフィールドの情報が検証され、会計データの整合性に問題がないかどうかを確認されます。仕訳入力が完了すると、自動的に割り当てられたバッチ番号と伝票番号が表示されます。仕訳に未転記のマークが付けられ、F0911テーブルに追加されます。

何千行もの取引行からなる仕訳を検討する場合でも1回に1ページ分の取引がロードされるため、処理にかかる負荷は最小限に抑えられます。[Page Up]または[Page Down]キーを使って、取引行をスクロールできます。

仕訳バッチを転記すると、F0902テーブルが更新され、F0911テーブルで転記済仕訳としてマークが付けられます。

## 仕訳の種類について

貸借一致が必須の元帳タイプの仕訳を入力する場合は、借方と貸方の金額を一致させる必要があります。

仕訳を使って、次の種類の取引を入力できます。

- 基本仕訳

仕訳入力(P0911)または仕訳入力(借方/貸方)(P0911)プログラムを使用して、基本仕訳を入力します。仕訳入力(借方/貸方)プログラムには、借方と貸方のそれぞれのカラムがあるため、貸方金額にマイナス記号を入力する必要はありません。

- 逆仕訳

逆仕訳の主な用途は、未払費用や未収収益を定期的に計上することです。

- パーセント仕訳

各取引項目に対して入力したパーセントに基づき、各勘定科目に金額を配賦します。

- モデル仕訳

頻繁に使用する仕訳用にテンプレートを作成することにより、データ入力時間を短縮します。

予算や統計情報、数量などの用途向けに設定した各種元帳に対して、仕訳を入力できます。各元帳の残高と数量を区別するために、元帳タイプ・コードが使用されます。次に、元帳タイプ・コードと元帳の関係の例を示します。

- AA: 実績金額

- BA: 予算金額
- AU: 実績数量
- BU: 予算数量

付加価値税 (VAT) などの課税対象の仕訳や外貨建ての仕訳を記録する場合にも仕訳入力を利用できます。

借方/貸方形式の仕訳入力には、メニューからアクセスでき、さらに処理オプションが用意されています。この方法では、借方と貸方のフィールドに金額を入力できます。この形式で入力する場合は、貸方金額にマイナス記号を入力する必要はありません。

## 仕訳入力の機能について

仕訳入力プログラムには、効率的に仕訳を入力できる機能があります。実行できる機能は次のとおりです。

- 勘定科目コード・セグメントのコピー
- 作業オーダー用仕訳のスピード勘定科目入力

### 勘定科目コード・セグメントのコピー

仕訳の入力時には、勘定科目コードをある明細行から別の明細行にコピーすることにより、時間を節約し入力ミスを減らすことができます。

次の表は、1つの仕訳入力のコピーがどのように行われるかを示しています。入力した勘定科目コードは、それぞれシステム内で次のように認識されます。

入力した勘定科目コード	システムの結果
1.1110.FIB	1.1110.FIB
..BEAR	1.1110.BEAR
200..	200.1110.BEAR
1..	1.1110.BEAR
.1810	1.1810

それぞれの区切り文字(ここではピリオド)には、直前に入力した勘定科目コードの同じ部分がコピーされ、勘定科目コードの不足部分が補われます。

勘定科目コード・フィールドにおいてセグメントをコピーするには、仕訳の次の行で、各セグメント(ビジネスユニット、主科目、および補助科目)の区切り文字を入力します。

たとえば、仕訳の最初の行に勘定科目コードとして「9.8720」と入力し、2番目の行にビジネスユニットをコピーする場合は、「.8730」と入力すると「勘定科目No.」フィールドの勘定科目は「9.8730」となります。

### 作業オーダー用仕訳のスピード勘定科目入力

作業オーダーの仕訳入力時には、スピード勘定科目入力を使用すると、時間を節約し入力ミスを減らすことができます。「勘定科目No.」フィールドに¥(バックスラッシュ)、作業オーダー番号、ピリオドおよび主科目コードを入力します。作業オーダーのビジネスユニットが検索され、次の処理が行われます。

- 作業オーダー番号がビジネスユニットに置き換えられます。「勘定科目No.」フィールドの主科目コードはそのままになります。



- ・「補助元帳」フィールドが作業オーダー番号に更新されます。
- ・「補助元帳タイプ」フィールドがWに更新されます。
- ・「補助科目」フィールドがこの作業オーダーの原価コードに更新されます。
- ・「フェーズ」フィールドがこの作業オーダーのフェーズに更新されます。
- ・「資産No.」フィールドがこの作業オーダーの設備番号に更新されます。

## 未登録勘定科目コードの一時入力許可について

一般会計固定情報の設定によって、未登録勘定科目コードの入力を一時的に許可できます。これは、次のような場合に便利です。

- ・ 正確な勘定科目コードがわからない。
- ・ 新しい勘定科目を追加する権限がない。

未登録勘定科目コードの入力を許可することにより、勘定科目表に登録されていないビジネスユニット、主科目の仕訳を入力できます。この勘定科目は、次の条件が満たされる場合にのみ、追加されます。

- ・ 入力したビジネスユニットが、ビジネスユニット・マスター(F0006)に存在する。
- ・ 入力した主科目が、事前にモデルとして指定したビジネスユニットに存在する。
- ・ 入力したビジネスユニットとモデルのビジネスユニットのタイプが同じである。

未登録勘定科目を一時的に許可して勘定科目を作成する処理を行うと、ビジネスユニットに対して勘定科目表のすべてまたは一部を必要に応じて作成できます。この方法を用いると、ビジネスユニットには使用する勘定科目のみが含まれることになります。これは、ビジネスユニットの勘定科目表の最初の枠組となります。

未登録勘定科目コードを一時的に許可するためには、「一般会計固定情報」フォームの「未登録勘定科目の許可」チェックボックスを選択する必要があります。仕訳入力時に未登録勘定科目を指定する場合は、勘定科目コードの先頭に「#」を付けます。仕訳に未登録勘定科目を入力すると、バッチ状況にはエラーが設定されます。転記前に、必ずバッチを確認し承認する必要があります。

仕訳バッチを転記すると、未登録勘定科目とモデル勘定科目表が比較されます。勘定科目がモデル勘定科目表にある場合は、仕訳で使用しているビジネスユニットにその勘定科目が追加され、仕訳の勘定科目に指定した未登録勘定科目の記号(#)は削除されます。

---

**注意:** 見出し勘定科目を未登録勘定科目として入力することはできません。見出し勘定科目は通常、財務レポート時に集計用として使用する勘定科目であるため、金額は転記できません。見出し勘定科目の作成が必要な場合は、ビジネスユニットへの勘定科目のコピー・プログラム(P09804)を使用して、モデル・ビジネスユニットから未転記の見出し勘定科目をコピーします。「単一勘定科目の改訂」フォームで勘定科目を手入力して、勘定科目に転記コードNを割り当てることもできます。

---

## 仕訳入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
仕訳入力の処理	W0911I	「仕訳入力、レポート、照会」(G0911)、「仕訳入力」	集計仕訳を伝票番号別に検討します。  バッチ内のすべての仕訳を検討する場合は、仕訳の検討プログラム(P0011)を使用します。
仕訳入力	W0911A	「仕訳入力の処理」で、「追加」をクリックします。  バッチ制御使用時は「バッチ制御」フォームが表示されます。「バッチ制御」フォームで、「バッチ日付」と「予想合計」を入力し、次のフォームに進みます。	仕訳の追加と改訂を行います。

## 仕訳入力(P0911)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムのデフォルト処理を指定できます。

### デフォルト

1. バッチ・タイプ  
システムとバッチの入力タイプを指定します。バッチ・タイプには次のものがあります。  
G: 仕訳  
V: 伝票  
IB: 請求書  
この処理オプションをブランクにすると、すべてのバッチ・タイプが処理されます。

### 表示

1. 借方/貸方形式  
仕訳を借方/貸方形式で表示するかどうかを指定します。

### バージョン

1. 仕訳入力MBFバージョン(P0900049)  
仕訳入力で使用される仕訳入力MBFのバージョンを変更するかどうかを指定します。P0900049で有効なバージョンを指定する必要があります。この処理オプションをブランクにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。  
この処理オプションは、システムのセットアップ担当者が変更してください。

### 検証

1. 固定資産ID  
勘定科目が資産のAAI勘定科目範囲内にある場合、資産IDを必須にするかどうかを指定します。  
値は次のとおりです。

ブランク: 仕訳入力で、資産IDを必須にしない。

1: 仕訳入力で、資産IDを必須にする。

## 仕訳入力マスター・ビジネス関数(P0900049)の処理オプションの設定

マスター・ビジネス関数(MBF)を使用して、仕訳、伝票、請求書などの入力についての標準ビジネス・ルールを一元管理します。

マスター・ビジネス関数は、特定のプログラムで共有される処理オプションで構成されています。仕訳入力MBFの処理オプションは、次の仕訳入力プログラムで使用されます。

- 仕訳入力(P0911)
- 税付き仕訳入力(P09106)
- 仕訳のバッチ処理(R09110Z)
- 定期仕訳の計算および印刷(R09302)
- インデックス計算および印刷(R093021)
- 変数配賦計算および印刷(R093022)

仕訳MBFを使用する各プログラムでは、MBFのバージョンを指定する必要があります。バージョンを指定しない場合、ZJDE0001が使用されます。

### デフォルト

1. 元帳タイプ                      UDCテーブル09/LTから、デフォルト値として使用する元帳タイプを指定します。

### 通貨

1. 有効日付                      為替レートの有効日付を取引の総勘定元帳期間と比較するかどうかを指定します。有効日付は通貨金額を計算するのに使用します。値は次のとおりです。
- ブランク: 比較しない。
- 1: 比較する。

2. 許容限度額                      入力した為替レートがこの許容限度の値を上回るか下回ると、警告メッセージが表示されます。たとえば、「15.00」を入力した場合は15.00%上回るか下回ったときに警告メッセージが表示されます。

### 金額ゼロ

1. ゼロ金額                      金額ゼロで数量ゼロの仕訳行項目を作成するかどうかを指定します。このオプションは、モデル仕訳を使って仕訳を作成する場合に便利です。値は次のとおりです。
- ブランク: 作成する。
- 1: 作成しない。

2. 履歴情報                      転記済の取引明細を変更した場合に監査情報を更新しないかどうかを指定します。
- ブランク: 監査情報を更新する。

1: 監査情報を更新しない。

## インタオペラビリティ

### 1. インタオペラビリティ・バージョン

F0911 インタオペラビリティ処理オプション (P0900160) のバージョンを指定します。バージョンを指定すると、送信レコードが書き込まれます。ブランクにした場合、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

## 基本仕訳の入力

「仕訳入力」フォームにアクセスします。

「仕訳入力」フォーム

「仕訳入力」フォームでは、何行でも取引行を入力できます。取引を表示するには、[Page Up]と[Page Down]キーを使用して1回に1ページ分の取引をロードします。これにより、処理時間は最小限に抑えられます。

### 見出し領域

見出し領域の次のフィールドは必須です。

**摘要** 仕訳の説明を入力します。

**元帳日付** 仕訳の元帳日付を入力します。このフィールドをブランクのままにすると、今日の日付が使用されます。

### 詳細グリッド

詳細グリッドの次のフィールドは、金額を配賦する勘定科目ごとに指定する必要があります。

**勘定科目No.** 総勘定元帳の勘定科目コードを入力します。F0901テーブルの勘定科目表と照合され、勘定科目名が読み込まれます。

詳細グリッドの最初の行に指定した勘定科目コードのビジネスユニットを基にして、見出し領域の伝票会社や基本通貨などのその他の情報が設定されます。

仕訳入力の最初の行を基に仕訳の基本通貨のデフォルト値が設定されます。このため、入力の最初の行は削除できません。ただし、新たに設定する勘定科目が当初の勘定科目と同じ会社にある場合は、勘定科目コードを変更できます。

## 金額

関連する勘定科目コードの勘定残高に追加する金額を入力します。貸方の金額は、金額の前か後に-(マイナス符号)を付けて入力します。

## その他のフィールド

次に示すフィールドを使用して、他のJD Edwards EnterpriseOneシステム(勤務管理や外注管理など)の取引をシミュレートできます。たとえば、間接費を使用している場合は、これらのフィールドを使用して間接費取引の修正仕訳を入力できます。

<b>代替所属ビジネスユニット</b>	従業員が通常所属するビジネスユニット番号を入力します。 このフィールドをブランクにすると、勘定科目コードのビジネスユニットに割り当てられた関連ビジネスユニットが使用されます。
<b>職務タイプ</b>	組織内の職務を識別する、ユーザー定義コード(UDC)テーブル06/Gのコードを入力します。
<b>職階</b>	職務タイプ内の特定のレベルを識別する、UDCテーブル06/GSのコードを入力します。
<b>従業員プール・グループ・コード</b>	プール・グループを識別する、UDCテーブル00/12のコードを入力します。このフィールドをブランクにすると、「代替所属ビジネスユニット」フィールドに入力したビジネスユニットのカテゴリ・コード12がデフォルトとして使用されます。
<b>職務プール・グループ・コード</b>	プール・グループを識別する、UDCテーブル00/12のコードを入力します。このフィールドをブランクにすると、勘定科目のビジネスユニットのカテゴリ・コード12がデフォルトとして使用されます。

## エラー・メッセージ: 金額が総額と一致しません

仕訳を承諾するために「OK」をクリックしたときに差異に残高がある場合、「金額が総額と一致しません」というメッセージが表示されます。貸借不一致仕訳は、修正することも承諾することもできます。

- 貸借不一致仕訳を修正する場合は、「差異」フィールドを検討して調整が必要な金額を決めます。貸借が一致するように仕訳を修正し、「OK」をクリックします。修正せずに削除する場合は、「取消」をクリックします。
- 承諾する場合は、「フォーム」メニューから「追加情報」を選択します。「追加情報」で、「貸借不一致の許可」チェックボックスを選択し、「OK」をクリックします。「仕訳入力」で、「OK」をクリックします。

次のような場合は、貸借不一致の仕訳を承諾する必要があります。

- 総勘定元帳への転記プログラム(R09801)が異常終了し、当初の仕訳の一部しか転記されなかった場合
- 複数の明細行からなる仕訳入力中に席を離れる必要があり、途中まで入力したデータを保存してプログラムを終了する場合

## 仕訳への添付の追加

仕訳を入力し「OK」をクリックして承諾すると、伝票番号を手入力しなかった場合はそれが自動的に割り当てられます。コメントやメモなどの添付を特定の取引や仕訳全体に対して追加できますが、それは伝票タイプ/No./会社と元帳日付が設定されている場合にかぎります。添付を仕訳に関連付けるためには、これらの情報が必要です。添付は内部参照用によりのみ使用可能です。

添付を追加するには、次の作業を行います。

- 特定の取引に添付を追加する場合は、「仕訳入力」フォームで取引を選択し、「ロー」メニューから「添付」を選択します。
- 仕訳全体に追加する場合は、「仕訳入力の処理」フォームに移動し、「ロー」メニューから「添付」を選択します。

パフォーマンス上の理由から、ロー見出しの左端のカラムにある添付ボタンをクリックしなければ、仕訳入力フォーム上にペーパークリップ・ボタンは表示されません。ペーパークリップ・ボタンは、次の場合に、仕訳の左側に表示されます。

- 仕訳全体に対してテキストなどの添付を追加した場合に、「仕訳入力の処理」フォームに表示されます。
- 特定の取引に対してテキストなどの添付を追加した場合に、「仕訳入力」フォームに表示されます。

## 未登録勘定科目コードを使用した仕訳入力

「仕訳入力」フォームにアクセスします。

一般会計固定情報プログラムの「未登録勘定科目の許可」チェックボックスが選択されていることを確認します。

参照: 第 13 章、「仕訳の処理」、「未登録勘定科目コードの一時入力許可について」、119 ページ

### 勘定科目 No.

先頭に「#」を付けて勘定科目コードを入力します。勘定科目コードを入力する際は次の規則に従ってください。

- ビジネスユニットがビジネスユニット・マスター (F0006) に存在すること。
- 主科目が、モデルとして指定するビジネスユニットに存在していること。
- 入力するビジネスユニットとモデルとして指定したビジネスユニットのタイプが同じであること。

これらの条件が満たされる場合、未登録勘定科目によってエラーが発生し、バッチは転記されないことを示す警告メッセージが仕訳入力プログラム (P0911) により表示されます。

たとえば、未登録勘定科目として 9.8115 を入力する場合は、F0006 テーブルにビジネスユニット 9 が存在し、モデル・ビジネスユニットに主科目 8115 が存在している必要があります。ビジネスユニット 9 が IS (損益計算書) のビジネスユニットの場合、主科目 8115 が存在するモデル・ビジネスユニットも IS である必要があります。

## パーセント仕訳の入力

「仕訳入力」フォームにアクセスします。

仕訳の貸借を一致させるには、借方の合計パーセントと貸方の合計パーセントを等しくする必要があります。借方または貸方の合計パーセントは必ずしも 100% にする必要はありません。

伝票タイプ	JE (仕訳) を割り当てる場合は、ブランクにします。伝票タイプは、UDC テーブル 00/DT にあります。
パーセント	勘定科目間の仕訳の総額をパーセントに基づいて配賦する場合に「パーセント」チェックボックスを選択します。 見出し領域に「計上金額」フィールドが、詳細グリッドに「%」フィールドが表示されます。
計上金額	仕訳の合計金額を入力します。パーセント仕訳の場合、「%」フィールドに入力したパーセントに基づいて配賦する詳細の金額が計算されます。
%	対象の勘定科目コードに配賦するパーセントを入力します。 入力する数値の小数点以下の桁数は決まっていません。小数を含めてパーセントを指定する場合は、小数まで入力してください。たとえば、12% の場合は「12」、42.5% の場合は「42.5」と入力します。

## 未転記仕訳の改訂

仕訳を入力した後、仕訳の改訂が必要になる場合があります。「仕訳入力」フォームのフィールドのほとんどは変更可能ですが、未転記仕訳の場合、次のフィールドは変更できません。

- 「伝票タイプ」、「伝票No.」および「伝票会社」
- 「元帳日付」
- 「元帳タイプ」
- 「通貨」および「為替レート」

これらのフィールドを変更するためには、次のいずれかの処理が必要です。

- 仕訳を削除して再入力します。
- 仕訳をコピーして、新たに作成した仕訳のフィールドを変更し、「OK」をクリックします。その後で、古い仕訳を削除します。

## 仕訳のコピー

「仕訳入力の処理」フォームにアクセスします。

- 既存の仕訳をコピーし、その内容を変更することで、仕訳を作成できます。この方法は次のような場合に便利です。
  - 既存の仕訳の変更できないフィールド (元帳日付など) の誤りを訂正する場合。この場合、既存の仕訳をコピーして作成した仕訳に置き換えることができます。
  - 複数の明細行を持つ既存の仕訳に類似した仕訳を作成する場合。
- 転記済の仕訳、未転記の仕訳のどちらもコピーできます。類似した仕訳が続く場合、モデル仕訳や定期仕訳を作成すると便利です。

仕訳をコピーするには、次の手順に従います。

1. 「仕訳入力の処理」で、コピーする仕訳を選択し、「コピー」をクリックします。  
仕訳のコピーが表示されます。伝票No.、元帳日付、および為替レートの各フィールドは、ゼロまたはブランクに設定されます。
2. 「仕訳入力」で、必要に応じて伝票タイプ、元帳日付を入力し、その他のフィールドに値を入力します。

3. 仕訳の明細行を検討し、必要に応じて「勘定科目No.」や「金額」などの情報を変更し、「OK」をクリックします。
4. 元の仕訳をコピーして作成した仕訳に置き換える場合は、「仕訳入力の処理」フォームで元の仕訳を選択し、削除または無効にします。

## 未転記仕訳の削除

「仕訳入力の処理」フォームにアクセスします。

未転記仕訳を削除するには、次の手順に従います。

1. 仕訳を選択し「削除」をクリックすると、削除の確認が表示されるので「OK」をクリックします。  
仕訳の明細行を削除するには、次のステップを実行します。
2. 仕訳を選択します。
3. 「仕訳入力」で、明細行を選択し「削除」をクリックします。
4. 削除の確認が表示されるので「OK」をクリックします。
5. 明細行を変更または追加して、明細行を削除した仕訳の調整を行います。

---

## 逆仕訳の処理

この項では、逆仕訳の概要と次の方法について説明します。

- 逆仕訳の入力
- 逆仕訳の確認
- 転記済仕訳の逆仕訳への変更

### 逆仕訳について

逆仕訳の主な用途は、未払費用や未収収益を定期的に計上することです。逆仕訳の入力では、未払費用や未収収益の計上など、逆仕訳をする仕訳にマークを付けます。仕訳の転記後、一般会計固定情報の設定に応じて、次の会計期間の第1日目または最終日に逆仕訳が作成されます。

逆仕訳レコードは、元のレコードと同じ値でF0911テーブルに作成されます。ただし、金額は逆になり、元帳(逆仕訳)日付は異なります。新しい逆仕訳の場合、逆仕訳レコードの転記コードが削除され、ユーザーは勘定残高テーブル(F0902)に仕訳を転記したり、総勘定元帳への転記プログラムを使用して転記を行えるようになります。

### 逆仕訳の入力

「仕訳入力」フォームにアクセスします。

#### 逆仕訳

取引の逆仕訳を自動作成するには、このチェックボックスを選択します。当初取引を転記すると、逆仕訳が作成されます。逆仕訳の場合、一般会計固定情報に基づいて、次期会計期間の第1日目または最終日が元帳日付として使用されます。

仕訳転記後は、逆仕訳に変更することはできません。



## 逆仕訳の確認

未転記仕訳を確認する場合、検索で表示されるのは当初仕訳のみです。逆仕訳は、当初仕訳を転記するまで作成されないため、表示されません。

仕訳を転記した後、「仕訳入力の処理」フォームにアクセスします。

- 当初仕訳のみを確認する場合は、当初の元帳日付を入力します。
- 逆仕訳のみを確認する場合は、元帳日付に次期会計期間の第1日目または最終日を入力します。一般会計固定情報により、次期会計期間のどの日が使用されるかが決定します。

## 転記済仕訳の逆仕訳への変更

仕訳転記後は、「仕訳入力」フォームで逆仕訳に変更することはできません。したがって、次の処理を順に行う必要があります。

- 仕訳を無効にします。
- 転記するバッチを再送信します。
- 仕訳を逆仕訳として再入力します。

---

## モデル仕訳の処理

この項では、モデル仕訳の概要と次の方法について説明します。

- モデル仕訳の作成
- 既存の仕訳からのモデル仕訳の作成
- モデルを使用した仕訳の入力 - モデルのコピー
- モデルを使用した仕訳の入力 - モデルの選択

## モデル仕訳について

モデル仕訳を再利用可能なテンプレートとして設定することにより、未払費用を毎月計上するなど、通常取引または定期的に発生する取引をあらかじめ定義、保管しておき、取得できます。モデルを仕訳の基準として使用することにより、入力時間を短縮し入力ミスを減らすことができます。

モデル仕訳には勘定科目情報を入力できます。モデル仕訳を再利用すると、あらかじめ勘定科目が入力されているため、入力時間を短縮できます。伝票または請求書のモデル仕訳を作成する場合は、モデルを仕入先または顧客レコードに割り当てることができます。

状況に合わせてモデルに組み込む情報を変更できます。たとえば、次の情報を組み込むことができます。

- 勘定科目コード、金額、摘要
- 勘定科目コードと摘要のみ(金額は仕訳によって異なるため)
- 勘定科目コード、%、摘要

モデル仕訳は、モデル転記コードがM、元帳日付がブランクの状態、F0911テーブルに保管されます。実際の仕訳は、元帳日付が指定され、転記コードがP(転記済)またはブランク(未転記)に指定されます。

モデル仕訳作成に加えて、次の処理を実行できます。

- パーセント仕訳用モデルの入力

金額が変わってもパーセントは固定のモデル仕訳を作成できます。このモデルを使って総額を入力すると、そのパーセントを使って総額が配賦されます。

- 既存の仕訳からのモデル仕訳の作成

既存の仕訳からモデル仕訳を作成できます。既存の仕訳からモデル仕訳を作成する場合は、既存の仕訳をコピーし、「仕訳入力」フォームの「モデル」チェックボックスを選択します。

- モデル仕訳を使用した仕訳の入力

作成したモデル仕訳は、実際の仕訳を入力する際のテンプレートとして使用できます。基本仕訳とモデルを使用した仕訳を同時に追加する場合、モデルを選択すると時間を短縮できます。

## モデル仕訳の作成

「仕訳入力」フォームにアクセスします。

モデル仕訳作成後、次のフィールド以外は変更できます。

- 「伝票タイプ/No./会社」
- 「元帳タイプ」

その他に、「モデル」と「パーセント」チェックボックスも変更できません。

### モデル

モデル仕訳およびパーセント・モデル仕訳の場合、このチェックボックスを選択します。見出し領域の「元帳日付」フィールドが非表示になります。モデルから作成する日付を仕訳に入力します。

「モデル」チェックボックスを選択すると、「パーセント」チェックボックスが選択できなくなります。パーセント仕訳の入力方法の情報については、伝票タイプ・フィールドの記述を確認します。

### 伝票タイプ

モデル仕訳の場合、ブランクにするとJEが自動的に割り当てられます。

パーセント・モデル仕訳を入力する場合は、「%」を入力します。フォームの詳細グリッドに「%」フィールドが表示されます。

参照: [第 13 章、「仕訳の処理」、「パーセント仕訳の入力」、124ページ](#)

## 既存の仕訳からのモデル仕訳の作成

「仕訳入力の処理」フォームにアクセスします。

既存の仕訳からモデル仕訳を作成するには、次の手順に従います。

1. モデル仕訳に変更する仕訳を選び、「コピー」をクリックします。
2. 「仕訳入力」で、「モデル」チェックボックスを選択します。
3. 必要に応じて、仕訳を改訂します。

## モデルを使用した仕訳の入力 – モデルのコピー

「仕訳入力の処理」フォームにアクセスします。

モデルをコピーして仕訳を入力するには、次の手順に従います。

1. 伝票タイプ・フィールドに「JE」と入力し、「モデル」チェックボックスを選択します。

または、このフィールドに「%」を入力してパーセント・モデルをコピーすることもできます。

2. モデルを選択して「コピー」をクリックします。

「仕訳入力」フォームで、「元帳日付」フィールドに日付を入力します。

3. パーセント仕訳以外は、勘定科目ごとに「金額」フィールドに金額を入力します。
4. パーセント・モデルを使用するパーセント仕訳の場合は、「計上金額」フィールドに金額を入力します。

このフィールドは、パーセント・モデル仕訳を選択した場合にのみ表示されます。

5. 必要に応じて、その他のフィールドの情報を変更またはクリアします。

## モデルを使用した仕訳の入力 – モデルの選択

「仕訳入力」フォームにアクセスします。

モデルを選択して仕訳を入力するには、次の手順に従います。

1. 「フォーム」メニューから、「モデル」を選択します。
2. 「モデル仕訳の検索/選択」で、モデルを選択し「選択」をクリックします。  
「仕訳入力」フォームにモデル仕訳が表示されます。
3. 仕訳の元帳日付を入力します。
4. パーセント仕訳以外は、勘定科目ごとに「金額」フィールドに入力します。
5. パーセント仕訳の場合は、「計上金額」フィールドに入力します。
6. 必要に応じて、その他のフィールドの情報を変更またはクリアします。

---

## 仕訳の検討

この項では、次の方法について説明します。

- 仕訳の検討 (P0011) の処理オプションの設定
- 仕訳の検討

**関連項目:**

第 37 章、「バッチ見出しの管理」、「バッチ見出しの追加と改訂」、438 ページ

## 仕訳の検討に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
バッチの処理	W0011A	「仕訳入力、レポート、照会」(G0911)、「仕訳の検討」	バッチで仕訳を検討、承認、転記します。
仕訳の検討	W0911BA	「バッチの処理」フォームで検討するバッチを選択し、「選択」をクリックします。	仕訳を検討します。未転記仕訳を削除したり、転記済仕訳を無効にすることもできます。

## 仕訳の検討(P0011)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

**バッチ・タイプ** 「仕訳の検討」フォームに表示されるデフォルトのバッチ・タイプを指定します。仕訳の場合は、「G」を入力します。

## 仕訳の検討

「仕訳の検討」フォームにアクセスします。

「仕訳の検討」フォーム

## 仕訳の転記

この項では、総勘定元帳への転記処理の概要とバッチの改訂、および次の方法について説明します。

- 総勘定元帳への転記(R09801)の処理オプションの設定
- 仕訳の転記

### 関連項目:

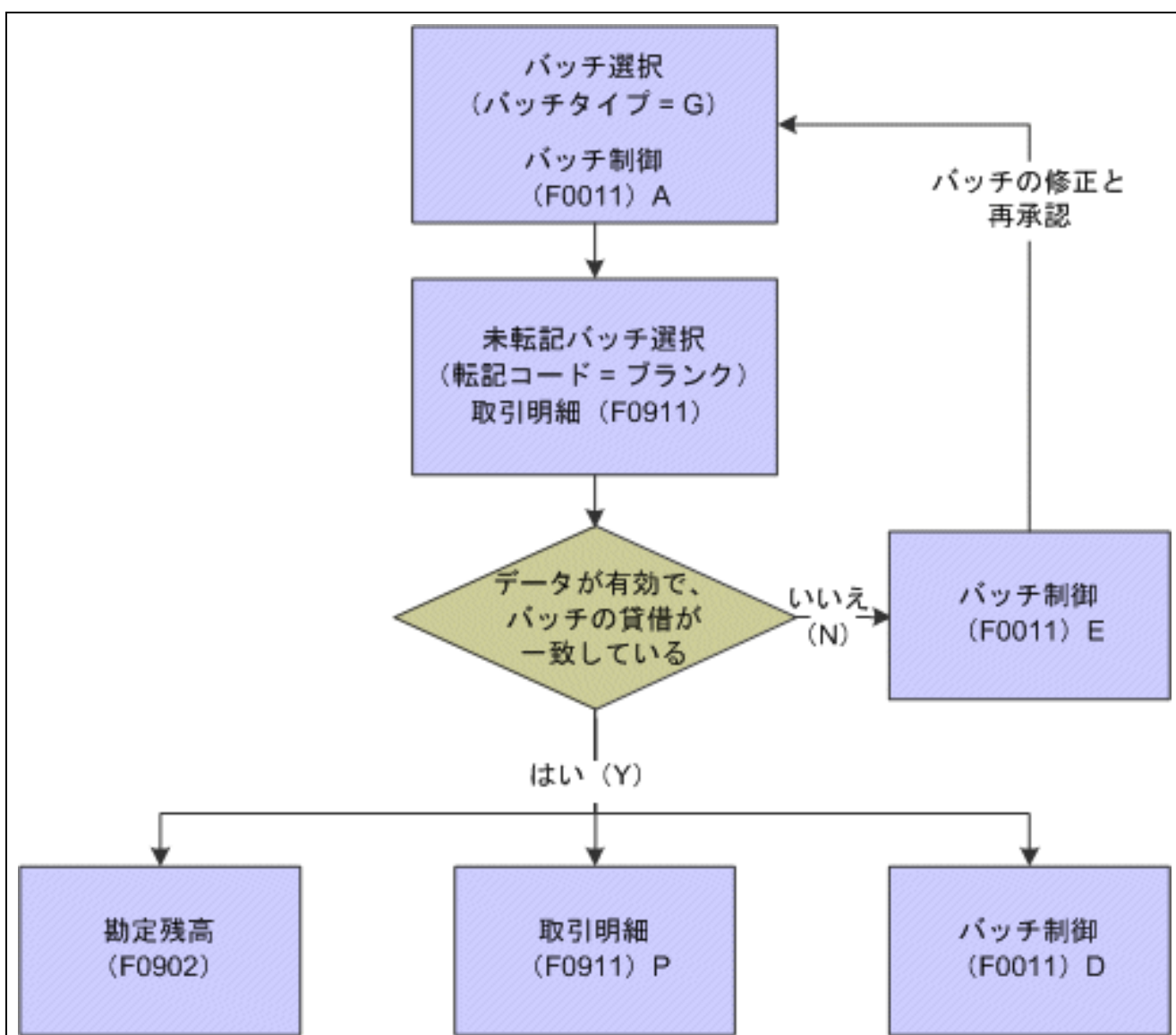
JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「財務取引の転記」

## 総勘定元帳への転記処理について

仕訳は、検討、承認した後で、勘定残高テーブル (F0902) に転記します。総勘定元帳への転記プログラム (R09801) では、次の処理が実行されます。

- F0911テーブルで未転記、承認済の仕訳のバッチが選択され、各取引が検証されます。
- 承認済の取引がF0902テーブルへ転記されます。
- 仕訳のバッチ状況が転記済に変更されます。
- F0911テーブルにある仕訳の明細行が転記済に更新されます。
- エラーになった取引については、電子メール・メッセージが送信されます。
- 総勘定元帳への転記レポートが作成され、正常に転記されたバッチの詳細が出力されます。

次の図は、JD Edwards EnterpriseOne一般会計システムにおける仕訳の転記処理を示しています。



仕訳の転記処理

## 総勘定元帳への転記(R09801)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムのデフォルト処理を指定できます。

### 印刷オプション

1. 勘定科目コード形式 総勘定元帳への転記レポートに印刷する勘定科目形式を指定します。
2. エラー・メッセージの印刷 総勘定元帳への転記レポートにエラー・メッセージを印刷するかどうかを指定します。この処理オプションをブランクにしても、エラーが検出されると、エラー・メッセージはワーク・センターに表示されます。値は次のとおりです。  
ブランク: エラー・メッセージを印刷しない。  
1: 印刷する。

### バージョン

1. 詳細再換算のバージョン 仕訳を作成するために実行する詳細再換算プログラム(R11411)のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、このプログラムは実行されず詳細再換算仕訳は作成されません。
2. 固定資産転記のバージョン 固定資産レコードを作成するために実行する固定資産転記プログラム(R12800)のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、このプログラムは実行されず固定資産レコードは作成されません。
3. 52期間転記のバージョン F0902テーブルおよび52期間用勘定残高テーブル(F0902B)の更新に使用する52期間会計転記プログラム(R098011)のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、このプログラムは実行されずテーブルは更新されません。
4. 間接費取引作成のバージョン(R52G11) 間接費明細元帳(F52G11)および間接費集計元帳(F52G02)テーブルを更新するために使用する、間接費取引の作成プログラム(R52G11)のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにした場合、間接費取引の作成プログラムは実行されず、テーブルも更新されません。

### 検証

1. トランザクションの更新 F0911テーブルの未転記レコードの略式ID、会社、会計年度、期間、西暦上2桁、四半期を更新するかどうかを指定します。カスタム・プログラムによってF0911テーブルにレコードが作成されており、そのレコードの値が正しくない場合には、これらのフィールドを更新します。  
F0911テーブルにある未転記レコードの勘定科目コード・フィールドの値を使って、略式IDおよび会社フィールドが更新されます。  
会計年度、期間、西暦上2桁の各フィールドの値は、F0911テーブルの未転記レコードの元帳日付フィールドの値を使って、正しく計算されます。  
F0911テーブルの未転記レコードの四半期フィールドは、ブランクに更新されます。

## 税ファイル更新オプション

### 1. 税ファイルの更新

税情報を含む取引を総勘定元帳へ転記する際に、税テーブル(F0018)を更新するかどうか、更新する場合はどのように更新するかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: テーブルを更新しない。

- 1: 税目コードがV、VT、V+、U、UTの場合のみ更新する。
- 2: 税額が入力されている場合はすべて更新する。税目コードがE(免税)の場合は、更新されません。
- 3: 税目コードが入力されている場合(税目コードがE(免税)の場合も含む)は、すべて更新する。

### 2. 付加価値税割引の更新

税額フィールドを調整するかどうか、調整する場合はどのフィールドを調整するか、割引実施時期を指定します。税目コードがVの取引についてのみ、税額フィールドが調整されます。

この処理オプションを使う場合は、割引を含んだ総額に対する税、および税額を含んだ総額に対する割引の税規則を設定する必要があります。

値は次のとおりです。

ブランク: 割引実施額に対して税額を調整しない。

- 1: 税額フィールド(STAM)のみ更新する。
- 2: STAM(税額)、ATXA(課税対象額)、AEXP(合計価格)フィールドを更新する。

割引が発生した場合、次のアルゴリズムを使って税額、課税対象額、総額(合計価格)フィールドの調整金額の計算が行われます。

総額(合計価格)に対する調整 = 割引実施額

課税対象額に対する調整 = (課税対象額/総額) × 割引実施額

税額に対する調整 = (税額/総額) × 割引実施額

次に例を示します。

税率 = 25%

割引実施額 = 12.50 USD

総額(合計価格) = 1,250.00 USD

課税対象額 = 1,000.00 USD

税額 = 250.00 USD

この場合、調整アルゴリズムを使って、次のように調整金額が計算されます。

総額に対する調整 = 12.50

課税対象額に対する調整 = 10.00

税額に対する調整 = 2.50

調整金額は、当初の金額から調整後金額を引いて計算されます。

調整後総額: 1,250.00 - 12.50 = 1,237.50

調整後課税対象額: 1,000.00 - 10.00 = 990.00

調整後税額:  $250.00 - 2.50 = 247.50$

### 3. 付加価値税入金の更新

税額フィールドを調整するかどうか、調整する場合はどのフィールドを調整するか、入金処理で小額消去が発生する時期を指定します。税目コードがVの取引についてのみ、税額フィールドが調整されます。値は次のとおりです。

ブランク: 小額消去に対して税額を調整しない。

1: STAMフィールドのみ更新する。

2: STAM、ATXA、AEXPフィールドを更新する。

小額消去が発生した場合、次のアルゴリズムを使って税額、課税対象額、総額(合計価格)の調整計算が行われます。

総額(合計価格)に対する調整 = 小額消去金額

課税対象額に対する調整 = (課税対象額/総額) × 小額消去金額

税額に対する調整 = (課税対象額/総額) × 小額消去金額

次に例を示します。

税率 = 25%

小額消去金額 = 12.50 USD

総額(合計価格) = 1,250.00 USD

課税対象額 = 1,000.00 USD

税額 = 250.00 USD

この場合、調整アルゴリズムを使って、次のように調整金額が計算されます。

総額に対する調整 = 12.50

課税対象額に対する調整 = 10.00

税額に対する調整 = 2.50

調整金額は、当初の金額から調整後金額を引いて計算されます。

調整後総額:  $1,250.00 - 12.50 = 1,237.50$

調整後課税対象額:  $1,000.00 - 10.00 = 990.00$

調整後税額:  $250.00 - 2.50 = 247.50$

## 処理

### 1. 親品目時間の展開

親資産の時間入力を親資産の子まで展開するかどうかを指定します。

この処理オプションはバッチ・タイプTのレコードにのみ適用されます。値は次のとおりです。

ブランク: 展開しない。

1: 展開する。

総勘定元帳への転記プログラムにより、親資産の子に対して時間入力を作成されます。親資産と同じ時間単位および子資産の単価を使って、該当する仕訳の計算が行われます。



## 現金主義

1. 数量元帳タイプ  
現金主義仕訳で使用する数量元帳タイプを指定します。UDCテーブル09/LTから有効な元帳タイプを入力してください。ブランクにした場合は、デフォルトの元帳タイプZUが使用されます。
2. 現金主義仕訳の作成のバージョン  
実行する現金主義仕訳の作成プログラム(R11C850)のバージョンを指定します。転記プログラム終了後に現金主義仕訳の作成プログラムが実行されます。  
この処理オプションをブランクにすると、現金主義仕訳は作成されません。

## 仕訳の転記

「仕訳入力、レポート、照会」(G0911)の「総勘定元帳への転記」を選択します。

仕訳バッチを転記すると、F0902テーブルが更新され、転記済仕訳としてF0911テーブルにマークされます。また、F0011のバッチ見出しレコードが転記済状況に更新されます。

---

## 転記済仕訳の改訂と無効化

この項では、転記済仕訳の改訂と転記済逆仕訳の無効化の概要、および次の方法について説明します。

- 転記済仕訳の改訂
- 転記済仕訳の無効化

### 転記済仕訳の改訂について

仕訳転記後に改訂できる情報は限られています。次のフィールドは改訂が可能です。

- 摘要
- 備考
- 参照2
- 購買オーダー
- 購買オーダー・サフィックス
- サービス/税日付

元帳配賦行は追加できますが、既存の配賦行は改訂できません。

転記済仕訳を改訂すると、監査証跡が残ります。当初バッチのバッチ状況が、転記済から保留または承認済(一般会計固定情報の設定による)に変更されます。バッチ状況が保留の場合は、転記前にバッチを承認する必要があります。バッチ状況が承認済の場合は転記が可能です。

変更できない情報を修正したり、転記済の仕訳を削除したりするには、既存の仕訳を無効にし、新規に入力する必要があります。F0911テーブルとF0902テーブルの両方に変更や無効を反映させるには、バッチを再度転記する必要があります。

締め前の会計期間内であれば、転記済の仕訳を無効にすることができます。指定した元帳日付で逆仕訳が自動的に作成されます。仕訳を無効にしたら、転記して勘定残高を更新してください。

**注意:** 転記済仕訳は削除できません。転記済逆仕訳を無効にすることもできません。

## 転記済仕訳の改訂と無効化に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
仕訳入力の処理	W0911I	「仕訳入力、レポート、照会」(G0911)、「仕訳入力」	集計仕訳を伝票番号別に検討します。
仕訳入力	W0911A	「仕訳入力の処理」で、改訂する仕訳を選択します。	仕訳を改訂します。
仕訳の無効	W0911F	「仕訳入力の処理」で、無効にする仕訳を選択し「ロー」メニューの「無効」を選択します。  または、「仕訳の検討」フォームで転記済仕訳を無効にすることができます。このフォームでの処理も、「仕訳入力の処理」での処理と同様です。	転記済仕訳を無効にします。

### 転記済仕訳の改訂

「仕訳入力」フォームにアクセスします。

### 転記済仕訳の無効化

「仕訳の無効」フォームにアクセスします。

転記済仕訳を無効にするには、次の手順に従います。

1. 必要に応じて、「元帳日付」フィールドを変更し、「OK」をクリックして無効処理を行います。
2. 無効を確認するには、「仕訳入力の処理」フォームで無効にした仕訳を選択します。
3. 「仕訳入力」で、詳細グリッドの「逆仕訳/無効」フィールドを確認し、V(無効)が表示されていることを確認します。
4. 無効にした結果作成された逆仕訳を確認します。

#### 元帳日付

仕訳を無効にする場合に各期間の貸借を一致させておくには、無効にする仕訳と同じ日付を入力します。

## 第 14 章

# バッチ仕訳の処理

この章では、バッチ処理の概要と、次の方法について説明します。

- 仕訳のアップロードのバッチ処理
- バッチ仕訳処理
- 処理済バッチ仕訳の転記
- 処理済バッチ仕訳の除去

---

## 仕訳のバッチ処理について

JD Edwards EnterpriseOneソフトウェア以外の外部システムで仕訳を管理している場合、その仕訳を変換してEnterpriseOneで処理できるようにすることができます。PCデータ入力、サード・パーティ製のシステムや顧客のシステム、電子データ交換(EDI)などの外部ソースからバッチ仕訳をアップロードできます。仕訳のバッチ処理では、次の処理を行います。

- 仕訳トランザクションのバッチ入力テーブルへのマッピング  
カスタム・プログラムを作成し、仕訳アップロード・テーブル(F0911Z1)のフィールドに適切なデータを設定します。
- 仕訳のバッチ処理  
仕訳のバッチ処理プログラム(R09110Z)を実行し、F0911Z1テーブルからF0911テーブルへ仕訳をアップロードします。仕訳のバッチ処理プログラムでは、F0911Z1テーブルの情報が正しくフォーマットされているかどうかを検証され、その後でF0911テーブルに転送されます。
- バッチ仕訳の改訂  
レコードが正常に処理されなかった場合は、仕訳の改訂(P0911Z1)を使用して、バッチ仕訳レコードを改訂します。
- バッチ仕訳の転記  
総勘定元帳への転記プログラム(R09801)を使用して、正常に処理されたバッチ仕訳をF0902テーブルに転記します。
- 正常に処理されたバッチ仕訳の除去  
バッチ仕訳を転記後、管理をしやすいようにF0911Z1テーブルを除去します。バッチ仕訳の除去プログラム(R0911Z1P)を使用します。

---

**注意:** 仕訳のバッチ処理を使用せずにF0911テーブルを更新しようとすると、データの整合性に問題が生じる可能性があります。

---

## 仕訳のアップロードのバッチ処理

この項では、仕訳のアップロードのバッチ処理の概要と仕訳のバッチ処理を実行する方法について説明します。

### 仕訳のアップロードのバッチ処理について

カスタム・プログラムを使用して取引情報をF0911Z1テーブルにロードしたら、仕訳のバッチ処理プログラム(R09110Z)を実行します。これにより、F0911Z1テーブルの情報が処理され、F0911テーブルにロードされます。

取引の処理に必要なその他の情報は、他のソースからロードされるか、既存の情報を基にして計算されます。たとえば、次のソースが使用されます。

- 伝票番号がない場合は、自動採番プログラム(P0002)によって生成されます。
- 仕訳入力MBF処理オプション(P0900049)によって、デフォルトの伝票タイプが決まります。
- 会計年度と期間は、元帳日付と、会社名および番号設定プログラム(P0010)を使用して計算されます。
- F0911テーブルの伝票会社番号は、仕訳の最初の明細行にあるビジネスユニットに基づいて割り当てられます。

仕訳のバッチ処理プログラムは、テスト・モードまたは最終モードのどちらでも実行できます。

テスト・モードでは、次の処理が実行されます。

- データが検証され、エラーが特定されます。  
エラーの取引数がレポートに印刷されます。エラーは、ワーク・センターのワークフロー・メッセージにも書き込まれます。テスト・モードでの処理は、元帳には反映されません。
- 最終モードで処理する前にエラーを修正できます。

最終モードでは、次の処理が実行されます。

- F0911テーブルに仕訳が作成されます。
- F0911Z1テーブルの伝票番号とバッチ番号がブランクの場合は、これらが自動的に割り当てられます。
- ブランクのフィールドに情報が入力されます。
- 正常に処理された取引とエラーのあった取引の数を示すレポートが作成されます。  
特定のエラーは、ワーク・センターのワークフロー・メッセージに書き込まれます。
- 該当する処理オプションを設定した場合は、処理済の仕訳が除去されます。  
バッチ仕訳を除去しないように設定してある場合は、処理済のマークが付けられます。

### 処理中のエラー

処理中にエラーが発生した場合、そのエラーは編集レポートに表示されます。エラーを修正した後、バッチを再処理できます。バッチ内の取引にエラーがあっても、バッチ処理は停止しません。バッチの取引にエラーがあると、その取引は残りのバッチでは処理されません。バッチ処理が正常に終了すると、VNEDSPフィールドが0から1に更新されます。これらのレコードは、除去されるまでF0911Z1テーブルに保存されます。処理オプションで、このテーブルを自動的に除去するように設定することもできます。

次のヒントを参考にして、エラー・メッセージを減らしたり、エラーを解決できます。

- 最初に少数のレコードでバッチを処理します。

1つのレコードで頻繁に発生するエラーは、ほとんどの場合他のレコードでも発生します。まず、レコード件数の少ないバッチのエラーを修正してから、同じ手順でレコード件数の多いバッチを処理します。

- バッチ処理が中断されるのは、エラーの場合だけです。

仕訳が標準とは異なる場合には警告メッセージが表示されますが、処理は中断されません。警告メッセージを受け取るかどうかは、処理オプションで指定します。

- 転記前に取引を検討および削除するオプションがあるため、テスト・モードのバッチ実行は必須ではありません。

ただし、エラーが1つでもあるとバッチ処理は続行されません。

- エラー・メッセージを確認することにより、エラーの原因と解決方法を特定できます。
- 解決できないエラーがある場合は、仕訳の改訂プログラム(P0911Z1)を使用して取引を手動で入力し、処理が正常に実行されるようにします。

その後、変換したF0911Z1取引と仕訳の改訂プログラム(P0911Z1)を使用して入力したF0911Z1取引を比較します。相違点を比較することにより、不一致箇所を突き止めてエラーを解決できます。

## 仕訳のバッチ処理の実行

「バッチ仕訳処理」(G09311)の「仕訳のバッチ処理」を選択します。

## 仕訳のバッチ処理(R09110Z)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムのデフォルト処理を指定できます。

### バージョン

1. 仕訳入力バージョン 仕訳入力MBF処理オプション(P0900049)のバージョンを指定します。ブランクにすると、標準バージョン(ZJDExxxxx)が実行されます。

標準バージョンで実行すると、仕訳のバッチ処理プログラムで作成されたバッチだけではなく、バッチ・タイプGの承認済バッチがすべて転記されます。バッチ・タイプGとバッチ状況Aを選択するようにデータ選択が設定されているためです。データ選択(ユーザーID、バッチ日付など)を追加した転記プログラムのバージョンを新たに作成できますが、必要な結果が得られない場合もあります。

2. 転記バージョン F0902テーブルへの自動転記に使用する総勘定元帳への転記プログラム(R09801)のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、転記は実行されません。

### 処理

1. 処理モード バッチをテスト・モードと最終モードのどちらで処理するかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: テスト・モード。

1: 最終モード。

2. 貸借不一致 貸借不一致の総勘定元帳取引の処理を許可するかどうかを指定します。(金額が一致しない。)値は次のとおりです。

ブランク: 許可しない。

1: 許可する。

- 3. 除去** F0911Z1テーブルから処理済取引を自動的に除去するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
- ブランク: 処理済取引に処理済のマークを付け、除去はしない。
- 1: 処理済取引を自動的に除去する。

## メッセージ

- 1. 警告メッセージ** ワーク・センターに警告メッセージを作成するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
- ブランク: 作成する。
- 1: 作成しない。
- 2. 電子メッセージ** ユーザーが電子メッセージを受け取るかどうかを指定します。この処理オプションをブランクにすると、取引を入力したユーザーのワーク・センターにメッセージが送信されます。

## 検証

- 1. バッチ承認** 作成したすべてのバッチ状況を承認済に更新するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
- ブランク: 一般会計固定情報に従って状況を更新する。
- 1: 全バッチを承認済に更新する。

---

# バッチ仕訳処理

この項では、仕訳の改訂プログラムの概要と仕訳のバッチ処理について説明します。

- 仕訳の改訂 (P0911Z1) の処理オプションの設定
- バッチ仕訳の追加

## 仕訳の改訂プログラムについて

外部システムからF0911Z1テーブルにデータをアップロードした後、仕訳の改訂プログラム (P0911Z1) を使用して、次の処理を行うことができます。

- レコードを新しいバッチに追加します。
- 通常は、バッチ仕訳を追加する必要はありません。例外として、取引の処理を正常に処理できない場合があげられます。不整合を訂正するために、手入力での仕訳を追加し取引を処理できます。処理が成功した場合は、その成功したトランザクションと処理対象の別のレコードを比較します。
- 処理済、未処理両方のレコードを検討します。
  - 未処理レコードを改訂します。
- エラー終了したレコードなど未処理のレコードを改訂することは可能ですが、スプレッドシートを改訂することをお勧めします。仕訳改訂プログラムでは、仕訳入力プログラム (P0911) と同じ編集は行われません。
- 未処理バッチ仕訳を削除します。

仕訳の改訂プログラムで仕訳を追加したり、未処理の仕訳を改訂した後は、仕訳のバッチ処理プログラムを再実行してください。

**注意:** 仕訳の改訂プログラムを使用して、正常に処理されたレコードは改訂できません。正常に処理されたレコードはF0911テーブルで処理されているため、改訂する場合は仕訳入力プログラムを使用してください。

仕訳の改訂プログラムを使用して、正常に処理されたバッチ仕訳は削除できません。正常に処理されたバッチ仕訳は、バッチ仕訳の除去プログラム(R0911Z1P)を使用して除去してください。

## バッチ仕訳処理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
オフライン仕訳の処理	W0911Z1B	「バッチ仕訳処理」 (G09311)、「仕訳の改訂」	未処理の仕訳バッチの改訂と削除を行います。
オフライン仕訳の改訂	W0911Z1A	仕訳バッチを追加する場合は、「オフライン仕訳の処理」で「追加」をクリックします。  未処理バッチにレコードを追加し、未処理バッチ内の特定の仕訳を改訂または削除する場合は、バッチを選択して「選択」をクリックします。	F0911Z1テーブルへのレコードの追加、未処理バッチの追加、未処理仕訳の改訂、および未処理仕訳の削除を行います。  「オフライン仕訳の改訂」フォームで未処理レコードは改訂できますが、このフォームでは実行されない編集もあるため、スプレッドシートを改訂することをお勧めします。
仕訳入力	W0911A	「仕訳入力、レポート、照会」、「仕訳入力」	正常に処理されたレコードを改訂します。

## 仕訳の改訂(P0911Z1)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムのデフォルト処理を指定できます。

### 入力タイプ

#### 1. 入力タイプ

F0911Z1取引で制御レコードがF0041Z1テーブルに書き込まれるかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 書き込む。

1: 書き込まない。

## バッチ仕訳の追加

「オフライン仕訳の改訂」フォームにアクセスします。

仕訳の改訂 - オフライン仕訳の改訂

OK(O) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

バッチ制御

ユーザーID MT5961687 バッチNo. \* 93 トランザクションNo. \* 1

伝票タイプ/No./会社 JE [ ] [ ] 元帳タイプ AA ☐ 逆仕訳

元帳日付 [ ] 摘要 \* [ ] ☐ パーセント

通貨コード [ ] 為替レート [ ] モード D

レコード 1-1 グリッドのカスタマイズ

勘定科目コード	総額	課税対象額	税額	税目コード	税率/税域	税トラッキング	勘定科目名
[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]

差額 [ ] [ ]

「オフライン仕訳の改訂」フォーム

## 処理済バッチ仕訳の転記

「仕訳入力、レポート、照会」(G0911)の「総勘定元帳への転記」を選択します。

仕訳バッチを正常に処理したら、それを転記する必要があります。総勘定元帳への転記プログラムにより、F0911テーブルの各バッチ仕訳の転記コードがP(転記済)に更新され、バッチ仕訳がF0902テーブルに反映されます。

## 処理済バッチ仕訳の除去

「バッチ仕訳処理」(G09311)の「バッチ仕訳の除去」を選択します。

バッチ仕訳を正常に処理し転記したら、F0911Z1テーブルからそのバッチ仕訳を除去します。バッチ仕訳の除去プログラム(R0911Z1P)を実行すると、F0911Z1テーブルから正常に処理された仕訳が除去されます。ただし、プログラムを実行している環境からのみ除去されます。

または、処理後自動的に処理済仕訳が除去されるように、仕訳のバッチ処理プログラムで処理オプションを設定することもできます。



## 第 15 章

# 配賦の処理

この章では、配賦、配賦作成処理、多階層配賦の各概要、および次の方法について説明します。

- 定期仕訳の処理
- インデックス配賦の処理
- 詳細変数配賦の処理

---

## 配賦について

配賦は、費用の分配、年間または期間予算の作成、さらに通貨換算など様々な目的に使用できます。配賦を行うことにより、1つまたは複数のビジネスユニットの金額を他のビジネスユニットの勘定科目または変数に振り替えたり、ある元帳タイプから別の元帳タイプに振り替えることができます。

金額の変更に関係なくモデル仕訳を配賦として作成したり、金額に変更がない場合に定期仕訳を作成できます。

JD Edwards EnterpriseOne 一般会計システムでは、次の3タイプの配賦を使用します。

- 定期仕訳

定期的に発生する仕訳の場合は、定期仕訳を作成します。

- インデックス配賦

会社またはビジネスユニット間での振替を行ったり、年間または月間予算を作成する場合は、インデックス配賦を作成します。

- 詳細変数配賦

あるビジネスユニットから別のビジネスユニットに金額を配賦する場合、および、あるビジネスユニットから変数(カテゴリ・コード01から50までの基準比率やビジネスユニット・タイプなど)に金額を配賦する場合は、詳細変数配賦を作成します。詳細変数配賦方法を使用するには、複雑だが動的な機能処理するために追加設定が必要です。

参照: [第 5 章、「詳細変数配賦の設定」、45ページ](#)

---

**注意:** 詳細変数配賦方法は、柔軟性に劣っていた変数配賦方法に取ってかわるものです。変数配賦方法では、共通のカテゴリ・コード値を持つビジネスユニット間でのみ配賦が可能であり、基準比率は常に配賦先ビジネスユニットである必要がありました。詳細変数配賦方法には、このような制限はありません。

---

次の配賦頻度は、すべての3タイプの配賦で使用できます。

- 週次

- 月次
- 四半期
- 半期
- 年次

どの配賦でも、発生主義会計または年累計実績の計算を行うための逆仕訳を作成できます。見積計上のために配賦を作成し、それを次の期間の第1日目または最終日に逆仕訳することがよくあります。配賦を逆仕訳し、最終モードで処理を行うと、当初作成された仕訳が逆仕訳されます。配賦仕訳を転記すると、一般会計固定情報の設定に基づいて、次の会計期間の第1日目または最終日に逆仕訳が作成されます。

どのタイプの配賦でも、配賦を実行するたびに作成される仕訳に対して配賦の当初伝票番号が使用されます。仕訳の伝票番号が同じでも、各仕訳の元帳日付は異なるため重複しているとはみなされません。伝票番号を使用して、当初配賦まで監査証跡を辿ることができます。

配賦を作成する場合、次の日付によって配賦のタイプが決まります。

日付	説明
元帳日付	仕訳を転記する会計期間を決定する日付。
特別期間/年	配賦の元となる残高を決定する日付。基準期間または基準年が現行会計期間または現行会計年度と異なる場合、この日付に基づいてF0902テーブルの金額が選択されます。
停止日付	計算プログラムで配賦の処理が行われなくなる日付。

## 配賦作成の処理について

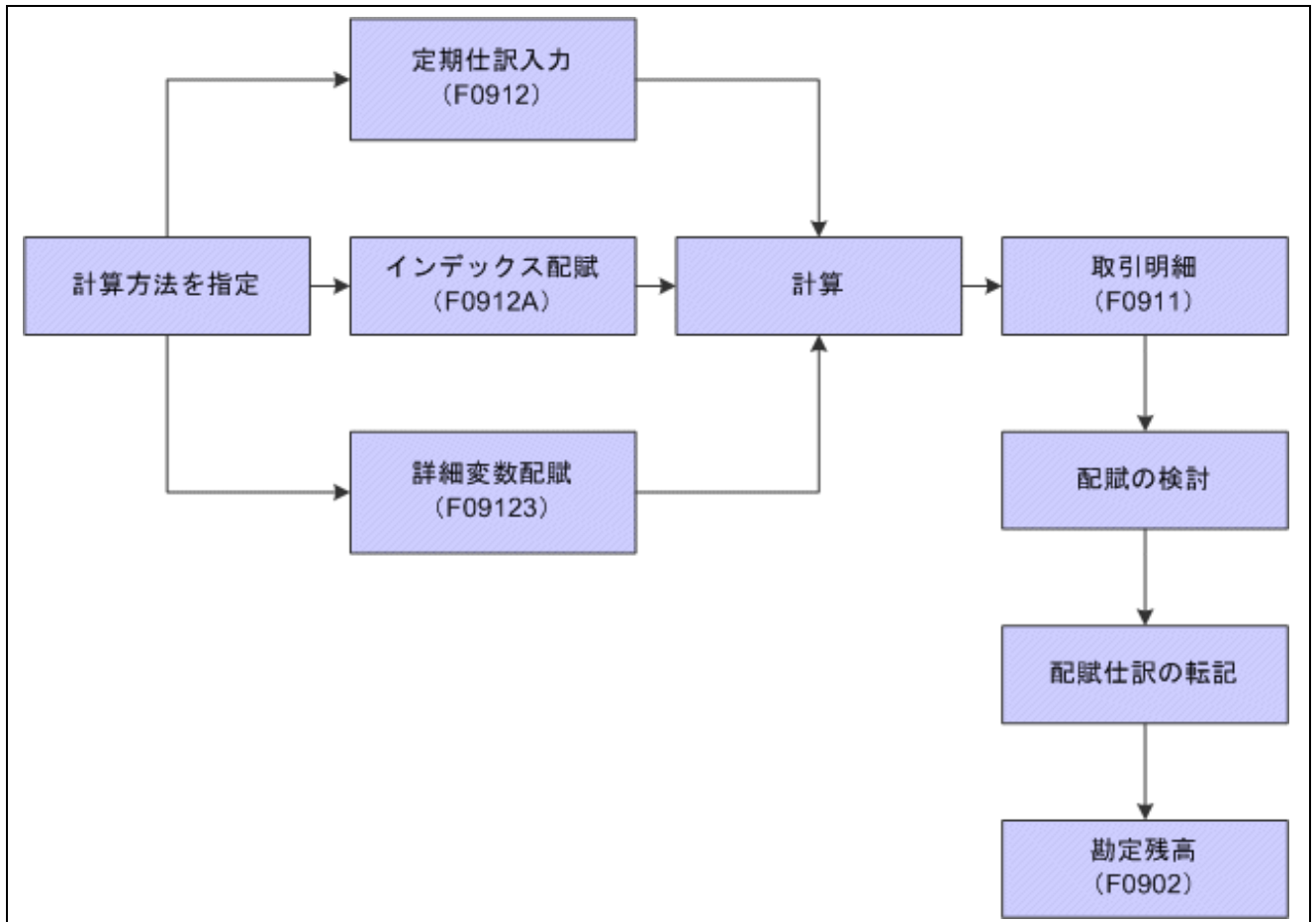
どのタイプの配賦においても、次のステップを行う必要があります。

- 配賦の入力
- 配賦の検討
- 配賦の計算

配賦の計算が終わったら、配賦によって作成された仕訳を検討し転記します。配賦プログラムによって作成された仕訳が適切であるかどうか確認し、エラーがあれば修正してください。総勘定元帳への転記プログラムによって該当するテーブルが更新され、必要な仕訳が作成されます。また、逆配賦として設定された配賦の場合は逆仕訳が作成されます。

配賦には伝票タイプJAを使用してください。すべての配賦でバッチ・タイプDを使用します。

次の図は、配賦の計算によってAA(実績金額)元帳の仕訳がどのように作成されるかを示します。



配賦によって作成されるAA元帳の仕訳

## 多階層配賦について

計算順序を定義する場合は、すべての配賦で多階層の配賦を作成できます。多階層配賦は、複合配賦またはカスケード配賦とも呼ばれます。上の階層の配賦金額が下の階層での計算に使用されます。最高9階層まで使用できます。

次の状況が2つとも発生する場合は、この多階層配賦を行う必要があります。

- すべての本社経費を、倉庫に配賦してからビジネスユニットに配賦する。
- 本社経費だけでなく倉庫コストも、ビジネスユニットに配賦する。

システムが計算を順番に実行できるのは、順序内にあるすべての計算で同じタイプの配賦が使用されている場合だけです。たとえば、インデックス配賦と変数配賦を使用している場合は、順番に計算を実行できません。この計算で異なるタイプの配賦を使用する場合は、各計算を個別に、正しい順序で行う必要があります。また、各計算を個別に転記してから、次の順序の配賦を計算する必要があります。

**注意:** 多階層の配賦では、定期仕訳を使用できません。

---

## この章で使用する共通フィールド

### 転記順序

多層配賦の順序を制御する数値を入力します。関連する仕様が複数あり、ある仕様の結果が同じバッチの後続の仕様に含まれる場合に、数値を入力します。

たとえば、電話会社からすべての長距離通話の月次請求書が送られてくる場合、次のように階層を設定して、支社の各部門に請求書を配賦できます。

階層1: 支社。この階層では、比率またはパーセントを指定して、支社A、B、C間で請求書を配賦できます。

階層2: 支社Aの部門。この階層では、比率またはパーセントを指定して、支社Aの部門X、Y、Z間で請求書を配賦できます。

独立型配賦の場合はこのフィールドをブランクにしてください。

### 配賦率

インデックスまたはレートを示す数値を入力します。元の金額にこの係数を乗算して、配賦金額が求められます。プラスまたはマイナスで、小数点以下8桁以下の数値を指定できます。小数を9桁以上入力すると、8桁に四捨五入されます。

整数部と小数部に大きい数値を指定すると、全桁が表示されない場合があります。小数部がすべて表示されていない場合でも、テーブルには正しく保存されています(最大8桁まで)。

このフィールドをブランクにすると、デフォルトの配賦率は1.00000000となります。

年間予算の場合、ゼロを指定して残高をすべて消去し、新しく予算を作成できます。

### 定期頻度

取引が作成される間隔を示すコードを入力します。値は次のとおりです。

ブランク: 定期作成しない。これは、年間予算を配賦する場合にのみ有効です。

MO: 月次

AN: 年次

WK: 週次

QT: 四半期

SA: 半期

BW: 隔週

---

**注意:** 年間予算の場合は、ブランクまたはANのみ有効です。

---

### 逆仕訳

このチェックボックスを選択すると、当初仕訳を転記したときに逆仕訳が作成されます。一般会計固定情報に基づいて、元帳日付には次の期間の第1日目または最終日が使用されます。

### 期間、年度

基準金額に使用する総勘定元帳の期間を数値で入力します。ブランクの場合、会社の現行期間が使用されます。

基準金額が抽出される会計年度を入力します。このフィールドをブランクにすると、会社の現行会計年度が使用されます。

状況コード	「承認済」または「保留」を選択します。承認済の取引に対してのみ、仕訳の作成と勘定科目の更新が行われます。
停止日付	配賦を停止する日付を入力します。元帳日付が停止日付より小さい場合、またはこのフィールドがブランクの場合、配賦は実行されます。元帳日付が停止日付と同じかまたは大きい場合、配賦は実行されません。

---

## 定期仕訳の処理

この項では、定期仕訳と定期仕訳の計算の概要、および次の方法について説明します。

- 定期仕訳の作成
- 定期仕訳の計算および印刷プログラムの実行
- 定期仕訳の計算および印刷のデータ選択の設定
- 定期仕訳の計算および印刷の処理オプションの設定

### 定期仕訳について

定期仕訳を使用すると、1つまたは複数のビジネスユニットの金額を他のビジネスユニットの勘定科目に振り替えることができます。一定の金額、パーセントまたは単位に基づいた振替が可能です。たとえば、間接費として分類される費用を各部署に配賦できます。

仕訳の金額が変わらないことがわかっている場合は、固定金額で定期仕訳を作成できます。一度仕訳を入力すれば、毎月（または必要に応じた頻度で）、新しい元帳日付で新しい仕訳が作成されます。

固定金額ではなく、パーセントに基づいた定期仕訳を設定することもできます。たとえば、複数のビジネスユニットで設備が共用されることがわかっている場合は、各ビジネスユニットの使用時間のパーセントに基づいてその設備関連の費用（修理や減価償却など）を配賦できます。毎月、設定したパーセントに基づいて修理費と減価償却費の配賦が計算されるようになります。

3番目の定期仕訳の設定方法は、数量に基づく方法です。ある金額に指定する単位の数量がわかっている場合は、単位の数量を各勘定科目に設定できます。入力した数量に基づいて指定する額が配賦されます。たとえば、給与計算部門の管理費を各部門の人数に応じて配賦する場合は、各勘定科目で人数という単位で定期仕訳を設定できます。配賦は、総人数に対するビジネスユニットの人数の割合に配賦先勘定科目の金額を乗算して算出されます。

---

**注意:** 既存の定期仕訳の配賦方法を金額からパーセントや数量に変更することはできません。この変更が必要な場合は、既存の定期仕訳を削除し、配賦方法にパーセントまたは数量を選択して新しい仕訳を追加します。

---

### 定期仕訳の計算および印刷プログラムについて

定期仕訳を検討し問題がないことを確認したら、定期仕訳の計算および印刷プログラム (R09302) を実行し、定期仕訳を処理します。

このプログラムをテスト・モードで実行すると、仕訳は作成されず、レポートが生成されます。このレポートには、プログラムを最終モードで実行した場合に F0911 に作成される仕訳が記載されます。また、エラーの発生した定期仕訳に関するエラー・メッセージも記載されます。無効の勘定科目は \*\*\* で示されます。レポートを検討し、最終モードでプログラムを実行する前に仕訳を変更する必要があるか判断します。

最終モードでは、F0911テーブルに仕訳が作成され、定期頻度および停止日付に応じて元帳日付が更新されます。これにより、定期仕訳を配賦する準備が完了します。バッチ・タイプDが定期仕訳に割り当てられます。

定期仕訳の計算および印刷プログラムは、定期頻度、会社、伝票タイプに応じて、バージョンを分けて作成してください。バージョンを分けることにより、定期仕訳をグループ化できます。

このプログラムを最終モードで実行した後、仕訳の検討および転記を行います。

## 事前設定

定期仕訳の計算および印刷プログラムによって日付が正しく使用されるように、次年度の期間パターンが設定されていることを確認します。

## 定期仕訳処理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
定期仕訳入力の処理	W0912D	「配賦」(G0923)、「定期仕訳の計算」	既存の定期仕訳を検索し、検討します。
定期仕訳入力	W0912A	「定期仕訳入力の処理」フォームで、「追加」をクリックします。	定期仕訳を作成します。

## 定期仕訳の作成

「定期仕訳入力」フォームにアクセスします。

定期仕訳の計算 - 定期仕訳入力

OK(O) 削除(D) 取消(L) ロー(R) ツール(T)

オプション 計算基準

伝票タイプ \* JA 3026 会社 00001 元帳タイプ AA

元帳日付 2005/07/31 停止日付 2006/06/30 状況コード \* A

摘要 \* Accrual of Vacation and Sick M 定期頻度 MO 逆仕訳

配賦方法 &

レコード 1 - 3 グリッドのカスタマイズ

勘定科目コード	配賦値	勘定科目名	補助元帳タイプ	補助元帳	補助元帳名
9.8130	1,500.00	Vacation and Sick Expense			
1.4205	1,500.00	Accrued Payroll			

差額

「定期仕訳入力」フォーム

### 摘要

配賦により作成される各仕訳の2つの記述行の1行目に表示される記述を入力します。このフィールドは必須です。

**配賦方法**

配賦仕訳の計算方法を示すコードを入力します。このコードは、「配賦値」フィールドの値と組み合わせて使用されます。値は次のとおりです。

&: 固定金額

「配賦値」フィールドに指定した金額が配賦されます。この方法は、定期仕訳を作成するのに使用できます。

%: パーセント

「配賦値」フィールドに指定したパーセントを使用して、配賦が実行されます。

U: 数量

「配賦値」フィールドに指定した数量からパーセントを作成して、配賦が実行されます。次に、そのパーセントを使用して、勘定科目の範囲内で金額が配賦されます。使用する数量の例としては、面積や従業員数などがあります。

---

**注意:** パーセントまたは数量を指定すると、「計算基準」タブが有効になります。この場合、金額の配賦元の元帳タイプまたは勘定科目の通貨は、計算の基になる元帳タイプまたはビジネスユニット会社の通貨と同じである必要があります。

---

**主科目/補助科目範囲、  
から**

勘定科目の開始科目と終了科目を入力します。指定した範囲に含まれる勘定科目に転記された金額のみが配賦されます。

**月累計/年累計/予算  
(M/Y/B)**

配賦の基準を、月累計、年累計、最終予算金額の中から、コードで入力します。配賦方法にパーセントまたは数量を指定した場合、このフィールドは必須です。値は次のとおりです。

M: 月累計

月単位(その月に転記する月次計上額)が基準となります。

月累計を基準にした配賦の場合、前の月の修正は含まれませんが、年累計の場合は含まれます。

Y: 年累計

期末残高が基準となります。損益勘定の場合は、その年の全転記額の合計が基準となります。貸借対照表勘定の場合は、累計(開始日以降累計)残高です。見越し定期仕訳の場合は、「逆仕訳」チェックボックスを選択します。

B: 最終予算

JD Edwards EnterpriseOne 一般会計システムおよび JD Edwards EnterpriseOne 作業原価システムでは、当初予算とも呼ばれています。仕訳は作成されません。予算元帳タイプのみ使用します。

**期間**

基準金額に使用する総勘定元帳の期間を数値で入力します。ブランクの場合、現行期間が使用されます。

**配賦値**

関連する勘定科目コードの勘定残高に追加される金額を入力します。貸方の金額は、金額の前か後にマイナス(-)の符号を付けて入力します。

配賦方法がパーセントの場合は、特定の勘定科目に配賦するパーセントを入力します。合計パーセントは必ずしも100にする必要はありませんが、元帳タイプ・マスターの設定プログラム(P0025)で元帳の貸借一致を必須

にするオプションを選択している場合は、借方と貸方が一致している必要があります。

配賦方法が数量の場合は、勘定科目の数量を入力します。金額は、総数量に対する勘定科目の数量の割合（パーセント）に基づいて配賦されます。

## 定期仕訳の計算および印刷プログラムの実行

「配賦」(G0923)の「定期仕訳の計算および印刷」を選択します。

## 定期仕訳の計算および印刷のデータ選択の設定

データ選択で伝票番号と定期頻度を使用して、処理対象の仕訳を指定します。

## 定期仕訳の計算および印刷(R09302)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 終了日付

1. 終了日付 配賦の終了日付を入力します。空白にすると、現在の日付が使用されます。

### モード

1. 処理モード 処理モードを入力します。値は次のとおりです。  
1: テスト・モード(レポートの作成)  
2: 最終モード(取引の作成)

---

## インデックス配賦の処理

この項では、インデックス配賦と“インデックス計算および印刷”プログラムの概要、および次の方法について説明します。

- インデックス配賦の作成
- インデックス計算および印刷プログラムの実行
- インデックス計算および印刷プログラムのデータ選択とデータ順序の設定
- インデックス計算および印刷の処理オプションの設定

## インデックス配賦について

インデックス配賦を使用して、1つまたは一連のビジネスユニットを別の1つのビジネスユニットまたは一連のビジネスユニットに金額を振り替えることができます。インデックス配賦にはコピー機能があるため、柔軟性に優れた、最もよく使用される配賦方法です。たとえば、今年の実績金額を来年の予算にコピーできます。インデックス配賦は、次の用途にも使用できます。

- 間接費として分類された費用を組織内のビジネスユニットまたは会社配賦
- ある会社から別の会社への配賦

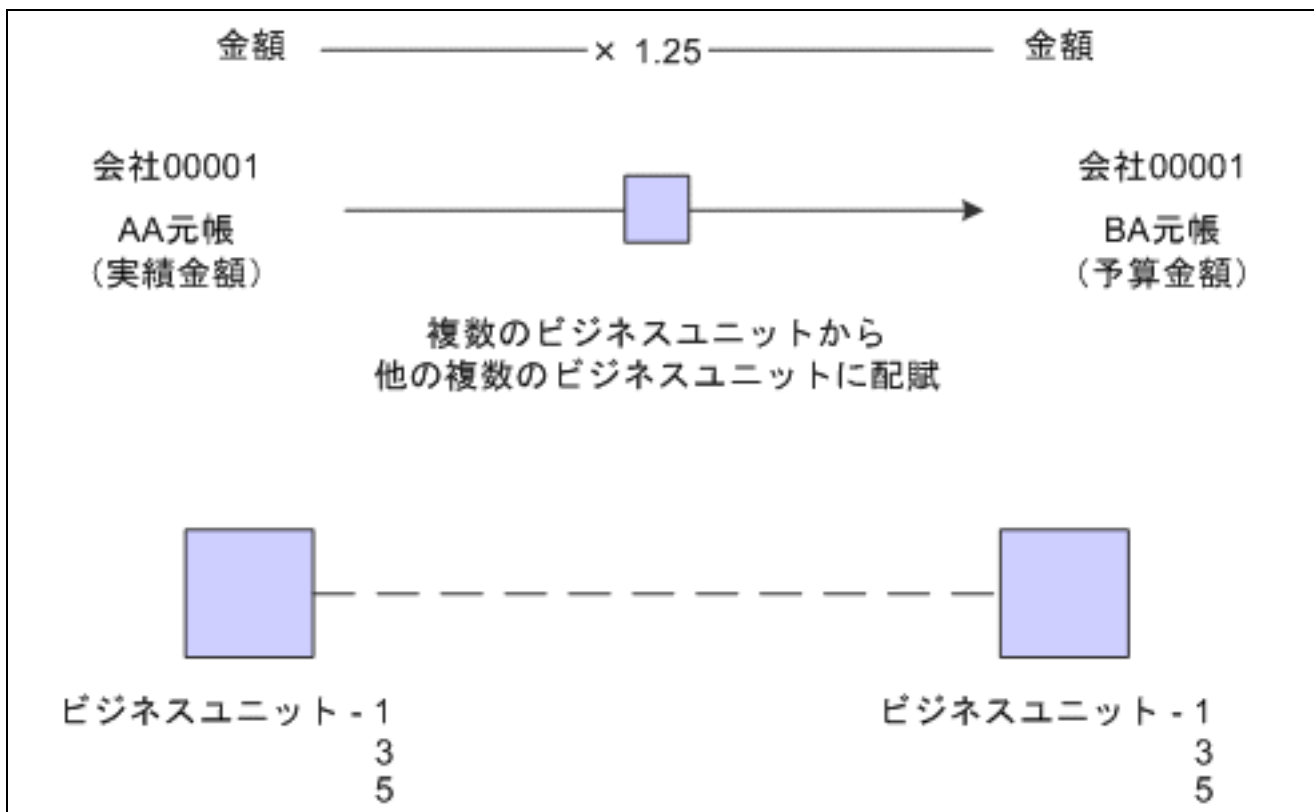


- 金額にマイナスまたはプラスの係数を乗算してから配賦
  - 実績金額に一定のパーセントを掛けて、その金額を予算金額元帳へ配賦
  - 別の勘定科目へ予算金額を配賦
  - 予算フィールド(BORG、BREQ、BAPR)に配賦またはゼロを入力
  - 年次または月次予算を設定
  - 勘定科目にゼロを設定
  - F0911テーブルに各取引を基準として配賦を作成、またはF0902テーブルの勘定残高を直接更新
- インデックス計算は、インデックス配賦入力ファイル・テーブル(F0912A)で管理されます。

1つの勘定科目または特定範囲の勘定科目の残高に対して、インデックスまたは比率を適用できます。計算の結果得られた残高は、別の勘定、期間、元帳に対して配賦されます。

インデックス配賦を使用して予算を作成するには、残高方式を使用して「インデックス配賦」フォームの詳細グリッドにある各予算フィールドに値を入力します。

次の図は、インデックス配賦を使用してAA元帳からBA元帳へ金額を配賦して予算を作成する方法を示します。



インデックス配賦の使用

### 例: インデックス配賦

次の例では、AA元帳の勘定科目6110から6320の年度末残高にそれぞれ1.1(現行年度の残高の10%増)が乗算されます。計算結果は、翌年のBA元帳の同じ勘定科目コードに記載されます。

名称	値
年累計勘定残高	50,000
インデックスまたは比率	1.1
次年度に配賦される予算	55,000

## インデックス計算および印刷プログラムについて

インデックス配賦を検討し問題がないことを確認したら、インデックス計算および印刷プログラム(R093021)を実行します。

このプログラムをテスト・モードで実行すると、最終モードで作成される仕訳を示したレポートが出力されます。レポートを検討して最終モードでプログラムを実行する前に配賦を変更する必要があるかを判断します。

最終モードでは、次の処理が実行されます。

- 配賦方式に基づいて、1つまたは複数の勘定科目から、残高または取引が読み込まれます。
- 指定された率で各残高または取引が乗算されます。
- F0911テーブルにバッチ・タイプDで仕訳が作成されます。

残高配賦方式の場合は、1つの勘定科目または特定範囲内の各勘定科目の残高に基づいて仕訳が作成されます。取引配賦方式の場合は、読み込まれる取引と同額の仕訳が作成されます。

- 必要に応じて仕訳の貸借を一致させるため、差額が計算されて勘定科目に配賦されます。
- 配賦の定期頻度に基づいて元帳日付が変更されます。これにより、将来の配賦処理が実行できるようになります。
- 更新の配賦方式の場合は、元帳タイプがAA以外のF0902テーブルの残高のみが更新されます。
- インデックス計算仕訳レポートが印刷されます。

このレポートには、配賦に関する詳細情報や、無効な勘定科目や過去期間(PBCO)の仕訳などのエラーが表示されます。無効の勘定科目は\*\*\*で示されます。

インデックス仕訳の計算および印刷プログラムでは、定期頻度、会社、伝票タイプごとにバージョンを分けて作成してください。バージョンを分けることにより、配賦をグループ化できます。

このプログラムを最終モードで実行した後、仕訳の検討および転記を行います。

## 事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 日付が正しく設定されるように、次の月または次年度の会計期間パターンが設定されていることを確認します。
- 多階層計算プログラムを実行する前に、配賦が正確な順序で実行されるように、「インデックス配賦」フォームの転記順序が正しいことを確認します。

# インデックス配賦の作成に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
インデックス計算の処理	W09121C	「配賦」(G0923)、「インデックス計算」	既存のインデックス配賦を検索し、検討します。
インデックス配賦	W09121A	「インデックス計算の処理」フォームで、「追加」をクリックします。	インデックス配賦を作成します。

## インデックス配賦の作成

「インデックス配賦」フォームにアクセスします。

インデックス計算 - インデックス配賦

OK(O) 削除(D) 取消(L) ロー(R) ツール(T)

伝票タイプ/No. JA 1066 会社 00001 ☐ 逆仕訳

元帳日付 ★ 2005/06/30 摘要 ★ Allocate Advertising Expense

定期頻度 MO 転記順序 停止日付

勘定科目 9.8605 Advertising

計算基準

期間の指定

状況

方式

レコード 1 - 4

グリッドのカスタマイズ

	配賦元 ビジネスユニ ット	配賦 元主科目	終了 主科目	配賦 元元帳 タイプ *	配賦率	配賦先 ビジネス ユニット *	配賦 先主科目	配賦 先元帳 タイプ *	備考	配賦元 補助科目	終了 補助科目	配賦先 補助科目	配賦先 補助科目
<input type="checkbox"/>	9	8605	8605	AA	.35000000	3	8605	AA	Allocate Advertising Expense				
<input type="checkbox"/>	9	8605	8605	AA	.20000000	4	8605	AA					
<input type="checkbox"/>	9	8605	8605	AA	.15000000	5	8605	AA					
<input type="checkbox"/>													

「インデックス配賦」フォーム

- 会社

会社番号を入力します。この会社の現行の期間、会計年度、元帳日付を使用して、計算と「元帳日付」フィールドを基にしたエラーの特定が行われます。この会社番号は、作成される仕訳には影響しません。
- 摘要

配賦についての説明を入力します。入力した内容は、計算により作成される各仕訳の2つの記述行の2行目に表示されます。このフィールドは必須です。
- 勘定科目

仕訳の貸借一致または相殺に使用する勘定科目を入力します。このフィールドは、貸借一致が必要なすべての元帳タイプで必須です。ビジネスユニット.主科目.補助科目の形式で入力してください。

予算など貸借が一致しない元帳タイプの場合は、このフィールドを空白にし、「インデックス配賦」フォームの詳細グリッドの各年間予算フィールドを使用します。

<b>期間計上額、年累計額</b>	<p>配賦の基準を月累計にするか年累計にするかをコードで入力します。値は次のとおりです。</p> <p>M: 月累計</p> <p>月単位(その月に転記する月次計上額)が基準となります。配賦基準に前の月の修正は含まれません。</p> <p>Y: 年累計</p> <p>期末残高が基準となります。損益勘定の場合は、その年の全転記額の合計が基準となります。貸借対照表勘定の場合は、累計(開始日以降累計)残高です。配賦基準には前の月の修正が含まれます。定期の年配賦を行う場合は、「逆仕訳」チェックボックスを選択すると逆仕訳が自動的に設定されます。</p>
<b>残高、取引、更新</b>	<p>配賦仕訳の作成または更新方式を次のオプションの中から1つ選択します。</p> <p>残高方式。F0902テーブルの1つの勘定科目または特定範囲内の各勘定科目の残高に基づいて仕訳を作成します。年間予算の場合は、この方式を使用してください。その場合、仕訳は作成されません。</p> <p>取引方式。F0911テーブルの転記済取引のうち、指定した範囲の勘定科目の各取引に対して1件ずつ仕訳を作成します。</p> <p>更新方式。F0902テーブルのAA元帳タイプ以外の勘定残高を更新します。仕訳は作成されません。</p>
<b>配賦元ビジネスユニット</b>	<p>特定のビジネスユニットを入力します。または「*xxxxx」(アスタリスクおよび会社番号)を入力すると、会社のビジネスユニットをすべて指定できます。「*xxxxx」を入力した場合は、その会社のビジネスユニットすべてが使用され、設定されているビジネスユニット・セキュリティは無視されます。たとえば、「*00001」を指定した場合、会社00001のすべてのビジネスユニットに対して配賦が行われます。通常アクセス権限がビジネスユニット3に制限されている場合でも、ビジネスユニット・セキュリティは無視されます。</p> <p>「*00000」を入力して、すべての会社のすべてのビジネスユニットは指定できません。</p>
<b>配賦先ビジネスユニット</b>	<p>特定のビジネスユニットを入力します。または「*」を入力すると、「配賦元ビジネスユニット」フィールドに入力したビジネスユニットに転記されます。</p>
<b>配賦元予算コード</b>	<p>年間予算の場合にのみ、値を入力します。値は次のとおりです。</p> <p>1: 申請予算</p> <p>2: 承認予算</p> <p>3: 最終予算</p> <hr/> <p><b>注意:</b> この3つのコードは、残高方式を指定し、定期頻度にAN(年次)を指定した場合にのみ有効です。</p> <hr/>
<b>配賦先主科目</b>	<p>特定の勘定科目を入力します。または「*」を入力すると、「配賦元主科目」フィールドの勘定科目と同じ勘定科目に転記されます。</p>
<b>配賦先補助科目</b>	<p>「*」を入力すると、「配賦元主科目」フィールドの補助元帳が「終了主科目」フィールドに適用されます。この場合は、「配賦先主科目」フィールドにも「*」を指定してください。</p>

**配賦先元帳タイプ**

元帳タイプを入力します。年間予算の場合、このフィールドを空白にすると、デフォルトはBAになります。他の元帳タイプの場合、このフィールドを空白にすると、デフォルトはAAになります。

**備考**

配賦についての説明を入力します。入力した内容は、計算により作成される各仕訳の2つの記述行の2行目に表示されます。

**インデックス計算および印刷プログラムの実行**

「配賦」(G0923)の「インデックス計算および印刷」を選択します。

**インデックス計算および印刷プログラムのデータ選択とデータ順序の設定**

伝票番号を使用して処理対象の配賦を指定します。

多階層配賦を行う場合は、階層に含める配賦伝票番号をすべて指定します。たとえば、多階層配賦が伝票JA 1000、JA 1001、JA 1002からなる場合は、データ選択に伝票1000、1001、1002を含めます。

このプログラムのデモ・バージョンで設定されているデータ順序は変更しないでください。

**インデックス計算および印刷(R093021)の処理オプションの設定**

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

**モード****1. 処理モード**

処理モードを入力します。値は次のとおりです。

- 1: テスト・モード(レポートの作成)
- 2: 最終モード(取引の作成)

**監査証跡****1. 履歴の印刷**

監査証跡を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: 仕訳のみ印刷する。

- 1: 各仕訳のすべての取引または勘定科目の監査証跡を印刷する。

**配賦の設定****1. 終了日付**

配賦の終了日付を入力します。この処理オプションを空白にすると、配賦を処理した日付が使用されます。

**多階層****1. 多階層処理**

多階層を含めるかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: このバッチの前に作成された転記済取引のみ含める。

R: このバッチで作成された取引の金額を多階層の合計に含める。

**摘要****1. 仕訳の摘要**

仕訳の摘要の処理方法を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 詳細情報の1行目の説明が入る。

1: 計算の基になる取引明細から新規の取引の1行目の説明が入る。

この処理オプションは、取引配賦方法にのみに適用されます。

## エラー

### 1. エラー処理

エラー・メッセージの送信先を指定します。

ブランク: ワーク・センターに送信する。

1: レポートにエラーを印刷する。

## 警告のログ

### 1. 警告処理

エラーと警告を記録するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: すべてのエラーと警告を記録する。

1: 警告を記録しない。

---

## 詳細変数配賦の処理

この項では、詳細変数配賦、勘定残高ベースの配賦、間接費ベースの配賦の概要と次の方法について説明します。

- 詳細変数配賦の計算
- 詳細変数配賦の計算のデータ選択の設定
- 詳細変数配賦の計算(R09123)の処理オプションの設定

### 関連項目:

第 5 章、「詳細変数配賦の設定」、45ページ

## 詳細変数配賦について

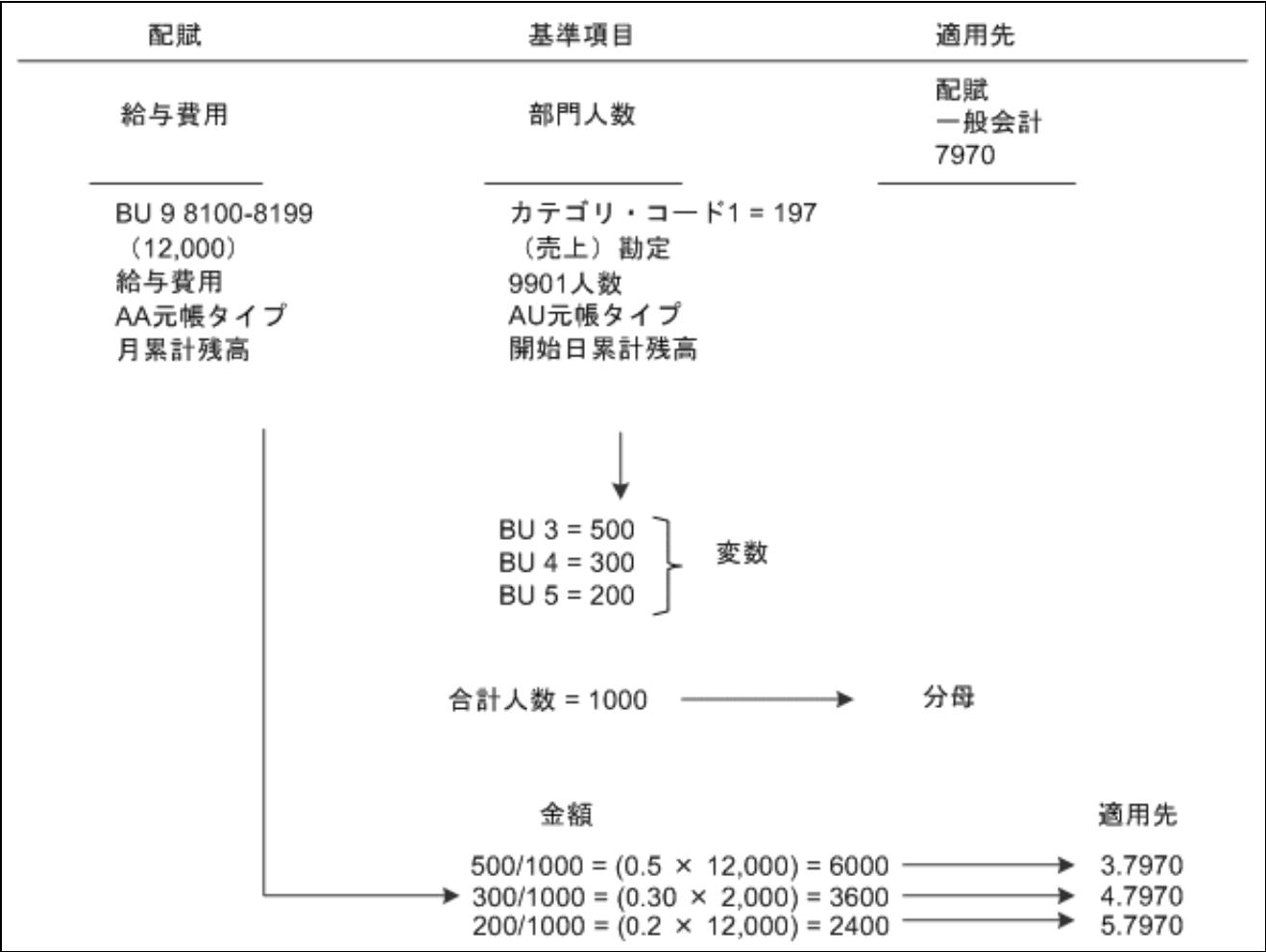
詳細変数配賦を使用すると、次の処理ができます。

- 1つのビジネスユニットから他の複数のビジネスユニットに金額を配賦します。
- 人数や床面積、使用率などの変数を配賦の基準とします。変数に変更されると、配賦率も自動的に変更されます。
- 予算金額を設定します。

1つの勘定科目または指定した範囲の勘定科目の残高に適用されるパーセントが計算され、変数配賦が計算されます。配賦先勘定科目を適切に設定すれば、主科目に対して指定した範囲の補助科目および補助元帳に配賦できます。パーセントは、指定した勘定科目の合計残高に対する割合を示します。この割合は、残高合計を分母、各勘定残高を分子として計算されます。

### 例: 変数配賦

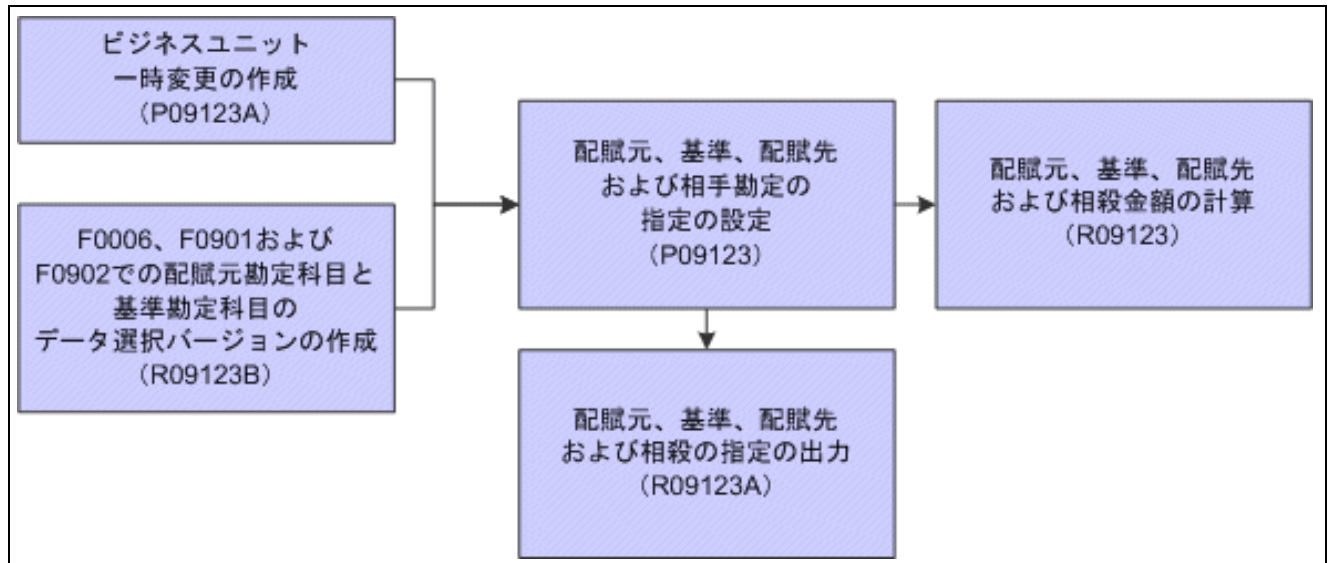
この例では、年累計給与費用金額(12,000.00米ドル)を複数のビジネスユニット(元帳タイプBU)に配賦します。各ビジネスユニットに対する配賦額の基準として各部署の従業員数を使用します。



費用の配賦

## 勘定残高ベースの配賦について

勘定残高ベースの配賦の場合、詳細変数配賦の処理の大部分は、次の図に示すような設定タスクです。



勘定科目ベースの取引処理の詳細変数配賦

通常、配賦の設定タスクの完了後は、結果に問題がなくなるまで仕様を改訂して出力をテストします。初期設定を行った後は、新しい要件を受け取った場合または組織に変更があった場合にのみ、仕様を改訂します。

定期的に、設定した仕様に基づいて配賦を計算します。配賦の計算は配賦処理における最終ステップであり、定期的に繰り返されます。この作業を行うには、詳細変数配賦の計算プログラム(R09123)を実行します。

### 勘定残高ベースの配賦のためのR09123プログラムの実行

勘定残高ベースの配賦の場合、R09123プログラムで次のタスクを実行します。

- R09123Bプログラムのバージョンが起動されます。バージョンには配賦元勘定科目および基準勘定科目のデータ選択が含まれます。詳細変数配賦プログラム(P09123)で各配賦のバージョンを指定してください。
- P09123プログラムで配賦に対して設定した仕様に基づいて、F0006、F0901およびF0902テーブルからレコードが取得されます。
- 基準比率の値に基づいて、配賦率(%)が計算されます。配賦の基準比率として、次の変数のいずれかを選択できます。
  - ビジネスユニット
  - 関連ビジネスユニット
  - カテゴリ・コード1から50
  - ビジネスユニット・タイプ
- 基準勘定科目から計算された比率、またはビジネスユニット一時変更(該当する場合)に基づいて、金額および数量が配賦元勘定科目から配賦先勘定科目に配賦されます。F0911テーブルに仕訳が作成されます。
- 配賦仕訳の貸借を一致させるための相殺金額が、F0911テーブルに作成されます。
- 詳細変数配賦の計算レポート(R09123)に基づいて、配賦元レコード、基準レコード、配賦先レコードおよび相殺レコードが出力されます。



また、R09123レポートには配賦に関する詳細情報や、無効な勘定科目や過去期間(PBCO)の仕訳などのエラーも表示されます。定期頻度、会社、伝票タイプごとに別々のバージョンを作成してください。バージョンを分けることにより、配賦をグループ化できます。

- 定期頻度に応じて配賦の元帳日付が変更されます。これにより、将来の配賦処理が実行できるようになります。

## 間接費ベースの配賦について

勘定残高ベースの配賦に使用されるプログラムとは異なり、間接費ベースの配賦用のプログラムでは、配賦の配賦元金額と基準金額は、間接費集計元帳テーブル(F52G02)のデータに基づいて計算されます。勘定残高ベースの配賦と同じように、間接費ベースの配賦でもF0901およびF0006テーブルのデータを使用します。

間接費ベースの取引では、配賦の基準比率として、次の変数のいずれかを選択できます。

- 契約タイプ(ユーザー定義コード(UDC)テーブル51/CT)
- 従業員プール・グループ・コード(UDCテーブル00/12)
- 職務プール・グループ・コード(UDCテーブル00/12)
- ビジネスユニット、関連ビジネスユニット、ビジネスユニット・タイプおよびカテゴリ・コード1から50

詳細変数配賦プログラムを使用すると、間接費ベースの取引の複雑な配賦を実行できます。この機能で実行できる処理には次のものがあります。

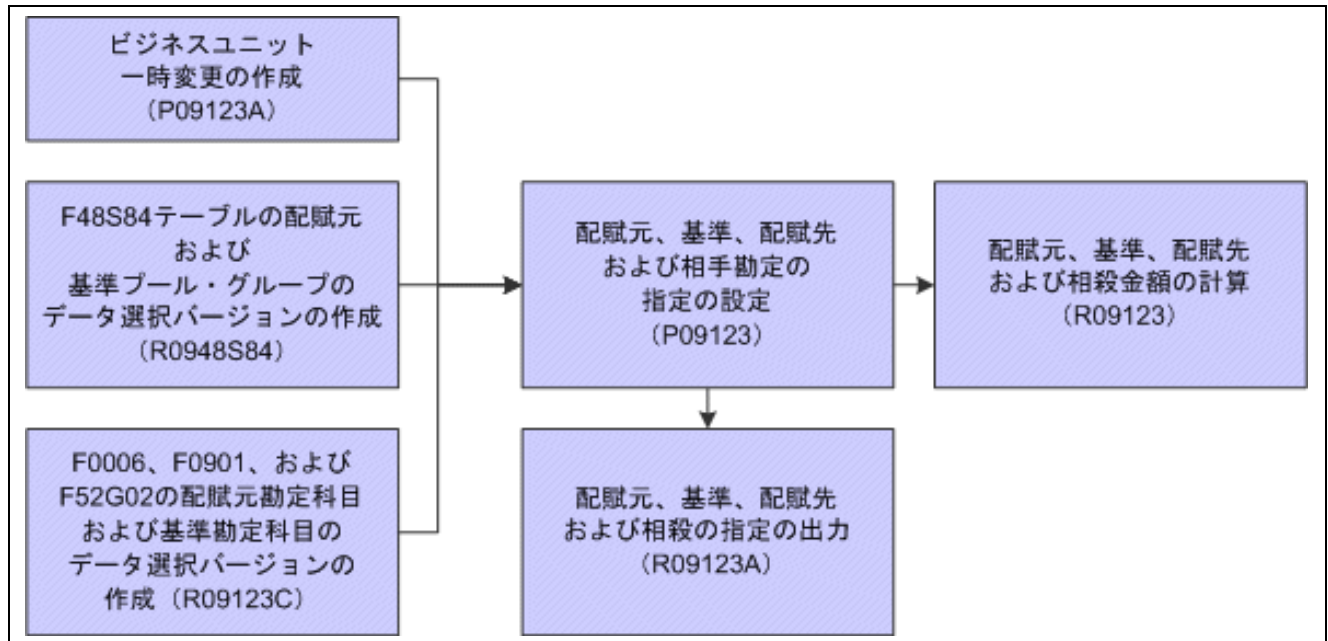
- 配賦元または基準データの選択(R09123C)で、F52G02テーブルにある諸手当や間接費用の間接費カテゴリなどの特定の基準を、追加または除外します。
- 各配賦の配賦元および基準の間接費タイプ(コストまたは代替コスト)を指定します(P09123)。
- 直接配賦の場合は、基準ビジネスユニットを配賦先ビジネスユニットとして使用するか、契約マスターからビジネスユニットを取得します。
- 間接配賦の場合は、基準ビジネスユニットを配賦先ビジネスユニットとして使用します。または、配賦先ビジネスユニット一時変更を設定して、配賦先の金額として複数の基準値を配賦できます。

たとえば、基準ビジネスユニットにプール1と2(それぞれ10個のビジネスユニットを含む)の基準値が含まれているとします。プール1の配賦先項目が一時変更ビジネスユニットAに記録され、プール2の配賦先項目が一時変更ビジネスユニットBに記録されるように配賦を設定できます。

- 配賦元またはデータ選択(R0948S84)で、従業員または職務(F48S84テーブルに属す)の所属ビジネスユニットに応じた、労務費の直接配賦を定義します。次に、配賦の従業員プールまたは職務プールのグループ・コードを指定します(P09123)。
- 配賦元および基準に対するユーザー指定日付に基づいて配賦を計算します(P09123)。次に、処理オプションで開始期間と終了期間および会計年度を指定します(R09123)。
- 1つの配賦の結果を別の配賦の配賦元または基準として使用します。このためには、配賦をバッチに分けて実行し、それらのバッチを1つのスレッドで実行するようにスケジュールする必要があります。R09123プログラムの処理オプションで、総勘定元帳への転記(R09801)のバージョンを指定してR52G11プログラムのバージョンを呼び出し、F52G11およびG52G02テーブルに間接費取引を作成します。最初の配賦の結果を間接費処理してから、次の配賦を実行する必要があります。そうしないと、第2の配賦の結果が不正確になります。

間接費ベースの配賦および勘定残高ベースの配賦に使用できる機能として、基準となる値に対する配賦先ビジネスユニット一時変更の作成(P09123A)と、配賦元または基準勘定科目と異なる配賦先勘定科目の指定(P09123)があります。

間接費ベースの配賦の場合、詳細変数配賦の処理の大部分は、次の図に示すような設定タスクです。



間接費ベースの取引の詳細変数配賦

通常、配賦の設定タスクの完了後は、結果に問題がなくなるまで仕様を改訂して出力をテストします。初期の設定後は、新しい要件を受け取った場合または組織に変更が発生した場合にのみ、仕様を改訂します。

定期的に、設定した仕様に基づいて配賦を計算します。配賦の計算は配賦処理における最終ステップであり、定期的に繰り返されます。この作業を行うには、R09123プログラムを実行します。

### 間接費ベースの配賦のためのR09123プログラムの実行

間接費ベースの配賦の場合、R09123プログラムで実行するのは次の処理です。

- R09123Cプログラムのバージョンが起動されます。R09123Cのバージョンには配賦元勘定科目および基準勘定科目のデータ選択が含まれます。
- R0948S84プログラムのバージョンが起動されます。R0948S84のバージョンには、配賦元および基準プール・グループ・コードのデータ選択が含まれます。
- P09123プログラムで配賦に対して設定した仕様に基づいて、F0006、F0901およびF52G02テーブルからレコードが取得されます。F48S84テーブルからもレコードが取得されます。
- 基準比率の値に基づいて、配賦率(%)が計算されます。配賦の基準比率として、次の変数のいずれかを選択できます。
  - 契約タイプ
  - 従業員プール・グループ・コード
  - 職務プール・グループ・コード
  - ビジネスユニット、関連ビジネスユニット、ビジネスユニット・タイプおよびカテゴリ・コード1から50
- 基準勘定科目および基準比率から計算された比率に基づいて、金額および数量が配賦元勘定科目から配賦先勘定科目に配賦されます。F0911テーブルに仕訳が作成されます。
- 配賦仕訳の貸借を一致させるための相殺金額が、F0911テーブルに作成されます。
- 詳細変数配賦の計算レポート(R09123)に基づいて、配賦元レコード、基準レコード、配賦先レコードおよび相殺レコードが出力されます。

## 事前設定

多階層計算を使用して詳細変数配賦の計算プログラムのバージョンを実行する前に、「詳細変数配賦計算の指定」フォームの「転記グループ」および「転記順序」フィールドの値が正しいことを確認してください。

間接費ベースの配賦のために詳細変数配賦の計算プログラムを実行する前に、総勘定元帳への転記プログラム(R09801)の「間接費取引作成のバージョン」処理オプションでバージョン番号が入力されていることを確認してください。この処理オプションを空白にした場合は、F52G02テーブルに間接費の集計情報が作成されません。

## 詳細変数配賦の計算

「詳細変数配賦」(24/G0923)の「詳細変数配賦の計算」を選択します。

## 詳細変数配賦の計算のデータ選択の設定

伝票番号を使用して計算対象の配賦を指定します。

多階層配賦を行う場合は、階層に含める配賦伝票番号をすべて指定します。たとえば、多階層配賦が伝票JA 1000、JA 1001、JA 1002からなる場合は、データ選択に伝票1000、1001、1002を含めます。

## 詳細変数配賦の計算(R09123)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムのデフォルト処理を指定できます。

### 処理

#### 1. 処理モード

バッチをテスト・モードと最終モードのどちらで処理するかを指定します。値は次のとおりです。

空白: テスト・モード(デフォルト)。

1: 最終モード。テーブルが更新されます。

#### 2. 逆仕訳しない

作成された取引を逆仕訳するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: 各配賦の逆仕訳フラグの設定に基づいて、取引を逆仕訳する。

1: 取引を逆仕訳しない。この処理オプションは、各配賦の逆仕訳フラグの設定を一時変更します。

---

**注意:** 年末配賦では、一般会計固定情報で指定したように次の会計年度の最初の期間に逆仕訳を作成しない場合は、この処理オプションを1に設定します。

---

#### 3. 転記のバージョン

作成された取引を処理するための総勘定元帳への転記プログラム(R09801)のバージョンを指定します。空白にすると、取引は転記されません。

---

**注意:** 間接費ベースの配賦では、最初の配賦の結果を別の配賦の配賦元または基準として使用できます。作成された取引の間接費を次のバッチ配賦の対象に含めるには、この処理オプションで入力したR09801のバージョンで、F52G11およびF52G02テーブルに間接費配賦取引を作成するR52G11のバージョンを必ず指定します。そうしないと、第2の配賦の結果が不正確になります。

---

## 選択

### 1. 終了元帳日付

配賦を含める終了元帳日付を指定します。この処理オプションで指定した日付と同じまたはそれより前の元帳日付を持つすべての配賦が選択されます。この処理オプションをブランクにすると、現在の日付が使用されます。

**注意:** 配賦元および基準の期間基準がユーザー指定日付である場合は、このタブの残りの処理オプションの値を入力する必要があります。それ以外の場合、それらの処理オプションは無視されます。

### 2. ユーザー定義の配賦元 開始期間番号、3. ユー ザー定義の配賦元開始会 計年度

配賦元の金額と数量を取得する日付範囲の開始期間と会計年度を指定します。

### 4. ユーザー定義の配賦元 終了期間番号、5. ユー ザー定義の配賦元終了会 計年度

配賦元の金額と数量を取得する日付範囲の終了期間と会計年度を指定します。

### 6. ユーザー定義の基準開 始期間番号、7. ユーザー 定義の基準開始会計年度

基準の金額と数量を取得する日付範囲の開始期間と会計年度を指定します。

### 8. ユーザー定義の基準終 了期間番号、9. ユーザー 定義の基準終了会計年度

基準の金額と数量を取得する日付範囲の終了期間と会計年度を指定します。

## 表示

### 1. 配賦元を印刷しない

レポートに配賦元レコードを印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 配賦元レコードを印刷する。

1: 配賦元レコードを印刷しない。

### 2. 基準を印刷しない

レポートに基準レコードを印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 基準レコードを印刷する。

1: 基準レコードを印刷しない。

### 3. ゼロの金額/数量を印 刷しない

配賦元レコードおよび基準レコードのゼロの金額/数量を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: ゼロの金額/数量を印刷する。

1: ゼロの金額/数量を印刷しない。

### 4. 配賦定義の印刷

配賦定義を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 配賦定義を印刷しない。

1: 配賦定義を印刷する。詳細変数配賦定義の印刷(R09123A)が呼び出されます。

## 5. エラーの印刷

エラーをワーク・センターに送信するか、またはレポートに印刷するかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: ワーク・センターにエラーを送信する。

1: レポートにエラーを印刷する。



## 第 16 章

# 間接費の処理

この章では、間接費処理の概要と間接費取引の作成方法について説明します。

---

## 間接費処理について

間接費処理は、ロード済原価を、ビジネス遂行の直接費に対して適用する処理です。適用される間接費として次のような原価があります。

- 諸手当
- 間接費
- 材料取扱
- 一般管理費 (G&A)

総勘定元帳テーブル (F0911) の給与計算レコード、伝票、受注オーダーなどの取引内の原価とみなされる金額を入力として、間接費取引の作成プログラム (R52G11) を実行すると、これらの取引の金額に間接費レートが適用され、レコードが間接費明細元帳テーブル (F52G11) および間接費集計元帳テーブル (F52G02) に作成されます。次に、詳細変数配賦機能を使用して、間接費ベース配賦を作成します。間接費ベース配賦用のプログラムでは、配賦の配賦元金額および基準金額は F52G02 テーブルのデータに基づいて計算されます。

参照: 第 5 章、「詳細変数配賦の設定」、「間接費ベースの配賦について」、47ページ

JD Edwards EnterpriseOne 契約請求システムを使用している場合は、ワークファイルの生成プログラム (R48120) により、F52G11 テーブルのレコードを使用して、該当する間接費取引が請求ワークファイル・テーブル (F4812) に追加されます。R48120 プログラムにより間接費取引が F4812 テーブルに追加され、請求書処理および収益計上に間接費の金額を含めることができるようになります。

JD Edwards EnterpriseOne Project and Government Contract Accounting (PGCA) システムに含まれる請求書間接費/追加料金規則プログラム (P52G86) では、請求書に間接費取引をどのように印刷するかを指定できます。たとえば、間接費取引を、各基本レコードの後に印刷したり、間接費カテゴリ別に個別のセクションに印刷できます。

---

**注意:** 「プロジェクトおよび公共事業契約の請求書印刷設定」メニュー (G5223) で P52G86 プログラムおよびその他すべてのプログラムを使用するには、請求固定情報プログラム (P48091) で「米国公共事業契約勘定使用」チェックボックスを選択する必要があります。

---

## 事前設定

間接費取引を処理するには、次の作業を完了しておく必要があります。

- 請求固定情報プログラム (P48091) で間接費固定情報を設定します。

- 間接費のPLxx AAI(自動仕訳)を設定します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「AAI(自動仕訳)の設定」、「AAIについて」

- ユーザー定義コード(UDC)テーブル52G/BLに、間接費処理の対象とする元帳タイプを設定します。
- セグメント情報、プール情報および間接費レートを設定します。

参照: 第 4 章、「間接費の設定」、31ページ

---

## 間接費取引の作成

この項では、間接費取引の作成プログラム(R52G11)の概要と次の方法について説明します。

- 間接費取引の作成(R52G11)の処理オプションの設定
- 間接費取引の作成プログラムの実行

### 間接費取引の作成プログラムについて

R52G11プログラムを実行すると、次の処理が行われます。

- PLxx AAIで設定された勘定科目とUDCテーブル52G/BLに設定された元帳タイプを使用して、処理の対象となる取引が決定されます。
- 原価、代替原価、請求書および収益のセグメント・ソース、間接費有効日基準および間接費レート・タイプが請求固定情報から取得されます。
- セグメント・ソースに基づいて、請求固定情報プログラム(P48091)からプール・グループ・コードが決定され、プール・グループ・コードを使用してプール・グループ・コード・テーブル(F48S84)からセグメントが決定されます。

基本レコードに従業員の職務または所属ビジネスのいずれのプール・グループ・コードも含まれていない場合、間接費処理は実行されません。

- プール・グループ・コード・テーブル(F48S84)から取得されたセグメントを使用して、セグメント定義テーブル(F48S80)から間接費カテゴリおよび間接費ソースが取得されます。

---

**注意:**「FCCM」(施設資本 - 資本コスト)チェックボックスが契約に対して選択されておらず、間接費カテゴリの「FCCM」チェックボックスが選択されている場合、間接費カテゴリは処理の対象となりません。

契約で「FCCM」チェックボックスが選択されている場合は、間接費カテゴリで「FCCM」チェックボックスが選択されているかどうかに関係なく、間接費カテゴリが処理の対象となります。

---

- 間接費基本規則テーブル(F48S82)にアクセスして、間接費カテゴリが取引に適用されるかどうかが決まります。

間接費カテゴリが取引に適用される場合は、間接費計算方法が取得されます。間接費カテゴリが取引に適用されない場合、間接費取引は作成されません。

- セグメントの間接費カテゴリに関連付けられた間接費ソースを使用して、プール・グループ・コード・テーブル(F48S84)からプールIDが取得されます。
- 間接費計算方法テーブル(F48S81)を使用して、間接費カテゴリ計算の基準が決定されます。



- 有効日付、間接費カテゴリおよびプールIDに一致する間接費レート・タイプごとに、間接費レート・テーブル (F48S85) から間接費レートが取得されます。
- 契約を確認して、契約固有レート・タイプおよび上限最高額が存在するかどうかが判別されます。  
上限最高額が存在する場合、契約固有レート・タイプのレートと請求固定情報プログラム (P48091) のレート・タイプのレートのうち、低い方が使用されます。
- 間接費取引が計算されます。
- 間接費明細元帳テーブル (F52G11) に間接費取引が作成されます。
- 間接費集計元帳テーブル (F52G02) に集計レコードが作成されます。

### “総勘定元帳への転記時の間接費取引の作成”プログラムの実行

R52G11プログラムは「Burdening / Re-burdening」メニューから実行できますが、通常は総勘定元帳への転記プログラム (R09801) の一部として実行します。R09801プログラムには、R52G11プログラムのバージョンを入力するための処理オプションがあります。

R52G11プログラムは、R09801プログラムから起動されると、「間接費使用」固定情報がサービス請求固定情報プログラム (P48091) で選択されているか、またバッチにエラーが含まれていないか確認します。勘定残高テーブル (F0902) に取引のバッチが転記された後、R52G11プログラムが呼び出されます。R52G11プログラムは、転記の最後ではなく各バッチの転記後に呼び出されます。

間接費取引の作成プログラムによってF52G11テーブルにレコードが書き込まれるとき、F0911テーブルの間接費転記コード (BUPC) が1 (転記済) に更新されます。

**注意:** 逆仕訳を転記すると、R09801プログラムによりBUPCフィールドから1がクリアされ、F52G11およびF52G02テーブルに逆仕訳を転記できるようになります。

参照: 第 13 章、「仕訳の処理」、「総勘定元帳への転記 (R09801) の処理オプションの設定」、132ページ

## 間接費取引の作成 (R52G11) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムのデフォルト処理を指定できます。

### 処理

- |                        |   |
|------------------------|---|
| 1. 伝票タイプ               | 適用済間接費入力合計に割り当てる伝票タイプを選択します。この処理オプションを空白にすると、伝票タイプJEが割り当てられます。UDCテーブル (00/DT) から値を選択してください。               |
| 2. 仕訳入力バッチ・プロセッサのバージョン | 適用済間接費入力合計のバッチを作成および転記する仕訳入力バッチ・プロセッサ・プログラム (R09110Z) のバージョンを指定します。この処理オプションを空白にすると、バージョンZJDE0001が使用されます。 |

---

**注意:** 使用するR09110Zプログラムの新しいバージョンをこの処理オプションに設定し、そのバージョンでは「転記バージョン」処理オプションを空白にする必要があります。R09110Zプログラムには総勘定元帳への転記プログラム(R09801)のバージョンを入力する処理オプションがあり、R09801プログラムにはR52G11プログラムのバージョンを入力する処理オプションがある場合、R52G11プログラムが無限ループで実行される可能性があります。無限ループは、R09110ZプログラムにR52G11プログラムのバージョンを含むR09801プログラムのバージョンが含まれている場合に発生します。

このコンフィギュレーションでは、無限ループが発生するだけでなく、R52G11プログラムにより間接費が適用済間接費入力合計に適用されます。

---

## 間接費取引の作成プログラムの実行

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

「仕訳入力、レポート、照会」(G0911)の「総勘定元帳への転記」を選択します。

「Burdening / Re-burdening」(G5)の「Create Burdening Transactions」を選択します。

参照: 第 13 章、「仕訳の処理」、「総勘定元帳への転記(R09801)の処理オプションの設定」、132ページ

## 第 17 章

# 遡及調整の処理

この章では、遡及調整処理の概要と次の方法について説明します。

- 遡及調整の処理
- 遡及調整取引グループの検討、承認および削除
- 遡及調整取引による請求明細ワークファイル・テーブルの更新

---

## 遡及調整処理について

契約期間中、間接費レートを上下させたり、プール・グループ間で従業員を異動するなど、間接費の元の設定に対して変更を行うことが必要になる場合があります。元の設定が正しくなかったと判断した場合も、設定を変更する必要があります。間接費の設定に対して変更を行った後、F52G11テーブルの既存の間接費取引に変更を適用する必要があります。それにより、顧客に請求を行い、結果として生じた間接費の差異金額の収益を計上できるようになります。このような変更をF52G11テーブルの既存の取引に適用する処理は、遡及調整と呼ばれます。

遡及調整処理では、次の処理を行います。

1. 遡及調整取引の作成プログラム (R52G31) で使用する処理および選択基準の設定
2. 遡及調整取引グループの検討および承認
3. 遡及調整取引による請求ワークファイルの更新

---

## 遡及調整の処理

この項では、遡及調整取引の処理プログラムおよび遡及調整取引の作成プログラムの概要と、次の方法について説明します。

- 遡及調整取引の作成プログラムの設定
- 遡及調整取引の作成プログラムの実行

## 遡及調整取引の処理プログラムについて

遡及調整取引の処理プログラム(P52G30)では、遡及調整取引の作成プログラム(R52G31)で使用する処理および選択基準を設定できます。P52G30プログラムを使用して、F52G11テーブルから選択する日付の範囲、遡及調整取引に割り当てる元帳日付と伝票タイプおよび、原価、代替原価、請求書または収益の金額を遡及調整するかどうかなどの情報を指定します。また、P52G30プログラムを使用して、F52G11テーブルで管理する遡及調整取引の詳細レベルを指定します。9つのオプションから1つを選択して詳細レベルを決定できます。

P52G30プログラムを使用して、実行するR52G31プログラムのバージョンも指定します。遡及調整の対象とする取引をF52G11テーブルからプールIDを使用して選択できるようにするには、実行する「プールID/間接費カテゴリの選択」プログラム(R52G32)のバージョンも指定します。F52G11テーブルの原価レコードの「プールID」フィールドは空白であるため、R52G31プログラム用のデータ選択を使用してプールIDによるレコード選択を行うことはできません。そのため、R52G32プログラムでデータ選択を使用して、処理の対象として選択するレコードのプールIDと間接費カテゴリを指定します。R52G32プログラムでは、指定したプールIDと間接費カテゴリを使用して、プール・グループ・コード・テーブル(F48S84)から対応するプール・グループ・コードが選択されます。これにより、選択されたプール・グループ・コードがプール・グループ選択ワークファイル・テーブル(F52G32W)に追加されます。F52G32Wテーブルのプール・グループ・コードはR52G31プログラムによって取得され、R52G31プログラム用のデータ選択に追加されます。

## 遡及調整取引の作成プログラムについて

R52G31プログラム用の処理および選択基準を設定し、「遡及調整の送信」をクリックすると、P52G30プログラムからR52G31プログラムが起動され、次の処理が実行されます。

1. プールID/間接費カテゴリ・プログラム(R52G32)のバージョンが指定されているかどうかを判別されます。  
R52G32プログラムのバージョンが指定されていた場合は、プール・グループ・コードがデータ選択に追加されます。
2. P52G30プログラムの「調整開始日付」および「調整終了日付」フィールドに指定した日付範囲に基づいてデータ選択が行われます。  
データ選択には、RC(原価)という間接費カテゴリを持ち「遡及調整状況」フィールドが空白であるレコードも含まれます。
3. P52G30プログラムで選択した詳細オプションに基づいてデータ順序が決定されます。
4. 自動採番(システム48のRAG番号)を使用して「遡及調整グループ」フィールドの各取引に遡及調整グループ番号が割り当てられます。
5. 新しい間接費の金額が計算されます。
6. 新旧の間接費取引を比較して遡及調整金額が決定されます。
7. 2つの金額が異なる場合および金額がP52G30プログラムで指定した許容値を超える場合は、F52G11テーブルに遡及調整レコードが挿入されます。
8. F52G11テーブルの「遡及調整状況」フィールドに値1が割り当てられます。

## 遡及調整取引の作成プログラムの設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
遡及調整取引の処理	W52G30A	「Burdening / Re-burdening」(G5) の「Process Re-burdening」を選択します。	遡及調整取引の作成プログラムを設定します。

## 遡及調整取引の作成プログラムの設定

「遡及調整取引の処理」フォームにアクセスします。

「遡及調整取引の処理」フォーム

### 調整開始日付、調整終了日付

処理対象の取引を選択するために使用する日付範囲を入力します。指定した日付範囲に加えて、サービス請求固定情報プログラム(P48091)の「間接費有効日基準」オプションの設定(元帳日付またはサービス/税日付のいずれか)も使用されます。たとえば、「サービス/税日付」を選択した場合は、「調整開始日付」フィールドの日付より後かつ「調整終了日付」フィールドの日付より前のサービス/税日付を持つ、前の間接費レコードすべてが処理の対象に含まれます。

**注意:** また、「調整終了日付」フィールドに指定した日付は、F52G11テーブルの遡及調整済取引の「サービス/税日付」フィールドに値を入力するためにも使用されます。

### 元帳日付

遡及調整取引に割り当てる元帳日付を指定します。

- 許容範囲

システムによって遡及調整取引が作成される最低金額を示す数値を入力します。たとえば、1.00を入力した場合、1.00米ドル未満の金額に対して遡及調整取引は作成されません。
- 伝票タイプ

遡及調整取引に割り当てる伝票タイプを指定します。通常、他の取引で使用されていない伝票タイプを入力します。
- 詳細レポートの印刷

遡及調整の集計レポートに加えて詳細レポートを印刷する場合に選択します。
- 原価金額、代替原価金額、請求書金額、収益金額

遡及調整する金額に対応したチェックボックスを選択します。
- 遡及調整作成のバージョン (R52G31)

遡及調整取引の作成プログラムのバージョンを指定します。このフィールドをブランクにすると、バージョンXJDE0001が使用されます。
- プールID/間接費カテゴリのバージョン (R52G32)

プールID/間接費カテゴリ選択プログラムのバージョンを指定します。このフィールドをブランクにすると、プログラムは実行されません。
- プール・グループ・ソース

プール・グループ・コードのソースを選択します。このフィールドは、「プールID/間接費カテゴリのバージョン (R52G32)」フィールドにバージョンを入力した場合にのみ、有効になります。

詳細オプション

このタブにあるオプションを使用して、遡及調整取引で管理する詳細レベルを選択します。

Process Re-burdening - 遡及調整取引の処理

取消(L) 遡及調整の送信 フォーム(F) ツール(T)

処理

詳細オプション

詳細管理

1つを選択	住所録	代替所属BU	職務タイプ	職務職階
<input checked="" type="radio"/> 1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="radio"/> 2	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="radio"/> 3	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="radio"/> 4	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
<input type="radio"/> 5	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
<input type="radio"/> 6	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="radio"/> 7	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
<input type="radio"/> 8	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
<input type="radio"/> 9	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

「遡及調整取引の処理」フォーム: 「詳細オプション」タブ

遡及調整レコードで管理する詳細レベルを表すフィールドの組合せを含むオプションを選択します。F52G11からレコードを選択するとき、原価レコードが累計され、同じ元帳タイプ、会社番号、ビジネスユニット、主科目、補助科目、補助元帳、セグメント、従業員プール・グループ・コード、職務プール・グループ・コードを含む遡及調整取引が作成されます。次に、選択したオプションに基づいて遡及調整取引が集計されます。

警告: すでにR52G31プログラムを実行した後に詳細オプションを変更した場合、前に選択したオプションよりも詳細なオプションを選択すると、予期しない結果になります。たとえば、オプション「1」を選択してR52G31プログラムを実行した後で、オプション「5」を使用するように詳細オプションを変更すると、この詳細レベルはF52G11テーブルのレコードにはないため、代替所属ビジネスユニット、職務タイプおよび職階別の集計を正しく行うことができなくなります。一方、最初にオプション9を選択してR52G31プログラムを実行した後でオプション8を選択した場合、この詳細レベルはF52G11テーブルに含まれているため、職務タイプおよび職階別の集計が正しく行われます。

- |   |  |
|---|--|
| 1 | 住所録番号、代替所属ビジネスユニット、職務タイプおよび職階別に遡及調整取引を集計します。           |
| 2 | 住所録番号、職務タイプおよび職階別に遡及調整取引を集計し、代替所属ビジネスユニット別に詳細を管理します。   |
| 3 | 住所録番号および職階別に遡及調整取引を集計し、代替所属ビジネスユニットおよび職務タイプ別に詳細を管理します。 |
| 4 | 住所録および職務タイプ別に遡及調整取引を集計し、代替所属ビジネスユニットおよび職階別に詳細を管理します。   |
| 5 | 住所録番号別に遡及調整取引を集計し、代替所属ビジネスユニット、職務タイプおよび職階別に詳細を管理します。   |
| 6 | 住所録番号、代替所属ビジネスユニットおよび職階別に遡及調整取引を集計し、職務タイプ別に詳細を管理します。   |
| 7 | 住所録番号、代替所属ビジネスユニットおよび職務タイプ別に遡及調整取引を集計し、職階別に詳細を管理します。   |
| 8 | 住所録番号および代替所属ビジネスユニット別に遡及調整取引を集計し、職務タイプおよび職階別に詳細を管理します。 |
| 9 | 住所録番号、代替所属ビジネスユニット、職務タイプおよび職階別に詳細を管理します。               |

## 遡及調整取引の作成プログラムの実行

遡及調整取引の作成プログラムを実行するには、次の処理を実行します。

1. 「遡及調整取引の処理」フォームにアクセスします。
2. 「遡及調整の送信」をクリックします。

## 遡及調整取引グループの検討、承認および削除

この項では、遡及調整取引グループの検討、承認および削除の概要と、次の方法について説明します。

- 遡及調整取引グループの詳細の検討
- 遡及調整取引グループの承認
- 遡及調整取引グループの削除

## 遡及調整取引グループの検討、承認および削除について

遡及調整の検討/承認プログラム(P52G35)を使用して、遡及調整取引グループを検討、承認および削除できますが、グループ内の個別の取引は承認または削除できません。

遡及調整取引グループを承認すると、遡及調整の承認プログラム(R52G35)が実行されて、F52G11テーブルの「遡及調整状況」(RAS)フィールドの値がクリアされ、間接費集計元帳テーブル(F52G02)が更新されます。さらに、原価金額を遡及調整した場合は、AA元帳の適用済間接費合計に対して仕訳が作成されます。プール定義プログラム(P48S83)の「適用借方勘定」および「相殺貸方勘定」フィールドで指定した勘定科目コードが使用され、適用借方勘定および相殺貸方勘定ごとに一連の仕訳が作成されます。

グループを削除すると、遡及調整取引グループ全体がF52G11テーブルから削除されます。

## 遡及調整取引グループの検討、承認および削除に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
遡及調整情報の処理	W52G35A	「Burdening / Re-burdening」(G5)の「Review/Approve Re-burdening」を選択します。	遡及調整取引グループを承認します。 遡及調整取引グループを削除します。
遡及調整詳細	W52G35B	「遡及調整情報の処理」フォームでグループを選択し、「選択」をクリックします。	遡及調整取引グループの詳細を検討します。

## 遡及調整取引グループの詳細の検討

「遡及調整詳細」フォームにアクセスします。



Review/Approve Re-burdening - 遡及調整詳細

検索① 取消② ツール③

遡及調整グループ2

レコード 1 - 9

グリッドのカスタマイズ

ビジネス ユニティ	ビジネスユニット記述	主 科目	補助 科目	間接費力カテゴリ	原価金額	代替原価金額	請求書金額	収益金額	数量
5252	Engineering Assessment	1341		FR	525.00-	500.00-	500.00-	525.00-	
5252	Engineering Assessment	1341		OV	577.50-	552.50-	552.50-	577.50-	
5252	Engineering Assessment	1341		GA	761.25	736.75	736.75	761.25	
5252	Engineering Assessment	1343		GA	27.73	26.78	26.78	27.73	
5252	Engineering Assessment	1344		GA	44.26	42.96	42.96	44.26	
5252	Engineering Assessment	1345		FR	1,050.00-	1,000.00-	1,000.00-	1,050.00-	
5252	Engineering Assessment	1345		OV	1,155.00-	1,105.00-	1,105.00-	1,155.00-	
5252	Engineering Assessment	1345		GA	1,522.50	1,473.50	1,473.50	1,522.50	
5252	Engineering Assessment	1345		GA	1,522.50	1,473.50	1,473.50	1,522.50	

「遡及調整詳細」フォーム

必要に応じて遡及調整取引グループの詳細を検討します。

## 遡及調整取引グループの承認

「遡及調整情報の処理」フォームにアクセスします。

Review/Approve Re-burdening - 遡及調整情報の処理

選択④ 検索① 削除② 閉じる③ フォーム⑤ ロー⑥ ツール⑦

遡及調整グループ

レコード 1 - 1

グリッドのカスタマイズ

遡及調整グループ	元帳日付	サービス/税日付	調整状況	遡及調整状況	更新日付	ユーザーID
2	2005/07/01	2005/06/30	1	遡及調整作成済、未転記	2009/02/26	AB COMMON

「遡及調整情報の処理」フォーム

「ロー」メニューの「承認」を選択します。「承認」の選択後、遡及調整の承認プログラム (R52G35) が実行されます。

## 遡及調整取引グループの削除

「遡及調整情報の処理」フォームにアクセスします。

Review/Approve Re-burdening - 遡及調整情報の処理

選択(S) 検索(I) 削除(D) 閉じる(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

遡及調整グループ

レコード 1-1

遡及調整グループ	元帳日付	サービス/税日付	調整状況	遡及調整状況	更新日付	ユーザーID
2	2005/07/01	2005/06/30	1	遡及調整作成済、未転記	2009/02/26	AB COMMON

「遡及調整情報の処理」フォーム

「削除」をクリックします。F52G11テーブルから遡及調整取引グループのレコードが削除されます。

**注意:** 未承認の遡及調整取引グループのみを削除できます。

## 遡及調整取引による請求明細ワークファイル・テーブルの更新

この項では、遡及調整ワークファイルの生成プログラム(R52G41)の概要と、遡及調整ワークファイルの生成プログラムを実行する方法について説明します。

### 遡及調整ワークファイルの生成プログラムについて

遡及調整ワークファイルの生成プログラム(R52G41)を実行すると、請求明細ワークファイル・テーブル(F4812)に遡及調整取引が作成されます。遡及調整レコードに関連付けられた、金額のない基本レコードがF4812テーブルに作成されます。このレコードが必要な理由は、遡及調整取引の作成プログラム(R52G31)ではF52G11テーブルに新しい基本レコードが作成されないようにするためです。そのため、ワークファイルの生成プログラム(R48120)は遡及調整レコードがどの基本レコードに関連付けられているかを特定できません。

F52G11テーブルからレコードを選択するとき、R52G41プログラムにより次の特性を持つレコードが検索されます。

- ・ 転記済のレコード
  - 「遡及調整状況」フィールド(RAS)がブランク
- ・ F4812テーブルに書き込まれたことがないレコード
  - 「請求コード」フィールド(BC)がブランク

F4812テーブルにレコードが作成された後、R52G41プログラムにより、F52G11テーブルの遡及調整レコードの「請求コード」フィールドがZの値に更新されます。これは、レコードがF4812テーブルに書き込まれたことを示します。

### 遡及調整ワークファイルの生成プログラムの実行

「Burdening / Re-burdening」(G5)の「Re-burdening Workfile Generation」を選択します。

このプログラムはワークファイルの生成プログラム(R48120)の一部として実行することもできます。

## 第 18 章

# 実績レート計算の処理

この章では、実績レート計算の概要、事前設定および次の方法について説明します。

- 実績レートの計算
- 実績レート計算の参照IDの検討

---

## 実績レート計算について

間接費の処理では、顧客に間接費を請求できるように取引上の直接費を割増しします。直接費には、従業員が特定の作業に取り組んだ実際の労働時間など、作業に課金できる費用が含まれます。間接費には、従業員の病欠、給与関連税、福利厚生など、特定の作業に課金できない費用が含まれます。実績レート計算では、直接費を割り増すために使用する間接費レートが正確かどうかを判断できます。間接費レートを変更する必要があると判断した場合は、間接費設定を変更し、遡及調整を処理してから、これらの変更を反映した請求書を生成できます。

実績レート計算プログラム (R52G60) を使用して、実績レートを計算します。このレポートの計算の骨幹は、経費取引 (間接費) の金額を基本取引 (直接費) の金額で除算することです。この計算を行うため、間接費集計元帳テーブル (F52G02) の基本 (原価) レコードが使用されるとともに、セグメント定義、計算方法および間接費基本規則を使用して間接費レート計算ワークファイル・テーブル (F52G60) に一時レコードが作成されます。これらのレコード内の情報は、実績レート計算用にデータを間接費カテゴリおよびプールID別にソートして順序付けるために必要になります。システムでこれらのレコードが作成された後、実績レート計算用に基本レコードと経費レコードが間接費カテゴリおよびプールID別に累計されます。その後、実績レート用の F52G60 テーブルにレコードが追加されます。

F52G60 テーブルのレコードには、参照ID番号が割り当てられます。この参照IDを使用して、R52G60 プログラムの実行時に作成されるレコードを検討します。レコードの詳細を検討した後、参照IDを削除することもできます。

参照: 第 18 章、「実績レート計算の処理」、「実績レート計算の参照IDの検討」、180 ページ

実績レート計算処理プログラム (P52G60) を使用すると、すべての間接費カテゴリの実績レートを計算するように実績レート計算プログラムを設定したり、間接費カテゴリを除外したりできます。この設定により、計算結果を多層化できるようになります。たとえば、一般管理費 (G & A) の計算で実際の賃金外給付金レートではなく計算値を使用したり、目標レートなど、指定した諸手当レートを計算で使用できます。

R52G60 プログラムを実行すると、P52G60 プログラムで選択した元帳タイプに関するレート計算の集計が出力されます。レポートには、実績レートが間接費カテゴリ、プール、経費金額および基本金額別に表示されます。米国連邦政府と契約を結んでいる場合は、このレポートを使用して、米国連邦政府に年間ベースの実績間接費レートを提出できます。

## 事前設定

実績レート計算プログラムを実行する前に、作業原価マスターの改訂プログラム (P51006) で、すべての経費タイプ作業について、「間接費カテゴリ」フィールドでユーザー定義コード・テーブル48S/BCの間接費カテゴリを選択していることを確認してください。

## 実績レートの計算

この項では、次の方法について説明します。

- 実績レート計算処理 (P52G60) の処理オプションの設定
- 実績レート計算プログラムの設定
- 実績レート計算プログラムの実行

### 実績レートの計算に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
実績レート計算処理	W52G60A	「Burdening / Re-burdening」(G5)、「Process Actual Rate Calculations」	実績レート計算プログラムを設定します。 実績レート計算プログラムを実行します。

### 実績レート計算処理 (P52G60) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

#### デフォルト

このタブの処理オプションでは、実績レート計算プログラムのデフォルト値を指定できます。

開始期間/年度、終了期間/年度	西暦によるデフォルトの会計年度範囲を指定します。
元帳タイプ	デフォルトの元帳タイプを指定します。
実績レート計算のバージョン (R52G600)	R52G600プログラムのデフォルトのバージョンを指定します。
FAR非許容経費を含める (連邦調達規定の非許容経費を含める)	「実績レート計算」フォームの「FAR非許容経費を含める」フィールドのデフォルト値を指定します。実績レート計算を処理するときにFAR非許容費用を含めるには、1を入力します。
特定間接費カテゴリの除外	「実績レート計算」フォームの「特定間接費カテゴリの除外」のデフォルト値を指定します。実績レートの計算時に特定間接費カテゴリを除外するには、1を入力します。
原価または代替原価を使用	「実績レート計算」フォームの「原価」オプションまたは「代替原価」オプションのどちらを選択するかを指定します。「原価」オプションを選択するには1を入力し、「代替原価」オプションを選択するには2を入力します。

## 実績レート計算プログラムの設定

「実績レート計算処理」フォームにアクセスします。

**Process Actual Rate Calculations - 実績レート計算処理**

取消(L) 送信 フォーム(F) ツール(T)

開始期間/年度 \*  2008 実績レート計算のバージョン  XJDE0001

終了期間/年度 \*  2008 元帳タイプ \*  AA

参照ID \*  ☐ FAR非許容経費を含める

☐ 計算から除外する間接費カテゴリ 原価または代替原価を使用 ☒ 原価 ☐ 代替原価

**除外する間接費カテゴリ**

間接費カテゴリ1 <input type="text"/>	間接費カテゴリ5 <input type="text"/>
間接費カテゴリ2 <input type="text"/>	間接費カテゴリ6 <input type="text"/>
間接費カテゴリ3 <input type="text"/>	間接費カテゴリ7 <input type="text"/>
間接費カテゴリ4 <input type="text"/>	間接費カテゴリ8 <input type="text"/>

「実績レート計算処理」フォーム

**開始期間/年度、終了期間/年度**

間接費集計元帳テーブル(F52G02)からレコードを選択するために使用する開始会計期間/年度と終了会計期間/年度を指定します。

**参照ID**

R52G600プログラムによって実績レート計算レコードに割り当てられる参照IDを指定します。R52G600プログラムで実績レート計算が処理されるとき、参照IDがすでに存在するレコードは削除され、新しいレコードが作成されます。

**実績レート計算のバージョン**

実行するR52G600プログラムのバージョンを指定します。このフィールドをブランクにすると、バージョンXJDE0001が使用されます。

**元帳タイプ**

実績レート計算に含める取引の元帳タイプを指定します。元帳タイプ・マスターの設定プログラム(P0025)で設定された有効な元帳タイプを入力します。

**FAR非許容経費を含める  
(連邦調達規定の経費を含める)**

ビジネスユニットまたは主科目がFAR非許容費用として識別されている取引を含める場合に選択します。

**計算から除外する間接費カテゴリ**

実績レート計算から間接費カテゴリを除外する場合に選択します。このチェックボックスを選択した場合は、除外する間接費カテゴリを「間接費カテゴリ1」から「間接費カテゴリ8」の各フィールドに入力します。

**間接費カテゴリ1 から間接費カテゴリ8**

実績レート計算から除外する間接費カテゴリを入力します。

**原価、代替原価を使用**

これらのオプションのうちいずれか1つを選択し、F52G02テーブルの取引から原価と代替原価のどちらを使用するかを指定します。

## 実績レート計算プログラムの実行

「実績レート計算処理」フォームで、「送信」をクリックします。

## 実績レート計算の参照IDの検討

この項では、“実績レート計算の参照IDの検討”プログラムの概要と次の方法について説明します。

- 参照IDの検討
- 参照IDの削除
- 参照IDの詳細の検討

### “実績レート計算の参照IDの検討”プログラムについて

“実績レート計算の参照IDの検討”プログラム (P52G61) を使用して、間接費レート計算ワークファイル・テーブル (F52G60) のレコードを検討します。「実績参照IDの処理」フォームには、参照IDごとに、西暦、会計年度、会計期間、元帳タイプ、ユーザーIDおよびレコードの更新日が1つのローで表示されます。「実績レート計算詳細」フォームにアクセスすると、各参照IDの詳細を検討できます。また、F52G60テーブルから参照IDを削除することもできます。

### 実績レート計算の参照IDの検討に使用するフォーム




フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
実績参照IDの処理	W52G61A	「Burdening / Re-burdening」(G5)、「Review Actual Rate Calculation Reference ID's」	参照IDを検討します。 参照IDを削除します。
実績レート計算詳細	W52G61B	「実績参照IDの処理」フォームでレコードを選択して、「選択」をクリックします。	参照IDの詳細を検討します。

### 参照IDの検討



「実績参照IDの処理」フォームにアクセスします。

**Review Actual Rate Calculation Reference ID's - 実績参照IDの処理**

選択(S) 検索(I) 削除(D) 閉じる(L) ツール(T)

✓   ✗ 

参照ID

レコード 1 - 8 グリッドのカスタマイズ  

	参照 ID	開始 期間	開始 西暦年	終了 期間	終了 西暦年	元帳 タイプ	ユーザー ID	更新 日付
<input checked="" type="radio"/>	1	5	2009	5	2009	AA	RK95644...	2007/08/01
<input type="radio"/>	11	10	2007	10	2007	AA	RK95644...	2007/10/16
<input type="radio"/>	15	10	2007	11	2007	AA	RK95644...	2007/10/17
<input type="radio"/>	2	11	2009	11	2009	AA	RK95644...	2007/08/03
<input type="radio"/>	24	10	2007	10	2007	AA	RK95644...	2007/10/18
<input type="radio"/>	3	11	2009	11	2009	AA	RK95644...	2007/08/03
<input type="radio"/>	4	11	2009	11	2009	AA	RK95644...	2007/08/03
<input type="radio"/>	5	11	2009	11	2009	AA	RK95644...	2007/08/03

「実績参照IDの処理」フォーム

## 参照IDの削除

「実績参照IDの処理」フォームにアクセスします。

参照IDを選択して、「削除」をクリックします。

## 参照IDの詳細の検討

「実績レート計算詳細」フォームにアクセスします。

必要に応じて詳細を検討します。





## 第 19 章

# 銀行勘定科目の残高調整

この章では、銀行勘定科目の残高調整、無効な支払および入金の残高調整の概要、および次の方法について説明します。

- 無効な支払および入金の残高調整
- 勘定科目の残高調整情報の更新
- 銀行勘定科目の手動残高調整
- 調整済取引の未調整取引への変更

---

## 銀行勘定残高調整について

期末処理の一環として、銀行勘定科目の残高と銀行取引明細の調整が必要な場合があります。

初期設定実行後は、手動残高調整プログラム(P09131)を使用して、月ごとに銀行勘定の残高を簡単に調整することができます。

**関連項目:**

第 6 章、「勘定残高調整の設定」、67ページ

---

## 無効な支払および入金の残高調整

この項では、自動残高調整プログラムの概要と次の方法について説明します。

- 無効な支払の残高調整
- 無効な入金の残高調整

## 無効支払/入金の自動残高調整プログラムについて

無効な支払および入金の残高を手動で調整するかわりに、次のプログラムを実行することにより、勘定科目の残高調整にかかる時間を節約できます。

- 無効支払の自動残高調整(R09551)
- 無効入金の自動残高調整(R09552)

これらのプログラムを使用すると、F0911テーブル内の取引のGLRCNDフィールドがデフォルトの残高調整コードRに更新され、無効な支払と入金（および残高ゼロの支払と入金）が自動的に調整されます。支払の残高調整時には、無効支払の自動残高調整プログラムにより、手動で無効にした支払、および自動支払処理中に無効処理された支払が選択されます。

これらのプログラムは、残高調整テーブルの再作成プログラム（R09130）の実行前に実行して、無効および残高ゼロの支払と入金（および残高ゼロの支払と入金）がF0911Rワークファイルに含まれないようにする必要があります。

無効支払の自動残高調整プログラムと無効入金の自動残高調整プログラムには、処理オプションがありません。

## 無効な支払の残高調整

「銀行テープの残高調整」（G09213）の「無効な支払の自動残高調整」を選択します。

## 無効な入金の残高調整

「銀行テープの残高調整」（G09213）の「無効な支払の自動残高調整」を選択します。

---

## 勘定科目の残高調整情報の更新

この項では、残高調整テーブルの再作成プログラムの概要と次の方法について説明します。

- 残高調整テーブルの再作成プログラムの実行
- 残高調整テーブルの再作成のデータ選択の設定
- 残高調整テーブルの再作成（R09130）の処理オプションの設定

## 残高調整テーブルの再作成プログラムについて

勘定科目の残高調整前に、残高調整テーブルの再作成プログラム（R09130）を実行してください。通常は、会計期間の最後にこのプログラムを実行してその期間内の取引を調整します。残高調整テーブルの再作成プログラムにより、調整可能な全勘定科目の未調整の取引明細が、F0911テーブルからF0911R調整ワークファイルにコピーされます。

F0911Rワークファイルが更新されるたびに、テーブル内の調整済取引がすべて取り除かれ、残高調整テーブルの再作成プログラムの処理オプションとデータ選択の条件に一致する新しい取引に置き換えられます。たとえば、このプログラムを1月に実行してその月の全取引を調整後、2月に再びこのプログラムを実行すると、F0911Rワークファイルから1月の調整済取引がすべて取り除かれ、2月の未調整取引に置き換えられます。

残高調整テーブルの再作成プログラムでは、次の基準を満たす取引のレコードが選択されます。

- 調整する勘定科目が、AAI項目GLRCxxの範囲内にある。
- 取引の元帳日付が、処理オプションの開始日付と終了日付で指定された範囲内にある。
- 取引のGLRCNDフィールドがブランク（未調整）である。

残高調整テーブルの再作成プログラム実行時には、AAI項目GLRCxxの範囲内の全勘定科目の情報を一度に更新できます。また、データ選択を使用して特定の勘定科目を更新することも可能です。

残高調整テーブルの再作成プログラムで作成されるF0911Rワークファイルは1つのみです。ただし、CNC機能を使用してF0911Rワークファイルをローカルで指定し、勘定科目ごとにワークファイルを作成できます。

## 事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- AAI項目 GLRCxxのAAI範囲を設定し、残高調整の対象とする勘定範囲を指定します。
- デフォルトの残高調整コードRを使用しない場合は、UDCテーブル09/RCの残高調整コードを設定します。

## 残高調整テーブルの再作成プログラムの実行

「手動残高調整」(G09209)の「残高調整テーブルの再作成」を選択します。

## 残高調整テーブルの再作成のデータ選択の設定

処理を高速化するには、データ選択を使用して、残高調整する勘定科目を指定します。

1つの勘定科目に対してF0911Rワークファイルを1つ作成する場合は、データ選択に略式IDを指定します。ある勘定科目に対して残高調整テーブルの再作成プログラムを実行し、次に別の勘定科目に対して再びプログラムを実行した場合、最初に調整された勘定科目の取引は取り除かれませんが、かわりに、最初に調整された勘定科目の取引に2つ目の勘定科目のレコードが追加されます。同じ勘定科目に対して続けて残高調整テーブルの再作成プログラムを実行した場合のみ、F0911Rワークファイル内の調整済取引がすべて取り除かれます。

## 残高調整テーブルの再作成(R09130)の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、日付、残高調整状況、元帳タイプ、伝票タイプがAEの取引、および印刷するメッセージを選択します。

### 選択

1. 開始日付、2. 終了日付 F0911テーブルからレコードを選択するときに使用される開始日付と終了日付を指定します。
3. 調整済み状況 値は次のとおりです。  
ブランク: 未調整レコードのみ選択する。  
1: 調整済と未調整両方のレコードを選択する。  
調整済と未調整両方の取引を常に選択していると、F0911Rが非常に大きくなる可能性があります。これは処理時間に大きく影響します。すでに残高調整を行ったレコードを訂正する必要がある場合のみ、調整済レコードを含めるようにしてください。

### デフォルト

1. 元帳タイプ F0911テーブルからレコードを選択する場合は、元帳タイプ(UDCテーブル09/LT)を指定します。ブランクにした場合、すべての伝票タイプが選択されます。

### 表示

1. 伝票タイプAE F0911テーブルからレコードを選択するときに、伝票タイプAEの取引を含めるかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 含めない。

1: 含める。

## 印刷

### 1. メッセージ

残高調整テーブルの再作成レポート(R09130)に印刷するメッセージを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 再作成された勘定科目に対するメッセージのみ印刷する。

1: 全勘定科目に対するメッセージを印刷する。

---

## 銀行勘定科目の手動残高調整

この項では、銀行勘定科目の手動残高調整と残高調整レポートの概要、および次の方法について説明します。

- 手動残高調整(P09131)の処理オプションの設定
- 銀行勘定科目の手動残高調整

### 銀行勘定科目の手動残高調整について

「銀行勘定科目の残高調整」フォームで残高調整すると、デフォルトの残高調整コードRまたは選択した残高調整コードがフォームの取引に表示されます。取引を調整すると、「未調整借方金額」と「未調整貸方金額」フィールドの額が更新されます。「調整金額」フィールドの値も、次の式により更新されます。

$(\text{銀行残高} + \text{未調整借方金額} + \text{未調整貸方金額}) - \text{帳簿残高} = \text{調整金額}$

- 銀行残高 = 銀行取引明細の金額
- 未調整借方金額および未調整貸方金額 = F0911ワークファイル内の調整済マークのないレコード
- 銀行残高 = F0902テーブルの勘定残高(貸借対照表勘定の繰越残高を含む)

### 残高調整レポートについて

銀行勘定科目取引の残高を調整したら、残高調整レポートの印刷(R09132P)を実行し、未調整項目のリストを出力します。

レポートに使用される日付範囲は、残高調整テーブルの再作成プログラムの処理オプションに入力した範囲と同じです。別の日付範囲に対して残高調整レポートの印刷を実行するには、処理オプションの日付範囲を変更して残高調整テーブルの再作成プログラムを再実行する必要があります。

## 勘定科目の手動残高調整に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
残高調整	W09131D	「手動残高調整」(G09209)、「手動残高調整」	残高調整のタイプを選択します。
銀行勘定科目の残高調整	W09131A	「残高調整」フォームで「銀行勘定科目の残高調整」を選択します。	銀行勘定残高の調整、または未調整への変更を手動で行います。

## 手動残高調整(P09131)の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、デフォルト値を選択します。

### デフォルト

1. 元帳タイプ UDCテーブル09/LTから元帳タイプ・コードを指定します。blankにした場合、デフォルトの元帳タイプAAが使用されます。
2. 参照3 F0911テーブル内のレコードの参照3フィールドを残高調整番号で更新するかどうかを指定します。残高調整番号は、自動採番プログラム(P0002)によって自動的に採番されます。この残高調整番号は、残高調整時に変更できます。blankにすると、参照3フィールドは更新されません。

### 貸借の検証

このタブの処理オプションは、借方と貸方の調整プログラムのみで使用されます。

参照: [第 6 章、「勘定残高調整の設定」、67ページ](#)

## 銀行勘定科目の手動残高調整

「銀行勘定科目の残高調整」フォームにアクセスします。

手動残高調整 - 銀行勘定科目の残高調整

検索(①) 閉じる(L) フォーム(F) ロー(R) レポート(P) ツール(T)

勘定科目コード: 1.1110.BEAR 終了日付: \* 開始日付: \* ☐ オプション

☒ 未調整のみ

未調整借方金額: 未調整貸方金額: 銀行残高: 帳簿残高: 調整金額:

レコード 1 - 10 グリッドのカスタマイズ

調整	配賦値	摘要名称	支払 No.	元帳日付	参照 1	参照 2	参照 3	伝票番号	伝票会社
<input type="checkbox"/>	267,933.00-	Cash Adjustment		2004/12/31				3314	00001
<input type="checkbox"/>	871,350.00	Beginning Balances		2004/12/31				1000	00001
<input type="checkbox"/>	223,087.00	Adjusting ie		2005/01/31				3319	00001
<input type="checkbox"/>	223,087.00-	Adjusting ie		2005/01/31				3319	00001
<input type="checkbox"/>	18,216.00-	Digger Enterprise	00005046	2005/02/10	00005046	00003480		5046	00000
<input type="checkbox"/>		Computer Check	00005043	2005/02/10	00005043	00003480		5043	00000
<input type="checkbox"/>	1,450.00-	Johnson Painting Specialists	00005042	2005/02/10	00005042	00005872		5042	00000
<input type="checkbox"/>		Computer Check	00005041	2005/02/10	00005041	00005872		5041	00000
<input type="checkbox"/>		Computer Check	00005044	2005/02/10	00005044	00003480		5044	00000
<input type="checkbox"/>		***VOID VOID VOID VOID**	00005045	2005/02/10	00005045	00003480		5045	00000

「銀行勘定科目の残高調整」フォーム

1. 残高調整テーブルの再作成プログラム (R09130) を実行した銀行勘定科目コードを入力します。
2. 未調整項目と調整済項目の両方を表示する場合は、「未調整のみ」チェックボックスの選択を解除します。

残高調整テーブルの再作成プログラムの「調整済み状況」処理オプションに1を入力した場合のみ、未調整項目と調整済項目の両方を検討できます。

3. 対象の勘定科目について表示する取引を限定するには、「開始日付」フィールドに元帳日付を入力します。

残高調整テーブルの再作成プログラムの処理オプションに指定した範囲内の日付を入力してください。処理オプションの開始日付より前の取引を表示する場合は、この処理オプションの日付を変更して残高調整テーブルの再作成プログラムを再実行する必要があります。

4. 「検索」をクリックします。
5. 銀行取引明細に記載されている残高を「銀行残高」フィールドに入力し、「検索」をクリックします。
6. 勘定科目について表示する取引をさらに絞り込む場合は、「フォーム」メニューから「オプション」を選択し、次のステップに進みます。それ以外の場合は、ステップ8に進みます。
7. 「オプション」フォームで、フィールドに値を入力します。

- 伝票番号

番号を入力して、その番号に関連付けられている伝票のみを表示します。この機能は、特定の取引を検索する場合に便利です。

- 参照1

入金の場合は、入金のバッチ番号を入力します。

支払の場合は、支払番号を入力します。

- 参照2
  - 入金の場合は、入金の伝票番号を入力します。
  - 支払の場合は、支払の仕入先番号を入力します。
8. 「銀行勘定科目の残高調整」フォームで、「検索」をクリックします。  
「オプション」チェックボックスが選択されます。これは、「オプション」フォームで指定した条件に合致する取引のみが表示されていることを示します。
  9. 取引に残高調整済のマークを付ける場合は、その取引に対応するローを選択した後、「ロー」メニューから「調整の切替」を選択します。
  10. 複数の取引(またはすべての取引)に残高調整済のマークを付ける場合は、該当する取引に対応するローを選択した後、「ロー」メニューから「調整の切替」を選択します。  
取引に残高調整済のマークを付けると、次の処理が実行されます。
    - 手動残高調整プログラムの「参照3」処理オプションに1が設定されている場合は、「参照3の選択」フォームが表示され、自動採番により使用可能な次の番号が表示されます。すべての取引で同じ調整番号を使用しない場合は、「参照3の選択」フォームの「フォーム」メニューから「単一項目を更新」を選択します。取引調整時に毎回このフォームが表示されるので、取引ごとに新しい番号を入力できます。
    - 「銀行勘定科目の残高調整」フォームの「調整」フィールドにR(または選択した残高調整コード)が入力されます。
  11. 残高調整済取引を未調整に変更する場合は、その取引を選択し、「ロー」メニューから「調整の切替」を選択します。
  12. 残高調整処理を完了するには、「フォーム」メニューから「F0911更新」を選択します。次の処理が行われます。
    - F0911RワークファイルのGLR3フィールドに残高調整番号が新たに入力されます。
    - 全調整済取引に対して、F0911テーブルのGLRCNDフィールドがF0911Rワークファイルの情報で更新されます。
    - 残高調整プログラムの「参照3」処理オプションに1が設定されている場合は、F0911テーブルのGLR3フィールドがF0911Rワークファイルの残高調整番号で更新されます。
  13. レポートを印刷するには、「レポート」メニューから「残高調整表の印刷」(R09132P)を選択します。

## 調整済取引の未調整取引への変更

残高調整処理を終了した後に、調整済取引を未調整取引に変更できます。取引を未調整に変更すると、F0911RワークファイルからR(または選択した残高調整コード)が削除されます。残高調整プログラムの「参照3」処理オプションを1に設定した場合は、割り当てられた残高調整番号も取引から削除されます。調整済取引を未調整に変更したら、F0911テーブルを更新して残高調整コードを取引から削除してください。

取引を調整した後に残高調整テーブルの再作成プログラムを実行した場合は、このプログラムを再実行し、「調整済み状況」処理オプションを1に設定して調整済取引を選択対象に含める必要があります。

現行会計期間以外の期間について、調整済取引を未調整に変更する必要がある場合は、残高調整テーブルの再作成プログラムを実行する必要があります。

- 「調整済み状況」処理オプションを1に設定し、調整済取引を選択対象に含めます。

- 「開始日付」および「終了日付」処理オプションを変更し、変更する取引の元帳日付がその範囲内になるようにします。



## 第 20 章

# 借方と貸方の調整

この章では、借方と貸方の調整処理の概要と、借方取引と貸方取引の手動調整の方法について説明します。

---

## 借方と貸方の調整処理について

借方と貸方の調整プログラム(P09131)を使用して、取引勘定または仮勘定などの特定の勘定科目の借方と貸方を調整できます。たとえば、ある売掛金勘定が貸借不一致の場合に、このプログラムを使用して借方取引と貸方取引を照合し、貸借不一致の原因となっている取引を見つけます。

借方取引と貸方取引の調整処理は次のステップから構成されます。

1. 無効な支払および入金を残高調整します。

参照: [第 19 章、「銀行勘定科目の残高調整」、「無効な支払および入金の残高調整」、183ページ](#)

2. 勘定科目情報を更新します。

参照: [第 19 章、「銀行勘定科目の残高調整」、「勘定科目の残高調整情報の更新」、184ページ](#)

3. 借方取引と貸方取引の調整、または未調整への変更を行います。

---

## 事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 無効支払の自動残高調整プログラムの実行
- 無効入力の自動残高調整プログラムの実行
- 残高調整テーブルの再作成プログラムの実行

---

## 借方取引と貸方取引の調整

この項では、次の方法について説明します。

- 借方と貸方の調整プログラムの処理オプションの設定
- 借方取引と貸方取引の手動残高調整

## 借方取引と貸方取引の残高調整に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
残高調整	W09131D	「手動残高調整」(G09209)、「手動残高調整」	残高調整のタイプを選択します。
銀行勘定科目の残高調整	W09131A	「残高調整」フォームで「借方/貸方照合」を選択します。	借方と貸方の金額の調整と未調整への変更を手動で行います。

## 手動残高調整(P09131)の処理オプションの設定

借方と貸方の調整プログラムの処理オプションは、手動残高調整プログラムの「貸借の検証」タブに表示されます。この処理オプションを使用して、手動残高調整処理前に貸借を一致させる必要があるかどうかを指定します。

### 貸借の検証

このタブの処理オプションは、借方と貸方の調整プログラムのみで使用されます。

#### 1. 貸借の一致

貸借一致を必須にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: 必須にしない。

1: 必須にする。

この処理オプションに「1」を入力し、「許容限度額」処理オプションを空白にすると、貸借の完全な一致が必須となり、一致しない場合はエラーとなります。

#### 2. 許容限度額

貸借不一致が可能な許容限度額を指定します。この処理オプションは、「貸借の一致」処理オプションに「1」を入力した場合にのみ使用します。

「貸借の一致」処理オプションに「1」を入力し、この処理オプションを空白にした場合は、貸借の完全な一致が必須となり、一致しない場合はエラーとなります。

「貸借の一致」処理オプションに「1」を入力してこの処理オプションで金額を指定した場合、借方/貸方の金額の差異はこの許容限度額以下である必要があります。貸借不一致の金額が許容限度額に等しい場合は、調整済とみなされ、エラー・メッセージは生成されません。たとえば、この処理オプションに5.00を入力した場合、5.00の貸借不一致は許容されます。許容限度額を超えた場合は、エラー・メッセージが生成されます。

#### 3. ソート順

取引のソート方法を指定します。値は次のとおりです。

空白: 元帳日付でソートする。

1: 金額でソートする。借方であるか貸方であるかに関係なく、取引は金額でソートされます。このとき、借方と貸方の金額が一緒に表示されます。元帳日付でソートする場合は、相殺金額が検索されます。

## 借方取引と貸方取引の手動残高調整

「銀行勘定科目の残高調整」フォームにアクセスします。

借方取引と貸方取引の手動残高調整のステップは、次のステップを除き銀行勘定科目の手動残高調整と同じです。

借方取引と貸方取引の手動残高調整を行うには、次の手順に従います。

1. F0911Rワークテーブル内の取引に残高調整済のマークを付ける場合は、取引をダブルクリックまたは選択した後、「フォーム」メニューから「借方/貸方の残高調整/未調整」を選択します。  
取引に残高調整済のマークを付けると、「借方合計額」と「貸方合計額」フィールドが更新されます。
2. 残高調整済取引を未調整に変更する場合は、取引をダブルクリックまたは選択した後、「フォーム」メニューから「借方/貸方の残高調整/未調整」を選択します。

参照: 第 19 章、「銀行勘定科目の残高調整」、「調整済取引の未調整取引への変更」、189ページ

3. 調整処理を完了するには、「フォーム」メニューから「F0911更新」を選択します。  
次の条件を満たす場合のみ、F0911RワークファイルのGLRCNDフィールドがR(または指定した調整コード)に更新されます。
  - 残高調整プログラムの「借貸の一致」処理オプションが1の場合に、借方/貸方の差異がゼロであるか、借方/貸方の金額が「許容限度額」処理オプションで指定した範囲内である。
  - 残高調整プログラムの「借貸の一致」処理オプションがブランクになっている。これらの条件が満たされない場合は、エラー・メッセージが表示され、F0911Rワークファイル内の取引は調整済に更新されません。
4. 未調整項目のレポートを印刷する場合は、「レポート」メニューから「残高調整表の印刷」を選択します。



## 第 21 章

# 銀行テープによる残高調整

この章では、銀行テープによる残高調整処理の概要および次の方法について説明します。

1. 銀行テープの再フォーマット
2. 無効な支払および入金の高調整
3. 勘定科目の高調整情報の更新
4. 銀行テープと高調整ワークファイルの照合
5. 銀行テープによる高調整の検証

### 関連項目:

第 19 章、「銀行勘定科目の高調整」、「無効な支払および入金の高調整」、183ページ

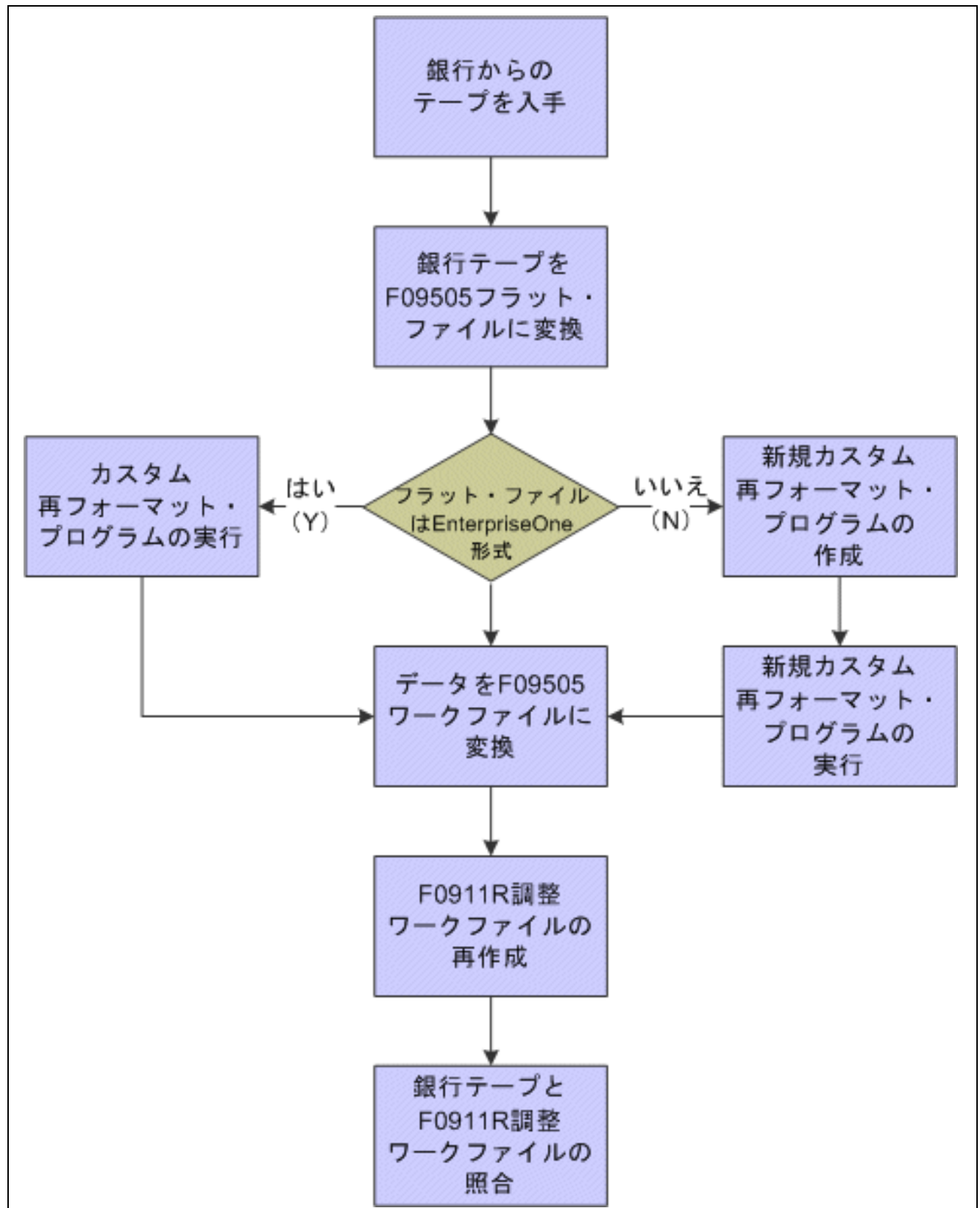
---

## 銀行テープによる高調整処理について

銀行勘定科目が決済済の取引のテープを銀行から入手した場合、JD Edwards EnterpriseOne 一般会計システムを使用して、勘定科目の自動高調整ができます。銀行からは、磁気メディアのテープを入手する必要があります。

取引の自動高調整を行うには、あらかじめ銀行テープのデータをフラット・ファイル F095051 に変換する必要があります。その後、カスタム再フォーマット UBE プログラム (R09501) を実行します。このプログラムは、F095051 のデータを F09505 ワークファイルに変換します。カスタム再フォーマット UBE プログラムでデータ変換を行うためには、データが F095051 ワークファイルの特定の位置にマッピングされている必要があります。マッピングされていない場合は、カスタム再フォーマット・プログラムを新規に作成する必要があります。

次の図は、銀行テープによる高調整処理を示しています。



調整処理

## 銀行テープの再フォーマット

この項では、銀行テープの再フォーマットに使用するプログラムの概要と次の方法について説明します。

- カスタム再フォーマットUBEプログラムの実行
- カスタム再フォーマットUBE (R09501) の処理オプションの設定

### 銀行テープの再フォーマットに使用するプログラムについて

銀行テープをF095051フラット・ファイルに変換したら、カスタム再フォーマットUBEプログラムを実行し、F09505ワークファイルに情報を変換します。

カスタム再フォーマットUBEプログラムでデータがF09505ワークファイルに変換されるには、F095051ワークファイルの次の位置にデータが格納されている必要があります。

位置	情報	詳細情報
位置1から8	勘定科目ID	IDは、先頭のゼロを省いても、右揃えでも左揃えでも入力できます。
位置9から16	支払番号	先頭にゼロを置き、右揃えで支払番号を入力します。
位置17から46	摘要	支払の概要を入力します。
位置47から61	金額	通貨に小数点を使用している場合は、小数点とそれ以下の金額をすべて入力するか、整数部分のみを入力します。たとえば、200.00 CADは「200」または「200.00」と入力します。「200000」と入力すると、システムは200000.00と認識します。
位置62から67	支払日付	グレゴリアン・フォーマット

F095051ワークファイルのデータが指定位置にない場合は、カスタム再フォーマット・プログラムを新規に作成する必要があります。カスタム・プログラムを作成するためのテンプレートとしてカスタム再フォーマットUBEプログラムを使用します。

### カスタム再フォーマットUBEプログラムの実行

「銀行テープの残高調整」(G09213)の「カスタム再フォーマットUBE」を選択します。

### カスタム再フォーマットUBE (R09501) の処理オプションの設定

ワークファイルを除去する場合に、この処理オプションを使用します。

#### 除去

#### 1. 処理の前にF09505テーブルを除去する

カスタム再フォーマットUBEプログラム実行前にF09505ワークファイルを除去するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 除去しない。

1: 除去する。F095051ワークファイルの更新前にF09505ワークファイルが除去されます。

## 2. 処理の前にF095051テーブルを除去する

カスタム再フォーマットUBEプログラムの実行後にF095051ワークファイルを除去するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 除去しない。

1: 除去する。

---

## 勘定科目の残高調整情報の更新

銀行テーブルのデータと総勘定元帳の照合と、銀行勘定残高の調整を自動的に行うには、先に残高調整テーブルの再作成プログラム(R09130)を実行する必要があります。通常は、会計期間の最後にこのプログラムを実行してその期間内の取引を調整します。残高調整テーブルの再作成プログラムを実行すると、すべての調整可能な勘定科目の未調整の取引明細が、F0911テーブルからF0911R調整ワークファイルにコピーされます。

### 関連項目:

第 19 章、「銀行勘定科目の残高調整」、「残高調整テーブルの再作成プログラムについて」、184ページ

---

## 銀行テーブルと残高調整ワークファイルの照合

この項では、残高調整に使用されるプログラムの概要と次の方法について説明します。

- テープ・ファイルと残高調整テーブルの照合プログラムの実行
- テープ・ファイルと残高調整テーブルの照合(R09510)の処理オプションの設定

## 取引の残高調整に使用するプログラムについて

カスタム再フォーマットUBEプログラムを実行して、銀行テーブルをF095015ワークファイルからF09505ワークファイルに変換したら、テープ・ファイルと残高調整テーブルの照合プログラム(R09510)を実行し、銀行勘定科目が決済済の取引を調整します。

テープ・ファイルと残高調整テーブルの照合プログラムでは、次のステップで取引が調整されます。

1. 銀行テーブルから作成されたF09505の決済済取引とF0911R調整ワークファイルの未調整取引が比較されます。
2. 伝票番号と金額が一致し、決済日付がF0911RワークファイルおよびF0911テーブルの伝票日付以降の取引に残高調整済のマークが付けられます。
3. 比較結果および自動調整中に発生したエラーの一覧を示す4つのレポートが印刷されます。

## テープ・ファイルと残高調整テーブルの照合プログラムの実行

「銀行テーブルの残高調整」(G09213)の「テープ・ファイルと残高調整テーブルの照合」を選択します。



## テープ・ファイルと残高調整テーブルの照合 (R09510) の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、略式IDを指定し、必要に応じて残高調整番号を割り当てます。

### 選択

1. 略式ID
 

監査証跡を管理するために各勘定科目に自動的に割り当てる略式IDを指定します。略式IDは、固有の番号（勘定科目キー）とチェック・ディジットから構成されます。勘定科目シリアル番号、略式勘定科目コード、ID番号とも呼ばれます。
2. 参照3
 

残高調整番号を参照3フィールドに自動的に割り当てるかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 参照3フィールドを更新しない。

1: 参照3フィールドを残高調整番号で更新する。
3. 「参照3」フィールドの値
 

参照3フィールドに入力する残高調整番号を指定します。ブランクにすると、自動採番プログラム (P0002) を使用して、残高調整番号が自動的に割り当てられます。

## 銀行テープによる残高調整の検証

次のレポートを使用して、銀行テープによる残高調整が正確であるかどうかを検証し、エラーがある場合はその原因を特定できます。エラーが発生した場合、取引に残高調整済マークは付きません。残高調整プログラム (P09131) を使用して、手動で残高調整する必要があります。

テープ・ファイルと残高調整テーブルの照合プログラムを実行すると、次の4つのレポートが作成されます。

レポート	説明
残高調整レポート	<p>各取引の明細行が出力され、エラーがある場合は次のようなメッセージが出力されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 支払は決済済だが、まだ引き落とされていない。</li> <li>• 支払は引落とし前に決済済。</li> <li>• 決済金額と引落とし金額が不一致。</li> </ul>
決済済 - 未引落としレポート	<p>銀行の決済は済んでいてもF0911テーブルには存在しない支払が集計されます。次のような支払がこのレポートに表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 手動で入力された支払番号に誤りがある。</li> <li>• 手書きで小切手が発行されたが、システムに入力されていない。</li> <li>• 小切手のMICR (磁気インク文字認識) コードが読めず、銀行テープに正しくない情報が入っている。</li> </ul>

レポート	説明
引落し前決済済レポート	<p>決済日付が支払日付より前の小切手が集計されます。次のような支払がこのレポートに表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 入力した日付に誤りがある。</li><li>• 銀行が先日付の小切手を現金化した。</li><li>• 小切手が予定前に送付された。</li></ul>
金額不一致レポート	<p>銀行で決済された金額と実際の支払金額が異なる支払が集計されます。次のような支払がこのレポートに表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 入力した金額に誤りがある。</li><li>• 銀行の手違いで、誤った金額が現金化された。</li></ul>

## 第 22 章

# 銀行取引明細の処理

この章では、銀行取引明細の処理、取引コード、仮勘定の概要、および次の方法について説明します。

1. 銀行取引明細取引の入力
2. 勘定科目の残高調整情報の更新
3. 銀行取引明細処理プログラムの実行

---

## 銀行取引明細の処理について

磁気メディアによる処理や電子資金決済が一般的で、未払債務の処理に銀行が直接関与するケースが多い国では、銀行取引明細の処理を使用して、銀行取引明細からEnterpriseOneソフトウェアに取引情報を直接手動で入力することにより、銀行勘定科目の残高を調整できます。

取引ごとに、取引コードを入力して残高調整の方法を指定します。その際、EnterpriseOneにあらかじめ用意されている取引コードを使用することもできますし、自分でコードを定義することもできます。

取引のタイプによっては、残高調整テーブルの再作成プログラム(R09130)の実行前に、入金、支払、および仕訳の転記などのタスクの実行が必要な場合があります。そのような場合は、このプログラムの実行前にバッチを転記し、WF - 取引明細調整ワークテーブル(F0911R)に全レコードが保管されるようにしてください。

銀行処理ですべての取引を1つの銀行勘定で決済してから銀行取引明細の処理を使用して特定の勘定科目に取引を割り当てる場合には、仮勘定を使用することができます。

---

**注意:** 電子データ交換(EDI)メディアを使用して、銀行取引明細の情報を処理できます。EDIにより特定の銀行勘定科目に関する情報を受け取り、EnterpriseOneに保管されている銀行取引明細の残高を調整できます。

---

## この章で使用する共通フィールド

### 顧客口座番号

会社の口座を識別するために銀行により割り当てられる番号。

---

**注意:** 北欧諸国のユーザーの場合は、取引銀行、Bankgiro、またはPostgiroの口座番号です。

---

### 銀行/支店

資金決済を管理するため連邦準備制度により特定の銀行へ割り当てられる番号。

## 取引コードについて

銀行取引明細に記載されている各項目に対して、取引コードを割り当てる必要があります。取引コードは、仕訳や顧客の支払などの取引のタイプを示し、仕訳調整に必要な詳細情報を指定します。

取引が正しく識別されるように、各取引とUDCテーブル09/BJの取引コードを関連付ける必要があります。EnterpriseOneにあらかじめ用意されているコードは、組織の要件に合わせて変更できます。ただし、コードと各コードの記述は変更できますが、取引タイプの機能を示す記述02フィールドの先頭2文字は変更できません。たとえば、取引タイプ02の(入金決済 - バッチ)の取引コードおよび記述は変更できます。しかし、記述02フィールドの先頭2文字を、たとえば03に変更することはできません。

入力した取引は、次の2つのカテゴリに分類されます。

- 銀行勘定科目が決済済で、システムに入力済の取引
- 銀行勘定科目が決済済で、システムに未入力の取引

### 銀行勘定科目が決済済で、システムに入力済の取引

次の表は、銀行勘定科目が決済済で、システムに入力済の取引の設定情報を示しています。

取引コード	記述01	記述02	説明
CR	入金決済	04入金決済	この取引コードは、預け入れなどシステムに入力済の入金の記録に使用します。
CK	支払決済	08支払決済	この取引コードは、取消小切手やシステムに入力済の支払の記録に使用します。

### 銀行勘定科目が決済済で、システムに未入力の取引

次の表は、銀行勘定科目が決済済で、システムに未入力の取引の設定情報を示しています。

取引コード	記述01	記述02	説明
JE	仕訳入力	01仕訳入力	この取引コードは、振込手数料など、銀行によって行われた調整を記録するのに使用します。この取引には、消費税が含まれる場合があります。
CRE	入金 - バッチ	02入金 - バッチ	この取引コードは、電信振込など顧客から直接銀行口座に振り込まれた、JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムに未入力の支払を記録するために使用します。  銀行取引明細処理プログラム (R09170) を実行すると、入金見出しの更新 (R03B551) および入金と請求書の消込 (R03B50) プログラムにより入金と請求書の消込が自動的に行われます。

取引コード	記述01	記述02	説明
CRI	入金 - 対話型	03 入金 - 対話型	この取引コードは、電信振込など顧客から直接銀行口座に振り込まれた、JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理に未入力の支払を記録するために使用します。  取引入力時にこのコードを指定すると、銀行取引明細の入力プログラム (P09160) により入金入力プログラム (P03B102) が呼び出され、入金と対応する請求書を手動で消し込むことができます。
DP	仕入先への支払手形	07 支払手形	この取引コードは、仕入先が引落しのため銀行に持ち込んだ手形の記録に使用します。
PWM	支払 (伝票照合あり)	10 支払 (伝票照合あり)	この取引コードは、支払の記録に使用します。取引入力時にこのコードを指定すると、支払入力 (伝票照合あり) プログラム (P0413M) が呼び出されます。
PWO	支払 (伝票照合なし)	11 支払 (伝票照合なし)	この取引コードは、支払の記録に使用します。取引入力時にこのコードを指定すると、支払入力 (伝票照合なし) プログラム (P0411) が呼び出されます。
BK	自動調整	09 自動調整	この取引コードは、自動調整項目の記録に使用します。自動調整項目は残高調整の必要がなく、プログラムの呼び出しもありません。

## 仮勘定について

すべての支払と入金を1つの銀行勘定で決済してから、銀行取引明細の処理を使用して特定の勘定科目に割り当てる場合は、仮勘定を使用できます。仮勘定を使用するには、銀行取引明細の入力プログラムの処理オプションで仮勘定を指定します。銀行取引明細処理プログラム実行時に、仕訳が作成され仮勘定から銀行勘定へ金額が再配賦されます。仮勘定は次の取引コードでのみ使用できます。

- CR
- CRE
- CRI
- CK

仮勘定を使用する場合は、残高調整テーブルの再作成プログラム (R09130) を実行して F0911R テーブルを更新する必要はありません。ただし、F0911R テーブルが更新されないため、銀行取引明細処理プログラムでは F0911R テーブルと F0917 テーブルの情報の比較は行われず、項目の調整が必要かどうかの判断も行われません。F0917 テーブルに入力した情報は正しいとみなされます。このため、仮勘定を調整して、銀行取引明細に入力された情報が常に正確であるようにする必要があります。

取引を調整すると、銀行勘定には残高調整済のマークが付きますが、仮勘定には付きません。

## 銀行取引明細取引の入力

この項では、銀行取引明細取引の概要と次の方法について説明します。

- 銀行取引明細の入力(P09160)の処理オプションの設定
- 銀行取引明細取引の入力

### 銀行取引明細取引について

銀行取引明細情報を入力する際は、明細書日付や開始残高などの見出し情報を入力し、次に取引コードや金額など取引明細の各取引に固有の情報を入力します。取引コードによっては、勘定科目コードや支払番号など取引の詳細情報の入力が必要な場合があります。

銀行取引明細の入力プログラムを使用して各取引を入力すると、銀行取引明細見出しテーブル(F0916)と銀行取引明細テーブル(F0917)にレコードが作成されます。F0917テーブルには、銀行取引明細に対して取引を入力するたびに1つのレコードが保管されます。F0916テーブルには通常、銀行取引明細ごとに見出しレコードが1つ保管されます。この見出しレコードには、銀行取引明細番号、勘定科目コード、および開始残高などの情報が含まれます。銀行による取引明細の作成方法によっては、1つの取引明細に対して複数の見出しレコードがF0916テーブルに保管される場合もあります。たとえば、銀行が複数の銀行勘定科目に対して取引明細を1つ発行する場合、F0916テーブルには各勘定科目に1つずつの見出しレコードが保管されます。

銀行取引明細の入力プログラムの処理オプションの「検証モード」を設定して、取引コードと金額を入力したときに取引の種類に応じた明細のフォームが表示されるようにすることができます。

取引を入力すると、「銀行残高照合表入力」フォームの「差額」フィールドが更新されます。差額がゼロの場合、取引明細の貸借は一致しています。また、取引(行)の合計数、未完了取引数、引き出し金額合計、預け入れ金額合計も更新されます。取引明細の貸借が不一致の場合は、未完了取引の行のみを表示して、不足している情報を修正できます。

処理済の取引の横に処理済である旨が表示されます。

### 銀行取引明細取引の入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
銀行取引明細の処理	W09160B	「銀行取引明細の処理」(G09211)、「銀行取引明細の入力」	各銀行勘定科目の銀行取引明細の一覧を検討します。  すべての取引が未処理の場合にのみ、銀行取引明細全体を削除できます。
銀行残高照合表入力	W09160A	「銀行取引明細の処理」フォームで、「追加」をクリックし、取引を入力します。または、取引明細を選択し、既存の取引明細の取引にアクセスします。	銀行取引明細取引を入力します。  銀行取引明細が未処理の場合のみ、取引の追加や改訂ができます。
入金の決済	W09160J	「銀行残高照合表入力」フォームで、「取引コード」フィールドに「CR」を入力し、「OK」をクリックします。	決済済の入金の詳細情報を追加します。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
仕訳入力	W09160E	「銀行残高照合表入力」フォームで、「取引コード」フィールドに「JE」を入力し、「OK」をクリックします。	仕訳入力の詳細情報を追加します。
支払の決済	W09160G	「銀行残高照合表入力」フォームで、「取引コード」フィールドに「CK」を入力し、「OK」をクリックします。	支払決済の詳細情報を追加します。
自動入金入力	W09160I	「銀行残高照合表入力」フォームで、「取引コード」フィールドに「CRE」を入力し、「OK」をクリックします。	入金バッチの詳細情報を追加します。
入金入力	W03B102E	「銀行残高照合表入力」フォームで、「取引コード」フィールドに「CRI」を入力し、「OK」をクリックします。	対話型の入金の詳細情報を追加します。
手形支払の決済	W09160H	「銀行残高照合表入力」フォームで、「取引コード」フィールドに「DP」を入力し、「OK」をクリックします。	仕入先への支払手形の詳細情報を追加します。
伝票入力 - 支払情報	W0411A	「銀行残高照合表入力」フォームで、「取引コード」フィールドに「PWO」を入力し、「OK」をクリックします。	支払入力(伝票照合なし)の詳細情報を追加します。
手動支払入力	W0413MA	「銀行残高照合表入力」フォームで、「取引コード」フィールドに「PWM」を入力し、「OK」をクリックします。	支払入力(伝票照合あり)の詳細情報を追加します。
オプション	W09160D	「銀行残高照合表入力」フォームで、「フォーム」メニューの「オプション」を選択します。	検討または改訂する取引の検索条件を指定します。

## 銀行取引明細の入力(P09160)の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、銀行取引明細の入力プログラムのデフォルト値を設定します。

### 基準

#### 1. デフォルト銀行勘定の略式ID

QBE(例示照会プログラム)ローに銀行勘定を事前ロードするかどうかを指定します。銀行勘定の略式IDを入力してください。空白にすると、銀行勘定は事前ロードされません。

#### 2. ユーザーIDの事前ロード

QBEローにユーザーIDを事前ロードするかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: 事前ロードしない。

1: 事前ロードする。

- 3. 転記コード** QBEローに転記コードを事前ロードするかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
A: 転記コードA(承認済)を事前ロードする。  
D: 転記コードD(処理済)を事前ロードする。
- 4. レコードの事前ロード** QBEにすべてのレコードを事前ロードするかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
ブランク: 事前ロードしない。事前ロードしない場合は、「銀行取引明細の処理」フォームで「検索」をクリックして、レコードをロードする必要があります。  
1: 事前ロードする。

## デフォルト

- 1. デフォルトの預入れ取引タイプ、2. デフォルトの引出し取引タイプ** 預け入れ金額および引き出し金額のデフォルト取引タイプをUDCテーブル09/BJから指定します。
- 3. デフォルトの仮勘定(略式ID)** 前の処理オプションで指定した取引タイプの略式IDを入力します。
- 自動入金入力、入金決済、手動入金入力、支払決済** 各処理オプションにデフォルト仮勘定の略式IDを入力します。

## 仕訳入力

- 1. 仕訳入力のデフォルト略式ID** 仕訳入力のデフォルト勘定の略式IDを入力します。

## 「日付」タブ

- 1. 決済日付(GDVLDT)、2. 元帳日付(GDDGJ)** 決済日付と元帳日付に使用するデフォルト日付を指定します。決済日付は、支払金額が銀行勘定の借方または貸方に計上された日付です。元帳日付は、取引を転記する会計期間を決めるのに使われます。値は次のとおりです。  
0: 元帳日付を使用する。  
1: 明細書日付を使用する。

## 伝票タイプ

- 1. 取引コードのデフォルト伝票タイプ。** BK - 自動調整、CK - 支払 - 決済、CR - 入金 - 決済、CRE - 入金 - バッチ、CRI - 入金 - 対話型、DP - 仕入先に支払済の手形、JE - 仕訳入力、PWM - 支払入力(照合あり)、PWO - 支払入力(照合なし) 処理オプションおよび対応する取引コードごとに、デフォルト伝票タイプをUDCテーブル00/DTから指定します。



## 表示1

総額 (GDAG)、備考  
(GDRMK)、銀行/支店  
(GDTNST)、決済日付  
(GDVLDT)、参照 (GDR1)  
、摘要 (GDEXA)

各処理オプションに関連するフィールドへのアクセスを制限するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 制限しない。

1: 制限する。

## 表示2

勘定科目 (GDANI)、元帳  
日付 (GDDGJ)

各処理オプションに関連するフィールドへのアクセスを制限するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 制限しない。

1: 制限する。

## 2. 参照用ビジネスユニット

参照用ビジネスユニット・フィールドへのアクセスを制限するかどうか、またはフォームでフィールドを非表示にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 通常のアクセスを認める。

1: 制限する。

2: フィールドを表示しない。

## 3. デフォルト銀行勘定 (「基準」タブで指定)

デフォルト銀行勘定のユーザーによる変更を許可するかどうか指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 許可する。

1: 変更不可。

## バージョン

1. 入金入力処理の一時  
変更、2. 伝票照合を伴う  
支払入力の一時的変更、  
3. 伝票照合なし支払入  
力の一時的変更

入金入力プログラム (P03B102)、支払入力 (伝票照合あり) (P0413M)、支払入力 (伝票照合なし) (P0411) の各プログラムの使用バージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

## 入力モード

## 1. 検証モード

「銀行残高照合表入力」フォームで実行される検証タイプを指定します。値は次のとおりです。

0: 明細フォームを表示せず、検証しない。

1: 明細フォームを表示するが、フォームに入力した情報が正しいか、必須フィールドがブランクではないかなどの検証はしない。

2: 明細フォームを表示し、フォームに入力した情報が正しいか、必須フィールドがブランクではないかなどの検証をする。

## 2. 貸借不一致で終了

「銀行残高照合表入力」フォームを貸借不一致での保存を可能にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 貸借不一致での保存を可能にする。

- 1: 保存不可のエラーを表示する。
- 2: 警告を表示する。保存可。

## 前の残高

### 1. 銀行取引明細の開始残高

銀行取引明細の開始残高の入力モードを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 手入力を許可する。

1: 前の銀行取引明細の終了残高をロードする。この処理オプションを指定する場合は、銀行取引明細を正しい順序で入力して、次の明細を入力する前に前の明細の残高調整を完了する必要があります。

2: 銀行取引明細日付と一致する残高をロードする(転記済取引のみ) 転記済取引のみを含めます。

3: 銀行取引明細日付と一致する合計勘定残高をロードする。転記済取引と未転記取引の両方を含めます。

---

**注意:** この処理オプションに1、2、3のいずれかを入力すると、「銀行残高照合表入力」フォームの「開始残高」フィールドには入力ができなくなります。

---

## 取引コード

BK - 自動調整、CK - 支払 - 決済、CR - 入金 - 決済、CRE - 入金 - バッチ、CRI - 入金 - 対話型、DP - 仕入先に支払済の手形、JE - 仕訳入力、PWM - 支払入力(照合あり)、PWO - 支払入力(照合なし)

各取引コードの使用を許可するかどうか指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 許可する。

1: 許可しない。

## 銀行取引明細取引の入力

「銀行残高照合表入力」フォームにアクセスします。

### 見出し領域フィールド

#### 明細書日付

銀行取引明細の日付を入力します。銀行取引明細の処理時には、元帳日付として使用されます。

#### 計算書No.

銀行によって割り当てられる取引明細番号を入力します。

### 詳細グリッドに表示されるフィールド

#### 取引コード

有効なコードをUDCテーブル09/BJから入力し、銀行取引明細の取引のタイプを指定します。

#### 決済日付

入金または支払金額が銀行勘定の借方または貸方に計上された日付を入力します。銀行が支払を決済した日付ではありません。自動支払の場合、このフィールドは自動的に入力されます。

- 「決済日付」処理オプションが0の場合は、見出し領域の「デフォルト元帳日付」の値が使用されます。1の場合は、「明細書日付」の値が使用されます。
- 元帳日付** 元帳日付または銀行取引明細の日付を入力します。
- 「元帳日付」処理オプションが0の場合は、見出し領域の「デフォルト元帳日付」の値が使用されます。1の場合は、「明細書日付」の値が使用されます。
- 支払/入金No.** 「取引コード」フィールドの値に応じて、次の処理を行います。
- CR: 入金のバッチ番号を入力します。この番号が存在するかどうか自動的に検証されます。
- CK: 支払番号を入力します。取引を調整する際に、この番号が銀行取引明細処理プログラムで使用され、F0911テーブルの支払レコードが検索されます。
- JE: このフィールドはブランクにしてください。
- CREまたはCRI: 銀行取引明細の入金番号を入力します。JD Edwards EnterpriseOneでは、どちらの番号も他のテーブルと照合されません。
- DP: 仕入先に支払済の手形の支払番号を入力します。
- PWMまたはPWO: このフィールドはブランクにしてください。支払時に入力した番号が使用されます。
- タイプ** コードをUDCテーブル00/DTから入力し、当初伝票の照合に使用する伝票の種類を指定します。処理オプションの取引コードのデフォルト伝票タイプを入力した場合は、その伝票タイプがデフォルトとして使用されます。
- 転記コード** 銀行取引明細取引の処理済状況および残高調整済状況を指定するコードです。このコードは、F0917レコードの転記コード状況、およびF0917レコードとF0911レコードの残高調整状況を表します。
- 未処理または未調整のレコードの場合、F0917テーブルの転記コード・フィールドはA、調整済フィールドはブランクです。
- 処理済または調整済のレコードについては、有効なコードを銀行取引明細処理プログラム(R09170)の処理オプションで指定します。これらのコードはUDCテーブル09/RCと照合されます。調整済のレコードの場合、「転記コード」フィールドの値は、F0917テーブルとF0911テーブルの調整済フィールドのコードと同じです。
- 「銀行残高照合表入力」フォームで取引を入力し「OK」をクリックするか、または「ロー」メニューから「明細」を選択すると、処理オプションの設定に従って、次のいずれかが表示されます。
- 「検証モード」処理オプションが1または2の場合、入力した取引コードに対応する明細フォームが表示されます。CRを入力した場合は、「入金の決済」フォームが表示されます。CKを入力した場合は、「支払の決済」フォームが表示されます。
- 「検証モード」処理オプションが2の場合はさらに、明細フォームで無効な値を入力したり必須フィールドをブランクにしていないかどうかの検証が行われます。
- 明細フォームの一部のフィールドのデフォルト値は、銀行取引明細の入力プログラムの処理オプションで指定します。
- 「検証モード」処理オプションが0の場合、明細フォームは表示されません。かわりに、“不完全な取引が存在します”という警告が表示されます。「OK」をクリックし、続いて「取消」をクリックします。後で再度画面を開いて、明細を入力する必要があります。

## 勘定科目の残高調整情報の更新

この項では、残高調整テーブルの再作成プログラムの概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 残高調整テーブルの再作成プログラムの実行
- 残高調整テーブルの再作成のデータ選択の設定
- 残高調整テーブルの再作成 (R09130) の処理オプションの設定

### 残高調整テーブルの再作成プログラムについて

銀行取引明細の取引を入力したら、残高調整テーブルの再作成プログラム (R09130) を実行する必要があります。このプログラムによって、F0911R テーブルが銀行取引明細を受け取る前に記録した取引で更新されます。銀行取引明細処理プログラムを実行すると、F0911R テーブルの取引情報と、銀行取引明細の入力プログラムを使用して入力した F0917 テーブルの情報が比較されます。2 つのテーブルの取引情報が一致すると、その取引の残高調整が行われます。

**注意:** 仮勘定を使用しない取引に対してのみ、このプログラムを実行します。銀行取引明細の全取引で仮勘定を使用している場合は、このプログラムを実行しないでください。

残高調整テーブルの再作成プログラムは、銀行勘定残高を手動で調整する場合にも使用します。

参照: 第 19 章、「銀行勘定科目の残高調整」、「勘定科目の残高調整情報の更新」、184 ページ

### 事前設定

未転記バッチを転記します。

### 残高調整テーブルの再作成プログラムの実行

「銀行取引明細の処理」(G09211) の「残高調整テーブルの再作成」を選択します。

このプログラムにより、転記済バッチの F0911R テーブルのみが更新されます。

### 残高調整テーブルの再作成のデータ選択の設定

処理を高速化するには、データ選択を使用して、残高調整する勘定科目を指定します。

1 つの勘定のみに対して F0911R テーブルを作成する場合は、データ選択に略式 ID を指定します。この後、データ選択で特定の勘定科目コードを使用して F0911R テーブルを再作成すると、以前のレコードに新しいレコードが追加され、F0911R テーブルはクリアされません。

### 残高調整テーブルの再作成 (R09130) の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、F0911R テーブルに保管するレコードを指定します。

#### 選択

1. 開始日付、2. 終了日付 F0911R テーブルを再作成する開始日付と終了日付を指定します。
3. 調整済み状況 F0911R テーブルに含める取引を選択します。値は次のとおりです。

ブランク: 調整済取引のみ。

1: 調整済取引と未調整取引の両方。

調整済取引と未調整取引の両方を常に保管する設定にしていると、F0911R テーブルが非常に大きくなり、処理時間に影響する可能性があります。前の調整済レコードを訂正する必要がある場合のみ、調整済と未調整のレコードを含めるようにします。

## デフォルト

### 1. 元帳タイプ

F0911 テーブルからレコードを選択するときに使用される元帳タイプを指定します。この処理オプションをブランクにすると、すべての元帳タイプが選択されます。

## 表示

### 1. 伝票タイプ AE

F0911 テーブルからレコードを選択するときに、調整仕訳 (AE) の取引を含めるかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 含めない。

1: 含める。

## 印刷

### 1. メッセージ

残高調整テーブルの再作成レポート (R09130) で印刷するメッセージの対象を、すべての勘定科目とするか、再作成された勘定科目のみとするかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 再作成された勘定科目に対するメッセージのみ印刷する。

1: すべてのメッセージを印刷する。

---

## 銀行取引明細処理プログラムの実行

この項では、銀行取引明細処理プログラムの概要と、次の方法について説明します。

- 銀行取引明細処理プログラムの実行
- 銀行取引明細処理のデータ順序の設定
- 銀行取引明細処理 (R09170) の処理オプションの設定
- 銀行取引明細の処理レポートの検討
- 入金バッチ取引の処理

## 銀行取引明細処理プログラムについて

銀行取引明細処理プログラム (R09170) では、次の処理が行われます。

- 取引情報の比較

このプログラムでは、F0911R テーブルの各取引と F0917 テーブルの対応する取引が比較され、金額や日付などの情報が各テーブルで同じかどうかを検証されます。

仮勘定を使用した場合、この2つのテーブルの比較は行われません。F0917テーブルに入力した情報が正しいとみなされます。仮勘定を調整して、常に正しい情報が入力されているようにする必要があります。

- 入金見出しの更新プログラム(R03B551)および入金と請求書の消込プログラム(R03B50)の実行  
CRE取引を入力した場合は、銀行取引明細処理プログラムにより、この2つのプログラムが実行され、入金の作成と、その入金と請求書の消込が行われます。
- 仕訳の作成  
仮勘定を使用した場合は、銀行取引明細処理プログラムにより仕訳が作成され、金額が仮勘定から銀行勘定へ再配賦されます。

---

**注意:** 銀行取引明細処理プログラム実行後に、作成された仕訳バッチを転記する必要があります。

---

- 調整レポートの生成  
銀行取引明細処理プログラムにより、次のレポートが生成されます。これらのレポートには、F0911RテーブルとF0917テーブルの比較結果が記載されます。
  - 銀行取引明細処理
  - 銀行残高調整
  - 銀行決済済 - 未引落し
  - 銀行決済済 - 引落し前
  - 金額不一致
  - 未調整項目
- 取引の調整

テスト・モードと最終モードのどちらでプログラムを実行するかを処理オプションで指定します。テスト・モードでは、調整レポートが印刷され、取引の調整は行われません。

最終モードでは、F0911RテーブルとF0917テーブルの情報が一致した取引ごとに、F0911テーブルのGLRCND(調整済コード)フィールドがRに更新されます。R以外の調整コードを使用する場合は、銀行取引明細処理プログラムの処理オプションで別のコードを入力します。仮勘定を使用した場合は、2つのテーブルの比較を行わずにGLRCNDフィールドが更新されます。

また、F0911テーブルの取引の参照3フィールドを銀行取引明細番号で更新するかどうかを、処理オプションで指定します。次のプログラムにより、参照3フィールドの情報が表示または印刷されます。

- 取引明細照会(P09200)
- 勘定科目の照会(カテゴリ・コード別)(P09202)
- 取引仕訳(R09321)

## 事前設定

残高調整ファイルのリフレッシュ・プログラムを実行し、F0911Rテーブルの更新情報を更新します。

## 銀行取引明細処理プログラムの実行

「自動銀行取引明細の処理」(G09211)の「銀行取引明細処理」を選択します。

## 銀行取引明細処理のデータ順序の設定

銀行取引明細のデータ順序は、次の順序で設定してください。

1. 銀行取引明細番号
2. 明細書日付
3. 銀行勘定科目

## 銀行取引明細処理(R09170)の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、銀行取引明細に含めるレコードを指定します。

### テスト/最終

#### 1. 処理モード

銀行取引明細処理のモードを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: テスト・モード。F0911テーブルを更新しない。

1: 最終モード。F0911テーブルを更新する。

### 伝票タイプ

#### 1. 伝票タイプ

Uで始まるコードをUDCテーブル00/DTから入力します。(U1からU9およびUAからUZが、クライアント用に予約されています。)ブランクの場合、デフォルトの伝票タイプとしてJEが使用されます。

伝票タイプがJEの場合、取引の伝票番号は、仕訳入力の自動採番によって自動的に割り当てられます。JE以外の場合は、銀行取引の自動採番によって自動的に割り当てられます。

### 差額

#### 1. 差異許容限度

自動小額消去の許容限度額を入力します。％記号を付けて比率を入力することもできます。ブランクにすると、許容限度は使用されません。

#### 2. 仕訳の作成

許容限度以内の差異を消し込む仕訳を自動作成するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 仕訳を自動作成しない。差額は個別に表示されます。

1: 仕訳を自動作成する。

#### 3. 仕訳入力で使用する日付を指定してください。

仕訳入力に使用する日付を指定します。値は次のとおりです。

0: システム日付

1: 元帳日付

2: 決済日付

### ビジネスユニット

仕訳を行う勘定科目のビジネスユニットを入力します。ブランクの場合、銀行取引明細に記載されている銀行勘定のビジネスユニットが使用されます。

### 主科目、補助科目

仕訳を行う勘定科目の主科目と補助科目を入力します。

## 実現為替差損益

### 1. 実現為替差損益仕訳の作成

実現為替差損益の仕訳を作成するかどうか指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 作成しない。

1: 作成する。

### 2. 使用する日付

実現為替差損益の仕訳に使用する日付を指定します。値は次のとおりです。

0: システム日付。

1: F0911Rテーブルの元帳日付。

2: F0917テーブルの決済日付。

## 日付

### 1. 決済日付の取引モード

決済日付がF0911テーブルの元帳日付より前の場合の取引の処理方法を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 残高を調整しないが、レポートに印刷する。

1: 残高を調整し、レポートに印刷する。

2: 残高を調整するが、レポートには印刷しない。

## 調整

次の処理オプションをブランクにすると、最初の条件の値が使用されます。各処理オプションには、UDCテーブル(09/RC)からコードを入力します。

連結しない、または許容規則を使用しないで1対1で一致するレコード(デフォルトR)

1対1で一致するコードを入力します。

総勘定元帳の取引が貸借一致して銀行レコードがない連結レコード

貸借一致して銀行レコードがない連結レコードのコードを入力します。

銀行取引の残高が一致して総勘定元帳に金額がない連結レコード

貸借一致して元帳額がない連結レコードのコードを入力します。

取引を一致させるために連結処理が行われたレコード(総勘定元帳と銀行取引明細に取引あり)

連結処理のコードを入力します。

金額は一致しないが許容範囲内のレコード

金額は一致しないが許容範囲内のレコードのコードを入力します。

銀行取引明細にのみ含まれる取引で自己調整レコード

自己調整レコードのコードを入力します。



## 銀行取引明細

1. F0911のGLR3参照フィールドにF0917の銀行取引明細番号を入力するモードを指定してください。

GLR3(参照3)フィールドを対応するレコードのF0917テーブルの銀行取引明細番号で更新するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 更新しない。

1: 更新する。最終モードを指定した場合、GLR3フィールドの前の値は上書きされます。

## 銀行取引明細の処理レポートの検討

銀行取引明細処理プログラムにより、次のレポートが生成されます。レポートには、銀行取引明細取引の残高調整状況に関する情報が記載されます。

レポート	説明
銀行取引明細処理	各バッチの概要の一覧。プログラムにより取引が調整されると、“エラーなし”というメッセージが印刷されます。調整できなかった場合は、“** 残高調整レポートを参照してください **”というメッセージが印刷されます。
銀行残高調整	銀行取引明細の各取引の明細情報の一覧。引落としの金額と日付、および決済の金額と日付が別々のカラムに記載されます。引落としの金額と日付カラムには、F0911Rテーブルの情報が使用されます。決済の金額と日付カラムには、F0917テーブルの情報が使用されます。このレポートには、残高調整処理後の各取引の状況も記載されます。
銀行決済済 - 未引落とし	F0917テーブルに存在するがF0911Rテーブルには存在しない取引の一覧。
銀行決済済 - 引落とし前	F0917テーブルの取引の中で、決済日付がF0911Rテーブル内の元帳日付より前の取引の一覧。
金額不一致	F0917とF0911Rテーブルで金額が異なる取引の一覧。
未調整項目	F0917テーブル内のすべての未調整項目の一覧。

**注意:** レポートのカラムC(連結)にアスタリスクが表示されている場合、その行には連結されている複数の取引が含まれています。

## 入金バッチ取引の処理

CRE取引は、銀行取引明細処理プログラム実行後に作成されます。プログラム実行後に取引を残高調整するには、さらに次のステップを実行する必要があります。

1. 入金バッチを転記します。
2. 残高調整テーブルの再作成プログラムを実行します。
3. 「銀行勘定科目の残高調整」フォームで取引の残高調整を手動で実行します。このフォームは、残高調整プログラム(P09131)からアクセスします。



## 第 23 章

# 銀行取引明細の自動処理

この章では、自動銀行取引明細の処理の概要および次の方法について説明します。

- 銀行からのフラット・ファイルの処理
- 中間テーブルのデータの改訂
- 銀行取引明細テーブルへのデータのロード
- 銀行取引明細テーブルのデータの改訂
- 自動銀行取引明細の処理
- 銀行取引明細の未調整取引の残高調整
- 銀行取引明細テーブルの除去

### 関連項目:

第 7 章、「自動銀行取引明細処理の設定」、69ページ

---

## 自動銀行取引明細の処理について

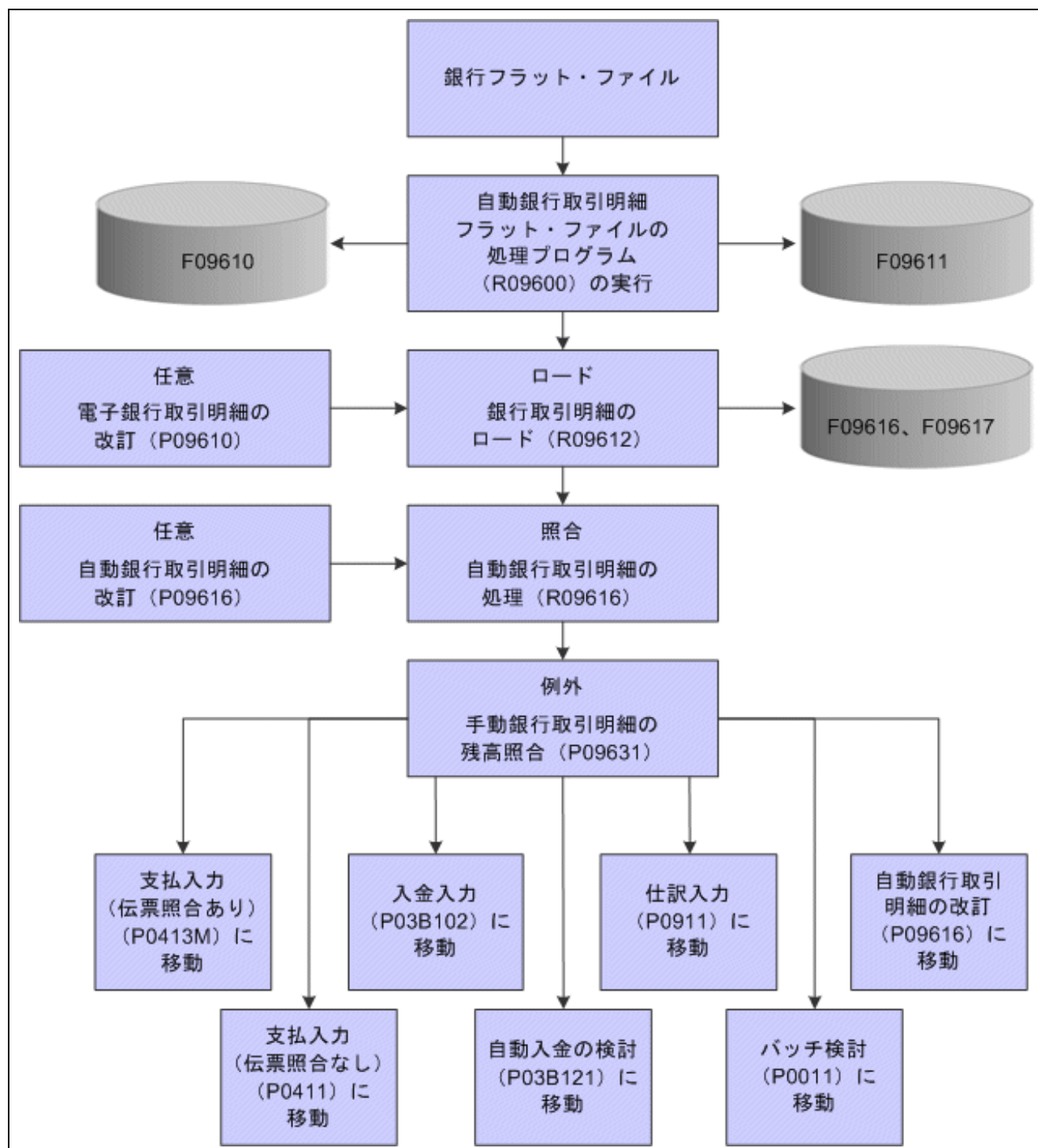
自動銀行取引明細処理は、銀行から受け取った銀行勘定科目情報とJD Edwards EnterpriseOne一般会計システムの銀行勘定科目情報の残高調整を行うために、資金管理処理で使います。この自動処理を使用すると、銀行取引明細と総勘定元帳の調整時に売掛金取引と総勘定元帳取引が作成されるため、時間を節約できます。自動銀行取引明細の処理で作成される取引は、次のとおりです。

- 入金入力(入金項目が銀行で決済されているが、まだシステムに入力されていない場合)
- 入金と支払の差異、税金、銀行手数料、および振替手数料の各仕訳
- 銀行勘定科目または相手勘定科目の相殺仕訳
- 支払手形勘定の仕訳

自動銀行取引明細の処理を使用する場合は、銀行からフラット・ファイルを使用して電子的に銀行取引明細データを送信してもらう必要があります。フラット・ファイルのデータをJD Edwards EnterpriseOne一般会計システムに変換するには、自動銀行取引明細フラット・ファイルの処理プログラム(R09600)を実行して、データを中間テーブル(F09610およびF09611)に変換する必要があります。

次に、銀行銀行取引明細のロード・プログラム(R09612)を実行し、銀行取引明細テーブル(F09616およびF09617)にデータを転送します。データを改訂する場合は自動銀行取引明細の改訂プログラム(P09616)を使用します。次に自動銀行取引明細の処理プログラム(R09616)を実行し、電子銀行取引明細のデータと総勘定元帳の銀行勘定科目情報を自動調整します。自動調整されない取引がある場合は、処理オプションの設定に応じて、未調整レポートが印刷されます。未調整の例外は、手動銀行取引明細の残高照合プログラム(P09631)を使用して修正できます。

次の図は、自動銀行取引明細の処理を示しています。



自動銀行取引明細の処理

## 銀行からのフラット・ファイルの処理

この項では、自動銀行取引明細フラット・ファイルの処理プログラムの概要と、次の方法について説明します。

- 自動銀行取引明細フラット・ファイルの処理プログラム (R09600) の処理オプションの設定
- 自動銀行取引明細フラット・ファイルの処理プログラム (R09600) の実行

### 自動銀行取引明細フラット・ファイルの処理プログラムについて

自動銀行取引明細フラット・ファイルの処理プログラム (R09600) では、銀行から受け取るデータを、JD Edwards EnterpriseOne 一般会計システムでの読取りおよび使用が可能なフォーマットに変換します。銀行ファイルはテキスト・フラット・ファイルである必要があります。このプログラムでは、BAI2 および SWIFT データ・フォーマットがサポートされています。このプログラムを実行すると、バンク・ファイル内のデータが読み取られ、適切なフォーマットに変換されます。その後、データが中間テーブル (F09610 および F09611) に書き込まれます。R09600 では、処理オプションの設定に基づいて次のビジネス関数が呼び出され、銀行取引明細データが処理されます。

- 自動銀行取引明細フラット・ファイルの処理 - BAI2 フォーマット (B0900601)

このビジネス関数は、R09600 の処理オプションが BAI2 フォーマットを処理するように設定されている場合にのみ使用されます。この関数を使用すると、テキスト・ファイルが入力として読み取られてデータが解析され、中間テーブルにレコードを書き込むために B0900603 が呼び出されます。この関数で発生するすべてのエラーが `jddebug.log` に記録されます。

- 自動銀行取引明細フラット・ファイルの処理 - SWIFT フォーマット (B0900602)

このビジネス関数は、R09600 の処理オプションが SWIFT フォーマットを処理するように設定されている場合にのみ使用されます。この関数を使用すると、テキスト・ファイルが入力として読み取られてデータが解析され、中間テーブルにレコードを書き込むために B0900603 が呼び出されます。この関数で発生するすべてのエラーが `jddebug.log` に記録されます。

- 自動銀行取引明細フラット・ファイルの処理のキャッシュ関数 (B0900603)

このビジネス関数は、BAI2 および SWIFT フォーマットの両方の処理で使用されます。この関数を使用すると、フォーマットされたデータが中間テーブルに書き込まれます。

### 自動銀行取引明細フラット・ファイルの処理プログラム (R09600) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムのデフォルトの処理情報を定義します。

#### 処理

##### 1. 銀行ファイル・フォーマット

この処理オプションを使用して、銀行取引明細の処理に使用するフォーマットを指定します。値は UDC 09/FF に保存されており、次の値があります。

BAI2: BAI2 銀行フォーマット

SWIFT: SWIFT 銀行フォーマット

##### 2. テキスト・ファイル名

この処理オプションを使用して、銀行から処理のために送信される電子銀行取引明細テキスト・ファイルの名前を指定します。

- 3. テキスト・ファイルの場所** この処理オプションを使用して、銀行取引明細テキスト・ファイルの場所を指定します。システムでは、この値に基づいてファイルを探し、銀行取引明細情報を処理します。
- 4. 中間テキスト・ファイルの場所** この処理オプションを使用して、処理エラーのためにテキスト・ファイルが削除されなかった場合に、テキスト・ファイルを移動する場所を指定します。
- 5. テキストファイルの削除** この処理オプションを使用して、銀行から送信されたテキスト・ファイルが処理されてデータが自動銀行取引明細の中間テーブルに書き込まれた後でテキスト・ファイルを削除するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
- 1: はい(ファイルを削除する)  
0: いいえ(ファイルを削除しない)
- 6. 日付形式マスク** この処理オプションを使用して、電子銀行取引明細ファイル内の日付に使用する日付形式を指定します。たとえば、YYMMDD形式の日付には、ROAを使用します。次の値を組み合わせて使用します。
- D: 日、1桁または2桁  
A: 日、2桁(ゼロ詰めあり)  
Y: 日、2桁(スペース詰めあり)  
M: 月、1桁または2桁  
O: 月、2桁(ゼロ詰めあり)  
N: 月、2桁(スペース詰めあり)  
T: 月、言語別、UDCから  
B: 月の省略名、言語別、UDCから  
R: 2桁の年  
E: 4桁の年  
S: 日付区切り文字としてのスラッシュ、コンフィギュレーションから  
C: 日付区切り文字としてのカンマ、コンフィギュレーションから

## 自動銀行取引明細フラット・ファイルの処理プログラム(R09600)の実行

「自動銀行取引明細処理」メニュー(G09212)から「電子銀行取引明細の処理」を選択します。

---

## 中間テーブルのデータの改訂

この項では、中間テーブルのデータの改訂の概要と、次の方法について説明します。

- 電子銀行取引明細の改訂(P09610)の処理オプションの設定
- 中間データの改訂

## 中間テーブルのデータの改訂について

自動銀行取引明細フラット・ファイルの処理プログラム (R09600) を実行したときにフラット・ファイルから中間テーブル (F09610 および F09611) に正常にマッピングされなかったデータがある場合は、次のタスクの1つを実行します。

- エラーを修正し、R09600を再実行します。
- 電子銀行取引明細の改訂プログラムを使用して、中間テーブルのデータを改訂します。

中間テーブルには、使用不可に設定されているためデータの改訂ができないフィールドがあります。それ以外のフィールドは、改訂できます。改訂を許可するフィールドの制御には、処理オプションを使用します。

中間テーブルではデータの改訂のみを行うことができます。レコードの追加または削除はできません。エラーのデータを改訂すると、電子銀行取引明細の改訂プログラムによってデータが検証され、銀行取引明細の開始残高と取引金額の合計が終了残高に等しいかどうかの確認が行われます。

中間テーブルには、トラッキングおよびセキュリティ目的に使用される監査フィールドが含まれています。中間テーブル内の改訂されたレコードは、内部監査用にトラッキングされます。

### 関連項目:

付録 C、「自動銀行取引明細処理のフィールドのマッピング、」499ページ

## 中間テーブルのデータ改訂に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
電子銀行取引明細の処理	W09610C	「自動銀行取引明細の処理」(G09212)、「電子銀行取引明細の改訂」  レコードを除去する場合は、「電子銀行取引明細の処理」フォームで、「中間テーブルの除去」を選択し、中間テーブルの除去プログラム (R09610) にアクセスします。	銀行取引明細の一覧を表示したり、条件を指定して特定の銀行取引明細を検索します。
電子銀行取引明細の改訂	W09610A	「電子銀行取引明細の処理」フォームで、改訂する銀行取引明細を選択します。	エラーのデータを改訂します。このフォームではデータの削除または追加はできません。削除または追加を行う場合は、変換フローの1つのマッピングを修正し、再実行する必要があります。

## 電子銀行取引明細の改訂 (P09610) の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、「電子銀行取引明細の改訂」フォームの特定のフィールドの改訂を許可するかどうかを指定します。

### フィールドの更新

このタブ上の各処理オプションの有効な値は次のとおりです。

- ブランク: フィールドの改訂を許可しない。
- 1: フィールドの改訂を許可する。

このプログラムの処理オプションは、「電子銀行取引明細の改訂」フォームの次のフィールドに対応しています。

- 取引値日付
- 取引借方/貸方インディケータ
- 取引金額
- 電子商取引タイプ
- 顧客参照
- 銀行参照
- サブフィールド9
- その他の情報

## 中間データの改訂

「電子銀行取引明細の改訂」フォームにアクセスします。

電子銀行取引明細の改訂 - 電子銀行取引明細の改訂

OK(O) 検索(S) 取消(C) ツール(T)

銀行取引明細番号 1050 開始残高 1,000.00

銀行取引明細日付 2005/06/30 終了残高 1,820.00-

銀行口座番号 3664831509 残額

銀行取引明細ID 159 ☐ 未ロード ☐ ロード済み ☒ すべて

レコード 1-7 グリッドのカスタマイズ

	電子商取引 タイプ	顧客 参照	取引値 日付	取引 金額	取引借方/貸方 インディケータ	取引 通貨コード	銀行 参照	残高調整 コード
<input checked="" type="radio"/>	115	7432	2005/06/15	270.00	C	USD		
<input type="radio"/>	115	7434	2005/06/15	310.00	C	USD		
<input type="radio"/>	115	7435	2005/06/16	415.00	C	USD		
<input type="radio"/>	115	8120	2005/06/21	500.00	C	USD		
<input type="radio"/>	475	51145	2005/06/22	2,100.00	D	USD		
<input type="radio"/>	475	51146	2005/06/23	2,200.00	D	USD		
<input type="radio"/>	698		2005/06/20	15.00	D	USD		

「電子銀行取引明細の改訂」フォーム

このフォームでは、残高調整済レコードは改訂できません。

## 見出しフィールド

### 終了残高

このフィールドはSWIFTフォーマットの場合に必須です。SWIFTの銀行フラット・ファイルには必ず終了残高額が含まれており、このフィールドに表示されます。



終了残高がBAI2フォーマットの銀行フラット・ファイルに含まれていない場合は、自動的に計算された終了残高がこのフィールドに表示されますが、テーブルは一切更新されません。これにより、中間テーブルを元の状態のまま、銀行フラット・ファイル内のデータと同じ状態に保つことができます。

#### 未ロード、ロード済み、すべて

表示する取引をこれらのオプションから1つ選択します。

中間テーブルから銀行取引明細にまだロードされていないレコードを改訂する場合は、銀行取引明細に改訂が反映されるように、銀行取引明細のロード・プログラムを再実行します。

### 詳細グリッド・フィールド

このフォームの詳細グリッドのフィールドを改訂できるかどうかは、処理オプションで制御します。

#### 電子商取引タイプ

UDCテーブル09/BA (BAI2フォーマット) または 09/ST (SWIFTフォーマット) の取引タイプ・コードが表示されます。

#### 顧客参照

電子銀行取引明細に表示される参照を指定します。このフィールドに参照番号を入力すると、銀行取引明細取引がJD Edwards EnterpriseOne一般会計システムに関連付けられます。顧客参照には、入金の保証金番号や支払番号などを使用します。

#### 取引値日付

入金または支払金額が銀行勘定の借方または貸方に計上された日付が表示されます。取引値日付は銀行が支払を決済した日付ではありません。

#### 取引借方/貸方インディケータ

取引が借方であるか、貸方であることを示します。値は次のとおりです。

D: 借方

C: 貸方

RC: 貸方取り消し

RD: 借方取り消し

「電子商取引タイプ」フィールドを変更し、銀行フォーマットがBAI2の場合、このフィールドにはデフォルト値がロードされます。銀行フォーマットがSWIFTの場合は、インディケータを入力する必要があります。

#### 取引通貨コード

銀行勘定科目の取引通貨コードが表示されます。

多通貨環境で銀行勘定通貨が外貨の場合は、その外貨が取引通貨になります。

#### 銀行参照

銀行が銀行取引明細に割り当てた参照を指定します。

#### 残高調整コード

残高調整済の取引かどうかを示すコードがUDCテーブル09/RCから表示されます。このフィールドは、変更はできません。

#### サブフィールド9

電子銀行取引明細に記載されている情報が表示されます。

#### その他の情報

電子銀行取引明細に記載されているその他の情報が表示されます。

## 銀行取引明細テーブルへのデータのロード

この項では、銀行取引明細のロード・プログラムの概要と、次の方法について説明します。

- 銀行取引明細のロード・プログラムの実行
- 銀行取引明細のロードの処理オプションの設定

## 銀行取引明細のロード・プログラムについて

銀行取引明細のロード・プログラムにより、F09610およびF09611中間テーブルからJD Edwards EnterpriseOne一般会計システムのF0916およびF0917銀行取引明細テーブルにデータがロードされます。このプログラムにより、使用される電子フォーマットのタイプ(BAI2またはSWIFT)に応じてデータがフォーマットされ、銀行取引明細テーブルの値が有効であるかどうか検証されます。銀行取引明細のロード・レポート(R09612)に、ロード済数、および必要に応じて未ロード数が出力されます。

入金、支払、振込手数料などの参照番号に対応して、F09611テーブルには顧客参照(CUSTREF)フィールドがあります。このフィールドは、最大16文字の英数字を入力可能で、F09617テーブルの入金番号(CKNU)フィールドにマッピングされます。またCUSTREFフィールドの内容は、伝票番号(DOCM)および参照1(REF1)フィールドにマッピングされます。F09617テーブルでは制限文字数を超える入力は切り捨てられます。

データが銀行取引明細テーブルに正しくマッピングされた場合は、F09610テーブルの見出しレコードにレコードの除去が可能であることを示すフラグが設定されます。処理オプションを設定して銀行取引明細のロード・プログラム実行時に中間テーブルからデータを除去するか、または後でデータを除去します。

銀行取引明細に取引が含まれていない場合は、詳細レコードがないため、この銀行取引明細は銀行取引明細テーブルにマッピングされません。しかし、中間テーブルにはマッピングされ、銀行フラット・ファイルのコピーが作成されます。

## 銀行取引明細のロード・プログラムの実行

「自動銀行取引明細の処理」(G09212)の「銀行取引明細のロード」を選択します。

## 銀行取引明細のロード(R09612)の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、銀行取引明細のロード・プログラム実行後にレコードを除去するかどうかを指定します。

### 処理

#### 中間テーブルの除去

銀行取引明細テーブルへのロードに成功した中間レコードを除去するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 除去しない。

1: 除去する。

中間レコードが銀行取引明細に正常にロードされた後、電子銀行取引明細の中間テーブルの除去プログラムが自動的に実行されます。

---

## 銀行取引明細テーブルのデータの改訂

この項では、銀銀行取引明細テーブルのデータ改訂の概要と、次の方法について説明します。

- 自動銀行取引明細の改訂プログラム(P09616)の処理オプションの設定
- 銀行取引明細データの改訂

- 顧客番号のない取引の改訂

## 銀行取引明細テーブルのデータの改訂について

銀行取引明細のロード・プログラムの実行時にエラーが発生した場合は、自動銀行取引明細の改訂プログラムを使用して、銀行取引明細テーブル(F09616およびF09617)のエラーを修正できます。

銀行取引明細テーブルの使用不可に設定されているフィールドについては、データの改訂ができません。それ以外のフィールドは、改訂できます。改訂を許可するフィールドの制御には、処理オプションを使用します。

データの改訂のみを行えます。レコードの追加または削除はできません。

銀行取引明細テーブルには、トラッキングおよびセキュリティ目的に使用される監査フィールドが含まれています。銀行取引明細テーブル内の改訂されたレコードは、内部監査用にトラッキングされます。

## 銀行取引明細テーブルのデータの改訂に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
自動銀行取引明細の処理	W09616A	「自動銀行取引明細の処理」(G09212)、「自動銀行取引明細の改訂」  「自動銀行取引明細の処理」フォームで、「フォーム」メニューから「顧客/仕入先」を選択し、顧客番号のない取引を改訂します。	銀行取引明細の一覧を表示したり、条件を指定して特定の銀行取引明細を検索します。このフォームで銀行取引明細がハイライトされている場合、その取引明細にはデータ・エラーが含まれています。
自動銀行取引明細の改訂	W09616C	「自動銀行取引明細の処理」フォームで、改訂する銀行取引明細を選択します。  「ロー」メニューから「銀行取引明細」を選択し、中間テーブルのデータを改訂します。  「フォーム」メニューから「銀行取引明細の削除」を選択し、自動銀行取引明細テーブルの除去プログラム(R09615)にアクセスし、F09616およびF09617テーブルを除去します。	エラーのデータを修正します。このフォームではレコードの削除または追加はできません。
銀行銀行取引明細の顧客/仕入先入力の処理	W09617A	「自動銀行取引明細の処理」(G09212)、「自動銀行取引明細の顧客/仕入先入力」	顧客番号のない自動バッチ入金取引を特定します。
銀行取引明細の顧客/仕入先入力の改訂	W09617B	「銀行取引明細の顧客/仕入先入力の処理」フォームで、取引を選択します。	自動バッチ入金取引の顧客番号を入力します。このフォームには、銀行取引明細取引に関連する詳細情報が含まれています。「顧客/仕入先番号」フィールド以外はすべて参照用であり、変更できません。

## 自動銀行取引明細の改訂プログラム(P09616)の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、「自動銀行取引明細の改訂」フォームの特定のフィールドの改訂を許可するかどうかを指定します。このフォームから、銀行取引明細テーブルのレコードにアクセスします。

### フィールドの改訂

このタブ上の各処理オプションの有効な値は次のとおりです。

- ・ ブランク: フィールドの改訂を許可しない。
- ・ 1: フィールドの改訂を許可する。

このプログラムの処理オプションは、「自動銀行取引明細の改訂」フォームの次のフィールドに対応しています。

- ・ 決済日付
- ・ 支払/入金No.
- ・ 銀行取引明細コード
- ・ 備考
- ・ サブフィールド9
- ・ その他の情報

## 銀行取引明細データの改訂

「自動銀行取引明細の改訂」フォームにアクセスします。

自動銀行取引明細の改訂 - 自動銀行取引明細の改訂

OK(○) 検索(🔍) 取消(❌) ロー(⬅️) ツール(🔧)

自動銀行取引明細番号 \*

銀行勘定科目コード \*

明細書日付 \*

バッチ番号 \*

電子フォーマット・インディケータ \*

電子銀行口座番号

銀行取引明細ID

1050

1.1110.AUTOBST1    Auto Bank Statement 1

2005/06/30

7450

BAI2    BAI2

3664831509

159

開始残高

借方合計

貸方合計

終了残高

1,000.00

4,315.00

1,495.00

1,820.00-

☒ すべて表示

☐ 照合済み取引の表示

☐ 未照合取引の表示

レコード 1 - 7

グリッドのカスタマイズ

	決済日付	支払/入金No.	残高調整コード	通貨コード フォーム	借方金額	貸方金額	顧客/仕入先No.	顧客/仕入先フラグ	例外理由
<input checked="" type="radio"/>	2005/06/23	51146		USD	2,200.00		0		
<input type="radio"/>	2005/06/22	51145		USD	2,100.00		0		
<input type="radio"/>	2005/06/21	8120		USD		500.00	1001		
<input type="radio"/>	2005/06/20			USD	15.00		0		
<input type="radio"/>	2005/06/16	7435		USD		415.00	0		
<input type="radio"/>	2005/06/15	7434		USD		310.00	0		
<input type="radio"/>	2005/06/15	7432		USD		270.00	0		

「自動銀行取引明細の改訂」フォーム

取引は、最新の取引を先頭にして決済日付の降順で表示されます。データ・エラーがある場合は、「自動銀行取引明細の改訂」フォームの最上部に警告メッセージが表示されます。

BAI2電子フォーマットの場合は、整合性チェックが実行され、このフォームで改訂したデータが検証されます。整合性チェックにより、電子銀行取引明細の開始残高、借方金額および貸方金額の合計が終了残高と等しいかどうかを確認されます。等しくない場合は、“終了残高が正しくありません”などの警告メッセージが表示されます。銀行取引明細に終了残高が含まれていない場合は、「終了残高」フィールドの金額が計算され、終了残高となります。

### 見出しフィールド

**電子銀行口座番号**                      F09610中間テーブルから銀行口座番号が表示されます。必要に応じて、改訂できます。

**自動バッチ入金で顧客/  
仕入先番号のない取引  
の表示**

このチェックボックスを選択すると、顧客番号のないCRの取引が表示されます。自動銀行取引明細を処理する場合は、自動バッチ入金を作成し請求書との消込を行うために顧客番号が必要になります。顧客番号がblankの場合は、自動バッチ入金が仮入金として作成されます。この入金と請求書の消込は行われません。

**すべて表示、照合済み取引の表示、未照合取引の表示**

残高調整取引のみを表示するか、残高未調整取引のみを表示するか、または両方の取引を表示するかを、このオプションで選択します。

**詳細グリッド・フィールド**

このフォームの詳細グリッドのフィールドを改訂できるかどうかは、処理オプションで制御します。

**決済日付**

入金または支払金額が銀行勘定の借方または貸方に計上された日付が表示されます。銀行が支払を決済した日付ではありません。

**支払/入金No.**

最大16文字の英数字の参照番号が表示されます。通常は、入金、支払、振込手数料に使用されます。

F09611中間テーブルの顧客参照(CUSTREF)フィールドが、F09617銀行取引明細テーブルのこのフィールド(CKNU)にマッピングされます。

**電子銀行取引タイプ**

取引タイプ・コードとして、UDCテーブル09/BA(BAI2銀行フォーマット)または09/ST(SWIFT銀行フォーマット)のユーザー定義コードが表示されます。

**銀行取引明細コード**

CK、CR、DP、JE、RJEなどのユーザー定義の取引コードが表示されます。

**顧客番号のない取引の改訂**

「銀行取引明細の顧客/仕入先入力の処理」フォームにアクセスします。

自動銀行取引明細の顧客/仕入先入力 - 銀行取引明細の顧客/仕入先入力の処理

選択(S) 検索(O) 閉じる(C) ツール(T)

☒ 自動バッチ入金の顧客/仕入先No.のない取引を表示  
☐ すべての取引を表示

レコード 1 - 3

銀行取引明細ID	自動銀行取引明細番号	銀行勘定科目コード	明細書日付	電子銀行取引タイプ	銀行取引明細取引コード	顧客仕入先番号
<input checked="" type="radio"/>	3091	190	1.1110.BEAR	2005/06/23	108	CR
<input type="radio"/>	3091	190	1.1110.BEAR	2005/06/23	108	CR
<input type="radio"/>	3091	190	1.1110.BEAR	2005/06/23	108	CR

「銀行取引明細の顧客/仕入先入力の処理」フォーム

このフォームには、CRの取引のみが表示されます。顧客番号は、自動バッチ入金の作成と請求書の消込を行う場合に必要です。すべてのCR取引で必要というわけではありません。顧客番号がblankで、残高調整ルールが自動バッチ入金を作成するように設定されている場合は、仮入金を作成され、請求書の消込は行われません。

<b>自動バッチ入金の顧客/仕入先No.のない取引を表示</b>	顧客番号のないCRの取引を表示する場合に、このオプションを選択します。取引の番号がなく、その取引が自動バッチ入金にマークされている場合、このフォームの「顧客/仕入先フラグ」フィールドの値は1となります。
<b>すべての取引を表示</b>	顧客番号あり、なし両方のCR取引を表示する場合に、このオプションを選択します。  取引の番号があり、その取引が自動バッチ入金にマークされている場合、このフォームの「顧客/仕入先フラグ」フィールドはブランクになります。

## 自動銀行取引明細の処理

この項では、自動銀行取引明細プログラム、自動銀行取引明細レポートおよびメッセージの各概要と、次の方法について説明します。

- 自動銀行取引明細の処理 (R09616) の処理オプションの設定
- 自動銀行取引明細の処理プログラムの実行

### 自動銀行取引明細プログラムについて

銀行取引明細のロード・プログラムを実行し、必要に応じて銀行取引明細テーブルのデータを改訂したら、自動銀行取引明細の処理プログラムを実行できます。このプログラムにより、銀行が決済したデータとJD Edwards EnterpriseOne一般会計システムに入力されているデータが比較されて残高調整されます。自動銀行取引明細の処理プログラムによって、次の処理が行われます。

- 取引タイプ (UDCテーブル09/TT) に設定した残高調整ルールに基づいてデータが残高調整されます。
- 「取引タイプ相互参照の改訂」フォームにおいて取引コードJEに割り当てられた相殺ビジネスユニット (UDCテーブル09/BU) を使用し、相手勘定科目または銀行勘定科目のビジネスユニットを使用して相殺仕訳を作成するかどうかが決まります。
- F09616およびF09617テーブルの取引が処理され、F0911テーブルの取引に対して調整されます。

**注意:** 自動銀行取引明細の処理プログラムにより、JD Edwards EnterpriseOne一般会計システムに入力されている手入力の仕訳が自動調整されることはありません。これらの仕訳は、手動で調整する必要があります。F09616およびF09617テーブルからF0911テーブルにこれらの取引を関連付ける参照番号フィールドはありません。

- 自動バッチ入金プログラム (R03B551) が実行され、自動バッチ入金に指定されたCR取引のバッチ入金を作成されます。

顧客番号が取引に割り当てられている場合は、自動バッチ入金を作成され、入金と請求書の消込が行われます。顧客番号がブランクの場合は、仮入金が作成され、請求書との消込は行われません。

自動銀行取引明細の処理プログラムにより、銀行取引明細のバッチ番号がF0911テーブルのGLR3 (参照3) フィールドにロードされます。入金と請求書のバッチ番号または保証金番号はロードされません。銀行取引明細番号を取引上に表示させる場合は、「自動残高調整グループの改訂」フォームの残高調整ルールのチェックボックスを選択する必要があります。

多通貨処理の場合は、入金と請求書の通貨が同じ場合のみ、バッチ入金が作成されます。

- 顧客番号のある取引の場合は、入金と請求書の消込プログラム (R03B50) を実行して、バッチ入金と請求書の消込が行われます。

照合する請求書がない場合は、タイプRUの請求書が作成されます。

- ・ 中間テーブルのレコードは、すでに除去済でないかぎり、調整済として更新されます。

多通貨環境では、銀行勘定科目フォーマットに取引通貨が使用されます。銀行勘定の通貨が外貨(会社の基本通貨以外)の場合は、その外貨が取引通貨となります。自動銀行取引明細の処理プログラムでは、取引に国内通貨金額が存在しないため、外貨建ての銀行勘定の損益は計算されません。

自動銀行取引明細の処理プログラムの実行後、「銀行取引明細と取引明細の調整」フォームで取引を検討して、未調整取引を手動で調整したり、必要に応じて調整済の取引を未調整に変更できます。

## 仕訳のみ調整

UDCテーブル09/TTの取引タイプRJE(または特殊取扱コード02が付いたユーザー指定コード)は、JD Edwards EnterpriseOne一般会計システムに仕訳取引としてすでに存在する銀行取引明細の取引に使用されます。これらの取引の場合、自動銀行取引明細の処理では重複した取引は作成されず、かわりに、既存の仕訳と総勘定元帳が調整されます。通常この取引タイプ・コードは、銀行手数料、振込手数料などの銀行取引に使用されます。

## 自動銀行取引明細レポートおよびメッセージについて

処理オプションの設定に応じて、自動銀行取引明細の処理プログラムにより、自動銀行取引明細処理レポート(R09616)が生成されます。生成されるレポートは次のとおりです。

- ・ 集計レポート - 調整済と未調整の取引の数、および作成された新規バッチについての集計情報を出力する集計レポート
- ・ 調整済取引レポート - 調整済取引の合計数、および各調整済取引について出力する詳細レポート
- ・ 未調整取引レポート - 未調整取引の合計数、および各未調整済取引について出力する詳細レポート

未調整メッセージの理由コードと対応するテキストは、UDCテーブル09/URに設定されています。

次の表は、自動銀行取引明細の処理プログラムによって生成され、「銀行取引明細と取引明細の調整」フォームまたは未調整取引レポートに表示される未調整メッセージの例を示しています。

メッセージ	説明
金額が一致しない	<p>プログラムにより銀行取引明細と総勘定元帳金額の間の差異が検出され、次のいずれかに該当する場合に出力されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 残高調整ルールに許容限度額が設定されていない。</li> <li>・ 残高調整ルールで設定された金額が、許容限度額の設定範囲内に収まっていない。</li> </ul>
元帳に一致する支払がない	<p>F0911テーブルに一致する支払がない場合に出力されます。手入力での支払を作成し、総勘定元帳に転記する必要があります。</p>
元帳に一致する入金がない	<p>F0911テーブルに一致する入金がなく、残高調整ルールが自動バッチ入金を作成するように設定されていない場合に出力されます。次のいずれかの処理を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手動入金を作成して総勘定元帳に転記し、自動銀行取引明細の処理プログラムを再実行する。</li> <li>・ 残高調整ルールを改訂して自動バッチ入金を作成し、自動銀行取引明細の処理プログラムを再実行する。</li> </ul>



メッセージ	説明
相手勘定が無効	取引の相手勘定科目が有効でない場合に出力されます。
自動バッチ入金を作成されていない	CR取引の残高調整ルールにバッチ入金の自動作成が設定されていない場合に出力されます。

## 自動銀行取引明細の処理プログラムの実行

「自動銀行取引明細の処理」(G09212)の「自動銀行取引明細の処理」を選択します。

自動銀行取引明細の処理プログラムでは、データ選択を使用しません。かわりに、処理オプションで銀行取引明細番号、銀行勘定科目コード、日付範囲別のデータを選択します。

## 自動銀行取引明細の処理(R09616)の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、残高調整する銀行取引明細と印刷するレポートを選択します。

### 選択

自動取引明細書番号	調整する銀行取引明細番号を指定します。blankにすると、F09616テーブルのすべての銀行取引明細が処理されます。
銀行勘定科目コード	調整する総勘定元帳の銀行勘定科目コードを指定します。blankにすると、F09616テーブルにあるすべての総勘定元帳の銀行勘定科目が処理されます。
銀行取引明細開始日付	レコードの調整を開始する日付を指定します。blankにすると、終了日付までのF09616テーブルのすべてのレコードが処理されます。終了日付処理オプションをblankにすると、テーブル内のすべてのレコードが処理されます。
銀行取引明細終了日付	レコードの調整を終了する日付を指定します。blankにすると、開始日付以後のF09616テーブルのすべてのレコードが処理されます。開始日付処理オプションをblankにすると、テーブル内のすべてのレコードが処理されます。

### 印刷

この処理オプションの有効値は次のとおりです。

blank: 印刷する。

1: 印刷しない。

未調整レポートを印刷しない、調整済みレポートを印刷しない、集計レポートを印刷しない	レポートを印刷するかどうかを指定します。すべてのレポートを印刷する場合は、blankにします。
---	---

## 銀行取引明細の未調整取引の残高調整

この項では、手動銀行取引明細の残高照合プログラムの概要と、次の方法について説明します。

- 手動銀行取引明細の残高照合 (P09631) の処理オプションの設定
- 未調整銀行取引の残高調整

### 手動銀行取引明細の残高照合プログラムについて

自動銀行取引明細の処理プログラムの実行後に、手動銀行取引明細の残高照合 (P09631) を使用して未調整および調整済の取引を改訂できます。このプログラムでは、「銀行取引明細と取引明細の調整」フォームにアクセスします。このフォームでは、F09617テーブルの銀行取引明細を調整できます。また、F0911テーブルの対応する元帳情報をフォームの「取引明細」領域に表示し、調整することもできます。「取引明細」領域に表示されるのは、転記済取引のみです。

自動銀行取引明細の処理プログラムで取引を処理できない場合、その取引は「銀行取引明細と取引明細の調整」フォームに未調整（「調整コード」フィールドがブランクになります）として表示され、調整されなかった理由が表示されます。

参照: 第 23 章、「銀行取引明細の自動処理」、「自動銀行取引明細プログラムについて」、229ページ

未調整取引を修正する場合は、「銀行取引明細と取引明細の調整」フォームから様々なフォームに移動できます。各種フォームで、次の作業を行うことができます。

- 手動入金を作成、および伝票付き/伝票なしの手動支払の作成

手動の入金または支払を作成すると、支払IDがF09617テーブルに保管され、対応する銀行取引明細取引に調整済のマークが付けられます。銀行取引明細のバッチ番号が、手動の支払および入金バッチに割り当てられます。入金または支払を転記すると、RCND (未調整) フィールドが更新され、自動銀行取引明細の処理プログラムの処理オプションが設定されている場合は、F0911テーブルのGLR3 (参照3) フィールドが更新されます。

- 自動銀行取引明細の処理プログラムによって作成された自動入金の改訂
- 仕訳の作成

仕訳を作成すると、自動採番によってバッチ番号が割り当てられます。

- 未転記取引の転記

未調整取引を修正した後、「銀行取引明細と取引明細の調整」フォームで銀行取引明細の取引を手動調整するか、自動銀行取引明細の処理プログラムを再実行して自動調整します。取引が調整されると、対応するF0911取引がフォームの「取引明細」領域に調整済として表示されます。

「銀行取引明細と取引明細の調整」フォームでは、未調整取引を調整できる他、必要に応じて調整済取引を未調整に変更できます。

銀行取引明細のすべての取引がF09617テーブルで調整されると、F09611中間詳細テーブル内の対応する中間レコードに調整済のマークが付けられます。ただし、次の場合を除きます。

- レコードがF09610およびF09611中間テーブルから除去された場合。
- レコードがエラーのため、F09611中間詳細テーブルにロードされなかった場合。

F09611テーブルのすべての取引が調整されると、F09610テーブルの見出しレコードが調整済に更新されます。

## 銀行取引明細取引の手動残高調整に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
銀行取引明細と取引明細の調整	W09631A	「自動銀行取引明細処理」(G09212)、「手動銀行取引明細の残高照合」	銀行取引明細の未調整取引を調整し、必要な場合は調整済取引を未調整に変更します。

## 手動銀行取引明細の残高照合(P09631)の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、「銀行取引明細と取引明細の調整」フォームのデフォルト値を指定します。

### デフォルト

#### 参照3更新

F0911テーブルの参照3(GLR3)フィールドを自動採番された番号で更新するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 更新する。

1: 参照3の更新を実行しない。つまり、参照3フィールドを更新しない。

**注意:** この処理オプションの値は、「銀行取引明細と取引明細の調整」フォームで変更できます。

#### 調整済みコード

調整コードをUDCテーブル09/RCから指定し、「銀行取引明細と取引明細の調整」フォームのデフォルト値に使用します。ブランクにすると、R(残高調整済(1対1))がデフォルト値として使用されます。

## 未調整銀行取引の残高調整

「銀行取引明細と取引明細の調整」フォームにアクセスします。

「銀行取引明細と取引明細の調整」フォーム - 「銀行取引明細の検索」領域

#### 勘定科目コード

銀行勘定の勘定科目コードを入力します。

#### 開始日付、終了日付

表示する銀行勘定取引の開始と終了の日付を入力します。

#### 調整状況

ドロップダウン・メニューの「未調整」、「調整済」、「すべて」の中から検索条件に合うものを選択します。

### 銀行取引明細

F09617テーブルから、このフォームの見出し領域で指定した勘定科目コードと日付範囲に一致する銀行取引明細の取引が表示されます。

**銀行取引明細**

明細書日付 2005/06/01 明細書日付 2005/06/03

未照合の銀行取引明細取引数

レコードが取込まれていません。 [グリッドのカスタマイズ](#)

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	調整 コード	支払/入金 No.	配賦値	通貨 コード
<div> <input type="text"/> </div>					

**調整**

調整済みコード

☒ 参照 3 フィールドの更新

「銀行取引明細と取引明細の調整」フォーム: 銀行取引明細

未調整取引を修正するには、次の手順に従います。

1. 取引を選択します。
2. 「銀行取引明細と取引明細の調整」フォームの最上部を表示します。
3. 「ロー」メニューから該当するプログラムを選択します。

たとえば、未転記の支払の取引を修正する場合は、取引を選択し、「ロー」メニューから「バッチの検討」を選択します。「バッチの処理」フォームで未転記バッチを選択した後、「ロー」メニューから「バッチ別の転記」を選択します。

**注意:** 「ロー」メニューから選択できるプログラムに移動して入金または支払を手動で作成すると、作成したバッチに銀行取引明細バッチ番号が自動的に割り当てられます。手動で仕訳を行うと、自動的に新規のバッチ番号が割り当てられます。

**明細書日付、明細書日付** このフォームの見出し領域に入力した開始日付と終了日付に基づいて、銀行取引明細取引が表示されます。

これらの日付を一時変更する場合は、これらのフィールドに日付を入力し、「検索」をクリックします。F09617テーブルの取引の中から、入力した日付範囲内の明細書日付に一致する取引が表示されます。表示される取引数を絞り込む場合は、QBEローに値を入力します。

元帳日付に基づいて、F0911情報を表示する場合は、「取引明細」領域の「元帳日付」と「元帳日付」フィールドを空白にするか、必要であれば日付範囲を広げて、「検索」をクリックします。

#### 未照合の銀行取引明細 取引数

F09617テーブルの未調整取引の中で指定した検索条件に合う取引の数が表示されます。

#### 調整コード

UDCテーブル09/RCにあるコードの中から、取引を手動で調整する場合に使用されるコードが表示されます。デフォルト値は、自動銀行取引明細の処理プログラムの処理オプションで設定します。このデフォルト値は一時変更できます。

#### 支払/入金No.

F09611テーブルのCUSTREF(顧客参照)フィールドに保存され、F09617テーブルのCKNU(小切手番号)フィールドにマッピングされている値が表示されます。最大16文字の英数字が表示可能で、入金、支払、振込手数料などの参照番号が入ります。

#### 参照3フィールドの更新

手動調整する仕訳の「参照3」フィールドを任意で更新する場合は、このチェックボックスを選択します。「調整/未調整」をクリックして仕訳を更新すると、参照3フォームに自動採番により生成された参照番号が表示されます。この番号は、銀行取引明細番号などの番号に変更できます。その後、F0911レコードを1つずつ選択し、同じまたは異なる参照番号に更新できます。異なる参照番号を選択すると、取引ごとに参照3フォームが表示されます。

#### 調整/未調整

調整する取引を選択し、「調整/未調整」ボタンをクリックして、調整と未調整を切り替えます。取引を手動調整した場合は、次のテーブルのいずれか、または両方が更新されます。

F09617: 残高調整コードが更新され、調整済取引が表示されます。取引がF09611中間テーブルにそのまま保存される場合は、調整済に更新されません。

F0911: 調整コード、および必要に応じて「参照3」フィールドが更新され、このフォームの「取引明細」領域に調整済取引が表示されます。

F09617テーブルとF0911テーブルの未調整取引をすべて調整すると、F09616テーブルの見出しレコードがD(調整済)にマークされます。F09611テーブルのすべての取引を調整すると、F09610テーブルの見出しレコードがDに更新されます。

#### 取引明細

F0911テーブルから、このフォームの見出し領域で指定した勘定科目コードと日付範囲に一致する元帳取引が表示されます。

**取引明細**

元帳日付  元帳日付

未調整会計取引数

レコード 1-1 ↑ □

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	調整 コード	参照1	配賦値	外貨金額
<input type="checkbox"/>					

未調整

借方

貸方

残高

帳簿残高

銀行残高

「銀行取引明細と取引明細の調整」フォーム: 取引明細

**元帳日付、元帳日付**

このフォームの見出し領域に入力した開始日付と終了日付に基づいて、総勘定元帳取引が表示されます。

見出し領域の日付を変更する場合は、これらのフィールドに日付を入力し、「検索」をクリックします。F0911テーブルの取引の中から、入力した日付範囲内の元帳日付に一致する取引が表示されます。

表示される取引数を絞り込む場合は、QBEローに値を入力します。

**未調整会計取引数**

F0911テーブルの未調整取引の中で指定した検索条件に合う取引の数が表示されます。

**借方、貸方**

F0911テーブルに保管されている銀行勘定科目の未調整の借方と貸方の金額が表示されます。

**帳簿残高**

F0902テーブルに保管されている年累計金額が表示されます。

**銀行残高**

F09616テーブルに保管されている勘定科目の最新の銀行取引明細の終了残高が表示されます。処理オプションの設定に応じて、この終了残高は、

勘定科目の資金予測を計算する場合に、資金予測分析プログラムで、その勘定科目の開始残高として使用されます。

参照: 第 27 章、「資金予測データの処理」、「銀行勘定科目開始残高について」、294 ページ

---

## 銀行取引明細テーブルの除去

この項では、銀行取引明細の除去プログラムの概要と、次の方法について説明します。

- 中間テーブルの除去
- 中間テーブルの除去の処理オプションの設定
- 自動銀行取引明細テーブルの削除
- 自動銀行取引明細テーブルの削除の処理オプションの設定

### 銀行取引明細の除去プログラムについて

銀行取引明細レコードの残高を調整した後、次のプログラムを実行してレコードを除去できます。

- 中間テーブルの除去 (R09610)
- 自動銀行取引明細テーブルの削除 (R09615)

#### 中間テーブルの除去

中間テーブルの除去プログラムでは、F09160およびF09611中間テーブルのデータが除去されます。データが銀行取引明細テーブルに正しくマッピングされている場合は、銀行取引明細のロード・プログラムにより、F09610テーブルの見出しレコードに、両方のテーブルのレコードの削除が可能であることを示すフラグが設定されます。その他の方法として、銀行取引明細のロード・プログラムの処理オプションを設定して、これらのテーブルを除去することもできます。

#### 自動銀行取引明細テーブルの削除

自動銀行取引明細テーブルの削除プログラムでは、F09616およびF09617銀行取引明細テーブルのデータが除去されます。データが正しく調整されると、F09616テーブルの見出しレコードのRECCODEフィールドがD(残高調整済)に設定され、両テーブルのレコードの削除が可能になります。その他の方法として、「自動銀行取引明細の改訂」フォームの「フォーム」メニューから「銀行取引明細の除去」を選択することもできます。

### 中間テーブルの除去

「除去」(G09215)の「中間テーブルの除去」を選択します。

### 中間テーブルの除去 (R09610) の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、日付範囲を選択し、レポートに印刷する情報のタイプを指定します。

## 選択

銀行取引明細開始日付、  
銀行取引明細終了日付

F09610およびF09611中間テーブルから除去するレコードの日付範囲を指定します。これらの処理オプションを使用して、除去可能なレコードが検索されます。

開始日付を空白にすると、明細書日付が終了日付以前のレコードがすべて除去されます。終了日付を空白にすると、明細書日付が開始日付以後のレコードがすべて除去されます。開始日付と終了日付の両方を空白にすると、すべてのレコードが除去されます。

## 印刷

レポート出力

中間テーブルの除去レポート(R09610)に除去済レコードを印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: レコードを印刷しない。レポートには、銀行取引明細番号、元帳勘定科目コード、明細書日付、明細レコード数、除去済レコードの合計数が印刷されます。

1: レコードを印刷する。レポートには、除去済レコードの詳細情報が印刷されます。

## 自動銀行取引明細テーブルの除去プログラム

「削除」(G09215)の「自動銀行取引明細テーブルの削除」を選択します。

## 自動銀行取引明細テーブルの削除プログラム(R09615)の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、日付範囲を選択し、除去レポートに印刷する情報のタイプを指定します。

## 選択

銀行取引明細開始日付、  
銀行取引明細終了日付

F09616およびF09617銀行取引明細テーブルから除去するレコードの日付範囲を指定します。これらの処理オプションを使用して、除去可能なレコードが検索されます。

開始日付を空白にすると、明細書日付が終了日付以前のレコードがすべて除去されます。終了日付を空白にすると、明細書日付が開始日付以後のレコードがすべて除去されます。開始日付と終了日付の両方を空白にすると、すべてのレコードが除去されます。

## レポート出力

レポート出力

自動銀行取引明細テーブルの除去レポート(R09615)に除去済レコードを印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: レコードを印刷しない。レポートには、銀行取引明細番号、元帳勘定科目コード、明細書日付、明細レコード数、除去済レコードの合計数が印刷されます。

1: レコードを印刷する。レポートには、除去済レコードの詳細情報が印刷されます。



## 第 24 章

# 予算の作成

この章では、予算および予算パターンの概要と、次の方法について説明します。

- 予算パターン・コードの作成
- 勘定科目グループの予算パターン・コードの変更
- 年間予算の入力
- 年間予算金額の各期間への配賦
- 予算ワークシートの作成
- 予算/実績のオンライン比較の検討
- 予算超過の管理
- 予算明細金額の入力
- 予算仕訳の入力

**関連項目:**

第 26 章、「予算の予測と計画」、277ページ

---

## 予算について

予算を作成することで、将来の経費と収益を見積もることができます。また、予算履歴を使用して見積金額と実績金額を比較し、その情報に基づいてより正確な予算を作成できます。

年間予算金額は、ビジネスユニット別または勘定科目別に入力できます。ビジネスユニット別の予算入力では、部署、所在地、プロジェクトなどを基準とした予算が作成されます。勘定科目別の予算入力では、ビジネスユニットの枠を越えて予算が作成されます。

予算の検討には、オンライン検討または予算ワークシートを使用します。オンラインの検討では、予算金額と実績金額を比較できます。予算ワークシート・レポートでは、次の作業が行えます。

- 次年度用の申請済予算、承認済予算、および最終予算の検討
- 予算金額と、現行年度の実績金額/見積金額および前年度の実績金額との比較
- 見積金額、および予算金額と見積金額の差異パーセントの表示

### 予算作成方法

予算の作成には、次のいずれかの方法を使用します。

方法	説明
ビジネスユニット別または勘定科目別の年間予算	年間予算金額を入力します。配賦プログラムを使用して、割り当てた予算パターン・コードに基づいた予算金額が各期間に配賦されます。この方法では、勘定残高テーブル (F0902) が直接更新されます。
勘定科目別予算明細	各期間の選択した勘定科目、または選択した期間と勘定科目について、予算金額を入力します。この方法では正式な監査証跡は作成されず、F0902テーブルの各期間の予算が直接更新されます。
予算仕訳	<p>正式な監査証跡を作成するため、予算元帳に仕訳を入力します。この方法では、F0911テーブルが更新されます。仕訳を転記して、F0902テーブルを更新する必要があります。</p> <p>一般的に、原価計算を使用する建設会社や当初予算に対する補正予算を記録する政府機関などでは、正式な監査証跡が必要です。</p> <p>予算仕訳による予算作成には、予算仕訳の入力、検討、および転記が含まれます。</p>
スプレッドシートからのインポート	スプレッドシート・プログラムを使用して予算を作成し、F0902テーブルに作成した予算を転送します。その後、JD Edwards EnterpriseOne一般会計のプログラムで予算データを処理します。たとえば、年間予算を各会計期間に配賦できます。
配賦	<p>配賦を使用して予算を作成します。</p> <p>参照: 第 19 章、「銀行勘定科目の残高調整」、「無効な支払および入金 の残高調整」、183ページ</p>

**関連項目:**

第 41 章、「会計年度の締め処理」、「予算元帳タイプの会計年度の締めについて」、469ページ

## 予算パターンについて

勘定科目グループの予算に予測可能なパターンがある場合、予算パターン・コードを使用して年間予算金額を各期間に配賦する比率の定義が可能です。各会計年度について、季節パターンの改訂プログラム (P09001) を使用して、次の処理を実行できます。

- 複数期間への金額の均等配賦
- 季節パターン・コードの作成 (無制限)
- 金額の非配賦

次の表は、この3つの予算パターンについて説明したものです。

予算パターン	説明
均等配賦	収益と経費が会計年度を通じて均等に発生する場合、年間予算を各期間に同額ずつ配賦できます。

予算パターン	説明
季節パターン配賦	収益と経費が予測可能なパターンで発生する場合、各パターンを記述する季節パターン・コードを設定できます。各コードに、各期間に配賦する年間予算合計のパーセントを入力します。
非配賦	勘定科目について、年間金額の各期間への配賦を行わないように設定できます。

予算パターンのデフォルト・コード(ブランク)は年間予算の各期間への均等配賦ですが、この設定は変更可能です。

ブランク・コードには、最も一般的な予算パターンを割り当ててください。たとえば、年間予算の均等配賦をほとんど行わない場合は、頻繁に使用する季節パターン・コードをブランクに設定しておく、データ入力時間を短縮できます。

次のいずれかを行う場合は、予算パターン・コードを定義する必要はありません。

- 年間予算のみの作成(月次予算の作成なし)
- 全勘定科目の月次予算の手入力での作成
- すべての勘定科目について各期間に同額ずつ配賦を行う年間予算の作成

### 例: デフォルト・パターン

あるコーヒESHOPでは、年間を通じて収益が平均しています。収益と経費の比率を示す季節パターン・コードを作成する必要はありません。予算パターン・コードをデフォルト(ブランク)にすると、年間予算が各期間に均等に配賦されます。

勘定科目に年間予算金額120,000を入力し、予算パターン・コードをブランクのままプログラムを実行すると、金額が各期間に配賦されます。プログラムは、会社を設定されている会計期間の総数を12と認識します。各期間に配賦される予算金額は、10,000 ( $1/12 = 8.33\%$ ) です。

### 例: 季節パターン

あるスポーツ用品店で、季節パターン・コード「WIN」を作成して、冬期のスキー用品の収益と経費の比率を指定します。夏場にはスキー用品の需要がほとんどないため、予算金額は冬期のみ配賦します。冬期の各月のパーセントは、次のとおりです。

- 11月 - 10%
- 12月、1月 - それぞれ25%
- 2月、3月 - それぞれ20%

該当する各勘定科目について年間予算金額を作成し、その勘定科目に季節パターン・コード「WIN」を割り当てます。パターン・コード「WIN」の勘定科目に予算120,000を入力してプログラムを実行すると、金額が各期間に配賦されます。予算パターン・コード「WIN」のパーセントに基づいて、11月には12,000、12月と1月には各30,000、2月と3月には各24,000が配賦されます。

### 例: 非配賦パターン

通常は予算の各期間への配賦を行っている場合でも、勘定科目によっては予算パターンが予測できないことがあります。このような勘定科目には、年間予算を入力し、予算パターン・コード「DNS」(非配賦)を割り当てます。年間金額の各期間への配賦を行うプログラムを実行しても、DNSコードが割り当てられた勘定科目は対象になりません。

## 予算パターン・コードの作成

この項では、予算パターン・コードの作成方法について説明します。

### 予算パターン・コードの作成に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
予算パターンの処理	W09001B	「予算作成」(G1412)、「季節パターンの改訂」	既存の予算パターン・コードの一覧を検討します。
予算パターンの改訂	W09001A	「予算パターンの処理」フォームで、「追加」をクリックします。	予算パターン・コードを作成します。

### 予算パターン・コードの作成

「予算パターンの改訂」フォームにアクセスします。

季節パターンの改訂 - 予算パターンの改訂

OK(O) 取消(L) ツール(T)

---

予算パターン

各期間への配賦率

期間01	<input type="text"/>	期間08	<input type="text" value="30.0000"/>
期間02	<input type="text"/>	期間09	<input type="text"/>
期間03	<input type="text"/>	期間10	<input type="text"/>
期間04	<input type="text"/>	期間11	<input type="text"/>
期間05	<input type="text"/>	期間12	<input type="text"/>
期間06	<input type="text" value="30.0000"/>	期間13	<input type="text"/>
期間07	<input type="text" value="40.0000"/>	期間14	<input type="text"/>
		合計	<input type="text" value="100.0000"/>

「予算パターンの改訂」フォーム

#### 予算パターン

季節予算パターンを識別する3文字の固有のコードを入力します。このコードを使用して、会計期間の予算額が計算されます。たとえば、季節パターン・コードを識別する「SUM」や「WIN」などを入力したり、ブランクのままにして各期間に金額を均等に配賦したりできます。

#### 期間01 から期間14

季節パターン・コードまたはDNS予算パターン・コードについて、その期間に対して割り当てる年間予算のパーセントを識別する数字を入力します。入力可能な値は次のとおりです。

整数: たとえば、20%の場合は「20」と入力します。

小数(4桁まで): たとえば、33.33%の場合は「.3333」と入力します。小数点第5位以下は、四捨五入されます。

0: その期間への割り当てなし。

DNS予算パターン・コードと各季節パターン・コードでは、すべてのパーセントの合計が100になる必要があります。

**注意:** 会計年度のデフォルトの期間は、「会計期間パターンの設定」フォームで会社00000に対して設定されています。

## 勘定科目グループの予算パターン・コードの変更

この項では、予算パターン・コード変更の概要と、勘定科目グループの予算パターン・コードの変更方法について説明します。

### 予算パターン・コードの変更について

ビジネスユニットや会社の勘定科目グループに割り当てられている既存の予算パターン・コードを変更するには、予算パターン・コードの変更プログラム(P1441)を使用します。その際、次のガイドラインに従ってください。

- 年間予算金額を入力する前に、コードを変更します。
- 年間予算金額の各期間への配賦を計画します。

新しく割り当てたコードにより、既存のコードが上書きされます。この新しいコードで、勘定科目マスター(F0901)が更新されます。

### 勘定科目グループの予算パターン・コードの変更に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
予算パターンの一括更新	W1441A	「予算作成」(G1412)、「予算パターン・コードの変更」	ビジネスユニットや会社の勘定科目グループに割り当てられている既存の予算パターン・コードを変更します。

### 勘定科目グループの予算パターン・コードの変更

「予算パターンの一括更新」フォームにアクセスします。

予算パターン・コードの変更 - 予算パターンの一括更新

OK(O) 取消(L) ツール(T)

会社番号 00001 / ビジネスユニット

勘定科目範囲 8100 から 8199

旧パターン	新パターン
EQL	SUM

「予算パターンの一括更新」フォーム

開始勘定科目(画面上では「勘定科目範囲」、終了勘定科目(画面上では「から」)

主勘定科目の範囲を指定します。

開始勘定科目を指定した場合は、終了勘定科目も指定する必要があります。

空白にした場合のデフォルト値は、開始勘定科目が0000、終了勘定科目が9999です。

旧パターン、新パターン

「旧パターン」フィールドには、変更対象の季節パターンを識別する3文字のコードを入力します。

「新パターン」フィールドには、「旧パターン」のコードと置き換える季節パターンを識別する3文字のコードを入力します。

3つのアスタリスク(\*\*\*)は、空白値を意味します。空白値を新しい値に変更するには、「旧パターン」フィールドに「\*\*\*」を入力します。また、「新パターン」フィールドに「\*\*\*」を入力すると、既存の値を空白値に変更できます。

「旧パターン」フィールドに「\*」(1つのアスタリスク)を入力すると、すべての既存予算パターン・コードを「新パターン」フィールドに入力した値に変更できます。

「旧パターン」に「DNS」と入力すると、非配賦の予算パターン・コードを変更できます。また、「新パターン」に「DNS」と入力すると、予算パターン・コードを非配賦に変更できます。

## 年間予算の入力

この項では、年間予算および予算サイクルの概要と、次の方法について説明します。

- ビジネスユニット別の年間予算金額の入力
- 勘定科目別の年間予算金額の入力

### 年間予算について

年間予算方法を使用すると、各会計期間の予算金額入力に要する時間を短縮しながら、期間別に明細金額を設定できます。割り当てた予算パターン・コードに従って、年間予算金額が各会計期間に配賦されます。年間予算プロセスの任意のサイクルで予算パターン・コードを割り当てることができます。金額だけでなく、数量についても年間予算を入力できます。

次のいずれかの入力タイプで年間予算計画を行います。

入力タイプ	説明
ビジネスユニット	特定の組織単位(部署や倉庫など)と関連する勘定科目について予算を作成します。
勘定科目	ビジネスユニットや会社の枠を越えて予算を作成します。たとえば、すべてのビジネスユニットの給与や賃金の予算を作成する場合などです。

### 予算サイクルについて

ビジネス・ニーズに応じて、次の予算サイクルのいずれかまたは組合せを使用できます。

- 申請済(サイクル1): 当初の予算金額を入力します。この予算は承認済予算と最終予算にコピーされます。
- 承認済(サイクル2): 承認済予算金額を入力または変更します。この予算は最終予算にコピーされます。申請済予算は変更されません。
- 最終(サイクル3): 最終予算金額を入力または変更します。申請済予算と承認済予算は変更されません。

3つのサイクルを使用することで、非公式の監査証跡を残すことができます。予算金額は自動的に次のサイクルに繰り越されるので、複数のサイクルを使用しても必要な時間はほとんど変わりません。

処理オプションの設定により、現行の入力に使用するサイクルを定義します。その後の予算入力プロセスで、必要に応じて処理オプションを再設定し、別のサイクルを使用するように変更できます。

F0902テーブルの次のフィールドが更新されます。

- BREQ: 申請済予算金額
- BAPR: 承認済予算金額
- BORG: 最終予算金額

#### 例: 年間予算サイクルの使用

次の予算例では、3つのサイクルをすべて使用します。

サイクル	更新
申請済(サイクル1)	申請済予算、承認済予算、最終予算が更新されます。
承認済(サイクル2)	承認済予算と最終予算が更新されます。
最終(サイクル3)	最終予算が更新されます。

次の表は、各サイクルにおけるF0902テーブルの金額の更新について説明したものです。

サイクル	申請済 (BREQ)	承認済 (BAPR)	最終 (BORG)	更新の説明
サイクル1	7,000	7,000	7,000	申請済予算、承認済予算、最終予算の金額が更新されます。
サイクル2	該当なし	6,000	6,000	承認済予算と最終予算の金額が更新されます。
サイクル3	該当なし	該当なし	5,000	最終予算の金額が更新されます。 これが配賦される年間金額です。

## 事前設定

予算入力をビジネスユニット別に行うか、勘定科目別に行うかを決定します。



## 年間予算金額の入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
予算の処理	W14102A	「予算作成」(G1412)、「ビジネスユニット別申請済み予算」または「ビジネスユニット別承認済み予算」または「ビジネスユニット別最終予算」	会社のビジネスユニットの一覧を検討します。
ビジネスユニット別予算	W14102B	「予算の処理」フォームでビジネスユニットを選択します。	ビジネスユニット別に予算を入力し、各勘定科目に予算パターン・コードを割り当てます。
予算勘定科目の処理	W14103B	「予算作成」(G1412)、「勘定科目別申請済み予算」または「勘定科目別承認済み予算」または「勘定科目別最終予算」	会社別の勘定科目の一覧を検討します。
勘定科目別予算	W14103A	「予算勘定科目の処理」フォームで勘定科目を選択します。	勘定科目別に予算を入力または改訂し、各勘定科目に予算パターン・コードを割り当てます。対話形式で年間予算金額を各期間に配賦することもできます。  参照: 第 24 章、「予算の作成」、「年間予算金額の各期間への配賦」、250 ページ

## ビジネスユニット別申請済み予算(P14102)と勘定科目別申請済み予算(P14103)の処理オプションの設定

ビジネスユニット別の申請済み予算、承認済み予算、最終予算および勘定科目別の申請済み予算、承認済み予算、最終予算の各プログラムの処理オプションは、最初のタブ名を除いてすべて同じです。

### BU別予算

#### 1. 元帳タイプ

UDCテーブル(09/LT)の予算元帳タイプを指定します。値は次のとおりです。

BA: 予算金額

BU: 予算数量

#### 2. 会計年度

会計年度の下2桁を入力します。

#### 3. 予算サイクル

更新する予算サイクルを指定します。値は次のとおりです。

1: 申請済

2: 承認済

3: 最終

## 予算配賦

### 4. 丸めの増分値

金額に使用する丸めの増分値を指定します。次に例を示します。

blank: 金額を会社の最小通貨単位に丸めます。

1.00: 金額を1.00の単位に丸めます。

10.00: 金額を10の単位に丸めます。

丸めの結果は、この処理オプションで指定した値で割り切れます。

### 5. 残高調整方法

残高調整方法を指定します。値は次のとおりです。

blank: 丸めを行った期間金額の合計と年間予算金額を一致させる調整を行いません。

1: 最終予算金額を丸めることにより金額を一致させます。

2: 最後に計算した期間金額を丸めないことにより金額を一致させます。

## ビジネスユニット別の年間予算金額の入力

「ビジネスユニット別予算」フォームにアクセスします。

ビジネスユニット別申請済み予算 - ビジネスユニット別予算

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

ビジネスユニット: 1 Financial/Distribution Company

西暦上2桁/会計年度: 20 05 元帳タイプ: BA 勘定科目詳細レベル: 9

補助元帳タイプ:

☐ 期間を表示 ☐ オプション ☒ 申請済み ☐ 承認済み ☐ 最終

レコード 1 - 10 グリッドのカスタマイズ

	主科目	補助科目	勘定科目名	詳細レベル	転記編集	予算パターン	申請金額	承認金額	最終金額
<input type="checkbox"/>	1000		Assets	3	N				
<input type="checkbox"/>	1001		Current Assets	4	N				
<input type="checkbox"/>	1100		Cash	5	N				
<input type="checkbox"/>	1105		Petty Cash	6					
<input type="checkbox"/>	1110		Cash in Banks	6	N				
<input type="checkbox"/>	1110	AU...	Auto Bank Stateme...	7					
<input type="checkbox"/>	1110	AU...	Auto Bank Stateme...	7					
<input type="checkbox"/>	1110	AU...	Auto Bank Stateme...	7					
<input type="checkbox"/>	1110	AU...	Auto Bank Stateme...	7					
<input type="checkbox"/>	1110	BE	Bear Creek Nation	7					

「ビジネスユニット別予算」フォーム

予算パターン	3文字の予算パターン・コードを入力します。
期間を表示	<p>このチェックボックスを選択すると、期間金額のフィールドが表示されるので、各期間の予算金額を手入力できます。必要に応じて右にスクロールし、期間フィールドにアクセスします。</p> <p>このチェックボックスの選択が解除されていると、各会計期間のフィールドに金額が自動配賦されます。</p>
オプション	予算配賦の処理オプションを対話的に変更するには、このチェックボックスを選択します。その後、「フォーム」メニューの「オプション」を選択します。
申請済み、承認済み、最終	<p>値を入力または更新するフィールド（「申請金額」、「承認金額」、または「最終金額」）に応じて、いずれか1つを選択します。</p> <p>「申請済」オプションを選択すると、F0902テーブルの「BREQ」フィールドが更新されます。最終予算の入力時間を短縮するため、「BAPR」フィールドと「BORG」フィールドも更新されます。</p> <p>「承認済」オプションを選択すると、F0902テーブルの「BAPR」フィールドが更新されます。最終予算の入力時間を短縮するため、「BORG」フィールドも更新されます。</p>
予算パターン	<p>予算金額の配賦方法を指定するコードを入力します。</p> <p>「DNS」を入力した場合は、各期間の金額を手入力する必要があります。「期間を表示」チェックボックスを選択して、右スクロールで期間フィールドにアクセスします。または、「ロー」メニューの「明細」を選択して「勘定科目別予算明細」フォームにアクセスし、金額を手入力します。</p>
申請金額、承認金額、最終金額	<p>いずれかのフィールドに値を入力します。「申請済」、「承認済」、「最終」オプションの選択に応じて、入力可能なフィールドは異なります。</p> <p>「予算パターン」フィールドに「DNS」と入力した場合は、これらのフィールドに入力することはできません。</p>

## 勘定科目別の年間予算金額の入力

「勘定科目別予算」フォームにアクセスします。

**勘定科目別申請済み予算 - 勘定科目別予算**

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

主科目/補助科目 1000 会社番号 00001

西暦上2桁/会計年度 20 05 元帳タイプ BA

補助元帳タイプ

☐ 期間を表示 ☐ オプション ☒ 申請済み ☐ 承認済み ☐ 最終

レコード 1 - 14

	ビジネス ユニット	主 科目	補 助 科 目	記 述	詳 細 レ ベル	転 記 編 集	予 算 パ タ ーン	申 請 金 額	承 認 金 額	最 終 金 額
<input type="checkbox"/>		1	1000	Assets	3	N				
<input type="checkbox"/>		1	1001	Current Assets	4	N				
<input type="checkbox"/>		30	1001	Current Assets	4	N				
<input type="checkbox"/>		110	1001	Current Assets	4	N				
<input type="checkbox"/>		115	1001	Current Assets	4	N				
<input type="checkbox"/>		1	1100	Cash	5	N				
<input type="checkbox"/>		310	1100	Cash	5					
<input type="checkbox"/>		1	1105	Petty Cash	6					
<input type="checkbox"/>		1	1110	Cash in Banks	6	N				
<input type="checkbox"/>		1	1110	ALL Auto Bank Statemen	7					

「勘定科目別予算」フォーム

## 年間予算金額の各期間への配賦

この項では、年間予算金額の各期間への配賦方法の概要とシステムによる配賦方法、および次の方法について説明します。

- 予算入力時の年間金額の各期間への配賦
- 年間予算の期間配賦プログラムの実行
- 年間予算の期間配賦(R14801)の処理オプションの設定

### 年間予算の配賦方法について

次の方法で、年間予算金額を配賦できます。

- 予算入力時の対話形式での配賦
- プログラム実行による自動配賦

## 予算入力時の対話形式での配賦

年間予算金額の入力時、各勘定科目の予算パターン・コードに基づいて、期間に金額を配賦できます。

予算入力時の配賦では、次のことが可能です。

- 改訂を行うことにより、予算入力プログラムを終了せずに結果を変更できます。
- 処理オプションで指定されている丸め増分値や残高調整方法を変更できます。
- 同じサイクルまたは別のサイクルの年間金額を変更できます。
- 必要なだけ配賦金額を再計算できます。

**注意:** 予算パターン・コードに「DNS」を入力した場合は、「ビジネスユニット別予算」または「勘定科目別予算」フォームの各期間フィールドに金額を手入力する必要があります。勘定科目の年間合計金額は、各期間の金額を累計して自動的に表示されます。

## プログラム実行による自動配賦

予算入力時に年間金額を配賦するかわりに、年間予算の期間配賦プログラム(R14801)を実行して金額を自動的に配賦します。自動配賦の方が効率的な場合があります。

配賦する金額が多い場合や次の状況に該当する場合は、年間予算の期間配賦プログラムを実行することをお勧めします。

- 1つ以上のスプレッドシートから年間予算金額をアップロードする場合
- ブランクの予算パターン・コードをパーセントで設定(または既存のパーセントを変更)して、すべての勘定科目の配賦を更新する場合

「元帳タイプ規則の設定」フォームの「DNS(予算配賦禁止)コードの一時変更」チェックボックスが選択されている場合、年間予算の期間配賦プログラムは予算金額を各期間に均等に配賦します。チェックボックスの選択が解除されている場合、金額は配賦されません。「ビジネスユニット別予算」または「勘定科目別予算」フォームで、期間ごとに金額を手動で配賦する必要があります。

## システムによる年間予算金額の配賦方法について

金額を手入力するか年間予算の期間配賦プログラム(R14801)を実行するかにかかわらず、各勘定科目に割り当てられた予算パターン・コードによって、金額の配賦方法が決定されます。ただし、予算パターン・コードが「DNS」の場合は除きます。

次の表は、システムによる金額の配賦方法を示したものです。

予算パターン・コード	説明
ブランク	<p>デフォルト値で、年間金額は均等に配賦されます。勘定科目の年間予算金額が、各期間に均等に配賦されます。カレンダー年(12か月)の場合、各期間への割当は1/12(8.33%)です。</p> <p><b>注意:</b> ブランクの予算パターン・コードの設定を変更した場合には、指定したパーセントに基づいて年間金額が配賦されます。</p> <p>年間金額の各期間への配賦には、予算パターン(F1401)、勘定科目マスター(F0901)、勘定残高(F0902)の各テーブルの情報が使用されます。</p>

予算パターン・コード	説明
季節	季節予算パターン・コードに指定したパーセントと期間に従って、年間金額が配賦されます。
DNS	<p>予算を手入力した場合、予算パターン・コード「DNS」が割り当てられた勘定科目には年間金額は配賦されません。「ビジネスユニット別予算」または「勘定科目別予算」フォームで、各期間の金額を手入力する必要があります。</p> <p>「元帳タイプ規則の設定」フォームの「DNS(予算配賦禁止)コードの一時変更」チェックボックスが選択されている場合のみ、年間予算の期間配賦プログラムの実行によって、年間金額が各期間に均等に配賦されます。</p> <p>このチェックボックスの選択が解除されている場合、年間予算金額は配賦されません。かわりに、各期間の金額を手入力する必要があります。</p>

## 予算入力時の年間予算金額の各期間への配賦

「ビジネスユニット別予算」または「勘定科目別予算」フォームにアクセスします。

**注意:** 転記編集コードが「N」(非転記)または「I」(非アクティブ)の場合、勘定科目の年間予算金額は入力できません。

1. 「期間を表示」チェックボックスを選択します。
2. 「予算パターン・コード」に値を入力します。
3. 次のいずれかのフィールドに金額を入力します。
  - 申請金額
  - 承認金額
  - 最終金額
4. 「ロー」メニューの「配賦」を選択して、入力した金額を均等に配賦します。
5. 自動配賦される金額を変更するには、「ロー」メニューの「明細」を選択して「勘定科目別予算明細」フォームにアクセスします。
6. 処理オプションで設定した丸め増分値や残高調整方法を変更するには、「オプション」チェックボックスを選択します。その後、「フォーム」メニューの「オプション」を選択します。
7. 「OK」をクリックして、予算の入力を保存します。

## 年間予算の期間配賦プログラムの実行

「予算作成」(G1412)メニューで「年間予算の期間配賦」を選択します。

このプログラムにより、レポートは作成されません。自動配賦される金額を検討するには、「勘定科目別予算明細」フォームにアクセスしてください。

## 年間予算の期間配賦(R14801)の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、予算金額の配賦方法を指定します。

このプログラムのデータ順序は変更しないでください。

## 予算の配賦

### 1. 丸めの増分値

金額に使用する丸めの増分値を指定します。次に例を示します。

blank: 金額を会社の最小通貨単位に丸めます。

1.00: 金額を1.00の単位に丸めます。

10.00: 金額を10の単位に丸めます。

丸めの結果は、この処理オプションで指定した値で割り切れます。

### 2. 残高調整方法

残高調整方法を指定します。値は次のとおりです。

blank: 丸めを行った期間金額の合計と年間予算金額を一致させる調整を行いません。

1: 配賦を行う前に、年間予算金額を丸めることにより金額を一致させます。

2: 最後に計算した期間金額を丸めないことにより金額を一致させます。

---

## 予算ワークシートの作成

この項では、予算ワークシートの概要と次の方法について説明します。

- 予算ワークシートの実行
- 予算ワークシートのデータ選択とデータ順序の設定
- 予算ワークシート(R14113)の処理オプションの設定

## 予算ワークシートについて

予算ワークシート(R14113)は、申請済予算、承認済予算、および最終予算を表示するレポートです。予算ワークシートには、次の機能が提供されています。

- 詳細レベル、比較対象の会計年度、レポート・フォーマット、計算方法、金額の合計方法の指定
- 選択した会社、ビジネスユニット、ビジネスユニット・カテゴリ・コードのレポートの印刷
- 情報の連結(すべての会社/ビジネスユニットで一貫した勘定科目構造と詳細レベルを使用している場合)

予算ワークシート・プログラムは、AAI項目「FSxx」を使用して、中間計の出力先を決定します。「FSxx」の例には次のものがあります。

- FS04: 粗利益
- FS05: 営業利益
- FS99: 当期利益(損失)

処理オプションの設定によって、予算ワークシート・レポートに表示される情報は異なります。

レポート・タイプ	説明
比較	<p>任意の詳細レベルの金額を比較します。たとえば、次のような金額が比較されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前年度の元帳タイプAA(実績金額)</li> <li>現行年度の実績金額と見積金額</li> <li>現行年度の実績年累計金額と予算年累計金額、および前年度の実績年累計金額</li> </ul>
見積	<p>年度末の残高を計算します。たとえば、次のような残高が計算されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実績金額 + 予算残高</li> <li>予算残高</li> <li>実績金額 / 完了率(作業原価)</li> </ul> <p>次年度の年間予算を見積もります。たとえば、前年度の実績金額と現行年度の見積金額を印刷し、年間予算金額カラムは手入力できるようにブランクにすることが可能です。</p>
差異	<p>実績金額と予算金額の差異または変更のパーセントを表示します。見積予算金額に基づいて計算を行います。</p>

## 予算ワークシートの実行

「予算作成」(G1412)メニューの「予算ワークシート」を選択します。

## 予算ワークシートのデータ選択とデータ順序の設定

データ選択で、主科目の範囲を指定する必要があります。F0902テーブルに通貨別に転記を行う場合は、特定またはすべての通貨コードを選択します。

このレポートでは、データ順序で主科目の直前に設定されているデータ項目に基づいて、合計の印刷と改ページが行われます。データ順序では、次のデータ項目が使用可能です。

- 会社
  - 報告日付を会社固有の日付にするには、レポートの順序を会社別にする必要があります。
- ビジネスユニット・カテゴリ・コード1から30
- 勘定科目マスター・カテゴリ・コード1から23
- ビジネスユニット
- 主科目(必須)
- 補助科目(必須)

データ順序の最初の項目として会社やビジネスユニットを指定しない場合、会社00000の現行会計期間が使用されます。

単独のビジネスユニットや連結ビジネスユニット、連結会社などのレポートを印刷するには、次のデータ順序のいずれかを入力してください。



レポート・タイプ	データ順序
ビジネスユニット	ビジネスユニット、主科目、補助科目
ビジネスユニット連結	会社、主科目、補助科目
会社連結	主科目、補助科目

**重要:** 前述以外の順序にデータ順序を変更すると、問題が起こる可能性があります。

## 予算ワークシート(R14113)の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、日付、元帳タイプ、詳細レベルなどを指定します。

### 日付

1. 会計期間、会計年度 会計期間と会計年度を入力します。ブランクにした場合、会社の財務報告日付が使用されます。報告日付を会社固有のものにするには、データ順序でレポートの順序を会社別にする必要があります。

### 元帳タイプ

1. 実績元帳タイプ UDCテーブル(09/LT)から、実績カラムに使用する元帳タイプを指定します。ブランクにした場合、元帳タイプAAが使用されます。
2. 予算元帳タイプ UDCテーブル(09/LT)から、予算カラムに使用する元帳タイプを指定します。ブランクにすると、元帳タイプ「BA」が使用されます。

### 詳細レベル

1. 勘定科目詳細レベル 印刷する勘定科目の最も詳細なレベル(3から9)を指定します。ブランクにした場合、9が使用されます。

### 符号

1. 符号の反転 金額の印刷方法を指定します。値は次のとおりです。
  - 0: 当初の借方/貸方形式で金額を印刷します。
  - 1: 損益計算書勘定の金額の符号を反転します。収益はプラス、経費はマイナスで印刷されます。
  - 2: 貸借対照表勘定の金額の符号を反転します。すべての勘定科目がプラスで印刷されます。
  - 3: 収益と経費の金額の符号を反転します。収益と経費がプラスで印刷されます。

このプログラムでは、AAI項目「GLGx」を使用して、負債勘定と経費勘定にマイナス符号を付けて印刷するかどうかを決定します。

### 計算

1. 当期利益の計算 当期利益の計算方法を指定します。値は次のとおりです。

## 2. 見積計算方法

blank: 当期利益を計算しません。

- 1: 貸借対照表の当期利益を計算します。
- 2: 損益計算書の当期利益を計算します。

見積予算の計算方法を指定します。値は次のとおりです。

blank: 計算しない。

- 1: 実績金額 + 予算残高
- 2: 実績金額 / 完了率
- 3: 予算残高

## 見出し

### 見出しの印刷

ワークシートへの見出しの印刷方法を指定します。値は次のとおりです。

blank: 最初のページにのみ見出しを印刷します。

- 1: 各ページに、ページ番号と実行日付を含む見出しを印刷します。
- 2: 各ページに、ページ番号と実行日付を除いた見出しを印刷します。

### 日付タイトルのタイプ

見出しに印刷する日付タイトルのタイプを入力します。blankにした場合、日付タイトルは印刷されません。

---

## 予算/実績のオンライン比較の検討

この項では、オンライン予算比較プログラム (P09210A) の概要と、次の方法について説明します。

- オンライン予算比較 (P09210A) の処理オプションの設定
- 予算/実績のオンライン比較の検討

## オンライン予算比較プログラムについて

年間予算金額を各会計期間に配賦した後、予算金額と他の元帳の金額を比較できます。2つの元帳の金額比較は、予算金額と実績金額の検討や予算差異の分析が必要な場合に特に役立ちます。

オンライン比較では、F0902テーブルの情報が表示されます。

### オンライン予算比較で使用するAAI

オンライン予算比較プログラムでは、次の2つのAAIを使用します。

- GLG6: 収益の開始勘定
- GLG12: 終了損益勘定

これらのAAIは、貸借対照表勘定と損益計算書勘定を区別して、累計残高を正確に計算するために使用されます。貸借対照表勘定では、累計残高に前年度の累計金額が含まれます。損益計算書勘定では、期首残高金額は含まれません。

### 関連項目:

第 34 章、「勘定残高と取引明細の検討」、「試算表、元帳および補助元帳の検討」、375ページ

## 予算/実績のオンライン比較の検討に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
試算表/元帳比較	W09210AA	「予算作成」(G1412)、「オンライン予算比較」	予算/実績のオンライン比較を検討します。  異なる2つの元帳および、あるビジネスユニット内の特定またはすべての勘定科目の試算表の集計情報を検討します。

## オンライン予算比較(P09210A)の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、予算比較に使用する元帳タイプや計算方法などのデフォルト値を指定します。

### デフォルト

1. 元帳タイプ1、2. 元帳タイプ2  
オンラインで比較する2つの元帳タイプを指定します。“元帳タイプ1”を空白にした場合、「BA」がデフォルト値として使用されます。“元帳タイプ2”を空白にした場合は、「AA」が使用されます。
3. 他のアプリケーションで使用する元帳タイプ  
値は次のとおりです。  
空白または1: 元帳タイプ1  
2: 元帳タイプ2

### 表示

1. 残高がゼロの勘定科目の非表示  
残高ゼロの勘定科目を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
空白またはN: 非表示にしません。つまり、残高ゼロの勘定科目は表示されます。  
Y: 非表示にします。つまり、残高ゼロの勘定科目は表示されません。
2. 計算方法  
2つの元帳の差異を計算する方法を指定します。  
空白またはS: 減算  
A: 加算  
M: 乗算  
D: 除算
3. 追加元帳タイプ1、4. 追加元帳タイプ2  
元帳タイプ1と元帳タイプ2の追加元帳を指定します。空白にした場合、追加元帳タイプは表示されません。
5. 補助元帳、6. 補助元帳タイプ  
残高を表示する補助元帳と補助元帳タイプを指定します。空白にした場合、空白の補助元帳と補助元帳タイプが使用されます。
7. 勘定科目の詳細レベル  
表示する勘定科目の最も詳細なレベル(3から9)を指定します。空白にした場合、詳細レベル9が表示されます。

## 通貨

1. 通貨コード 表示するデフォルトの通貨コードを指定します。ブランクにした場合、すべての通貨が表示されます。

## 選択

1. 有効日付残高 有効日付残高に使用する日付を指定します。値は次のとおりです。  
ブランクまたはN: 期間終了日付を使用する。  
Y: 指定した有効日付の残高を計算する。
2. デフォルトで表示する項目 日付と期間のどちらを表示するか指定します。  
ブランクまたはN: 終了日付を表示する。  
Y: 終了期間を表示する。

## 予算/実績のオンライン比較の検討

「試算表/元帳比較」フォームにアクセスします。

オンライン予算比較 - 試算表/元帳比較

選択(S) 検索(O) 閉じる(L) ロー(R) ツール(T)

一致する勘定科目: 9.8720 ☐ 一致する勘定科目

元帳タイプ1: BA USD 予算金額 詳細レベル: 9 ☐ 期間/日付

元帳タイプ2: AA USD 実績金額 元帳タイプ1終了日: 2005/06/30

タイプ/補助元帳: \* 元帳タイプ2終了日: 2005/06/30

通貨コード: \*

レコード 1-3 [グリッドのカスタマイズ](#)

<input type="checkbox"/>	勘定科目名	予算金額	当月計上額	実績金額	当月計上額	当月計上額 差異	当月計上額 差異%	予算金額 残高	実績金額
<input type="checkbox"/>	Corporate Administration								
<input type="checkbox"/>	Office Supplies Expense		1,250.00	30,657.29	29,407.29-	2,352.58-		7,500.00	
<input type="checkbox"/>	Corporate Administration		1,250.00	30,657.29	29,407.29-	2,352.58-		7,500.00	

「試算表/元帳比較」フォーム

## 予算超過の管理

この項では、予算超過の管理と予算チェック計算の概要、および次の方法について説明します。

- G/L 予算チェック・レポートの実行
- G/L 予算チェック・レポート(R14115)の処理オプションの設定

## 予算超過の管理について

取引を勘定科目に転記する前に、実際の支出額と予定支出額が予算内かどうかを確認することをお勧めします。たとえば、伝票のバッチを入力したとします。このバッチを転記する前に、影響を受ける勘定科目の合計が予算を超過していないかどうかをチェックします。

G/L予算チェック・レポート(R14115)を使用して、予算超過の原因となる取引を特定できます。組織内の責任者は、予算超過を承認するか、これらの勘定科目の取引を転記前に変更または削除するよう関連部署に通知できます。

G/L予算チェック・レポートでは、F0911テーブルから未転記のレコードが選択されます。計算の基準には、F0902テーブルの情報が使用されます。このレポートでは、事前定義された計算により、次の処理が行われます。

- 指定した各勘定科目または詳細レベルの使用可能な予算の計算
  - 新しい未転記取引の転記合計への追加
  - 新しい取引の転記により予算超過が発生するかどうかの判断
  - 予算超過の原因となるF0911テーブルの未転記取引を一覧表示した例外レポートの作成
- この例外レポートは参照専用で、会社、勘定科目、詳細の順に表示されます。

G/L予算チェック・レポートでは、テーブルの更新は行われません。

## 予算チェック計算について

G/L予算チェック・レポートでは、事前定義された次の計算を使用します。

基本元帳 - (第2元帳 + 第3元帳) = 使用可能予算金額

### 例: 予算チェック計算

勘定科目3.8605のデフォルトの元帳とその合計は次のとおりです。

- BA(予算金額)年間: 1,000
- PA(債務金額)累計残高: 320
- AA(実績金額)累計残高: 420

この元帳の合計を使用すると、計算は次のようになります。

$$1,000 - (320 + 420) = 260$$

F0911テーブルの未転記取引が勘定科目の使用可能予算金額(260)の超過を引き起こす場合、その取引がレポートに表示されます。

処理オプションの設定により、デフォルトの元帳を他の元帳に変更できます。また、残高の累計に使用する詳細レベルと予算総額の決定に使用する計算方法も選択します。

予算の差異計算には、購買オーダーによってすでに債務となっている伝票金額が含まれます。この金額が未転記金額としてAA元帳に記載されていても、二重にカウントされることはありません。

---

**注意:** このプログラムは、できるだけピーク時を避けて実行するようにしてください。F0911テーブルのレコード数によっては、処理時間が非常に長くなる可能性があります。

---

## 金額と債務

次の表は、G/L予算チェック・レポートによる金額と債務の処理方法について示したものです。

項目	説明
予算金額なし	予算（基本）元帳に勘定科目のレコードがない場合、予算はゼロとみなされます。第2元帳と第3元帳から金額が差し引かれ、例外レポートにマイナスの金額が記載されます。
外貨建て金額	予算金額には、国内通貨のみが使用されます。このため、F0911テーブルにあるCA（外貨）元帳の取引は選択されません。
債務	この予算金額には、コミットメントや契約（購買オーダーなど）があります。

## G/L 予算チェック・レポートの実行

「予算作成」(G1412) メニューの「G/L 予算チェック・レポート」を選択します。

## G/L 予算チェック・レポート(R14115)の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、計算に使用する元帳や計算方法などを指定します。

### 元帳タイプ

1. 基本となる元帳  
計算に使用する予算元帳または基本元帳を入力します。空白にした場合、「BA」が使用されます。
2. 第2元帳  
計算に使用する第2元帳を入力します。空白にした場合、「PA」が使用されます。
3. 第3元帳  
計算に使用する第3元帳を入力します。空白にした場合、「AA」が使用されます。

### 予算年度

1. 会計年度  
予算年度を入力します。空白にした場合、現行会計年度が使用されます。

### 計算方式

1. 予算合計方式  
使用する予算合計方式を指定します。  
空白または1: 当初予算、年間期間金額、および前年度末転記額の合計  
2: 年間の期間金額の合計  
3: 当初予算と現行期間までの累計額の合計  
方式1と3は、当初予算を各期間に配賦していない場合のみ指定してください。

### 詳細レベル

1. 詳細レベル  
勘定科目の最も詳細なレベル(3から9)を指定します。空白にした場合、「9」が使用されます。  
  
指定したレベルより詳細なレベルでの勘定科目分析は行われません。たとえば、詳細レベルに「5」を指定すると、すべての予算はレベル5までです。

るとみなされます。例外はレベル9です。レベル「9」を指定すると、勘定科目分析にはすべてのレベルが含まれます。

## 補助元帳

### 1. 補助元帳、2. 補助元帳タイプ

特定の補助元帳を入力するか、「\*」ですべての補助元帳を指定します。特定の補助元帳を入力した場合、補助元帳タイプも入力します。

## 予算明細金額の入力

この項では、勘定科目別予算明細プログラムの概要と、勘定科目別の予算明細金額入力方法について説明します。

### 勘定科目別予算明細プログラムについて

ほとんどの予算を年間ベースで作成していても、次のような場合には、勘定科目別予算明細プログラム(P14101)を使用する必要があります。

- 予測不能な季節パターンを持つ特定の勘定科目に対する期間別予算の設定
- 年間予算の期間配賦プログラムによる配賦結果の変更
- 年間予算配賦前後の期間別予算金額の検討

また、勘定科目別予算明細プログラムを使用して、各勘定科目の各期間に予算を入力できます。この方法で予算金額を入力すると、F0911テーブルにはレコードは作成されません。かわりに次の更新が行われます。

- F0902テーブルにある予算元帳レコードの最終予算金額と転記額の更新
- F0901テーブルの予算パターン・コードの「DNS」への変更

このコードにより、入力した金額が配賦プログラムによって上書きされることはなくなります。

**注意:**「勘定科目別予算明細」フォームのかわりに、「ビジネスユニット別予算」フォームを使用して月次金額を入力することもできます。「期間を表示」オプションを選択すると、詳細グリッドに各期間のカラムが表示されます。

### 予算明細金額の入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
予算勘定科目の処理	W14101C	「予算作成」(G1412)、「勘定科目別予算明細」	勘定科目別の予算を検討します。
勘定科目別予算明細	W14101A	「予算勘定科目の処理」フォームで勘定科目を選択します。	勘定科目別に予算明細金額を入力します。他の予算作成方法で作成された既存の予算を改訂します。

### 勘定科目別の予算明細金額の入力

「勘定科目別予算明細」フォームにアクセスします。

勘定科目別予算明細 - 勘定科目別予算明細

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

勘定科目コード 9.8720 Office Supplies Expense

補助元帳タイプ

西暦上2桁/会計年度 20 05 元帳タイプ BA

	期間終了日付	予算金額	累計額
期間 1	2005/01/31	1,250.00	1,250.00
期間 2	2005/02/28	1,250.00	2,500.00
期間 3	2005/03/31	1,250.00	3,750.00
期間 4	2005/04/30	1,250.00	5,000.00
期間 5	2005/05/31	1,250.00	6,250.00
期間 6	2005/06/30	1,250.00	7,500.00
期間 7	2005/07/31	1,250.00	8,750.00
期間 8	2005/08/31	1,250.00	10,000.00
期間 9	2005/09/30	1,250.00	11,250.00
期間10	2005/10/31	1,250.00	12,500.00
期間11	2005/11/30	1,250.00	13,750.00
期間12	2005/12/31	1,250.00	15,000.00

「勘定科目別予算明細」フォーム

## 予算仕訳の入力

この項では、予算仕訳の概要と入力方法について説明します。

### 予算仕訳について

ほとんどの組織では予算作成の正式な監査証跡は不要ですが、組織によっては必要な場合もあります。たとえば、原価計算を使用する建設会社や当初予算に対する補正予算を記録する政府機関などでは、正式な監査証跡が必要です。このような組織では、予算仕訳を使用して正式な監査証跡を作成します。

予算仕訳の予算入力は、予算元帳タイプの割当を除いて、仕訳入力と同じです。予算金額を仕訳として入力し、予算を作成します。これは、他の仕訳と同じように検討や転記ができます。予算仕訳のバッチ・タイプは、他の仕訳と同じバッチ・タイプ「G」です。F0911テーブルの予算仕訳が更新されます。バッチの転記を行うと、F0902テーブルが更新されます。ただし、F0902テーブルの予算金額フィールド(BREQ、BAPR、BORG)は更新されません。

予算仕訳として入力した予算を変更するには、「仕訳入力」フォームを使用する必要があります。予算仕訳の変更には、年間予算方法や明細予算方法は使用しないでください。通常、予算仕訳では貸借を一致させる必要はありません。元帳タイプ・マスターの設定プログラム(P0025)で、予算元帳での貸借一致を必須にするかどうかを指定します。



## 事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 処理オプションでの予算元帳タイプ(BAなど)の指定
- 会計期間パターンが設定済であることの確認
- (推奨)予算仕訳のための伝票タイプ(「BX」など)の設定(伝票タイプ「JE」は使用しない)

**関連項目:**

第 13 章、「仕訳の処理」、「基本仕訳の入力」、122ページ

## 予算仕訳の入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
仕訳入力の処理	W0911I	「その他の予算作成方式」(G1421)、「予算の入力」	予算仕訳入力の既存バッチの一覧を検討します。
仕訳入力	W0911A	「仕訳入力の処理」フォームで、「追加」をクリックします。	予算金額の仕訳入力を追加します。

## 予算仕訳の入力

「仕訳入力」フォームにアクセスします。



## 第 25 章

# 予算データのアップロード

この章では、次の方法について説明します。

- スプレッドシートからの予算データのインポート
- テキスト・ファイルからの予算データのインポート
- インポートされた予算データの改訂
- F0902テーブルへの予算データのアップロード
- F0902Z1テーブルの処理済レコードの除去

## 予算のアップロード処理について

次の表は、2種類の予算アップロード方法と、それぞれの手順をまとめたものです。後半の3つの手順は共通していることに注意してください。2つの方法で異なるのは、予算データのEnterpriseOneテーブルへのインポート方法だけです。

方法	手順
スプレッドシートからの予算のインポート	<ol style="list-style-type: none"><li>1. アップロード/変換の改訂プログラムを使用して、予算データをインポートします。</li><li>2. インポートしたデータを検討、改訂します。</li><li>3. 予算データをF0902テーブルにアップロードします。</li><li>4. 処理済レコードを除去します。</li></ol>
テキスト・ファイルからの予算のインポート	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 予算データをテキスト・ファイルにコピーします。</li><li>2. 予算インポート・フィールドのマッピング・プログラムを実行して、データを変換します。</li><li>3. インポートしたデータを検討、改訂します。</li><li>4. 予算データをF0902テーブルにアップロードします。</li><li>5. 処理済レコードを除去します。</li></ol>

## スプレッドシートからの予算データのインポート

この項では、スプレッドシートからの予算のインポート処理の概要と、次の方法について説明します。

- アップロード/変換の改訂 (P0902Z1) の処理オプションの設定
- スプレッドシートからの予算データのインポート

## スプレッドシートからの予算のインポート処理について

スプレッドシート・プログラムによって予算を作成する場合、アップロード/変換の改訂プログラムを使用して、予算データを勘定残高 - バッチ・テーブル (F0902Z1) に直接インポートできます。

F0902Z1 テーブルにレコードをインポートする前に、スプレッドシートと「F0902Z1 へのアップロード」フォームのカラムを比較してください。「F0902Z1 へのアップロード」フォームでグリッドのカスタマイズを行い、表示されるカラムがスプレッドシートと一致するようにします。

スプレッドシートの各レコードには、最低限、勘定科目コードが必要です。他のフィールドは必須ではありません。アップロード/変換の改訂プログラムの「勘定科目コード」処理オプションで、勘定科目コードの形式を指定できます。「勘定科目コード」処理オプションの設定を変更すると、指定した勘定科目コード形式に対応するフィールドが、詳細グリッドに新たに表示されます。

予算データを F0902 テーブルにアップロードする前に、アップロード/変換の改訂プログラム (P0902Z1) を使用してデータが正しいことを確認し、必要に応じて改訂を行います。

## スプレッドシートからの予算データのインポートに使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
バッチ勘定残高の処理	W0902Z1A	「その他の予算作成方式」 (G1421)、「アップロード/変換の改訂」	F0902Z1 テーブルにアップロード済の既存バッチの一覧を検討します。
F0902Z1 へのアップロード	W0902Z1D	「バッチ勘定残高の処理」フォームで、「フォーム」メニューの「アップロード」を選択します。  必要に応じて、「フォーム」メニューの「すべて削除」を選択し、処理済かどうかにかかわらず、すべてのレコードを削除できます。	スプレッドシートからの予算データのインポート予算データが F0902Z1 テーブルにアップロードされます。

## アップロード/変換の改訂 (P0902Z1) の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、「F0902Z1 へのアップロード」フォームのデフォルト値を指定します。

### デフォルト

1. 元帳タイプ UDC テーブル (09/LT) から、予算金額に使用する元帳タイプを指定します。
2. ユーザーID フィールド 「ユーザーID」フィールドを入力可能にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 入力不可  
 1: 入力可

### 勘定科目番号

1. 勘定科目コード 勘定科目コードに使用する形式を指定します。値は次のとおりです。



## テキスト・ファイルからの予算データのインポート

この項では、予算インポート・フィールドのマッピング・プログラムの概要と、次の方法について説明します。

- F0902Z2テキスト・ファイルへの予算データのコピー
- 予算インポート・フィールドのマッピング・プログラムの実行
- 予算インポート・フィールドのマッピング (R14110M) の処理オプションの設定

### テキスト・ファイルからの予算のインポート処理について

スプレッドシートを使用するかわりに、F0902Z2テキスト・ファイルに予算データをコピーして予算インポート・フィールドのマッピング・プログラム (R14110M) を実行し、データをインポートできます。このテーブル変換プログラムはテキスト・ファイルからデータを取得し、勘定残高 - バッチ・テーブル (F0902Z1) のフィールドに合せて変換します。F0902Z1テーブルのフィールドの形式は、F0902テーブルのフィールドと同じです。

予算データをF0902テーブルにアップロードする前に、アップロード/変換の改訂プログラム (P0902Z1) を使用してデータが正しいことを確認し、必要に応じて改訂を行います。

### 事前設定

B9/PRODディレクトリ(またはEnterpriseOneディレクトリのある場所)に、「Import」という名前のフォルダを作成します。

### F0902Z2テキスト・ファイルへの予算データのコピー

テキスト・ファイルに予算データをコピーするには、次の手順に従います。

1. テキスト・ファイルを作成し、予算データをファイルに直接コピーします。  
PC上でテキスト・ファイルを作成するには、「スタート」、「プログラム」、「アクセサリ」、「メモ帳」の順に選択してください。  
予算データがスプレッドシート内にある場合は、まずスプレッドシートを.csv形式で保存してからテキスト・ファイルにコピーします。
2. テキスト・ファイルを「F0902Z2.txt」という名前で保存します。  
どのプラットフォームでも変換が実行できるように、デフォルト・パスが割り当てられます。デフォルト・パスは、「パス・コード¥Import¥ファイル名」(例: xxxx¥Import¥F0902Z2.txt) です。xxxxは、入力環境の名前です。予算インポート・フィールドのマッピング・プログラム (R14110M) を実行すると、Importフォルダのテキスト・ファイルが検索されます。

**注意:** iSeriesプラットフォームでは、デフォルト・パスは常に、入力環境のパス・コードの下にあるImportディレクトリです。

### カラム見出しの追加

システムが予算データを正しく取得できるように、テキスト・ファイルに次のようなカラム見出しを追加する必要があります。

```
F0902Z2. txt
Account Number, Subledger, Subledger Type, Net Posting 1, Net Posting
2, Net Posting 3, Net Posting 4, Net Posting 5, Net Posting 6, Net Posting
7, Net Posting 8, Net Posting 9, Net Posting 10, Net Posting 11, Net
```

```
Posting 12, Net Posting 13, Net Posting 14, Requested, Approved, Final
1. 1110. Bear, 1, A, 1000, 100, 10, 1, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 1110, 0
1. 1110. Fib, 1, A, 2000, 200, 20, 2, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 200, 0
1. 1110. France, , , 3000, 300, 30, 3, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 5000, 0, 0
1. 1105, , , 0, 52, 12313, 13213, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 6589
```

テキスト・ファイルでは、このカラム見出しの後に予算データが表示されます。

## 予算インポート・フィールドのマッピング・プログラムの実行

「その他の予算作成方式」(G1421)の「予算インポート・フィールドのマッピング」を選択します。

このタスクは、Windows環境で実行する必要があります。

Windows環境で予算インポート・フィールドのマッピング・プログラムを実行するには、次の手順に従います。

1. 「バッチ・バージョンの処理 - 使用可能なバージョン」で、該当するバージョンを選択します。
2. 「テーブル変換プロンプト」で、次の設定を行います。
  - ローカル環境で作業を行っている場合は、「送信」をクリックします。
  - サーバー環境で作業を行っている場合は、「ロケーション一時変更」チェックボックスを選択して、「送信」をクリックします。

EnterpriseOneデータ・ソースでは、ローカル・データ・ソースを選択して、テーブル変換プログラムがF0902Z2.txtファイルにコピーしたデータにアクセスできるようにします。

3. PC予算アップロード・フィールド定義で、次の表に示したタブにアクセスし、それぞれの指示に従ってください。

タブ	指示
Select Environments (環境の選択)	<p>「Input Environment (入力環境)」で、F0902Z2.txtファイルがローカル・ドライブにマッピングされた環境を選択します。入力環境は、クライアント・マシン上のローカル・データベースに対応しています。</p> <p>「Output Environment (出力環境)」で、勘定残高 - バッチ・テーブル (F0902Z1) がサーバーにマッピングされた環境を選択します。出力環境は、F0902テーブルを含むターゲット・データベースに対応しています。</p>

タブ	指示
Table Options (テーブル・オプション)	<p>多通貨処理を行っている場合のみ、「Run Currency Triggers (通貨トリガー実行)」オプションを選択します。多通貨設定に基づいて、小数点以下桁数やその他の通貨フィールドが変換されます。</p> <p>「Clear Output Tables (出力テーブルのクリア)」オプションは選択しないでください。選択すると、ユーザーや処理の状況にかかわらず、F0902Z1テーブルのすべてのデータが削除されてしまいます。F0902Z1テーブルのデータは、後のPC予算アップロード処理で、F0902テーブルにアップロードされます。</p> <p>「Force Row by Row (ローで強制実行)」処理オプションは、選択しないでください。このオプションは無視されます。</p>
Debug Logging (ログのデバッグ)	<p>次の場合を除いて、「Use ini settings for trace level and number of rows to process (処理のトレース・レベルとロー数にINI設定を使用)」オプションは選択解除しないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アップロード処理中にログを作成する場合。「Trace Level (トレースレベル)」フィールドを1から10の値に変更します。10にすると、最も詳細なログが作成されます。</li> <li>処理しない入力ローがある場合。この場合、「ロー数」フィールドの値をゼロ以外の数字に変更します。</li> </ul>

プログラムの終了時、処理が正常終了したかどうかを示すメッセージがワーク・センターに送られます。

## 予算インポート・フィールドのマッピング (R14110M) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 元帳タイプ

#### 1. 元帳タイプ

予算レコードに割り当てられる元帳タイプを指定します。元帳タイプ・マスターの設定プログラム (P0025) で設定された有効な元帳タイプを入力します。この処理オプションをブランクにした場合、元帳タイプBAが使用されます。

### 勘定科目番号

#### 1. 勘定科目コード形式

予算テキスト・ファイルで使用する勘定科目コードの形式を指定します。値は次のとおりです。

ブランクまたは3: 標準勘定科目コード

1: 略式ID

2: 第3勘定科目コード

## インポートされた予算データの改訂

この項では、インポートされた予算データの改訂の概要と、改訂方法について説明します。



## インポートされた予算データの改訂について

予算データをF0902Z1テーブルにインポートした後、アップロード/変換の改訂プログラム(P0902Z1)を使用してレコードの正確性を検討し、必要に応じて改訂を行います。

その後、アップロード/変換プログラム(R14110)を実行してF0902テーブルにレコードをアップロードしたときに、エラーになるレコードがある場合があります。たとえば、勘定科目コードが無効なレコードや、金額が正しくないレコードなどです。F0902テーブルの整合性を保証するため、アップロード/変換の改訂プログラムを使用してすべてのエラーを修正します。

また、アップロード/変換の改訂プログラムを使用して、F0902Z1テーブルのレコードを、正常に処理されたかどうかにかかわらず、削除することもできます。

F0902Z1テーブルのデータを改訂した後、必要に応じてアップロード/変換プログラムを実行し、F0902Z1テーブルの予算データをF0902テーブルにコピーします。

## インポートされた予算データの改訂に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
バッチ勘定残高の処理	W0902Z1A	「その他の予算作成方式」(G1421)、「アップロード/変換の改訂」	F0902Z1テーブルにアップロード済の既存バッチの一覧を検討します。
バッチ勘定残高の改訂	W0902Z1B	「バッチ勘定残高の処理」フォームで、改訂するレコードを選択します。	予算レコードを改訂します。これは、F0902Z1テーブルにインポートされた予算レコードです。

## インポートされた予算データの改訂

「バッチ勘定残高の改訂」フォームにアクセスします。

アップロード/変換の改訂 - バッチ 勘定残高の改訂

OK(O) 取消(L) ツール(T)

勘定科目コード \*

9.8115

西暦上2桁/FY

会社

00001

タイプ/補助元帳

元帳タイプ

BA

バッチ状況

転記額 01	75,000.00	転記額 06	75,000.00	転記額 11	75,000.00
転記額 02	75,000.00	転記額 07	75,000.00	転記額 12	75,000.00
転記額 03	75,000.00	転記額 08	75,000.00	転記額 13	75,000.00
転記額 04	75,000.00	転記額 09	75,000.00	転記額 14	75,000.00
転記額 05	75,000.00	転記額 10	75,000.00		

前年度転記額

繰越残高

予算金額

申請済み

承認済み

最終/当初

「バッチ勘定残高の改訂」フォーム

## F0902テーブルへの予算データのアップロード

この項では、アップロード/変換プログラムの概要と次の方法について説明します。

- アップロード/変換プログラムの実行
- アップロード/変換(R14110)の処理オプションの設定

### アップロード/変換プログラムについて

「バッチ勘定残高の改訂」フォームで予算データを検討し、必要に応じて改訂した後、アップロード/変換プログラム(R14110)を実行して、勘定残高 - バッチ・テーブル(F0902Z1)からF0902テーブルにデータをコピーします。

エラーが発生しないかどうか、テスト・モードで確認できます。プログラムを最終モードで実行する前に、エラーを修正する必要があります。レコードになんらかの問題があることが検出された場合、その問題とF0902Z1テーブルのすべてのレコードが処理されないことを通知するワークフロー・メッセージがワーク・センターに送信されます。これにより、データの整合性が保証されます。

エラーには、次のようなものがあります。

- F0901テーブルに設定されていない勘定科目コード
- 無効な補助元帳または補助元帳タイプ
- 会計年度に設定されていない会計期間パターン
- 無効な元帳タイプ

**注意:** R14110プログラムを使用してJD Edwards EnterpriseOne作業原価システムに予算をアップロードする場合は、転記編集コードNを使用して、作業原価元帳の勘定科目に予算数量を転記できます。

アップロード/変換の改訂プログラム(P0902Z1)を使用して、F0902Z1テーブルのエラーを修正します。その後、アップロード/変換プログラムをテスト・モードで再実行します。作成されたレポートにエラーがなければ、アップロード/変換プログラムを最終モードで実行します。

最終モードでは、レポートが印刷され、予算データがF0902テーブルにアップロードされます。アップロードが成功した各レコードについて、F0902Z1テーブルの“バッチ状況”フィールドが「D」(転記済)に更新されます。エラーのあるレコードは処理されません。

期間別予算明細に対して最終モードでプログラムを実行すると、F0901テーブルの該当する勘定科目の予算パターン・コードが「DNS」(非配賦)に設定されます。

処理オプションの設定により、アップロード処理を制御できます。たとえば、次のようにできます。

- 期間金額のアップロードではなく年間予算のアップロードを指定  
この指定を行う場合は、すべての期間金額が追加される予算タイプ(申請済、承認済、または最終)も指定します。
- アップロードされた金額のF0902テーブルの既存金額への追加  
デフォルトでは、一致するすべての勘定科目コードについて、F0902テーブルの金額はアップロードされた金額で置き換えられます。
- すべての収益勘定科目金額の符号の反転

予算データがF0902テーブルに正常にロードされた後、処理済アップロードの除去プログラム(R0902ZP)を使用してF0902Z1テーブルからレコードを除去できます。

## アップロード/変換プログラムの実行

「その他の予算作成方式」(G1421)の「アップロード/変換」を選択します。

## アップロード/変換(R14110)の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、更新する予算サイクル、アップロードする金額(月次または年次)などを指定します。

### 期間

1. 西暦上2桁、2. 会計年度 F0902テーブルにアップロードする予算が適用される年度を識別します。たとえば、会計年度2007年用の予算の場合は、西暦上2桁として「20」、会計年度として「07」を入力します。

### 予算サイクル

任意の予算サイクル、または3つすべてを更新できます。

1. 申請済み予算 アップロードする予算によってF0902の“申請済予算”フィールド(BREQ)を更新するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: フィールドを更新しません。  
 1: フィールドを更新します。

この処理オプションに「1」を入力して「年次/月次」処理オプションにも「1」を入力した場合、アップロードする予算の申請済予算金額がBREQフィールドに入力されます。

この処理オプションに「1」を入力して「年次/月次」処理オプションを空白にした場合、アップロードする予算の月次予算金額の合計がBREQフィールドに入力されます。

## 2. 承認済み予算

アップロードする予算によってF0902テーブルの“承認済予算”フィールド(BAPR)を更新するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: フィールドを更新しません。

1: フィールドを更新します。

この処理オプションに「1」を入力して「年次/月次」処理オプションにも「1」を入力した場合、アップロードする予算の承認済予算金額がBAPRフィールドに入力されます。

この処理オプションに「1」を入力して「年次/月次」処理オプションを空白にした場合、アップロードする予算の月次予算金額の合計がBAPRフィールドに入力されます。

## 3. 最終予算

アップロードする予算によってF0902テーブルの“最終予算”フィールド(BORG)を更新するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: フィールドを更新しません。

1: フィールドを更新します。

この処理オプションに「1」を入力して「年次/月次」処理オプションにも「1」を入力した場合、アップロードする予算の最終予算金額がBORGフィールドに入力されます。

この処理オプションに「1」を入力して「年次/月次」処理オプションを空白にした場合、アップロードする予算の月次予算金額の合計がBORGフィールドに入力されます。

## 4. 年次/月次

F0902テーブルに、年間予算金額(申請済、承認済、最終)と月間予算金額(期間1から14)のどちらをアップロードするかを指定します。値は次のとおりです。

空白: 月間予算金額をアップロードします。

1: 年間予算金額をアップロードします。

この処理オプションに「1」を入力した場合、「予算サイクル」処理オプションで「1」を入力した予算サイクルに対応する年間予算金額のみがアップロードされます。

処理オプションを空白にした場合、月間予算金額がアップロードされます。また、月間予算金額の合計額が、「予算サイクル」処理オプションで「1」を入力した予算サイクルに対応する各年間予算金額に入力されます。

## 仕訳の置換

### 1. 仕訳の置換

アップロードする予算の仕訳でF0902テーブルにある既存の仕訳を置換するか、追加するかを指定します。値は次のとおりです。

空白: 既存の仕訳と置き換えます。

1: 仕訳を追加します。

## 符号反転

### 1. 符号の反転

アップロードする予算の収益勘定科目金額の符号を反転するかどうかを指定します。符号を反転すると、マイナスの数字はプラスの金額になり、プラスの数字はマイナスの金額になります。値は次のとおりです。

blank: 金額の符号を反転します。

アップロードする予算の収益勘定科目金額がプラス(借方)の場合、この処理オプションはblankのままにしてください。アップロードすると、プラスの数字は自動的にマイナスに変更されます。

1: 金額の符号を反転しません。

F0902テーブルの収益勘定科目の金額はマイナス(貸方)です。アップロードする予算の収益勘定の金額がマイナスの場合は、この処理オプションに「1」を入力して、マイナスの数値を保持する必要があります。

## 作業原価

### 1. 作業原価

「予算サイクル」処理オプションの設定にかかわらず、アップロードする予算のF0902テーブルの月間予算金額(期間1から14)のみを更新するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

blank: 「予算サイクル」処理オプションで指定した予算金額を更新します。

1: 月次予算金額のみを更新します。

作業原価予算の場合は、「1」を入力してください。

## モード

### 1. モード

プログラムをテスト・モードまたは最終モードのどちらで実行するかを指定します。

blank: テスト・モード。F0902テーブルの金額に行われる更新を示すレポートが印刷されます。

1: 最終モード。F0902テーブルが更新され、レポートが印刷されます。

## 除去

### 1. 除去

F0902Z1テーブルから処理済レコードを自動的に除去するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

blank: 処理済レコードを除去しません。

1: 処理済レコードを除去します。

---

## F0902Z1テーブルの処理済レコードの除去

この項では、処理済アップロードの除去プログラムの概要と実行方法について説明します。

## 処理済アップロードの除去プログラムについて

複数のスプレッドシートをF0902Z1テーブルにアップロードした場合、テーブルが非常に大きくなる場合があります。テーブル・サイズを管理するため、処理済アップロードの除去プログラム(R0902ZP)を実行して、処理済のレコードを除去します。

プログラムを実行する前に、すでにアップロード済のレコードの改訂や再アップロードの必要がないことを確認します。処理済アップロードの除去プログラムは、バッチ状況が「D」(レコードはF0902テーブルに正常にアップロード済)のすべてのレコードを削除します。また、テーブルから削除されたレコードを一覧表示するレポートも印刷します。

処理済アップロードの除去プログラムを定期的に行うことにより、F0902Z1テーブルにはアップロード待ちの予算データのみが含まれることになります。

このプログラムには、処理オプションはありません。

## 処理済アップロードの除去プログラムの実行

「その他の予算作成方式」(G1421)の「処理済アップロードの除去」を選択します。

または、アップロード/変換プログラム(R14110)の実行時に「除去」処理オプションを設定することにより、処理済レコードをF0902Z1テーブルから除去することもできます。

## 第 26 章

# 予算の予測と計画

この章では、予算の予測と計画の概要、および次の方法について説明します。

- 勘定科目の定義と基準金額の取込み
- 勘定科目と基準金額の改訂
- 予算予測金額の作成
- 予算予測金額の改訂
- 予算予測レコードの更新
- 予算予測レコードの除去

---

## 予算の予測と計画について

予測と計画のJD Edwards EnterpriseOne一般会計プログラムでは、次の処理が可能です。

- 成長パターン（固定またはパーセンテージ）の作成
- ビジネスユニットへの成長パターンの割当
- 予測基準の作成と検討
- 予算予測金額の自動作成
- 期待どおりの成果を得るための予測の改訂と調整
- ユーザー定義の元帳への確定予測のアップロード

予測と計画のJD Edwards EnterpriseOne一般会計プログラムは、標準の予算プログラムと統合されています。この統合により、予算作成プロセス全体を合理化し、詳細な短期予算と長期予算を作成できるようになります。業務を反映するように予算をカスタマイズしたり、複数バージョンの予測を管理して様々なシナリオを評価することも可能です。予測を修正して確定した後、ユーザー定義の元帳や予測元帳にアップロードできます。

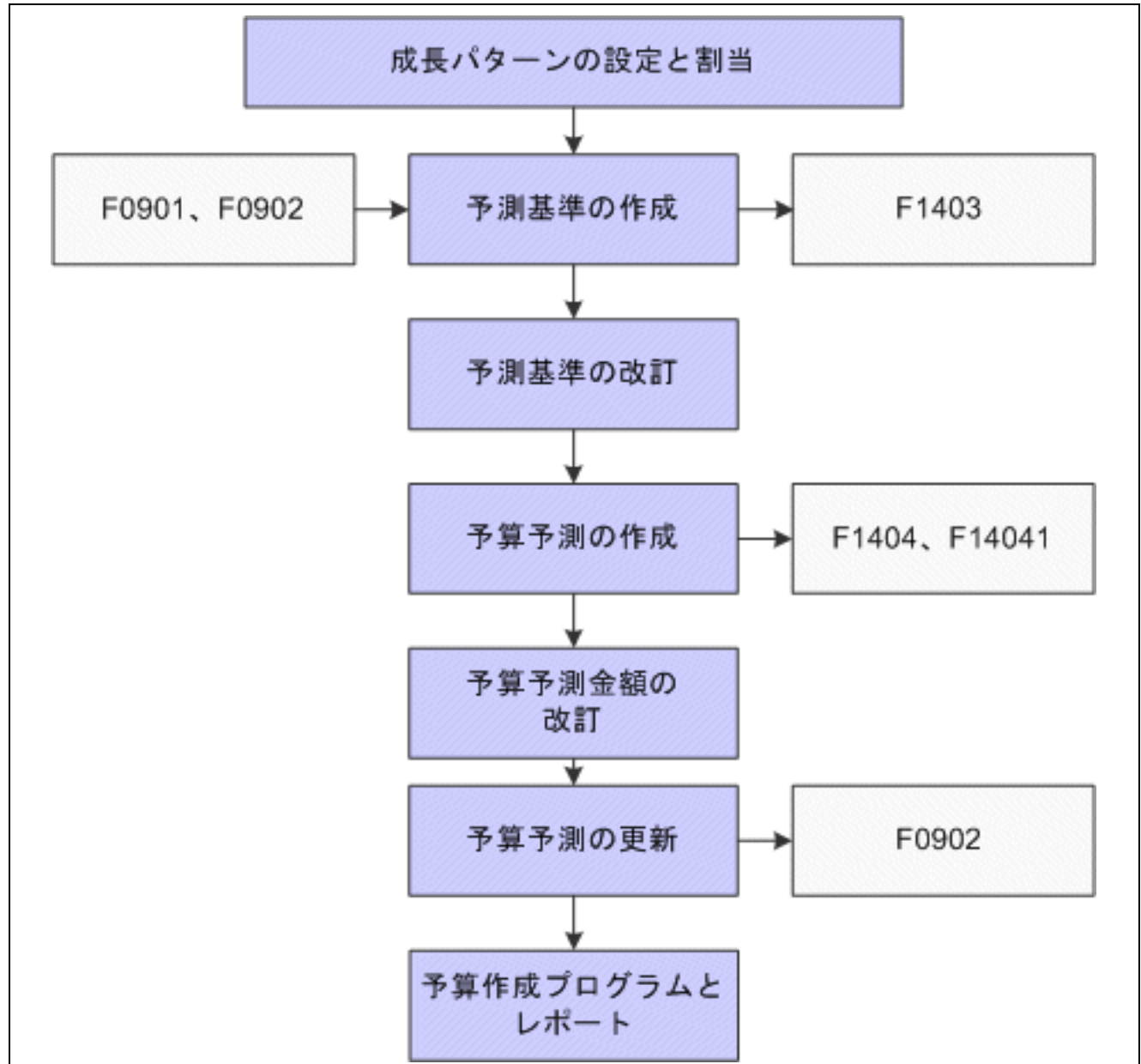
ただし、初めに成長パターンを設定して、ビジネスユニットに割り当てる必要があります。その後、異なる成長パターンを使用して必要なだけ改訂版を作成できます。改訂番号で区別することにより、1つのビジネスユニットに複数の予算を作成して、予測を確定する前にwhat-if分析を行うことが可能になります。各改訂版に対して、次の作業を実行します。

- 予算予測に組み込む収益勘定科目と経費勘定科目の定義
- 各勘定科目の金額の取込み
- 各改訂版の勘定科目と基準金額の検討と改訂

参照: [第 8 章、「予算の予測と計画の設定」](#)、[「成長パターンの設定」](#)、85ページ

前述の作業を完了した後、改訂版に対する予算金額を作成し、期待どおりの結果を得るため必要に応じて改訂を行います。改訂が完了したら、確定した予算金額を各改訂版のF0902テーブルにコピーします。F0902テーブルのレコードは、レポート目的で他のシステムの予算に組み込むことができます。予測と計画のプログラムによる予算の予測は、標準の予算プログラムを使用する前に行う必要があります。

次の図は、予測と計画のプロセスと、プロセス内で使用されるテーブルを示したものです。



予測と計画プロセス

## 勘定科目の定義と基準金額の取込み

この項では、勘定科目定義と基準金額の概要、および次の方法について説明します。



- 手作業による勘定科目の定義と基準金額の取込み
- 勘定科目と基準金額の自動作成

## 勘定科目定義と基準金額について

収益勘定科目と経費勘定科目の予算金額を予測するには、予測に組み込む勘定科目を定義し、その勘定科目の基準金額を取り込む必要があります。

この作業は、検索および選択プログラムを使用して手動で実行することも、次のいずれかのプログラムを使用してバッチで自動実行することもできます。

- 予測基準の改訂 (P1403)
- 予測基準の作成 (R1403)

勘定科目定義と基準金額の取込みを手動で行うか自動で行うかにかかわらず、F0901テーブルの勘定科目情報とF0902テーブルの転記額がコピーされ、予測基準テーブル (F1403) が更新されます。

### 手作業による勘定科目と基準金額の取込み

勘定科目と基準金額をシステムによって自動作成するのではなく、予測基準の改訂プログラムを使用して手作業で勘定科目情報を作成し、基準金額の取込みを行います。定義する勘定科目の数が多い場合、勘定科目情報を手入力することをお勧めします。

予測基準の改訂プログラムを使用して、ビジネスユニットと改訂番号に関連する勘定科目範囲、元帳タイプ、会計年度、および期間を手入力します。基準金額はF0902テーブルから取り込まれます。会計年度と元帳タイプを2つずつ使用して、最高で14の連続する期間の勘定残高を取り込めます。たとえば、会計年度05、元帳タイプAAの期間07から12の残高と、会計年度06、元帳タイプBAの期間01から06の残高が取り込めます。また、同じ元帳タイプの会計年度05と06の残高を取り込むこともできます。

予測基準の改訂プログラムを使用して、基準金額を改訂したり、勘定科目を追加または削除することもできます。

### 勘定科目と基準金額の自動作成

予算金額の予測を行う勘定科目の数によっては、予測基準の作成プログラム (R1403) を実行する方が、予測基準の改訂プログラムで勘定科目情報を手入力するより効率的です。

予測基準の作成プログラムは、経費と収益のAAI項目「GLGxx」に基づく勘定科目範囲とF0902テーブルの基準金額によって、F1403テーブルを自動的に更新します。処理オプションの設定により、改訂番号、元帳タイプ、会計年度、期間、および補助元帳残高の積上げを行うかどうかを指定します。

また、1つか2つの会計年度と元帳タイプについて、最高で12か14の連続する期間の勘定残高を取り込めます。たとえば、会計年度05、元帳タイプAAの期間01から06の残高と、会計年度06、元帳タイプBAの期間07から12の残高が取り込めます。また、同じ元帳タイプの会計年度05と06の残高を取り込むこともできます。

## 手作業による勘定科目の定義と基準金額の取込みに使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
予測基準の処理	W1403E	「予測および計画」(G1411)、「予測基準の改訂」	既存の予測基準レコードの検索と選択を行います。
予測基準の取り込み	W1403B	「予測基準の処理」フォームで、「追加」をクリックします。	勘定科目を定義し、基準金額を取り込みます。

## 手作業による勘定科目の定義と基準金額の取込み

「予測基準の取り込み」フォームにアクセスします。

予測基準の改訂 - 予測基準の取り込み

OK(O) 検索(I) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

会社番号 \* [ ] ビジネスユニット \* [ ] 改訂No. \* [ ]

勘定科目範囲 開始 5000 終了 9999

☐ 補助元帳残高の集計

元帳タイプ AA 会計年度 [ ] 期間 1 から 14

元帳タイプ AA 会計年度 [ ] 期間 [ ] から [ ]

☒ 期間転記額の表示

レコード 1 - 200 / 2545

	会社 番号	ビジネス ユニット	主 科目	補助 科目	記述	略式 ID	転記 編集	基準金額 期間 1	F0902 転記額 1	基準金額 期間 2
<input type="checkbox"/>	00001		1 5012		Sales VAT Revenue	00231757				
<input type="checkbox"/>	00001		1 8442		Taxes	00231749				
<input type="checkbox"/>	00020		2 6021		COGS - Branch Transfers	00164638	M			
<input type="checkbox"/>	00020		2 8110		Salaries and Wages	00165155	B			
<input type="checkbox"/>	00020		2 8115		Regular Pay	00165163				
<input type="checkbox"/>	00020		2 8115	MGR	Regular Pay- Managers	00165171				
<input type="checkbox"/>	00020		2 8116		Overtime Pay	00165180				
<input type="checkbox"/>	00020		2 8117		Commissions	00165198				
<input type="checkbox"/>	00020		2 8118		Miscellaneous Pay	00165201				

「予測基準の取り込み」フォーム

手作業で勘定科目の定義と基準金額の取込みを行うには、次の手順に従います。

1. 「予測基準の取り込み」フォームの見出しフィールドに値を入力します。
2. 主科目合計に補助元帳残高を積み上げるには、「補助元帳残高の集計」オプションを選択します。
3. 1つの元帳タイプまたは異なる元帳タイプと異なる会計期間の勘定科目を取り込むには、次のフィールドに値を入力します。
  - ・ 元帳タイプ
  - ・ 会計年度
  - ・ 開始期間(画面上では「期間」)

- ・ 終了期間(画面上では「から」)

**注意:** 2つの元帳タイプの開始期間と終了期間は、重複することはできません。1番目の元帳タイプAAの会計年度が05、期間が7から12だとすると、2番目の元帳タイプには異なる期間範囲を指定する必要があります。この場合、たとえば開始期間に1、終了期間に6を入力できます。このようにして、ある年度の7月から次年度の6月、ある年度の10月から次年度の9月など、様々な組合せの期間で金額を取り込むことができます。

4. 「検索」をクリックします。  
勘定科目が取り込まれ、詳細グリッドに各期間の残高が表示されます。
5. 「期間転記額の表示」チェックボックスを選択して、各期間の期間転記額を表示します。
6. 詳細グリッドの任意の基準金額を改訂します。
7. レコードを個別に保存するには、レコードを選択して「ロー」メニューの「保存」を選択します。
8. すべてのレコードを保存するには、「フォーム」メニューの「すべて保存」を選択します。
9. メッセージ・フォームで「OK」をクリックすると、F1403テーブルにあるロックされていない勘定科目が置き換えられます。

## 勘定科目と基準金額の自動作成

「予測および計画」(G1411)の「予測基準の作成」を選択します。

## 予測基準の作成(R1403)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 処理

- |                                      |  |
|--------------------------------------|--|
| 1. 改訂番号                              | 予測基準金額を作成する改訂番号を指定します。F0901テーブルの勘定科目情報とF0902テーブルの転記額がコピーされ、この改訂番号のF1403テーブルが更新されます。  |
| 2. 元帳タイプ1、3. 会計年度1、4. 開始期間1、5. 終了期間1 | 「元帳タイプ1」処理オプションで、転記額を取り込む元帳タイプを指定します。この処理オプションは、「会計年度1」、「開始期間1」、「終了期間1」処理オプションとともに使用されます。  |
| 6. 元帳タイプ2、7. 会計年度2、8. 開始期間2、9. 終了期間2 | 「元帳タイプ2」処理オプションで、転記額を取り込む2番目の元帳タイプを指定します(任意)。この処理オプションは、「会計年度2」、「開始期間2」、「終了期間2」処理オプションとともに使用されます。  |
| 10. 補助元帳のロールアップ                      | <p>補助元帳残高を主科目に積み上げるかどうかを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: 補助元帳残高を積み上げません。</p> <p>1: 補助元帳残高を積み上げます。</p> <p>たとえば、この処理オプションに「1」を指定して、補助元帳を従業員別の出張経費のトラッキングに使用すると、すべての従業員の出張経費が主科目に積み上げられます。</p> |

## 勘定科目と基準金額の改訂

この項では、勘定科目と基準金額の改訂の概要と改訂方法について説明します。

### 勘定科目と基準金額の改訂について

収益勘定科目と経費勘定科目について勘定科目の定義と基準金額の取込みを行った後、予測基準の改訂プログラムを使用して次の処理を実行できます。

- 勘定科目別の期間基準金額の追加または変更
- 予算パターン・コードによる勘定科目への金額の配賦

予算パターン・コードを設定してある場合、そのコードを割り当てて金額を一時変更できます。すると、コードに定義されたパーセントに従って、各期間の金額フィールドに一時変更した金額が配賦されます。

- 個々の勘定科目への一時変更成長パターン・コードの割当
- レコードのロック

予測結果の作成プログラムでは、ロックされたレコードの金額のみが予測されます。F1403テーブルの勘定科目のロック・フラグ (LOCKFLG) が「1」になっている必要があります。

### 勘定科目と基準金額の改訂に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
予測基準の処理	W1403E	「予測および計画」(G1411)、「予測基準の改訂」	既存の予測基準レコードを検討します。
予測基準の改訂	W1403D	「予測基準の処理」フォームで、改訂を行うビジネスユニットと改訂番号を選択します。	勘定科目および基準金額を改訂します。

### 勘定科目と基準金額の改訂

「予測基準の改訂」フォームにアクセスします。

予測基準の改訂 - 予測基準の改訂

OK(O) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

ビジネスユニット: 4 Southern Branch デフォルト成長パターン: FIXED5YR

改訂No.: 1

☒ 期間の表示  
☐ 年間合計のみ

レコード 1-3

改訂 No.	ビジネス ユニット	主 科目	補助 科目	会社 番号	記 述	略式 ID	勘定科目のロック	基準金額 期間 1	基準金額 期間 2	基準 期間
1	4	8350		00001	Rent Expense	00046412	1	3,000.00	3,000.00	
1	4	8355		00001	Maintenance and Repair	00054906	1	500.00	500.00	

「予測基準の改訂」フォーム

勘定科目と基準金額を改訂するには、次の手順に従います。

- 「予測基準の改訂」フォームで、次のオプションのいずれかを選択します。
  - 期間の表示
  - 年間合計のみ
- 勘定科目の期間基準金額を変更するには、「期間の表示」オプションを選択して、該当する期間の基準金額のフィールドに値を入力します。  
それに応じて、「基準金額年間合計」フィールドの値も更新されます。
- 特定の予算パターンと金額を使用して勘定科目に金額を配賦するには、詳細グリッドの次のフィールドに値を入力します。
  - 予算パターン  
空白にした場合、年間予算金額はすべての月に均等に配賦されます。
  - 「一時変更金額」(画面上では「一時変更勘定科目」)  
「予算パターン」フィールドに空白以外の値を入力した場合のみ、このフィールドに値を入力します。
- 勘定科目の成長パターンを一時変更するには、詳細グリッドの「一時変更成長パターン」フィールドに値を入力します。  
デフォルトの成長パターンを使用しない場合のみ、勘定科目のこのフィールドに値を入力してください。  
予測結果の作成プログラムの実行時に、この成長パターンが適用されます。
- 勘定科目レコードをロックするには、レコードを選択して「ロー」メニューの「ロック/ロックの解除」を選択します。  
「勘定科目のロック」フィールドに、勘定科目がロックされていることを示す「1」が表示されます。  
ロックを解除するには、「ロー」メニューの「ロック/ロックの解除」を再度選択します。
- すべての勘定科目レコードをロックするには、「フォーム」メニューの「すべてロック/すべてロック解除」を選択します。

すべての勘定科目のロックを解除するには、「フォーム」メニューの「すべてロック/すべてロック解除」を再度選択します。

7. 「OK」をクリックして、すべての改訂を反映させます。

---

**注意:** 予測結果の作成プログラムは、F1403テーブルのロックされたレコードについてののみ、予算予測金額を作成します。

---

## 予算予測金額の作成

この項では、予算予測金額の作成の概要と、次の方法について説明します。

- 予測結果の作成プログラムの実行
- 予測結果の作成プログラムのデータ選択の設定
- 予測結果の作成プログラムの処理オプションの設定

### 予算予測金額の作成について

勘定科目と基準金額の改訂が完了したら、予測結果の作成プログラム(R1404)を実行します。F1403テーブルのロックされたレコードが取り込まれ、次のテーブルに予算予測金額が作成されます。

- 予測結果 - 見出し(F1404)
- 予測結果 - 詳細(F14041)

最長で15年先まで、予算予測金額を作成できます。処理オプションで、金額の作成を開始する会計年度と改訂番号を指定します。データ選択で、予算予測レコードを作成する勘定科目範囲とビジネスユニットを指定します。

予測結果の作成プログラムでは、次の処理を行います。

- F1403テーブルに取り込まれて更新された基準金額を使用します。
- 転記編集コードが「N」(非転記)以外の勘定科目の基準金額に、成長パターンを適用します。

成長パターンには、ビジネスユニットと改訂番号に関連するデフォルトのパターンと、個々の勘定科目に関連する一時変更成長パターンがあります。

- F1403テーブルのロックされた勘定科目に対してのみ、予測金額を作成します。

F1403テーブルの勘定科目のロック・フラグ(LOCKFLG)が「1」である必要があります。このプログラムのデータ選択は、ロックされたレコードのみを選択するようにハードコードされています。

このプログラムでは、F1404テーブルとF14041テーブルに追加、更新されたレコード数、改訂番号、会計年度、予測を行う年数を示すレポートが作成されます。レポートには失敗したレコード数も含まれていて、必要に応じてワーク・センターにエラー・メッセージが送信されます。レポートでは、ロックされていない勘定科目は識別されません。ロックされていない勘定科目は予測金額には含まれません。

予測結果の作成プログラムの実行後、次のいずれかを実行できます。

- 必要に応じて、F1403テーブルの勘定科目と基準金額を改訂します。予測基準の改訂プログラムを使用してレコードのロックを解除し、変更を行った後で再度ロックする必要があります。その後、予測結果の作成プログラムを再実行して、F1404テーブルとF14041テーブルのロックされていない既存レコードを上書きします。
- 予測結果の改訂プログラムを使用して、F1404テーブルとF14041テーブルの予算予測金額を検討し、改訂します。

## 事前設定

ビジネスユニットと改訂番号に関連するすべての勘定科目がロックされていることを確認します。

## 予測結果の作成プログラムの実行

「予測および計画」(G1411)の「予測結果の作成」を選択します。

## 予測結果の作成プログラムのデータ選択の設定

改訂番号に関連するすべてのビジネスユニットと勘定科目について金額を予測する必要がある場合、データ選択で対象となるビジネスユニットや勘定科目を選択できます。また、勘定科目レベルで複数の成長パターンが割り当てられていて、そのすべてについて金額を予測する必要がある場合にも、データ選択で特定の成長パターンを選択できます。

## 予測結果の作成(R1404)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 処理

- 1. 改訂番号**  
予算予測金額を作成する改訂番号を指定します。成長パターンが基準額に適用され、F1404テーブルの見出しレコードとF14041テーブルの詳細レコードが更新されます。
- 2. 開始会計年度**  
予算予測金額を作成する最初の会計年度を指定します。たとえば、2005年から金額の作成を開始する場合は、「05」と入力します。
- 3. 予測する年数**  
予算予測金額を作成する年数を指定します。この処理オプションは、「開始会計年度」処理オプションとともに使用されます。  
たとえば、「開始会計年度」に「05」と入力して、この処理オプションに「10」を入力した場合、2005から2014年の予測金額が作成されます。最長で15年先までの金額を予測できます。

---

## 予算予測金額の改訂

この項では、予算予測金額の改訂の概要と改訂方法について説明します。

### 予算予測金額の改訂について

予算予測金額を作成した後、予測結果の改訂プログラムを使用して、任意の勘定科目、年度、期間の予測金額の検討や改訂を行うことができます。また、次の処理も行うことができます。

- 予算パターン・コードによる予測年度への金額の配賦
- 勘定科目に移動しての勘定科目詳細の検討
- 確定後の勘定科目のロック(任意)

予測結果の作成プログラムとは違い、予算への予測の適用プログラム(R1407)の実行前には勘定科目をロックする必要はありません。ただし、次の理由から、勘定科目をロックすることをお勧めします。

- 「予算予測結果の改訂」フォームでの予測金額の誤変更の防止
- 予測結果の作成プログラム再実行時のF1404テーブルの既存レコード上書きの防止

## 予算予測金額の改訂に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
予算予測改訂の処理	W1404D	「予測および計画」(G1411)、「予測結果の改訂」	既存の予算予測レコードを検討します。
予算予測結果の処理	W1404A	「予算予測改訂の処理」フォームで、改訂を行うビジネスユニットと改訂番号を選択します。	集計予算予測金額を改訂します。
予算予測結果の改訂 - 単一年度	W1404B	「予算予測結果の処理」フォームで、勘定科目の年度カラムのリンクをクリックします。	勘定科目の単一年度の予算予測金額に対して、改訂、ロック、ロック解除を行います。
予算予測結果の改訂 - 複数年度	W1404C	「予算予測結果の処理」フォームで、改訂する勘定科目を選択します。	勘定科目の複数年度の予算予測金額に対して、改訂、ロック、ロック解除を行います。

## 予算予測金額の改訂

「予算予測結果の改訂 - 単一年度」または「予算予測結果の改訂 - 複数年度」フォームにアクセスします。



予測結果の改訂 - 予算予測結果の改訂 - 単一年度

OK(O) 取消(L) ツール(T)

勘定科目コード 4.8350 Rent Expense

改訂No. 1

会計年度 2010 ☐ 勘定科目のロック

予算パターンコード 年間予測 38,500.00

残額

	期間終了日付	予測金額	累計金額
期間 1	2010/01/31	3,210.00	3,210.00
期間 2	2010/02/28	3,210.00	6,420.00
期間 3	2010/03/31	3,210.00	9,630.00
期間 4	2010/04/30	3,210.00	12,840.00
期間 5	2010/05/31	3,210.00	16,050.00
期間 6	2010/06/30	3,210.00	19,260.00
期間 7	2010/07/31	3,210.00	22,470.00
期間 8	2010/08/31	3,210.00	25,680.00
期間 9	2010/09/30	3,205.00	28,885.00
期間 10	2010/10/31	3,205.00	32,090.00
期間 11	2010/11/30	3,205.00	35,295.00
期間 12	2010/12/31	3,205.00	38,500.00

「予算予測結果の改訂 - 単一年度」フォーム

既存レコードの勘定科目コードが含まれる勘定科目範囲に新しいレコードを追加する場合、レコードの置換や削除が必要になることがあります。

#### 予測金額期間1 から予測金額期間12

必要に応じて、これらのフィールドの金額を変更します。金額を変更すると、「予算パターン・コード」フィールドには自動的に「DNS」(非配賦)が入力されます。

“予測金額期間1から12”フィールドの金額の合計は、「年間予測」フィールドの金額と一致する必要があります。一致しない場合、“金額が等しくありません”というエラー・メッセージが表示されます。「残額」フィールドの値を検討し、金額を適切な値に修正してください。

#### 勘定科目のロック、すべての会計年度をロック

単一年度を改訂する場合は、「勘定科目のロック」オプションが表示されます。複数年度を改訂する場合は、「すべての会計年度をロック」オプションが表示されます。このオプションを選択すると、勘定科目または会計年度のロックとロック解除を切り替えることができます。

レコードをロックするには、オプションを選択します。レコードを改訂することはできません。

レコードのロックを解除して改訂するには、オプションの選択を解除します。

---

## 予算予測レコードの更新

この項では、予算予測の更新の概要と次の方法について説明します。

- 予算への予測の適用プログラムの実行
- 予算への予測の適用プログラムのデータ選択の設定
- 予算への予測の適用プログラムの処理オプションの設定

### 予算予測の更新プログラムについて

特定の改訂番号の予算予測レコードで期待どおりの結果が得られたら、予算への予測の適用プログラム(R1407)を実行してF1404テーブルとF14041テーブルの確定金額をコピーし、F0902テーブルのBREQ、BAPR、BORGの各フィールドを更新できます。F0902テーブルを更新すると、このテーブルのレコードと標準予算作成プログラムや他のシステムの予算とをレポート目的で結合できます。予測結果の作成プログラムとは違い、予算への予測の適用プログラムの実行前には勘定科目をロックする必要はありません。

予算予測レコードは改訂番号によって更新され、その改訂番号のレコードが、処理オプションで指定したユーザー定義の元帳タイプにコピーされます。この元帳タイプは、UDCテーブル(09/LT)とF0025テーブルに設定されている必要があります。設定されていないと、F0902テーブルの予算予測レコードは更新されません。

予算への予測の適用プログラムによる予算予測レコードのコピーとF0902テーブルの更新が正常終了したことを確認するため、自動作成されたレポートを検討します。レポートには、F0902テーブルに更新されたレコードの数と、エラーがあった場合はそのレコード数も表示されます。エラー・レコードの詳細は、ワーク・センターのメッセージを検討してください。処理オプションで入力した予算元帳タイプや改訂番号が正しくない場合は、レポートにエラー・メッセージが表示され、処理は行われません。

**注意:** 予算への予測の適用プログラムを1つの改訂番号に対して複数回実行すると、F1404テーブルとF14041テーブルの金額がF0902テーブルにコピーされ、必要に応じて新しいレコードが追加されます。金額が変更されたレコードがあった場合、F0902テーブルには変更された金額が反映されます。金額が二重に記録されるわけではないので、F0902テーブルの残高は増大しません。

---

### 事前設定

予算予測レコードのコピー先の元帳タイプが、UDCテーブル(09/LT)とF0025テーブルに設定されていることを確認します。

### 予算への予測の適用プログラムの実行

「予測および計画」(G1411)の「予算への予測の適用」を選択します。

### 予算への予測の適用プログラムのデータ選択の設定

改訂番号に関連するすべてのビジネスユニットと勘定科目について金額を予測する必要がない場合、データ選択で対象となるビジネスユニットや勘定科目を選択できます。

## 予算への予測の適用(R1407)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 予算元帳

1. 予算元帳タイプ 予算予測レコードを更新する元帳タイプを指定します。この元帳タイプは、UDCテーブル(09/LT)とF0025テーブルに設定されている必要があります。処理オプションで指定した元帳について、F1404テーブルとF14041テーブルの確定金額がコピーされ、F0902テーブルが更新されます。
2. ターゲット予算フィールド UDCテーブル(H00/BC)のコードを指定します。値は次のとおりです。
  - 1: 申請済予算元帳を更新します。
  - 2: 承認済予算元帳を更新します。
  - 3: 最終予算元帳を更新します。

---

## 予算予測レコードの除去

この項では、予算予測除去プログラムの概要と次の方法について説明します。

- 予測基準の除去プログラムと予測結果の除去プログラムの実行
- 予測基準の除去プログラムと予測結果の除去プログラムのデータ選択の設定

### 予算予測の除去プログラムについて

異なるビジネスユニットに対して、1つの予算の複数の改訂版が作成可能なため、次のプログラムを実行して、予算予測データを含むテーブルのサイズを管理することをお勧めします。

- 予測基準の除去(R1403P)  
F1403テーブルの資金予測基準レコードをすべて除去します。
- 予測結果の除去(R1404P)  
F1404テーブルの見出しレコードとF14041テーブルの詳細結果レコードをすべて除去します。

### 予測基準の除去プログラムと予測結果の除去プログラムの実行

「上級および技術的操作」(G14111)の「予測基準の除去」または「予測結果の除去」を選択します。

### 予測基準の除去プログラムと予測結果の除去プログラムのデータ選択の設定

すべてのレコードを除去する必要がない場合、データ選択で特定の改訂番号やビジネスユニットなどを選択します。これらの除去プログラムには、処理オプションはありません。実行モード(テスト/最終)もありません。



## 第 27 章

# 資金予測データの処理

この章では、次の方法について説明します。

- 資金予測データのリフレッシュ
- 資金予測情報の分析
- 資金予測データの除去

**関連項目:**

第 9 章、「資金予測の設定」、89ページ

---

## 資金予測データのリフレッシュ

この項では、資金予測データのリフレッシュ・プログラムの概要と次の方法について説明します。

- 資金予測データのリフレッシュ
- 資金予測データのリフレッシュの処理オプションの設定

### 資金予測データのリフレッシュ・プログラムについて

資金予測データ・テーブル (F09522) のデータは必ずリフレッシュしてください。リフレッシュすることで、資金予測分析プログラム (P09522) を使用して資金勘定科目の分析または予測を行う際に、最新の情報を取得できます。データのリフレッシュは、会計期間、日次、または週次で行えます。

資金予測データのリフレッシュ・プログラム (R00522) の実行時、資金予測データを作成する基準日や将来日数を処理オプションで指定します。終了日付は自動的に計算されます。JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システム、JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理システム、JD Edwards EnterpriseOne 一般会計システムの F09522 テーブルのデータをリフレッシュするには、次の各プログラムのバージョンを指定します。

- 売掛管理資金予測データの抽出 (R03B522)
- 買掛管理資金予測データの抽出 (R04522)
- 一般会計資金予測データの抽出 (R09522)

抽出プログラムは、次の処理を実行します。

- 売掛管理、買掛管理、一般会計のアクティブな資金タイプ規則を F09521 テーブルから取得します。
- F03B11、F0411、F0911 の各テーブルから資金予測詳細を抽出します。
- 新しい資金予測レコードで、F09522 テーブルをリフレッシュします。

資金予測データのリフレッシュ・プログラムは、アクティブな各資金タイプの集計金額で、銀行勘定科目および期日別にF09522テーブルを更新します。資金タイプの選択基準を満たす銀行勘定科目や期日が複数ある場合は、複数の集計金額が作成されます。このプログラムでは、F09522テーブルの固有の銀行勘定科目IDごとに、F09525テーブルに銀行勘定科目レコードが作成されます。「資金予測分析」フォームで「検索」ボタンを使用して銀行勘定科目コードを検索すると、F09525テーブルの情報にアクセスします。F09525テーブルに銀行勘定科目がない場合は、かわりにF0901テーブルの勘定科目マスター情報にアクセスします。

処理オプションの設定により、基準日より前の日付を指定して既存の資金予測レコードを除去できます。F09522テーブルのデータ除去後、新しい資金予測データでテーブルがリフレッシュされます。

資金予測データのリフレッシュ・プログラムでは、レポート構造内の資金タイプ規則だけでなく、すべての元帳資金タイプ規則の銀行勘定科目でF09525テーブルがリフレッシュされます。

---

**注意:** データを変更したため、資金予測データのリフレッシュ・プログラムを1日に2回以上実行する必要がある場合は、リフレッシュ・プログラムを再実行する前に、「資金予測」メニュー (G09319) の資金予測データの除去プログラム (R09522B) を実行してください。

---

参照: 第 27 章、「資金予測データの処理」、「資金予測の除去について」、297ページ

## 売掛管理と買掛管理の資金予測データの抽出プログラム

売掛管理資金予測データの抽出プログラムは、アクティブな売掛管理資金タイプ規則を持つ、金額がゼロ以外、支払状況が「A」(承認済)、転記コードが「D」(転記済)の未決済請求書をF03B11テーブルから抽出します。買掛管理資金予測データの抽出プログラムは、アクティブな買掛管理資金タイプ規則を持つ、金額がゼロ以外で、支払状況が「P」(支払済)以外の未払伝票をF0411テーブルから抽出します。

どの未決済請求書と未払伝票を資金予測データに含めるかを決定するには、処理オプションで基準日と将来日数を指定します。支払期日が開始日付と終了日付の間にある請求書と伝票が、資金予測データに含まれます。

資金タイプの「期限超過資金タイプ」オプションの選択に応じて、次のいずれかの状況が適用されます。

- 資金タイプの「期限超過資金タイプ」オプションが選択されている場合は、処理オプションで指定した基準日より前の支払期日が選択されます。

期限超過日数の開始日数と終了日数(ともにマイナス値)によって基準日が調整され、期限超過日付(最も新しい日付と最も古い日付)がそれぞれ計算されます。この期限超過日付の範囲内に支払期日がある取引が選択され、売掛管理と買掛管理の新しい資金予測レコードがF09522テーブルに書き込まれます。

- 資金タイプの「期限超過資金タイプ」オプションが選択されていない場合は、処理オプションで指定した基準日以降、終了日付以前の支払期日が選択され、売掛管理と買掛管理の新しい資金予測レコードがF09522テーブルに書き込まれます。

## 一般会計資金予測データの抽出プログラム

一般会計資金予測データの抽出プログラムは、各勘定科目のF0911テーブルとF0902テーブルから転記済の勘定残高を抽出します。各勘定科目は、基準日残高のアクティブな元帳資金タイプに関連付けられています。非転記や非アクティブの勘定科目は含まれません。処理オプションで指定した基準日を1日ずつ増分して調整を行い、この調整日付を使用して資金タイプ規則に対応するF0911の転記済取引を取得します。その後、この調整日付を使用して、新しい一般会計資金予測レコードでF09522テーブルがリフレッシュされます。

基準日から終了日付までのすべての日に対する銀行勘定科目レコードが書き込まれるまで、この処理を繰り返します。その後、調整日付を基準日にリセットして、次の元帳資金タイプに対して同じ処理を行います。残高ゼロの勘定科目があった場合は、基準日のF09522テーブルに残高ゼロが書き込まれます。

このプログラムは常に、各銀行勘定科目の基準日残高をF09522テーブルに書き込みます。基準日残高は、ゼロの場合でも、銀行勘定科目の開始帳簿残高として使用されます。ただし、基準日より後の調整日付については、F0911の取引が転記されていない場合、F09522テーブルに調整日付のレコードは書き込まれません。調整日付に対するF0911の正味金額がF09522テーブルに書き込まれるのは、その日にF0911に転記済取引がある場合のみです。資金予測分析プログラムにアクセスすると、調整日付のF0911正味金額は累計され、次のいずれかの残高に適用されます。

- F09522テーブルの基準日帳簿残高
- F09616、F09617テーブルの基準日銀行取引明細残高

資金予測分析プログラムの処理オプションで、開始残高に使用する基準日残高を指定します。

## 資金予測データのリフレッシュ

「資金予測」(G09319)の「資金予測データのリフレッシュ」を選択します。

## 資金予測データのリフレッシュ(R00522)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 処理

#### 1. 基準日

F09522テーブルに資金予測データを作成する基準日(開始日付)を指定します。基準日のデータがすでにF09522テーブルにある場合は、資金予測データの除去プログラム(R09522B)を使用して既存のデータを除去してから、新たな資金予測データを作成します。空白にした場合、基準日には今日の日付が使用されます。

#### 2. 将来日数

資金予測データを作成する将来日数を指定します。たとえば「10」を指定すると、基準日とその後9日間(カレンダー日数)の資金予測データが作成されます。空白または「0」にした場合、基準日とその後6日間(カレンダー日数)の資金予測データが作成されます。

### バージョン

#### 1. A/R資金予測データ(R03B522)の抽出のバージョン、2. A/P資金予測データの抽出(R04522)のバージョン、3. G/L資金予測データの抽出(R09522)のバージョン

売掛管理資金予測データの抽出プログラム、買掛管理資金予測データの抽出プログラム、一般会計資金予測データの抽出プログラムのバージョンを指定します。空白にした場合、バージョンZJDE0001が使用されます。

### 除去

#### 1. さかのぼる日数

何日前の資金予測レコードから除去を開始するかを指定します。「10」を指定すると、基準日の10日以上前の資金予測レコードがすべて除去されます。たとえば、基準日が6月14日の場合は、6月4日以前の資金予測レコードがすべて除去されます。「1」を指定すると、その日より前の日付のレコードがすべて除去されます。空白または「0」にした場合、レコードは除去されません。

## 資金予測情報の分析

この項では、資金予測情報と銀行勘定科目開始残高の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 資金予測分析の処理オプションの設定
- 資金予測情報の分析

### 資金予測情報について

F09522テーブルのリフレッシュ後、資金予測分析プログラム(P09522)を使用して、1つまたはすべての銀行勘定科目の資金予測金額を表示できます。このプログラムにより、F09522テーブルのリフレッシュ済データと次の情報を使用して、オンライン照会とレポート出力を行えます。

- F09523テーブルに定義したレポート構造
- アクティブな資金タイプ規則テーブル(F09521)に設定した規則
- F09525テーブルの銀行勘定科目コード

「資金予測分析」フォームで「検索」ボタンを使用して銀行勘定科目コードを検索すると、F09525テーブルの情報にアクセスします。F09525テーブルに銀行勘定科目がない場合は、かわりにF0901テーブルの勘定科目マスター情報にアクセスします。

「資金予測分析」フォームと資金予測レポート(R095221)に表示される集計金額は、データのリフレッシュに使用した基準日に対応しています。日次、週次、または期間別に集計金額を表示できます。

期限超過項目に対する資金タイプ規則を設定してある場合、期限超過金額はその規則に従って、別のカラムに表示されるか、または最初の日付カラムの金額と合せて表示されます。期限超過のカラムと金額を非表示にすることもできます。資金タイプ規則に加重係数を指定すると、オプション設定によって実績金額に加重係数を適用した金額を表示できます。

基本的に、「資金予測分析」フォームと資金予測レポートの内容は同じです。レポートには、「資金予測分析」フォームでツリー構造を全レベルに展開した場合の詳細情報が(実際に展開されているレベルにかかわらず)印刷されます。フォームで期限超過金額を非表示に設定すると、レポートにも期限超過資金タイプは含まれません。「資金予測分析」フォームで、「レポート」メニューの「レポートの印刷」を選択すると、レポートを印刷できます。このレポートは、資金予測詳細テーブル(F09UI017)から情報を取得します。実際に「レポート」メニューで「レポートの印刷」を選択するまで、このテーブルには資金予測詳細は入力されません。そのため、「レポートの印刷」を選択してからレポートが印刷されるまでに、時間がかかる場合があります。F09UI017テーブルのデータを使用してレポートの印刷が終了すると、このテーブルは削除されます。

### 銀行勘定科目開始残高について

自動銀行取引明細の処理を使用して銀行取引明細の処理と調整を行っている場合、「資金予測分析」フォームで資金予測金額を分析する際に、銀行勘定科目の開始残高として取引明細の最終残高を使用できます。

ある勘定科目に対して、銀行取引明細の残高を資金予測金額の開始残高として使用するには、次を実行する必要があります。

- 銀行取引明細のロード・プログラム(R09612)を実行して、この勘定科目に対する現在の自動銀行取引明細をアップロードします。

このプログラムは、自動銀行取引明細の処理に含まれています。



参照: 第 23 章、「銀行取引明細の自動処理」、「銀行取引明細テーブルへのデータのロード」、223 ページ

- 資金予測分析プログラムの処理オプションで、「銀行口座開始残高方式」を「1」に設定します。

## 事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 資金予測データのリフレッシュ・プログラムによるF09522テーブルの更新
- 資金予測分析プログラムの処理オプションでの資金分析情報を表示するレポート構造名の指定

## 資金予測情報の分析に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
資金予測分析	W09522A	「資金予測」(G09319)、「資金予測分析」  資金予測分析レポートを印刷するには、「レポート」メニューの「レポートの印刷」を選択します。	資金予測金額の検討と分析を行います。

## 資金予測分析 (P09522) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムのデフォルト処理を指定できます。

### 表示

- 1. レポート構造** 資金予測分析プログラムでの情報表示に使用するレポート構造を指定します。F09523テーブルに設定されているレポート構造を指定してください。この処理オプションは必須です。ブランクにはしないでください。
- 2. カラム数** 「資金予測分析」フォームに表示される日付範囲カラムの数 (最大7 = デフォルト) を指定します。資金タイプ規則の設定プログラムで設定されている場合は、期限超過項目用に“期限超過”カラムが表示されます。
- 3. 再評価通貨** 「資金予測分析」フォームの金額表示に使用する再評価通貨を指定します。F0013テーブルに設定されている通貨コードを指定してください。ブランクにした場合、F0010テーブルに設定されている会社00000の通貨コードが使用されます。
- 4. 会計期間パターンの会社** 資金予測分析プログラムの「時間 - 表示」オプションで会計期間が指定されている場合に、資金予測金額を計算するための会計期間パターンを取得する会社を指定します。ブランクにした場合、会社00000の会計期間パターンと会計年度開始日付が使用されます。

### オプション

- 1. 銀行口座開始残高方式** 銀行勘定科目の開始残高に使用する方式を指定します。  
ブランク: 帳簿残高  
開始残高として、F0911テーブルとF0902テーブルの帳簿残高が使用されます。

## 1: 銀行取引明細残高

開始残高として、F09616テーブルの銀行取引明細残高が使用されます。

## バージョン

1. 資金予測レポート構造 (P09523) 、2. 資金予測レポート (R095221)      使用する資金予測レポート構造の設定プログラムと資金予測レポートのバージョンを指定します。ブランクにした場合、バージョンZJDE0001が使用されます。

## 資金予測情報の分析

「資金予測分析」フォームにアクセスします。

このフォームに情報が表示されるまでの処理時間は、F09522テーブルのデータ数によって異なります。

- 基準日**      資金予測データをリフレッシュする日付を入力します。
- 銀行勘定科目コード**      総勘定元帳の銀行勘定科目コード(勘定科目IDではない)を識別する値を入力します。  
「検索」ボタンを使用して勘定科目を検索すると、F09525テーブルの、すべての元帳資金タイプ規則に関連する銀行勘定科目にアクセスします。F09525テーブルに銀行勘定科目がない場合は、かわりにF0901テーブルの勘定科目情報にアクセスします。
- 開始日付、終了日付**      資金予測情報を表示する開始日付と終了日付を入力します。
- 加重係数の適用**      このオプションが選択されていると、「資金予測分析」フォームに表示される実績金額にF09521テーブルで定義された加重係数が適用されます。
- 過去期日カラムの非表示**      このオプションが選択されていると、「資金予測分析」フォームに期限超過カラムが表示されません。選択されていないと、期限超過カラムが別に表示されます。
- 日、週、期間**      資金予測金額が表示される時間の単位を指定します。

## エラー・メッセージ: “勘定科目”の元帳資金タイプ規則が見つかりません

銀行勘定科目が有効な元帳資金タイプ規則に割り当てられていない場合にF09522テーブルをリフレッシュすると、「資金予測分析」フォームに、“勘定科目”の元帳資金タイプ規則が見つかりません、という警告メッセージが表示されます。この資金タイプの純営業利益/費用の繰越額が銀行勘定科目に含まれないので、その結果、「資金予測分析」フォームの開始残高は不正確になります。

この問題を修正するには、資金タイプ規則の設定プログラムを使用して、既存の元帳資金タイプ規則の勘定科目範囲に銀行勘定科目を追加するか、またはこの銀行勘定科目の元帳資金タイプ規則を新規に設定します。その後、資金予測データのリフレッシュ・プログラムを再実行してください。「資金予測分析」フォームに再度アクセスします。純営業利益/費用の繰越額が銀行勘定科目に含まれるので、開始残高は正しくなっています。

---

予測データの除去

この項では、資金予測の除去プログラムの概要と次の方法について説明します。

- 資金予測データの除去
- 資金予測データの除去の処理オプションの設定

## 資金予測の除去について

資金予測データの除去プログラム(R09522B)は、次のいずれかの方法で実行できます。

- メニューの「資金予測データの除去」を選択  
処理オプションで、レコードを除去する開始基準日と終了基準日を指定します。
- 資金予測データのリフレッシュ・プログラムから実行  
処理オプションで、何日以上前の資金予測レコードを除去するかを指定します。除去プログラムの実行後に、資金予測データのリフレッシュ・プログラムによって、テーブルのデータがリフレッシュされます。リフレッシュ・プログラムから除去プログラムを実行すると、基準日の前日までの(基準日を含まない)レコードを除去できます。

---

**注意:** データを変更したため、資金予測データのリフレッシュ・プログラムを1日に2回以上実行する必要がある場合は、リフレッシュ・プログラムを再実行する前に、「資金予測」メニュー(G09319)で資金予測データの除去プログラムを実行してください。データの除去を行わないと、次のエラー・メッセージが表示されます。

F09522テーブルに基準日のレコードがすでに存在します。資金予測データの除去(R09522B)を使用してこの日付のレコードを除去してから、リフレッシュを行ってください。

除去プログラムをメニューから実行する場合は、終了基準日を指定できます。資金予測データのリフレッシュ・プログラムから実行する場合は、基準日の前日までのレコードのみを除去できます。

---

## 資金予測データの除去

「資金予測」(G09319)の「資金予測データの除去」を選択します。

## 資金予測データの除去(R09522B)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 選択

- |                         |   |
|-------------------------|---|
| <b>1. 除去するレコードの開始日付</b> | F09522テーブルで除去するレコードの開始基準日を指定します。ブランクにした場合、終了日付の処理オプションで指定した日付よりも前の基準日のレコードがすべて除去されます。 |
| <b>2. 除去するレコードの終了日付</b> | F09522テーブルで除去するレコードの終了基準日を指定します。開始日付と終了日付の両方をブランクにすると、基準日から昨日までのレコードがすべて除去されます。       |



## 第 28 章

# 現金主義仕訳の作成

この項では、現金主義会計の概要、発生主義会計の仕訳と現金主義仕訳の概要、および次の方法について説明します。

- メニューからの現金主義会計プログラムの実行
- 転記プログラムからの現金主義会計プログラムの実行
- 例外レポートの検討
- 現金主義仕訳の検討
- 現金主義仕訳の転記

---

## 現金主義会計について

現金主義会計は、入金を収益、出金を経費として認識する会計処理方法です。この会計処理では、会計期間中に実際に発生した現金の入出金だけが示されます。現金主義会計は、油田のリースやベンチャーキャピタル、パートナーシップなどにおいて必要となる場合があります。

入出金のタイミングは、営業活動期間とは異なる場合があります。そのため、現金主義会計と発生主義会計では、取引を記録する会計期間が一致しない場合があります。

発生主義会計の仕訳は、AA(実績金額)元帳で管理されます。現金主義会計を使用する場合、AA元帳と同じ取引がAZ(現金主義)元帳にも作成されます。

現金主義仕訳を作成するには、現金主義仕訳の作成プログラム(R11C850)を実行するか、総勘定元帳への転記プログラム(R09801)で「現金主義」処理オプションを有効にします。このプログラムを実行するための最善の方法を決定するには、JD Edwards EnterpriseOne一般会計、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理、JD Edwards EnterpriseOne売掛管理の各システムで現金主義仕訳がどのように作成されるかを理解する必要があります。

---

## 発生主義会計の仕訳について

現金主義会計を使用している場合、入出金が発生した時点でAZ元帳に取引を作成します。現金の収支を含む取引は、JD Edwards EnterpriseOne売掛管理システムとJD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムの入金および支払として発生します。

発生主義会計の仕訳では、次のバッチ・タイプについてF0911テーブルの銀行勘定科目に借方と貸方が作成されます。

- K: 自動支払

- M: 支払(伝票照合あり)
- W: 支払(伝票照合なし)
- RB: 入金

買掛管理システムでは伝票タイプPK、PN、PTで、売掛管理システムでは伝票タイプRC、RKで片側仕訳が作成されます。その後、売掛金勘定と買掛金勘定の貸借一致仕訳が伝票タイプAE(自動仕訳)で作成されます。どちらの伝票も同じバッチに作成されるため、バッチの貸借は一致し、エラーなしで転記されます。

## 現金主義仕訳について

現金主義仕訳の作成プログラムでは常に、勘定元帳取引の現金主義仕訳が最初に作成されます。次に、別のプログラムが実行されて、バッチK、M、W、RBについて売掛金と買掛金の貸借一致仕訳が作成されます。

### 取引明細レコードの現金主義仕訳

現金主義仕訳の作成プログラムを実行すると、バッチ・タイプに関係なく、F0911テーブルの発生主義取引のデータで現金主義仕訳が作成されます。F0911テーブルでは、次の基準を満たす取引が検索されます。

- 伝票タイプがUDCテーブル(00/DX)(除外伝票タイプ)に含まれない。
- 元帳タイプがAAである。
- 転記コードがPである。
- GLALT6(現金主義会計転記コード)フィールドがblankである。

この取引は、現金主義会計で処理されていません。

現金主義仕訳の作成プログラムを実行するたびに、元帳タイプAZ、バッチ・タイプGの現金主義仕訳がF0911テーブルの1つのバッチに作成されます。現金主義仕訳の元帳日付には、当初のAA元帳取引の元帳日付が使用されます。

現金主義仕訳が1つの取引について重複して作成されないように、F0911テーブルの発生主義会計の仕訳レコードのGLALT6フィールドが「P」に更新されます。現金主義仕訳を転記前に削除すると、同じレコードに対して新しい現金主義仕訳は作成されないため、現金主義仕訳を再作成するにはAZ元帳に仕訳を手動で入力する必要があります。

仕訳に基づいて現金主義仕訳が作成される場合、その取引全体がAZ元帳にコピーされ、現金主義伝票タイプが割り当てられます。当初の仕訳の貸借が一致していれば、作成される現金主義仕訳の貸借も一致します。

### 数量の現金主義仕訳

数量処理の場合は、総勘定元帳への転記プログラムの処理オプションで特に元帳タイプを指定していなければ、ZU(現金主義会計数量)元帳に数量仕訳が作成されます。発生主義取引の数量は、AU(実績数量)元帳に作成されます。数量元帳はF0902テーブルにのみ存在し、F0911テーブルには存在しません。発生主義会計の仕訳と現金主義仕訳を転記すると、数量元帳が更新されます。

### 買掛管理と売掛管理の現金主義仕訳

現金主義仕訳の作成プログラムは、バッチ・タイプK、M、W、RBの貸借一致仕訳を作成するために別のプログラムを実行します。このプログラムでは、伝票タイプAE、DP、JT、PM、PR、PV、RA、RI、RM、RRの貸借一致仕訳は作成されません。

支払と入金については、F0911の銀行勘定科目レコードが最初に処理されます。PVやRIなどの伝票タイプはUDCテーブル(00/DX)に含まれるため、対応する経費勘定と収益勘定の元帳取引は除外されます。現金主義仕訳の貸借を一致させるために、現金主義仕訳の作成 - 買掛管理プログラム(R11C854)と現金主義仕訳の作成 - 売掛管理プログラム(R11C853)によって、自動的に経費勘定と収益勘定が取得されます。

次の基準を満たす支払済伝票がF0414テーブルから、支払済請求書がF03B14テーブルから検索されます。

- 転記コードがDである。
- F0414テーブルとF03B14テーブルのRNALT6フィールドとRZALT6フィールドがブランクである。

基準を満たす取引があると、次の処理が実行されます。

- F0411テーブルとF03B11テーブルのレコードを検索して、経費勘定と収益勘定を取得します。
- 請求書レコードや伝票レコードのRPOBJ(主科目)フィールドに値があれば、RPMCU(ビジネスユニット)、RPOBJ、およびRPSUB(補助科目)フィールドの値を使用します。
- RPOBJフィールドがブランクの場合は、関連するF0911レコードから経費勘定と収益勘定を検索します。
- F0911の支払レコードと入金レコードに基づいて、銀行勘定にすでに作成済の現金主義仕訳に、経費勘定と収益勘定の情報を追加します。
- 現金主義会計伝票の元帳日付として、入金または支払の元帳日付を使用します。

次の場合、支払金額と入金額は比例配分されます。

- 伝票の支払金額や請求書の入金額が全額に満たない場合
- 複数の伝票や請求書に対する支払や入金の場合
- 複数の経費勘定が指定された伝票や請求書に対する入金の場合

1つの伝票や請求書に現金主義仕訳が重複して作成されないように、F0414テーブルとF03B14テーブルのRNALT6フィールドとRZALT6フィールドが「P」に更新されます。

現金主義仕訳を転記前に削除すると、同じレコードに対して新しい現金主義仕訳は作成されないで、現金主義仕訳を再作成するにはAZ元帳に仕訳を手動で入力する必要があります。

次の表は、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理とJD Edwards EnterpriseOne売掛管理の現金主義仕訳プログラムの違いを説明したものです。

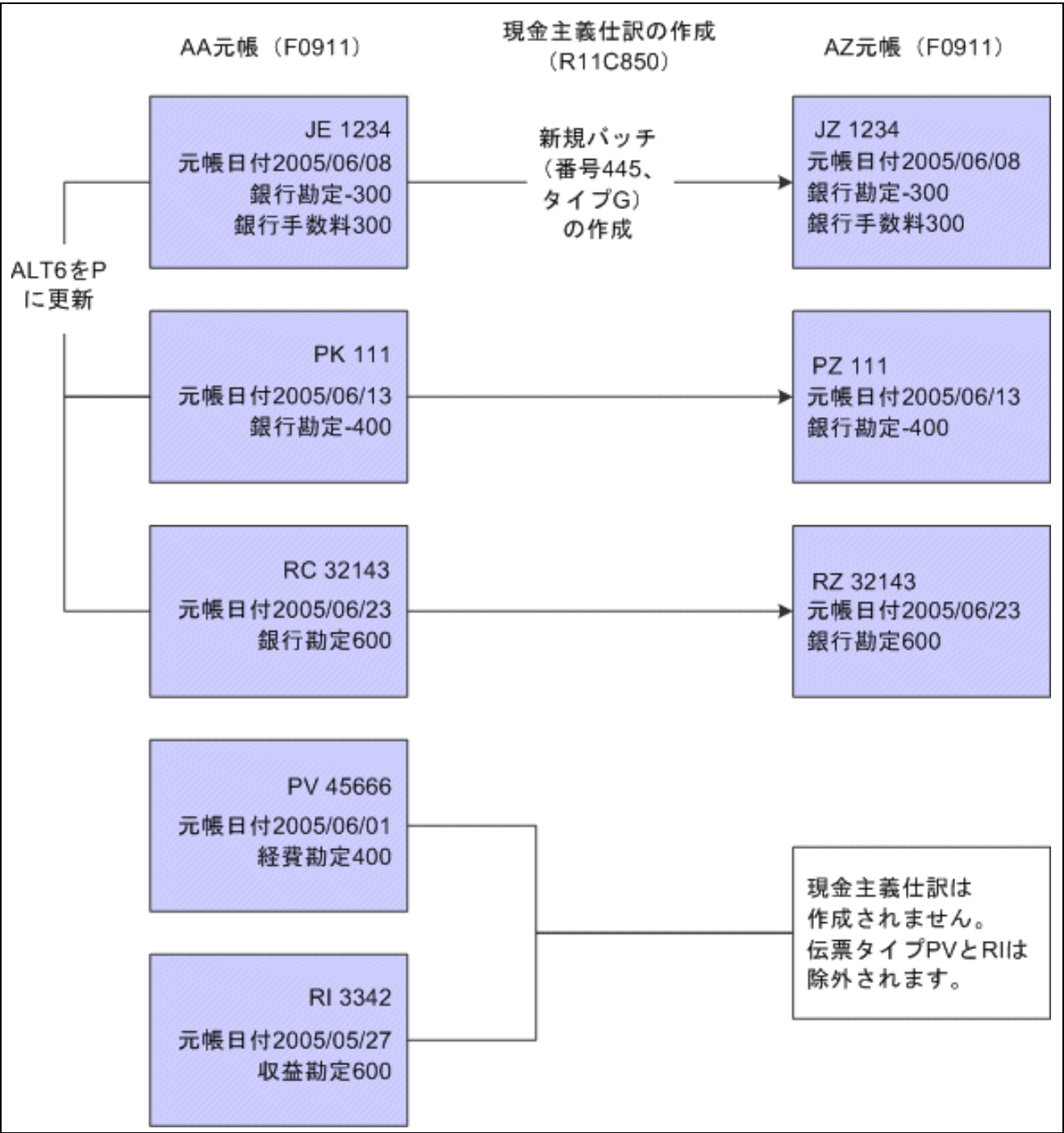
現金主義仕訳の作成 - 買掛管理	現金主義仕訳の作成 - 売掛管理
F0414テーブルを使用して、現金主義仕訳が未作成のすべての支払済伝票が検索されます。F0413テーブルの支払番号(DOCM)が、現金主義伝票番号として使用されます。	F03B14テーブルを使用して、現金主義仕訳が未作成のすべての入金済請求書が検索されます。総勘定元帳の伝票番号(DOCG)が、現金主義伝票番号として使用されます。
伝票番号によってF0411テーブルの伝票が検索され、その伝票のOBJ(主科目)フィールドとSUB(補助科目)フィールドの値が経費勘定に使用されます。	請求書番号によってF03B11テーブルの伝票が検索され、その伝票のOBJ(主科目)フィールドとSUB(補助科目)フィールドの値が収益勘定に使用されます。
OBJフィールドとSUBフィールドがブランクの場合、F0911のレコードから経費勘定が検索されます。	OBJフィールドとSUBフィールドがブランクの場合、F0911のレコードから収益勘定が検索されます。

現金主義仕訳の作成 - 買掛管理	現金主義仕訳の作成 - 売掛管理
伝票の経費勘定情報によって、F0911のレコードがバッチで更新されます。	請求書の収益勘定情報によって、F0911のレコードがバッチで更新されます。
F0414テーブルのRNALT6フィールドがPに更新されます。	F03B14テーブルのRZALT6フィールドがPに更新されます。

### 例: 現金主義仕訳の作成方法

次の図は、JD Edwards EnterpriseOne一般会計システム、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムおよびJD Edwards EnterpriseOne売掛管理システムでの現金主義仕訳の作成方法を示しています。





一般会計、買掛管理、売掛管理システムの現金主義仕訳

次の図は、前述の例に基づいて作成されたJD Edwards EnterpriseOne買掛管理とJD Edwards EnterpriseOne売掛管理の現金主義仕訳を示しています。

バッチ・タイプG、バッチ番号445	
PZ 111 元帳日付2005/06/13 (R11C850) 銀行勘定-400 (R11C854) 経費勘定400	RZ 32143 元帳日付2005/06/23 (R11C850) 銀行勘定600 (R11C853) 経費勘定-600

買掛管理システムと売掛管理システムの現金主義仕訳

## メニューからの現金主義会計プログラムの実行

この項では、メニューから現金主義会計プログラムを実行するタイミングとマルチスレッド・ジョブ待ち行列の概要、および次の方法について説明します。

- メニューからの現金主義仕訳の作成プログラムの実行
- 現金主義仕訳の作成の処理オプションの設定

### メニューから現金主義会計プログラムを実行するタイミングについて

現金主義会計を初めて使用する場合は、総勘定元帳への転記プログラムからではなく、メニューから現金主義仕訳の作成プログラムを実行する必要があります。入力済のすべての取引に対して現金主義会計処理を行う必要があるため、処理には時間がかかります。効率的に処理を行うには、業務のピーク時を避けてプログラムを実行することをお勧めします。

現金主義仕訳を定期的(週次、月次、四半期ごとなど)に作成する場合は、メニューから現金主義仕訳の作成プログラムを実行することにより、現金主義仕訳を作成するタイミングを制御できます。

### マルチスレッド・ジョブ待ち行列について

マルチスレッド・ジョブ待ち行列の設定がされている場合、現金主義仕訳の作成プログラムの複数のジョブを同時に実行できます。先に実行したジョブに続いて実行するジョブについては、先行と同じバージョンでも、異なるバージョンでもかまいません。複数のジョブを同時に実行することにより、大量のトランザクションを効率的に処理できます。

複数ジョブの実行時には、現金主義仕訳の作成プログラムによって各バッチのF0011テーブルの“現金主義状況”フィールド(CBP)がチェックされ、バッチの複数回処理が避けられます。そのため、各ジョブで固有のデータ選択を行う必要はありません。

バッチの状況は、次のいずれかになります。

- ブランク: 現金主義仕訳の作成プログラムによって、予約または処理されていません。このバッチはシステムによって選択され、状況フラグが1にセットされます。状況フラグが「1」になると、後続のジョブからは無視されます。
- 1: 現金主義仕訳の作成プログラムによって、予約または処理されています。このバッチはスキップされ、次のバッチが処理されます。

## メニューからの現金主義仕訳の作成プログラムの実行

「現金主義会計」(G09314)の「仕訳の作成」を選択します。

## 現金主義仕訳の作成プログラム(R11C850)の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、現金主義仕訳の作成に関する指定を行います。

### 「処理」タブ

この処理オプションでは、現金主義仕訳を転記するかどうかを指定します。

1. 総勘定元帳への転記      現金主義仕訳をF0911テーブルに転記するかどうかを指定します。

### 「デフォルト」タブ

この処理オプションでは、現金主義仕訳に仕訳と監査情報のどちらを使用するかを指定します。

1. AZ仕訳の摘要      AA元帳レコードの仕訳の摘要をAZ元帳の仕訳に使用するかどうかを指定します。ブランクにした場合、監査情報が使用されます。

### 「バージョン」タブ

この処理オプションでは、現金主義仕訳に使用する転記のバージョンを指定します。

1. 転記プログラム  
(R09801)のバージョン      現金主義仕訳を処理する総勘定元帳への転記プログラムのバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。

---

## 転記プログラムからの現金主義会計プログラムの実行

この項では、総勘定元帳への転記プログラムから現金主義会計プログラムを実行するタイミングの概要と、次の方法について説明します。

- 総勘定元帳への転記プログラムからの現金主義仕訳プログラムの実行
- 総勘定元帳への転記の処理オプションの設定

## 転記プログラムから現金主義会計プログラムを実行するタイミングについて

現金主義仕訳を作成した後、総勘定元帳への転記プログラムの処理オプションを有効にすることにより、現金の入金または支払が発生したときにAZ元帳に最新の情報を確実に反映させることができます。「現金主義」処理オプションを有効にするには、実行する現金主義仕訳の作成プログラムのバージョンを指定します。

次のタイプのバッチに対してのみ、総勘定元帳への転記プログラムの「現金主義」処理オプションでバージョンを指定できます。

- G: 総勘定元帳
- K: 自動支払
- M: 支払(伝票照合あり)

- W: 支払 (伝票照合なし)
- RB: 入金

## 総勘定元帳への転記プログラム (R09801) からの現金主義仕訳プログラムの実行

「仕訳入力、レポート、照会」(G0911)の「総勘定元帳への転記」を選択します。

## 総勘定元帳への転記 (R09801) の処理オプションの設定

この項では、総勘定元帳への転記プログラムの処理オプションのうち、現金主義会計に固有のものについて説明します。

### 「現金主義」タブ

- 数量元帳タイプ**

現金主義仕訳で使用する数量元帳タイプを指定します。元帳タイプ・マスターの設定プログラム (P0025) で設定された有効な元帳タイプを入力してください。この処理オプションをブランクにした場合、デフォルトの元帳タイプ ZU が使用されます。
- 現金主義仕訳の作成のバージョン**

実行する現金主義仕訳の作成プログラムのバージョンを指定します。ブランクにした場合、現金主義仕訳は作成されません。

## 例外レポートの検討

現金主義仕訳の作成時には、JD Edwards EnterpriseOne 一般会計システム、JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理システム、JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムについて、3つまでの例外レポートが作成可能です。現金主義仕訳が正しく作成された場合は、例外レポートの見出し以下に詳細情報は含まれません。エラーの例を次に示します。

該当するJD Edwards EnterpriseOneシステム	説明
一般会計、買掛管理、売掛管理	現金主義伝票タイプが未定義です。メッセージがレポートに表示されますが、現金主義仕訳は作成されます。
買掛管理のみ	次のエラーの場合、現金主義仕訳は作成されません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 当初の伝票レコードが見つかりません。</li> <li>• 伝票の勘定科目レコードが見つかりません。</li> </ul>
売掛管理のみ	次のエラーの場合、現金主義仕訳は作成されません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 当初の請求書レコードが見つかりません。</li> <li>• 請求書の勘定科目レコードが見つかりません。</li> </ul>

買掛管理や売掛管理のエラーが発生した場合、現金主義会計転記コードは更新されず、“書き込みレコードはありません”というメッセージがレポートに表示されます。エラーを訂正しないと、以降の例外レポートにも引き続きエラーが表示されます。

ほとんどの場合、エラーが発生すると現金主義仕訳の収益勘定や経費勘定が作成されなくなりますが、銀行勘定の仕訳は作成されます。銀行勘定に仕訳が作成され、経費勘定や収益勘定には仕訳が作成されていない場合は、取引とバッチは貸借不一致になります。エラーを訂正して現金主義仕訳を再度作成すると、経費勘定や収益勘定の次のバッチは、金額が同じで符号が反転した貸借不一致仕訳になります。2つのバッチを組み合わせると貸借が一致しますが、この2つのバッチは個別に貸借不一致で転記する必要があります。

---

## 現金主義仕訳の検討

この項では、未転記レポートの印刷による現金主義仕訳の検討方法について説明します。

### 未転記レポートのデータ選択の設定

現金主義バッチのみをレポートに印刷するには、データ選択で元帳タイプをAZに設定します。

### 未転記レポートの印刷

「現金主義会計」(G09314)の「未転記レポート」を選択します。

現金主義仕訳の作成プログラムの実行時に現金主義仕訳を自動的に転記していない場合には、このレポートを印刷して現金主義バッチの検討、改訂、承認を行ってから仕訳を転記できます。

---

## 現金主義仕訳の転記

現金主義仕訳を作成したら、F0902テーブルに転記する必要があります。現金主義仕訳の転記には、次のいずれかの方法を使用できます。

- 現金主義仕訳の作成プログラムの処理オプションを設定せずに、別のプロセスとして現金主義仕訳を転記します。

転記前に現金主義のバッチを検討する場合は、総勘定元帳への転記プログラムを実行し、最後のステップで現金主義バッチを転記する必要があります。現金主義バッチの転記は、通常の総勘定元帳バッチを転記する処理とまったく同じです。

- 現金主義仕訳の作成プログラムの処理オプションを設定して、自動的に現金主義仕訳を転記します。

現金主義仕訳の作成をメニューと転記プログラムのどちらから実行したかにかかわらず、現金主義仕訳の作成プログラムの「総勘定元帳への転記」処理オプションを設定する必要があります。この設定は、現金主義仕訳の作成後に総勘定元帳への転記プログラムを自動的に実行させるために必要です。また、転記プログラムのバージョンも処理オプションで指定します。

---

**注意:** 作成された現金主義仕訳が貸借不一致(片側仕訳)の場合は、貸借不一致のままで転記する必要があります。

---



## 第 29 章

# 52 期間会計の使い方

52 期間会計を使用して、腐敗しやすい品目を週次の会計期間で追跡管理できます。たとえば、食料品店では、一般的に1年を52期間として週次の財務報告書が作成されます。1年に52の会計期間と、調整用の2期間を設定できます。

この章では、次の方法について説明します。

- 52 期間会計仕訳の転記
- 52 期間の年度締め
- 52 期間損益計算書の作成

---

## 52 期間会計仕訳の転記

この項では、52 期間会計転記プログラムの概要と、次の方法について説明します。

- 52 期間会計転記プログラムの実行
- 52 期間会計転記の処理オプションの設定

## 52 期間会計転記プログラムについて

52 期間会計転記プログラム (R098011) は、F0911 テーブルから取引を選択して、F0902B テーブルにレコードを作成します。総勘定元帳への転記プログラム (R09801) から、52 期間会計転記プログラムを実行できます。その際には、処理オプションの設定により、実行するバージョンを指定できます。

### マルチスレッド・ジョブ待ち行列

マルチスレッド・ジョブ待ち行列の設定がされている場合、52 期間会計転記プログラムの複数のジョブを同時に実行できます。先に実行したジョブに続いて実行するジョブについては、先行と同じバージョンでも、異なるバージョンでもかまいません。複数のジョブを同時に実行することにより、大量のトランザクションを効率的に処理できます。

複数ジョブの実行時、52 期間会計転記プログラムは各バッチの F0011 テーブルの "52 期間処理済" フィールド (52PP) をチェックして、バッチが複数回処理されないようにします。そのため、各ジョブで固有のデータ選択を行う必要はありません。

バッチの状況は、次のいずれかになります。

- ブランク: 52 期間会計転記プログラムによって、予約または処理されていません。このバッチはシステムによって選択され、状況フラグが 1 にセットされます。状況フラグが「1」になると、後続のジョブからは無視されます。
- 1: 52 期間会計転記プログラムによって、予約または処理されています。このバッチはスキップされ、次のバッチが処理されます。

## 52期間会計転記プログラムの実行

「仕訳入力、レポート、照会」(G0911)の「総勘定元帳への転記」を選択します。

52期間会計転記プログラムの1つのバージョンを実行するには、総勘定元帳への転記プログラムを実行します。

## 52期間会計転記(R098011)の処理オプションの設定

「バージョン」処理オプションで、52期間会計転記プログラムのバージョンを入力します。

### 「バージョン」タブ

この処理オプションでは、実行するバージョンを指定します。バージョンを指定すると、転記プログラムの終了後にそのプログラムが実行されます。

**52期間転記のバージョン** F0902、F0902Bテーブルの更新に使用する52期間会計転記プログラムのバージョンを指定します。この処理オプションをblankにした場合、52期間会計転記プログラムは実行されず、テーブルも更新されません。

---

## 52期間の年度締め

この項では、52期間用年度締めプログラムの概要と次の方法について説明します。

- 52期間用年度締めプログラムの実行
- 52期間用年度締めのデータ選択の設定

## 52期間用年度締めプログラムについて

各会計年度末に年度締めプログラム(R098201)を実行した後、52期間用年度締めプログラム(R09820B)を実行します。52期間用年度締めプログラムは、F0902テーブルの残高でF0902Bテーブルを更新します。このプログラムによって、次の金額が更新されます。

- 前年度計上額
- 前年度末累計残高
- 期首予算
- 予測差異
- 完了率
- 最終予測
- 申請済予算
- 承認済予算
- 週累計

## 事前設定

年度締めプログラムを実行して、F0902テーブルを更新します。



参照: 第 41 章、「会計年度の締め処理」、465ページ

## 52期間用年度締めプログラムの実行

「52期間会計」(G09313)の「52期間用年度締め」を選択します。

## 52期間用年度締め(R09820B)のデータ選択の設定

会計年度を、締めを行う年度ではなく、次の年度に設定します。たとえば、現行会計年度が05(2005年度)で、締めを行う会計年度が04(2004年度)の場合、データ選択で会計年度を「05」に設定します。

52期間用年度締めプログラムと52期間用再転記プログラム(R0902B)の選択基準が同じである場合、2つのプログラムの実行結果はほとんど同じです。ただし、52期間用再転記プログラムではF0911テーブルの54の金額カテゴリも更新される点だけが異なります。

---

## 52期間損益計算書の作成

この項では、次の方法について説明します。

- 52期間損益計算書のデータ選択とデータ順序の設定
- 52期間損益計算書の処理オプションの設定
- 52期間損益計算書の作成

### 事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- AAI項目「FSxx」が設定済であることを確認します。これらの項目により、損益計算書で最適の中間計が計算されます。
- 52期間財務報告日付が正しく設定されていることを確認します。

## 52期間損益計算書のデータ選択とデータ順序の設定

データ選択で、レポートに記載する主科目を選択します。たとえば、損益勘定が主科目5000から始まる場合は、“主科目 >= 5000”を選択します。また、元帳タイプも指定する必要があります。元帳タイプを指定しない場合はすべての元帳タイプが結合され、その結果、期待されていた結果が得られない可能性があります。

52期間損益計算書は、次の順序で印刷されます。

- 会社
- ビジネスユニット・レポート・コード
- 勘定科目マスター・レポート・コード
- ビジネスユニット
- 主科目
- 補助科目

52期間損益計算書のデータ選択とデータ順序は、12から14期間会計の損益計算書の場合と同じです。

参照: 第 35 章、「財務レポートの作成」、「損益計算書のデータ選択の設定」、398ページ

## 52期間損益計算書(R10252)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。会社固有の52期間報告日付を指定するには、プログラムのデータ順序を会社順またはビジネスユニット順に設定する必要があります。

<b>期間</b>	レポートの基準となる期間数を入力します。空白にした場合、52期間財務報告期間が使用されます。
<b>会計年度</b>	レポートの基準となる会計年度を入力します。空白にした場合、52期間財務報告期間が使用されます。
<b>勘定詳細レベル</b>	詳細処理レベルのオプションが選択されている場合は、勘定詳細レベルを入力します。

## 52期間損益計算書の作成

「52期間会計」(G09313)の「52期間損益計算書」を選択します。

52期間損益計算書プログラム(R10252)を実行して損益計算書を印刷し、現行会計期間と年累計の金額を、前年度の同じ期間と比較します。

## 第 30 章

# 勘定科目の連結について

この章では、勘定科目連結の概要と方法について説明します。

---

## 勘定科目の連結

複数の残高の通貨が同じであり、すべての会社が同じ会計期間パターンを使用している場合、勘定科目の連結プログラムを使用してビジネスユニットの勘定残高をグループ化（連結）し、オンライン検討やレポート作成を行うことができます。

JD Edwards EnterpriseOne 一般会計システムでは、勘定科目を連結する次の方法が用意されています。

- オンライン連結
- バッチ連結
- 複数サイト連結

どの方法を選択するかは、ディスクの空き容量によって異なります。どの方法も、AAI項目 GLG6（収益の開始勘定）と GLG12（損益計算書の終了勘定）を使用して、貸借対照表勘定と損益計算書勘定を区別します。累計残高を計算する場合は、前年度末累計残高に損益計算書勘定科目以外の勘定科目の年累計額を加算します。

## オンライン連結方法

オンライン連結を使用すると、特定の会社のビジネスユニット・グループの予算金額と実績金額を比較したり、様々な予算元帳や数量元帳などを比較したりできます。

オンライン連結では、ビジネスユニットを連結して、次の項目別に勘定残高を検討できます。

- カテゴリ・コード（事業所、オフィス、地域など）
- 会社、カテゴリ・コード、カテゴリ・コード値  
たとえば、部署、製品タイプ、地域別に経費タイプを検討できます。
- 親/子ビジネスユニット内の組織レポート構造

ビジネスユニットをグループ化することにより、連結した試算表、貸借対照表、損益計算書を作成できます。

オンライン連結方法の長所

- 小数の会社やビジネスユニットを連結できます。
- 最新の連結情報がリアルタイムで表示されます。
- 将来の連結用に連結基準を保管できます。

- 元帳比較の計算方法を制御できます。たとえば、実績金額から予算金額を差し引いて予算差異を計算したり、予算金額を実績金額で割って予算実績比率を表示できます。使用できる計算オプションは4つあります。
- 元帳にアクセスして、ビジネスユニットの詳細情報を勘定科目レベルまで検討できます。
- 新規に作成されるレコード数が少ないため、バッチ方法より少ないディスク容量で実行できます。そのかわりに、既存の勘定残高レコードが使用されます。
- 複数のビジネスユニット・カテゴリ・コードを基準に残高を連結できます。
- 組織レポート構造に作成した親子関係を使用できます。

#### オンライン連結方法の短所

- 用意されているのは検討機能のみです。ただし、分析のために情報をスプレッドシートにエクスポートすることは可能です。
- ビジネスユニット数が増えると処理時間が長くなります。

## バッチ連結方法

バッチ連結を使用して、オンライン検討や財務報告用に残高を連結します。バッチ連結では、連結のみを目的に作成した架空会社を使用します。たとえば、架空会社を使用して自社の各地域、各部門の実績残高を連結できます。

#### バッチ連結方法の長所

- 多数の残高、会社、ビジネスユニットを連結できます。
- 結果を財務報告に使用できます。
- バッチ・モードで夜間に連結処理を行うことができます。

この処理は、多数のビジネスユニットまたは勘定科目（あるいはその両方）を連結する場合に役立ちます。

#### バッチ連結方法の短所

- 複数のプログラムがテーブルにレコードを追加して連結情報を含む新しいデータベースを作成するため、必要なディスク容量が多くなります。
- バッチ・モードのため、リアルタイムのアクセスができません。
- 新しい勘定残高情報を使用して連結を更新するには、前の連結を削除してから再作成する必要があります。
- 1連結当たり1つのカテゴリ・コードに制限されます。

### 例: バッチ連結

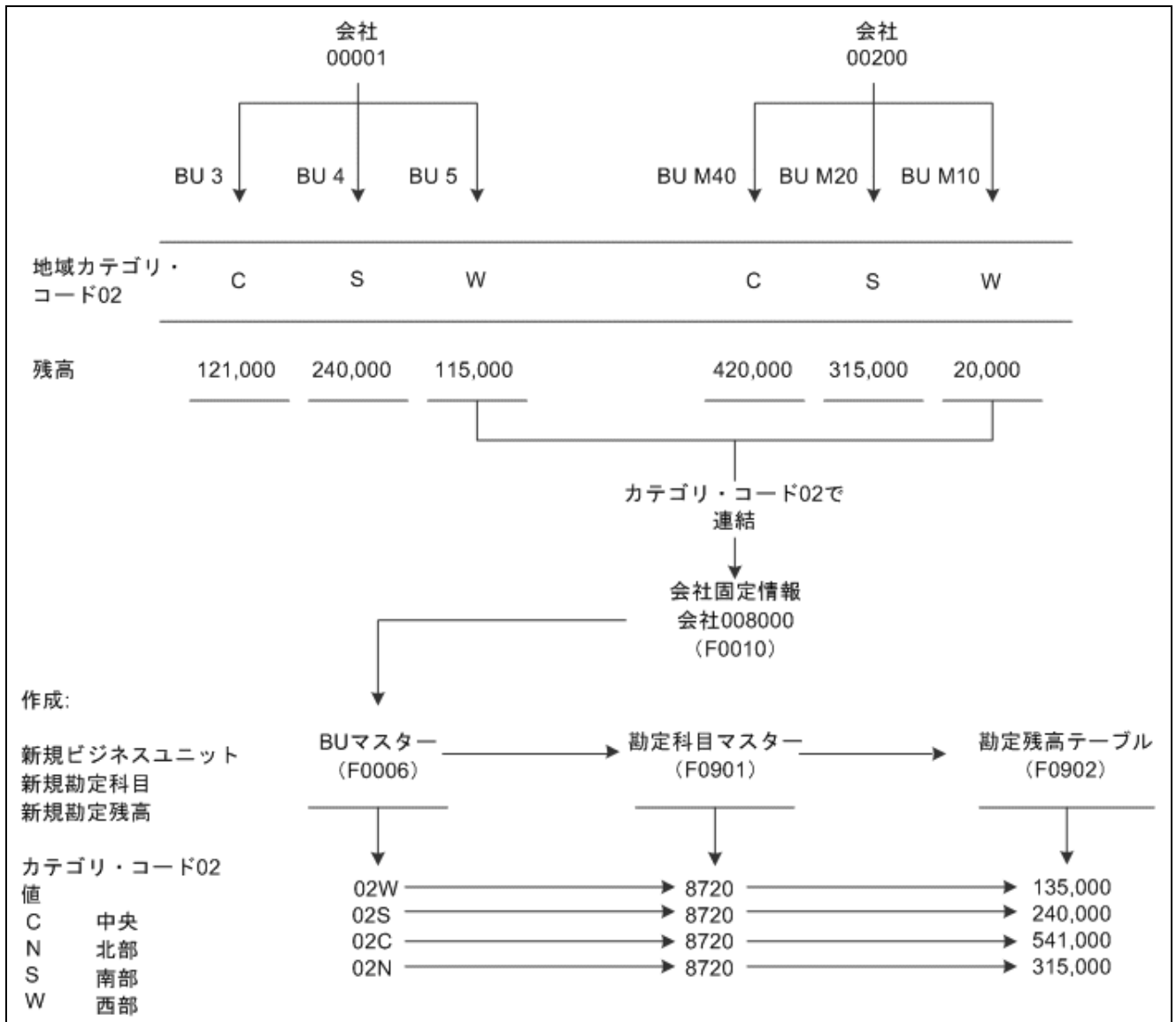
この例では、次のビジネスユニットがWest Regionにグループ化されます。

- ビジネスユニット5（会社00001に関連）
- ビジネスユニットM10（会社00200に関連）

バッチ連結の際に、この2つのビジネスユニットは02Wという架空ビジネスユニットとして連結されます。02Wの意味は次のとおりです。

- 02 = カテゴリ・コード02
- W = West Regionのカテゴリ・コード値

次の図は、ビジネスユニット・カテゴリ・コード02を使用して地域別にデータを連結するバッチ連結を示しています。



## 複数サイト連結方法

子会社や支店を持つ組織の多くが、複数のロケーションでJD Edwards EnterpriseOneシステムを稼働しています。これらの組織のほとんどで、法定レポートや管理レポートを作成するため、本社レベルでの総勘定元帳情報の連結が行われます。多くの場合、子会社や支店の情報が連結された会社の勘定科目表で、勘定科目範囲が指定されます。子会社や支店ごとに、異なる勘定科目表が使用される場合もあります。

複数サイト連結を使用すると、複数のロケーションにある勘定残高を連結して、中央のロケーションに送信できます。中央では、作成された仕訳をバッチ仕訳処理を使用して総勘定元帳に転記します。EnterpriseOneを使用していないサイトの連結残高を処理することもできます。

JD Edwards EnterpriseOneのすべての標準プログラムから、中央サイトで連結された情報にアクセスできます。



## 第 31 章

# オンライン連結の処理

この章では、組織レポート構造の概要と、次の方法について説明します。

- 階層型組織レポート構造の作成
- カテゴリ・コードを使用しない組織レポート構造の追加
- 組織レポート構造の確認と再編成
- ビジネスユニットの追加作成とレポート構造のコピー
- オンライン連結の作成
- オンライン連結の検討

**関連項目:**

第 30 章、「勘定科目の連結について」、「オンライン連結方法」、313ページ

---

## 組織レポート構造について

組織レポート構造とは、レポート作成の目的でビジネスユニットをグループ化する方法です。組織レポート構造により、オンライン連結やレポート機能の柔軟性が増し、集計から詳細まで様々な損益計算書情報を表示できます。また、小計や積上げ合計など多様な合計情報の出力が容易になります。

### 階層型組織レポート構造

各ビジネスユニットに対しても会社全体に対しても、階層構造を作成できます。各構造には、親、子、孫関係の複数のレベルを設定できます。

レポートの目的に応じて、財務諸表や地域別または管轄別のレポートに定義した構造に基づいた親/子階層を設定できます。必要に応じて、親/子階層を簡単にも複雑にもできます。

組織レポート構造を作成するには、ビジネスユニットに親子関係を作成します。親として設定したビジネスユニットには、1つの完全な勘定科目表を関連付ける必要があります。親ビジネスユニットを転記ビジネスユニットにする必要はありません。

組織レポート構造を使用すると、次のことが行えます。

- 複数の親/子レベルを持つようにビジネスユニットを設定できます。  
ビジネスユニットは親および子のどちらにも設定でき、各ビジネスユニットに複数の子を持たせることができます。ただし、ビジネスユニットAを親、Bを子に設定している場合、BをAの親に設定することはできません。
- 親/子構造はいつでも追加したり変更したりすることができます。  
たとえば、既存の親/子構造に別の子を新たに追加できます。

## カテゴリ・コードを使用しない組織レポート構造

別の方法として、組織レポート構造を構成するビジネスユニットを直接選択することで、組織レポート構造を作成できます。この方式では、ビジネスユニットの親子関係の作成に、カテゴリ・コードは使用されません。

---

## 事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 使用する組織レポート構造を決定します。
- UDCテーブル00/TSに構造コードを設定します。
- 各構造レベルに関連付けるビジネスユニットを決定します。
- 作成する各組織レポート構造に対し、架空の連結会社を作成し、カテゴリ・コードに使用する階層を決定します。

---

## 階層型組織レポート構造の作成

この項では、組織レポート構造の定義方法と作成方法の概要、および次の方法について説明します。

- 組織レポート構造の定義
- 組織レポート構造の作成
- ビジネスユニット構造の作成の処理オプションの設定

## 組織レポート構造の定義方法と作成方法について

組織レポート構造を定義するには、組織構造の定義プログラム (P0050B) を使用してカテゴリ・コードをビジネスユニットに割り当てます。割り当てたカテゴリ・コードの値により、ビジネスユニットの階層内での位置が決まります。このプログラムではビジネスユニット構造作成テーブル (F0050B) が更新されます。

組織レポート構造を定義したら、組織構造の作成プログラム (R10450) を実行してレポート構造を作成します。

組織構造の作成プログラムは、テスト・モードでも最終モードでも実行できます。テスト・モードでは、最終モードで実行した場合に変更される箇所を示したレポートが印刷されます。テスト・モードでは、自動的に作成されたビジネスユニットが、ビジネスユニット作成処理オプションの設定とは関係なく、カテゴリ・コードを結合したものとしてレポートに表示されます。

最終モードでは、ビジネスユニット作成処理オプションの設定に応じて、自動採番を使用するか、またはカテゴリ・コードを結合してビジネスユニットが自動的に作成されます。最終モードでは、組織構造マスター・ファイル・テーブル (F0050) が更新されます。



## 階層型組織レポート構造の作成に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
構造の処理	W0050BB	「その他の組織設定」(G094111)、「組織構造の定義」	組織レポート構造を検索します。
構造の設定	W0050BA	「構造の処理」で、「追加」をクリックします。	階層型組織レポート構造を定義します。

### 組織レポート構造の定義

「構造の設定」フォームにアクセスします。

#### 構造タイプ

財務や管轄など、組織構造のタイプを識別するコードをユーザー定義コード・テーブル00/TSから選んで入力します。組織構造のタイプごとに、個別の階層を作成できます。

#### 順序

子ビジネスユニットが親ビジネスユニットの下に表示されるときに順序を入力します。

組織構造を設定する際、このフィールドを空白にすると、順序番号が自動的に割り当てられます。

### 組織レポート構造の作成

「その他の組織設定」(G094111)の「組織構造の作成」を選択します。

### ビジネスユニット構造の作成(R10450)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

#### モード

##### 1. モード

連結を処理するモードを指定します。

0: テスト・モード(レポート)

1: 最終モード(更新およびレポート)

2: 最終モード(更新のみ)

#### 構造名

##### 1. 構造名

ビジネスユニットの構造タイプ名を入力します。

#### BU作成

##### 1. ビジネスユニット作成

ビジネスユニットを自動的に作成するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: ビジネスユニットを自動的に作成しない。

1: 新しいビジネスユニットを決定するために、カテゴリ・コードの値を結合してビジネスユニットを自動的に作成する。

2: 新しいビジネスユニットを決定するために、自動採番を使用してビジネスユニットを自動的に作成する。

2. **ビジネスユニット・タイプ**      ビジネスユニットを作成する際に使用するビジネスユニットのタイプを入力します。
3. **架空の連結会社**              ビジネスユニットを作成する際に使用する架空の連結会社を入力します。

## カテゴリ・コードを使用しない組織レポート構造の追加

この項では、カテゴリ・コードを使用しない組織レポート構造の概要とその追加方法について説明します。

### カテゴリ・コードを使用しない組織レポート構造について

組織レポート構造を追加するには、構造タイプを選択し、次に、構造上に表示するビジネスユニットを選択します。構造に表示するビジネスユニットを選択すると、変更可能な表示順序が割り当てられます。この方式では、順序設定にカテゴリ・コードは使用されません。そのため、組織構造の作成プログラムを実行して構造を作成する必要はありません。

組織構造の照会/改訂プログラムでは、F0050テーブルが更新されます。

### カテゴリ・コードを使用しない組織レポート構造の追加に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
親/子表示	W0050C	「その他の組織設定」(G094111)、「組織構造の照会/改訂」	組織レポート構造の確認と再編成を行います。
見出しなし詳細	W0050B	「親/子表示」で、「追加」をクリックします。	ビジネスユニットを選択して、組織レポート構造を追加します。

### カテゴリ・コードを使用しない組織レポート構造の追加

「見出しなし詳細」フォームにアクセスします。

- 表示順序**                      子ビジネスユニットが親ビジネスユニットの下に表示されるときに順序を入力します。
- 組織構造を設定する際、このフィールドを空白にすると、順序番号が自動的に割り当てられます。

## 組織レポート構造の確認と再編成

この項では、組織レポート構造の改訂の概要、および組織レポート構造の確認方法と再編成方法について説明します。

## 組織レポート構造の改訂について

組織構造の照会/改訂プログラムを使用して構造を確認する際には、各レベルで展開または圧縮表示できるツリー形式で組織構造が表示されます。フォルダ・アイコンやドキュメント・アイコンは、構造のレベルを示します。フォルダには、フォルダまたはドキュメントを入れることができます。構造の中で最も下位レベルにあるのはドキュメントです。

構造の一部を階層内の別の場所に移動して、組織構造を変更できます。ドキュメントのアイコンを別の親の下にドラッグして、個別にビジネスユニットを移動することもできます。また、構造の上位レベルについても、親ビジネスユニットとその子を表すフォルダをドラッグして移動できます。

構造の一部を移動すると、F0050テーブルが自動的に更新されます。

## 組織レポート構造の確認と再編成に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
親/子表示	W0050C	「その他の組織設定」(G094111)、「組織構造の照会/改訂」	組織レポート構造の確認と再編成を行います。

## 組織レポート構造の確認と再編成

「親/子表示」フォームにアクセスします。

## ビジネスユニットの追加作成とレポート構造のコピー

組織構造を確認すると、ビジネスユニットを追加したり組織レポート構造をコピーする必要がある場合があります。組織構造の照会/改訂プログラム(P0050)を使用して、これらの作業を行い、F0050テーブルを更新します。

この項では、次の方法について説明します。

- 組織構造の照会/改訂の処理オプションの設定
- 子ビジネスユニットの追加作成
- レポート構造のコピー

## ビジネスユニットの追加作成とレポート構造のコピーに使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
親/子表示	W0050C	「その他の組織設定」(G094111)、「組織構造の照会/改訂」	組織レポート構造の確認と再編成を行います。
見出しなし詳細	W0050B	「親/子表示」フォームで、子ビジネスユニットを追加するビジネスユニットを選択します。	ビジネスユニットを追加作成します。
組織構造のコピー	W0050F	「親/子表示」フォームで、コピーするビジネスユニットを選択して「コピー」をクリックします。	既存の組織レポート構造全体または一部を新しい組織レポート構造にコピーします。

## 組織構造の照会/改訂(P0050)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムのデフォルト処理を指定できます。

### 構造タイプ

1. 初期選択値 この処理オプションに値を入力すると、「見出しなし詳細」フォームの該当するフィールドにその値が事前ロードされます。

### 管理者名

1. 管理者名を表示する 組織構造ツリーに管理者の名前を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
0: 管理者名を表示しない。  
1: 管理者名を表示する。

## 子ビジネスユニットの追加作成

「見出しなし詳細」フォームにアクセスします。

組織構造の照会/改訂 - 見出しなし詳細

OK(O) 検索(I) 取消(L) ツール(T)

構造タイプ \*

親ビジネスユニット

☐ 親

レコード 1 - 8

グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 子 ビジネスユニット	記述	表示 順序
<input type="checkbox"/>		2 Other General & Administrative	1.0
<input type="checkbox"/>		3 Central Branch	2.0
<input type="checkbox"/>		4 Southern Branch	3.0
<input type="checkbox"/>		5 Western Branch	4.0
<input type="checkbox"/>		9 Corporate Administration	5.0
<input type="checkbox"/>		1 Financial/Distribution Company	6.0
<input type="checkbox"/>		10 Western Distribution Center	7.0
<input type="checkbox"/>			

「見出しなし詳細」フォーム

子ビジネスユニットを追加すると、親と子のビジネスユニットが同じではないか自動的にチェックされ、さらに子ビジネスユニットが親になっていないか確認されます。

親

子を追加するビジネスユニットの親を確認するには、このチェックボックスを選択します。親ビジネスユニットが詳細グリッドに表示されます。「親」チェックボックスの選択を再度解除すると、表示が元に戻って処理を続行できます。

子ビジネスユニット

子のビジネスユニットを入力します。

表示順序

子ビジネスユニットが親ビジネスユニットの下に表示されるときに順序を示す番号を入力します。

組織構造を設定する際、このフィールドをblankにすると、順序番号が自動的に割り当てられます。

組織レポート構造のコピー

「組織構造のコピー」フォームにアクセスします。

組織構造の照会/改訂 - 組織構造のコピー

OK(O) 取消(L) ツール(T)



コピー先構造タイプ

コピー元構造タイプ

FIN

☒ 構造全体をコピー

☐ 選択したツリーのみコピー

「組織構造のコピー」フォーム

コピーする組織レポート構造が、ユーザー定義コード・テーブル00/TSには存在しているがF0050テーブルには存在していないことを確認します。

- コピー先構造タイプ

ユーザー定義コード・テーブル00/TSに設定されている組織構造のタイプ（財務や管轄など）を識別するコードを指定します。組織構造のタイプごとに、個別の階層を作成できます。
- 構造全体をコピー、選択したツリーのみコピー

組織レポート構造全体をコピーするか、または構造の一部のみをコピーするかを指定します。

「構造全体をコピー」を選択すると、「親/子表示」フォームで選択したレベルに関係なく、コピーする構造タイプのすべてのレベルがコピー先構造タイプへコピーされます。

「選択したツリーのみコピー」を選択すると、コピーする構造タイプの選択された親ビジネスユニットとその子のみがコピー先構造タイプへコピーされます。

## オンライン連結の作成

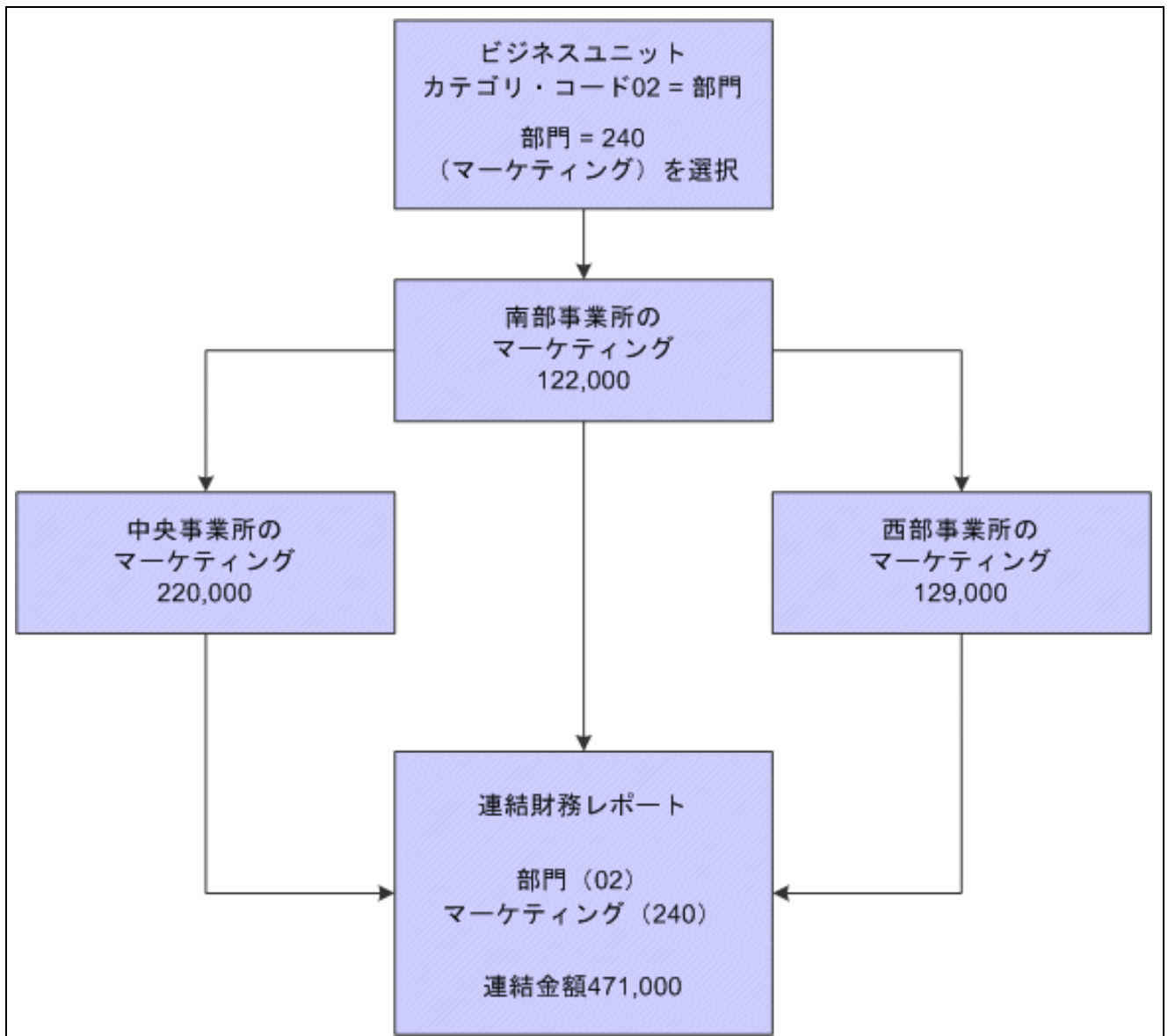
この項では、オンライン連結の作成の概要と、ビジネスユニットの連結方法について説明します。

### オンライン連結の作成について

組織レポート構造を作成すると、オンライン連結を作成できます。オンライン連結は、組織レポート構造（親ビジネスユニット方式）を基に作成する方法以外に、カテゴリ・コード方式を使用しても作成できます。カテゴリ・コード方式では、会社、カテゴリ・コード、および値別にビジネスユニットを連結できます。ただし、この方法では構造に対して4つのカテゴリ・コードしか使用できません。

#### 例: カテゴリ・コード別のビジネスユニット連結

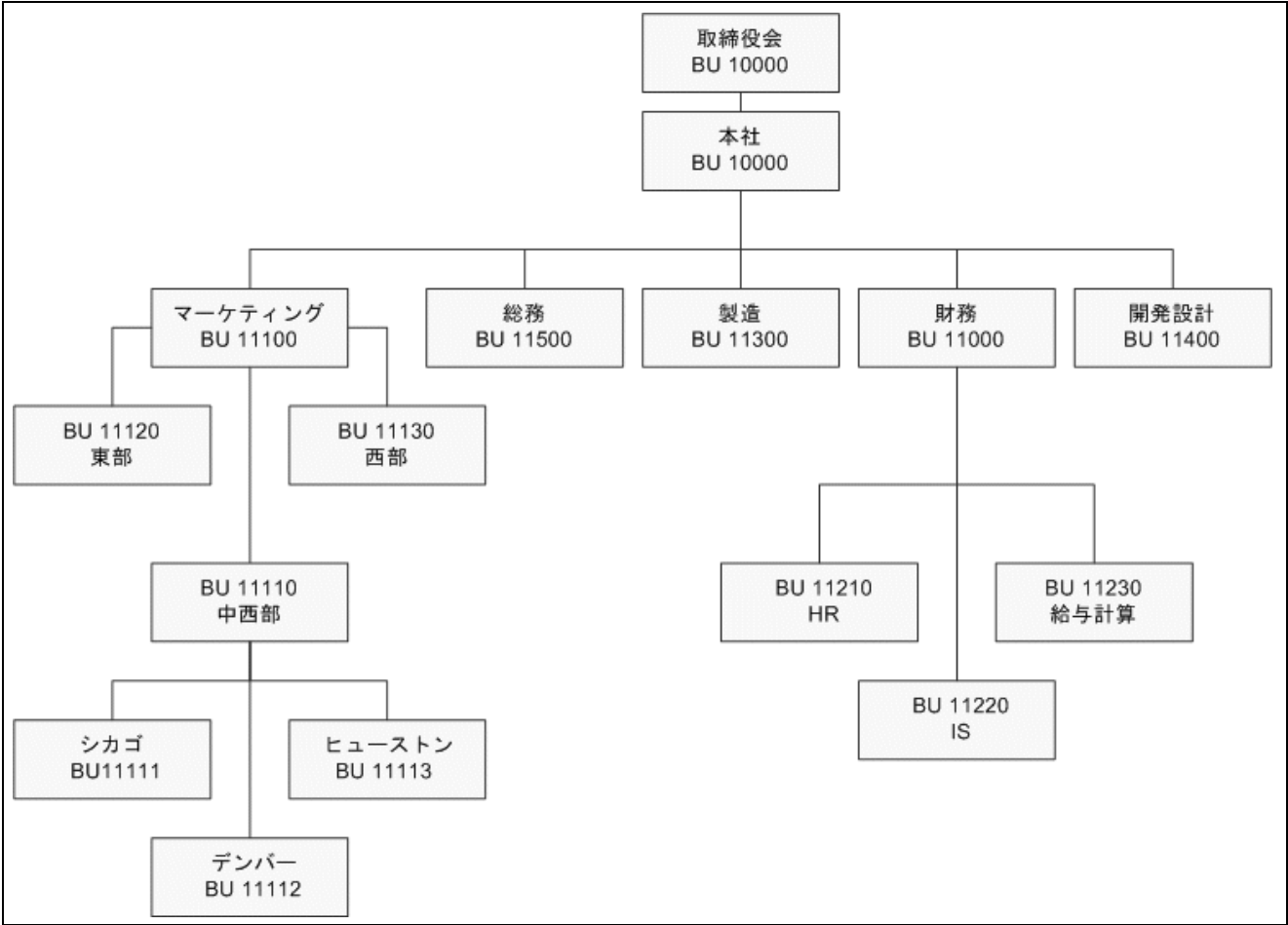
次の図に、カテゴリ・コード別のビジネスユニットの連結方法を示します。



カテゴリ・コード別の連結

### 例: 組織レポート構造別のビジネスユニット連結

次の図に、組織レポート構造別のビジネスユニットの連結方法を示します。



レポート構造別の連結

オンライン連結の作成に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
オンライン連結の処理	W09218D	「連結」(G1011)、「オンライン連結」	オンライン連結を検索および確認します。
オンライン連結の検討	W09218B	「オンライン連結の処理」フォームで、「追加」をクリックします。	オンライン連結を作成します。

ビジネスユニットの連結

「オンライン連結の検討」フォームにアクセスします。



オンライン連結 - オンライン連結の検討

選択(S) 検索(I) 開じる(L) フォーム(F) ツール(T)

☒ 連結  
☐ 記述  
☐ 会社

AREA  
 Area Rollup  
 \*

☐ カテゴリ・コード方式  
☒ 親ビジネスユニット方式  
☐ マスク済みビジネスユニット方式

構造タイプ  
 親ビジネスユニット

組織

レコード 1 - 14

グリッドのカスタマイズ

レベル	ビジネス ユニット	記述	管理者	順序 No.
<input checked="" type="radio"/>		1 Financial/Distribution Company	Capital Company	
<input type="radio"/>	1	3 Central Branch		2.0
<input type="radio"/>	.2	20 Northern Distribution Center	Northern Distribution C...	1.0
<input type="radio"/>	.2	30 Eastern Distribution Center	Eastern Distribution C...	3.0
<input type="radio"/>	.2	63 Coastal Branch		5.0
<input type="radio"/>	.2	61 Mountain Branch		12.0
<input type="radio"/>	.2	62 Valley Branch		13.0
<input type="radio"/>	1	77 Canadian Company		6.0
<input type="radio"/>	1	4 Southern Branch		7.0
<input type="radio"/>	.2	40 Southern Distribution Center	Southern Distribution ...	4.0
<input type="radio"/>	1	5 Western Branch		8.0
<input type="radio"/>	.2	10 Western Distribution Center	Western Distribution C...	11.0
<input type="radio"/>	1	2 Other General & Administrative		9.0

「オンライン連結の検討」フォーム

**連結**

連結ビジネスユニットに対応する名前を入力します(最大10文字)。

組織レポート構造別にビジネスユニットを連結するには、「構造タイプ」フィールドと「親ビジネスユニット」フィールドに値を入力します。

**会社、カテゴリ・コード**

(任意)これらのフィールドに会社とカテゴリ・コード(01から30)を入力して、会社別およびカテゴリ・コード別にビジネスユニットを連結します。

**構造タイプ、親ビジネスユニット**

ユーザー定義コード・テーブル00/TSに設定されている構造タイプと、階層の一番上のビジネスユニットを入力して、組織レポート構造別にビジネスユニットを連結します。

**カテゴリ・コード方式、親ビジネスユニット方式、マスク済みビジネスユニット方式**

次のオプションの中から1つを選択します。

カテゴリ・コード方式: ビジネスユニットのカテゴリ・コードに基づいて連結を行います。

親ビジネスユニット方式: 組織構造タイプと親ビジネスユニットに基づいて連結を行います。

マスク済みビジネスユニット方式: 文字位置の値が一致するビジネスユニットに基づいて連結を行います。

## メニュー選択

連結に関する指定が終わったら、「フォーム」メニューから次のメニュー項目を選んで処理を行うことができます。

保存	設定した連結基準を保存します。この情報は、オンライン連結セットアップ・テーブル (F09218) に格納されます。
ビジネスユニットのリフレッシュ	勘定残高を処理します。この処理に要する時間は、連結対象のビジネスユニットおよび関連する勘定科目の数によって変わります。この情報は、F09218 テーブルに格納されます。
オンライン財務諸表	連結財務諸表を作成します。  参照: <a href="#">第 31 章、「オンライン連結の処理」、「オンライン連結の検討」、328 ページ</a>

## オンライン連結の検討

連結を作成したら、連結基準を再作成しなくても連結情報をオンラインで検討できます。作成した連結を使用して、試算表、貸借対照表、または損益計算書の連結情報を検討できます。

この項では、次の方法について説明します。

- オンライン連結の処理オプションの設定
- オンライン連結財務諸表の検討

## オンライン連結の検討に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
オンライン連結の処理	W09218D	「連結」(G1011)、「オンライン連結」	オンライン連結を検索します。
オンライン連結財務諸表	W09218J	「オンライン連結の処理」フォームで、検討する連結を選択して、「ロー」メニューの「オンライン財務諸表」を選択します。	オンライン連結財務諸表を検討します。

## オンライン連結 (P09218) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムのデフォルト処理を指定できます。

### 元帳タイプ

1. 元帳タイプ
 

次の処理オプションでデフォルトの元帳タイプを入力します。

「元帳タイプ - カラム1」この処理オプションを空白にすると、元帳タイプ BA が使用されます。

「元帳タイプ - カラム2」この処理オプションを空白にすると、元帳タイプ AA が使用されます。

- 2. 元帳タイプ** 他のアプリケーションにアクセスする際に使用する元帳タイプを指定します。  
 ブランクまたは1: 元帳タイプ1  
 2: 元帳タイプ2
- 勘定残高オプション**
- 1. ゼロ残高の非表示** 「ビジネスユニット詳細」チェックボックスの選択が解除されている場合に、残高がゼロの勘定科目を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランクまたはN: 残高がゼロの勘定科目を表示する。  
 Y: 残高がゼロの勘定科目を表示しない。
- 2. 計算方法** 差異の計算に使用する計算方法を指定します。値は次のとおりです。  
 A: 加算  
 ブランクまたはS: 減算  
 M: 乗算  
 D: 除算
- 追加元帳タイプ**
- 1. 追加元帳タイプ** 元帳タイプ1と2の勘定残高の計算に使用する追加元帳タイプを指定します。ブランクにすると、追加元帳タイプは使用されません。
- 補助元帳**
- 1. 補助元帳、補助元帳タイプ** 勘定残高の計算に使用する補助元帳および補助元帳タイプを入力します。ブランクにすると、ブランクの補助元帳と補助元帳タイプが使用されます。
- 詳細レベル**
- 勘定科目詳細レベル** 使用する勘定科目詳細レベル(3から9)を入力します。ブランクにすると、9が使用されます。
- 通貨コード**
- 1. 通貨コード** 勘定残高の計算に使用する通貨コードを入力します。この処理オプションをブランクにすると、すべての通貨が使用されます。  
 多通貨処理を適用する場合にのみ、この処理オプションを使用します。
- BU明細**
- 1. ビジネスユニット明細** ビジネスユニットの詳細を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランクまたはN: ビジネスユニットの詳細を表示しない。かわりに、ビジネスユニットをまとめて表示する。  
 Y: ビジネスユニットの詳細を表示する。

## 処理モード

1. 財務レポート処理モード 連結財務レポートの処理モードを指定します。値は次のとおりです。  
ブランクまたはT: 試算表  
B: 貸借対照表  
I: 損益計算書

## 有効日付オプション

1. 指定日付許可フラグ、 将来使用するために予約されています。  
2. 終了期間デフォルト表示

## 作業原価

1. 主科目がブランクのレコードを除外する 主科目がブランクのレコードを除外するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
ブランクまたは0: 主科目がブランクのレコードを連結から除外する。この値を指定すると、処理時間を短縮できます。  
1: 主科目がブランクのレコードも連結に含める。

## オンライン連結財務諸表の検討

「オンライン連結財務諸表」フォームにアクセスします。

- 試算表、貸借対照表、損益計算書** 検討するオンライン計算書のタイプを選択して「検索」をクリックし、計算を実行します。  
貸借対照表の場合は、AAI項目GLG5に基づいて当期の利益/損失が計算され、その項目の記述がフォームに表示されます。  
損益計算書の場合は、粗利益、営業収入などの中間計は、AAI項目FSxxで定義されます。
- 詳細レベル、ビジネスユニット明細** 詳細金額または集計金額を検討したり、様々な詳細レベルで検討したりするには、「詳細レベル」フィールドに値を入力するか、「ビジネスユニット明細」チェックボックスを選択します。「ビジネスユニット明細」チェックボックスを選択すると、「ロー」メニューからその他の詳細フィールドにアクセスできます。

## 第 32 章

# バッチ連結の処理

この章では、バッチ連結の処理の概要と、次の方法について説明します。

- 前のバッチ連結の削除
- バッチ連結の作成
- バッチ連結の検討

**関連項目:**

第 30 章、「勘定科目の連結について」、「バッチ連結方法」、314ページ

---

## バッチ連結の処理について

バッチ連結には、次の2つのプログラムがあります。

- 連結データの再作成プログラム (R10862)  
F0006、F0901、およびF0902テーブルにレコードを作成します。これらのテーブルの勘定残高をオンラインで検討したり、レポートに印刷できます。
- 前の連結の削除プログラム (R10861)  
F0901とF0902テーブルから勘定残高を消去して、次の連結を行う際に前の連結の金額が残高に含まれないようにします。また、このプログラムを使用すると、仕訳が連結勘定に対して作成された場合に、F0911テーブルから前の連結レコードが自動的に削除されます。

次のいずれかのカテゴリ・コードを使用して勘定残高が連結されます。

- 組織構造別の検討には、F0006テーブルのビジネスユニット・カテゴリ・コード (RP01からRP30)を使用します。
- 代替勘定科目表別の検討には、F0901テーブルの勘定科目マスター・カテゴリ・コード (R001からR023)を使用します。

---

## 前のバッチ連結の削除

この項では、前の連結の削除プログラムの概要と次の方法について説明します。

- 前の連結の削除
- 前の連結の削除の処理オプションの設定

## 前の連結の削除プログラムについて

新しい連結を行う前に連結データベースの情報を削除しないと、残高が存在することを示すエラー・メッセージが表示されるので、事前に前の連結の削除プログラム (R10861) を実行する必要があります。

前の連結の削除プログラムにより、次のテーブルから架空会社の前の連結レコードが削除されます。

- F0901
- F0902
- F0911 (仕訳が連結勘定に対して作成された場合)

架空の会社とビジネスユニットは、連結を目的に設計されています。このため、次の項目は前の連結の削除プログラムでは削除されません。

- F0006 テーブルの架空ビジネスユニット
- F0010 テーブルの架空会社

---

**重要:** 削除するのは連結用の架空の会社のみです。実際の会社を削除しないように注意してください。

---

## 前の連結の削除

「連結」(G1011) の「前の連結の削除」を選択します。

このプログラムではデータ選択を使用しません。架空会社の前の連結レコードがすべて削除されます。

## 前の連結の削除 (R10861) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### デフォルト処理オプション

#### 架空の会社番号

レコードを削除する架空会社の会社番号を入力します。架空会社番号の先頭にはゼロを入力してください。たとえば、会社1の場合は「00001」と入力します。

これにより、F0901、F0902 および F0911 テーブルからその架空会社の前の連結レコードがすべて削除されます。

#### 連結略式ID

連結勘定科目を再作成する際に使用する次の番号を入力します。通常の勘定科目コードにならないように、大きい数字を入力してください。この処理オプションをブランクにすると、自動的に90000000が使用されます。

---

## バッチ連結の作成

この項では、連結データの再作成プログラム、架空ビジネスユニットの構造、および同プログラムで作成されるレコードの概要と、次の方法について説明します。

- 連結データの再作成プログラムの実行
- 連結データの再作成のデータ選択およびデータ順序の設定
- 連結データの再作成 (R10862) の処理オプションの設定

## 連結データの再作成プログラムについて

現在の残高で新しい連結を作成するには、連結データの再作成プログラム(R10862)を実行する必要があります。このプログラムを使って、このプログラムの処理オプションで指定した架空会社の架空のビジネスユニット、勘定科目、および勘定残高の追加レコードをF0902テーブルに作成します。この架空会社はバッチ連結専用に使われます。会計年度に関係なく、勘定科目のすべての残高がコピーされ、架空会社内で連結されます。架空のビジネスユニットおよび勘定科目に関し、F0006テーブルおよびF0901テーブルのモデル/連結フィールドの値がCに更新され、連結の結果として架空のビジネスユニットおよび勘定科目が作成されたことが示されます。

---

**注意:** 連結対象の勘定科目に残高がない場合は、連結データの再作成プログラムによる架空勘定科目の作成は行われません。

---

バッチ連結はカテゴリ・コードに基づいて行われます。使用できるのは、勘定科目カテゴリ・コードかビジネスユニット・カテゴリ・コードのいずれかです。連結に使用する各カテゴリ・コードには、個別のバージョンを設定する必要があります。カテゴリ・コードを1つ使用して連結を再作成した後に、別のカテゴリ・コードを選択してプログラムを再度実行できます。このプロセスでは、架空会社の追加レコードが作成されます。

複数の連結を同時に実行することもできます。その場合は、各連結に個別の架空会社を設定します。

## 架空ビジネスユニットの構造について

ビジネスユニット番号は最大12文字です。架空ビジネスユニット番号の構造はAABBBで、AABBBの意味は次のとおりです。

- AAは、データ選択で指定した02などのカテゴリ・コード番号を示します。
- BBBは、東部地域の260や西部地域の270など、選択したカテゴリ・コードのカテゴリ・コード値を示します。

### 例: 架空ビジネスユニット

ビジネスユニット・カテゴリ・コード2(RP02)の連結を実行する際にカテゴリ・コード2の値が210、220、230である場合は、次の3つの架空ビジネスユニットが作成されます。

- 02210
- 02220
- 02230

## 連結データの再作成プログラムで作成されるレコードについて

連結データの再作成では、ユーザーによる設定に基づいてレコードが作成されます。このレコードには、次の情報が含まれます。

- 前年度計上額(APYN)、前年度末累計残高(APYC)、および月次転記情報
- 連結残高を含むすべての勘定科目
- 資産などのレポート用の見出し勘定と非転記タイトル勘定

**重要:** 連結には架空会社を選択する必要があります。連結を再作成すると、会社全体についてF0006、F0901、およびF0902テーブルにレコードが追加されます。連結に実際の会社を選択すると、その会社に対して連結レコードが作成されます。その場合、有効なレコードと、連結プログラムによって作成されたレコードを区別することは非常に困難です。

連結の作成後に仕訳入力プログラム(P0911)を使用して、架空勘定科目に直接、調整仕訳を作成できます。また、会社間決済を行う場合は、除外仕訳を作成する必要があります。前の連結を削除すると、連結残高とともに調整仕訳も削除されます。

## 事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- プログラムにセキュリティを設定し、連結データの再作成プログラムへのアクセスを制限します。
- 実行する各連結用に個別の架空会社を設定します。
- 連結に使用するカテゴリ・コードを確認します。
- 前の連結を削除します。
- コンピュータにこの処理の実行に十分なディスク容量があることを確認します。

## バッチ連結の検討に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
試算表/元帳比較	W09210AA	「連結」(G1011)、「連結の検討」	バッチ連結を検討します。

## 連結データの再作成プログラムの実行

「連結」(G1011)の「連結データの再作成」を選択します。

## 連結データの再作成のデータ選択およびデータ順序の設定

各連結に対して使用できるカテゴリ・コードは1つだけです。カテゴリ・コードのデータ選択がブランクにならないように設定します。

会社のデータ選択を使用して、その他の架空会社を連結から除外します。データ選択を設定しないと、前の連結情報も実行する連結に含められます。

使用するカテゴリ・コードは、データ順序の最初の行に設定する必要があります。連結データの再作成のデータ順序は次のとおりに設定してください。

1. 選択カテゴリ・コード
2. 主科目
3. 補助科目

## 連結データの再作成(R10862)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。



## デフォルト処理オプション

- |             |   |
|-------------|---|
| 1. 架空の会社    | 連結する架空会社の会社番号を入力します。  |
| 2. レポート・コード | データ選択で使用するレポート・カテゴリ・コードを入力します。ビジネスユニットにはRPで始まるコードを、勘定科目マスター・カテゴリ・コードにはROで始まるコードを使用してください。たとえば、地域が02のカテゴリ・コードの場合は、RP02となります。 |

## パフォーマンス

- |                  |  |
|------------------|--|
| 1. 会計年度、2. 元帳タイプ | 連結する会計年度を入力します。値を入力することにより、F0902テーブルの処理対象のレコード数が減ります。<br><br>連結する元帳タイプを入力します。                |
| 3. 非転記勘定の処理      | 非転記勘定の勘定残高を読み込むには「1」を入力します。この処理オプションをblankにすると、連結データの再作成時に残高のない勘定残高は読み込まれないため、パフォーマンスが向上します。 |

## バッチ連結の検討

この項では、バッチ連結の検討の概要と、次の方法について説明します。

- 連結の検討の処理オプションの設定
- バッチ連結の検討

## バッチ連結の検討について

バッチ連結の作成後に、連結の検討プログラム(P09210A)を使ってバッチ連結を検討できます。勘定残高の検討はビジネスユニット別または勘定科目コード別に行えます。また、架空会社の2つの元帳タイプの金額を比較できます。たとえば、予算と実績の比率について実績金額(AA)を予算金額(BA)と比較できます。

## 連結の検討(P09210A)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムのデフォルト処理を指定できます。

### デフォルト

- |                         |  |
|-------------------------|--|
| 1. 元帳タイプ1、2. 元帳タイプ2     | 2つのデフォルト元帳タイプを指定します。たとえば、元帳タイプAAとBA、あるいはAAとCAなどのように入力します。<br><br>「元帳タイプ1」処理オプションをblankにすると、元帳タイプBAが使用されます。「元帳タイプ2」をblankにすると、元帳タイプAAが使用されます。 |
| 3. 他のアプリケーションで使用する元帳タイプ | 他のアプリケーションを呼び出す場合、呼び出したアプリケーションで使用する元帳タイプを指定します。値は次のとおりです。<br><br>blankまたは1: 元帳タイプ1<br>2: 元帳タイプ2   |

## 表示

### 1. 残高がゼロ勘定科目の非表示

残高がゼロの転記対象勘定科目を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランクまたはN: 残高がゼロの転記対象勘定科目を表示する。

Y: 残高がゼロの転記対象勘定科目を表示しない。

この処理オプションは転記対象勘定科目にのみ適用されます。転記されない見出し勘定科目は、この処理オプションの設定にかかわらず「試算表/元帳比較」フォーム(P09210A)に表示されます。

### 2. 計算方法

差異の計算に適用する計算方法を指定します。値は次のとおりです。

ブランクまたはS: 減算

A: 加算

M: 乗算

D: 除算

### 3. 追加元帳タイプ1

元帳タイプ1の勘定残高の計算に使用する追加元帳タイプを指定します。たとえば、元帳タイプAAやCを使用できます。この処理オプションをブランクにすると、追加元帳タイプは使用されません。

### 4. 追加元帳タイプ2

元帳タイプ2の勘定残高の計算に使用する追加元帳タイプを指定します。たとえば、元帳タイプAAやCAを使用できます。この処理オプションをブランクにすると、追加元帳タイプは使用されません。

### 5. 補助元帳、6. 補助元帳タイプ

勘定残高の計算に使用する補助元帳および補助元帳タイプを指定します。

補助元帳を持つすべてのトランザクションを選択するには、「\*」を入力します。「補助元帳」処理オプションをブランクにすると、補助元帳なしのトランザクションが選択されます。

「補助元帳タイプ」処理オプションにはAやCなどを入力します。この処理オプションをブランクにすると、ブランクの補助元帳タイプが使用されます。

### 7. 勘定科目の詳細レベル

勘定科目に適用する詳細レベル(3から9)を指定します。この処理オプションをブランクにすると、9が使用されます。

## 通貨

### 1. 通貨コード

勘定残高の計算に使用する通貨コードを指定します。ブランクにした場合、すべての通貨が使用されます。

## 選択

### 1. 有効日付残高

期間終了日付を使用するか、または有効日付の残高を計算するかを指定します。値は次のとおりです。

ブランクまたはN: 期間終了日付を使用します。

Y: 指定した有効日付の残高を計算します。

### 2. デフォルトで表示する項目

終了日付と終了期間のどちらを表示するか指定します。値は次のとおりです。

ブランクまたはN: 終了日付を表示します。

Y: 終了期間を表示します。

# バッチ連結の検討

「試算表/元帳比較」フォームにアクセスします。

試算表と元帳の比較 - 試算表/元帳比較

選択(S) 検索(O) 開じる(L) ロー(R) ツール(T)

一致する勘定科目 : 9.8720

元帳タイプ1 AA USD 実績金額

元帳タイプ2 BA USD 予算金額

タイプ/補助元帳 \*

☒ 一致する勘定科目

詳細レベル 9 ☐ 期間/日付

元帳タイプ1終了日 2005/06/30

元帳タイプ2終了日 2005/06/30

通貨コード \*

レコード 1 - 3

グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	勘定科目名	実績金額 当月計上額	予算金額 当月計上額	当月計上額 差異	当月計上額 差異%	実績金額 残高	予算金額
<input type="checkbox"/>	Corporate Administration						
<input type="checkbox"/>	Office Supplies Expense	30,657.29	1,250.00	29,407.29	95.92	47,507.29	
<input type="checkbox"/>	Corporate Administration	30,657.29	1,250.00	29,407.29	95.92	47,507.29	

「試算表/元帳比較」フォーム

連結データの再作成では、残高のみが作成され取引は作成されません。このため、「試算表/元帳比較」フォームには、架空ビジネスユニットに直接入力された仕訳のみが表示されます。



## 第 33 章

# 複数サイト連結処理

この章では、ターゲット・サイトとソース・サイトのタスク、複数連結階層、複数サイトの連結構造およびテーブルの概要と、次の方法について説明します。

- 制御ファイル・レポートの実行
- 組織構造の作成
- 勘定科目構造の作成
- 勘定科目構造の改訂と印刷
- 複数サイト連結規則の定義
- 連結残高の作成
- 複数サイト連結レポートの実行
- 連結状況の検討
- ターゲット会社への連結残高のバッチ送信
- ターゲット会社への連結残高のオンライン送信
- EnterpriseOne以外のソース・サイトから受信した連結残高の処理
- 受信連結の改訂
- 受信連結の除去
- 複数サイトのバッチ仕訳の作成
- 複数サイトのバッチ仕訳の処理および除去

### 関連項目:

第 30 章、「勘定科目の連結について」、「複数サイト連結方法」、315ページ

---

## ソース・サイトとターゲット・サイトのタスクについて

複数サイト連結には、次の2種類のサイトが関連します。

- ソース  
連結勘定残高の作成元となるすべてのサイト
- ターゲット  
連結勘定残高を受け取る中核サイト(本社)

## ソース・サイトのタスク

各ソース・サイトでの複数サイト連結手順は次のとおりです。

1. 組織構造の定義
2. 勘定科目構造の定義
3. 複数サイト連結規則の定義
4. 連結残高の作成
5. 整合性レポートの実行
6. ターゲット会社への連結残高の送信

連結規則は各ソース・サイトで独自に定義されますが、すべての連結がターゲット・サイトの要件を満たしている必要があります。

---

**注意:** ターゲット・サイトとソース・サイトの通貨が異なる場合は、ターゲット・サイト側が多通貨処理を使用する必要があります。

---

## ターゲット・サイトのタスク

ターゲット・サイトでの複数サイト連結手順は次のとおりです。

1. 必要に応じて、外部のサイトから受け取った連結残高の処理
2. 整合性レポートの実行
3. バッチ仕訳の作成
4. バッチ仕訳の処理

---

## 複数の連結階層について

連結は、複数の階層で行うことができます。複数のソース・サイトで勘定残高を連結して単一のターゲット・サイトに送信すると、そのターゲット・サイトおよび他のターゲット・サイトで残高を連結できます。これらのサイトは、連結残高を新たなターゲット・サイトに送信するソース・サイトになります。

---

## 複数サイトの連結構造およびテーブルについて

勘定残高を連結するには、事前に連結の構造を定義する必要があります。複数サイトを連結する場合は、勘定科目構造とは別に組織構造も定義する必要があります。組織構造と勘定科目構造の組合せが、複数サイトの連結構造となります。

複数サイト連結では、標準フォーマットの勘定科目コード(ビジネスユニット.主科目.補助科目)が使用されます。

ターゲット会社へ送信する連結残高を含む次のテーブルが、勘定科目構造と組織構造を使って作成されます。

- 複数サイト連結の転送ファイル見出し(F1001)
- 複数サイト連結の転送ファイル(F1002)

- ・ 複数サイト連結の転送ファイル – カテゴリ・コード (F1003)

---

## 制御ファイル・レポートの実行

この項では、制御ファイル・レポートの概要と、次の方法について説明します。

- ・ UDC制御ファイルの作成レポートの実行
- ・ UDC制御ファイルの作成 (R10005) の処理オプションの設定
- ・ 主科目/補助科目制御ファイルの作成レポートの実行
- ・ 主科目/補助科目制御ファイルの作成の処理オプションの設定

### 制御ファイル・レポートについて

通常、ターゲット会社では、勘定科目表の中でソースからの情報を連結する必要がある勘定科目範囲を指定します。ターゲットは、組織構造を作成するために各ソースが使用できるビジネスユニット・カテゴリ・コードを指定します。ソースが勘定科目カテゴリ・コードを順序設定して勘定科目構造を定義する場合は、ターゲットでもこれらの勘定科目カテゴリ・コードを指定します。ソースが主科目と補助科目を使用して勘定科目構造を定義する場合は、ターゲットではソースが使用できる有効な主科目と補助科目を指定します。

ターゲット会社では、2種類の制御ファイル・レポートを実行します。組織構造と勘定科目構造を作成する際に、各ソースが使用できる値は、次のレポートに表示される値のみです。

- ・ UDC制御ファイルの作成レポート (R10005)

このレポートには、複数サイトの情報を連結するときに、ソースが使用できるユーザー定義コードが示されます。組織構造と勘定科目構造を定義する際にソースが使用できるカテゴリ・コードは、このレポートのカテゴリ・コードのみです。通常は、ターゲット会社が有効なユーザー定義コードとその値を定義します。

- ・ 主科目/補助科目制御ファイルの作成レポート (R10909)

このレポートには、複数サイト情報を連結するときにソースが使用できる主科目と補助科目が示されます。通常は、ターゲット会社がこれらの主科目と補助科目を定義します。

### 事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- ・ ソースとターゲットの両方で、会社名および番号プログラム (P0010) を使い、連結勘定残高用に架空会社を設定してください。
- ・ UDCテーブル00/TSに構造コードを設定します。
- ・ 自身のビジネスユニット・カテゴリ・コードが割り当てられていることを確認します。
- ・ 使用する組織構造を決定します。
- ・ 作成するそれぞれの組織構造に対して、ビジネスユニット・カテゴリ・コードの順序を決定します。
- ・ ビジネスユニットまたは勘定科目が自動的に作成されるようにする場合は、ターゲットでモデル勘定科目表が設定されていることを確認します。

### UDC制御ファイルの作成レポートの実行

「整合性レポート」(G1022) の「UDC制御ファイルの作成」を選択します。

## UDC制御ファイルの作成(R10005)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### バージョン

1. UDC制御ファイル・バージョン 作成するUDC制御ファイル・バージョンの固有の名前を入力します。この処理オプションをブランクにすると、レポート名はブランクになります。

## 主科目/補助科目制御ファイルの作成レポートの実行

「整合性レポート」(G1022)の「主科目/補助科目制御ファイルの作成」を選択します。

## 主科目/補助科目制御ファイルの作成(R10909)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### データ選択

1. バージョン 作成する主科目/補助科目制御ファイル・バージョンの固有の名前を入力します。この処理オプションをブランクにすると、レポート名はブランクになります。
2. ファイル・データ選択 固有の主科目と補助科目を選択するには「1」を入力します。この処理オプションをブランクにすると、固有の主科目のみが選択されます。

## 組織構造の作成

この項では、組織構造の概要およびその定義方法について説明します。

### 組織構造について

組織構造とは、レポート作成や分析を目的にビジネスユニットをグループ化する方法です。複数サイト連結用に1つまたは複数の組織構造を作成できます。必要に応じて、構造を単純にも複雑にもできます。また、単一サイトでの財務諸表や地域別、管轄別のレポート作成など、他の用途のために組織構造を作成することもできます。

### 組織構造の作成に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
構造の処理	W0050AB	「複数サイト連結の設定」(G1042)、「ビジネスユニット構造の定義」	組織のレポート構造を検索し、検討します。
構造の設定	W0050AA	「構造の処理」フォームで「追加」をクリックします。	組織のレポート構造を定義します。

### 組織構造の定義

「構造の設定」フォームにアクセスします。



構造名	組織の構造を識別する固有の名前を入力します。
順序	子ビジネスユニットが親ビジネスユニットの下に表示されるときに順序を入力します。

**関連項目:**

JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「組織の設定」、「組織構造内のビジネスユニットの改訂」

---

## 勘定科目構造の作成

この項では、勘定科目構造の構成要素の概要と、次の方法について説明します。

- 勘定科目構造の定義
- 勘定科目構造の作成
- 勘定科目構造の作成用のデータ順序設定
- 勘定科目構造の作成の処理オプションの設定

### 勘定科目構造の構成要素について

勘定科目構造を定義し、これに基づいて勘定科目連結表を作成する必要があります。たとえば、ターゲット会社へ銀行勘定残高を送信する必要がある場合、銀行および現金の積上と呼ばれる勘定科目構造を定義し、その後で勘定科目構造の作成プログラムを実行してすべての銀行勘定を含めることができます。

初期の勘定科目構造は、F0901テーブルに基づいて作成されます。この構造は、検討および改訂できます。

#### 勘定科目構造の定義

勘定科目構造は、23種類の勘定科目カテゴリ・コードの中の最大7つのコードを順序設定して定義するか、または主科目と補助科目の順序で定義できます。カテゴリ・コード別に順序設定する場合は、カテゴリ・コードの値によって階層内のどこに勘定科目が表示されるかが決定されます。順序設定する最後の2項目には、主科目と補助科目を設定する必要があります。

勘定科目構造の定義プログラム(P10430A)により、勘定科目構造定義テーブル(F10430A)が更新されます。

#### 勘定科目構造の作成

勘定残高を連結するには、連結処理で使用される勘定科目構造を事前に作成する必要があります。

勘定科目構造の作成プログラム(R10430)では、F0901テーブルの情報が読み込まれ、勘定科目構造で定義した順序に基づいて勘定科目構造が作成されます。主科目と補助科目の各組合せに対し、構造内にレコードが1つずつ作成されます。

このプログラムでは、既存の勘定科目構造にレコードを追加したり、新しい勘定科目構造を作成できます。このプログラムの処理オプションで既存の構造名を使用して新しい勘定科目を作成するように設定した場合、既存の構造は削除されます。

カテゴリ・コードにターゲットの主科目と補助科目の情報を入力した場合は、対応する処理オプションでコードを指定できます。この値を使用してターゲットの主科目および補助科目の情報が作成されます。

カテゴリ・コードに詳細レベル情報を入力した場合は、対応する処理オプションでコードを指定できます。このコードは勘定科目構造の詳細レベルに使用されます。

勘定科目構造の作成プログラムは、テスト・モードと最終モードのどちらでも実行できます。勘定科目構造のレポートは、どちらのモードで実行しても作成されます。テスト・モードでは、最終モードで実行した場合に変更される箇所を示したレポートが印刷されます。最終モードでは、複数サイト連結 - 勘定科目構造テーブル(F10430)が更新されます。

## 勘定科目構造の定義に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
勘定科目構造の処理	W10430AA	「複数サイト連結の設定」(G1042)、「勘定科目構造の定義」	勘定科目構造を検索し、検討します。
勘定科目構造の設定	W10430AB	「勘定科目構造の処理」フォームで「追加」をクリックします。	勘定科目構造を定義します。

## 勘定科目構造の定義

「勘定項目構造の設定」フォームにアクセスします。

「勘定科目構造の設定」フォーム

### 勘定科目構造名

財務や管轄など、勘定科目構造のタイプを識別するコードをユーザー定義コード・テーブル00/TSから選んで入力します。構造タイプごとに、異なる階層を作成できます。

### 主科目/補助科目順のみ

このチェックボックスを選択すると、勘定科目は主科目、補助科目の順で順序設定されます。この場合、カテゴリ・コードで設定した順序は無視されます。

## 勘定科目構造の作成

「複数サイト連結の設定」(G1042)の「勘定科目構造の作成」を選択します。

## 勘定科目構造の作成用のデータ順序設定

このプログラムのデータ順序は変更しないでください。

## 勘定科目構造の作成(R10430)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムのデフォルト処理を指定できます。

### 処理

1. モード  
計算の処理と更新を実行するモードを入力します。値は次のとおりです。  
0: テスト・モードでレポート出力(デフォルト)  
1: 最終モードでレポート出力  
2: 最終モード(レポートなし)
2. 作成タイプ  
既存の構造にレコードを追加するには「1」を入力します。この処理オプションをブランクにすると、新規の構造が作成されます。

### 構造名

1. 構造名  
ユーザー定義コード・テーブル00/TSから、該当する構造名を表すコードを入力します。

### 主科目

1. 主科目  
ターゲット主科目のロードに使用するフィールド(フィールド1、2、3)を入力します。複数のフィールドを使用すると、入力したすべての値が連結され、ターゲット主科目が作成されます。この処理オプションをブランクにすると、ターゲット主科目もブランクのままになります。  
有効なフィールドはOBJA(代替主科目)およびR001からR023(カテゴリ・コード1から23)です。

### 補助科目

1. 補助科目  
ターゲット補助科目のロードに使用するフィールド(フィールド1、2、3)を入力します。複数のフィールドを使用すると、入力したすべての値が連結され、ターゲット補助科目が作成されます。この処理オプションをブランクにすると、補助科目もブランクになります。  
有効なフィールドはSUBA(代替補助科目)およびR001からR023(カテゴリ・コード1から23)です。

### 詳細レベル

- 詳細レベル  
勘定科目の詳細レベルを含むフィールドを入力します。この処理オプションをブランクにすると、詳細レベルLDAが使用されます。  
有効なフィールドはR001からR023(カテゴリ・コード1から23)です。

## 勘定科目構造の改訂と印刷

この項では、勘定科目構造の改訂の概要と、次の方法について説明します。

- 勘定科目構造の改訂
- 勘定科目構造レポートの印刷

### 勘定科目構造の改訂について

勘定科目構造は、作成および検討の後に改訂できます。勘定科目構造の改訂には、構造の構成要素を階層内の別のサイトに移動したり、勘定科目構造の詳細情報を改訂したりする作業が含まれます。

構造の構成要素を階層内の別のサイトに移動する際は、個々の勘定科目または構造の上位レベルを移動できます。構造の一部を移動すると、F10430テーブルが自動的に更新されます。

ターゲットの勘定科目の主科目または補助科目がソースの主科目または補助科目と異なる場合は、残高を連結する前に勘定科目構造の明細情報の改訂が必要な場合があります。

構造の構成要素を再編成し、勘定科目構造の詳細情報を改訂するには、勘定科目構造の照会/改訂プログラム(P10440)を使用します。

勘定科目構造を作成または改訂した後に、構造の全階層が表示された勘定科目構造レポート(R10445)を印刷できます。

### 勘定科目構造の改訂に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
勘定科目構造の改訂	W10440B	「複数サイト連結の設定」(G1042)、「勘定科目構造の照会/改訂」	勘定科目構造を検索し、検討します。
勘定科目構造の改訂 (詳細)	W10440A	「勘定科目構造の改訂」フォームで、改訂する勘定項目を選択します。	勘定科目構造を改訂し、再編成します。

### 勘定科目構造の改訂

「勘定科目構造の改訂(詳細)」フォームにアクセスします。

**ターゲット主科目**      ターゲットの主科目がソースの主科目と異なる場合に、複数サイト連結のマッピングに使用される主科目を入力します。

**ターゲット補助科目**      ターゲットの補助科目がソースの補助科目と異なる場合に、複数サイト連結のマッピングに使用される補助科目を入力します。

**主科目**      勘定科目コードの中で、原価コード(労務費、材料費、設備費など)をサブカテゴリに分類する部分を入力します。

**注意:** 任意勘定科目コードを使用して主科目コードを6桁に設定した場合は、6桁すべてを使用してください。たとえば、「000456」と入力することと「456」と入力することは同じではありません。「456」と入力した場合は、6桁を埋めるために自動的にスペースが3つ追加されます。

補助科目	主科目のサブセットを入力します。補助科目には、主科目に関する会計処理の詳細レコードが含まれます。
転記編集	集計勘定科目の「転記編集」フィールドに「N」を入力します。このように設定すると、処理中に勘定残高が検索されないため、連結処理プログラムのパフォーマンスが向上します。

## 勘定科目構造レポートの印刷

「複数サイト連結の設定」(G1042)の「勘定科目構造レポート」を選択します。

## 勘定科目構造レポート(R10445)の処理オプションの設定

処理オプションの設定により、レポートのデフォルト処理を指定できます。

### 詳細レベル

1. 詳細レベル 印刷する詳細レベル(3から9)を入力します。この処理オプションを空白にすると、9が使用されます。

---

## 複数サイト連結規則の定義

この項では、複数サイト連結規則および消去規則の概要と、次の方法について説明します。

- 連結規則の定義
- 消去規則の定義

## 複数サイト連結規則の内容について

ソース・サイトで勘定科目構造と組織構造を定義した後、次の規則を定義します。

- ターゲット・サイトで使用する勘定残高の連結規則
- 勘定残高を連結する際に会社間取引を除外する規則

## 連結規則について

ソース・サイトで勘定残高が連結される際の規則を定義する必要があります。この規則を定義すると、たとえば、あるビジネスユニットの勘定科目をある方法で連結し、別のビジネスユニットの同じ勘定科目を別の方法で連結できます。勘定科目別に異なる詳細レベルで集計することもできます。連結規則の定義には連結設定プログラム(P10470)を使用します。

連結設定プログラムを使用し、順序のレベルと値を指定して連結するサイトの中で親となるビジネスユニットを定義します。順序レベルとは、勘定残高が連結される組織構造内のレベルを示します。たとえば、組織構造の最上位レベルに勘定残高を連結する場合には、順序レベル「1」を入力します。

順序の値とは、連結レベルのビジネスユニット・カテゴリ・コードのことです。たとえば、地域レベルでの連結で親ビジネスユニットを中央地区とする場合には、中央地区を示すカテゴリ・コードの値を入力します。

アクティブなビジネスユニット・カテゴリ・コード構造、または、ビジネスユニット・カテゴリ・コード構造の有効日付スナップショットのどちらかを使って処理を実行します。

ビジネスユニットの連結を行わないように設定することもできます。その場合、すべてのビジネスユニットの勘定残高が送信されます。

連結設定プログラムによって、連結設定テーブル(F10470)が更新されます。

## 消去規則について

ソース・サイトで会社間取引を除外するための規則を定義できます。会社、ビジネスユニット、主科目、補助科目、補助元帳および補助元帳タイプの組合せを指定して、除外する勘定科目グループを定義します。連結時に勘定残高を除外すべきかどうかを決定する際に適用される複数の消去規則を、除外する各グループに作成できます。除外グループ内の勘定残高は貸借が一致している(合計金額ゼロ)必要があります。

連結処理(R10550)プログラムを実行すると、除外グループに含まれる会社間取引は自動的に除外されます。または、消去勘定科目コードを指定すると、連結から消去する金額が自動的に計算されます。

除外グループの勘定残高の貸借が一致しない場合に、その差異を小額消去として計上する差異勘定科目を指定する必要があります。勘定残高の一部のみを除外する場合、各除外グループに対して消去する比率を指定することもできます。

連結処理プログラムを実行すると、連結から消去された勘定科目および残高のレポートが印刷されます。残高の貸借が一致しない場合は、差異金額とその差異を計上した勘定科目もレポートに印刷されます。

消去規則と除外グループは、消去規則テーブル(F10471)に保管されます。

## 連結および消去規則の定義に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
連結設定の処理	W10470C	「複数サイト連結」(G1021)、「連結設定」	既存の複数サイト連結規則を検索し、検討します。
連結設定の改訂	W10470D	「連結設定の処理」フォームで「追加」をクリックします。	連結規則の定義や、既存の連結規則の改訂をします。
消去規則の処理	W10471A	「複数サイト連結」(G1021)、「消去規則」	既存の消去規則を検索し、検討します。
消去規則の設定	W10471B	「消去規則の処理」フォームで「追加」をクリックします。	消去規則を追加します。

## 連結規則の定義

「連結設定の改訂」フォームにアクセスします。

連結設定 - 連結設定の改訂

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

連結名

OPS

作業の積上

ビジネスユニット構造

勘定科目構造

追加設定

☒ ビジネスユニットの連結

構造名

OPSROLLUP

順序レベル

02

順序値

10

☒ 有効ビジネスユニット・マスター

☐ スナップショット・ビジネスユニット・マスター

有効日付バージョン

「連結設定の改訂」フォーム

## ビジネスユニット構造

「ビジネスユニット構造」タブを選択します。

### ビジネスユニットの連結

ビジネスユニットの連結を実行するには、このオプションを選択します。ビジネスユニットの親子関係を作成するためのビジネスユニット構造の定義に基づいてビジネスユニットが連結されます。このオプションの選択を解除した場合は、ビジネスユニットは連結されず、かわりに各ビジネスユニットの勘定残高が伝送されます。

### 連結名

保存した連結の名称を入力します。

### 順序レベル

勘定残高が連結される際の組織構造レベルを表す番号を入力します。たとえば、01は最上位の組織構造レベルで連結が実行されることを表し、03は3番目の組織構造レベルで連結が実行されることを表します。

このフィールドは「順序値」フィールドとあわせて使用されます。検索機能（虫眼鏡ボタン）を使用して「構造名」フィールドを入力すると、「順序レベル」フィールドは自動的に入力されます。

### 順序値

連結のレベルを表すカテゴリ・コードを入力します。たとえば、地域レベルでの連結で親ビジネスユニットを中央地区とする場合には、中央地区を示すカテゴリ・コードの値を入力します。連結レベルですべてのカテゴリ・コードに親ビジネスユニットを定義するには、「\*」を入力します。

連結レベルでブランクのカテゴリ・コードがある場合、親ビジネスユニットは定義されません。

このフィールドは「順序レベル」フィールドとあわせて使用されます。

### 有効ビジネスユニット・マスター

ビジネスユニット・マスター (F0006) のアクティブなビジネスユニット・カテゴリ・コード構造を使用するには、このオプションを選択します。

### スナップショット・ビジネスユニット・マスター

有効日付ビジネスユニット・マスター (F0006S) のビジネスユニット・カテゴリ・コード構造の有効日付スナップショットを使用するには、このオプションを選択します。

**有効日付/バージョン**      スナップショットの作成時に、ビジネスユニット・カテゴリ・コード構造の有効日付スナップショットに割り当てられた日付とバージョン番号を入力します。

## 追加設定

「追加設定」タブを選択します。

**四捨五入する位**      金額を四捨五入する位(100の位、1000の位など)を指定するコードを入力します。コードは次のとおりです。

ブランク: 四捨五入しない。

0: 小数点以下を四捨五入する。

1: 四捨五入して10の位までの概数にする。

2: 四捨五入して100の位までの概数にする。

3: 四捨五入して1000の位までの概数にする。

4: 四捨五入して10000の位までの概数にする。

5: 四捨五入して100000の位までの概数にする。

6: 四捨五入して1000000の位までの概数にする。

たとえば金額が987,654,321.91の場合、入力するコードに対する四捨五入の結果は次のようになります。

ブランク: 987,654,321.91

0: 987,654,322.00

1 : 987,654,320.00

2: 987,654,300.00

3: 987,654,000.00

4: 987,650,000.00

5: 987,700,000.00

6: 988,000,000.00

**補助元帳明細**      連結に補助元帳明細を反映するには、このチェックボックスを選択します。

**通貨別残高**      この会社に対するF0902テーブルのレコードを通貨別に転記する場合は、このチェックボックスを選択します。

## 消去規則の定義

「消去規則の設定」フォームにアクセスします。



消去規則 - 消去規則の設定

OK(O) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

連結名 \* BS 複数サイト貸借対照表

レコード 1-2 グリッドのカスタマイズ

	グル *	会社	ビジネス	主科目	補助	補助	補助	消去勘定	消去	消去
	ープ	番号	ユニット		科目	元帳	元帳	科目コード	勘定科目名	元
	1	00001	9							

「消去規則の設定」フォーム

- グループ** 互いに相殺する勘定科目をグループ化する2文字の値を入力します。除外グループ内の勘定残高は貸借が一致している(合計金額ゼロ)必要があります。
- 消去勘定科目コード** 消去する勘定科目を入力します。このフィールドを空白にすると、消去処理を行っている勘定科目のみが消去されます。
- 消去補助元帳** 消去する補助元帳を入力します。補助元帳を指定する場合は、補助元帳タイプも指定する必要があります。  
このフィールドを空白にすると、除外処理を行っている補助元帳のみが消去されます。
- 消去補助元帳タイプ** 消去する補助元帳タイプを入力します。補助元帳タイプを指定する場合は、補助元帳も指定する必要があります。  
このフィールドを空白にすると、消去処理を行っている補助元帳タイプのみが消去されます。
- 小額消込勘定科目コード** 指定の除外グループに対する小額消去差異が計上される勘定科目を入力します。
- %** 除外グループに対し、除外する比率をパーセント値で指定します。

## 連結残高の作成

この項では、連結処理プログラムの概要と次の方法について説明します。

- 連結処理
- 連結処理の処理オプションの設定

## 連結処理プログラムについて

勘定科目構造と組織構造、およびソース会社の複数サイト連結規則を定義すると、連結残高を作成できます。

連結処理プログラム(R10550)を実行して連結残高を作成する際に、定義した勘定科目構造と組織構造が、指定した順序で読み込まれます。次に、複数サイト連結および消去について定義した規則と処理オプションに基づいて、これらの構造が処理されます。F0902テーブルから勘定残高が読み込まれ、次の処理が実行されます。

- 残高ゼロ勘定の省略
- 年累計残高の連結
- 勘定残高の会計期間パターンの照合
- 基準期間後の残高の無視
- 端数処理の実行
- 指定補助元帳と通貨の詳細の保持
- 指定詳細レベルでの勘定残高の作成
- 指定限度内での差異の消込
- 会社間残高の除去

連結処理プログラムにより、次のテーブルに連結残高が書き込まれます。

- 複数サイト連結の転送ファイル見出し (F1001)
- 複数サイト連結の転送ファイル (F1002)
- 複数サイト連結の転送ファイル - カテゴリ・コード (F1003)

### 連結処理プログラムで作成されるレポート

連結処理プログラムでは、集計勘定残高を表示したレポートを作成できます。レポートの最初の部分には、複数サイト連結の転送ファイルの各テーブルに書き込まれた期間1から期間6までの集計勘定残高データが表示されます。レポートの2番目の部分には、期間7から期間14の間の同様の情報が表示されます。

また、連結処理プログラムでは、除外勘定残高レポートも印刷できます。このレポートには、各除外グループの除外仕訳が作成された勘定科目および残高が表示されます。残高が正味ゼロにならない場合、差異金額とその差異を計上する勘定科目もこのレポートに印刷されます。

---

**注意:** 勘定科目のタイプに関係なく、常に、F0902テーブルの繰越残高フィールドは連結処理プログラムによって更新されます。通常、損益計算書勘定の繰越残高金額は印刷されません。ただし、複数サイト連結の開始日以降累計レポートを作成できるように、損益計算書勘定の期首残高が印刷されます。

---

## 連結処理

「複数サイト連結」(G1021)の「連結処理」を選択します。

### 連結処理 (R10550) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

#### 処理

- |          |   |
|----------|---|
| 1. モード   | このプログラムの実行モードを指定します。値は次のとおりです。<br>0: テスト・モードでレポート出力 (デフォルト)<br>1: 最終モードでレポート出力<br>2: 最終モード (レポートなし) |
| 2. 架空の会社 | 架空の連結会社の会社番号を入力します。   |

- 3. 期間、会計年度** 連結の対象となる期間および会計年度を入力します。この処理オプションを空白にすると、処理する会社に対して設定した財務報告年度および期間が適用されます。
- 4. 元帳タイプ** 連結に使用するターゲットの元帳タイプを入力するか、空白にして元帳タイプAAを使用します。
- 5. カテゴリ・コードの保存** 伝送用に保存するカテゴリ・コードを指定します。値は次のとおりです。  
空白: カテゴリ・コード値を保存しない。  
1: ビジネスユニット・カテゴリ・コードを保存する。  
2: 勘定カテゴリ・コードを保存する。  
3: ビジネスユニットと勘定科目両方のカテゴリ・コードを保存する。
- 6. 非転記勘定の処理** 非転記勘定の勘定残高を読み込むには「1」を入力します。非転記勘定はF0901テーブルではなく、F10430テーブルから取り込まれます。  
パフォーマンス向上のためには、この処理オプションを空白にします。勘定残高のない勘定項目は無視されます。

## BU作成

- 1. ビジネスユニット自動作成フラグ** ビジネスユニットを自動作成する方法を指定します。値は次のとおりです。  
空白: ビジネスユニットの自動作成を行わない。  
1: カテゴリ・コードの値と連結してビジネスユニットを自動的に作成する。組織構造順序に会社を含めた場合は、「1」を入力する必要があります。  
2: 自動採番を使用してビジネスユニットを自動的に作成する。

## ビジネスユニット・タイプ

- 1. ビジネスユニット・タイプ** ビジネスユニットの作成に使用するビジネスユニット・タイプを入力します。

## サイトID

- 1. サイトID** データのソースと関連するサイトIDを入力します。

## 差異

- 1. しきい値** 連結レコードに対して自動小額消去額を作成するための差異しきい値を入力します。作成した連結に差異があり、その差異が許容範囲内の数値の場合、小額消去が自動的に作成されます。この機能を使用しない場合は、この処理オプションを空白のままにします。

---

**注意:** 差異をパーセントで入力する場合は、数字の後に%記号を付けます。たとえば、3%の場合は、「3%」と入力します。

---

- 2. 連結差異しきい値** 自動小額消去に使用する主科目と補助科目を入力します。

## 消去

### 1. 除外元帳タイプ

除外仕訳に使用するターゲットの元帳タイプを入力します。会社間取引を除外する規則を作成した場合は、「1」を入力して、除外金額が記録される元帳タイプを指定する必要があります。

この処理オプションをblankにすると、除外仕訳は作成されません。

### 2. 消去差異しきい値

除外レコードに対して自動小額消去額を作成するための差異しきい値を入力します。作成した除外仕訳に差異があり、その差異が許容範囲内の数値の場合、小額消去が自動的に作成されます。この機能を使用しない場合は、この処理オプションをblankのままにします。

---

**注意:** 差異をパーセントで入力する場合は、数字の後に%記号を付けます。たとえば、3%の場合は、「3%」と入力します。

---

## 通貨

### 通貨コード - 多通貨オフ

ターゲット・サイトでは複数の通貨を使用しているが、ユーザーのソース・サイトでは単一の通貨を使用している場合は、連結勘定残高の通貨コードを指定できます。通貨コードが勘定残高に割り当てられるだけで、通貨換算は一切行われません。ユーザーのサイトで多通貨処理を使用している場合は、この処理オプションは無視されます。

## 関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「組織の設定」

---

## 複数サイト連結レポートの実行

この項では、複数サイト連結レポートとビジネスユニット/勘定科目月次比較レポートの概要、および次の方法について説明します。

- 前期残高の整合性レポートの実行
- 前期残高の整合性の処理オプションの設定
- ユーザー定義コード値制御例外レポートの実行
- ユーザー定義コード値制御例外の処理オプションの設定
- 主科目/補助科目制御例外レポートの実行
- 主科目/補助科目制御例外レポートの処理オプションの設定
- ビジネスユニット/勘定科目月次比較レポートの実行
- ビジネスユニット/勘定科目月次比較のデータ選択およびデータ順序の設定
- ビジネスユニット/勘定科目月次比較の処理オプションの設定
- 連結貸借対照表レポートの実行
- 連結貸借対照表の処理オプションの設定
- 連結損益計算書レポートの実行
- 連結損益計算書の処理オプションの設定

## 複数サイト連結の整合性レポートについて

連結残高を作成したら、整合性レポートを実行して情報を確認してください。整合性レポートは、組織内の残高調整手順を補足するものです。ターゲット・サイトに情報を送信する前に整合性レポートを実行すると、潜在的な貸借不一致やデータの矛盾を検出することもできます。

**注意:** 整合性レポートに加え、連結貸借対照表および連結損益計算書も作成できます。

次は、使用可能な複数サイト連結の整合性レポートと各レポートの説明をまとめた表です。

整合性レポート	説明
前期残高の整合性 (R10700)	最後の連結の実行後に変更処理をした前期間の連結残高がすべて表示されます。
ユーザー定義コード値制御例外 (R107011)	ターゲット会社によって認識されないユーザー定義コード値が連結データにある場合、それらが特定されます。このレポートを実行すると、有効なユーザー定義コード値の一覧が表示され、検討できます。
主科目/補助科目制御 (R107021)	ターゲット会社によって認識されない主科目と補助科目が連結データにある場合、それらが特定されます。
ビジネスユニット/勘定科目月次比較 (R10701)	ソースのビジネスユニットと勘定科目が、ターゲットのそれらと比較されます。このレポートは連結データを送信する前にソース・サイトで実行するか、または連結データを受信した後にターゲット・サイトで実行します。
連結貸借対照表 (R10150)	ターゲット会社へ送信する連結資産、連結負債、連結資本が表示されます。
連結損益計算書 (R10250)	ターゲット会社へ送信する連結収益と連結費用が表示されます。

## ビジネスユニット/勘定科目月次比較レポートについて

ビジネスユニット/勘定科目月次比較レポートには、複数のバージョンがあります。選択するバージョンに応じて、レポートでは次のいずれかが特定されます。

- ソース・サイトで、現行の連結には表示されているが、前回の連結には表示されていなかったビジネスユニットと勘定科目
- ターゲット・サイトで、現行の連結には表示されているが、前回の連結には表示されていなかったビジネスユニットと勘定科目
- ソース・サイトで、前回の連結には表示されていたが、現行の連結には表示されないビジネスユニットと勘定科目
- ターゲット・サイトで、前回の連結には表示されていたが、現行の連結には表示されないビジネスユニットと勘定科目

ソース・サイトとターゲット・サイトのどちらでレポートを実行しているかを示す処理オプションを設定する必要があります。

整合性レポートの処理が失敗した場合は、次に示すF1001テーブルのフィールドのいずれか1つが更新されます。各フィールドはそれぞれ特定のエラー状態を示します。

フィールド	エラーの内容
GPIN07	該当する勘定科目が現行の連結にはありますが、前回の連結にはありません。このエラーは、前述の最初の2つのバージョンで表示されます。
GPIN08	該当するビジネスユニットが現行の連結にはありますが、前回の連結にはありません。このエラーは、前述の最初の2つのバージョンで表示されます。
GPIN05	該当する勘定科目が前回の連結にはありますが、現行の連結にはありません。このエラーは、前述の最後の2つのバージョンで表示されます。
GPIN06	該当するビジネスユニットが前の連結にはありますが、現行の連結にはありません。このエラーは、前述の最後の2つのバージョンで表示されます。

## 前期残高の整合性レポートの実行

「整合性レポート」(G1022)の「前期残高の整合性」を選択します。

## 前期残高の整合性(R10700)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、レポートのデフォルト処理を指定できます。

### 状況

#### 1. 整合性状況

前回の連結残高が検出されない場合に不整合と判断するには、「1」を入力します。連結を初めて作成する最初の期間では、比較対象の前回の残高データが存在しないので、この処理オプションを「1」に設定しないでください。

この処理オプションをブランクにすると、前回の残高が検出されない場合はレポートにメッセージが印刷されますが、エラーや不整合の原因にはなりません。

## ユーザー定義コード値制御例外レポートの実行

「整合性レポート」(G1022)の「ユーザー定義コード値制御」を選択します。

## ユーザー定義コード値制御例外(R107011)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、レポートのデフォルト処理を指定できます。

### バージョン

#### 1. UDC制御ファイル・バージョン

検証するUDC制御ファイル・バージョンの固有の名前を入力します。ブランクのままにすると、ブランクの名前が使用されます。

## 主科目/補助科目制御例外レポートの実行

「整合性レポート」(G1022)の「主科目/補助科目制御」を選択します。

## 主科目/補助科目制御例外レポート(R107021)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、レポートのデフォルト処理を指定できます。

### データ選択

1. 主/補助科目制御ファイル・バージョン      検証する主/補助科目制御ファイル・バージョンの固有の名前を入力します。ブランクのままにすると、ブランクの名前が使用されます。
2. ファイル・データ選択      固有の主科目と補助科目を選択するには「1」を入力します。この処理オプションをブランクにすると、固有の主科目のみが選択されます。

## ビジネスユニット/勘定科目月次比較レポート(R10701)の実行

「整合性レポート」(G1022)の「ビジネスユニット/勘定科目月次比較」を選択します。

### ビジネスユニット/勘定科目月次比較レポートのデータ選択およびデータ順序の設定

データ選択またはデータ順序は変更しないでください。レポートの各バージョンには適切なデータ選択およびデータ順序が設定されています。

## ビジネスユニット/勘定科目月次比較レポート(R10701)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、レポートのデフォルト処理を指定できます。

### 処理

1. 整合性テストを実行するサイト      整合性テストが実行されているサイトを入力します。値は次のとおりです。
  - 1: ソース・サイト
  - 2: ターゲット・サイト
2. 整合性状況      前回の連結残高が検出されない場合に不整合と判断するには、「1」を入力します。連結を初めて作成する最初の期間では、比較対象の前回の残高データが存在しないので、この処理オプションを「1」に設定しないでください。  
 この処理オプションをブランクにすると、前回の残高が検出されない場合はレポートにメッセージが印刷されますが、エラーや不整合の原因にはなりません。

## 連結貸借対照表レポートの実行

「整合性レポート」(G1022)の「連結貸借対照表」を選択します。

## 連結貸借対照表(R10150)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、レポートのデフォルト処理を指定できます。

## 符号

1. 符号の反転 負債勘定の金額をマイナスで印刷するには、「1」を入力します。この処理オプションをblankにすると、金額はプラスで印刷されます。

## 勘定科目

次の各処理オプションに開始主科目をそれぞれ入力してください。

1. 資本勘定-開始 (必須) 資本の開始主科目を入力します。この処理オプションを設定していないと、レポートは実行されません。
2. AAI (省略可) 次に対する開始主科目をそれぞれ入力します。  
資産勘定-開始  
負債勘定-開始  
営業利益  
blankにすると、AAI項目 GLG2、GLG3およびGLGに指定されている勘定科目がそれぞれ適用されます。

## 連結損益計算書レポートの実行

「整合性レポート」(G1022)の「連結損益計算書」を選択します。

## 連結損益計算書(R10250)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

## 符号

1. 符号の反転 費用および負債勘定の金額をマイナスで印刷するには、「1」を入力します。この処理オプションをblankにすると、金額はプラスで印刷されます。

## 勘定科目

1. 開始主科目 次の開始主科目をそれぞれ入力します。  
収益の開始勘定  
売上原価の開始勘定  
営業外収益の開始勘定  
営業外費用の開始勘定  
blankにすると、AAI項目 GLG6、GLG8、GLG11およびGLG13に指定されている勘定科目がそれぞれ適用されます。

---

## 連結状況の検討

この項では、連結コンソール・プログラムの概要と連結状況の検討方法について説明します。



## 連結コンソール・プログラムについて

ターゲット会社への連結の送信、またはソース会社からの連結の受信のどちらの場合でも、連結の状況をモニタリングする必要があります。連結コンソール・プログラム (P10610) では、次の処理を実行できます。

- 連結データの伝送状況のモニタリング
- 整合性レポートのモニタリング
- ターゲット会社への連結残高の送信
- 以前に処理された連結データの削除

ソース会社とターゲット会社の両方で、ソースからターゲットに送信された連結データと、ターゲットで処理された連結データをトラッキングする必要があります。各連結名とバッチの状況が F1001、F1002、および F1003 テーブルに保管されます。これらのテーブルは、ソースとターゲットの両方のサイトに存在します。

「ファイル伝送状況」フィールドに設定できる値は次のとおりです。

ファイル伝送状況	状況の説明
ブランク	未伝送。
P	保留。伝送処理を実行中です。
1	ソース・テーブル: 伝送済。 ターゲット・テーブル: 受信済。
2	処理済。
3	以前に処理済。

連結状況は次の処理の実行中に更新されます。

処理	処理内容
複数サイト連結データ伝送 (R10610)	ソースでは、連結レコードがターゲットにコピーされます。ソースでレコードの伝送状況が「1」に変更されます。ターゲットでは状況が「1」のレコードが作成されます。
連結残高仕訳 (R10480)	ターゲットでは、仕訳作成時に連結レコードの伝送状況が「2」に更新されます。また、ターゲット・サイトにおいて、処理済のレコードの状況も「2」から「3」に更新されます。

ターゲットは、バッチ処理を実行してターゲット・サイトで仕訳を作成した後、ソースと通信します。ソースは該当レコードの伝送状況を「1」から「2」に手作業で更新する必要があります。該当レコードに伝送状況が「2」の処理済のバッチが存在する場合、そのバッチは伝送状況「3」に更新されます。

また、連結コンソール・プログラムでは、設定した処理オプションを基に、ソースおよびターゲット・サイトでどの整合性レポートを実行する必要があるかが特定されます。各整合性レポートが実行されたかどうか、および整合性について合格か不合格かも表示されます。この情報は、詳細グリッドの整合性状況の各フィールドに表示されます。

整合性状況フィールドに設定できる値は次のとおりです。

整合性状況	状況の説明
ブランク	整合性未実行
0	整合性未実行
1	整合性合格
2	整合性不合格
9	一時変更。整合性状況に関係なく伝送

ターゲット会社へ連結残高を送信する準備が完了したら、連結コンソール・プログラムを使用して情報を送信できます。

F1001、F1002、およびF1003テーブルの連結勘定残高は、削除しないかぎりテーブルに残ります。ソースまたはターゲットの両サイトで、これらのレコードを定期的に削除してください。

## 連結残高の検討に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
連結コンソール	W10610A	「複数サイト連結」(G1021)、「連結コンソール」	連結状況の検討、整合性レポートのモニタリング、ターゲット会社への連結残高の送信、および処理済の連結の削除を行います。

## 連結状況の検討

「連結コンソール」フォームにアクセスします。

「連結コンソール」フォーム

## ターゲット会社への連結残高のバッチ送信

この項では、ターゲット会社への連結残高の送信処理と複数サイト連結データ伝送プログラムの概要、および次の方法について説明します。

- 複数サイト連結データ伝送プログラムの実行
- 複数サイト連結データ伝送の処理オプションの設定

## ターゲット会社への連結残高の送信処理について

整合性レポートを実行して連結状況を確認することで、ターゲット会社への連結残高の送信準備が完了します。

次の2つのプログラムを使用して、連結残高をターゲット会社にバッチ送信またはオンライン送信できます。

- 複数サイト連結データ伝送バッチ・プログラム (R10610)
- 連結コンソール対話型プログラム (P10610)

どちらのプログラムを使用してもソースまたはターゲットから伝送を開始できます。バッチ・プログラムを使用すると、一度に複数連結を選択して送信できます。

ターゲット会社は、連結残高を受け取るとバッチ仕訳を作成して処理します。

## 複数サイト連結データ伝送プログラムについて

複数サイト連結データ伝送プログラム (R10610) を使用して、F1001、F1002、および F1003 テーブルのファイル伝送状況フィールドに表示されている連結残高をターゲット会社へ送信します。一度に複数連結を選択して送信できます。

このプログラムには2つのバージョンがあります。バージョン XJDE0001 は変更しないでください。バージョン XJDE0002 は変更できます。

ソース環境名とターゲット環境名の入力が求められます。どちらの環境も、ブラウズ機能を使用して検索できます。ソース環境を空白のままにすると、ユーザーの環境がソース環境として使用されます。ターゲット環境を空白のままにすると、ユーザーの環境がターゲット環境として使用されます。

整合性レポートのどこかに問題があった場合に連結残高の伝送を実行できないように処理オプションを設定できます。

## 事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- F1001、F1002、および F1003 テーブルがローカル・ドライブに存在しているか、またはサーバー上のこれらのテーブルにアクセスできることを確認します。
- オブジェクト構成マネージャ・プログラム (P986110) を使用して、複数サイト連結データ伝送プログラム (R10610) をローカル・ドライブにマッピングします。

## 複数サイト連結データ伝送プログラムの実行

「複数サイト連結」(G1021) の「複数サイト連結データ伝送」を選択します。

## 複数サイト連結データ伝送 (R10610) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムのデフォルト処理を指定できます。

### 整合性

各処理オプションに対して指定の整合性レポートを実行しなくても、データの伝送に影響はありません。

**前期間調整**

データを伝送する前に、前期残高の整合性レポートを実行して、整合性について合格する必要があるかないかを指定します。前回の連結以降に変更された、前期間の連結残高が見つからない場合は、整合性について合格と判断されます。値は次のとおりです。

ブランク: 整合性レポートが不合格でも、データを伝送します。

1: 整合性レポートが合格の場合のみ、データを伝送します。

**貸借一致**

データを伝送する前に、借方と貸方が一致しているかどうか検証する整合性プロセスを実行して、整合性について合格する必要があるかないかを指定します。この整合性プロセスは、レコードがF1001およびF1002テーブルに書き込まれる前に実行される内部プロセスです。値は次のとおりです。

ブランク: データを伝送する前に、借方と貸方が一致しているかどうか検証する整合性プロセスで合格する必要はありません。

1: データを伝送する前に、借方と貸方が一致しているかどうか検証する整合性プロセスで合格する必要があります。

**ソースUDC = ターゲットUDC**

データを伝送する前に、ユーザー定義コード値制御整合性レポート(R107011)を実行して、整合性について合格する必要があるかないかを指定します。ターゲット会社が認識しないユーザー定義コード値のインスタンスが連結に含まれていない場合は、整合性について合格と判断されます。値は次のとおりです。

ブランク: 整合性レポートが不合格でも、データを伝送します。

1: 整合性レポートが合格の場合のみ、データを伝送します。

**ソース主/補助科目 = ターゲット主/補助科目**

データを伝送する前に、主科目/補助科目制御整合性レポートを実行して、整合性について合格する必要があるかないかを指定します。ターゲット会社が認識しない主科目/補助科目のインスタンスが連結に含まれていない場合は、整合性について合格と判断されます。値は次のとおりです。

ブランク: 整合性レポートが不合格でも、データを伝送します。

1: 整合性レポートが合格の場合のみ、データを伝送します。

**前月の勘定科目**

データを伝送する前に、ビジネスユニット/勘定科目月次比較レポートの“今月ではなく前月の勘定科目”バージョンに合格する必要があるかないかを指定します。前月の連結に表示されたすべての勘定科目が今月の連結にも表示された場合、整合性について合格したと判断されます。値は次のとおりです。

ブランク: 整合性レポートが不合格でも、データを伝送します。

1: 整合性レポートが合格の場合のみ、データを伝送します。

**前月のビジネスユニット**

データを伝送する前に、ビジネスユニット/勘定科目月次比較レポートの“今月ではなく前月のビジネスユニット”バージョンに合格する必要があるかないかを指定します。前月の連結に表示されたすべてのビジネスユニットが今月の連結にも表示された場合は、整合性について合格と判断されます。値は次のとおりです。

ブランク: 整合性レポートが不合格でも、データを伝送します。

1: 整合性レポートが合格の場合のみ、データを伝送します。

**当月の勘定科目**

データを伝送する前に、ビジネスユニット/勘定科目月次比較レポートの“前月ではなく今月の勘定科目”バージョンに合格する必要があるかないかを指定します。今月の連結に表示されたすべての勘定科目が前月の連結

にも表示された場合、整合性について合格と判断されます。値は次のとおりです。

空白: 整合性レポートが不合格でも、データを伝送します。

1: 整合性レポートが合格の場合のみ、データを伝送します。

#### 当月のビジネスユニット

データを伝送する前に、ビジネスユニット/勘定科目月次比較レポートの“前月ではなく今月のビジネスユニット”バージョンに合格する必要があるかないかを指定します。今月の連結に表示されたすべてのビジネスユニットが前月の連結にも表示された場合、整合性について合格と判断されます。値は次のとおりです。

空白: 整合性レポートが不合格でも、データを伝送します。

1: 整合性レポートが合格の場合のみ、データを伝送します。

---

## ターゲット会社への連結残高のオンライン送信

この項では、ターゲット会社への連結残高の送信処理と連結コンソール・プログラムの概要、および次の方法について説明します。

- 連結コンソールの処理オプションの設定
- ターゲット会社への連結残高のオンライン送信

### ターゲット会社への連結残高の送信処理について

整合性レポートを実行して連結状況を確認することで、ターゲット会社への連結残高の送信準備が完了します。

次の2つのプログラムを使用して、連結残高をターゲット会社にバッチ送信またはオンライン送信できます。

- 複数サイト連結データ伝送バッチ・プログラム (R10610)
- 連結コンソール対話型プログラム (P10610)

どちらのプログラムを使用してもソースまたはターゲットから伝送を開始できます。バッチ・プログラムを使用すると、一度に複数連結を選択して送信できます。

ターゲット会社は、連結残高を受け取るとバッチ仕訳を作成して処理します。

### 連結コンソール・プログラムについて

連結コンソール・プログラム (P10610) を使用して、F1001、F1002、および F1003 テーブルの連結残高をターゲット会社にオンライン送信できます。

整合性レポートのどれかに問題があった場合に連結残高の伝送を実行できないように処理オプションを設定できます。「連結コンソール」フォームに、各整合性レポートが実行されたかどうか、および整合性について合格したかどうかが表示されます。

## ターゲット会社への連結残高のオンライン送信に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
連結コンソール	W10610A	<p>「複数サイト連結」(G1021)、「連結コンソール」</p> <p>「連結コンソール」フォーム上で、ターゲット会社へ連結残高を送信する連結を選んで、「ロー」メニューの「伝送」を選択します。</p>	連結状況の検討、整合性レポートのモニタリング、ターゲット会社への連結残高の送信、および処理済の連結の削除を行います。

## 連結コンソール(P10610)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムのデフォルト処理を指定できます。

### 整合性

#### 1. 整合性

連結バッチを伝送する前に、整合性について合格することを必須条件にする整合性レポートには、「1」を入力します。整合性に問題があっても、または整合性レポートを実行しなくても、データの伝送に影響はありません。整合性処理オプションに対応する整合性レポートは次のとおりです。

前期間調整

貸借一致

ソースUDC = ターゲットUDC

ソース主/補助科目 = ターゲット主/補助科目

前月の勘定科目

前月のビジネスユニット

当月の勘定科目

当月のビジネスユニット

## ターゲット会社への連結残高のオンライン送信

「連結コンソール」フォームにアクセスします。

ソース環境名とターゲット環境名の入力が必要です。どちらの環境も、ブラウザ機能を使用して検索できます。ソース環境をブランクのままにすると、ユーザーの環境がソース環境として使用されます。ターゲット環境をブランクのままにすると、ユーザーの環境がターゲット環境として使用されます。

### ファイル転送状況

F1001テーブルのレコード状況を入力します。値は次のとおりです。

ブランク: 未伝送。

P: 保留。伝送処理を実行中です。

1: 伝送済。

2: 前回処理されたレコード。

3: 以前処理されたレコード。

<b>サイトID</b>	トランザクションのソースを入力します。有効な値は、ユーザーID、ワークステーション、外部システムのアドレス、ネットワークのノードなどです。このフィールドは、トランザクションとそのソースの両方を識別する際に役立ちます。
<b>環境</b>	電子データ交換(EDI)処理でトランザクションに割り当てられる番号を入力します。  EDIを使用しない場合は、バッチ内のトランザクションを識別するために、任意の番号を指定できます。伝票番号と同じ番号を使用することもできます。
<b>バッチNo.範囲</b>	送信時にバッチに割り当てられる番号を入力します。バッチ処理では、システム内で制御(ユーザー)バッチ番号が検出されたトランザクションごとに、新しいバッチ番号が割り当てられます。

## EnterpriseOne以外のソース・サイトから受信した連結残高の処理

この項では、受信複数サイト連結と受信複数サイト連結処理の概要、および次の方法について説明します。

- 受信連結データの処理
- 受信連結データの処理の処理オプションの設定

### 受信複数サイト連結について

ターゲット・サイトで、JD Edwards EnterpriseOne一般会計システムを使用しないソース・サイトからの複数サイト連結を処理できます。ソース・サイトでは、指定された形式で連結情報を2つのテーブルに入力してターゲット・サイトに送信する必要があります。この2つのテーブルとは、未編集の複数サイト連結インタオペラビリティ見出しテーブル(F1001Z1)と未編集の複数サイト連結インタオペラビリティ詳細テーブル(F1002Z1)です。

### 受信複数サイト連結の処理について

EnterpriseOne以外のソース・サイトから複数サイト連結情報をEnterpriseOneのシステムにアップロードするには、適切なデータをF1001Z1テーブルおよびF1002Z1テーブルの各フィールドに提供するカスタム・プログラムを作成する必要があります。この2つのテーブルは、F1001およびF1002テーブルに連結情報を作成するために処理されます。これらのテーブルのフィールド名は、JD Edwards EnterpriseOne一般会計システムの対話型フォームのフィールド名に対応しています。

参照: 付録 E、「受信複数サイト連結のフィールドのマッピング」517ページ

ターゲット・サイトで、受信連結データの処理プログラム(R1002Z1)を実行してテーブルの処理をする際に、F1001ZとF1002Z1テーブルの情報が読み込まれ、F1001およびF1002テーブルにレコードが作成されます。必要に応じて、既存のトランザクションを改訂したり、新しいトランザクションを追加できます。また、F1001ZとF1002Z1テーブルのデータを除去することもできます。

受信連結データの処理プログラムは、テスト・モードと最終モードのどちらでも実行できます。テスト・モードで実行すると、F1001とF1002テーブルに書き込まれるトランザクションを表示したレポートが印刷されます。最終モードでは、レポートが印刷され、これらのテーブルにトランザクションが書き込まれます。エラー・メッセージはワーク・センターに書き込まれます。

受信データを処理した後で、次の整合性レポートを実行します。

- 前期残高の整合性
- ユーザー定義コード値制御
- 主科目/補助科目制御
- ビジネスユニット/勘定科目月次比較
- 連結貸借対照表
- 連結損益計算書

受信連結を処理し、必要に応じて改訂した後で、集計勘定残高の仕訳を作成し、仕訳が正確かどうか確認して処理できます。

## 受信連結データの処理

「受信複数サイト連結データ」(G1023)の「受信連結データの処理」を選択します。

## 受信連結データの処理(R1002Z1)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### モード

1. モード  
受信連結の処理の実行モードを入力します。値は次のとおりです。  
1: テスト・モード(レポートの作成)。  
2: 最終モード。F1001Z1テーブルのレコードはF1001テーブルに、F1002Z1のレコードがF1002にそれぞれ書き込まれます。

### 仕訳処理

1. 仕訳処理  
実行する連結残高仕訳レポートのバージョンを入力します。この処理オプションをblankにすると、このレポートは実行されません。

### データ除去

1. データ除去  
全処理過程を完了した後でF1001Z1とF1002Z1テーブルのすべてのデータを除去するには、「1」を入力します。この処理オプションをblankにすると、これらのテーブルのデータは除去されません。

---

## 受信連結の改訂

この項では、受信連結の改訂の概要と、その方法について説明します。

## 受信連結の改訂について

整合性レポートの実行後、対応する仕訳を作成する前に受信連結の改訂、または受信連結レコードの追加が必要になる場合があります。これらの場合には、受信連結データの改訂プログラム(P1002Z1)を使用して連結データを改訂します。



## 受信連結の改訂に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
複数サイト連結(未編集トランザクション)の処理	W1002Z1A	「受信複数サイト連結データ」(G1023)、「受信連結データの改訂」	受信複数サイト連結を検討します。
複数サイト連結(未編集トランザクション)の改訂	W1002Z1B	「複数サイト連結(未編集トランザクション)の処理」フォームで、改訂するレコードを選択します。  受信複数サイト連結のレコードを追加するには、「複数サイト連結(未編集トランザクション)の処理」フォームで「追加」をクリックします。	受信複数サイト連結のレコードを追加し、検討します。

## 受信連結の改訂

「複数サイト連結(未編集トランザクション)の改訂」フォームにアクセスします。

## 受信連結データの除去

この項では、受信連結データの除去について説明します。

## 受信連結データの除去

「受信複数サイト連結データ」(G1023)の「受信連結データの除去」を選択します。

処理済の複数サイト連結は、ユーザーが除去するまでF1001Z1およびF1002Z1テーブルに保管されます。処理が正常に完了した後、連結データを除去する必要があります。

**注意:** 受信連結データの処理プログラムの処理オプションの設定により、処理完了時にテーブルを自動的に除去できます。

## 複数サイトのバッチ仕訳の作成

この項では、連結残高仕訳プログラムの概要と、次の方法について説明します。

- 複数サイトのバッチ仕訳の作成
- 連結残高仕訳のデータ選択の設定
- 連結残高仕訳の処理オプションの設定

## 連結残高仕訳プログラムについて

ターゲット会社で複数サイト連結データを受け取った後に、整合性レポートを実行して受け取ったデータが正確であるか確認します。その後、連結残高仕訳プログラム(R10480)を実行して、ソース・サイトから受信した集計勘定残高の仕訳を作成する必要があります。これらの仕訳は、異なる連結バッチ間の相違に基づいて作成されます。

連結残高仕訳プログラムを実行すると、F1001、F1002、およびF1003テーブルの情報が読み込まれ、仕訳アップロード・テーブル(F0911Z1)に仕訳が作成されます。

このバッチ・プログラムは、テストまたは最終モードで実行できます。テスト・モードでは、仕訳のレポートが印刷されますが、F0911Z1テーブルは更新されません。最終モードでは、F0911Z1テーブルに仕訳が作成され、処理オプションの設定に基づいてレポートに印刷されます。

このレポートには、ソース会社の集計残高仕訳がソース・システムIDおよびバッチ番号別に印刷されます。また、バッチ合計も印刷されます。

BU(ビジネスユニット)カラムとAC(勘定科目)カラムには、自動的に作成されたビジネスユニットと勘定科目の情報が出力されます。これらのカラムに表示される値は次のとおりです。

値	説明
ブランク	ビジネスユニットまたは勘定科目がすでに存在します。
1	処理中にエラーが発生したため、ビジネスユニットまたは勘定科目は自動作成されませんでした。
2	ビジネスユニットまたは勘定科目が自動作成されました。

F0911Z1テーブルに仕訳が作成される際、各仕訳に対して次の処理が実行されます。

- ・ 摘要フィールドに、ソース・システムID、バッチ番号、伝送日付の組合せが入力される。
- ・ トランザクションNo.フィールドに、連結名が入力される。
- ・ 元帳日付フィールドに、対応する会計処理期間の最終日付が入力される。
- ・ ユーザーIDフィールドにソース・システムIDが入力される。

**注意:** 勘定科目の種類にかかわらず、F0902テーブルの繰越残高フィールドは常に更新されます。通常、損益計算書勘定の繰越残高金額は印刷されません。ただし、複数サイト連結の開始日以降累計レポートを作成できるように、損益計算書勘定の期首残高が印刷されます。

ビジネスユニットまたは勘定科目が、連結残高仕訳の作成プログラムにより自動的に作成された場合、最新の情報を表示したレポートが作成されます。

## 事前設定

次のレポートをターゲット会社で実行してください。

- ・ 前期残高の整合性
- ・ ユーザー定義コード値制御
- ・ 主科目/補助科目制御
- ・ ビジネスユニット/勘定科目月次比較

- 連結貸借対照表
- 連結損益計算書

## 複数サイトのバッチ仕訳の作成

「複数サイト連結」メニュー(G1021)の「連結残高仕訳」を選択します。

## 連結残高仕訳のデータ選択の設定

データ選択で、伝送済ファイルの状況を「1」に設定します。

## 連結残高仕訳(R10480)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### モード

1. モード  
プログラムの実行モードを指定します。  
0: テスト・モードでレポート出力(デフォルト)  
1: 最終モードでレポート出力  
2: 最終モード(レポートなし)

### 会社

1. 連結対象の会社  
更新する連結会社の会社番号を入力します。この処理オプションを空白にすると、F1001テーブルで定義されている会社が使用されます。

### 元帳タイプ

1. 元帳タイプ  
ユーザー定義コード・テーブル09/LTから、更新する元帳タイプを入力します。この処理オプションを空白にすると、F1001テーブルで定義されている元帳タイプが使用されます。

### 前期間

1. 前期間の調整  
調整仕訳の作成について指定します。値は次のとおりです。  
空白: 調整仕訳を作成しない。選択したレコードは処理されず、レポートにはエラーが表示されます。  
1: 前期間と現行期間の連結差異に対する調整仕訳を前期間に作成する。  
2: 現行期間に調整仕訳を作成する。  
3: 前期間との差異を無視する。
2. 勘定残高テーブルの直接更新  
前期間と現行期間の繰越残高の連結差異をF0902テーブルに直接書き込むには、「1」を入力します。この処理オプションを空白にすると、F0902テーブルは更新されません。

## ビジネスユニット

### 1. ビジネスユニットの自動作成

連結テーブルには存在するがF0006テーブルには存在しないビジネスユニットを自動的に作成するには、「1」を入力します。F1002テーブルのビジネスユニットがターゲットに存在しない場合、ビジネスユニットは自動的に作成されます。

この処理オプションをブランクにすると、ビジネスユニットは作成されません。

### 2. ビジネスユニット・タイプ

ビジネスユニットの作成に使用するビジネスユニット・タイプを入力します。

## 勘定科目コード

### 1. 勘定科目の自動作成

自動作成する勘定科目を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 勘定科目は自動作成されません。

1: 連結テーブルには存在するがF0901テーブルには存在しない勘定科目を自動作成するには、「1」を入力します。

2: 連結テーブルには存在するがF0901テーブルには存在しない勘定科目を、主科目のみの編集によって動的に作成します。主科目が勘定科目マスターにある場合、補助科目に関係なく勘定科目が作成されます。

F1002テーブルの勘定科目がターゲットに存在しない場合、勘定科目は自動的に作成されます。

## 仕訳処理

### 1. 自動バッチ仕訳処理

バッチ仕訳の作成後、バッチ仕訳処理プログラム(R09110Z)を自動的に実行するには、「1」を入力します。この処理オプションをブランクにすると、このプログラムは自動的に実行されません。

### 2. バージョン

実行するバッチ仕訳処理プログラムのバージョンを入力します。この処理オプションをブランクにすると、バージョンZJDE0002が使用されます。

---

## 複数サイトのバッチ仕訳の処理および除去

この項では、複数サイトのバッチ仕訳の処理および除去の概要と、次の方法について説明します。

- 複数サイトのバッチ仕訳の処理
- 複数サイトのバッチ仕訳の除去

### 複数サイトのバッチ仕訳の処理および除去について

バッチを処理する前に、仕訳の改訂プログラム(P0911Z1)を使い、複数サイト連結の仕訳を検討して修正できます。F0911Z1テーブルに作成された仕訳を個別に検討できます。仕訳の検討プログラムを使用して、仕訳を改訂することもできます。たとえば、処理する前に追加や修正が必要な場合に役立ちます。

複数サイト連結仕訳を検討および改訂した後、バッチ仕訳処理プログラム(R09110Z)を実行して、F0911Z1テーブルの仕訳を処理し、F0911テーブルに書き込みます。

バッチ仕訳処理プログラムを実行後、F0902テーブルに連結の金額が反映されるように、バッチを転記する必要があります。

処理済仕訳は、一括して削除するまでバッチ・テーブルに保管されたままになります。バッチ処理を正常に完了した後は、処理済のバッチを除去してください。

## バッチ仕訳の処理

「複数サイト連結」(G1021)の「バッチ仕訳処理」を選択します。

**関連項目:**

第 14 章、「バッチ仕訳の処理」、137ページ

## 処理済の複数サイト仕訳の除去

「複数サイト連結」(G1021)の「処理済み仕訳の除去」を選択します。

**関連項目:**

第 14 章、「バッチ仕訳の処理」、「処理済バッチ仕訳の除去」、142ページ



## 第 34 章

# 勘定残高と取引明細の検討

この章では、オンライン照会、法定照会、試算表、取引明細と勘定残高の照会の概要、および次の方法について説明します。

- 試算表、元帳および補助元帳の検討
- 試算表の検討
- 取引明細の検討
- 勘定残高の検討

---

**注意:** チリとペルーには、勘定残高と取引明細の検討用の国別機能が用意されています。

---

## オンライン照会について

オンライン照会プログラムを使って、総勘定元帳の最新の情報にアクセスできます。

通常、オンライン照会ではF0902テーブルとF0911テーブルの情報が使われます。試算表および勘定残高の照会にはF0902テーブルの情報が使用され、取引明細の照会にはF0911テーブルの情報が使用されます。

オンライン照会の情報を表示する際は、次の2つのAAI(自動仕訳)が使用され、損益計算書勘定が決定されます。

- GLG6 – 収益の開始勘定
- GLG12 – 損益計算書の終了勘定

この範囲(GLG6からGLG12)にない勘定科目は、貸借対照表勘定とみなされます。これらのAAI勘定は、試算表の残高レポートまたは照会の残高を取り込む場合にも使用されます。

オンライン照会ごとに、必要に応じて会計情報を異なる詳細レベルで集計できます。

---

## 法定照会について

法定照会プログラムで、政府に対するレポートに使用する情報を得ることができます。法定情報を表示するには、次のオンライン照会プログラムを使います。

- 勘定科目の照会(カテゴリ・コード別)(P09202)
- 残高の照会(勘定科目/カテゴリ・コード別)(P76H9006)
- 代替勘定科目の照会(P09218A)

**関連項目:**

JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「勘定科目表の作成」、「法定レポート作成用の代替勘定科目表の定義」

## 試算表の照会について

各勘定科目の試算表を迅速に様々な順序で表示するには、試算表照会プログラムを使います。これらの照会プログラムでは、F0902テーブルの集計情報を取り込んだり、より詳細な情報を得ることができます。

勘定科目の検討方法や取得する参照情報によって、次の試算表の照会プログラムの中から適切なプログラムを選択します。

照会	説明
試算表と元帳の比較 (P09210A)	特定のビジネスユニットの勘定残高、または特定の勘定科目の残高が表示されます。
試算表 (主科目別) (P09214)	すべてのビジネスユニットの勘定残高および勘定科目コードの不一致が表示されます。このプログラムの機能を有効に利用するには、すべてのビジネスユニットで勘定科目コードを統一しておく必要があります。
試算表 (会社別) (P09216)	会社一社に対するすべてのビジネスユニット内の勘定残高情報が表示されます。
試算表 (補助元帳別) (P09215)	勘定残高情報が補助元帳別に表示されます。

前述の4つのプログラムには、期間の終了日付のみでなく、特定の日付の勘定残高を確認できるように設定できる処理オプションもあります。

確認する勘定残高の日付を特定しない場合、プログラムは会社固定情報テーブル (F0010) から現行 (オープン) 期間を特定し、対応する期間の終了日付を会計期間パターン・テーブル (F0008) から読み込みます。

貸借対照表勘定の累計残高には前年度の繰越残高が含まれます。損益計算書の累計残高には前年度の残高は含まれません。

## 取引明細および勘定残高の照会について

取引明細や勘定残高明細を、様々な形式や順序で検討する必要がある場合があります。元帳と残高のオンライン照会プログラムを使用すると、特定の勘定科目に対する情報を取得できます。これらのプログラムには、取引明細が保管されているF0911テーブルまたは転記済残高が保管されているF0902テーブル、あるいはこの両方のテーブルからの情報が表示されます。検討対象や情報の表示方法に応じて、適切な照会プログラムを選択します。次の表に、取引明細や勘定残高の照会プログラムを示します。



照会	説明
取引明細照会 (P09200)	F0911テーブルの取引明細が表示されます。
勘定科目の照会 (主科目別) (P09201)	すべてのビジネスユニットに関し、選択した主科目を使用してF0911テーブルの取引明細が表示されます。
勘定科目の照会 (カテゴリ・コード別) (P09202)	法定 (代替) 勘定科目表用に設定したカテゴリ・コードの1つを使って、F0911テーブルから取引明細が表示されます。
勘定残高 (月別) (P0902P1)	F0902テーブルから、会計年度の各期間の月次増減金額と月累計残高が表示されます。損益計算書には転記額の合計、貸借対照表勘定には繰越残高が含まれます。
勘定科目残高 (補助元帳別) (P092131)	F0902テーブルから、補助元帳および補助元帳タイプ別に、現行期間と年累計の残高および転記済金額が表示されます。
代替勘定科目の照会 (P09218A)	法定 (代替) 勘定科目表用に設定したカテゴリ・コードの1つを使って、F0902テーブルから会社別または組織構造別に残高が表示されます。
試算表と元帳の比較 (P09210A)	F0902テーブルの2つの元帳の残高が表示されます。各元帳について算出された比較結果や累計残高も取り込むことができます。このプログラムは、予算と実績金額を比較する場合に役立ちます。

## 試算表、元帳および補助元帳の検討

この項では、試算表および元帳比較の概要と、次の方法について説明します。

- 試算表と元帳の比較 (P09210A) の処理オプションの設定
- 試算表/元帳比較の検討
- 補助元帳別試算表の情報の検討

### 試算表と元帳の比較について

試算表と元帳の比較プログラム (P09210A) を使用して、特定の勘定科目の残高や、ビジネスユニット内のすべての勘定科目の残高を検討します。2つの元帳間の勘定残高を分析することが必要な場合もあります。このプログラムは、予算金額と実際金額の比較を行う際、または予算差異を分析するときに特に役立ちます。

また、このプログラムで、情報を検討する際の詳細レベルを指定します。異なる会計年度や特定の元帳日付からの元帳タイプを比較することもできます。詳細グリッドのカラムを設定して、勘定残高の表示形式を定義することもできます。

残高と差異の計算方法については、処理オプションを使って定義します。この処理オプションで指定した元帳タイプおよび計算方式が使用され、差異が計算されます。元帳タイプまたは計算方式を変更すると、差異も変化します。

## 勘定残高、元帳および補助元帳の検討に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
試算表/元帳比較	W09210AA	「レポートおよびオンライン照会」(G0912)、「試算表と元帳の比較」。勘定科目を検討するには、勘定科目を選択し、「ロー」メニューで「補助元帳別残高」を選択します。	特定の勘定科目またはビジネスユニット内のすべての勘定科目、および2つの元帳に対する試算表の集計情報を検討します。
勘定科目残高(補助元帳別)	W092131A	「レポートおよびオンライン照会」(G0912)、「勘定科目残高(補助元帳別)」	勘定科目の補助元帳情報を検討します。

## 試算表と元帳の比較(P09210A)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### デフォルト

- 元帳タイプ1**  
元帳タイプ1のデフォルトとなる元帳を指定します。この処理オプションをブランクにした場合、元帳タイプBAが使用されます。
- 元帳タイプ2**  
元帳タイプ2のデフォルトとなる元帳を指定します。この処理オプションをブランクにすると、元帳タイプAAが使用されます。
- 他のアプリケーションで使用する元帳タイプ**  
他のプログラムにアクセスしているときに適用する元帳タイプを指定します。値は次のとおりです。  
ブランクまたは1: 元帳タイプ1  
2: 元帳タイプ2

### 表示オプション

- 残高がゼロの勘定科目の非表示**  
残高がゼロの転記対象勘定科目を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
ブランクまたはN: 表示する。  
Y: 表示しない。  
この処理オプションは転記対象勘定科目にのみ適用されます。非転記見出し勘定科目は、照会フォームに表示されません。
- 計算方法**  
差異を計算するときに適用する計算方法を指定します。値は次のとおりです。  
ブランクまたはS: 減算  
A: 加算  
M: 乗算

## D: 除算

- 3. 追加元帳タイプ1、4. 追加元帳タイプ2** 元帳タイプ1および2の勘定残高を読み込むときに使用する追加元帳タイプを指定します。この処理オプションをblankにすると、これら2つの元帳タイプの残高を読み込む際に追加元帳タイプは使用されません。
- 5. 補助元帳** 勘定残高の読み込みに使用する補助元帳を指定します。補助元帳のあるすべての取引を表示するには、「\*」を入力します。この処理オプションをblankにすると、補助元帳なしの取引が選択されます。
- 6. 補助元帳タイプ** ユーザー定義コード・テーブル00/STから、勘定残高の読み込みに使用する補助元帳タイプを指定します。この処理オプションをblankにすると、blankの補助元帳タイプが使用されます。
- 7. 勘定科目の詳細レベル** 勘定科目に適用する詳細レベルを指定します(3から9)。blankにした場合、「9」が使用されます。

## 通貨

- 1. 通貨コード** 多通貨処理を適用する場合のみ、この処理オプションを使用します。  
勘定残高の読み込みに使用する通貨コードを指定します。この処理オプションをblankにすると、すべての通貨コードが使用されます。

## 選択

- 1. 有効日付残高** 期末終了日付を使用するか、または有効日付の残高を計算するかを指定します。値は次のとおりです。  
blankまたはN: 期間終了日付を使用する。  
Y: 指定した有効日付の残高を計算する。
- 2. デフォルトで表示する項目** 終了日付と終了期間のどちらを表示するか指定します。値は次のとおりです。  
blankまたはN: 終了日付  
Y: 終了期間

## 試算表と元帳の比較の検討

「試算表/元帳比較」フォームにアクセスします。

試算表と元帳の比較 - 試算表/元帳比較

選択(S) 検索(F) 閉じる(L) ロー(R) ツール(T)

一致する勘定科目: 9.8115 ☒ 一致する勘定科目

元帳タイプ1: AA USD 実績金額 詳細レベル: 9 ☐ 期間/日付

元帳タイプ2: BA USD 予算金額 元帳タイプ1終了日: 2005/06/30

タイプ/補助元帳: \* 元帳タイプ2終了日: 2005/06/30

通貨コード: \*

レコード 1-3 グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	勘定科目名	実績金額 当月計上額	予算金額 当月計上額	当月計上額 差異	当月計上額 差異%	実績金額 残高	予算金額
<input type="checkbox"/>	Corporate Administration						
<input type="checkbox"/>	Regular Pay	90,000.00	75,000.00	15,000.00	16.67	195,000.00	
<input type="checkbox"/>	Corporate Administration	90,000.00	75,000.00	15,000.00	16.67	195,000.00	

「試算表/元帳比較」フォーム

**一致する勘定科目**

特定の勘定科目の残高を確認するには、対応する勘定科目コードを入力します。ビジネスユニット内のすべての勘定科目の残高を表示するには、対応するビジネスユニット番号を入力します。

**一致する勘定科目**

「一致する勘定科目」フィールドに入力した値に基づき、このチェックボックスを次のとおりに選択または選択解除します。

特定の勘定科目の残高を確認するには、チェックボックスを選択します。

ビジネスユニット内のすべての勘定勘定科目の残高を確認するには、チェックボックスの選択を解除します。

**元帳タイプ1、元帳タイプ2、タイプ/補助元帳、詳細レベル**

必要に応じて、これらのフィールドのデフォルト情報を変更します。

勘定科目に転記したすべての補助元帳情報を表示するには、「タイプ/補助元帳」フィールドに「\*」を入力します。この処理オプションをブランクにすると、補助元帳なしで転記された金額のみが表示されます。

**期間/日付**

特定の期間の終了日付の勘定残高を確認するには、このチェックボックスを選択します。

期間内の特定の日付の勘定残高を確認するには、このチェックボックスの選択を解除します。

**元帳タイプ1終了日、元帳タイプ2終了日**

これらのフィールドの値は必要に応じて変更します。「元帳タイプ1終了日」および「元帳タイプ2終了日」フィールドをブランクにすると、ビジネスユニットが属する会社のシステム日付が自動的に入力されます。

期間内の特定日付の勘定科目を確認するには、「元帳タイプ1終了日」と「元帳タイプ2終了日」フィールドに指定する日付を入力し、「期間/日付」チェックボックスの選択を解除します。

指定日付の勘定残高を確認するには、このプログラムの「有効日付残高」処理オプションを「Y」に設定する必要があります。

**「ロー」メニューからの別のプログラムへのアクセス**

試算表と元帳の比較プログラムから別のプログラムにアクセスできます。「ロー」メニューからアクセスできるフォームは、次のとおりです。

- 取引明細の処理

- 勘定残高
- 通貨別勘定残高
- 勘定科目残高（補助元帳別）
- オーダー明細の処理
- コミットメント照会の処理

## 補助元帳別試算表の情報の検討

「勘定科目残高（補助元帳別）」フォームにアクセスします。

---

## 試算表の検討

この項では、試算表の検討の概要と次の方法について説明します。

- 試算表（主科目別）（P09214）の処理オプションの設定
- 試算表（会社別）（P09216）の処理オプションの設定
- 試算表（補助元帳別）（P09215）の処理オプションの設定
- 主科目別残高の検討
- 会社別残高の検討
- 補助元帳別残高の検討

## 試算表の検討について

試算表は、次の項目別に検討できます。

- 主科目
- 会社
- 補助元帳

試算表（主科目別）プログラム（P09214）を使用して、すべてのビジネスユニットの勘定残高を検討します。また、2つの元帳タイプの残高を同時に表示できるため、実績金額と通貨または予算金額などを並べて表示して確認できます。

試算表（会社別）プログラム（P09216）を使用して、会社一社に対するすべてのビジネスユニット内の特定の勘定科目の残高情報を検討します。

試算表（補助元帳別）プログラム（P09215）を使用して、1つの元帳またはすべての元帳の勘定残高を検討します。検討可能な残高の元帳タイプは1タイプのみです。

## 試算表の検討に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
主科目別試算表	W09214A	「レポートおよびオンライン照会」(G0912)、「試算表(主科目別)」	すべてのビジネスユニットの勘定科目情報を検討します。
会社別試算表	W09216A	「レポートおよびオンライン照会」(G0912)、「試算表(会社別)」	会社一社に対するすべてのビジネスユニット内の特定の勘定科目に関する勘定残高を検討します。
補助元帳別試算表	W09215B	「レポートおよびオンライン照会」(G0912)、「試算表(補助元帳別)」	特定の補助元帳またはすべての補助元帳の勘定残高を検討します。

## 試算表(主科目別)(P09214)の処理オプションの設定

試算表(主科目別)プログラムの処理オプションは、この項で説明する事項以外は、試算表と元帳の比較プログラムの処理オプションと同一です。

参照: 第 34 章、「勘定残高と取引明細の検討」、「試算表と元帳の比較(P09210A)の処理オプションの設定」、376ページ

### 選択

#### 1. 有効日付残高

期間終了日付を使用するか、または指定した有効日付の残高を計算するかを指定します。値は次のとおりです。

ブランクまたはN: 期間終了日付を使用する。

「終了日付」フィールドには、期間終了日付のみ使用できます。合計金額は、F0902テーブルから読み込まれます。

Y: 指定した有効日付の残高を計算する。

「終了日付」フィールドには、期間内であればどの日付でも入力でき、入力する日付までの合計金額が計算されます。合計金額の計算には、F0902テーブルではなく、F0911テーブルが使われます。

### デフォルト

#### 3. 他のアプリケーションで使用する元帳タイプ

他のプログラムにアクセスしているときに適用する元帳タイプを指定します。値は次のとおりです。

ブランクまたは1: 元帳タイプ1

2: 元帳タイプ2

**注意:** この処理オプションの設定が適用されるのは、勘定残高(月別)(P0902P1)など、1つの元帳タイプしか使用できないプログラムにアクセスする場合のみです。

取引明細照会(P09200)のように2つの元帳タイプを使用できるプログラムでは、元帳タイプ1には呼び出した元のプログラムの元帳タイプ1と同じ値が常に表示され、元帳タイプ2はブランクになります。

## 表示オプション

- 7. モデル勘定科目**      モデル勘定科目を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
                                 ブランクまたはN: 00000以外または\*以外の会社が指定された場合にモデル勘定科目を除外する。  
                                 Y: 00000以外または\*以外の会社が指定された場合にモデル勘定科目を含める。
- 8. 転記/非転記勘定**      転記勘定のみを表示するか、転記勘定と非転記勘定の両方を表示するかを指定します。値は次のとおりです。  
                                 ブランク: 転記勘定のみを表示する。  
                                 1: 転記勘定と非転記勘定を表示する。

## 試算表(会社別)(P09216)の処理オプションの設定

試算表(会社別)プログラムの処理オプションは、この項で説明する事項以外は、試算表と元帳の比較プログラムの処理オプションと同一です。

### 表示

- 3. 元帳タイプ**      ユーザー定義コード・テーブル(09/LT)から、レコードを表示するときに使用する元帳タイプを指定します。この処理オプションをブランクにすると、元帳タイプAAが使用されます。

## 試算表(補助元帳別)(P09215)の処理オプションの設定

試算表(補助元帳別)プログラムの処理オプションは、試算表と元帳の比較プログラムで使用される処理オプションのサブセットです。

参照: 第 34 章、「勘定残高と取引明細の検討」、「試算表と元帳の比較(P09210A)の処理オプションの設定」、376ページ

## 主科目別残高の検討

「主科目別試算表」フォームにアクセスします。

試算表(主科目別) - 主科目別試算表

選択(S) 検索(I) 閉じる(L) ロー(R) ツール(T)

主科目/補助科目 8720 ☒ 一致する勘定科目 ☐ 期間/日付

会社番号 \* 終了日付 2005/06/30

元帳タイプ1 AA USD 実績金額 タイプ/補助元帳 \* \*

元帳タイプ2 BA USD 予算金額 通貨コード \*

レコード 1 - 14

<input type="checkbox"/>	勘定科目コード	勘定科目名	実績金額 当月計上額	予算金額 当月計上額	当月計上額 差異	実績金額 残高
<input type="checkbox"/>	2.8720	Office Supplies Expense	37,869.22	3,300.00	34,569.22	
<input type="checkbox"/>	3.8720	Office Supplies Expense	2,295.50	2,250.00	45.50	
<input type="checkbox"/>	4.8720	Office Supplies Expense	1,125.00		1,125.00	
<input type="checkbox"/>	5.8720	Office Supplies Expense	850.00		850.00	
<input type="checkbox"/>	9.8720	Office Supplies Expense	30,657.29	1,250.00	29,407.29	
<input type="checkbox"/>	70.8720	Office Supplies Expense	1,152.48		1,152.48	
<input type="checkbox"/>	D30.8720	Office Supplies Expense	1,964.41	1,951.00	13.41	
<input type="checkbox"/>	7001.8720	Office Supplies Expense	875.50		875.50	
<input type="checkbox"/>	7101.8720	Office Supplies Expense	1,030.00		1,030.00	
<input type="checkbox"/>	7102.8720	Office Supplies Expense	154.50		154.50	
<input type="checkbox"/>	7130.8720	Office Supplies Expense	154.50		154.50	
<input type="checkbox"/>	8000.8720	Office Supplies Expense	1,591.590		1,591.590	

「主科目別試算表」フォーム

**一致する勘定科目**

「主科目/補助科目」フィールドの勘定科目コードのみの残高を確認するには、このチェックボックスを選択します。

「主科目/補助科目」フィールドに指定した勘定科目コードを持つ勘定科目、および、この勘定科目より大きいコード番号を持つすべての勘定科目を一覧表示するには、このチェックボックスの選択を解除します。

**期間/日付**

期間を指定するには、このチェックボックスを選択して、「終了期間」フィールドに期間番号を入力します。

**終了期間**

期間番号を入力します。このフィールドは、「期間/日付」チェックボックスを選択した場合にのみ表示されます。

**終了日付**

終了日付を指定するには、このフィールドに日付を入力します。このフィールドを空白にすると、会社の現行期間の最終日付が自動的に入力されます。

**「ロー」メニューからの別のプログラムへのアクセス**

試算表(主科目別)プログラムから複数の別のプログラムにアクセスできます。「ロー」メニューからアクセスできるフォームは、次のとおりです。

- 取引明細の処理
- 勘定残高
- 通貨別勘定残高
- 勘定科目残高(補助元帳別)



# 会社別残高の検討

「会社別試算表」フォームにアクセスします。

試算表(会社別) - 会社別試算表

検索① 閉じる(L) ツール①D

会社番号 00001 Financial Distribution Company

主科目/補助科目 8115

元帳タイプ AA USD 実績金額

タイプ/補助元帳

☐ 期間/日付 終了日付 2005/06/30

通貨コード \*

レコード 1 - 1

グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	勘定科目コード	勘定科目名	詳細レベル	実績金額 当月計上額	実績金額 残高	転記編集
<input type="checkbox"/>	8115	Regular Pay	7	90,000.00	195,000.00	

「会社別試算表」フォーム

このフォームに表示されるフィールドは、「主科目別試算表」フォームに類似しています。

参照: 第 34 章、「勘定残高と取引明細の検討」、「主科目別残高の検討」、381ページ

# 補助元帳別残高の検討

「補助元帳別試算表」フォームにアクセスします。

試算表(補助元帳別) - 補助元帳別試算表

選択(S) 検索① 閉じる(L) ロー(R) ツール①D

タイプ/補助元帳 A 00006002 Abbott, Dominique

会社 \*

ビジネスユニット \*

主科目 \*

元帳タイプ AA USD 実績金額

終了日付 2005/06/30

☐ 期間/日付

通貨コード \*

レコード 1 - 24

グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	勘定科目コード	勘定科目名	実績金額 当月計上額	実績金額 残高	補助元帳	補助元帳タイプ
<input type="checkbox"/>	1.1411	Inventory	2,623,256.00-	2,623,256.00-	00006002	A
<input type="checkbox"/>		主科目合計	2,623,256.00-	2,623,256.00-		
<input type="checkbox"/>		ビジネスユニット合計	2,623,256.00-	2,623,256.00-		
<input type="checkbox"/>	4.8740	Travel, Meals and Lodging	1,000.00	1,000.00	00006002	A
<input type="checkbox"/>		主科目合計	1,000.00	1,000.00		
<input type="checkbox"/>		ビジネスユニット合計	1,000.00	1,000.00		
<input type="checkbox"/>	30.5010	Store Sales	3,289,944.50-	3,289,944.50-	00006002	A
<input type="checkbox"/>		主科目合計	3,289,944.50-	3,289,944.50-		
<input type="checkbox"/>	30.5080	Freight Out	17,119.57-	17,119.57-	00006002	A
<input type="checkbox"/>		主科目合計	17,119.57-	17,119.57-		
<input type="checkbox"/>	30.6020	Prime Cost of Goods	2,623,256.00	2,623,256.00	00006002	A
<input type="checkbox"/>		主科目合計	2,623,256.00	2,623,256.00		
<input type="checkbox"/>		ビジネスユニット合計	683,808.07-	683,808.07-		
<input type="checkbox"/>	5100.1341.02600	Regular			00006002	A

「補助元帳別試算表」フォーム

## 「ロー」メニューからの別のプログラムへのアクセス

試算表(補助元帳)プログラムから複数の別のプログラムにアクセスできます。「ロー」メニューからアクセスできるフォームは、次のとおりです。

- 取引明細の処理
- 勘定残高

---

## 取引明細の検討

取引明細情報は、次の各種プログラムを使用して検討できます。

- 取引明細照会 (P09200)
- 勘定科目の照会 (主科目別) (P09201)
- 勘定科目の照会 (カテゴリ・コード別) (P09202)

この項では、取引明細照会、主科目別取引明細およびカテゴリ・コード別取引明細の概要と、次の方法について説明します。

- 取引明細照会 (P09200) の処理オプションの設定
- 勘定科目の照会 (主科目別) (P09201) の処理オプションの設定
- 勘定科目の照会 (カテゴリ・コード別) (P09202) の処理オプションの設定
- 取引明細レコードの検討
- 主科目別元帳の検討
- オンラインでのカテゴリ・コード別取引明細の検討

## 取引明細照会について

取引明細照会プログラム (P09200) を使用して、勘定科目の取引明細を日付範囲別、補助元帳別、元帳タイプ別に検討できます。F0911 テーブルから転記済と未転記の両方の取引が表示され、元帳合計 (転記済金額と未転記金額) と未転記合計が表示されます。これらの差額が転記済合計金額になります。

年累計期間金額が転記済元帳合計と等しくなるのは、日付選択が次のような基準に該当する場合です。

- 開始日付が会計年度の第1日目である。
- 終了日付が指定月の最終日である。
- 開始日付と終了日付が同じ会計年度内に存在する。

複数の会計年度にまたがる場合や現行会計年度の一部のみを表示する場合、年累計と期間累計の金額が転記済元帳合計と等しくならない場合があります。

損益計算書勘定では、年累計と期間累計の金額が等しくなります。このため、損益計算書勘定に期間累計金額は表示されません。

「第2元帳タイプ」処理オプションの設定によっては、実績元帳と通貨再換算元帳などの2つの元帳タイプの取引を同時に検討できます。第2元帳タイプを使うと外貨建て取引と国内通貨取引を同時に表示できるため、多通貨で取引をする場合に特に役立ちます。

## 主科目別取引明細について

勘定科目の照会(主科目別)プログラム(P09201)を使用して、すべてのビジネスユニットの主科目の取引明細を検討します。F0911テーブルから転記済と未転記の両方の取引が表示されます。検討する取引を絞り込んで検索するには、取引明細照会プログラム(P09200)で使用可能な検索条件と同じ検索条件を使います。

「第2元帳」処理オプションの設定によっては、実績元帳と予算元帳など、2つの元帳タイプの取引を同時に検討できます。

## カテゴリ・コード別取引明細について

勘定科目の照会(カテゴリ・コード別)プログラム(P09202)を使用して、代替(法定)勘定科目表用に設定したカテゴリ・コードの詳細取引を検討します。このプログラムの「カテゴリ・コード」処理オプションにカテゴリ・コード(21、22、または23)を指定します。F0911テーブルから転記済と未転記の両方の取引が表示されます。絞り込み検索を行うには、取引明細照会プログラムで使用可能な検索条件と同じ検索条件を使って検索します。

「第2元帳」処理オプションの設定によっては、実績元帳と予算元帳など、2つの元帳タイプの取引を同時に検討できます。

## 取引明細の検討に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
取引明細の処理	W09200A	「レポートおよびオンライン照会」(G0912)、「取引明細照会」	1つの勘定科目に対する取引明細レコードの情報を検討します。  取引明細を印刷するには、「レポート」メニューの「元帳印刷」を選択します。
仕訳入力	W0911A	「取引明細の処理」フォームでソース情報を確認するレコードを選択し、「選択」をクリックするか、または「ロー」メニューの「当初仕訳元帳タイプ1」を選択します。  元帳タイプ2のレコードのソース情報を確認するには、レコードを選択して「ロー」メニューの「当初仕訳元帳タイプ2」を選択します。	元帳タイプ1と2の取引明細レコードのソース情報を確認します。  当初取引の種類により、使用されるフォームが異なります。たとえば、当初取引が仕訳の場合は「仕訳入力」フォームが使用され、当初取引が売掛金請求書の場合は「請求書入力」フォームが使用されます。
取引明細の詳細	W09200F	「取引明細の処理」フォームで、「ロー」メニューの「明細」を選択します。	取引明細の詳細情報を確認します。
取引明細の追加詳細	W09200G	「取引明細の処理」フォームで、「フォーム」メニューの「追加詳細」を選択します。	取引明細の番号、日付、およびバッチを作成したユーザーのIDを含む追加の詳細情報を確認します。
主科目別取引明細	W09201A	「レポートおよびオンライン照会」(G0912)、「勘定科目の照会(主科目別)」  取引明細を印刷するには、「レポート」メニューの「元帳印刷」を選択します。	すべてのビジネスユニット内の主科目の取引明細レコードを検討します。
カテゴリ・コード別取引明細の処理	W09202A	「レポートおよびオンライン照会」(G0912)、「勘定科目の照会(カテゴリ・コード別)」  勘定科目の取引明細を印刷するには、勘定科目を選択して「ロー」メニューの「元帳の印刷」を選択します。	法定勘定科目表の取引明細レコードを検討します。

## 取引明細照会(P09200)の処理オプションの設定

この処理オプションでは、「取引明細の処理」フォームで使用するデフォルト値を設定します。

## デフォルト値

1. 勘定科目コード、2. 開始日付、3. 終了日付、4. 元帳タイプ、5. 補助元帳 - 総勘定元帳、6. 補助元帳タイプ、7. 通貨コード

処理オプションごとに、照会フォームのフィールドに表示されるデフォルト値を指定します。

## 選択

### 1. 使用する開始日付

「使用する開始日付」フィールドをブランクにした場合に照会フォームに自動入力される日付を指定します。値は次のとおりです。

- 1: 現行会計年度の開始日付をデフォルトの開始日付として使用する。
- 2: 現行期間の開始日付をデフォルトの開始日付として使用する。

## 表示

### 1. 第2元帳タイプ

第2元帳タイプを表示し、2つの元帳タイプを同時に表示するかどうか指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 1つの元帳タイプのみ表示する。

- 1: 2つの元帳タイプを表示する。

元帳タイプ2の金額は、元帳タイプ1に基づいて計算されます。このため、照会フォームには、元帳タイプ1の金額があるレコードのみが表示されます。

たとえば、元帳タイプ1に「AA」、元帳タイプ2に「CA」を入力した場合、F0911テーブルでAA元帳タイプの金額があるすべてのレコードと、CA元帳タイプに一致するすべてのレコードが表示されます。一致するレコードは、伝票番号、伝票タイプ、伝票会社、元帳日付、および仕訳行番号が同じである必要があります。AA元帳に金額がない場合は、対応するCA元帳の金額も存在しません。

### 2. 元帳タイプ

「元帳タイプ2」フィールドに表示する元帳タイプを指定します。「第2元帳タイプ」処理オプションで、2つの元帳タイプを表示するように設定する必要があります。

## 処理

### 1. 伝票タイプPKまたはPNの場合に起動するプログラム

ソース伝票にアクセスする際に使用するフォームを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 「手動支払入力」フォームにアクセスする。

- 1: 「仕訳入力」フォームにアクセスする。

## 通貨

### 1. 仮定通貨

「仮定」通貨フィールドのデフォルト値として使用する通貨コードを指定します。

「仮定」フィールドは、「取引明細の処理」フォームで「フォーム」メニューの「仮定通貨」を選択すると表示されます。この処理オプションを設定することにより、取引の当初入力時の通貨以外の通貨で金額を表示できます。

元帳タイプ1に関連する金額のみが「仮定」通貨に換算されます。この処理オプションをblankにすると、取引の当初入力時と同じ通貨で金額が表示されます。

## 2. 為替レート日付

仮定通貨での金額表示のための為替レートの取込みに使用する日付を指定します。この処理オプションをblankにすると、「取引明細の処理」フォームの「終了日付」フィールドの日付が使用されます。

## 勘定科目の照会(主科目別)(P09201)の処理オプションの設定

勘定科目の照会(主科目別)プログラムの処理オプションは、この項で説明する事項以外は、取引明細照会プログラムの処理オプションと同一です。

参照: 第 34 章、「勘定残高と取引明細の検討」、「取引明細照会(P09200)の処理オプションの設定」、386ページ

### デフォルト

主科目/補助科目 「主科目別取引明細」フォームの「主/補助」フィールドに表示するデフォルト値を指定します。

## 勘定科目の照会(カテゴリ・コード別)(P09202)の処理オプションの設定

勘定科目の照会(カテゴリ・コード別)プログラムの処理オプションは、この項で説明する事項以外は、取引明細照会プログラムの処理オプションと同一です。

参照: 第 34 章、「勘定残高と取引明細の検討」、「取引明細照会(P09200)の処理オプションの設定」、386ページ

### カテゴリ・コード

カテゴリ・コード(21-23) ユーザー定義コード・テーブル09/21から23から照会する勘定科目カテゴリ・コードを入力します。デフォルト値はカテゴリ21に設定されています。

### デフォルト

代替勘定 代替勘定の番号として、「カテゴリ・コード(21-23)」処理オプションで指定したカテゴリ・コードの数値を入力します。

## 取引明細レコードの検討

「取引明細の処理」フォームにアクセスします。

取引明細照会 - 取引明細の処理

選択(S) 検索(I) 閉じる(L) フォーム(F) ロー(R) レポート(P) ツール(T)

勘定科目No.9.8720Office Supplies Expense

元帳タイプ 1AAUSD実績金額

補助元帳タイプ\*通貨コード\*

開始日付 \*2005/06/01

終了日付 \*2005/06/30

☐ 転記済み ☐ 未転記 ☒ すべて

年累計47,507.29

レコード 1 - 4

グリッドのカスタマイズ

	伝票タイプ	伝票No.	伝票会社	元帳日付	摘要	元帳タイプ1金額	元帳タイプ1借方	転記コード	LT2 転記	元帳タイプ1貸方	元帳タイプ2借方	元帳タイプ1貸方
<input type="checkbox"/>					カラム合計							
<input type="checkbox"/>					元帳合計							
<input type="checkbox"/>					転記済み合計							
<input type="checkbox"/>					未転記合計							

「取引明細の処理」フォーム

元帳タイプ1

AA(実績金額)元帳以外の元帳を確認するには、このフィールドの値を変更します。デフォルトの元帳タイプは、AAに設定されています。

元帳タイプ2

このフィールドの値は、必要に応じて変更します。処理オプションで2つの元帳タイプを表示する設定をした場合のみ、このフィールドが表示されます。

## 主科目別元帳の検計

「主科目別取引明細」フォームにアクセスします。

勘定科目の照会(主科目別) - 主科目別取引明細

選択(S) 検索(I) 開じる(L) フォーム(F) ロー(R) レポート(P) ツール(T)

主/補助

8720

元帳タイプ1

AA

元帳タイプ2

CA

タイプ/補助元帳

転記済

未転記

すべて

会社別に小計を表示する

実績金額

会社(開始)

\*

外貨

会社(終了)

\*

開始日付

2005/06/01

終了日付

2005/06/30

通貨コード

\*

レコード 1 - 10

グリッドのカスタマイズ

	勘定科目コード	勘定科目名	伝票タイプ	伝票No.	伝票会社	元帳日付	摘要	元帳タイプ1金額	元帳借方
<input type="checkbox"/>	3.8720	Office Supplies Expense	JE	1005	00001	2005/06...	June Activity	1,500.00	
<input type="checkbox"/>	4.8720	Office Supplies Expense	JE	1005	00001	2005/06...	June Activity	1,125.00	
<input type="checkbox"/>	5.8720	Office Supplies Expense	JE	1005	00001	2005/06...	June Activity	850.00	
<input type="checkbox"/>	9.8720	Office Supplies Expense	JE	1005	00001	2005/06...	June Activity	2,700.00	
<input type="checkbox"/>	9.8720	Office Supplies Expense	PD	1567	00001	2005/06...	Universal Incorporated	1,000.00-	
<input type="checkbox"/>	9.8720	Office Supplies Expense	PV	1562	00001	2005/06...	Allen Supplies	35.00	
<input type="checkbox"/>	9.8720	Office Supplies Expense	PV	1564	00001	2005/06...	Universal Incorporated	1,500.00	
<input type="checkbox"/>	9.8720	Office Supplies Expense	PV	3000	00001	2005/06...	Universal Incorporated	1,073.00	

「主科目別取引明細」フォーム

カテゴリ・コード別元帳の検討

「カテゴリ・コード別取引明細の処理」フォームにアクセスします。

代替勘定科目

ユーザー定義コード・テーブル09/21から23のユーザー定義コードに割り当てられた勘定科目が表示されます。「カテゴリ・コード」と「代替勘定」処理オプションで設定された値に基づいて、このフィールドに表示される値が決定されます。

会社別に小計を表示する

「会社(開始)」および「会社(終了)」フィールドで指定した範囲に含まれる各会社の小計を表示するには、このチェックボックスを選択します。

月別勘定残高の検討

次の2つのプログラムを使用して勘定残高を検討できます。

- 勘定残高(月別)(P0902P1)
- 勘定科目残高(補助元帳別)(P092131)

この項では、勘定残高の検討の概要と次の方法について説明します。

- 勘定残高(月別)(P0902P1)の処理オプションの設定
- 勘定科目残高(補助元帳別)(P092131)の処理オプションの設定
- 月別勘定残高の検討



- 補助元帳別残高の検討

## 勘定残高の検討について

勘定残高(月別)プログラム(P0902P1)を使用して、次のような勘定科目の総勘定元帳の期間について残高を検討します。

- 会計年度の各期間における各勘定科目の月次計上額(転記額)と月末残高
- 損益勘定の前年度の年間転記額
- 貸借対照表勘定の前年度繰越残高

このオンライン照会では、F0902テーブルの情報が表示されます。このプログラムは、年度締めプログラム(R098201)を実行した後に特に役立ちます。年度締めプログラムの実行後、この照会フォームで繰越残高と前年度転記額を検討し、締め処理が正しく行われたかどうかを確認できます。

勘定科目残高(補助元帳別)プログラム(P092131)を使用して、特定の勘定科目の補助元帳別および補助元帳タイプ別の勘定残高情報を検討します。このプログラムでは、F0902テーブルから、現行期間と年累計の転記額と残高が表示されます。このプログラムには、処理オプションはありません。

## 勘定残高の検討に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
勘定残高	W0902P1D	「レポートおよびオンライン照会」(G0912)、「勘定残高(月別)」	月別勘定残高を検討します。
勘定科目残高(補助元帳別)	W092131A	「レポートおよびオンライン照会」(G0912)、「勘定科目残高(補助元帳別)」	特定の勘定科目の補助元帳別残高を検討します。

## 勘定残高(月別)(P0902P1)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムのデフォルト処理を指定できます。

### デフォルト

会計年度、元帳タイプ、  
補助元帳、補助元帳タイプ、通貨コード

処理オプションごとに、「勘定残高」フォームのフィールドに表示されるデフォルト値を指定します。

## 月別勘定残高の検討

「勘定残高」フォームにアクセスします。

勘定残高(月別) - 勘定残高

検索() 閉じる() ツール()

勘定科目コード9.8720Office Supplies Expense

会計年度05

元帳タイプAAUSD

タイプ/補助元帳\*

補助元帳名

通貨コード\*

前年度計上額3,000.00

期間終了日付	期間金額	累計金額
2005/01/31		
2005/02/28		
2005/03/31		
2005/04/30	5,700.00	5,700.00
2005/05/31	11,150.00	16,850.00
2005/06/30	30,657.29	47,507.29
2005/07/31	2,970.00	50,477.29
2005/08/31		50,477.29
2005/09/30		50,477.29
2005/10/31		50,477.29
2005/11/30		50,477.29
2005/12/31		50,477.29

「勘定残高」フォーム

繰越残高

前年度の累計残高が表示されます。この金額は、貸借対照表の期首残高および繰越作業原価勘定科目の開始残高として使用されます。

**注意:** この金額を前年度転記額と混同しないように注意してください。前年度の年間転記額には、前年度からの転記額のみが含まれます。前年度の期末残高は含まれません。前年度の年間転記額は、通常、損益計算書での比較に使用されます。

前年度計上額（前年度の年間転記額）

前年度の年間転記額が表示されます。この値は、損益計算書での比較に使用されます。

補助元帳別残高の検討

「勘定科目残高(補助元帳別)」フォームにアクセスします。

勘定科目残高(補助元帳別) - 勘定科目残高(補助元帳別)

選択(S) 検索(I) 閉じる(L) ロー(R) ツール(T)

勘定科目コード \*

9.8740

終了日付

2005/12/31

☐ 期間

Travel, Meals and Lodging

元帳タイプ

AA

USD

累積金額

通貨コード

\*

レコード 1 - 5

グリッドのカスタマイズ

	補助元帳タイプ	補助元帳	補助元帳名	繰越残高	当年度計上額	当月計上額	残高
<input checked="" type="radio"/>					29,720.00		29,720.00
<input type="radio"/>	A	00002049	McLind, Rod		500.00		500.00
<input type="radio"/>	A	00002479	Ellis, Jody A.		750.00		750.00
<input type="radio"/>	A	00005058	Marshall, Anthony		250.00		250.00
<input type="radio"/>		合計					31,220.00

「勘定科目残高(補助元帳別)」フォーム

転記編集コードがSでない場合のみ、このフォームに補助元帳の明細情報が表示されます。

「当年度計上額」フィールドには年累計の転記額が表示され、「当月計上額」フィールドには現行期間の転記額が表示されます。

- 期間

会計期間を絞り込んで検索するには、このチェックボックスを選択します。  
終了日付を指定して検索するには、このチェックボックスの選択を解除します。
- 終了期間

「期間」チェックボックスを選択した場合は、このフィールドに会計期間を表す数字を入力します。このフィールドをブランクにすると、現行期間の終了日付が使用されます。
- 終了日付

「期間」チェックボックスの選択を解除した場合は、このフィールドに特定の終了日付を入力します。



## 第 35 章

# 財務レポートの作成

この章では、財務レポートの概要と次の方法について説明します。

- 損益計算書および貸借対照表のデータ選択とデータ順序の設定
- 損益計算書の作成
- 貸借対照表の作成
- キャッシュフロー計算書の作成
- 連結財務レポートの作成
- 月別損益計算書の作成
- 差異分析レポートの作成

---

## 財務レポートについて

ほとんどの企業の会計および経理部門では、財務レポートを定期的に作成する必要があります。通常、このようなレポートは各会計期間の期末や年度末に作成されます。(日本の商法と企業会計原則では、貸借対照表、損益計算書、利益処分計算書、付属明細表の4種類を財務諸表と定義しています。財務報告のための財務レポートは、財務諸表だけでなく、企業の資源、債務、収益力などを示す様々な情報、つまり会計システムによって提供されるあらゆるレポートを意味しています。) 現行会計期間と年累計の金額を、前年度の同じ期間の金額と比較するには、損益計算書を印刷します。会社の財務状態を評価するには、貸借対照表を印刷します。

財務レポートには、ビジネスユニット・マスター (F0006)、勘定科目マスター (F0901)、勘定残高 (F0902) の各テーブルの情報が統合されます。

### 財務レポートのタイプ

次の表で、財務レポートのタイプについて説明します。

機能	説明
標準レポート	JD Edwards EnterpriseOne 一般会計システムに用意されている標準テンプレートはすべて使用できます。レポート・テンプレートには、ユーザーのデータ用の固定フォーマットが含まれており、カラム数、カラム順序、カラム見出しが事前に定義されています。

機能	説明
カスタム・レポート	<p>レポート・テンプレートを使用して独自のバージョンを作成できます。1つのレポート・バージョンに会社ごとの金額、または複数の会社を連結した合計金額を含めることができます。</p> <p>レポート設計ツールを使用して、財務レポートをカスタマイズして新しいレポートを作成できます。</p>
レポートに表示される詳細および集計情報	勘定科目の表示の詳細レベルを指定すると、様々な集計レベルの財務レポートを印刷できます。AAI(自動仕訳)を使用して、レポートに使用する勘定科目範囲と小計を割り当てることができます。

## 損益計算書および貸借対照表のデータ選択とデータ順序の設定

レポートに記載する主科目を選択する必要があります。また、元帳タイプも指定する必要があります。元帳タイプを指定しないと、すべての元帳タイプが結合され、正確な結果が得られない場合があります。

財務レポートは、次の順序で印刷されます。

- 会社
- 主科目
- 補助科目

会社をデータ順序項目の1番目として使用しない場合、会社00000のデータを使用して財務報告日付が決められます。

データの整合性を保ち、詳細レベルで正確な小計を計算するために、主科目、補助科目という順序にする必要があります。複数のビジネスユニットまたは会社を連結したレポートを印刷するには、主科目、補助科目のみをデータ順序に指定します。

主科目の直前にあるデータ順序項目により、すべての財務レポートのページ区切りと合計が確定されます。たとえば、データ順序が会社、主科目、補助科目の場合、会社番号が変わるところに改ページと合計が挿入されます。主科目が最初のデータ順序項目である場合は、レポートにページ区切りはなく、合計はレポートの最後に表示されます。

データ順序とレベル区切りを変更すると、小計が変わります。たとえば、レベル区切りにカテゴリ・コードを指定して、小計を作成できます。

次の表は、レポートのタイプ別のデータ順序を示します。

レポート・タイプ	データ順序の設定
ビジネスユニット・レポート	<p>次のデータ順序にする必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ビジネスユニット</li> <li>• 主科目</li> <li>• 補助科目</li> </ul>

レポート・タイプ	データ順序の設定
ビジネスユニット連結レポート	次のデータ順序にする必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 会社</li> <li>• 主科目</li> <li>• 補助科目</li> </ul>
会社連結レポート	次のデータ順序にする必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 主科目</li> <li>• 補助科目</li> </ul>

## 損益計算書の作成

この項では、損益計算書の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 損益計算書の印刷
- 損益計算書のデータ選択とデータ順序の設定
- 損益計算書 (R10211B) の処理オプションの設定

### 損益計算書について

損益計算書 (R10211B) により、特定期間の収益と費用、当期利益または当期損失をトラッキングできます。損益計算書を印刷するには、勘定科目表の損益勘定が1つのグループにまとまっている必要があります。損益勘定の範囲の中に貸借対照表勘定が入らないようにしてください。

AAI項目FSxxを使用して、最適な中間合計が計算されます。特別な中間合計の例を次に示します。

- 粗利益
- 税引前純利益
- 当期利益 (損失)

### 事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- AAI項目FSxxが設定されていることを確認します。
- 財務報告期間が正しく設定されていることを確認します。

参照: 第 40 章、「会計期間とレポート期間の締め処理」、「財務レポート期間の変更」、463ページ

### 損益計算書の印刷

「財務レポート」(G10) の「損益計算書」を選択します。

## 損益計算書のデータ選択の設定

レポートに記載する主科目を選択する必要があります。たとえば、損益勘定が主科目 5000 から始まる場合は、5000 以上の主科目を選択します。

参照: 第 35 章、「財務レポートの作成」、「損益計算書および貸借対照表のデータ選択とデータ順序の設定」、396 ページ

## 損益計算書 (R10211B) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、レポートのデフォルト処理を指定できます。

### 日付

1. 期間、2. 会計年度      レポートの基準とする期間と会計年度を入力します。この処理オプションをブランクにすると、会社の財務報告日付が使用されます。

### 詳細レベル

1. 詳細レベル      レポートに印刷する勘定科目明細の最も詳細なレベルを入力します。

### 符号

1. 符号の反転      金額の印刷方法を指定します。値は次のとおりです。
- 0: 当初の借方/貸方形式で金額を印刷する。
  - 1: すべての勘定科目タイプの符号を反転する (収益はプラス、費用はマイナスで印刷されます)。
  - 2: 収益勘定の符号だけを反転する (収益と費用がプラスで印刷されます)。

### 計算

1. 当期利益の計算      当期利益を計算するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
- ブランク: 当期利益を計算しない。
  - 1: 当期利益を計算する。

### 見出し

1. 見出しの印刷      見出しの印刷方法を指定します。値は次のとおりです。
- ブランク: 最初のページにのみ見出しを印刷する。
  - 1: 各ページに、ページ番号と実行日付を含む見出しを印刷する。
  - 2: ページ番号と実行日付を除いた見出しを印刷する。
2. 日付タイトル      見出しに印刷する日付タイトルのタイプを入力します。この処理オプションをブランクにすると、日付タイトルは印刷されません。



## 貸借対照表の作成

この項では、貸借対照表の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 貸借対照表の印刷
- 貸借対照表のデータ選択とデータ順序の設定
- 貸借対照表 (R10111B) の処理オプションの設定

### 貸借対照表について

貸借対照表 (R10111B) により、資産、負債、資本をビジネスユニット別または会社別にトラッキングできます。貸借対照表を印刷するには、勘定科目表の貸借対照表勘定が1つのグループにまとまっている必要があります。貸借対照表勘定の範囲の中に損益勘定が入らないようにしてください。

貸借対照表を使用して、次の項目に関する財務情報をトラッキングできます。

- 現行会計期間
- 前期間末
- 前年度末
- 期間および年度の増減額

AAI項目 GLG2、GLG3、GLG5を使用して、貸借対照表勘定の開始から終了までの範囲が設定されます。

### 当期利益の計算方法

当期利益の計算には、実際の収益や費用の勘定科目 (5000から9999) は使われません。そのかわりに次のような数式が使用されます。

資産 - (負債 + 資本) = 当期利益

この方法で当期利益を計算すると、貸借対照表の作成にかかる処理時間が大幅に短縮されます。

### 例: 当期利益計算

次の例は、合計額が当期利益の計算にどのように使用されているかを示しています。

資産 = 6,966,772.54

負債 + 資本 = 6,592,393.31

当期利益 = 374,379.23

この計算は、次の金額に基づいています。

資産 = 6,966,772.54

負債 + 資本:

- 流動負債 = 755,755.74
- 長期負債 = 2,027,576.49
- 普通株 = 267,500.00
- 払込資本金 = 1,535,017.77
- 利益余剰金 = 2,006,543.31

- 負債総額 + 資本 = 6,592,393.31

## 事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 損益計算書の当期利益(損失)額を確認します。  
この金額は、貸借対照表の当期利益(損失)額です。
- AAI項目 GLG2、GLG3、GLG5が設定されていることを確認します。
- 財務報告期間が正しく設定されていることを確認します。  
参照: 第 40 章、「会計期間とレポート期間の締め処理」、「財務レポート期間の変更」、463ページ
- 年度末が間に入る期間のレポートについては、年度締めレポート(R098201)が正常に実行されたかどうかを確認します。  
繰越残高は、締めの処理が完了しないと作成されません。  
参照: 第 41 章、「会計年度の締め処理」、465ページ

## 貸借対照表の印刷

「財務レポート」(G10)の「貸借対照表」を選択します。

## 貸借対照表のデータ選択の設定

レポートに記載する主科目を選択する必要があります。たとえば、損益勘定が主科目 5000から始まる場合は、4999以下の主科目を選択します。

参照: 第 35 章、「財務レポートの作成」、「損益計算書および貸借対照表のデータ選択とデータ順序の設定」、396ページ

## 貸借対照表(R10111B)の処理オプションの設定

貸借対照表の処理オプションは、この項で説明する項目以外は損益計算書の処理オプションと同じです。

参照: 第 35 章、「財務レポートの作成」、「損益計算書(R10211B)の処理オプションの設定」、398ページ

### 符号

#### 符号の反転

金額の印刷方法を指定します。値は次のとおりです。

0(ゼロ): データ値のままで金額を印刷する。

1: 負債勘定と資本勘定の符号を反転する。

### 計算

#### 当期利益の計算

当期利益額を計算して印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 印刷しない。

1: 印刷する。

## キャッシュフロー計算書の作成

この項では、キャッシュフロー計算書の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- キャッシュフロー計算書の印刷
- キャッシュフロー計算書レポートのデータ選択の設定
- キャッシュフロー計算書レポート(R10521)の処理オプションの設定

### 関連項目:

第 10 章、「キャッシュフロー計算書の設定」、101 ページ

## キャッシュフロー計算書について

キャッシュフロー計算書レポート(R10521)には、会計報告を行う組織のキャッシュフローが出力されます。このレポートは、国際会計基準(IAS)が定める会計報告要件に準拠しています。キャッシュフロー計算書は、営業活動、投資活動、財務活動の区分に分けられ、現金および現金同等物の流入入に関する情報を提供します。

キャッシュフロー計算書には、次のテーブルの情報が取得されます。

- キャッシュフロー計算書の規則(F10520)

このテーブルには、レポートに表示される記述、それぞれの記述に関連付けられた勘定科目、勘定科目が通常借方/貸方残高のどちらであるかを示すマークが格納されています。

このテーブルには、小計の記述は含まれません。小計の記述は、国際会計基準(IAS) 7 に準拠しており、キャッシュフロー計算書レポートにハードコード化されています。

- 勘定残高(F0902)

このテーブルには、F10520 テーブルの勘定科目の勘定残高が格納されています。F0902 テーブルおよび処理オプションで指定された会計期間に基づいて、対象期間の年累計転記額が自動的に計算されます。

キャッシュフロー計算書レポートには、次に示すように、“増加”または“減少”という文字が勘定科目記述に自動的に追加されます。

- F10520 テーブルで指定されたとおり、その記述に関連付けられている勘定科目が通常借方残高で、F0902 テーブルの残高がプラス(0 以上)の場合は、記述に“増加”が追加されます。残高がマイナス(0 未満)の場合は、“減少”が追加されます。
- F10520 テーブルで指定されたとおり、その記述に関連付けられている勘定科目が通常貸方残高で、F0902 テーブルの残高がプラスの場合は、記述の前に“減少”が挿入されます。残高がマイナスの場合は、“増加”が挿入されます。

キャッシュフロー計算書レポートの金額に貸借不一致がある場合は、レポートの最後にエラー・メッセージが表示されます。期首と期末の現金および現金同等物の差額が、現金および現金同等物の正味増加分または正味減少分と異なる場合に、貸借が不一致になります。

### 例: キャッシュフロー計算書

次の例は、キャッシュフロー計算書の内容を示しています。左端のカラムには、レポートに表示される記述がそのまま表示され、中央のカラムには、左端のカラムの記述に対応する活動コードと行項目、右端のカラムには金額(通常は小計額)が表示されます。

活動コード20から70(ユーザー定義コード・テーブル10/CF)の行項目を指定し、勘定科目を各行項目に割り当てます。これらの勘定科目コードを使用して、レポートに表示される金額が計算されます。ほとんどの活動コードで、行項目の金額の小計が計算されます。たとえば、活動コード20の小計の記述は“流動資本変更前営業利益”で、小計額は100です。

活動コード10には、勘定科目を割り当てません。かわりに、AAI項目FSxxを割り当て、税引前純利益に使用します。該当金額は自動的に取得されます。この金額は、キャッシュフロー計算書レポートを実行したときに生成された、損益計算書(R10211B)の値です。

減価償却の行項目の場合、減価償却累計額勘定科目(貸方勘定)を使用して、レポートで逆仕訳されるときに、金額が税引前純利益行の項目に追加されるようにします。

会社名 キャッシュ・フロー計算書 期間終了 年/月/日			
業務活動のキャッシュ・フロー			
税引前純利益	活動コード10		1,000
調整:			
減価償却	活動コード20、行1	50	
固定資産売却損益	活動コード20、行2	100	
支払利息の減少分	活動コード20、行3	-25	
その他費用の減少分	活動コード20、行4	-25	
流動資本変更前の営業利益	活動コード20、行1 から4の小計		100
棚卸資産の減少分	活動コード30、行1	25	
売掛金の増加分	活動コード30、行2	-25	
買掛金の減少分	活動コード30、行3	-25	
営業より得た資金	活動コード30、行1 から3の小計		-25
支払税額の増加分	活動コード40、行1	25	
配当金支払額の増加分	活動コード40、行2	25	
その他非営業収入の増加分	活動コード40、行3	-50	
その他非営業経費の増加分	活動コード40、行4	50	
営業活動によるネット・キャッシュ・フロー	活動コード10、20、30および 活動コード40の行1から4の小計		1,125
投資活動によるネット・キャッシュ・フロー			
固定資産購入の増加分	活動コード50、行1	-50	
固定資産売却の減少分	活動コード50、行2	25	
その他の資産購入の増加分	活動コード50、行3	-25	
投資活動によるネット・キャッシュ・フロー	活動コード50、行1 から3の小計		-50
財務活動によるネット・キャッシュ・フロー			
長期債権の減少分	活動コード60、行1	-50	
資本金（利益剰余金以外）の増加分	活動コード60、行2	-50	
財務活動によるネット・キャッシュ・フロー	活動コード60、行1 から2の小計		-100
現金および現金等価物の正味増加分/減少分			**975
現金および現金等価物（期首残高）			350
現金および現金等価物（最終残高）			1,325

キャッシュフロー計算書

\*\* この金額は、現金および現金等価物の期首残高と最終残高の差額と同額になります。

## 事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 会計期間の財務諸表がすべて作成されていることを確認します。
- 財務レポート・システム(システム・コード10)のプログラムにアクセスできることを確認します。

## キャッシュフロー計算書の印刷

「キャッシュフロー計算書」(G1031)の「キャッシュフロー計算書レポート」を選択します。

## キャッシュフロー計算書レポートのデータ選択の設定

複数の会社を含むキャッシュフロー計算書レポートを作成する際は、データ選択で指定した会社に通貨、会計期間パターン、勘定科目構造を使用する必要があります。

## キャッシュフロー計算書レポート(R10521)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、レポートのデフォルト処理を指定できます。

### 選択

- 1. 会計期間パターンの会社** どの会社の会計期間パターンを使用して、レポートに日付を印刷するかを指定します。この処理オプションをブランクにすると、会社00000の現行期間を使用して該当する日付が印刷されます。
- 2. 終了期間、3. 会計年度** キャッシュフロー計算書レポートを実行する終了期間と会計年度を指定します。ブランクにすると、「会計期間パターンの会社」処理オプションで指定した会社の現行期間と現行会計年度が使用されます。「会計期間パターンの会社」処理オプションもブランクの場合、会社00000の現行期間と現行会計年度が使用されます。
- 4. 元帳タイプ** キャッシュフロー計算書レポートに使用する元帳タイプを指定します。この処理オプションをブランクにすると、元帳タイプAAが使用されます。多通貨環境で作業している場合は、元帳タイプの通貨はレポートの会社の通貨と同じである必要があります。

### 表示

- 1. スケール(金額表示単位)** レポートに表示する金額の単位を指定します。有効な値は、1、10、100、1000、10000、100000、1000000、10000000、100000000、1000000000です。金額を計測する際に、四捨五入が行われます。ブランクにすると、金額は特定の単位では表示されません。

---

## 連結財務レポートの作成

この項では、連結財務レポートの概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 連結損益計算書 - 7桁式の印刷
- 連結損益計算書 - 7桁式のデータ選択とデータ順序の設定

- 連結損益計算書 – 7桁式 (R103121A) の処理オプションの設定
- 連結貸借対照表の印刷
- 連結貸借対照表のデータ選択とデータ順序の設定
- 連結貸借対照表 (R10311A) の処理オプションの設定

## 連結財務レポートについて

各会計期間末に、ほとんどの企業で財務諸表を作成します。複数の会社またはビジネスユニットの損益計算書または貸借対照表の情報を連結するには、連結財務レポートを印刷します。連結財務レポートには、F0006、F0901、F0902の各テーブルに格納されているデータが使用されます。

JD Edwards EnterpriseOne 一般会計システムには、連結財務レポートのサンプル・バージョンが複数用意されています。印刷する前に、まずレポートの各カラムに表示するカラム見出しとデータを指定する必要があります。次の情報は、連結財務レポートにも当てはまります。

- 各レポートに連結カラムが含まれます。  
連結カラムは、他のカラムの金額に基づいて計算されます。
- レポートの金額は、整数の通貨金額として表示されます。  
小数点以下は省略されます。
- 印刷できる範囲内であれば、必要な数だけカラムを設定できます。

## 事前設定

連結財務レポートのカラムに表示するカラム見出しとデータを指定します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98: Development Tools: Report Design Aid Guide

参照: JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98: Development Tools: Report Printing Administration Technologies Guide

## 連結損益計算書 – 7桁式の印刷

「財務レポート」(G10)の「連結損益計算書 – 7桁式」を選択します。

複数の会社またはビジネスユニットを連結した損益(利益および損失)の情報を参照するには、連結損益計算書 – 7桁式 (R103121A) を印刷します。連結損益計算書の金額の上限は、区切り付きで9億9900万まで、区切りなしで9990億までです。現行会計期間または年累計の情報を含めることができます。

連結損益計算書 – 7桁式のXJDEバージョンでは、特定の会社向けにカラムが事前に定義されています。XJDEバージョンで定義されている以外のレポートを作成するには、レポート設計ツールを使用して、データ選択とカラム・タイトルを設定する必要があります。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98: Development Tools: Report Design Aid Guide

参照: JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98: Development Tools: Report Printing Administration Technologies Guide

## 連結損益計算書 – 7桁式のデータ選択とデータ順序の設定

最初のデータ選択は、損益勘定の主科目範囲である必要があります。

主科目の次に補助科目という順序で設定してください。順序が違う場合、カラム・データが複数のページに分散されます。

## 連結損益計算書 – 7桁式(R103121A)の処理オプションの設定

連結損益計算書 – 7桁式の処理オプションは、この項で説明する項目以外は損益計算書の処理オプションと同じです。

参照: 第 35 章、「財務レポートの作成」、「損益計算書(R10211B)の処理オプションの設定」、398ページ

### 金額

#### 期間/年累計

レポートに表示する勘定残高を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 年累計の勘定残高を印刷する。

1: 単一期間の勘定残高を印刷する。

### 計算

#### 当期利益の計算

当期利益を計算するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 当期利益を計算しない。

AAI小計計算を行うバージョンでは、ブランクにします。自動的に当期利益が計算および印刷されます。

1: 当期利益を計算する。

## 連結貸借対照表の印刷

「財務レポート」(G10)の「連結貸借対照表」を選択します。

複数の会社またはビジネスユニットの連結結果の貸借を比較するには、現行会計期間または年累計の連結貸借対照表(R10311A)を印刷します。連結貸借対照表では最大7つまでの会計組織を連結できます。

連結貸借対照表のXJDEバージョンでは、特定の向けにカラムが事前に定義されています。XJDEバージョンで定義されている以外のレポートを作成するには、レポート設計ツールを使用して、データ選択とカラム・タイトルを設定する必要があります。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98: Development Tools: Report Design Aid Guide

参照: JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98: Development Tools: Report Printing Administration Technologies Guide

## 連結貸借対照表のデータ選択とデータ順序の設定

最初のデータ選択は、貸借対照表勘定の主科目範囲である必要があります。

主科目の次に補助科目という順序で設定してください。順序が違う場合、カラム・データが複数のページに分散されます。

## 連結貸借対照表(R10311A)の処理オプションの設定

連結損益計算書 – 7桁式の処理オプションは、次の項目以外は損益計算書の処理オプションと同じです。



参照: 第 35 章、「財務レポートの作成」、「損益計算書(R10211B)の処理オプションの設定」、398ページ

## 計算

### 当期利益の計算

当期利益を計算するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 当期利益を計算しない。

1: 当期利益を計算する。

## 符号

### 符号の反転

金額の印刷方法を指定します。値は次のとおりです。

0: 当初の借方/貸方形式で金額を印刷する。

1: 負債勘定と資本勘定の符号を反転する。

---

## 月別損益計算書の作成

この項では、月別損益計算書の概要、事前設定、および次の項目について説明します。

- 月別損益計算書の印刷
- 月別損益計算書(R10412A)の処理オプションの設定

## 月別損益計算書について

会社の財務活動の動向を検討するには、月別損益計算書(R10412A)を印刷します。年累計以外に期間累計の実績金額と予算金額を分析できます。また、現行会計期間の金額と将来の会計期間の予算金額を並べて参照することもできます。

月別損益計算書では、金額が1000の位に端数処理されます。たとえば、金額が2700の場合、3000に端数処理され3が印刷されます。別の端数処理方法を指定するには、レポート設計ツールを使用して独自の処理方法を設定します。

月別損益計算書には、F0902テーブルに格納されているデータが使用されます。

---

**注意:** バージョンはXJDE0006を使用し、AAI小計をレポートに表示する場合は、このバージョンのコピーを作成する必要があります。XJDE0006にAAI小計のイベント・ルールが追加されるため、バージョンを追加したり希望の項目をレポートに表示したりすることはできません。

---

## 事前設定

財務報告期間が正しく設定されていることを確認します。

参照: 第 40 章、「会計期間とレポート期間の締め処理」、「財務レポート期間の変更」、463ページ

## 月別損益計算書の印刷

「財務レポート」(G10)の「月別損益計算書」を選択します。

## 月別損益計算書(R10412A)の処理オプションの設定

このレポートの処理オプションは、この項で説明する項目以外は、損益計算書の処理オプションと同じです。

参照: 第 35 章、「財務レポートの作成」、「損益計算書(R10211B)の処理オプションの設定」、398ページ

### 符号

1. 符号の反転  
金額の印刷方法を指定します。値は次のとおりです。  
0: 当初の借方/貸方形式で金額を印刷する。  
1: 損益計算書勘定の符号を反転する(収益はプラス、費用はマイナスで印刷されます)。  
2: 負債勘定と資本勘定の符号を反転する。  
3: 収益勘定の符号だけを反転する(収益と費用がプラスで印刷されます)。

### 計算

1. 当期利益の計算  
計算する当期利益のタイプを指定します。値は次のとおりです。  
1: 貸借対照表の当期利益を計算する。  
2: 損益計算書の当期利益を計算する。  
3: 当期利益を計算しない。(デフォルト)

### カラム形式

1. カラム形式  
損益計算書に印刷する12のカラムの形式を、次のいずれかに指定します。  
1: 過去12か月の実績(デフォルト)  
2: 年度累計実績  
3: 年度累計実績と残りの予算
2. 予算元帳タイプ  
「カラム形式」処理オプションを3に設定した場合は、残りの予算の元帳タイプを入力します。ブランクにすると、元帳タイプ「BA」が使用されます。
3. 元帳タイプ  
損益計算書の基準となる元帳タイプを入力します。ブランクにした場合、元帳タイプAAが使用されます。

---

## 差異分析レポートの作成

実績金額と予算金額を比較して現行会計期間と年累計の差額を計算するには、差異分析レポートを使用します。

この項では、次の方法について説明します。

- 差異分析レポートの印刷
- 差異分析(R10212A)の処理オプションの設定
- 差異分析(5か月分)レポートの印刷

- 差異分析(5か月分)(R10411A)の処理オプションの設定

## 差異分析レポートの印刷

「財務レポート」(G10)の「差異分析」を選択します。

差異分析レポート(R10212A)には、予算金額と実績金額の一覧と、2つの金額の差額(差異)が表示されます。さらに、各行の項目に関連付けられているパーセント値には、収益率が反映されます。各行の項目に関連付けられている予算の割合は、差異を現行期間または年累計の予算で除算した数値と等しくなります。

## 差異分析(R10212A)の処理オプションの設定

このレポートの処理オプションは、この項で説明する処理オプション以外は、月別損益計算書と同じです。

参照: 第 35 章、「財務レポートの作成」、「月別損益計算書(R10412A)の処理オプションの設定」、408 ページ

### 日付

#### 期間、年度

レポートの基準とする期間と会計年度を入力します。この処理オプションをブランクにすると、会社の財務報告日付が使用されます。報告日付を会社固有の日付にするには、データ順序を会社別に設定する必要があります。

## 差異分析(5か月分)の印刷

「財務レポート」(G10)の「差異分析(5か月分)」を選択します。

差異分析(5か月分)レポート(R10411A)には、年間および年累計の予算金額、年累計実績金額、年累計差異が表示されます。このレポートには、処理オプションに指定されている期間と、その直前の4期間の実績金額も表示されます。

## 差異分析(5か月分)(R10411A)の処理オプションの設定

このレポートの処理オプションは、差異分析レポートの処理オプションと同じです。

参照: 第 35 章、「財務レポートの作成」、「差異分析(R10212A)の処理オプションの設定」、409 ページ



## 第 36 章

# 一般会計のデータ整合性の検証

この章では、一般会計の整合性レポートの概要と、次の方法について説明します。

- 取引とバッチ見出しの整合性レポートの実行
- バッチと取引明細の整合性レポートの実行
- 未転記バッチ・レポートの実行
- 貸借不一致のバッチ・レポートの実行
- バッチ別貸借不一致の会社レポートの実行
- 貸借一致の会社レポートの実行
- 貸借一致の会社間勘定科目レポートの実行
- 勘定残高と取引の整合性レポートの実行
- ビジネスユニットなしの勘定科目レポートの実行
- 勘定科目マスターなしの勘定残高レポートの実行
- 勘定科目マスターなしの取引レポートの実行

---

## 一般会計の整合性レポートについて

整合性レポートを使用すると、貸借一致処理を補足したり、潜在的な貸借不一致問題やデータの不整合を特定できます。

整合性レポートは、JD Edwards EnterpriseOne一般会計システムの管理処理の一環として機能します。整合性レポートを実行すると、システムが正常に機能し、テーブル間の整合性が取れていることを確認できます。迅速に効率よく問題を修正することもできます。

整合性レポートは次のタイミングで実行します。

- 新しいソフトウェアのインストール中
- データ変換中
- 毎日（必要に応じて）
- 月末
- 会計年度末

整合性レポートを頻繁に実行しておく、問題がいつ発生したかを判断しやすくなります。整合レポートには、テーブル間の不整合のみを出力する例外レポートがあります。

JD Edwards EnterpriseOne一般会計システムには3種類の総勘定元帳整合性レポートがあります。

## バッチ見出しのレポート

バッチ見出しレポートを使って、バッチ制御レコード・テーブル(F0011)と取引明細テーブル(F0911)の間の不整合を識別します。バッチ見出しレポートは次の順序で実行します。

1. 取引とバッチ見出しの整合性
2. バッチと取引明細の整合性
3. 未転記バッチ

## 貸借不一致のレポート

貸借不一致のレポートを使って、次のことを確認します。

- 社内での取引の貸借が一致しているかどうか。
- 期間ごとの勘定残高の整合性が保たれているかどうか。
- 会社間決済勘定の貸借が一致しているかどうか。

バッチ見出しの改訂プログラム(P0011)でバッチに対して整合性レポートからのバッチの除外オプションが選択されている場合、そのバッチは貸借不一致の入力があっても貸借不一致のバッチ・レポートとバッチ別貸借不一致の会社レポートに表示されません。この2つの整合性レポートを実行する場合は、データ選択で整合性レポート・バッチ組込み(IBOI)フラグがNと等しくないことを確認します。

## 勘定科目表のレポート

勘定科目表のレポートを使って、F0901テーブルの会社番号が、ビジネスユニット・マスター(F0006)、F0902テーブル、およびF0911テーブルの会社番号と一致しているかどうかを確認します。また、1つまたは複数のビジネスユニットを別の会社に移動する場合にも、このレポートを実行する必要があります。

最終モードでは、勘定科目表のレポートを次の順序で実行します。

1. ビジネスユニットなしの勘定科目  
F0006テーブルの会社番号でF0901テーブルの会社番号が更新されます。
2. 勘定科目マスターなしの勘定残高  
F0901テーブルの会社番号でF0902テーブルの会社番号が更新されます。
3. 勘定科目マスターなしの取引  
F0901テーブルの会社番号でF0911テーブルの会社番号が更新されます。

この順序で実行することにより、常にF0006テーブルの会社番号が最初に使用されます。また、ビジネスユニットなしの勘定科目レポートを最初に実行することにより、他の2つの整合性レポートでF0902テーブルとF0911テーブルがF0901テーブルの会社情報を使って更新されます。

## 一般会計の整合性レポートの一覧

どの整合性レポートを実行するかを決定する際に、次のレポートと説明の一覧を参照してください。

レポート	説明
取引とバッチ見出しの整合性 (R007021)	<p>次のような取引レベルの情報をレポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• F0011テーブルにバッチ見出しレコードが存在しない未転記および転記済の取引</li> <li>• バッチ状況がD(転記済)になっている未転記取引</li> </ul> <p>最終モードで実行すると、不足しているF0011テーブルのバッチ見出しレコードが再作成されます。</p>
バッチと取引明細の整合性 (R007031)	<p>バッチ・レベルの情報をレポートし、自動的に次の処理を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 売掛金元帳、買掛金元帳、または取引明細の詳細レコードのないバッチ見出しレコードを削除する。</li> <li>• F0911テーブルの詳細レコードが転記されていて、見出しレコードが未転記である場合、F0011テーブルのバッチ見出しレコードのバッチ状況をD(転記済)に更新する。</li> <li>• F03B11とF0411テーブルの詳細レコードが転記されていて、見出しレコードが未転記である場合、処理オプションの設定に基づいてF0011テーブルのバッチ見出しレコードのバッチ状況をD(転記済)に更新する。</li> </ul>
未転記バッチ(R007011)	F0011テーブルのバッチ制御レコードに基づいて未転記バッチのリストを出力します。
貸借不一致のバッチ(R007032)	借方金額と貸方金額が一致しないバッチを検出します。
バッチ別貸借不一致の会社 (R09706)	各バッチ内の貸借不一致の金額を会社別に検出します。
貸借一致の会社(R097001)	<p>会社と会計年度別に金額の差額を出力し、次を特定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 勘定科目の繰越残高に金額が反映されていない前年度への修正転記</li> <li>• 締め日後に転記された金額</li> <li>• 会社間決済の入力漏れ</li> </ul>
貸借一致の会社間勘定科目 (R097011)	対応する会社間勘定の貸借不一致を検出します。
勘定残高と取引の整合性 (R09705)	F0902テーブルとF0911テーブルの間に期間ごとの貸借不一致を検出します。
ビジネスユニットなしの勘定科目 (R097041)	F0006テーブルとF0901テーブルの間に不整合が生じているビジネスユニットと会社を検索します。詳細レベルを含まない勘定科目も検索します。
勘定科目マスターなしの勘定残高 (R097031)	F0901テーブルとF0902テーブルの間に不整合が生じている会社と勘定科目を検出します。
勘定科目マスターなしの取引 (R097021)	F0911テーブルとF0901テーブルの間に不整合が生じている会社と勘定科目を検出します。

この項では、取引とバッチ見出しの整合性レポートの概要と、次の方法について説明します。

- ・取引とバッチ見出しの整合性レポートの印刷
- ・取引とバッチ見出しの整合性処理オプションの設定
- ・取引とバッチ見出しの不整合の修正

取引とバッチ見出しの整合性レポート(R007021)により、バッチ・レコードとそれに関連付けられた取引の間の不整合を特定できます。このレポートでは、F0011テーブルのバッチが次のテーブルの取引と比較されます。

- F0911
- F03B11、F03B13、およびF03B14
- F0411、F0413、およびF0414

具体的には、転記済(D)とマークされたバッチ見出しレコードがある未転記の取引、および一致するバッチ見出しレコードがない未転記または転記済の取引が表示されます。一致するバッチ見出しレコードがない取引は、処理オプションを設定して一致するバッチ見出しレコードをF0011テーブルに再作成できます。

このレポートは非常に長くなることがあります。たとえば、500行の仕訳の1箇所にも不整合があれば、500行すべてが印刷されます。このため、様々なバージョンのレポートを作成し、処理オプションを使って総勘定元帳、買掛金、または売掛金の取引をバッチ・レコードと比較するかどうかを指定できます。

レコードを処理するには、総勘定元帳、買掛金、または売掛金の処理オプションのうち少なくとも1つを設定する必要があります。これを設定しないと、レポートにデータが選択されていないというメッセージが出力されます。

「整合性レポートおよび更新」メニュー(G0922)から、「取引とバッチ見出しの整合性」を選択します。

このレポートにはデータ選択基準を入力しないでください。

処理オプションを使用して、レポートのデフォルト処理を指定できます。

1. 転記済/未転記取引 処理対象として選択されるレコードを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 転記済と未転記両方の取引を検証する。  
 1: 未転記取引のみを検証する。

バッチ見出しのレポートであるため、元帳日付ではなく、バッチ日付を使ってレコードが選択されます。



- |                                  |  |
|----------------------------------|--|
| 1. 日付範囲 開始日付、終了日付                | <p>日付範囲の開始日と終了日を指定して、処理対象として選択されるレコードを絞り込みます。</p> <p>この処理オプションをブランクにすると、対象日数の処理オプションに値を入力しないかぎり、すべてのレコードが選択されます。</p>   |
| 2. 対象日数                          | <p>処理するレコードを選択するために使用する、現行日付に先立つ日数を指定します。バッチ日付がこの値によって算出された日付から現行日付までの範囲にあるレコードが選択されます。たとえば、この処理オプションに30を指定すると、30日前から本日までのレコードが選択されます。</p> <p>この処理オプションをブランクにすると、「開始日付」処理オプションおよび「終了日付」処理オプションで指定した日付範囲が対象となります。</p> |
| 3. バッチ・タイプ範囲、開始バッチ・タイプ、終了バッチ・タイプ | <p>処理するレコードを選択するのに使用する、バッチ・タイプの範囲の始まりと終わりを指定します。ユーザー定義コード・テーブル(98/IT)の有効な値を入力してください。この処理オプションをブランクにすると、すべてのバッチ・タイプが選択されます。</p>   |
| 4. バッチ番号範囲、開始バッチ番号、終了バッチ番号       | <p>処理するレコードを選択するのに使用する、バッチ番号の範囲の始まりと終わりを指定します。この処理オプションをブランクにすると、すべてのバッチ番号が選択されます。</p>   |
| 5. ユーザーID範囲、開始ユーザーID、終了ユーザーID    | <p>処理するレコードを選択するのに使用する、ユーザーID範囲の始まりと終わりを指定します。この処理オプションをブランクにすると、すべてのユーザーIDが選択されます。</p>  |

## 総勘定元帳

バッチ処理オプションでバッチ・タイプ範囲またはバッチ番号範囲を指定して、この「総勘定元帳」の処理オプションを1に指定した場合は、そのバッチが特定され、該当するレコードがF0911テーブルとF0011テーブルの間で比較されます。

バッチ処理オプションでバッチ・タイプ範囲またはバッチ番号範囲を指定して、この「総勘定元帳」の処理オプションをブランクにした場合、F0911テーブルとF0011テーブルの間の不整合はチェックされません。

- |                |  |
|----------------|--|
| 1. G/L整合性検証フラグ | <p>F0911テーブルのレコードを、F0011テーブルのバッチ制御レコードと比較する対象に含めるかどうかを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: F0911のレコードを含めない。</p> <p>1: F0911のレコードを含める。「売掛管理システム」または「買掛管理システム」の処理オプションを1に指定した場合は、F0911テーブルのすべてのバッチ・タイプが整合性チェックの対象として選択されます。</p> |
|----------------|--|

## 売掛管理システム

この処理オプションの有効値は次のとおりです。

- ブランク: 指定したテーブルのレコードを、F0011テーブルのバッチ制御レコードと比較する対象に含めない。
- 1: 指定したテーブルのレコードを、F0011テーブルのバッチ制御レコードと比較する対象に含める。

バッチ処理オプションでバッチ・タイプ範囲またはバッチ番号範囲を指定して、この「売掛管理システム」のいずれかのバッチ処理オプションを1に指定した場合は、それらのバッチが特定され、該当するレコードが売掛金テーブルとF0011テーブルの間で比較されます。

バッチ処理オプションでバッチ・タイプ範囲またはバッチ番号範囲を指定して、この「売掛管理システム」の処理オプションをブランクにした場合、そのテーブルとF0011テーブルの間の不整合はチェックされません。

たとえば、処理オプションでバッチ・タイプ範囲をIBからRBと指定したとします。さらに、「総勘定元帳」と「買掛管理システム」の処理オプションで1を指定し、「売掛管理システム」の処理オプションはブランクのままとします。この場合、F0911テーブルに存在するIBからRBのバッチが整合性チェックの対象となり、F0011テーブルと比較されます。

1. **売掛金元帳(F03B11)整合性検証フラグ** F03B11テーブルの売掛金元帳レコードを含めるかどうかを指定します。
2. **入金見出し(F03B13)整合性検証フラグ** F03B13テーブルの入金見出しレコードを含めるかどうかを指定します。
3. **入金見出し/入金明細比較フラグ** F03B13テーブルの入金見出しレコードとF03B14テーブルの入金明細レコードを含めるかどうかを指定します。

## 買掛管理システム

この処理オプションの有効値は次のとおりです。

ブランク: 指定したテーブルのレコードを、F0011テーブルのバッチ制御レコードと比較する対象に含めない。

- 1: 指定したテーブルのレコードを、F0011テーブルのバッチ制御レコードと比較する対象に含める。

バッチ処理オプションでバッチ・タイプ範囲またはバッチ番号範囲を指定して、この「買掛管理システム」のいずれかのバッチ処理オプションを1に指定した場合は、それらのバッチが特定され、該当するレコードが買掛金テーブルとF0011テーブルの間で比較されます。

バッチ処理オプションでバッチ・タイプ範囲またはバッチ番号範囲を指定して、この「買掛管理システム」の処理オプションをブランクにした場合、そのテーブルとF0011テーブルの間の不整合はチェックされません。

1. **買掛金元帳(F0411)整合性検証フラグ** F0411テーブルの買掛金元帳レコードを含めるかどうかを指定します。
2. **A/P照合伝票(F0413)フラグ** F0413テーブルの照合伝票レコードを含めるかどうかを指定します。
3. **A/P見出し/支払明細フラグ** F0413の買掛金照合伝票レコードとF0414テーブルの買掛金照合伝票詳細レコードを含めるかどうかを指定します。

## オプション

1. **欠落バッチ見出し(F0011)の再作成フラグ** F0011テーブルの不足しているバッチ見出しレコードを再作成するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 不足しているバッチ見出しレコードを再作成しない。バッチ見出しレコードがないというメッセージがレポートに表示されます。  
 1: 不足しているバッチ見出しレコードを再作成する。不足しているバッチ見出しレコードが追加されたというメッセージがレポートに表示されます。
2. **管理者承認** 不足しているF0011テーブルのバッチ見出しレコードを再作成する際の管理者承認を必須にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 不足しているバッチ見出しレコードを再作成する際の管理者承認を不要にする。バッチ状況はA(承認済)に設定されます。

1: 不足しているバッチ見出しレコードを再作成する際の管理者承認を必須にする。バッチ状況がP(保留)に設定されます。

## 取引とバッチ見出しの不整合の修正

取引とバッチ見出しの整合性レポートの実行後、F0011テーブルの不足しているバッチ見出しレコードを再作成する処理オプションを設定して、すべての不整合を修正する必要があります。取引とバッチ見出しの不整合レポートで検出された不整合を修正した後で、バッチと取引明細の整合性レポートを実行してください。

将来不整合が起きないようにするために、バッチの改訂は1人のユーザーが担当することをお薦めします。

### バッチ見出しレコードが見つからない

このエラーがレポートに表示される理由には、次のようなものがあります。

- コンピュータの不具合。
- 変換またはインターフェイス・プログラムで正しくないバッチ見出しが作成された。
- ユーザーが正しくないバッチ見出しを作成した。
- ユーザーがバッチ見出しの改訂フォームに実際の伝票数を入力しなかった。

### 転記済バッチ見出しレコードに転記済詳細がない

ユーザーがバッチ見出しレコードの状況を過って転記済にすると、このエラーが取引とバッチ見出しの整合性レポートに表示されます。

この不整合を修正するには、バッチ見出しの改訂フォームでバッチ見出しレコードの状況をA(承認済)に変更し、バッチを転記します。

### 関連項目:

第 37 章、「バッチ見出しの管理」、「バッチ見出しの追加と改訂」、438ページ

---

## バッチと取引明細の整合性レポートの実行

この項では、バッチと取引明細の整合性レポートの概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- バッチと取引明細の整合性レポートの印刷
- バッチと取引明細の整合性の処理オプションの設定

### バッチと取引明細の整合性レポートについて

バッチと取引明細の整合性レポート(R007031)により、F0011テーブルのバッチ見出しレコードの状況と次のテーブルの対応する取引の状況が比較されます。

- F0911
- F0411、F0413、およびF0414

- F03B11、F03B13、およびF03B14

次の処理のいずれかが実行されます。

- バッチの対応するすべての取引レコードが転記済とマークされている場合は、F0011テーブルのバッチ見出し状況はDに更新されます。  
たとえば、F0911内のバッチ・タイプGのすべてのレコードが転記済で、F0011テーブルのバッチのバッチ見出しレコードが転記されていない場合、F0011レコードの状況はD(転記済)に更新されます。
- 次のいずれかの状況に当てはまる場合に、バッチ見出しが削除され、バッチが削除されたことを示すメッセージがレポートに出力されます。
  - F0911テーブルにバッチ・タイプGのレコードが存在しない。
  - F03B11テーブルにも、F03B13テーブルとF03B14テーブルにもレコードが存在せず、「売掛金の整合性検証フラグ」処理オプションが1に設定されている。
  - F0411テーブルにも、F0413テーブルとF0414テーブルにもレコードが存在せず、「買掛金の整合性検証フラグ」処理オプションが1に設定されている。

---

**注意:**「売掛金の整合性検証フラグ」または「買掛金の整合性検証フラグ」処理オプションがblankの場合は、売掛金テーブルまたは買掛金テーブルに未転記のレコードが存在しているかどうかにかかわらずバッチは無視されます。処理オプションがblankの場合、バッチは整合性チェックの対象外となります。

---

## 事前設定

バッチと取引明細の整合性レポートを実行する前に、取引とバッチ見出しの整合性レポートで検出された不整合を修正してください。

## バッチと取引明細の整合性レポートの印刷

「整合性レポートおよび更新」メニュー(G0922)から、「バッチと取引明細の整合性」を選択します。

## バッチと取引明細の整合性(R007031)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、レポートのデフォルト処理を指定できます。

### 日付範囲

バッチ・レベルのレポートであるため、総勘定元帳の取引日付ではなくバッチ日付を使ってレコードが選択されます。

1. 開始日付、2. 終了日付 日付範囲の開始日と終了日を指定して、処理対象として選択されるレコードを絞り込みます。この処理オプションをblankにすると、対象日数の処理オプションに値を入力しないかぎり、すべてのレコードが選択されます。
3. 対象日数 処理するレコードを選択するために使用する、現行日付に先立つ日数を指定します。バッチ日付がこの値によって算出された日付から現行日付までの範囲にあるレコードが選択されます。たとえば、この処理オプションに30を指定すると、30日前から本日までのレコードが選択されます。  
この処理オプションをblankにすると、「開始日付」処理オプションおよび「終了日付」処理オプションで指定した日付範囲が対象となります。

## 売掛管理

### 1. 売掛金の整合性検証フラグ

整合性チェックの対象にするテーブルを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 整合性チェックの対象をF0011テーブルのバッチ制御レコードとF0911テーブルの元帳レコードのみに絞り込みます。

この処理オプションがブランクでF0911テーブルにレコードがない場合、売掛管理システムのテーブルは整合性チェックの対象にならないためF0011テーブルのバッチ見出しレコードは削除されません。このため、バッチはレポートに表示されません。

1: 整合性チェックの対象をF03B11、F03B13、F03B14、およびF03B11Z1のテーブルに拡大します。

この処理オプションが1で、F0911テーブルにも売掛管理システムのテーブルにもレコードがない場合、バッチ見出しレコードは削除され、レポートには削除されたことを示すメッセージが出力されます。転記済の明細レコードが売掛管理システムのテーブルにあり、対応するF0911のレコードがない場合、バッチは無視されレポートに表示されません。

## 買掛管理

### 1. 買掛金の整合性検証フラグ

整合性チェックの対象にするテーブルを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 整合性チェックの対象をF0011テーブルのバッチ制御レコードとF0911テーブルの元帳レコードのみに絞り込みます。

この処理オプションがブランクでF0911テーブルにレコードがない場合、買掛管理システムのテーブルは整合性チェックの対象にならないためF0011テーブルのバッチ見出しレコードは削除されません。このため、バッチはレポートに表示されません。

1: 整合性チェックの対象をF0411、F0413、およびF0414のテーブルに拡大します。

この処理オプションが1で、F0911テーブルにも買掛管理システムのテーブルにもレコードがない場合、バッチ見出しレコードは削除され、レポートには削除されたことを示すメッセージが出力されます。転記済の明細レコードが買掛管理システムのテーブルにあり、対応するレコードがF0911テーブルにない場合、バッチは無視されレポートに表示されません。

## バッチ

### 1. バッチ・タイプ

整合性チェックの対象にするバッチ・タイプを指定します。この処理オプションをブランクにすると、すべてのバッチ・タイプが表示されます。

### 2. バッチ番号範囲(開始)、 3. バッチ番号範囲(終了)

整合性チェック対象に含めるバッチ番号の範囲の始まりと終わりを指定します。

「バッチ番号範囲(開始)」処理オプションをブランクにすると、「バッチ番号範囲(終了)」処理オプションで指定したバッチ番号より前のすべてのバッチ番号が対象となります。

「バッチ番号範囲(終了)」の処理オプションをブランクにすると、「バッチ番号範囲(開始)」の処理オプションで指定したバッチ番号より後のすべてのバッチ番号が対象となります。

両方の処理オプションをブランクにすると、すべてのバッチ番号が対象となります。

---

## 未転記バッチ・レポートの実行

この項では、未転記バッチ・レポートの概要、事前設定、および次の方法について説明します。

### 未転記バッチ・レポートについて

未転記バッチ・レポート(R007011)を使うと、すべての未転記バッチ取引のリストを行う際に参照できます。このレポートは次の処理を行う際に参照できます。

- 承認済状況のバッチを転記する。
- 保留状況のバッチを検討および承認する。
- エラーのあるバッチを調査する。

未転記バッチ・レポートには、F0011テーブルから取得されたバッチ制御情報のみが出力されます。未転記バッチ取引に対してバッチ見出しが存在しない場合、そのバッチはレポートに表示されません。

このレポートでは、バッチ・タイプ別、次にバッチ番号別に情報がソートされます。

### 事前設定

未転記バッチ・レポートを実行する前に、バッチと取引明細の整合性レポートで検出された不整合を修正してください。

### 未転記バッチ・レポートの印刷

「整合性レポートおよび更新」メニュー(G0922)から、「未転記バッチ」を選択します。

このレポートに処理オプションはありません。

---

## 貸借不一致のバッチ・レポートの実行

この項では、貸借不一致のバッチ・レポートの概要と、次の方法について説明します。

- 貸借不一致のバッチ・レポートの印刷
- 貸借不一致のバッチのデータ選択の設定
- 貸借不一致のバッチの処理オプションの設定
- 貸借不一致のバッチ・レポートの不整合の修正

### 貸借不一致のバッチ・レポートについて

貸借が一致しないバッチは、調査する必要があります。意図的に貸借不一致のバッチを転記したり、システム上の問題により貸借不一致のバッチが転記されることもあります。

貸借不一致のバッチ・レポート(R007032)では、各バッチの残高が検討されます。残高がゼロでない場合、バッチの合計金額ではなく差額がレポートに出力されます。残高がゼロの場合、バッチの貸借は一致しているためレポートに出力されません。

#### 関連項目:

付録 G、「JD Edwards EnterpriseOne 一般会計レポート」、「R09301 - 仕訳帳(未転記)、仕訳帳(バッチ別)、現金主義会計未転記レポート」、530 ページ

## 貸借不一致のバッチ・レポートの印刷

「整合性レポートおよび更新」メニュー(G0922)から、「貸借不一致のバッチ」を選択します。

## 貸借不一致のバッチのデータ選択の設定

レポートの処理時間を短縮するために、データ選択の設定でバッチ番号、バッチ・タイプ、および会社番号を入力することをお勧めします。

## 貸借不一致のバッチ(R007032)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、レポートのデフォルト処理を指定できます。

### 日付範囲

バッチ・レベルのレポートであるため、総勘定元帳の取引日付ではなくバッチ日付を使ってレコードが選択されます。

1. 開始日付、2. 終了日付
- 日付範囲の開始日と終了日を指定して、処理対象として選択されるレコードを絞り込みます。

この処理オプションをブランクにすると、対象日数の処理オプションに値を入力しないかぎり、すべてのレコードが選択されます。

3. 対象日数

処理するレコードを選択するために使用する、現行日付に先立つ日数を指定します。バッチ日付がこの値によって算出された日付から現行日付までの範囲にあるレコードが選択されます。たとえば、この処理オプションに30を指定すると、30日前から本日までのレコードが選択されます。この処理オプションをブランクにすると、「開始日付」処理オプションおよび「終了日付」処理オプションで指定した日付範囲が対象となります。

### 元帳タイプ

1. 元帳タイプ

整合性チェックの対象に追加する元帳タイプを指定します。この処理オプションをブランクにすると、元帳タイプがAAのレコードのみが選択されます。

## 貸借不一致のバッチ・レポートの不整合の修正

貸借不一致のバッチ・レポートを実行したら、検出された不整合を修正してください。バッチの詳細レコードを分析するには、仕訳帳(バッチ別)レポート(R09301)を実行します。

将来貸借不一致が発生するのを防ぐために、次のことを考慮してください。

- ・ 誤って変更が行われないように「バッチ・バージョンの処理 - 使用可能なバージョン」フォームへのセキュリティを割り当てる。

- 貸借不一致仕訳の転記を1人のユーザーが担当するようにする。

### 貸借不一致の転記済バッチ

レポートにこのエラーが表示される理由には、次のようなものがあります。

- 意図的にバッチが貸借不一致のまま転記された。  
レポートからこのバッチを削除するには、「バッチの一時変更」フォームの「整合性レポートからバッチを除外」チェックボックスを選択します。このバッチの伝票は保管しておいてください。
- 会社間決済固定情報が「\*」に設定されている。  
このエラーを修正するには、次の処理を行います。
  - 会社間決済が必要な場合は、仕訳を手入力し、このバッチを転記する。
  - 会社間決済が自動的に作成されるように、会社間決済固定情報を1または2へ変更する。

### バッチが部分的に転記された

レポートにこのエラーが表示される理由としては、コンピュータの不具合またはジョブの取り消しがあります。このエラーを修正するには、次の処理を行います。

- 「バッチの一時変更」フォームの「貸借不一致バッチの転記を許可」チェックボックスを選択して、部分的に転記済のバッチを再転記する。
- 会社間決済が必要な場合は、仕訳を手入力する。

---

**注意:** 特定のバッチ・タイプの空のバッチ見出しが削除されないようにするには、ユーザー定義コード・テーブル(98/IT)でバッチ・タイプの記述02フィールドに「x」を入力してください。

---

## バッチ別貸借不一致の会社レポートの実行

この項では、バッチ別貸借不一致の会社レポートの概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- バッチ別貸借不一致の会社レポートの印刷
- バッチ別貸借不一致の会社の処理オプションの設定
- バッチ別貸借不一致の会社レポートの不整合の修正

### バッチ別貸借不一致の会社レポートについて

バッチ別貸借不一致の会社レポート(R09706)では、F0911テーブルの転記済取引のみが検討されます。このレポートでは、バッチ別にF0911テーブルのすべての転記済取引が集計され、各バッチの合計金額がF0011テーブルのバッチ見出しレコードと比較されます。貸借が一致しないすべてのバッチと次の情報が出力されます。

- バッチの貸借不一致金額
- 貸借不一致バッチがある会社番号と、その会社の貸借不一致金額

このレポートは例外レポートです。不整合がない場合、レポートはブランクになります。



## 事前設定

正確さを期すために、バッチ別貸借不一致の会社レポートは、他のユーザーがこのシステムにアクセスしていないときに実行するようにしてください。

### バッチ別貸借不一致の会社レポートの印刷

「整合性レポートおよび更新」メニュー (G0922) から、「バッチ別貸借不一致の会社」を選択します。

### バッチ別貸借不一致の会社 (R09706) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、レポートのデフォルト処理を指定できます。

#### 追加元帳

##### 元帳タイプ

整合性チェックの対象に追加する元帳を指定します。この処理オプションをブランクにすると、元帳タイプが AA のレコードのみが選択されます。

### バッチ別貸借不一致の会社レポートの不整合の修正

整合性レポートを実行した後、検出された不整合を修正してください。

#### バッチ内会社別貸借不一致

レポートにこのエラーが表示される理由には、次のようなものがあります。

- 一般会計固定情報の設定に従ってバッチが貸借不一致のまま転記されたか、または「バッチの一時変更」フォームで貸借不一致の転記を許可するように設定されている。
- コンピュータの不具合が発生したか、またはジョブが取り消された。

このエラーを修正するには、次の作業を行います。

- 「バッチの一時変更」フォームの「貸借不一致バッチの転記を許可」チェックボックスを選択して、一般会計固定情報の「会社間決済」フィールドの値を「\*」に変更する。
- 会社間決済が自動的に作成されるように、会社間決済フィールドの値を 1 または 2 へ戻す。

---

## 貸借一致の会社レポートの実行

この項では、貸借一致の会社レポートの概要と、次の方法について説明します。

- 貸借一致の会社レポートの印刷
- 貸借不一致の特定
- 貸借一致の会社レポートの不整合の修正

### 貸借一致の会社レポートについて

各会社の取引残高はゼロである必要があります。貸借一致の会社レポート (R097001) では、F0902 テーブルの情報をを使用して、会社の貸借が一致しているかどうか判断されます。

このレポートによって、前年度への修正転記のうち勘定科目の繰越残高に反映されなかったもの、締め日後に転記した金額、および会社間決済の入力漏れを特定できます。会社間決済を行う場合は、貸借一致の会社レポートを実行した後すぐに貸借一致の会社間勘定科レポート(R097011)を実行して、会社間勘定の貸借が一致していることを確認してください。

**注意:** 一般会計固定情報の「会社間決済」フィールドによって、会社間仕訳の自動作成が制御されます。会社間仕訳が自動的に作成されるようにするには、この固定情報を「1」または「2」に設定する必要があります。

貸借一致の会社レポートには3つのカラムが含まれます。会社の貸借が一致している場合、これらのカラムは空白で表示されます。会社の貸借が不一致の場合、次の表に示すように集計金額がカラムに表示されます。

カラム	説明
年度 (会計年度)	次のガイドラインに沿って、貸借不一致の会計年度が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>貸借不一致が1つの年度のみの場合は、それ以降のすべての会計年度に同額の不一致が表示されます。これは、貸借不一致金額は修正されるまで後続年度に持ち越されるためです。後続年度に貸借一致する年度があっても、すべての後続年度に不一致が表示されます。</li> <li>複数の年度に不一致がある場合、不一致額は会計年度ごとに異なります。最も古い年度の不一致が最初の不一致状況になります。</li> </ul>
金額	会社の不一致額が表示されます。このフィールドは累計フィールドです。たとえば、2006年度が不一致の場合、その不一致額は2007年度の額に追加されます。
PACO(未来期間)	貸借が不一致で、将来の会計期間または年度に転記されている場合に、金額が表示されます。

## 貸借一致の会社レポートの印刷

「整合性レポートおよび更新」メニュー(G0922)から、「貸借一致の会社」を選択します。

このレポートに処理オプションはありません。

## 貸借不一致の会社の特定

貸借一致の会社レポートを実行し検討した後に、次の方法で貸借不一致の会社を特定できます。

- 次のいずれかのレポートを実行する。
  - バッチと取引明細の整合性(R007031)
  - 勘定残高と取引の整合性(R09705)
  - 貸借一致の会社間勘定科目(R097011)
- 仕訳の検討プログラム(P0011)でバッチまたはバッチ・タイプを検討する。
- 試算表レポート(R09410)を実行して、各会社のどの期間で貸借不一致が発生しているかを判断する。  
集計レポートの詳細レベルとして5を選択してください。
- F0911テーブルのデータが正しいことを確認する。

レポートのみを印刷するように処理オプションを設定して、取引明細の再転記プログラム(R099102)を実行します。レポートに不整合が表示された場合は、取引明細の再転記プログラムを最終モードで実行して不整合を修正してください。

参照: 第 38 章、「取引明細の再転記と会計年度の再計算」、「取引明細の再転記」、442ページ

## 貸借一致の会社レポートの不整合の修正

貸借不一致の会社を特定した後に、検出された不整合を修正してください。

将来貸借不一致が発生するのを防ぐために、次のことを考慮してください。

- 誤って変更が行われないように、「バッチの処理」フォームと一般会計固定情報にセキュリティを設定する。
- 貸借不一致の修正を1人のユーザーが担当するようにする。

### 会社の年累計カラムが不一致

レポートにこのエラーが表示される理由には、次のようなものがあります。

- バッチが貸借不一致のまま転記された。  
貸借不一致バッチを特定して修正するには、バッチと取引明細の整合性レポートおよびバッチ別貸借不一致の会社レポートを実行します。さらに、勘定残高と取引の整合性レポートを実行して、貸借不一致の勘定と期間を判断します。当初の仕訳を修正するために貸借不一致の仕訳を作成します。
- F0902テーブルにF0911テーブルの取引と異なる誤ったデータが含まれている。  
貸借不一致の仕訳を作成します。必要に応じて、F0902テーブルが更新されるように処理オプションを設定して、取引明細の再転記プログラムを実行し、F0902テーブルがF0911テーブルの転記済合計金額レコードと等しくなるようにします。

### 2つの会社で、貸借不一致が同じ年累計カラムの金額で発生している

会社間決済の設定に誤りがあり、転記時に会社間決済仕訳が作成されなかったバッチがある場合、このエラーがレポートに表示されます。次のことを確認してください。

- 会社間決済を制御するAAI(自動仕訳)を調べ、必要に応じて修正する。
- 会社間勘定を自動仕訳(転記編集コードM)に制限する。
- 一般会計固定情報の「会社間決済」フィールドが、1または2に設定されていることを確認する。

このエラーを特定するには、次の作業を行います。

- 貸借一致の会社間勘定科目レポート(R097011)を実行して、貸借不一致を特定する。
- 主科目別試算表レポートを実行するか、または主科目別試算表の処理フォームを使用して、貸借不一致が発生している会計期間を確定する。

エラーを修正するには、貸借を一致させる会社間仕訳を作成し、一般会計固定情報の「会社間決済」フィールドを「\*」に設定して転記します。このフィールドが「\*」に設定されていない場合、バッチにより各会社の取引残高がゼロになるように会社間決済が作成されるため、貸借不一致は解消されません。処理が完了したら、このフィールドを当初の設定に戻してください。

### PACO(未来期間)カラムに金額がある

このエラーがレポートに表示されるのは、将来の会計期間または年度に仕訳が転記され、貸借が一致しない場合です。このエラーを修正するには、次の処理を行います。

- 将来の会計期間および会計年度に対して試算表レポート(R09410)を実行し、仕訳を特定する。  
レポートのデータを調査して、2つの片側仕訳を入力し、金額を適切な期間に移動する必要があるかどうかを決定します。これらの仕訳は貸借不一致で転記します。
- バッチ別貸借不一致の会社レポート(R09706)を実行して、PACO(未来期間)金額を持つ会社について貸借不一致の転記を行ったバッチを特定する。  
当初の仕訳を修正するために貸借不一致の仕訳を作成します。これらの仕訳は貸借不一致で転記します。

### 会社の前年度合計が貸借不一致

レポートにこのエラーが表示される理由には、次のようなものがあります。

- 貸借対照表勘定と損益計算書勘定の金額を再分類するために前年度の仕訳を入力したが、前年度の再度の締めが行われなかった。
- 前年度のバッチが貸借不一致のまま転記された。
- 前年度からF0902テーブルに、F0911テーブルの取引と異なる誤ったデータが含まれている。

このエラーを修正するには、次の作業を行います。

- 前年度の仕訳が貸借対照表勘定と損益計算書勘定との振替仕訳である場合は、年度の締めプログラム(R098201)をもう一度実行して、繰越利益を再計算する。
- AAI項目 GLG4(繰越利益)が正確かどうか確認する。
- 前年度に貸借不一致状況が存在する場合は、バッチと取引明細の整合性レポートおよびバッチ別貸借不一致の会社レポートを実行して貸借不一致バッチを特定する。  
さらに、勘定残高と取引の整合性レポートを実行して、貸借不一致の勘定と期間を判断します。当初の仕訳を訂正するために前年度に対して貸借不一致の仕訳を作成し、年度の締めプログラムを実行して繰越利益を再計算します。
- F0902テーブルに前年度の、F0911テーブルの取引と異なる誤ったデータが含まれている場合は、当初の仕訳を訂正するために貸借不一致の仕訳を作成する。  
必要に応じて、F0902テーブルを更新するように処理オプションを設定して、取引明細の再転記プログラムを実行します。F0902テーブルはF0911テーブルの転記済合計金額レコードと等しくなります。

### 会社が見つからない

仕訳の転記後に会社が削除された場合、このエラーがレポートに表示されます。このエラーを修正するには、次の作業を行います。

- 会社名および番号プログラム(P0010)を使って、その会社を再入力する。
- 別の会社にも金額を振り替える。

---

## 貸借一致の会社間勘定科目レポートの実行

この項では、貸借一致の会社間勘定科目レポートの概要と、次の方法について説明します。

- 貸借一致の会社間勘定科目レポートの印刷
- 貸借一致の会社間勘定科目の処理オプションの設定
- 貸借不一致の会社間勘定科目の特定

- 貸借一致の会社間勘定科目の不整合の修正

## 貸借一致の会社間勘定科目レポートについて

ハブまたは詳細の会社間決済に設定されている会社が複数ある場合は、すべての会社間勘定の貸借が一致しているかどうかを確認する必要があります。貸借一致の会社間勘定科目レポート(R097011)では、次の処理が行われます。

- F0902テーブルの情報を使用して、会社の様々な会社間決済勘定間の残高が比較される。
- AAI項目および関連する会社間勘定が正しく設定されているかどうかを確認される。
- 現行年度、前年度、次年度のすべての期間が対象となる。

このレポートでは、特定の会計期間は使用されません。

会社の会社間勘定残高は一致している必要があります。一致していない場合は、貸借一致の会社間勘定科目レポートに会社間勘定科目、その残高、および各勘定の残高を一致させるのに必要な金額の一覧が表示されます。

会社間決済コードが「\*」に設定された状態で転記された取引は、このレポートには表示されません。このコードは、バッチが貸借不一致で転記されたときに自動的に使用されます。会社間決済が入力されていないために生じた貸借不一致を特定するには、貸借一致の会社レポートを印刷します。

次の場合にのみ、貸借一致の会社間勘定科目レポートにメッセージが表示されます。

- すべての会社間勘定の残高が一致している。
- AAIで会社間勘定が設定されていない。

---

**注意:** 基本通貨の異なる複数の会社が対象の場合は、この整合性レポートを実行しないでください。そのかわりに、貸借一致の会社レポートを実行してください。

---

## 貸借一致の会社間勘定科目レポートの印刷

「整合性レポートおよび更新」メニュー(G0922)から、「貸借一致の会社間勘定科目」を選択します。

## 貸借一致の会社間勘定科目(R097011)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、レポートのデフォルト処理を指定できます。

### 元帳タイプ

#### 元帳タイプ

処理する元帳タイプを入力してください。ブランクの場合は、すべての元帳タイプが処理されます。

## 貸借不一致の会社間勘定科目の特定

貸借一致の会社間勘定科目レポートを検討した後に、次のいずれかの方法を選択して貸借不一致の会社間勘定科目を特定します。

- バッチと取引明細の整合性レポートを実行する。
- 貸借一致の会社レポートを実行する。
- 仕訳の検討プログラムを使って、バッチまたはバッチ・タイプを検討する。

- ・月別損益計算書レポート(R10412A)または主科目別試算表レポート(R094121)を実行して、貸借不一致の期間を判断する。

## 貸借一致の会社間勘定科目の不整合の修正

貸借一致の会社間勘定科目レポートを実行したら、検出された不整合を修正してください。

将来貸借不一致が発生するのを防ぐために、転記編集コードMを会社間勘定に割り当て、システム生成の取引のみを許可するようにします。

### 会社間勘定残高が不一致

レポートにこのエラーが表示される理由には、次のようなものがあります。

- ・会社間AAI項目が正しく設定されなかった。
- ・自動仕訳しか許可しない勘定科目に手入力の仕訳が誤って転記された。
- ・会社間仕訳を手入力で転記できるように設定している場合に、会社間仕訳の相手勘定科目が指定されていなかった。

このエラーを修正するには、次の作業を行います。

- ・AAI項目のICHとICCCが正しく設定されていない場合は修正する。
- ・会社間決済勘定の誤った仕訳を無効にするか修正する。

---

## 勘定残高と取引の整合性レポートの実行

この項では、勘定残高と取引の整合性レポートの概要と、次の方法について説明します。

- ・勘定残高と取引の整合性レポートの印刷
- ・勘定残高と取引の処理オプションの設定
- ・勘定残高と取引の整合性レポートの不整合の修正

### 勘定残高と取引の整合性レポートについて

勘定残高と取引の整合性レポートでは、F0902テーブルの残高が検討され、その残高がF0911テーブルの転記済取引に対して検証され、期間別に貸借不一致が印刷されます。この整合性レポートでF0902レコードと同じ勘定科目コード、期間番号、会計年度、および元帳タイプを持つF0911レコードが検出されない場合は、次の条件に当てはまるかぎり、その無効な期間の残高はF0902テーブルから削除されます。

- ・無効な期間残高を削除するように処理オプションが設定されている。
- ・元帳タイプ・マスターの設定プログラム(P0025)で、影響を受ける元帳タイプの「残高を直接更新しない」チェックボックスが選択されている。

勘定残高と取引の整合性レポートによって対応するF0902レコードを持つF0911レコードが検出された場合は、処理オプションと元帳タイプ・マスターの設定にかかわらず、F0902テーブルから無効な期間残高は削除されません。

### 関連項目:

第 3 章、「一般会計システムのセットアップ」、「一般会計システムの元帳タイプ規則の設定」、20ページ

## 勘定残高と取引の整合性レポートの印刷

「整合性レポートおよび更新」メニュー(G0922)から、「勘定残高と取引の整合性」を選択します。

## 勘定残高と取引の整合性(R09705)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、レポートのデフォルト処理を指定できます。

### 選択

1. 会社 F0902テーブルからレコードを選択する際に使用する会社番号を指定します。この処理オプションをブランクにすると、すべての会社が選択されます。
2. 元帳タイプ F0902テーブルからレコードを選択する際に使用する元帳タイプ(UDCテーブル09/LT)を指定します。  
  
この処理オプションをブランクにすると、F0902テーブルのすべての金額元帳タイプが選択され、同じテーブルのすべての数量元帳タイプは除外されます。  
  
数量元帳タイプのレコードを処理するには、各数量元帳タイプのレポートを個別に実行します。この処理オプションに具体的な数量元帳タイプを入力して、関連する金額元帳タイプを「金額元帳タイプ」処理オプションに入力します。たとえば、AU元帳の数量元帳タイプ・レコードを処理する必要があり、関連する金額元帳がAA元帳である場合は、「元帳タイプ」処理オプションにAUを、「金額元帳タイプ」処理オプションにAAを指定します。
3. 会計年度 F0902テーブルからレコードを選択する際に使用する会計年度を指定します。会計年度の下2桁を入力します。たとえば、2006年の場合は「06」と入力します。この処理オプションをブランクにすると、すべての会計年度が選択されます。
4. 開始期間、5. 終了期間 F0902テーブルからレコードを選択する際に使用する開始期間と終了期間を指定します。  
  
「開始期間」処理オプションをブランクにすると、「終了期間」処理オプションで指定した期間よりも前の期間のレコードがすべて選択されます。  
  
「終了期間」処理オプションをブランクにすると、「開始期間」処理オプションで指定した期間よりも後の期間のレコードがすべて選択されます。  
  
両方の処理オプションをブランクにすると、すべてのバッチ番号が選択されます。
6. ビジネスユニット F0902テーブルからレコードを選択する際に使用するビジネスユニットを指定します。この処理オプションをブランクにすると、「会社」処理オプションで指定した会社のすべてのビジネスユニットが選択されます。
7. 開始主科目、8. 終了主科目 F0902テーブルからレコードを選択する際に使用する、勘定科目範囲の開始主科目と終了主科目を指定します。  
  
「開始主科目」処理オプションをブランクにすると、「終了主科目」処理オプションで指定した勘定科目よりも前の主科目を持つレコードがすべて選択されます。  
  
「終了主科目」処理オプションをブランクにすると、「開始主科目」処理オプションで指定した勘定科目よりも後の主科目を持つレコードがすべて選択されます。

両方の処理オプションを空白にすると、すべての主科目が選択されます。

## オプション

1. 不正な期間残高をクリア F0911テーブルに対応するレコードがない場合に、F0902テーブルの期間残高を削除するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: F0902テーブルの無効なレコードの期間金額を削除せず、無効なレコードをレポートに出力する。

1: F0902テーブルの無効なレコードの期間金額を削除し、レポートに無効なレコードを出力する。F0911テーブルにレコードが存在せず、元帳タイプ・マスターの設定プログラム(P0025)で対応する元帳タイプの「残高を直接更新しない」チェックボックスが選択されている場合のみ、無効な期間金額は削除されます。

例: F0902テーブルに残高600の勘定科目があり、その元帳タイプはAAで、会計年度2007、期間は6であるとして。これと同じ会計年度、期間、元帳タイプを持つ勘定科目のレコードがF0911テーブルにないとき、元帳タイプのAAの「残高を直接更新しない」チェックボックスが選択されている場合のみ、F0902の金額が削除されます。F0902から残高金額が削除された場合は、貸借不一致の金額と“決済残高”というメッセージが出力されます。

例: F0902テーブルに残高600の勘定科目があり、その元帳タイプはAAで、会計年度2007、期間は6であるとして。F0911テーブルにも残高400の同じ勘定科目があり、その会計年度、期間、元帳タイプもF0902と同じであるとして。この場合は、同じ会計年度および期間の勘定科目の残高がF0911テーブルに存在するため、「残高を直接更新しない」チェックボックスが選択されているかどうかにかかわらず、F0902テーブルの金額は削除されません。

2. 無効な勘定科目を除外 F0902テーブルの期間残高をF0911テーブルの対応するレコードと比較する際に、使用していない勘定科目を除外するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: 無効な勘定科目を含める。

1: 無効な勘定科目を除外する。

## 数量

1. 金額元帳タイプ 「元帳タイプ」処理オプションとともに使用して、F0902テーブルからレコードを選択する際に使用する金額元帳タイプを指定します。「元帳タイプ」処理オプションで指定する数量元帳タイプに関連する、金額元帳タイプ(ユーザー定義コード・テーブル09/LT)を指定します。

この処理オプションを空白にすると、元帳タイプAAが使用されます。

## 勘定残高と取引の整合性レポートの不整合の修正

勘定残高と取引の整合性レポートを実行したら、検出された不整合を修正してください。

将来貸借不一致が発生するのを防ぐために、次のことを考慮してください。

- 誤って変更が行われように、「バッチの処理」フォームにセキュリティを設定する。
- 貸借不一致の転記を1人のユーザーが担当するようにする。



- ・ 入力が無効、変更、削除は1人のユーザーのみに許可する。

**重要:** F0902テーブルのレコードが間違っただけで削除されるのを防ぐために、F0902テーブルへのデータの直接入力を許可しない元帳タイプのみ、元帳タイプ・マスターの設定プログラムの「残高を直接更新しない」チェックボックスを選択してください。F0902テーブルを直接更新することが可能な元帳タイプもあります(BA元帳やその他の予算元帳タイプなど)。

### 勘定残高カラムと明細カラムの残高が不一致

レポートにこのエラーが表示される理由には、次のようなものがあります。

- ・ 誤って無効または改訂処理を行ったため、入力データが破損した。  
F0911テーブルのデータが壊れている場合は、データ・ユーティリティ・プログラムを実行します。F0902テーブルのデータが壊れている場合は、取引明細の再転記プログラム(R099102)を実行します。
- ・ 変換/インターフェイス・プログラムによって作成された入力が正しくない。  
エラーを調べ、不足しているレコードを追加します。F0911のレコードの妥当性を確認し、変換/インターフェイス・プログラムを訂正します。

### 残高カラムに勘定科目が存在せず、明細カラムに勘定科目が存在しない

このエラーが表示されるのは、F0902テーブルにデータの直接入力された場合です。このエラーを修正するには、元帳タイプ・マスターの設定プログラムで、F0902テーブルへのデータが直接入力を許可しないすべての元帳タイプの「残高を直接更新しない」チェックボックスを選択します。それから、「不正な期間残高をクリア」処理オプションで1を選択して勘定残高と取引の整合性レポートを実行し、F0902テーブルから無効な残高を削除します。

### 期間パターンが不正確

このエラーが表示されるのは、仕訳の入力後に、会計期間パターンに変更が加えられた場合です。前の会社の期間パターンが新しい会社のものと異なる場合、処理オプションをレポートの印刷のみに設定して、取引明細の再転記プログラムを実行してください。レポートを検討したら、処理オプションを再計算に設定して取引明細の再転記プログラムを実行し、会計期間と会計年度の残高を修正します。

## ビジネスユニットなしの勘定科目レポートの実行

この項では、ビジネスユニットなしの勘定科目レポートの概要と、次の方法について説明します。

- ・ ビジネスユニットなしの勘定科目レポートの印刷
- ・ ビジネスユニットなしの勘定科目の処理オプションの設定

### ビジネスユニットなしの勘定科目レポートについて

ビジネスユニットなしの勘定科目レポート(R097041)により、F0901テーブルの各レコードに、ビジネスユニットと有効な会社番号が存在するかどうかを確認できます。このレポートでは、F0901テーブルとビジネスユニット・マスター(F0006)が比較され、F0901テーブルの勘定マスター・レコードに、F0006テーブルと対応するビジネスユニットが存在しない場合、その不整合が表示されます。対応するビジネスユニットが見つからない場合、そのビジネスユニットは、このレポートの無効なMCUカラムに「\*」によって示されます。このレポートには、F0901テーブルとF0902テーブルの間で不整合が生じている会社番号も表示されます。

更新モードで実行した場合、F0901テーブルの会社番号はF0006テーブルの会社番号で更新されます。

ビジネスユニットなしの勘定科目レポートでは、詳細レベルの割当がない勘定科目も識別されます。勘定科目には、詳細レベル3から9を割り当てる必要があります。詳細レベルがブランクの勘定科目は、このレポートの無効なLODカラムに「\*」によって示されます。勘定科目に詳細レベルが割り当てられていない場合に詳細レベルをフォームに表示したりレポートに印刷すると、不正確な金額が表示される可能性があります。

---

**注意:** 勘定科目表をJD Edwards EnterpriseOne一般会計システムに移行してから間もない場合は、このレポートを実行して、詳細レベルの情報が欠如している勘定科目を検出して修正してください。

---

ビジネスユニットなしの勘定科目レポートの不整合を修正してから、勘定科目マスターなしの勘定残高レポートを実行してください。

## ビジネスユニットなしの勘定科目レポートの印刷

「整合性レポートおよび更新」メニュー(G0922)から「ビジネスユニットなしの勘定科目」を選択します。

## ビジネスユニットなしの勘定科目(R097041)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、レポートのデフォルト処理を指定できます。

### 更新

1. **会社番号の更新**      会社番号を更新するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
  - 1: レポートのみを印刷する。
  - 2: レポートを印刷し、会社番号を更新する。

---

## 勘定科目マスターなしの勘定残高レポートの実行

この項では、勘定科目マスターなしの勘定残高レポートの概要と、次の方法について説明します。

- 勘定科目マスターなしの勘定残高レポートの印刷
- 勘定科目マスターなしの勘定残高の処理オプション
- 勘定科目マスターなしの勘定残高レポートの不整合の修正

## 勘定科目マスターなしの勘定残高レポートについて

勘定科目マスターなしの勘定残高プログラム(R097031)により、F0902テーブルの各取引に、勘定科目マスター番号または有効な会社番号が存在するかどうかを確認できます。勘定科目マスターまたは会社番号が存在しない場合は、勘定残高情報が出力されます。

更新モードで実行した場合、F0902テーブルの会社番号はF0901テーブルの会社番号で更新されます。

---

**注意:** このレポートと勘定科目マスターなしの取引レポートを更新モードで実行するかわりに、標準勘定科目の仕訳への反映プログラム(R09806)を実行することもできます。標準勘定科目の仕訳への反映プログラムでは、F0911テーブルに加えてF0902テーブルのレコードも自動的に更新されます。

---

## 事前設定

勘定科目マスターなしの勘定残高レポートの実行前に、ビジネスユニットなしの勘定科目レポートの不整合を修正してください。

### 勘定科目マスターなしの勘定残高レポートの印刷

「整合性レポートおよび更新」メニュー(G0922)から「勘定科目マスターなしの勘定残高」を選択します。

### 勘定科目マスターなしの勘定残高(R097031)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、レポートのデフォルト処理を指定できます。

#### 更新

1. 会社の更新                      会社番号を更新するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
  - 1: レポートのみを印刷する。
  - 2: レポートを印刷し、会社番号を更新する。

### 勘定科目マスターなしの勘定残高レポートの不整合の修正

勘定科目マスターなしの勘定残高レポートの実行後に、検出された不整合を修正してください。

#### 勘定科目マスター会社カラムがブランクになっている

勘定科目が設定されていない場合、このエラーがレポートに表示されます。このエラーを修正するには、勘定科目の検討と改訂プログラム(P0901)を使用してレポートの略式勘定科目IDを入力し、勘定科目を追加します。

#### 会社番号が勘定残高テーブルに存在しない

F0902テーブルに会社番号がない場合、このエラーがレポートに表示されます。このエラーを修正するには、F0901テーブルの会社番号でF0902テーブルの会社番号が更新されるようにこのレポートの処理オプションを設定します。この処理オプションは、勘定科目マスター・レコードの会社番号を変更し、F0902テーブルを一括更新する場合に役立ちます。

---

## 勘定科目マスターなしの取引レポートの実行

この項では、勘定科目マスターなしの取引レポートの概要と、次の方法について説明します。

- 勘定科目マスターなしの取引レポートの印刷
- 勘定科目マスターなしの取引の処理オプション
- 勘定科目マスターなしの取引レポートの不整合の修正

## 勘定科目マスターなしの取引レポートについて

勘定科目マスターなしの取引プログラム (R097021) では、F0911テーブルの各レコードに関して、F0901テーブルに勘定科目マスター番号または有効な会社番号が存在するかどうかを確認できます。勘定科目マスター情報または会社番号がF0901テーブルない場合、レポートにはF0911テーブルの取引がすべて出力されます。

更新モードで実行した場合、F0911テーブルの会社番号はF0901テーブルの会社番号で更新されます。

## 事前設定

勘定科目マスターなしの取引レポートの実行前に、勘定科目マスターなしの勘定残高レポートの不整合を修正してください。

## 勘定科目マスターなしの取引レポートの印刷

「整合性レポートおよび更新」メニュー (G0922) から「定科目マスターなしの取引」を選択します。

## 勘定科目マスターなしの取引 (R097021) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、レポートのデフォルト処理を指定できます。

### 更新

1. 会社番号の更新                      会社番号を更新するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
  - 1: レポートのみを印刷する。
  - 2: レポートを印刷し、会社番号を更新する。

## 勘定科目マスターなしの取引レポートの不整合の修正

勘定科目マスターなしの取引レポートの実行後に、検出された不整合を修正してください。

### 会社番号が取引明細テーブルに存在しない

F0911テーブルに会社番号がない場合、このエラーがレポートに表示されます。このエラーを修正するには、F0901テーブルの会社番号でF0911テーブルの会社番号が更新されるように処理オプションを設定します。この処理オプションは、F0901レコードの会社番号を変更し、F0911テーブルを一括更新する場合に役立ちます。

## 第 37 章

# バッチ見出しの管理

この章では、バッチ見出しの改訂の概要、事前設定、およびバッチ見出しの処理方法について説明します。

### 関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「バッチの処理」

---

## バッチ見出しの改訂について

通常は、破損したバッチ見出しレコードを修復したり正しくないバッチ見出しレコードを修正する必要がある場合にバッチを改訂します。バッチの改訂には、バッチ見出しレコードの削除、貸借不一致バッチの転記の許可、整合性レポートからのバッチの除外、バッチの処理状況の変更が含まれます。バッチ見出しの改訂プログラム(P0011)を使って、バッチ見出しレコードを改訂、追加、および削除します。F0011テーブルは更新されます。

---

**重要:** バッチ見出しの改訂プログラムを使ってバッチ見出しレコードを改訂する場合は、監査証跡に影響する可能性があることに注意してください。このプログラムによりバッチ見出しレコードのすべてのフィールドを改訂できますが、一般ユーザーを対象に設計されていないので、バッチ状況を更新する目的で通常使用しないでください。

---

「バッチ見出しの作成/改訂」フォームを使用してバッチ状況を変更できます。改訂内容によっては、改訂後にバッチを転記する必要がある場合もあります。たとえば、総勘定元帳への転記プログラム(R09801)が正常に完了せず、バッチ見出し状況が“使用中”のままです。この問題を訂正するには、バッチ状況を“保留”に変更してバッチ詳細にアクセスするか、“承認済”に変更してバッチを転記します。

また、「バッチ見出しの作成/改訂」フォームにより、詳細再換算バッチ、52期間バッチ、および現金主義バッチの処理状況が表示されます。いずれかのバッチ・タイプですでに処理済(状況1)の場合にそのバッチに入力を追加すると、処理状況はブランクにリセットされます。その後、そのバッチを再転記すると、詳細再換算プログラム(R11411)、52期間会計転記プログラム(R098011)、または現金主義仕訳の作成プログラム(R11C850)で詳細レコードのみが転記の対象になります。

「バッチの一時変更」フォームを使用して、バッチを改訂して貸借不一致で転記したり(または転記しなかったり)、必要に応じてバッチを整合性レポートから除くことができます。たとえば、整合性レポートを修正するために貸借不一致でバッチを転記する必要がある場合があります。次の例は、貸借不一致バッチの転記が必要になる他の状況です。

- 入力時または転記中に電源の問題が発生した場合
- システム導入時に移行したデータの残高を修正するための有効な調整仕訳が入力された場合

取引とバッチ見出しの整合性レポートによって、1つまたは複数のバッチにバッチ見出しがないことが示された場合は、バッチ見出しレコードを追加する必要があります。

通常は、バッチと取引明細の整合性レポートを実行して、すべての空のバッチ見出しを削除します。ただし、手動でもバッチ見出しを削除できます。空のバッチ見出しを削除する前に、バッチにデータが入力されていないことを確認してください。

---

## 事前設定

権限のないユーザーによる変更を防ぐために、このプログラムへのアクセスを制限してください。

---

## バッチ見出しの処理

この項では、次の方法について説明します。

- バッチ見出しの検討
- バッチ見出しの追加と改訂
- 貸借不一致バッチの改訂

## バッチ見出しの処理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
バッチの処理	W0011A	「一般会計の上級/技術的操作」メニュー(G0931)、「バッチ見出し改訂」	集計仕訳を伝票番号別に検討します。仕訳バッチを承認し転記します。F0011テーブルに保存された詳細再換算バッチ、52期間バッチ、および現金主義バッチのバッチ処理状況を検討します。
バッチ承認	W0011C	「バッチの処理」フォームで、「ロー」メニューから「バッチ承認」を選択します。  バッチを転記するには、「ロー」メニューから「バッチ別の転記」を選択し、「バッチ・バージョンの処理 - 使用可能なバージョン」にアクセスします。	バッチ状況を承認済または保留に変更します。  バッチを転記します。
バッチ見出しの作成/改訂	W0011D	バッチ見出しを作成するには、「バッチ見出しの処理」フォームで、「フォーム」メニューの「作成」を選択します。  バッチ見出しを改訂するには、「バッチの処理」フォームで、「ロー」メニューの「改訂」を選択します。  バッチを削除するには、「バッチ見出しの作成/改訂」フォームで、「フォーム」メニューの「削除」を選択します。削除を確認します。	新規のバッチ見出しを追加し、既存のバッチ見出しの改訂と削除を行います。
バッチの一時変更	W0011E	「バッチ見出しの作成/改訂」フォームで、「フォーム」メニューの「一時変更」を選択します。	貸借不一致のバッチを転記するかどうかを指定し、整合性レポートからバッチを除外するかどうかを指定します。

## バッチ見出しの検討

「バッチの処理」フォームにアクセスします。

「バッチの処理」フォームは複数のシステムにより使用されます。そのため、次のフィールドは作成されたバッチ・タイプに適用されない場合もあります。

バッチ見出し改訂 - バッチの処理

選択(S) 検索(I) 開じる(L) フォーム(E) ロー(R) ツール(T)

バッチNo./タイプ 3100 G 一般会計

☒ 未転記バッチ ☐ 転記済みバッチ ☐ すべてのバッチ ☐ 保留

レコード 1-1 グリッドのカスタマイズ

バッチタイプ	バッチNo.	バッチ日付	バッチ状況	状況記述	差異伝票	差異金額	ユーザーID	再換算状況	52期間状況	現金主義状況
<input type="checkbox"/> G	3100	1997/05/07	E	エラー		1-	DEMO			

「バッチの処理」フォーム

### 差異金額

バッチ制御機能を使用すると、バッチの実際の入力合計が予想合計と異なる場合に、差異がこのフィールドに表示されます。次に例を示します。

予想合計 = 10,052

入力合計 = 10,000

差異 = 52

バッチ制御機能を使用しない場合または予想合計を入力しなかった場合には、入力した取引の合計額とゼロが比較され、差異がこのフィールドにマイナスで表示されます。

### 差異伝票

バッチ制御機能を使用する場合は、バッチに入力された取引数が表示されます。バッチ制御機能を使用しない場合は、取引数がマイナスで表示されます。

## バッチ見出しの追加と改訂

「バッチ見出しの作成/改訂」フォームにアクセスします。

「バッチ見出しの作成/改訂」フォームは複数のシステムにより使用されます。そのため、次のフィールドは作成されたバッチ・タイプに適用されないこともあります。

### 再換算状況、52期間状況、現金主義状況

フィールドの値を変更して、バッチの処理状況を変更します。値は次のとおりです。

ブランク。バッチが予約されていないか、または特定のプログラムによって処理されていない。

ブランクにする必要があるのは、バッチが正常に入力されず、そのバッチを再処理する場合のみです。処理済のバッチにデータを追加すると、処理状況は自動的にブランクにリセットされます。

1: バッチが予約されているか、または特定のプログラムによって処理されている。

次のフィールドは金額と伝票数に適用されます。

### 実際の入力合計

バッチ制御機能を使用する場合、入力合計は予想合計と一致する必要があります。これは金額と伝票数の両方に適用されます。



## 貸借不一致バッチの改訂

「バッチの一時変更」フォームにアクセスします。

**貸借不一致バッチの転  
記を許可**

バッチを貸借不一致のまま転記できるかどうかを指定します。バッチを貸借一致で転記する必要がない場合は、整合性レポートからそのバッチを除外していることを確認してください。

**整合性レポートからバツ  
チを除外**

整合性レポートから貸借不一致のバッチを除外するかどうかを指定します。



## 第 38 章

# 取引明細の再転記と会計年度の再計算

この章では、再転記プログラムの概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 取引明細の再転記
- 会計年度と期間の再計算

**注意:** チリ、ペルーおよびポーランドには、取引明細テーブルの再転記用の国別機能が用意されています。

## 再転記プログラムについて

JD Edwards EnterpriseOne 一般会計システムには、次の4つの再転記プログラムがあります。

再転記プログラム	説明
取引明細の再転記 (R099102)	<p>このプログラムを使用して、次の処理を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• F0902テーブルの壊れた勘定残高レコードを修正します。</li></ul> <p>勘定残高をF0911テーブルの転記済金額で更新する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 通貨別に転記をすることが業務で必要になった場合に再転記します。</li></ul> <p>F0902テーブルを更新して、通貨情報を反映する必要があります。</p>
会計年度および期間の計算 (R099103)	<p>このプログラムを使用して、勘定残高を新しい会計年度や期間に対して再計算します。会計期間パターン・テーブル (F0008) に指定された変更後の会計期間パターンを使って、F0911テーブルの会計年度と期間が再計算されます。また、このプログラムでは、勘定残高を新しい期間や会計年度に振り替える取引明細の監査証跡が記録されます。</p> <p>また、このプログラムを実行したら、取引明細の再転記プログラムを実行してF0902テーブルを更新する必要があります。</p>

## 事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 再転記プログラムにセキュリティを設定します。
- 自動仕訳が誤った期間で作成されないように、すべての取引を転記します。
- 必要に応じて会社の会計期間パターンを更新します。
- F0901テーブル、F0902テーブル、F0911テーブルをバックアップします。

---

## 取引明細の再転記

この項では、取引明細の再転記のタイミングの概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 取引明細の再転記プログラムの実行
- 取引明細の再転記のデータ選択とデータ順序の設定
- 取引明細の再転記の処理オプションの設定

### 取引明細の再転記のタイミングについて

この項の次の例では、取引明細の再転記プログラム(R099102)を実行する必要がある状況について説明します。各状況に対する解決方法を説明します。

#### 例: F0911テーブルとF0902テーブルの貸借が不一致

すべての取引明細を転記しました。F0911テーブルの金額に間違いはありません。F0911テーブルの金額とF0902テーブルの金額を比較した結果、貸借が一致していないことがわかりました。

解決方法:

1. レポートのみを印刷するように処理オプションを設定して、取引明細の再転記プログラムを実行します。
2. レポートで旧残高カラム(F0902)と明細金額カラム(F0911)の金額を比較して、F0911テーブルの金額が正しいことを確認します。
3. 取引明細の再転記プログラムを更新モードで実行し、レポートを印刷して、F0902テーブルをF0911テーブルの金額で更新します。

#### 例: バッチが部分的に転記された

転記プログラムが異常終了し、バッチの一部のみが転記されました。

解決方法:

1. 該当する貸借不一致バッチを転記します。
2. 仕訳帳(バッチ別)レポート(R09301)を実行して、転記プログラムで作成された自動仕訳を検出します。
3. 「一般会計固定情報」フォームの「会社間決済」フィールドを\*に変更して、手動による会社間決済を可能にします。  
次のステップが完了したら、「会社間決済」フィールドを当初の設定に戻してください。
4. 仕訳入力プログラム(P0911)を使って、このバッチの貸借を一致させるのに必要な仕訳を手動で作成します。
5. 手動で作成した仕訳のバッチを転記します(このバッチの貸借も一致していません)。

6. 取引明細の再転記プログラムを実行して、レポートのみを印刷します。
7. レポートで、旧残高カラムと明細金額カラムの金額を比較して、F0911テーブルの金額が正しいことを確認します。
8. 必要に応じて、取引明細の再転記プログラムを更新モードで実行し、レポートを印刷して、F0902テーブルをF0911テーブルの金額で更新します。

### 例: 会計年度と期間の再計算後

会計年度および期間の計算プログラム (R099103) を実行して会計年度と期間を再計算した後は、取引明細の再転記プログラムを実行して次の処理を行う必要があります。

- ・ 勘定残高をF0911テーブルの転記済金額で更新します。
- ・ 勘定残高を新しい期間や会計年度に振り替える取引明細の監査証跡を記録します。

1年または複数の年度の取引明細を除去する場合は、処理オプションを使って期首残高を新しい期間パターンの最初の会計年度に繰り越すことができます。

## 事前設定

取引明細の再転記プログラムは比較的処理時間を要するので、ユーザーがシステムにアクセスしない業務時間外に実行してください。

## 取引明細の再転記プログラムの実行

「一括更新」(G09316)メニューから「取引明細の再転記」を選択します。

## 取引明細の再転記のデータ選択と順序の設定

会計年度と期間を再計算した場合は、会計年度および期間の計算プログラムを実行したときと同じデータ選択を使用する必要があります。

再転記の必要がある期間が1つのみの場合には、その期間を指定しません。かわりに、データ選択で会計年度全体を指定してください。そうしないと、その期間の情報だけがF0902テーブル内に存在することになり、他の期間の情報はすべて消去されてしまいます。

F0911テーブルには予算金額のレコードがないため、元帳タイプBAの取引は再転記されません。この他に取引明細テーブルにレコードのない元帳タイプを定義した場合は、これらの元帳が処理されないようにデータ選択を設定してください。

数量元帳は金額情報とともに自動的に再転記されます。たとえば、実績金額(AA)元帳を数量(AU)とともに転記する場合は、データ選択で元帳タイプAAを入力してください。金額と数量の両方の元帳が再転記されます。

データ順序は変更しないでください。

## 取引明細の再転記(R099102)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### モード

1. 処理モード                      処理モードを指定します。値は次のとおりです。
  - 1: レポートを印刷する。

更新モードで実行した場合のF0911テーブルの変更内容を示すレポートが印刷されます。

2: レポートの印刷と更新を行う。

F0911テーブルの変更内容を示すレポートが印刷されて、F0902テーブルはF0911テーブルと等しくなるように更新されます。

---

## 会計年度と期間の再計算

この項では、会計年度と期間の再計算のタイミングの概要と、次の方法について説明します。

- 会計年度および期間の計算プログラムの実行
- 会計年度および期間の計算のデータ選択とデータ順序の設定
- 会計年度および期間の計算の処理オプションの設定

### 会計年度と期間の再計算のタイミングについて

次は、会計年度および期間の計算(R099103)プログラムを実行する必要がある状況の例です。各状況に対する解決方法を説明します。

#### 例: 会計期間パターンをカレンダー期間パターンに変更

現在は7月から翌年6月の会計期間パターンで処理されています。会社合併のため、1月から12月のカレンダー期間パターンに変更することが必要になりました。

現行の会計年度は2006年度で、会計期間パターンは2006年7月から2007年6月です。次のカレンダー年は、2008年1月から12月です。

解決方法:

1. 2007年7月から2007年12月の新しい会計期間パターンとパターン・コードを設定します。
2. ステップ1の新しい会計期間パターンとパターン・コードを使用して、2008年の1月から12月の新しい会計期間パターンとパターン・コードを設定します。
3. 会計年度および期間の計算プログラムを実行して、レポートのみを印刷します。
4. レポートで新旧のCT(西暦)、FQ(四半期)、FY(会計年度)、PN(期間)の各カラムが正しいかどうかを行ごとに確認します。
5. 会計年度および期間の計算プログラムを実行してF0911テーブルを更新し、新しい会計期間パターンを反映させます。

F0902テーブルの繰越残高を新たに計算するには、繰越残高タブの処理オプションを設定してください。

6. 取引明細の再転記プログラムを実行して勘定残高を再計算し、新しい会計期間パターンを反映させます。

このタスクにより、先にF0911レコードに割り当てられた新しい期間番号と会計年度に基づく金額でF0902テーブルが更新されます。会計年度および期間の計算プログラムを実行したときに使用したのと同じデータ選択を使用してください。

7. 年度の締めプログラムを実行して2006年の年度締めを行うか、繰越残高処理オプションを設定して繰越残高を再計算します。

8. 年度の締めプログラムを実行して2007年の年度締めを行うか、繰越残高処理オプションを設定して繰越残高を再計算します。

---

**重要:** 2006年度については、現行の会計期間パターンは2006年7月から2007年6月です。2007年度については、現行の会計期間パターンは2007年7月から2007年12月です。2008年度は、カレンダー年の2008年1月から12月です。異なる会計年度の期間1の金額を比較する際は、異なる月の金額を比べることになりますので注意してください。

---

### 例: カレンダー期間パターンを会計期間パターンに変更

これまで12月決算を行っていた会社が、11月から翌年10月を会計年度とする10月決算に変更することになりました。

会計年度は2006年です。現行のカレンダー年は2006年1月から12月です。新しい会計年度のパターンは2006年11月から2007年10月です。

解決方法:

1. すべての既存の年度に対して11月から10月のパターンで再計算が行われるように新しい会計期間パターンとパターン・コードを設定します。
  2. 会計年度および期間の計算プログラムを実行して、レポートのみを印刷します。
  3. レポートで新旧のCT(西暦)、FQ(四半期)、FY(会計年度)、PN(期間)の各カラムが正しいかどうかを行ごとに確認します。
- 会計年度および期間の計算プログラムを実行してF0911テーブルを更新し、新しい会計期間パターンを反映させます。
  - 取引明細の再転記プログラムを実行して勘定残高を再計算し、新しい会計期間パターンを反映させます。
- このタスクにより、先にF0911レコードに割り当てられた新しい期間番号と会計年度に基づく金額でF0902テーブルが更新されます。会計年度および期間の計算プログラムを実行したときに使用したのと同じデータ選択を使用してください。

---

**注意:** 古い会計期間パターンで処理されたレポートは、再計算された年度のレポートの情報とは一致しません。

---

**関連項目:**

第 41 章、「会計年度の締め処理」、465ページ

JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「組織の設定」、「会計期間パターンの設定」

## 会計年度および期間の計算プログラムの実行

会計年度および期間の計算プログラムを更新モードで使用すると、新しい会計年度および期間の勘定残高を再計算できます。この場合、F0008テーブルの改訂後の会計期間パターンが使用され、F0901テーブルの会計年度と期間が再計算されます。

「一括更新」(G09316)メニューから「会計年度および期間の計算」を選択します。

## 会計年度および期間の計算のデータ選択とデータ順序の設定

データ選択では、会社、元帳タイプ、および会計年度、またはこの3つを組み合わせで入力します。会計期間を変更する場合、会計年度は指定しないでください。

データ順序は変更しないでください。

## 会計年度および期間の計算(R099103)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### モード

#### 1. 処理モード

処理モードを指定します。値は次のとおりです。

1: レポートを印刷する。

更新モードで実行した場合のF0911テーブルの更新内容を示すレポートが印刷されます。

2: レポートの印刷と更新を行う。

F0911テーブルが更新され、監査証跡用にF0911テーブルの更新内容を示すレポートが印刷されます。また、取引明細の再転記プログラムを実行して、F0902テーブルを更新する必要があります。

#### 2. R099102のバージョン

取引明細の再転記プログラムを実行するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 実行しない。

XJDE0001: 印刷する。

更新モードで実行した場合のF0902テーブルの更新内容を示すレポートが印刷されます。

XJDE0002: 印刷と更新を行う。

F0902テーブルが更新され、監査証跡用にF0902テーブルの更新内容を示すレポートが印刷されます。



## 第 39 章

# 組織の改訂

この章では、組織の改訂、勘定科目構造の改訂、および勘定科目構造の改訂により影響を受けるテーブルの各概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 複数勘定科目のビジネスユニットの変更
- 勘定科目の主科目の変更
- 勘定科目の補助科目の変更
- F0911テーブルとF0902テーブルの更新
- ビジネスユニットの会社番号の変更
- 勘定科目情報の変更
- モデル/連結フィールドの更新
- ビジネスユニットのカテゴリ・コードの更新

---

## 組織の改訂について

事業の拡大や会社の合併などにより、勘定科目表の構造を変更することが必要になる場合があります。

勘定科目表を変更する場合、手動で仕訳を作成しなくても取引や残高を新しい勘定科目表に移行できます。新しい勘定科目には自動的に固有の勘定科目IDが割り当てられます。この勘定科目IDを使って、勘定科目変更前の取引明細と残高の監査証跡が記録されます。

ビジネスユニット、主科目、および補助科目は変更できますが、勘定科目IDは変更できません。

勘定科目の構造の変更に加えて、次を変更するプログラムも実行できます。

- 会計情報

勘定科目情報の変更プログラム (R09813) を実行して、勘定科目名や転記編集コードなどの情報を複数の勘定科目に対して一度に変更します。

- モデル/連結フィールド

ビジネスユニットのモデル/連結フィールドの値を変更する場合は、モデル/連結フィールドの更新プログラム (R0006QD) を実行します。このプログラムにより、ビジネスユニット内のすべての勘定科目のモデル/連結フィールドが、ビジネスユニットのフィールド値に合せて更新されます。

- カテゴリ・コード

カテゴリ・コードの更新F0101 -> F0006 (R098021) プログラムを実行して、F0101テーブルのビジネスユニットのカテゴリ・コード情報がビジネスユニット・マスター (F0006) のビジネスユニットのカテゴリ・コード情報と一致するようにします。

---

## 勘定科目構造の改訂について

特定の勘定科目での取引の増加、会社の合併、財務諸表体系の変更などによって、勘定科目表の変更が必要になる場合があります。このタスクには次の処理が含まれる場合があります。

- 新しいビジネスユニットを作成して、既存の勘定科目の明細と残高をその新しいビジネスユニットに移行します。
- 新しいビジネスユニットや既存のビジネスユニットの下に新しい勘定科目（主科目または主科目補助科目）を作成して、既存の勘定科目の明細と残高をその新しい勘定科目に移行します。
- 既存のビジネスユニットを別の会社に移行します。

会社の勘定科目を変更する場合は、新しいビジネスユニットを設定するか、現行のビジネスユニットを変更する必要があります。勘定科目を再構築するときは、次のいずれかの方法でビジネスユニット、主科目、または補助科目を変更できます。

- 1つのビジネスユニットに属する1つの勘定科目を変更できます。たとえば、1つの勘定科目を変更する場合は、主科目と補助科目のみを変更できます。ビジネスユニット・フィールドと勘定科目フィールドを使って目的の情報を検索できます。
- 主科目別に1つの勘定科目を変更できます。たとえば、すべてのビジネスユニットで主科目 5010 を 5015 に変更するとします。主科目を新しい主科目または主科目補助科目に変更できます。また、1つまたは複数のビジネスユニット、主科目または補助科目に対する、ビジネスユニット、主科目または補助科目を、一度に変更することもできます。
- 1つの勘定科目コードを変更する場合は、ビジネスユニット、主科目、補助科目を一度に変更できます。

次の情報の一括変換も可能です。

- ビジネスユニット。1つのビジネスユニットを別のビジネスユニットに変更できます。
- 主科目。1つの主科目を別の主科目に変更できます。
- 補助科目。1つの補助科目を別の補助科目に変更できます。

---

## 勘定科目構造の改訂により影響を受けるテーブルについて

次の3つのテーブルは勘定科目コードの変更により影響を受けます。

- 勘定科目マスター (F0901)
- 勘定残高 (F0902)
- 取引明細 (F0911)

勘定科目IDが3つのテーブルのキーとなります。この3つのテーブルのすべてに次のフィールドがあります。

- 勘定科目ID
- ビジネスユニット
- 主科目
- 補助科目

ビジネスユニット・マスター (F0006) も影響を受ける場合があります。

勘定科目IDごとに、次の項目が順番にF0902テーブルに転記されます。

- 勘定科目ID
- 会計年度
- 元帳タイプ
- 補助元帳
- 補助元帳タイプ
- 通貨コード(指定)

---

## 事前設定

F0901テーブル、F0902テーブル、F0911テーブルをバックアップします。

---

## 複数勘定科目のビジネスユニットの変更

この項では、ビジネスユニットの変更の概要、事前設定、および複数勘定科目のビジネスユニットの変更方法について説明します。

### ビジネスユニットの変更について

ビジネスユニットの一括変換により、複数の勘定科目のビジネスユニット部分を一度に変更できます。たとえば、すべての勘定科目(主科目または主科目.補助科目)のビジネスユニットを3から4に変更できます。

複数の勘定科目でビジネスユニットを変更するには、現行のビジネスユニットと変更後のビジネスユニットがF0006テーブルに存在し、同じ会社に属している必要があります。そうでない場合は、旧ビジネスユニットの会社と新しいビジネスユニットの会社はそれぞれ表示されますが、更新はされません。

重複する勘定科目ができないように、新しいビジネスユニットを有する勘定科目がすでに存在する場合、その勘定科目のビジネスユニットは新しいビジネスユニット番号に更新されません。たとえば、ビジネスユニット1を10に変更するとき、勘定科目10.1110.BEARがF0901テーブルにすでに存在している場合には、勘定科目1.1110.BEARのビジネスユニット部分は10には更新されません。

ビジネスユニットの変更プログラム(P09812)により、F0901テーブルの各勘定科目が更新されます。

---

**重要:** 標準勘定科目の仕訳への反映プログラム(R09806)を実行する前に、F0006テーブルから旧ビジネスユニットを削除しないでください。旧ビジネスユニットがF0006テーブルにないと、その旧ビジネスユニット番号を含むレコードは更新されません。

---

### 事前設定

新しいビジネスユニットが必要な場合は、あらかじめ作成してください。

参照: [第 41 章、「会計年度の締め処理」](#)、465ページ

## 複数勘定科目のビジネスユニットの変更に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
ビジネスユニットの一括更新	W09812A	「一括更新」(G09316)、「ビジネスユニットの変更」	複数勘定科目のビジネスユニットを変更します。

## 複数勘定科目のビジネスユニットの変更

「ビジネスユニットの一括更新」フォームにアクセスします。

「ビジネスユニットの一括更新」フォーム

このタスクが完了したら、F0911テーブルとF0902テーブルの更新に必要な作業を実行してください。

**旧ビジネスユニット、新ビジネスユニット** 変更する旧ビジネスユニットと新ビジネスユニットの番号を入力します。新ビジネスユニットは、F0006テーブルに存在する必要があります。

## 勘定科目の主科目の変更

この項では、勘定科目の主科目の変更の概要と、勘定科目の主科目の変更方法について説明します。

### 勘定科目の主科目の変更について

主科目は一括で変更できます。たとえば、会社1に属するすべてのビジネスユニットについて主科目1131を1132に変更できます。主科目番号を一括変更する場合、旧主科目にはシステム内に存在する主科目を指定し、新しい主科目にはシステム内に存在しない主科目を指定する必要があります。

主科目の変更プログラム(P09803)を実行して、1つまたはすべての会社の主科目を変更します。すべての会社ではなく特定の複数の会社の主科目を変更する場合は、各会社に対して主科目の変更プログラムを実行する必要があります。

主科目の変更プログラムにより、F0901テーブルが更新されます。このプログラムにより、レポートは作成されません。

## 勘定科目の主科目の変更に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
勘定科目コードの一括更新	W09803A	「一括更新」(G09316)、「主科目の変更」	勘定科目の主科目を変更します。

## 勘定科目の主科目の変更

「勘定科目コードの一括更新」フォームにアクセスします。

このタスクが完了したら、F0911テーブルとF0902テーブルの更新に必要な作業を実行してください。

**会社、補助科目** すべての会社と補助科目を更新するには、この2つのフィールドを空白にします。

これらのフィールドで会社または補助科目を指定しない場合は、勘定科目表の旧主科目はすべて新主科目に変更されます。

会社か補助科目、またはその両方を指定した場合は、指定した会社か補助科目、またはその両方の主科目のみが変更されます。

**主科目(旧)、主科目(新)** 変更する旧主科目の番号と、新しい主科目の番号を入力します。新しい主科目には、F0006テーブルに存在しない主科目を指定してください。

## 勘定科目の補助科目の変更

この項では、勘定科目の補助科目の変更の概要と、勘定科目の補助科目の変更方法について説明します。

## 勘定科目の補助科目の変更について

補助科目は一括で変更できます。たとえば、データ入力の効率を上げるために勘定科目1.1110.BEARの補助科目部分を2220に変更できます。この一括変更により、主科目1110を持つすべての会社が影響を受けます。

勘定科目の構造を変更する場合は、会社か主科目範囲、またはその両方を指定して補助科目を変更できます。指定した会社や主科目範囲に対して変更を行う場合は、各会社または各主科目範囲の補助科目を変更する必要があります。

補助科目を一括変更する場合、旧補助科目にはシステム内に存在する補助科目を指定し、新しい補助科目にはシステム内に存在しない補助科目を指定する必要があります。

補助科目の変更プログラム(P09805)により、F0901テーブルが更新されます。

## 勘定科目の補助科目の変更に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
補助科目の一括更新	W09805A	「一括更新」(G09316)、「補助科目の変更」	勘定科目の補助科目を変更します。

## 補助科目の変更

「補助科目の一括更新」フォームにアクセスします。

このタスクが完了したら、F0911テーブルとF0902テーブルの更新に必要な作業を実行してください。

<b>会社番号、開始主科目、終了主科目</b>	<p>すべての会社と主科目を更新するには、これらのフィールドを空白にします。</p> <p>勘定科目範囲を指定して補助科目を変更するには、その勘定科目範囲の最初の主科目と最後の主科目を入力します。</p> <p>会社または主科目の範囲をこれらのフィールドで指定しない場合は、勘定科目表の旧補助科目はすべて新しい補助科目に変更されます。</p> <p>会社か主科目の範囲、または両方を指定した場合、指定した会社か主科目の範囲、または両方の補助科目のみが変更されます。</p>
<b>補助科目(旧)</b>	<p>変更する旧補助科目と新しい補助科目の番号を入力します。新しい補助科目には、F0006テーブルに存在しない補助科目を指定してください。</p>

---

## F0911テーブルとF0902テーブルの更新

この項では、F0911テーブルとF0902テーブルの更新処理の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 標準勘定科目の仕訳への反映プログラムの実行
- 標準勘定科目の仕訳への反映プログラムの実行後の処理

### F0911テーブルとF0902テーブルの更新処理について

ビジネスユニット、主科目、または補助科目を変更したら、改訂情報でF0911テーブルとF0902テーブルを更新する必要があります。この作業のために、標準勘定科目の仕訳への反映プログラム(R09806)を実行します。このプログラムでは、F0911テーブルとF0902テーブルの各勘定科目IDに関してビジネスユニット、主科目、および補助科目がF0901テーブルの勘定科目マスター・レコードと比較され、F0901テーブルと一致するようにF0911テーブルとF0902テーブルが更新されます。

### 事前設定

この項で説明されているタスクを実行するには、事前に次の作業を行う必要があります。

- 勘定科目コードが正しいかどうかを確認します。
- 業務時間外にこのプログラムを実行します。

### 標準勘定科目の仕訳への反映プログラムの実行

「一括更新」メニュー(G09316)から「標準勘定科目の仕訳への反映」を選択します。

このプログラムを選択すると、ただちに処理が開始されます。

## 標準勘定科目の仕訳への反映プログラムの実行後の処理

標準勘定科目の仕訳への反映プログラムの実行後に、次の作業を行ってください。

1. 次の整合性レポートを実行します。
  - ビジネスユニットなしの勘定科目 (R097041)
  - 勘定科目マスターなしの勘定残高 (R097031)
  - 勘定科目マスターなしの取引 (R097021)
2. AAI項目を更新して、ビジネスユニット、主科目、補助科目の変更を反映させます。
3. ビジネスユニット情報を検討します。

新しいビジネスユニットを作成した場合は、旧ビジネスユニット情報を変更できます。旧ビジネスユニットを非アクティブに変更したり、削除することが可能です。旧ビジネスユニット変更後の新しいビジネスユニット番号を参照として入力することもできます。「ビジネスユニットの改訂」フォームの「詳細」タブにある「プロジェクトNo.」フィールドにこの番号を入力します。

4. 必要に応じてレポート作成プログラムのバージョンや配賦、モデル仕訳を更新して、勘定科目表の変更を反映させます。

## ビジネスユニットの会社番号の変更

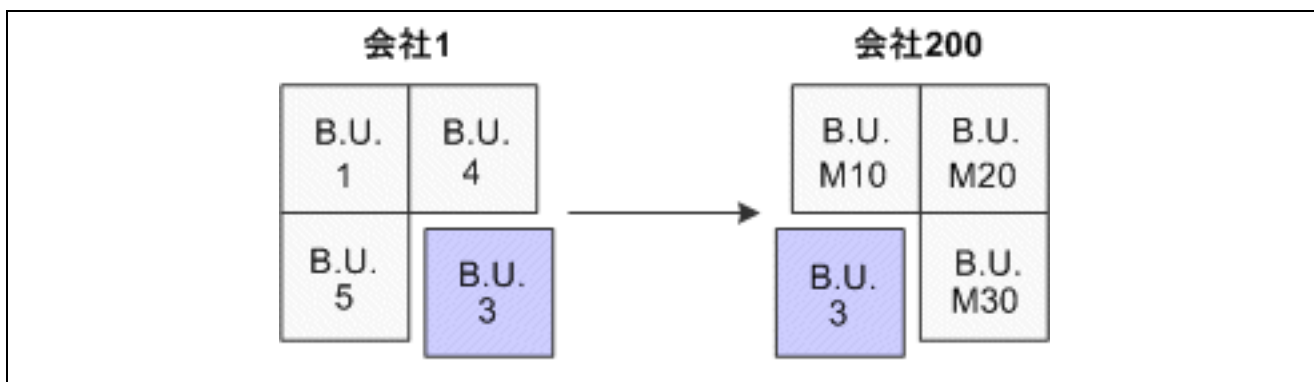
この項では、ビジネスユニットの会社番号の変更の概要と、ビジネスユニットを別の会社に移動する方法について説明します。

### ビジネスユニットの会社番号の変更について

会社の組織変更や買収に伴って、既存のビジネスユニットを別の会社に移動する必要がある場合があります。ビジネスユニットを移動するには、ビジネスユニットの会社番号を変更し、F0901テーブル、F0911テーブル、およびF0902テーブルを新しい会社番号で更新します。

#### 例: ビジネスユニットの移動

次の図は、会社1から会社200へのビジネスユニット3の移動を示しています。



ビジネスユニットの移動

## 別の会社へのビジネスユニットの移動

1つまたは複数のビジネスユニットの会社番号を変更するには、次の作業を行います。

1. 次の整合性レポートをこの順序で実行し、各会社の貸借が一致しているかどうかを確認します。
  - 貸借一致の会社 (R097001)  
参照: 第 36 章、「一般会計のデータ整合性の検証」、「貸借一致の会社レポートの実行」、423 ページ
  - 勘定残高と取引の整合性 (R09705)  
参照: 第 36 章、「一般会計のデータ整合性の検証」、「勘定残高と取引の整合性レポートの実行」、428 ページ
  - 貸借一致の会社間勘定科目 (R097011)  
参照: 第 36 章、「一般会計のデータ整合性の検証」、「貸借一致の会社間勘定科目レポートの実行」、426 ページ
2. ビジネスユニット・マスターの会社番号を変更します。
3. 処理オプションを更新モードに設定して、ビジネスユニットなしの勘定科目整合性レポート (R097041) を実行します。  
このプログラムにより、F0901 テーブルの会社番号が更新されます。  
参照: 第 36 章、「一般会計のデータ整合性の検証」、「ビジネスユニットなしの勘定科目レポートの印刷」、432 ページ
4. 標準勘定科目の仕訳への反映プログラム (R09806) を実行します。  
このプログラムにより、対象となるビジネスユニットに関するすべての取引について F0911 テーブルと F0902 テーブルの会社番号が更新されます。  
または、次の整合性レポートを更新モードでこの順序で実行します。
  - 勘定科目マスターなしの勘定残高 (R097031)
  - 勘定科目マスターなしの取引 (R097021)
5. すべての必要な AAI 項目を更新します。  
参照: JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「AAI (自動仕訳) の設定」、「単一 AAI 項目の設定」
6. ビジネスユニット・セキュリティで、ローのセキュリティを確認します。
7. 貸借一致の会社整合性レポートと貸借一致の会社間勘定科目整合性レポートを再度実行して、入力する会社間取引を決定します。
8. すべての必要な会社間取引を入力します。
9. 必要に応じて、会社間取引を転記します。  
取引が自動的に会社間決済勘定に転記されるようにするには、一般会計固定情報で「会社間決済」フィールドに\*を設定する必要があります。
10. 前のステップで「会社間決済」フィールドを変更した場合は、元の値に戻します。

### 関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「組織の設定」、「ビジネスユニットの設定」



---

## 勘定科目情報の変更

この項では、勘定科目情報の変更の概要と、次の方法について説明します。

- 勘定科目情報の変更プログラムの実行
- 勘定科目情報の変更のデータ選択の設定
- 勘定科目情報の変更の処理オプションの設定

### 勘定科目情報の変更について

特定のビジネスユニットに関連付けられている勘定科目の情報を変更する場合は、他のビジネスユニットに関連付けられている同じ勘定科目の情報も変更する必要があります。すべてのビジネスユニットや会社の勘定科目情報を一括して変更できます。

勘定科目情報の変更プログラム(R09813)は、テスト・モードまたは最終モードで実行できます。テスト・モードの場合は、レポートが印刷されるだけで情報は更新されません。最終モードでは、F0901テーブルの情報が更新され、必要に応じて、変更内容を示すレポートも印刷されます。

このプログラムを最終モードで実行すると、同じ種類のすべての勘定科目の選択したフィールドが更新されます。勘定科目情報処理オプションを設定して、次のフィールドを更新します。

- 勘定科目名
- 代替記述
- 転記編集コード
- 詳細レベル
- 請求対象
- 予算パターン・コード
- 単位
- 代替主科目/補助科目
- 勘定科目カテゴリ・コード1から23
- モデル勘定科目

---

**重要:** 処理オプションで選択されたすべてのフィールドが更新されます。法定勘定科目表などを表すカテゴリ・コード21から23などのフィールドを更新対象から除外する場合は、そのフィールドが処理オプションで選択されていないことを確認します。この処理オプションへのアクセスを規制して、法定勘定科目表が不注意に変更されるのを防ぐようにしてください。

---

主科目/補助科目フィールドは更新されません。このフィールドを更新するには、主科目または補助科目を変更するか、標準勘定科目の仕訳への反映プログラムを実行します。

### 勘定科目情報の変更プログラムの実行

「一括更新」(G09316)メニューから「勘定科目情報の変更」を選択します。

### 勘定科目情報変更のデータ選択の設定

変更するビジネスユニットのみを選択してください。

## 勘定科目情報の変更(R09813)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムのデフォルト処理を指定できます。

### 一括更新

1. 開始ビジネスユニット      コピー元のビジネスユニット番号を指定します。F0006テーブルの有効なビジネスユニットを入力してください。

勘定科目情報の変更プログラムを実行すると、指定したビジネスユニット内の勘定科目の値が、他のビジネスユニット内の同じ勘定科目にコピーされます。

---

**注意:** この処理オプションへの入力は必須です。

---

2. 処理モード      勘定科目の変更プログラムを実行する場合のモードを指定します。値は次のとおりです。

ブランクまたは0: テスト・モード

レポートは作成されますが、F0901テーブルは更新されません。

1: 最終モード

レポートが作成されて、F0901テーブルが更新されます。

2: 最終モード

F0901テーブルは更新されますが、レポートは作成されません。

### 勘定科目情報

1. 一括更新に含めるフィールド      更新するフィールドを選択します。次のフィールドを選択できます。勘定科目名、転記編集コード、詳細レベル、請求可能、予算パターン・コード、単位、代替主科目/補助科目、モデル勘定科目、勘定科目カテゴリ・コード1から23。

### ACA

1. 一括更新に含める収益性分析(管理会計)システムのフィールド      更新するフィールドを選択します。次のフィールドを選択できます。コストオブジェクト検証コード1から4、品目検証コード。

### 代替記述

1. 代替記述の更新      代替言語で翻訳されている勘定科目マスター - 代替記述テーブル(F0901D)の勘定科目記述の自動更新を行うかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 代替言語勘定科目記述を更新しない。

1: 代替言語勘定科目記述を更新する。

「開始ビジネスユニット」処理オプションで指定したビジネスユニット内の勘定科目について、使用言語に対応するF0901Dテーブルの代替言語勘定科目記述が、F0901Dテーブルの他のビジネスユニット内の同じ勘定科目にコピーされます。

- 2. 代替記述言語コード** F0901Dテーブルに代替言語勘定科目記述をコピーする場合に使用される代替記述言語コードを指定します。
- 特定の言語コードを更新するには、この処理オプションにUDCテーブル01/LPのコードを入力して、「代替記述の更新」処理オプションに「1」を入力します。
- すべての言語コードを更新するには、この処理オプションをブランクにして、「代替記述の更新」処理オプションに「1」を入力します。
- 3. レポートに代替記述を含める** F0901Dテーブルにコピーされた代替言語勘定科目記述の明細をレポートに出力するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
- ブランク: 明細を出力しない。
- 1: 明細を出力する。

## モデル/連結フィールドの更新

この項では、モデル/連結フィールドの更新の概要と、モデル/連結フィールドの更新プログラムの実行方法について説明します。

### モデル/連結フィールドの更新について

ビジネスユニットがモデルの場合、そのビジネスユニットに属するすべての勘定科目について、F0901テーブルのモデル/連結フィールドの値は、Mになります。ビジネスユニットがモデルでない場合、モデル/連結フィールドはブランクになります。

モデル・ビジネスユニットをモデル・ビジネスユニットではないビジネスユニットに変更する場合は、モデル/連結フィールドの更新プログラム(R0006QD)を実行してF0901テーブルを更新する必要があります。そのビジネスユニット内のすべての勘定科目のモデル/連結フィールドはブランクに変更されます。

同様に、モデルではないビジネスユニットをモデル・ビジネスユニットに変更する場合は、モデル/連結フィールドの更新プログラムを実行してF0901テーブルを更新する必要があります。そのビジネスユニット内のすべての勘定科目のモデル/連結フィールドはMに変更されます。

**注意:** F0911テーブルまたはF0902テーブル、あるいはその両方にビジネスユニットのレコードが存在する場合は、モデルではないビジネスユニットをモデル・ビジネスユニットに変更することはできません。

モデル/連結フィールドの更新プログラムでは、勘定科目が連結ビジネスユニットに属する場合、F0901テーブルのモデル/連結フィールドは更新されません。かわりに、連結データの再作成プログラム(R10862)によって、これらの勘定科目のモデル/連結フィールドはCに更新されます。

### モデル/連結フィールドの更新プログラムの実行

「一括更新」メニュー(G09316)から「モデル/集計フィールドの更新」を選択します。

このプログラムには処理オプションはありません。

**関連項目:**

第 32 章、「バッチ連結の処理」、「連結データの再作成プログラムについて」、333ページ

## ビジネスユニットのカテゴリ・コードの更新

この項では、カテゴリ・コードの更新の概要、事前設定、およびカテゴリ・コードの更新F0101 → F0006プログラムの実行方法について説明します。

### カテゴリ・コードの更新について

ビジネスユニットを住所録でも管理する必要がある場合は、F0006テーブルのカテゴリ・コード情報と住所録の情報を一致させることができます。F0006テーブルのカテゴリ・コード情報を再入力する手間を省くには、カテゴリ・コードの更新F0101 → F0006プログラム(R098021)を実行して、カテゴリ・コード情報を更新します。このプログラムでは、ビジネスユニットのすべてのカテゴリ・コード値が一括更新されます。

カテゴリ・コードの更新F0101 → F0006プログラムを実行すると、F0006テーブルとF0101テーブルのビジネスユニット情報が比較されます。情報が一致していると、F0101テーブルからF0006テーブルにその情報がコピーされます。

- カテゴリ・コード1から4
- 名称フィールドから記述行1フィールド
- 短縮記述(スペースなしの名称)

F0006テーブルのビジネスユニット・フィールドは12文字ですが、住所録番号は8文字です。このため更新されるのは8文字以下の数値のビジネスユニットのみです。9文字以上のビジネスユニットは更新されません。

### 事前設定

この項で説明されているタスクを実行するには、事前に次の作業を行う必要があります。

- 住所録の改訂プログラム(P01012)を使用して、数値のビジネスユニットを住所録番号として設定します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 住所録 9.0 製品ガイド、「住所録レコードの入力」

- F0006テーブルをバックアップします。

### カテゴリ・コードの更新F0101 → F0006プログラムの実行

「一括更新」メニュー(G09316)から「カテゴリ・コードの更新F0101 → F0006」を選択します。

このプログラムを選択すると、処理は自動的に実行されて、レポートが完了すると更新も完了しています。更新の出力は印刷されません。

このプログラムには処理オプションやデータ選択はありません。

## 第 40 章

# 会計期間とレポート期間の締め処理

この章では、期末締めタスクの概要と次の方法について説明します。

- 会計期間の締め処理
- 財務レポート期間の変更

---

**注意:** フランス、イタリアおよびスペインには、会計レポート用の国別機能が用意されています。

---

## 期末締めタスクについて

会計期間の締め処理は会社によって異なります。会社は、自社の締め処理の詳細手順をまとめて文書化しておく必要があります。

次に、ほとんどの会社に通な会計期間の締め処理をあげます。

- 未払費用、未収収益などの入力
- 全バッチの検討と転記
- 整合性レポートの実行とエラーの訂正

すべての会社が、このタスクを期末締め処理に含める必要があります。整合性レポートによって、残高を最終的に確定する前にデータの不整合を発見できます。各期間の締め前に限らず、期間や年度の途中にこのレポートを印刷することにより、問題の発見、修正をタイムリかつ効果的に行うことができます。会計データの正確さを期するためには、整合性レポートを定期的に実行します。

- 総勘定元帳と銀行残高の調整
- 買掛管理システム、売掛管理システム、および一般会計システムの会計期間の締め処理
- 財務レポートの実行
- 財務レポート期間の変更

---

## 会計期間の締め処理

この項では、会計期間の締め処理方法とその処理による影響の概要と、次の方法について説明します。

- 1つの会社の会計期間の締め処理
- 1つの会社の会計期間と年度の締め処理
- 複数の会社の会計期間の締め処理

## 会計期間の締め処理について

会計期間の締めには、特別な処理は必要ありません。「会社の設定」フォームで、売掛管理システム、買掛管理システム、および一般会計システムの現行期間を1増やすだけです。

会計期間の締め処理には、次の規則が適用されます。

- JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムと JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理システムは、JD Edwards EnterpriseOne 一般会計システムとは別に締めることができます。これにより、各システムで異なる期間を現行期間として使用できます。

JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムと JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理システムの現行期間を、JD Edwards EnterpriseOne 一般会計システムの現行会計期間以後とすることは可能ですが、それ以前にはできません。

- 3つのシステムが同じ会計期間を使用している場合には、JD Edwards EnterpriseOne 一般会計システムのみ締めれば、3つすべてのシステムの締め処理が行われます。
- 売掛管理システムと買掛管理システムの期間を再オープンせずに、一般会計システムの期間を再オープンできます。

たとえば、一般会計固定情報で前期間への入力を不可に設定している場合に、前期間に入力する必要が生じたときなどに期間を再オープンします。一般会計システムの期間を再オープンするには、「会社の設定」フォームで現行期間を変更します。

システムの締めは通常次の順序で行いますが、必ずしもこの順序で行う必要はありません。

- JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理
- JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理
- JD Edwards EnterpriseOne 一般会計

財務レポートの完了後に、会計期間の締め処理の最終ステップとして財務レポート期間を新しい会計期間へ変更します。

## 会計期間の締め処理による影響について

会計期間を締めると、会社固定情報テーブル (F0010) が新しい会計期間で更新され、日付チェックのために使われていた日付がリセットされます。現行期間以外の日付で入力すると、次のいずれかの警告またはエラーが表示されます。

エラー/警告	説明
PBCO (過去期間)	すでに締めた期間への入力です。
PACO (未来期間)	将来の期間への入力です。
WACO (次年度以降)	将来の年度への入力です。
PYEB (前年度以前)	すでに締めた年度への入力です。

一般会計固定情報により、PBCO (過去期間) への入力の転記を可能にするかどうかを指定します。

F0010 テーブルはキャッシュされるので、会計期間を締めた後に EnterpriseOne システムを終了し、WebSphere サーバーを再起動してキャッシュをリセットする必要があります。新しい期間は、EnterpriseOne システムの再起動後に有効化されます。

## 会計期間とレポート期間の締めに使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
会社の処理	W0010C	「定期および年次処理」(G0924)、「会計期間の締め」	会社情報を検討します。
会社の設定	W0010B	「会社の処理」フォームで、会計期間を締める会社を選択します。	会計期間の締め、前回の会計期間および年度の締め、財務レポート期間の変更を行います。
一括期間締め	W0010D	「会社の処理」フォームで、複数の会社を選択し、「ロー」メニューから「一括締め」を選択します。	複数の会社に対して、会計期間の締め、前回の会計期間および年度の締め、財務レポート期間の変更を行います。各会社の現行期間と会計期間は同じである必要があります。

## 1つの会社の会計期間の締め処理

「会社の設定」フォームにアクセスします。

会計期間の締め - 会社の設定

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

会社番号 \* 00001 名称 \* Financial/Distribution Company

会社の設定 52期間会計 通貨

**一般会計**

会計期間パターン \* R

期間数 12

現行期間 6

年度開始日付 \* 2005/01/01

会社住所No.

**買掛管理**

現行期間 6

年度開始日付 2005/01/01

仮勘定の使用 ☐

**売掛管理**

現行期間 6

年度開始日付 2005/01/01

**財務レポート**

レポート期間 6 報告年度 05

「会社の設定」フォーム

### 一般会計

#### 現行期間

JD Edwards EnterpriseOne一般会計システムの会計期間を締めるには、このフィールドの値を1増やします。JD Edwards EnterpriseOne売掛管理システムとJD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムの現行期間がJD Edwards EnterpriseOne一般会計システムと同一であれば、これらのシステムも自動的に締められます。

## 買掛管理

### 現行期間

JD Edwards EnterpriseOne 一般会計システムと JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムを締めずに JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理システムを締めるには、このフィールドの値を 1 増やします。

JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理システムと JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムを個別に締める場合は、その期間の最終入力が行われるまで JD Edwards EnterpriseOne 一般会計システムの締めは行わないままにしておきます。

## 売掛管理

### 現行期間

JD Edwards EnterpriseOne 一般会計システムと JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理システムを締めずに JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムを締めるには、このフィールドの値を 1 増やします。

JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムと JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理システムを個別に締める場合は、その期間の最終入力が行われるまで JD Edwards EnterpriseOne 一般会計システムの締めは行わないままにしておきます。

## 1つの会社の会計期間と年度の締め処理

「会社の設定」フォームにアクセスします。

年度締めプログラムを実行して会計年度を締める前に、「会社の設定」フォームで会計期間と会計年度を締める必要があります。そのためには、「一般会計」の「現行期間」フィールドの値を 01 に変更して、「年度開始日付」フィールドに新しい会計年度を入力します。「OK」をクリックすると、新しい期間と年度が「買掛管理」と「売掛管理」に自動的に適用されます。たとえば、2006 年のカレンダー会計年度を締めるには、現行期間を 01、年度開始日付を 2007/01/01 に変更します。

## 複数の会社の会計期間の締め処理

「一括期間締め」フォームにアクセスします。

会計期間の締め - 一括期間締め

OK(O) 取消(L) ツール(T)





更新するシステムやレポートの年度と期間を指定してください。

	現行 期間	会計 年度
一般会計	<input type="text"/>	<input type="text"/>
財務レポート	<input type="text"/>	<input type="text"/>
買掛管理	<input type="text"/>	<input type="text"/>
売掛管理	<input type="text"/>	<input type="text"/>

「一括期間締め」フォーム

このフォームの機能は、複数の会社の会計期間と会計年度（必要に応じて）を締める点を除けば、「会社の設定」フォームの機能と同じです。この機能を実行するには、各会社の現行期間と会計年度が同じである必要があります。



**現行期間** 「一般会計」、「買掛管理」、および「売掛管理」の各フィールドの値を1増やします。

## 財務レポート期間の変更

この項では、財務報告日付の概要と、財務レポートの期間の変更方法を説明します。

### 財務報告日付について

買掛管理システム、売掛管理システム、および一般会計システムの会計期間を締めて、会計期間のすべての財務レポートを実行した後に、会計期間の締め処理の最終ステップとして財務レポート期間を変更します。「会社の設定」フォームで財務レポート期間を次の期間に変更して、新しいデフォルトの財務レポート期間を指定します。財務報告日付は、すべての財務レポートに使用され、固定情報テーブル (F0010) の会社レコードに保管されます。

前期のレポートを作成する場合は、「会社の設定」フォームでレポート期間の値を減らすことで、財務レポート期間を再オープンできます。たとえば、現行期間が6の場合に、財務レポートの期間を5に変更します。その他の方法としては、処理オプションを使って、レポートを実行する際にF0010テーブルの財務報告日付を変更することもできます。

会社00000の財務報告日付は、すべての会社を使用する現行期間と年度と同じである必要があります。次の財務レポートでは、データ順序の最初のフィールドが会社またはビジネスユニットの場合を除いて、会社00000のレポート期間と年度が使用されます。

- 損益計算書 (R10211B)
- 貸借対照表 (R10111B)

### 財務レポート期間の変更

「会社の設定」フォームにアクセスします。

#### 財務レポート

**レポート期間、報告年度** 「レポート期間」フィールドの値を1増やして、財務レポートの新しいデフォルトの期間を指定します。会計年度を締めるには、同様に「報告年度」フィールドの値を1増やします。

「レポート期間」フィールドの値を1以上減らすと、実際の会計期間とは異なるデフォルトの財務報告日付を指定できます。これは期間の再オープンと呼ばれ、過去のどの期間についても財務諸表の作成が可能になります。

**注意:** 現行期間と会計年度が同じ複数の会社の財務レポート期間と、必要に応じて会計年度を変更する場合は、「一括期間締め」フォームを使用します。



## 第 41 章

# 会計年度の締め処理

この章では、会計年度の締め処理の概要、設定要件と一般的タスクの概要、および次の方法について説明します。

- 会計年度の締め処理
- 予算用会計年度の締め処理

---

**注意:** フランスとイタリアには、会計年度の締め処理用の国別機能が用意されています。

---

## 会計年度の締め処理について

年度末処理の一環として、会計年度の財務諸表を締め、年度締めプログラム実行する必要があります。財務諸表を締めるには、「会社の設定」フォームで次のシステムを締めます。

- 総勘定元帳の年度末残高を調整する場合はJD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムとJD Edwards EnterpriseOne売掛管理システム
- 繰越利益の計算をする場合はJD Edwards EnterpriseOne一般会計システム

これらのシステムの会計年度を締めたら、年度締めプログラム(R098201)を実行する必要があります。このプログラムの実行中や実行後にその年度への転記が行われることのないように、上述の順序で処理することをお勧めします。この順序を変更した場合は、貸借不一致などの整合性の問題が生じることがあります。

年度締めプログラムによって、次の処理が実行されます。

- 元帳タイプ規則の設定プログラム(P0025)で「繰越利益の計算」チェックボックスを選択したすべての元帳タイプの繰越利益が計算および転記されます。

繰越利益勘定へ転記した仕訳が最終の繰越利益額へ組み入れられます。

- AA元帳タイプと予算元帳タイプに対して、F0902テーブルに新会計年度の勘定科目レコードが作成されます。
- F0902テーブルの繰越残高フィールドと前年度末合計転記額フィールドが更新されます。

勘定科目の種類にかかわらず、F0902テーブルの繰越残高フィールドは常に更新されます。ただし、AAI項目GLG6およびGLG12を使用するオンライン照会またはレポートでは損益勘定の繰越残高は表示されません。F0902テーブルの繰越残高フィールドの値が更新されると、作業原価システムで一般的に使用される開始日以降累計レポートの作成が可能になります。

- 年度締めレポート(R098201)が印刷されます。

同じ会計年度の締めは必要に応じて何回でも行うことができます。監査調整や予期しえない調整に対応するために、締めを複数回行う必要がある場合がよくあります。会計年度の締めプログラムを複数回実行しても、残高が倍増することではなく、常に正しい残高が計算および転記されます。たとえばプログラムを2回実行しても、残高が倍になることはありません。

---

**注意:** 年度締め処理を行わずに、新年度の最初の期間のレポートを作成できます。年度締めプログラムを実行して、F0902テーブルの全勘定の繰越残高フィールドを更新します。これにより、レポート用に繰越残高が新年度の最初の期間に繰り込まれます。

---

## 繰越利益

繰越利益勘定に調整が必要な場合は、調整仕訳を入力しないでください。問題が生じることがあります。そのかわりに、繰越利益勘定と同じビジネスユニットと主科目、および新しい補助科目を使用して、新しい勘定科目を作成してください。

1つの繰越利益に対して、複数の会社を締めることができます。この処理は、会社内の各部門をそれぞれ会社として設定している場合に必要となります。1つの繰越利益勘定に対してこれらの部門を締め、法律上の会社の連結財務諸表を作成します。

## 貸借対照表勘定の仕訳

会計年度を締めた後に、その年度に対して貸借対照表勘定の仕訳の作成が必要になる場合があります。その場合は、その年度を再オープンして（つまり、現行期間を前年度の最終期間に変更して）、年度締めプログラムを実行する必要はありません。そのかわりに、仕訳入力プログラム（P0911）を使用して、伝票タイプ##（前年度取引）の仕訳を作成します。警告メッセージが表示されますが、取引は入力できます。通常どおり取引を転記してください。影響を受けた貸借対照表勘定に対して、F0902テーブルの繰越利益が自動的に更新されます。この仕訳は貸借対照表勘定の仕訳なので、利益勘定に影響はありません。そのため、会計期間と年度を再オープンして年度締めプログラムを実行する必要はありません。

## 会社間決済

年度締めプログラムを実行した後に、会社の貸借を一致させるために会社間決済仕訳の作成が必要になる場合があります。年度締めプログラムでは、繰越利益が繰越利益勘定に転記されますが、会社間決済の自動仕訳は作成されません。

## 事前設定

会計年度の締め処理を実行する前に、次の作業を行う必要があります。

- 会計監査用の全環境をバックアップしてください。

情報システムの税監査の際に、電子データ・ファイルの他にレポートの再作成が必要になることがあります。

- 年度締めプログラムを実行する際は、F0902テーブルにアクセスしているユーザーがいないどうかを確認してください。

F0902テーブルにユーザーがアクセスしていると、繰越利益の計算時にレコードが正しく取りこまれない場合があります。

---

## 設定要件と一般タスクについて

この項では、年度末の締め処理のための会計年度の設定要件および一般タスクの概要を説明します。

## 会計年度の設定要件について

次の表は、年度締め処理を行うために設定する必要のある項目を示しています。

設定	説明
勘定科目表	<p>次の勘定科目を設定する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 損益勘定</li> <li>・ 開始貸借対照表</li> <li>・ 終了貸借対照表</li> </ul>
AAI(自動仕訳)	<p>次のAAI項目を設定する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ GLG4: 繰越利益</li> <li>・ GLG6: 開始収益勘定</li> <li>・ GLG12: 終了損益勘定</li> </ul> <p>繰越利益勘定のAAI項目GLG4のみが、会社固有のGLG項目です。</p> <p><b>重要:</b> 年度を締めた後にAAI項目を変更して再び締め処理を行うと、異なる結果が生じる場合があります。</p>
元帳タイプ	<p>元帳タイプAAと予算元帳タイプが、UDCテーブル09/LTと「元帳タイプ規則の設定」フォームで設定されている必要があります。AA元帳については、「元帳タイプ規則の設定」フォームの次のチェックボックスを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 繰越利益の計算</li> <li>・ 元帳の貸借一致必須</li> </ul> <p>予算元帳タイプについては、「当初予算の次年度繰越」チェックボックスを選択します。</p>

## 年度末の締め処理の一般タスクについて

会計年度の締め処理は会社によって異なります。会社は、自社の締め処理の詳細手順をまとめて文書化しておく必要があります。

次に、ほとんどの会社に通な会計年度の締め処理のタスクを示します。

- ・ 全バッチの検討と転記
- ・ 整合性レポートの実行とエラーの訂正
 

これは、締め処理ですべての会社が行う必要のあるタスクの1つです。整合性レポートによって、残高を最終的に確定する前にデータの不整合を発見できます。
- ・ 監査調整の入力と転記
 

多くの会社で監査調整のための会計期間を設けています。また、多くの会社で年度末入力用に特定の伝票タイプ(UDCテーブル00/DT)を使用しています。

2008年度の監査調整を入力および転記して、調整仕訳を記録するとします。「会社の設定」フォームで会計年度が2008年になっていることを確認します。会計年度が2009年になっている場合は、一般会計のみについて開始日付(たとえば、2008/1/1)を入力して2008年度を再オープンし、現行期間を2008年度の最終期間に変更します。
- ・ 買掛管理、売掛管理、および一般会計の会計期間と年度締め
- ・ 年度末の財務諸表、試算表、その他必要なレポートの実行
- ・ 財務レポートの会計期間と年度締め
- ・ 年度締めプログラムの実行

## 会計年度の締め処理

この項では、年度締めプログラムの概要と次の方法について説明します。

- 年度締めプログラムの実行
- 年度締めのデータ選択とデータ順序の設定
- 年度締めの処理オプションの設定

### 年度締めプログラムについて

年度締めプログラムを実行して会計年度を締めると、締めた会社と繰越利益勘定/金額が記載されたレポートが作成されます。このレポートで、会社の締め処理が正常に行われたかどうかを確認してください。

処理オプションを設定して、繰越利益の計算に使われた勘定科目とその残高の明細リスを印刷することもできます。これは、繰越利益の誤りを調べる際に役立ちます。繰越利益の明細リストは、長くなる場合があります。繰越利益の計算を調査する必要がないかぎり、印刷しないことをお勧めします。

### 年度締めレポートのエラー・メッセージ

なんらかのエラーにより会社の締め処理が行われなかった場合は、レポートにそのエラーが記載されます。エラーには、次のようなものがあります。

エラー・メッセージ	解決方法
繰越利益勘定が勘定科目マスター (F0901) で設定されていません	AAI項目 GLG4に繰越利益勘定を設定してください。
締めプログラムで AAI項目 GLG6が見つかりませんでした	AAI項目 GLG6を設定して開始収益勘定を定義してください。

AAI項目 GLG12が設定されていなくても、年度締めレポートにはエラー・メッセージは記載されません。デフォルトの勘定科目として999999.99999999が使用されます。

### 年度締めプログラムの実行

「定期および年次処理」(G0924)メニューから「年度締め」を選択します。

### 年度締めのデータ選択とデータ順序の設定

同時に2つ以上の年度を締めることはできません。1年度ずつ順番に締めてください。締め処理を正しく行うために、データ選択と順序に関する次の規則に従ってください。

- データ選択で、会社と会計年度を入力します。これ以外のデータ選択を指定しないでください。
- 1つの繰越利益勘定に対して複数の会社を締める場合は、次の規則に従ってください。
  - 同時に締める会社の会計期間パターンはすべて同じである必要があります。
  - 1つのバージョンを使って、同時に締めるすべての会社を選択する必要があります。
- 会計年度、会社、元帳タイプというデータ順序を使用します。この順序は変更しないでください。

## 年度締め(R098201)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムのデフォルト処理を指定できます。

### 損失/利益

#### 損失/利益

今年度の転記金額がゼロの場合に、次年度の損益勘定レコードを作成するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 損益勘定レコードを作成する。

1: 損益勘定レコードを作成する。

### 当初予算

#### 当初予算

次年度レコードがあるかないかにかかわらず、当初予算を変更するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 当初予算を変更しない。

1: 当初予算を変更する。

---

**注意:** 作業原価勘定を使用して当初予算を入力し、変更オーダーを使用して変更を行います。たとえば、2008年度に予算化された作業が2010年度に完了予定であるとします。2008年度で予算情報を当初予算に追加します。当初予算を新しい情報で変更するには、この処理オプションに「1」を入力します。

---

### 印刷

#### 印刷

繰越利益の計算明細を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 計算明細を印刷しない。

1: 計算明細を印刷する。

繰越利益の明細リストは長くなる場合があるため、繰越利益の計算を調査する必要があるかぎり、印刷しないことをお勧めします。

---

## 予算用会計年度の締め処理

この項では、予算元帳タイプの年度締めの概要を説明します。

### 予算元帳タイプの会計年度の締めについて

会計年度を締めるときに、次のような予算元帳タイプについてはF0902テーブルの当初予算金額を次年度に繰り越せます。

- BA(予算金額)
- JA(作業原価予算金額)とJU(作業原価予算数量)
- PA(金額の作業原価コミットメント)とPU(数量の作業原価コミットメント)

当初予算金額をどのように処理するかは、「元帳タイプ規則の設定」フォームや年度締めプログラムの処理オプションを使って制御します。年度締めプログラムを実行すると、次年度のレコードがF0902テーブルにあるかどうか自動的に確認され、次の処理のいずれかが実行されます。

- レコードがある場合は、処理オプションの設定に従って、当初予算金額が更新されます。
- レコードがない場合は、予算元帳タイプ規則によって当初予算金額が繰り越されるかどうか決定されます。



## 第 42 章

# レコードの集計と除去

この章では、レコードの集計、削除、および除去の概要と、次の方法について説明します。

- 取引明細レコードの集計
- 前年度レコードの除去
- 前年度の勘定残高の除去
- 勘定科目マスター・レコードの削除
- ビジネスユニットと会社の削除

---

## 集計、削除、および除去について

ディスクの空き容量を増やすには、レコードの集計、削除、および除去を行います。

レコード集計プログラムでは、単一の集計レコードを作成して、多数の明細レコードをそのレコードに置き換えます。レコード削除プログラムでは、システムから情報を削除します。レコード除去プログラムでは、プログラムに応じて次の処理のいずれかを実行します。

- 除去テーブルへのレコードのコピー  
元のレコードは除去済に設定され、システムから削除されます。
- システムからの情報の削除

---

## 取引明細レコードの集計

この項では、取引の集計プログラムの概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 取引の集計
- 取引の集計プログラムの処理オプションの設定

## 取引の集計プログラムについて

次のレコードを除去する前に、取引の集計プログラム(R09811)を実行します。

- 現行年度のレコード  
集計レコードは、F0902テーブルを使用する場合に必要です。前年度の仕訳を除去する際に、現行年度の未集計レコードは無視されます。前年度のレコードの集計は任意です。
- 前年度のレコード

除去された前年度レコードが未集計のまま残されている場合は、取引明細の再転記プログラム(R099102)を使用して勘定残高をゼロに設定できます。

取引の集計プログラム(R09811)を使用すると、仕訳を集計して、多数の明細レコードを1つの集計レコードに置き換えることができます。取引の集計プログラムでは、次の処理が行われます。

- 会計期間、元帳タイプ、補助元帳、補助元帳タイプ別に集計レコードを作成する。集計レコードには、次の情報が含まれます。
  - 伝票タイプ(BF)
  - 伝票番号(取引集計時のシステム日付(ユリウス暦))
  - 元帳日付(期間終了日付)

- F0911テーブルの集計済の明細レコードに、「Y」(集計済)またはブランク(未集計)のフラグを設定する。

次の3つのAAI(自動仕訳)項目によって、集計対象および対象外の勘定科目範囲が指定されます。

- GLRCxx: 集計する前に調整が必要な勘定科目の範囲を定義します。  
調整済フィールドには、集計を許可するUDCテーブル(09/RC)の値を入力する必要があります。
- GLSMxx: 集計しない勘定科目の範囲を定義します。
- GLPRxx: 除去しない勘定科目の範囲を定義します。

集計レコードが作成されたら、次の作業を実行できます。

- 前年度のレコードの再計算(必要な場合)
- F0911テーブルからの前年度レコードの削除または除去

集計によりレコードが追加されます。使用可能なディスク容量を増やすには、レコードの除去と再構築を行う必要があります。

集計レポートの作成では、取引を集計する必要はありません。処理オプションで特定の主科目範囲を含むように設定すると、総勘定元帳を集計できます。

取引の集計プログラムでは、データ選択はできません。集計対象の取引を指定するには、処理オプションとAAI項目(GLSMxx、GLRCxx、およびGLPRxx)を指定します。

## 事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- F0911テーブルをバックアップします。
- 集計対象の会計年度、会社、元帳タイプを指定します。
- 十分な処理時間を確保するために、取引の集計は業務時間外に行います。
- 集計する各元帳タイプについて、元帳タイプ規則の設定プログラム(P0025)の元帳タイプの集計オプションが有効になっていることを確認します。

参照: 第 3 章、「一般会計システムのセットアップ」、「一般会計システムの元帳タイプの設定」、18 ページ

- 必要に応じて、勘定を残高調整します。

## 取引の集計

「データの集計および除去」(G09317)の「取引の集計」を選択します。

## 取引の集計(R09811)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 選択

- |                         |  |
|-------------------------|--|
| <b>1. 保持する期間数</b>       | 明細を保持する期間数を指定します。<br>「01」を入力すると、現行期間のみが保持されます。<br>F0902テーブルの14期間の転記額を基に、どの期間のデータを保持するかを決定します。<br>1会計年度に12期間あり、前会計年度の情報を保持する場合は、2を加算し(12 + 2)、この処理オプションに14を入力します。現在、会計年度の第3期であり、前会計年度の最後の2期分の情報を保持する場合は、保持する期間数として05を入力します。<br>現行会計年度の情報だけを保持する場合は、期間数を2つ追加する必要はありません。たとえば、現在、会計年度の第4期であり、現行会計年度の第2期、第3期および第4期の情報を保持する場合は、この処理オプションに保持する期間数として03を入力します。 |
| <b>2. 会社</b>            | 集計するレコードの会社番号を指定します。F0010テーブルの有効な会社番号を入力してください。  |
| <b>3. ビジネスユニット</b>      | 集計するレコードのビジネスユニットを指定します。F0006テーブルの有効なビジネスユニットを入力してください。  |
| <b>4. 勘定科目範囲の開始略式ID</b> | 集計する勘定科目範囲の開始略式IDを指定します。F0902テーブルの有効な略式IDを入力してください。  |
| <b>5. 勘定科目範囲の終了略式ID</b> | 集計する勘定科目範囲の終了略式IDを指定します。F0901テーブルの有効な略式IDを入力してください。  |
| <b>6. 補助元帳</b>          | 集計するレコードの補助元帳を指定します。   |
| <b>7. 補助元帳タイプ</b>       | 集計するレコードの補助元帳タイプを指定します。UDCテーブル(00/ST)の有効な補助元帳タイプを入力してください。   |
| <b>8. 元帳タイプ</b>         | 集計するレコードの元帳タイプを指定します。F0025テーブルの有効な元帳タイプを入力してください。  |

---

## 前年度レコードの除去

この項では、前年度仕訳の除去の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 前年度レコードの除去
- 前年度仕訳の除去のデータ選択の設定
- 前年度仕訳の除去の処理オプションの設定

## 前年度仕訳の除去プログラムについて

集計レコードを作成する場合やディスクの空き容量を増やす場合に、前年度仕訳の除去プログラム (R09911) で仕訳を除去できます。このプログラムの処理は次のとおりです。

- F0911テーブルの前年度の仕訳を除去テーブル (F0911P) にコピーする。
- F0911テーブルのコピー済レコードを除去済に設定する。
- 一定の条件を満たす場合にF0911テーブルから除去済レコードを削除する。
- 除去されたレコード数を会社別に出力するレポートを印刷する。

前年度仕訳の除去プログラムでは、次の取引のみを除去します。

- 前年度の取引
- 現行年度の集計取引
- 前年度の集計取引

これらの取引は、一度に1年分しか除去できません。

前年度仕訳の除去プログラムを実行する場合、前年度の取引に対して4つの処理 (除去して削除する、除去するが削除は行わない、削除する、完全に無視する) を選択できます。

システムがレコードを除去対象として認識するには、レコードが次のすべての条件を満たす必要があります。条件が満たされていないとレコードは削除されません。

- 勘定科目コードがAAI項目 GLPRxx (除去対象外) の範囲外である。
- AAI項目 GLRCxx (残高調整対象) の範囲内にある勘定の場合、調整済コードがブランク以外の値である。
- レコードの支払番号フィールドが\* (部分支払、留保または割引) ではない。
- サービス請求クライアントで勘定科目が請求可能な場合、取引の請求コードが「X」 (直接配賦または請求) または「Y」 (手入力配賦および請求) である。

集計レコード (伝票タイプBF) は、F0902テーブルに保持しておく必要がなくなった場合を除き、除去しないでください。

次の3つのAAI (自動仕訳) 項目によって、除去対象および対象外の勘定科目範囲が指定されます。

- GLSMxx: 集計しない勘定科目の範囲を定義します。

現行年度の取引をF0911テーブルから削除するには、集計コードが「Y」になっている必要があります。この範囲の前年度取引は、集計コードに関係なく削除できます。

- GLRCxx: 削除する前に調整が必要な勘定科目の範囲を定義します。

削除するには、調整済フィールドの値がUDCテーブル (09/RC) の値になっている必要があります。

- GLPRxx: 削除しない勘定科目の範囲を定義します。

これらの勘定科目は、除去コードを「Y」に設定すると除去テーブルに書き込まれますが、削除は行われません。

除去処理が完了したら、F0911Pテーブルを別の媒体にコピーします。このテーブルをシステムに保存したまま再度除去を行うと、新たに除去されたレコードがF0911Pテーブルに追加されるため、ディスクの空き容量が減ります。

F0911テーブルのデフラグメンテーションを行って、テーブルのインデックスを再作成することもできます。この処理の詳細は、データベース管理者に問い合わせてください。

---

**注意:** 前年度仕訳の除去プログラムでは、F0911テーブルのレコードのみが除去されます。JD Edwards EnterpriseOne買掛管理やJD Edwards EnterpriseOne売掛管理など、他のシステムの対応するレコードは除去されません。JD Edwards EnterpriseOne一般会計システムと他のシステムとの整合性の問題を回避するため、これらのレコードを除去する計画を策定するよう、システム管理者に依頼してください。

---

## 事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- F0911テーブルをバックアップします。
- AAIの除去パラメータを設定します。

参照: 第 3 章、「一般会計システムのセットアップ」、「一般会計システムのAAIの設定」、23ページ

- 取引を集計します。

## 前年度レコードの除去

「データの集計および除去」(G09317)の「前年度仕訳の除去」を選択します。

## 前年度仕訳の除去のデータ選択の設定

除去するレコードの会計年度を入力します。

## 前年度仕訳の除去(R09911)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 削除オプション

#### 1. 除去および削除

取引1099で会計年度が3年(現行年度と過去2年の会計年度)を超える取引を除去および削除するには、「1」を入力します。部分支払を行う場合は、取引1099で年度別に支払を行うように指定できます。このような取引は、支払番号フィールドの値「\*」で識別できます。この処理オプションを「1」に設定すると、会計年度が3年を超える場合にのみ、年度別に支払を行う取引は除去および削除されます。

この処理オプションをブランクにすると、取引1099は除去されますが、問題のある取引は削除されません。

#### 2. 請求可能取引の削除および除去

この処理オプションは、サービス請求クライアント用です。

有効な請求コードがある請求可能取引を除去および削除するには、「1」を入力します。この処理オプションをブランクにすると、請求コードが「X」または「Y」以外の取引は除去されますが、削除は行われません。請求コードが「X」と「Y」の請求可能取引はすべて除去および削除されます。

---

## 前年度の勘定残高の除去

この項では、前年度勘定残高の除去プログラムの概要、事前設定、および前年度の勘定残高の除去について説明します。

## 前年度勘定残高の除去プログラムについて

ディスクの空き容量を増やすには、前年度勘定残高の除去プログラム (R09912) で勘定残高レコードを除去します。このプログラムの処理は次のとおりです。

- 現行会計年度より前の日付が付いたレコードをF0902テーブルから除去テーブル (F0902P) にコピーする。
- 現行会計年度より前の日付が付いたレコードを削除する。
- 除去されたレコード数を会社別、F0902Pテーブルが作成された日時順に出力するレポートを印刷する。

除去できるレコードは、一度に1年分のみです。除去処理が完了したら、F0902Pテーブルを別の媒体にコピーします。このテーブルをシステムに保存したまま再度除去を行うと、新たに除去したレコードがF0902Pテーブルに追加されるため、ディスクの空き容量が減ります。

F0902テーブルのデフラグメンテーションを行って、テーブルのインデックスを再作成することもできます。この処理の詳細は、データベース管理者に問い合わせてください。

## 事前設定

F0902テーブルをバックアップします。

## 前年度の勘定残高の除去

「データの集計および除去」(G09317) の「前年度勘定残高の除去」を選択します。

---

## 勘定科目マスター・レコードの削除

この項では、勘定科目マスター・レコードの削除プログラムの概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 勘定科目マスター・レコードの削除プログラムの実行
- 勘定科目マスター・レコードの削除の処理オプションの設定

## 勘定科目マスター・レコードの削除について

ディスクの空き容量を増やすには、勘定科目マスター・レコードの削除プログラム (R09814) を実行して、取引のない勘定レコードを削除します。このプログラムでは、各勘定科目の取引データが保存されているテーブルが検索されます。取引が見つからない場合、その勘定科目は除去テーブルにコピーされません。かわりに、F0901テーブルから削除されます。

このプログラムでは、次のテーブルの取引データを検索します。

- 売掛金元帳 (F03B11)
- 買掛金元帳 (F0411)
- 従業員トランザクション履歴 (F0618)
- 従業員給与規定 (F06106)
- 間接費配賦 (F0724)
- 勘定科目マスター - 代替記述 (F0901D)

- 勘定残高 (F0902)
- 取引明細 (F0911)
- 費用配賦/予算作成 (F0912)
- 資産勘定残高ファイル (F1202)
- 購買オーダー明細 (F4311)
- 分割融資実行レポート・マスター (F51911)

勘定科目マスター・レコードの削除プログラムは、テスト・モードと最終モードのどちらでも実行できます。

## 事前設定

F0901 テーブルをバックアップします。

## 勘定科目マスター・レコードの削除プログラムの実行

「データの集計および除去」(G09317) の「勘定科目マスター・レコードの削除」を選択します。

## 勘定科目マスター・レコードの削除 (R09814) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### モード

#### 勘定科目の削除

勘定科目マスター・レコードを削除する場合の処理モードを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: テスト・モード。削除される勘定科目を一覧表示するレポートが印刷されますが、実際の削除は行われません。

1: 最終モード。勘定科目データが削除され、削除された勘定科目を出力するレポートが印刷されます。

---

## ビジネスユニットと会社の削除

この項では、ビジネスユニット/会社の削除プログラムの概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- ビジネスユニット/会社の削除プログラムの実行
- ビジネスユニット/会社の削除の処理オプションの設定

## ビジネスユニット/会社の削除プログラムについて

組織構造が変更されると、不要なビジネスユニットや会社が発生することがあります。また、テスト環境で使用したビジネスユニットや会社が不要になることもあります。このような場合は、ビジネスユニット/会社の削除プログラム (R09925) で、不要になったビジネスユニットや会社のレコードを削除できます。このプログラムでは、1つのビジネスユニットのレコード、または1つの会社のビジネスユニットのすべてのレコードを削除できます。

処理オプションで会社を指定すると、その会社内のすべてのビジネスユニットのレコードが削除されます。ビジネスユニットを指定すると、そのビジネスユニットのレコードが削除されます。ビジネスユニットと会社の両方を指定すると、そのビジネスユニットのレコードのみが削除されます。

ビジネスユニットまたは会社のレコードを削除する場合、その情報は除去テーブルにはコピーされず、未決済残高も検索されません。この場合、未決済残高が存在するかどうかに関係なく、ビジネスユニットまたは会社のレコードが削除されます。

ビジネスユニット/会社の削除プログラムでは、次のテーブルからレコードが削除されます。

- F0006
- F0901
- F0901D
- F0902
- F0911

レポートは印刷されません。

処理が完了したら、次の作業を行います。

- 「会社の処理」フォームで、会社データを削除します。
- 「住所の処理」フォームで、ビジネスユニットまたは会社のデータを削除します。

---

**重要:** テスト環境と稼働環境など、2つの環境にサインインしている場合は、両方の環境のレコードが削除されます。

---

## 事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- F0006、F0901、F0901D、F0902、F0911の各テーブルをバックアップします。
- 削除するビジネスユニットまたは会社に、取引が存在しないことを確認します。

## ビジネスユニット/会社の削除プログラムの実行

「データの集計および除去」(G09317)の「ビジネスユニット/会社の削除」を選択します。

## ビジネスユニット/会社の削除(R09925)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### レコードの削除

#### 1. レコードの削除

ビジネスユニットを削除する会社または削除するビジネスユニットを入力します。

処理オプションで会社を指定すると、その会社内のすべてのビジネスユニットのレコードが削除されます。

ビジネスユニットを指定すると、そのビジネスユニットのレコードが削除されます。

ビジネスユニットと会社の両方を指定すると、そのビジネスユニットのレコードのみが削除されます。



## 付録 A

# 一般会計のテーブル

JD Edwards EnterpriseOne 一般会計システムでは、次のタイプのテーブルを使用します。

- 基本テーブル
- 補足テーブル

## 基本テーブル

一般会計システムで使用する基本テーブルを次の表に示します。

テーブル名(番号)	説明
勘定科目マスター(F0901)	勘定科目コードや勘定科目名など、勘定科目の定義が保管されています。1つの勘定科目当たり1件のレコードがあります。
勘定残高(F0902)	各期間の転記額や前年度の(正味および累計)残高などの勘定残高が保管されています。勘定科目、元帳タイプ、補助元帳、補助元帳タイプ、会計年度、取引通貨(通貨別に転記する場合)ごとに1つのレコードがあります。
取引明細(F0911)	総勘定元帳の取引明細が保管されています。1件の取引当たり1件のレコードがあります。複数の通貨を使用する場合は、取引当たり2件のレコードが保管されます。

## 補足テーブル

JD Edwards EnterpriseOne 一般会計システムで使用する補足テーブルを次の表に示します。

テーブル名(番号)	説明
自動採番(F0002)	バッチ番号や取引番号など、システムで自動的に割り当てられているすべての番号について、次に割り当てることができる番号が保管されます。
ユーザー定義コード(F0005)	ユーザー定義コードとその記述が保管されています。

テーブル名(番号)	説明
ビジネスユニット・マスター (F0006)	名称、番号、会社、カテゴリ・コードなどのビジネスユニットの定義が保管されています。
有効日付ビジネスユニット・マスター (F0006S)	名称、番号、会社、カテゴリ・コードなどのビジネスユニットの定義が有効日付別に保管されています。
会計期間パターン (F0008)	各会社の会計期間パターンが保管されています。
一般会計固定情報 (F0009)	勘定科目のコーディング、バッチ制御、バッチ承認、日付検証、会社間決済、バッチ貸借一致などシステム全体の機能を制御する規則が保管されています。
会社固定情報 (F0010)	番号、名称、会計期間パターン、現行会計期間などの会社の定義が保管されています。
バッチ制御レコード (F0011)	各バッチを識別する見出しレコードが保管されています。
AAIマスター (F0012)	自動貸借一致仕訳、特定のレポートで必要となる中間合計、および勘定科目表に関する一般情報の作成方法を制御する規則が保管されています。
税 (F0018)	課税対象となる各項目の取引明細が保管されています。
税調整リポジトリ (F0018R)	税情報が勘定科目別に保管されています。
元帳タイプ・マスター・ファイル (F0025)	次のような特定の元帳タイプに対する規則が保管されています。  添付する数量元帳タイプ  元帳の貸借一致が必須かどうかなどの会計規則  元帳比較用のカラム・タイトル
組織構造マスター・ファイル (F0050)	ビジネスユニットの親子関係が組織構造タイプ別に保存されています。
構造定義ファイル (F0050A)	カテゴリ・コード別にビジネスユニットをグループ化するために定義した組織構造が保管されています。
補足データベース・データ・タイプ (F00091)	ビジネスユニットに関する追加情報のトラッキングに使用するデータ・タイプ定義が保管されています。
補足データ (F00092)	ビジネスユニットについての追加情報が、データ・タイプごとに分類され保管されています。
住所録マスター (F0101)	会社、仕入先、顧客などの住所録情報が保管されています。

テーブル名(番号)	説明
WF - 取引明細調整 (F0911R)	未調整取引明細が保管されています。このワークテーブルの内容は、残高調整のたびに更新されます。
費用配賦/予算作成 (F0912)	定期仕訳(配賦)に関する情報が保管されています。
インデックス配賦入力ファイル (F0912A)	インデックス付きの配賦に関する情報が保管されています。
変数配賦ファイル (F0912B)	変数配賦についての情報が保管されています。
銀行取引明細見出し (F0916)	銀行取引明細の見出し情報が保管されています。
銀行取引明細 (F0917)	銀行取引明細上の取引に関する明細情報が保管されています。
会社間/社内勘定科目関係 (F09190)	会社間決済用の構成ハブに関する情報が保管されています。



## 付録 B

# バッチ仕訳処理のフィールドのマッピング

この付録では、次の内容について説明します。

- F0911Z1テーブルのフィールドのマッピング
- 間接費設定に対するF0911Z1テーブルのフィールドのマッピング
- 収益性分析に対するF0911Z1テーブルのフィールドのマッピング
- システム外で調整した取引に対するF0911Z1テーブルのフィールドのマッピング

## F0911Z1テーブルのフィールドのマッピング

この項では、仕訳アップロード・テーブル (F0911Z1) のフィールドを一覧に示します。これらのフィールドは、仕訳のバッチ処理プログラム (R09110Z) を実行する場合に必須となります。フィールドによっては、0 (ゼロ) またはブランクは有効な値ですが、NULLは無効な値です。すべてのフィールドが一般会計のフォームに表示されたり、JD Edwards EnterpriseOne一般会計システムで使用されるわけではありません。

### 必須フィールド

次の表に、F0911Z1テーブルの必須フィールドを示します。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI-ユーザーID	VNEDUS	文字	10	プロセスを実行する人、または従業員待ち行列マネージャ・プログラム (P012501) でメッセージを受け取る人のユーザーIDを入力します。VNEDTN、VNEDBT、およびVNEDLNと組み合わせて、仕訳を一意に識別します。
EDI-トランザクション番号	VNEDTN	文字	22	VNEDLNと組み合わせて、各トランザクションを識別する値を入力します。新しいトランザクション番号はそれぞれ新しい仕訳を示します。VNEDLNが異なる場合を除き、1つのバッチに同じ番号のトランザクションを置くことはできません。このフィールドには通常、トランザクションをただちに識別できるようにソース・システムの伝票番号が含まれます。
EDI-行番号	VNEDLN	数値	7	VNEDTNと組み合わせて、仕訳の各行を識別する値を入力します。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI-処理済	VNEDSP	文字	1	レコードの処理が適切に行われたどうかを示す値を入力します。デフォルト値は0にします。レコードが正常に処理されると、このフィールドは値1で更新されます。エラーが発生すると、このフィールドは0のままになります。このフィールドはブランクにしないでください。
EDI-トランザクション・アクション	VNEDTC	文字	1	トランザクションが処理されるように、「A」を入力します。その他の値は無効です。
EDI-トランザクション・タイプ	VNEDTR	文字	1	仕訳の場合、「J」を入力します。このフィールドはブランクにはできません。
EDI-バッチ番号	VNEDBT	文字	15	VNEDTN、VNEDUS、およびVNEDLNと組み合わせて、バッチ内のトランザクションを一意に識別する値を入力します。また、このフィールドはレベル区切りとしても使用されます。この値が変わるたびに新しいバッチ番号が割り当てられます。一度に処理するトランザクション・グループ別にバッチ番号を割り当てると、パフォーマンスが向上します。
元帳日付	VNDGJ	日付	6	<p>取引の日付を示す値を入力します。このフィールドは仕訳の見出しセクションの一部です。そのため、各伝票に入力できるのは、1つの値だけです。</p> <p>データベースと同じ日付形式で元帳日付を入力します。データベースによって、グレゴリオ暦の日付形式 (yyymmdd) が入力できる場合と、ユリウス暦の日付形式 (cyyddd、この場合cは世紀) による入力が必要な場合があります。</p> <p>日付が20世紀の場合は「0」(ゼロ)、21世紀の場合は「1」を入力します。たとえば、1999年6月1日はユリウス暦では099152になります。2008年6月1日は108153になります(2008年はうるう年で2月29日があるため)。</p> <p>別の方法として、このフィールドをブランクにして、VNDGM(mm)、VNDGD(dd)、VNDGY(yy)、VNDG#に月/日/年/西暦上2桁の形式で値を入力することもできます。VNDG#には年度の上2桁を入力します。たとえば、2007年の場合は「20」を入力します。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
勘定科目番号	VNANI	文字	29	<p>取引を処理する際に更新する勘定科目コードを示す値を入力します。VNANIとVNAIDのどちらか、またはVNMCU、VNOBJおよびVNSUBに入力して、勘定科目コードを指定します。</p> <p>VNANIフィールドの最初の文字は、F0009テーブルの勘定科目コード識別記号に対応している必要があります。たとえば、略式IDの識別記号が*の場合、VNANIに略式IDを入力するには、先頭に*を付ける必要があります。VNANIをブランクにして、VNAIDに略式IDを入力することもできます。</p> <p>フィールドをブランクにすると、入力した勘定科目情報に基づいて値が自動的に入力されます。たとえば、ビジネスユニット、主科目、および補助科目の各フィールドに値を入力した場合は、取引を処理する際に略式IDフィールドと勘定科目コード・フィールドが更新されます。逆に、勘定科目コード・フィールドに値を入力した場合は、取引を処理する際にビジネスユニット、主科目、および補助科目の各フィールドと略式IDフィールドが更新されます。</p>
勘定科目ID	VNAID	文字	8	<p>取引を処理する際に更新する勘定科目の識別子を示す値を入力します。VNANIとVNAIDのどちらか、またはVNMCU、VNOBJおよびVNSUBに入力して、勘定科目コードを指定します。</p>
ビジネスユニット	VNMCU	文字	12	<p>取引を処理する際に更新する勘定科目コードの識別に使用する値を入力します。VNANIとVNAIDのどちらか、またはVNMCU、VNOBJおよびVNSUBに入力して、勘定科目コードを指定します。</p>
主科目	VNOBJ	文字	6	<p>取引を処理する際に更新する勘定科目コードの識別に使用する値を入力します。VNANIとVNAIDのどちらか、またはVNMCU、VNOBJおよびVNSUBに入力して、勘定科目コードを指定します。</p>
税額	VNSTAM	数値	15	<p>税付き仕訳の場合、税額を入力します。入力した金額は、税計算プログラムで読み込まれ、検証と計算が行われます。「税率/税域」フィールドと「税目コード」フィールドに値を入力しなかった場合、このフィールドは無視されます。</p>
総額	VNAG	数値	15	<p>税付き仕訳の場合、総額を入力します。入力した金額は、税計算プログラムで読み込まれ、検証と計算が行われます。「税率/税域」フィールドと「税目コード」フィールドに値を入力しなかった場合、このフィールドは無視されます。</p>
税トラッキング・フラグ	VNTKTX	文字	1	<p>F0911の税勘定の税情報を更新するかどうかを指定します。1を指定すると、税目コード、税率/税域、税項目が更新されます。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
配賦行番号	VNDLNID	数値	6	F0911テーブルのGLDLNIDフィールドの値を入力します。このフィールドの値については、検証もフォーマットも行われません。
小切手/入金番号	VNCKNU	文字列	25	F0911テーブルのGLCKNUフィールドの値を入力します。このフィールドの値については、検証もフォーマットも行われません。
補助科目	VNSUB	文字	8	取引を処理する際に更新する勘定科目コードの識別に使用する値を入力します。VNANIとVNAIDのどちらか、またはVNMCU、VNOBJおよびVNSUBに入力して、勘定科目コードを指定します。
勘定科目形式	VNAM	文字	1	勘定科目コードの検索時に読み取るフィールドを指定する値を入力します。値は次のとおりです。 1: VNAIDフィールドの値を使用する。 2: VNANIフィールドの値を使用する。 3: VNANIフィールドの値を使用するが、この値は一般会計固定情報で定義されている第3勘定科目コードである必要がある。 4: VNMCU、VNOBJ、VNSUBに割り当てられている値を使用する。 7: VNANIフィールドの値を使用するが、一般会計固定情報で定義されているとおりに、VNANIフィールドの最初の文字を使用して勘定科目コードが入力されたフォーマットを識別する。たとえば、VNANIの値が#123の場合は、一般会計固定情報において#で表される勘定科目コード形式が使用されます。
金額	VNAA	数値	15	取引の額を示す値を入力します。データベースと同じ形式で金額を入力します。データベースによって、小数を入力できる場合とできない場合があります。外貨金額を入力する場合は、このフィールドをブランクにしてVNACRに値を入力します。
摘要	VNEXA	文字	30	取引の説明を入力します。  このフィールドは、仕訳の見出しセクションの一部です。そのため、各伝票に入力できる値は1つだけです。
会社	VNCO	文字	5	取引を処理する会社の番号を入力します。多通貨処理では、このフィールドは必須です。

## 間接費設定に対するF0911Z1テーブルのフィールドのマッピング

この項では、間接費設定に使用される仕訳アップロード・テーブル(F0911Z1)のフィールドを一覧に示します。



## 間接費設定用のフィールド

次の表に、間接費設定に使用されるF0911Z1テーブルのフィールドを示します。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
代替所属ビジネスユニット	AHBU	数値	12	従業員が通常所属するビジネスユニット番号を入力します。
職務タイプ	JBCD	文字列	6	組織内の職務を識別する、UDCテーブル06/Gのコードを入力します。職務タイプは、作業マスターに割り当てられている契約に対して有効である必要があります。
職階	JBST	文字列	4	職務タイプ内の特定のレベルを識別する、UDCテーブル06/GSのコードを入力します。
従業員プール・グループ・コード	EPGC	文字列	3	プール・グループを識別する、UDCテーブル00/12のコードを入力します。
職務プール・グループ・コード	JPGC	文字列	3	プール・グループを識別する、UDCテーブル00/12のコードを入力します。
間接費転記コード	BUPC	文字	1	値は次のとおりです。 ブランクまたは0: 未転記 1: 転記済

### 関連項目:

第4章、「間接費の設定」、31ページ

第16章、「間接費の処理」、165ページ

## 収益性分析に対するF0911Z1テーブルのフィールドのマッピング

この項では、F0911Z1テーブルのフィールドを収益性分析システムにマッピングする方法について説明します。

### 収益性分析システムの必須フィールド

収益性分析システムを使用する場合に必須となるF0911Z1テーブルのフィールドを次に示します。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	情報
コスト・オブジェクト・タイプ1から4	VNABT1 VNABT2 VNABT3 VNABT4	文字	1	最大で4つまでのコスト・オブジェクト・タイプを入力します。これらのフィールドを使用して、対応するVNABR1からVNABR4に入力された値が編集されます。このフィールドのどれか1つに値を入力した場合は、対応するコスト・オブジェクト・フィールドにも値を入力する必要があります。  このフィールドには、F1620テーブルにある値を入力する必要があります。
コスト・オブジェクト1から4	VNABR1 VNABR2 VNABR3 VNABR4	文字	12	最大で4つまでのコスト・オブジェクトを入力します。各フィールドの値は、対応するVNABT1からVNABT4の編集ルールに従う必要があります。
転記コード1から10	VNPM01から VNPM10	文字	1	これらのフィールドはブランクにします。
項目番号	VNITM	数値	8	入力した値は、F4101テーブルに存在するかどうかを検証されます。

### 任意フィールド

任意フィールドを使用して、仕訳に関する情報を追加できます。次の表に、F0911Z1テーブルの任意フィールドを示します。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI-処理済明細行数	VNEDDL	数値	5	特定のトランザクションに含まれる明細行の数を入力します。ユーザー検証専用です。
EDI-トランザクション・タイプ	VNEDTR	文字	1	仕訳を示す「J」を入力するか、またはブランクにします。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
伝票会社	VNKCO	文字	5	<p>取引を行った会社を識別するコードを入力します。このフィールドは、トランザクション番号を会社別に区別する場合にのみ使用します。ブランクにすると、最初の仕訳行のビジネスユニットに関連付けられている会社によって値が決定されます。</p> <p>このフィールドに値を入力する場合、F0010テーブルに存在する値を入力してください。</p> <p>このフィールドは、仕訳の見出しセクションの一部です。そのため、各伝票に入力できる値は1つだけです。</p>
伝票タイプ	VNDCT	文字	2	<p>取引タイプを識別するコードを入力します。ブランクにすると、JEが使用されます。</p> <p>入力する値は、ユーザー定義コード・テーブル00/DTに設定されている必要があります。</p> <p>このフィールドは、仕訳の見出しセクションの一部です。そのため、各伝票に入力できる値は1つだけです。</p>
伝票No.	VNDOC	数値	8	<p>F0911テーブルの取引を識別する番号を入力します。このフィールドをブランクにすると、システム09の自動採番を使用して伝票番号が自動的に割り当てられます。</p> <p>このフィールドに値を入力する場合、F0911テーブルにある元帳日付および伝票タイプの値は入力できません。取引が重複しているとみなされ、処理されません。</p> <p>このフィールドは、仕訳の見出しセクションの一部です。そのため、各伝票に入力できる値は1つだけです。</p>
仕訳行番号	VNJELN	数値	7	<p>仕訳の行番号のトラッキングに使用する値を入力します。ブランクにすると、取引を処理する際に更新されます。1つの取引に設定できる最大仕訳行番号は9999です。</p>
行拡張コード	VNEXTL	文字	2	<p>行拡張を示すコードを入力します。このフィールドをブランクにすると、多通貨の会社間決済が存在する場合に、総勘定元帳への転記プログラム(R09801)によって更新されます。</p>
転記コード	VNPOST	文字	1	<p>取引が転記されているかどうかを示す値を入力します。ブランクにすると、総勘定元帳への転記プログラムによって更新されます。取引がモデル仕訳を示している場合は、「M」を入力します。</p>
バッチNo.	VNICU	数値	8	<p>同時に処理する仕訳をグループ化するために使用する番号を入力します。このフィールドをブランクにすると、システム00の自動採番を使用してバッチ番号が生成されます。</p> <p>このフィールドは、仕訳の見出しセクションの一部です。そのため、各伝票に入力できる値は1つだけです。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
バッチ・タイプ	VNICUT	文字	2	<p>処理中の取引のタイプを示すコード(請求書、伝票など)を入力します。このフィールドに値を入力する場合、ユーザー定義コード・テーブル98/ITに設定されている値を入力する必要があります。空白にすると、仕訳を処理する際にフィールドに「G」が自動的に入力されます。</p> <p>このフィールドは、仕訳の見出しセクションの一部です。そのため、各伝票に入力できる値は1つだけです。</p>
バッチ日付	VNDICJ	日付	6	<p>バッチの日付を入力します。このフィールドを空白にすると、バッチ・プログラムが実行された日付が使用されます。値を入力する場合は、データベースと同じ日付形式で入力します。詳細は、VNDGJのフィールド定義を参照してください。</p> <p>このフィールドは、仕訳の見出しセクションの一部です。そのため、各伝票に入力できる値は1つだけです。</p>
バッチ・システム日付	VNDSYJ	日付	6	<p>バッチがシステムに入力された日付を入力します。このフィールドを空白にすると、バッチ・プログラムが処理された日付が使用されます。値を入力する場合は、データベースと同じ日付形式で入力します。詳細は、VNDGJのフィールド定義を参照してください。</p> <p>このフィールドは、仕訳の見出しセクションの一部です。そのため、各伝票に入力できる値は1つだけです。</p>
バッチ時間	VNTICU	数値	6	<p>バッチがシステムに入力された時刻を入力します。空白にすると、バッチ・プログラムが処理された時刻が使用されます。</p> <p>このフィールドは、仕訳の見出しセクションの一部です。そのため、各伝票に入力できる値は1つだけです。</p>
補助元帳	VNSBL	文字	8	<p>取引の補助勘定を識別するコードを入力します。このフィールドに入力する場合は、VNSBLTの値も入力する必要があります。</p>
補助元帳タイプ	VNSBLT	文字	1	<p>補助元帳のカテゴリを識別するコードを入力します。このフィールドに入力する場合は、ユーザー定義コード・テーブル00/STに設定されている値を入力する必要があります。</p>
元帳タイプ	VNLT	文字	2	<p>元帳タイプを識別するコードを入力します。このフィールドは空白にすることも、AAまたはユーザー定義コード・テーブル09/LTに設定されているCA以外の有効な元帳タイプを入力することもできます。このフィールドにはCAは入力しないでください。</p> <p>このフィールドは、仕訳の見出しセクションの一部です。そのため、各伝票に入力できる値は1つだけです。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
期間	VNPN	数値	2	会計期間を示すコードです。このフィールドは、ブランクにしておくことをお勧めします。元帳日付と会社に基づいて自動的に値が入力されます。
西暦上2桁	VNCTRY	数値	2	取引が行われた年の西暦上2桁を入力します。ブランクにすると、元帳日付と会社に基づいて自動的に値が入力されます。
年度	VNFY	数値	2	取引が行われた年度を入力します。ブランクにすると、元帳日付と会社に基づいて自動的に値が入力されます。
実績為替レート	VNHCRR	数値	15	<p>前回の為替レートを入力します。このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。</p> <p>このフィールドは、仕訳の見出しセクションの一部です。そのため、各伝票に入力できる値は1つだけです。</p>
実績日付 - ユリウス暦	VNHDGJ	日付	6	<p>このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。</p> <p>値を入力する場合は、データベースと同じ日付形式で入力します。詳細は、VNDGJのフィールド定義を参照してください。</p> <p>このフィールドは、仕訳の見出しセクションの一部です。そのため、各伝票に入力できる値は1つだけです。</p>
数量	VNU	数値	15	取引の数量を入力します。値を入力すると、総勘定元帳転記プログラム (R09801) の実行時に、金額フィールドがAU元帳の値に更新されます。
単位	VNUM	文字	2	入力された単位のタイプを記述する値を入力します。このフィールドに値を入力する場合、ユーザー定義コード・テーブル00/UMに設定されている値を入力する必要があります。このフィールドをブランクにすると、単位がF0901テーブルの勘定科目データに割り当てられている場合は、その単位に更新されます。
相手勘定	VNGLC	文字	4	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
逆仕訳/無効 (R/V)	VNRE	文字	1	<p>見越し仕訳を逆仕訳するかどうかを示す値を入力します。このフィールドに「R」(逆仕訳)を入力すると、仕訳の転記時に、次の期間の最初の日の元帳日付を持つ仕訳がもう1つ作成されます。取引金額は当初仕訳から逆仕訳されます。</p> <p>取引の無効化はこの処理の対象外です。仕訳を無効にするには、仕訳入力プログラム (P0911) を使用する必要があります。</p> <p>このフィールドは、仕訳の見出しセクションの一部です。そのため、各伝票に入力できる値は1つだけです。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
摘要	VNEXR	文字	30	特定の仕訳行の説明を入力します。
参照1	VNR1	文字	8	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。 このフィールドは、仕訳の見出しセクションの一部です。そのため、各伝票に入力できる値は1つだけです。
参照2	VNR2	文字	8	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
伝票支払項目	VNSFX	文字	3	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
当初伝票	VNODOC	数値	8	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
伝票会社(購買オーダー)	VNPKCO	文字	5	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
伝票会社(当初オーダー)	VNOKCO	文字	5	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
伝票タイプ-購買オーダー	VNPDCT	文字	2	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
住所No.	VNAN8	数値	8	伝票または請求書取引に関連付けられている顧客または仕入先の住所録番号を入力します。このフィールドに値を入力する場合、F0101テーブルに設定されている値を入力する必要があります。
支払番号	VNCN	文字	8	取引の支払番号を入力します。
小切手日付	VNDKJ	日付	6	支払番号に関連付けられている支払日付を入力します。データベースで使用可能な形式で指定します。詳細は、VNDGJのフィールド定義を参照してください。
小切手決済日	VNDKC	日付	6	銀行で支払が決済された日付を入力します。データベースで使用可能な形式で指定します。詳細は、VNDGJのフィールド定義を参照してください。
シリアル番号	VNASID	文字	25	固定資産に関連付けられている資産IDです。このフィールドの値がF1201テーブルにあるかどうかを検証されます。
固定資産転記コード	VNBRE	文字	1	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
調整済コード	VNRCND	文字	1	レコードが調整済かどうかを示す値を入力します。 レコードが調整済であることを示すには、「R」を入力します。  このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
集計コード	VNSUMM	文字	1	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
除去コード	VNPRGE	文字	1	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
1099処理	VNTNN	文字	1	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
転記コード－ 代替1	VNALT1	文字	1	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
転記コード－ 代替2	VNALT2	文字	1	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
転記コード－ 代替3	VNALT3	文字	1	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
転記コード－ 代替4	VNALT4	文字	1	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
転記コード－ 代替5	VNALT5	文字	1	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
転記コード－ 現金主義会計	VNALT6	文字	1	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
コミットメント・ リリース・フラ グ	VNALT7	文字	1	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
請求制御	VNALT8	文字	1	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
通貨更新	VNALT9	文字	1	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
転記コード－ 代替0	VNALT0	文字	1	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。  このフィールドは、ブランクにしておくことをお勧めします。
消費税相互 参照	VNALTX	文字	1	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
削除禁止	VNDLNA	文字	1	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
自由形式ユーザー用フォーム-代替1	VNCOFF1	文字	1	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
ユーザー用自由形式フォーム-代替2	VNCOFF2	文字	1	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
リース費用転記コード	VNASM	文字	1	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
請求コード	VNBC	文字	1	このフィールドに値を入力する場合、ユーザー定義コード・テーブル98/BCに設定されている値を入力する必要があります。
仕入先請求書No.	VNVINV	文字	25	取引に対する請求書番号を入力します。 このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。 このフィールドは、仕訳の見出しセクションの一部です。そのため、各伝票に入力できる値は1つだけです。
請求書日付	VNIVD	日付	6	取引に対する請求書日付を入力します。データベースで使用可能な形式で指定します。詳細は、VNDGJのフィールド定義を参照してください。 このフィールドは、仕訳の見出しセクションの一部です。そのため、各伝票に入力できる値は1つだけです。
カテゴリ-作業オーダー01	VNWR01	文字	4	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
購買オーダー	VNPO	文字	8	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
購買オーダー・サフィックス	VNPSFX	文字	3	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
オーダー・タイプ	VNDCTO	文字	2	このフィールドに値を入力する場合、ユーザー定義コード・テーブル00/DTに設定されている値を入力する必要があります。
行No.	VNLNID	数値	6	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
会計年度(週次)	VNWWY	数値	2	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。



フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
会計期間(週次)	VNWN	数値	2	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
決済済	VNFNLP	文字	1	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
作業順序番号	VNOPSQ	数値	5	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
職務タイプ(技能)コード	VNJBCD	文字	6	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
職階	VNJBST	文字	4	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
所属ビジネスユニット	VNHMCU	文字	12	取引のビジネスユニットを示す値を入力します。入力した値は、F0006テーブルに存在するかどうかを検証されます。  このフィールドは、仕訳の見出しセクションの一部です。そのため、各伝票に入力できる値は1つだけです。
利息区分	VNDOI	数値	2	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
第3者リース/油井ID	VNALID	文字	25	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
識別タイプ	VNALT	文字	2	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
サービス/税日付	VNDSVJ	日付	6	取引のサービス/税日付を入力します。データベースで使用可能な形式で指定します。このフィールドをブランクにすると、VNDGJの値が使用されます。詳細は、VNDGJのフィールド定義を参照してください。

## 無視されるフィールド

無視されるフィールドの値は使用されません。次の表に示すフィールドは無視されます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ
レコード・タイプ	VNEDTY	文字	1
レコード順序	VNEDSQ	数値	2
EDI-伝票タイプ	VNEDCT	文字	2
EDI-トランザクション・セット番号	VNEDTS	文字	6
EDI-変換フォーマット	VNEDFT	文字	10

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ
EDI－伝送日付	VNEDDT	日付	6
EDI－送受信インディケータ	VNEDER	文字	1
バッチ・ファイル－取引明細レコード作成	VNEDGL	文字	1
ユーザー住所No.	VNEDAN	数値	8
会計四半期(旧)	VNFQ	数値	2
参照番号3－勘定科目調整	VNR3	文字	8
当初伝票タイプ	VNODCT	文字	2
当初伝票支払項目	VNOSFX	文字	3
転記コード－代替T	VNALTT	文字	1
転記コード－代替U	VNALTU	文字	1
在庫品目の引当	VNALTV	文字	1
転記コード－代替W	VNALTW	文字	1
転記コード－代替Z	VNALTZ	文字	1
登録番号	VNREG#	数値	8
支払ID	VNPYID	数値	15
取引入力者	VNTORG	文字	10
ユーザーID	VNUSER	文字	10
プログラムID	VNPID	文字	10
ワーク・ステーションID	VNJOBN	文字	10
更新日付	VNUPMJ	日付	6
最終更新時刻	VNUPMT	数値	6

---

## システム外で調整した取引に対するF0911Z1テーブルのフィールドのマッピング

銀行取引明細の調整用に、送信インタオペラビリティを使用して銀行口座情報をサード・パーティ・ソフトウェア・パッケージにエクスポートすると、残高調整情報をJD Edwards EnterpriseOne一般会計システムにインポートして残高調整処理を行うことができます。

### 必須フィールド

JD Edwards EnterpriseOne一般会計システムの取引情報を更新する場合は、該当する取引のF0911Z1テーブルの次のフィールドに値を入力する必要があります。

- VNEDUS (EDI - ユーザーID)
- VNEDBT (EDI - バッチ番号)
- VNEDTN (EDI - トランザクション番号)
- VNEDLN (EDI - 行番号)
- VNEDSP (EDI - 処理済) - このフィールドの値は2にする必要があります。
- VNDOC (伝票番号)

これらのフィールドの値は、F0911テーブルで更新するレコードと一致する必要があります。

- VNDCT (伝票タイプ)
- VNKCO (伝票会社)
- VNDGJ (元帳日付)
- VNJELN (仕訳行番号)
- VNEXTL (行拡張コード)
- VNRCND (調整済コード)
- VNDKC (小切手決済日)

F0911Z1テーブルの必須フィールドに値を入力後、システム外で調整した取引の更新プログラムを実行して、F0911Z1テーブルの取引をJD Edwards EnterpriseOne一般会計システムに反映させます。

### EnterpriseOneのシステム外で調整した取引について

「バッチ仕訳処理」(G09311)の「システム外で調整した取引の更新」を選択します。

システム外で調整した取引の更新プログラムを実行して、調整データをF0911Z1テーブルからJD Edwards EnterpriseOne一般会計システムに反映させます。また、このプログラムでは、システム外で調整した取引の更新プログラムまたは仕訳バッチ処理プログラム(R09110Z)によって取引が再度処理されないように、各取引のF0911Z1テーブルのEDI - 処理済フィールド(VNEDSP)が1(処理済)に更新されます。



## 付録 C

# 自動銀行取引明細処理のフィールドのマッピング

この付録では、変換サービス・フローにより、銀行フラット・ファイルからJD Edwards EnterpriseOneの中間テーブルにデータがどのようにマッピングされるかについて説明します。この付録で説明する変換フローは、次のとおりです。

- F09610テーブルからF09611テーブルへのBAI2フィールドのマッピング
- F09610テーブルからF09611テーブルへのSWIFTフィールドのマッピング

### 関連項目:

第 23 章、「銀行取引明細の自動処理」、217ページ

---

## F09610テーブルからF09611テーブルへのBAI2フィールドのマッピング

この項では、自動銀行取引明細フラット・ファイルの処理プログラム (R09600) により、BAI2銀行フォーマットのフィールドが銀行フラット・ファイルからEnterpriseOne銀行取引明細の中間見出しテーブル (F09610) と中間明細テーブル (F09611) にどのようにマッピングされるかについて説明します。

BAI2銀行フォーマットには、次の規則が適用されます。

- レコード内のフィールドは、カンマ(,)で区切ります。
- スラッシュ(/)は論理レコードの終了を示します(レコード16を除く)。
- カンマとスラッシュは、レコード16のテキスト以外のフィールドでは使用できません。
- 隣接する区切り文字(,)は、デフォルトまたは未指定のフィールド値を表します。
- 金額フィールドには小数は含まれません。  
小数点以下の桁数は通貨コードに基づいて設定されます。
- デフォルトの通貨コードはUSD(小数点以下2桁)です。

### レコード

BAI2銀行フラット・ファイルの情報は、レコード別にグループ化されます。この項で説明する表は、レコード別に構成されています。各表には、BAI2要件に従ってフィールドが必須(R)であるか任意(O)であるかの情報や、変換フローによりレコード内のフィールドがEnterpriseOneフィールドにマッピングされるかどうかなどの情報が記載されています。

### 例: BAI2テキスト・ファイル

次はBAI2テキスト・ファイルの例です。

```

01,122099999,123456789,860621,0200,1,65,,2/
02,031001234,122099999,1,860620,2359,,2/
03,0123456789,,010,+4350011,,,040,2830000,,/
88,072,1020000,,,074,500000,,/
16,115,450011,S,100000,200000,150000,,,/
49,9150000,4/
03,9876543210,,010,-500011,,,100,1000000,,,400,2000000,,,190/
88,500000,,,110,1000000,,,072,500000,,,074,500000,,,040/
88,-1500000,,/
16,115,500011,S,,200000,300000,,,LOCK BOX NO. 68751
49,4000000,5/
98,13150000,2,11/
02,053003456,122099999,1,860620,2359,,2/
03,4589761203,,010,10000011,,,040,5000000,,,074,4000000,,/
88,400,50000000,,,100,60000000,,,110,20000000,,,072,1000000,,/
16,218,2000011,V,860622,,SP4738,YRC065321/
88,PROCEEDS OF LETTER OF CREDIT FROM THE ARAMCO OIL CO
16,195,1000011,1,,,/
49,180000000,6/
98,180000000,1,8/
02,071207890,122099999,1,860620,2359,,2/
03,0975312468,,010,500011,,,190,70000000,4,0,110/
88,70000000,15,D,3,0,20000000,1,30000000,3,20000000/
49,140500000,3/
98,140500000,1,5/
02,071207890,122099999,3,860620,2359,,2/
03,7890654321,,010,800011,,,040,6000000,,,110,5000000/
88,4,/
49,118000000,3/
98,118000000,1,5/
99,345450000,4,31/

```

BAI2の例

## レコード01

レコード01はテーブルの開始を示す見出しレコードです。レコード01は送信者と受信者を表し、テーブル構造を記述します。レコード01はファイル監査証跡レコード(99)で終了します。

必須/任意	フィールド記述	フィールド位置	EnterpriseOneテーブルおよびフィールド	フィールド・タイプおよびフィールド長	説明
必須	レコード・コード	1	該当なし	数値2	このフィールドの値は常に01です。
必須	送信者ID	2	F09610.SGBSSID	文字列9	フラット・ファイルを送信する会社または銀行。
必須	受信者ID	3	F09610.SGBSRID	文字列9	フラット・ファイルを受信する会社または銀行。
必須	ファイル作成日付	4	F09610.SGSTMD F09611.BGSTMD	数値6	銀行取引明細の日付(YYMMDD形式)。
必須	ファイル作成時刻	5	該当なし	数値4	このフィールドはEnterpriseOneテーブルにマッピングしません。

必須/任意	フィールド記述	フィールド位置	EnterpriseOneテーブルおよびフィールド	フィールド・タイプおよびフィールド長	説明
必須	ファイルID番号	6	F09610.SGBSTN F09611.BGBSTN	数値15	銀行取引明細番号。 同じ作成日付のフラット・ファイルの銀行取引明細番号は、それぞれ異なっている必要があります。
任意	物理レコード長	7	該当なし	数値5	このフィールドはEnterpriseOneテーブルにマッピングしません。
任意	ブロック・サイズ	8	該当なし	数値5	このフィールドはEnterpriseOneテーブルにマッピングしません。
必須	バージョン番号	9	該当なし	数値1	このフィールドの値は常に2です。

## レコード02

レコード02はグループ見出しレコードです。レコード02は、同じ基準日と基準時刻の銀行取引明細のグループを表します。レコード02はグループ監査証跡レコード(98)で終了します。

必須/任意	フィールド記述	フィールド位置	EnterpriseOneテーブルおよびフィールド	フィールド・タイプおよびフィールド長	説明
必須	レコード・コード	1	該当なし	数値2	このフィールドの値は常に02です。
任意	最終受信者ID	2	該当なし	文字列9	このフィールドはEnterpriseOneテーブルにマッピングしません。
必須	入力者ID	3	該当なし	文字列9	このフィールドはEnterpriseOneテーブルにマッピングしません。
必須	グループ状況	4	該当なし	数値1	このフィールドはEnterpriseOneテーブルにマッピングしません。
必須	基準日	5	F09611 BGVLDT	数値6	取引の日付(YYMMDD形式)。
任意	基準時刻	6	該当なし	数値4	このフィールドはEnterpriseOneテーブルにマッピングしません。

必須/任意	フィールド記述	フィールド位置	EnterpriseOneテーブルおよびフィールド	フィールド・タイプおよびフィールド長	説明
任意	通貨コード	7	F09610 SGOCRC	文字列3	レコード03の金額の通貨。通貨コードはF0013テーブルに設定されている必要があります。
任意	基準日修飾子	8	該当なし	数値1	このフィールドはEnterpriseOneテーブルにマッピングしません。

## レコード03

レコード03は口座IDと集計状況です。レコード03は口座番号を表し、取引活動と取引状況を示します。レコード03は口座監査証跡レコード(49)で終了します。

必須/任意	フィールド記述	フィールド位置	EnterpriseOneテーブルおよびフィールド	フィールド・タイプおよびフィールド長	説明
必須	レコード・コード	1	該当なし	数値2	このフィールドの値は常に03です。
必須	顧客口座番号	2	F09610 SGBAN F09611 BGBAN	文字列29	商用口座番号。この番号には、先頭にゼロを付ける必要があります。
任意	通貨コード	3	該当なし	文字列3	このフィールドはEnterpriseOneテーブルにマッピングしません。
任意	タイプ・コード	4	該当なし	文字列3	このフィールドはEnterpriseOneテーブルにマッピングしません。
任意	金額 - 集計	5	F09610 SGOPBAA	数値15、2	開始残高および終了残高。集計金額は正の値で符号は付けません。
任意	項目数	6	該当なし	数値5	このフィールドはEnterpriseOneテーブルにマッピングしません。
任意	資金タイプ	7	該当なし	文字1	このフィールドはEnterpriseOneテーブルにマッピングしません。
任意	決済日付	8A	該当なし	数値6	このフィールドはEnterpriseOneテーブルにマッピングしません。



必須/任意	フィールド記述	フィールド位置	EnterpriseOneテーブルおよびフィールド	フィールド・タイプおよびフィールド長	説明
任意	決済時刻	9A	該当なし	数値4	このフィールドはEnterpriseOneテーブルにマッピングしません。
任意	金額 - 即時利用可能	8B	該当なし	数値15、2	このフィールドはEnterpriseOneテーブルにマッピングしません。
任意	金額 - 1日後に利用可能	8B	該当なし	数値15、2	このフィールドはEnterpriseOneテーブルにマッピングしません。
任意	金額 - 2日後以降に利用可能	10B	該当なし	数値15、2	このフィールドはEnterpriseOneテーブルにマッピングしません。
任意	配賦数	8C	該当なし	数値1	このフィールドはEnterpriseOneテーブルにマッピングしません。
任意	利用可能日数1	9C	該当なし	数値1	このフィールドはEnterpriseOneテーブルにマッピングしません。
任意	利用可能金額1	10C	該当なし	数値15、2	このフィールドはEnterpriseOneテーブルにマッピングしません。
任意	利用可能日数2	11C	該当なし	数値1	このフィールドはEnterpriseOneテーブルにマッピングしません。
任意	利用可能金額2	12C	該当なし	数値15、2	このフィールドはEnterpriseOneテーブルにマッピングしません。
任意	利用可能日数3	13C	該当なし	数値1	このフィールドはEnterpriseOneテーブルにマッピングしません。
任意	利用可能金額3	14C	該当なし	数値15、2	このフィールドはEnterpriseOneテーブルにマッピングしません。

## レコード16

レコード16には、関連するテキストと参照番号が付いた取引明細が含まれます。レコード16のすべてのタイプは、レコード03の口座番号に対応します。

必須/任意	フィールド記述	フィールド位置	EnterpriseOneテーブルおよびフィールド	フィールド・タイプおよびフィールド長	説明
必須	レコード・コード	1	該当なし	数値2	このフィールドの値は常に16です。
必須	タイプ・コード	2	F09611 BGTRANT	数値3	取引明細のタイプ・コード。このフィールドの値はUDCテーブル09/BAに設定されている必要があります。
任意	金額 - 取引明細	3	F09611 BGAA	数値15、2	符号なし。取引金額のタイプ・コードは、金額が借方であるか貸方であるかを示します。
任意	資金タイプ	4	該当なし	文字1	このフィールドはEnterpriseOneテーブルにマッピングしません。
任意	決済日付	5A	該当なし	数値6	このフィールドはEnterpriseOneテーブルにマッピングしません。
任意	決済時刻	6A	該当なし	数値4	このフィールドはEnterpriseOneテーブルにマッピングしません。
任意	金額 - 即時利用可能	5B	該当なし	数値15、2	このフィールドはEnterpriseOneテーブルにマッピングしません。
任意	金額 - 1日後に利用可能	6B	該当なし	数値15、2	このフィールドはEnterpriseOneテーブルにマッピングしません。
任意	金額 - 2日後以降に利用可能	7B	該当なし	数値15、2	このフィールドはEnterpriseOneテーブルにマッピングしません。
任意	配賦数	5C	該当なし	数値1	このフィールドはEnterpriseOneテーブルにマッピングしません。

必須/任意	フィールド記述	フィールド位置	EnterpriseOneテーブルおよびフィールド	フィールド・タイプおよびフィールド長	説明
任意	利用可能日数1	6C	該当なし	数値1	このフィールドはEnterpriseOneテーブルにマッピングしません。
任意	利用可能金額1	7C	該当なし	数値15、2	このフィールドはEnterpriseOneテーブルにマッピングしません。
任意	利用可能日数2	8C	該当なし	数値1	このフィールドはEnterpriseOneテーブルにマッピングしません。
任意	利用可能金額2	9C	該当なし	数値15、2	このフィールドはEnterpriseOneテーブルにマッピングしません。
任意	利用可能日数3	10C	該当なし	数値1	このフィールドはEnterpriseOneテーブルにマッピングしません。
任意	利用可能金額3	11C	該当なし	数値15、2	このフィールドはEnterpriseOneテーブルにマッピングしません。
任意	銀行参照番号	5	F09611 BGBANKREF	文字列16	銀行で定義した番号。この番号にはカンマまたはスラッシュを含めることはできません。
任意	顧客参照No.	6	F09611 BGCUSTREF	文字列16	銀行で定義した番号。通常は、保証書番号または支払番号になります。
任意	テキスト	7	F09611 BGINFO1	文字列360	参照目的のみに使用される情報フィールドです。

## レコード88

レコード88はレコード16の継続レコードです。レコード16のデータが最大物理レコード長を超えた場合や、なんらかの理由でレコードを分割する必要がある場合、レコード88により、同じ形式でデータを継続できます。

必須/任意	フィールド記述	フィールド位置	EnterpriseOneテーブルおよびフィールド	フィールド・タイプおよびフィールド長	説明
必須	レコード・コード	1	該当なし	数値2	このフィールドはEnterpriseOneテーブルにマッピングしません。
必須	継続レコード・タイプの形式	2	該当なし	該当なし	このフィールドはEnterpriseOneテーブルにマッピングしません。

## レコード49

レコード49は口座監査証跡レコードです。レコード49は口座レベルの照合合計を表します。レコード49には、レコード・タイプ03のすべての金額フィールドの集計と、レコード16とレコード88の口座に関連したレコードの合計数が含まれます。レコード49はレコード03のレコードごとに設定されます。レコード49のフィールドはEnterpriseOneフィールドにマッピングされませんが、レコード内の情報は口座の取引の終了と残高の照合に使用されます。

必須/任意	フィールド記述	フィールド位置	EnterpriseOneテーブルおよびフィールド	フィールド・タイプおよびフィールド長	説明
必須	レコード・コード	1	該当なし	数値2	このフィールドの値は常に49です。
必須	口座レベルの照合合計	2	該当なし	数値15、2	このフィールドはEnterpriseOneテーブルにマッピングしません。
必須	レコード数	3	該当なし	数値5	このフィールドはEnterpriseOneテーブルにマッピングしません。

## レコード98

レコード98はグループ監査証跡レコードです。レコード98はグループ・レベルの照合合計を表し、レコード・タイプ02のグループ見出しに対応します。レコード98のフィールドはEnterpriseOneフィールドにマッピングされませんが、レコード内の情報は銀行取引明細の終了の識別に使用されます。

必須/任意	フィールド記述	フィールド位置	EnterpriseOneテーブルおよびフィールド	フィールド・タイプおよびフィールド長	説明
必須	レコード・コード	1	該当なし	数値2	このフィールドの値は常に98です。
必須	グループ・レベルの照合合計	2	該当なし	数値15、2	このフィールドはEnterpriseOneテーブルにマッピングしません。

必須/任意	フィールド記述	フィールド位置	EnterpriseOneテーブルおよびフィールド	フィールド・タイプおよびフィールド長	説明
必須	口座数	3	該当なし	数値5	このフィールドはEnterpriseOneテーブルにマッピングしません。
必須	レコード数	4	該当なし	数値5	このフィールドはEnterpriseOneテーブルにマッピングしません。

## レコード99

レコード99はファイル監査証跡レコードです。レコード99はファイル・レベルの照合合計を表し、レコード・タイプ01のファイル見出しに対応します。レコード99のフィールドはEnterpriseOneフィールドにマッピングされませんが、レコード内の情報はテキスト・ファイルの終了の識別に使用されます。各テキスト・ファイルにはレコード99とレコード01が1つずつ含まれます。レコード01はこのテキスト・ファイルの開始を表します。

必須/任意	フィールド記述	フィールド位置	EnterpriseOneテーブルおよびフィールド	フィールド・タイプおよびフィールド長	説明
必須	レコード・コード	1	該当なし	数値2	このフィールドの値は常に99です。
必須	ファイル・レベルの照合合計	2	該当なし	数値15、2	このフィールドはEnterpriseOneテーブルにマッピングしません。
必須	グループ数	3	該当なし	数値5	このフィールドはEnterpriseOneテーブルにマッピングしません。
必須	レコード数	4	該当なし	数値5	このフィールドはEnterpriseOneテーブルにマッピングしません。

## F09610テーブルからF09611テーブルへのSWIFTフィールドのマッピング

この項では、自動銀行取引明細フラット・ファイルの処理プログラム(R09600)により、国際銀行間通信協会(SWIFT)銀行フォーマットのフィールドが銀行フラット・ファイルからEnterpriseOne銀行取引明細の中間見出しテーブル(F09610)と中間明細テーブル(F09611)にどのようにマッピングされるかについて説明します。

SWIFT銀行フォーマットには、次の規則が適用されます。

- ブロックの開始は「}」で区切り、ブロックの終了は「-}」で区切ります。
- ブロック内の各フィールドは「:」で囲みます。
- 各フィールドはスラッシュ(/)で区切ります。

- 小数点のかわりにカンマ(,)を使用します。
- 金額は銀行口座の通貨にします。

## ブロック

SWIFT銀行フラット・ファイルに含まれるデータはブロック単位でグループ化されます。この項では、ブロック2とブロック4について説明します。ブロック1(基本見出し)、ブロック3(ユーザー見出し)、およびブロック5(監査証跡)のフィールドはEnterpriseOneフィールドにマッピングされないため、これらのブロックの説明は省略します。

この項で説明する表は、ブロック別に構成されています。各表には、SWIFT要件に従ってフィールドが必須(R)であるか任意(O)であるかの情報や、変換フローによりレコード内のフィールドがEnterpriseOneフィールドにマッピングされるかどうかなどの情報が記載されています。

フィールドはSWIFT要件によって任意になる場合があるため、この項の各表に記載されているフィールド位置は、テキスト・ファイルの実際のフィールド位置を反映しない場合があります。たとえば、フィールド位置1から6、11および12が必須で、フィールド位置7から10が任意とします。ブランクのテキスト・ファイルにフィールド位置7から10の値が含まれていない場合、フィールド位置11と12はフィールド位置7と8になり、後続のフィールド位置も同様に調整されます。

### 例: SWIFTテキスト・ファイル

次はSWIFTテキスト・ファイルの例です。

```

:HD:WIRE 200303120945390000030010100000003001 0
{1:FZY5026NL95 3683031043}{2:09401003980401PEOPLESOAFTX4307897219804011003N}{4:
:20:8EUTDEFF1XXX
:25:0502664959
:28C:00001/001
:60F:C980122EUR1000,00
:61:980123DR50,00NMSCNONREF
:86:TESTLINE1
:86:083?00BAR?109301/108?20EUR UMSATZ?21EUR KTO 0139 17.01 KARTE 8
:86:ENDTESTLINE1
:61:980123D60,00NMSCNONREF
:86:TESTLINE2
:86:083?00BAR?109301/108?20EC-AUTOMAT 23.1 KONSTANZ?2169070032 0139 17.00 KARTE 8?22 50 CHF KURS 124,150
:86:ENDTESTLINE2
:61:980123D30,00NMSCNONREF
:86:TESTLINE3
:86:TestLine3
:86:ENDTESTLINE3
:62F:C980126EUR860,00
:64:C980126EUR860,00
-}

```

SWIFTの例

## ブロック2

ブロック2には、メッセージと銀行取引明細の情報が含まれます。

SWIFT	フィールド記述	フィールド位置	EnterpriseOne テーブルおよび フィールド	フィールド・タイプ およびフィールド 長	説明
必須	ファイル入力/出力	1	F09610 SGFIO	文字1	このフィールドの値は常に2です。
必須	メッセージ・タイプ	2から4	F09610 SGMESST	文字列4	メッセージ・タイプ940のみが処理されます。

SWIFT	フィールド記述	フィールド位置	EnterpriseOne テーブルおよび フィールド	フィールド・タイプ およびフィールド 長	説明
必須	メッセージの時刻	5から8	該当なし	数値4、0	このフィールドは EnterpriseOneテーブ ルにマッピングしません。
必須	銀行取引明細日付	9から14	F09610 SGSTMD F09611 BGSTMD	日付6	銀行取引明細日付。
必須	説明	15から60	F09610 SGDESC04	文字列46	銀行情報の記述。

## ブロック4

ブロック4には開始残高、取引金額、日付、終了残高、および予測金額が含まれます。フィールド61とフィールド86は繰り返すことができますが、フィールド62の前に置かれる必要があります。

SWIFT	フィールド記述	フィールド	フィールド位置	EnterpriseOneテーブ ルおよびフィールド	フィールド・タイ プおよびフィー ルド長	説明
必須	取引参照番号	20	1から16	F09610 SGETRN	文字列16	電子銀行取引明細 の参照番号。
必須	口座ID	25	1から35	F09610 SGBAN	文字列35	口座番号。
必須	明細書番号	28C	1から5	F09610 SGBSTN F09611 BGBSTN	数値15	銀行取引明細番号。
任意	区切り文字	28C	/	該当なし	文字1	このフィールドは順 序番号がある場合 のみ必須です。  このフィールドは EnterpriseOneテーブ ルにマッピングしま せん。

SWIFT	フィールド記述	フィールド	フィールド位置	EnterpriseOneテーブルおよびフィールド	フィールド・タイプおよびフィールド長	説明
任意	順序番号	28C	7から11	F09610 SGBSSEQ F09611 BGBSSEQ	数値5	各取引の順序番号。
必須	開始残高借方/貸方インディケータ	60mまたは60f	1	F09610 SGOBDBCR	文字1	開始残高の借方(D)または貸方(C)のインディケータ。
必須	開始記帳日付	60mまたは60f	2から7	F09610 SGOLVDT	日付6	開始残高の決済日付(YYMMDD形式)。
必須	開始残高通貨コード	60mまたは60f	8から10	F09610 SGOCCRC F09611 BGTCCRC	文字列3	開始残高に関連付けられた3文字のISO通貨コード。
必須	開始残高金額	60mまたは60f	11から25	F09610 SGOPBAA	数値15、2	開始残高の金額。
必須	決済日付	61	1から6	F09611 BGVLDT	日付6	銀行で取引が決済される日付(YYMMDD形式)。
任意	記帳日付	61	7から10	該当なし	日付4	このフィールドはEnterpriseOneテーブルにマッピングしません。
必須	明細借方/貸方インディケータ	61	11から12	F09611 BGDDBCR	文字列2	借方(D)、貸方(C)、貸方の逆仕訳(RC)または借方の逆仕訳(RD)のインディケータ。
任意	通貨のタイプ	61	13	F09611 BGCURRT	文字1	ISO通貨コードの3番目の文字。
必須	取引金額	61	14から28	F09611 BGAA	数値15、2	取引の金額。
必須	取引タイプ	61	29から32	F09611 BGTRANT	文字列4	取引タイプのIDコード。



SWIFT	フィールド記述	フィールド	フィールド位置	EnterpriseOneテーブルおよびフィールド	フィールド・タイプおよびフィールド長	説明
任意	参照	61	33から48	F09611 BGCUSTREF	文字列16	支払や入金などの顧客参照。
必須	区切り文字	61	49から50	該当なし	/	外部銀行参照が存在する場合、このフィールドは必須です。  このフィールドはEnterpriseOneテーブルにマッピングしません。
任意	外部銀行参照	61	51から66	F09611 BGBANKREF	文字列16	口座管理機関の参照。
必須	区切り文字	61	67から70	該当なし	/	明細フィールド（フィールド位置71から102）が存在する場合、このフィールドは必須です。  このフィールドはEnterpriseOneテーブルにマッピングしません。
任意	明細	61	71から102	F09611 BGSUBF9	文字列34	補足の明細。
必須	情報行	86	すべて	F09611 BGINFO1	文字列390	情報行（65文字使用可能）。情報行は6行です。
必須	終了残高借方/貸方インディケータ	62mまたは62f	1	F09610 SGCBDBCR	文字1	終了残高の借方(D)または貸方(C)のインディケータ。
必須	終了記帳日付	62mまたは62f	2から7	F09610 SGCBDBCR	日付6	終了残高の日付（YYMMDD形式）。
必須	終了通貨コード	62mまたは62f	8から10	F09610 SGCCRCDD	文字列3	終了残高の3文字のISO通貨コード。
必須	終了残高金額	62mまたは62f	11から25	F09610 SGCLBAA	数値15、2	終了残高の金額。

SWIFT	フィールド記述	フィールド	フィールド位置	EnterpriseOneテーブルおよびフィールド	フィールド・タイプおよびフィールド長	説明
必須	終了使用可能 残高借方/貸方 インディケーター	64	1	F09610 SGCADBCR	文字1	フィールド64は任意ですが、使用する場合、下位フィールドはすべて必須です。
必須	終了使用可能 決済日付	64	2から7	F09610 SGCAVLDT	日付6	終了使用可能残高の 決済日付 (YYMMDD 形式)。
必須	終了使用可能 通貨コード	64	8から10	F09610 SGCACRCD	文字列3	終了使用可能残高 の3文字のISO通貨 コード。
必須	終了使用可能 残高	64	11から25	F09610 SGCAVAA	数値15、2	終了使用可能残高 の金額。
必須	繰越可能残高 借方/貸方イン ディケーター	65	1	F09610 SGFADBCR	文字1	フィールド65は任意 ですが、使用する場 合、下位フィールド はすべて必須です。
必須	繰越可能決済 日付	65	2から7	F09610 SGFVLDT	日付6	繰越可能残高の決 済日付 (YYMMDD形 式)。
必須	繰越可能通貨 コード	65	8から10	F09610 SGFACRCD	文字列3	繰越可能残高の3文 字のISO通貨コード。
必須	繰越可能残高	65	11から25	F09610 SGFAVAA	数値15、2	繰越可能残高の金 額。

## 付録 D

# 予算データのインポートのフィールドのマッピング

この付録では、勘定残高 - バッチ・テーブル (F0902Z1) のフィールドをマッピングする方法について説明します。

## F0902Z1 テーブルのフィールドのマッピング

この項には、F0902Z1 テーブルのフィールドの一覧が記載されています。フィールドは次のように分類されます。

- スプレッドシートで更新されるフィールド
- システムで更新されるフィールド

### スプレッドシートで更新されるフィールド

スプレッドシートのフィールドについて、次の点を検討します。

- スプレッドシートの各フィールドは、前の表で指定されている文字数を超えないようにします。指定された文字数より少なくてもかまいません。
- 金額フィールドには、小数点以下の数値を含めることができます。
- マイナスで入力する場合は、一番左端の数字の前に付けます。

次の表は、「F0902Z1 へのアップロード」フォームの詳細グリッドの各フィールドと、スプレッドシートの対応するセルへの入力方法を示しています。

F0902Z1 フィールド	スプレッドシートの対応するセルへの入力方法
略式ID (AID)	アップロード/変換の改訂プログラム (P0902Z1) の「勘定科目コード」処理オプションで「1」を入力した場合のみ、このフィールドに値を入力します。システムによって割り当てられた8桁の略式IDを入力します。必要な場合は先頭にゼロを補って、必ず8桁で入力してください。
自由形式勘定科目 (ANS)	アップロード/変換の改訂プログラムの「勘定科目コード」処理オプションで「2」を入力した場合のみ、このフィールドに値を入力します。自由形式勘定科目は第3勘定科目コードと呼ばれ、通常は旧システムからの勘定科目コードの入力に使用されます。使用できる文字に制限はありません。
勘定科目コード (ANI)	ビジネスユニット、主科目、および補助科目 (必要な場合) を含む完全な勘定科目コードを入力します。アップロード/変換の改訂プログラムの「勘定科目コード」処理オプションで「3」を入力した場合のみ、このフィールドに値を入力します。

F0902Z1フィールド	スプレッドシートの対応するセルへの入力方法
ビジネスユニット (MCU)	ビジネスユニットの番号を入力します。アップロード/変換の改訂プログラムの「勘定科目コード」処理オプションで「4」を入力した場合のみ、このフィールドに値を入力します。このフィールドは、「主科目」フィールドと「補助科目」フィールドと組み合わせて使用します。
主科目 (OBJ)	主科目コードを入力します。アップロード/変換の改訂プログラムの「勘定科目コード」処理オプションで「4」を入力した場合のみ、このフィールドに値を入力します。このフィールドは、「ビジネスユニット」フィールドと「補助科目」フィールドと組み合わせて使用します。
補助科目	勘定科目の補助科目を入力します。アップロード/変換の改訂プログラムの「勘定科目コード」処理オプションで「4」を入力した場合のみ、このフィールドに値を入力します。このフィールドは、「ビジネスユニット」フィールドと「主科目」フィールドと組み合わせて使用します。
補助元帳 (SBL)	勘定科目の補助元帳の値を入力します。この値は、英数字8文字です。
補助タイプ (SBLT)	勘定科目の補助元帳タイプの値を入力します。この値は、英数字1文字です。
転記額01 (AN01) から転記額14 (AN14)	期間1から14の予算金額を入力します。これらのフィールドは期間別の予算のインポートに使用します。この値は、15桁の数字です。
当初/開始予算額 (BORG)	年間予算のインポートに使用します。この値は、15桁の数字です。
前年度転記額 (APYN)	この勘定科目に前年度の転記を入力する場合に使用します。この値は、15桁の数字です。
週累計転記額 (AWTD)	52期間会計を使用する場合、このフィールドに値を入力します。この値は、15桁の数字です。
承認予算 (BAPR)	承認済の年間予算のインポートに使用します。この値は、15桁の数字です。
申請予算 (BREQ)	申請済の年間予算のインポートに使用します。この値は、15桁の数字です。
期首残高/前年繰越 (APYC)	この勘定科目の期首残高の入力に使用します。この値は、15桁の数字です。

## システムで更新されるフィールド

次のフィールドは自動的に入力されるため、スプレッドシートに設定する必要はありません。

- 西暦上2桁 (CTRY)
- 会計年度 (FY)

アップロード/変換プログラム (R14110) を実行すると、「西暦上2桁」フィールドと「会計年度」フィールドには、このプログラムの「西暦上2桁」処理オプションと「会計年度」処理オプションで入力した値に基づいて自動的に値が入力されます。

予算データを複数年分ロードするには、ロードする各年度のフィールドに値を入力します。次に、アップロード/変換プログラムの「西暦上2桁」処理オプションと「会計年度」処理オプションを設定してデータを選択し、一度に1年度ずつアップロードします。

たとえば、2006年度と2007年度の予算データをアップロードする場合、アップロード/変換プログラムの「西暦上2桁」処理オプションを「20」に設定し、データ選択で西暦上2桁と会計年度をそれぞれ「20」と「06」に設定してプログラムを実行します。次に、データ選択で2007年度用に設定して、アップロード/変換プログラムを再度実行します。

データ選択を使用しない場合は、処理オプションの値によりスプレッドシートの会計年度と西暦上2桁が上書きされます。

- 会社 (CO)
- 更新日付 (UPMJ)
- 予算メモ変更 (POU)
- 予算調整 (TKER)
- 完了% (PC)

---

**注意:**「表示通貨」フィールド (CRCX) には、勘定科目を使用する会社の通貨が入力されます。「当初通貨」フィールド (CRCD) は通常、予算元帳では空白です。

---



## 付録 E

# 受信複数サイト連結のフィールドのマッピング

この付録では、次の受信複数サイト連結テーブルのフィールドをマッピングする方法について説明します。

- 未編集の複数サイト連結インタオペラビリティ見出しテーブル (F1001Z1)
- 未編集の複数サイト連結インタオペラビリティ詳細テーブル (F1002Z1)

## F1001Z1テーブルのフィールドのマッピング

この項には、F1001Z1テーブルのフィールドの一覧が記載されています。これらのフィールドは、必須フィールド、任意フィールド、および無視されるフィールド別にグループ化されています。

### F1001Z1の必須フィールド

これらのフィールドはF1001Z1で必須です。一部のフィールドでは、ブランクが値になります。

これらのフィールドの一部は、F1001Z1テーブルから複数サイト連結の転送ファイル見出しテーブル (F1001) への連結情報の転送を識別または制御するために使用されます。その他のフィールドの値は、F1001テーブルに書き込まれます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI-ユーザーID	IAEDUS	文字	10	プロセスを実行しているユーザーのユーザーID、または転送に関するワークフロー・メッセージの受信者のユーザーIDを入力します。このフィールドは、IAEDBTおよびIAEDTNと組み合わせて、特定のトランザクションを一意に識別します。
EDI-バッチ番号	IAEDBT	文字	15	処理するトランザクションをグループ化する番号を入力します。このフィールドは、IAEDUSおよびIAEDTNと組み合わせて、特定のトランザクションを一意に識別します。
EDI-トランザクション番号	IAEDTN	文字	22	トランザクションを識別する番号を入力します。このフィールドは、F1002Z1のSZRC5と組み合わせて、トランザクションの特定の行を一意に識別します。また、IAEDUSおよびIAEDBTと組み合わせて、特定のトランザクションを一意に識別します。
送受信インディケータ	IADRIN	文字	1	外部システムによってレコードが書き込まれたことを示す値を入力します。受信トランザクションでは、このフィールドの値は「1」です。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
トランザクション・アクション	IATNAC	文字	1	トランザクションが処理されるように、「A」を入力します。その他の値は無効です。
EDI - 処理済	IAEDSP	文字	1	このフィールドには自動的に値が入力されるため、ブランクにします。Nは、トランザクションが処理されなかったか、エラーが発生したことを示します。トランザクションが正常に処理されると、このフィールドの値は「Y」に変更されます。
連結名	IACNAM	文字	3	連結の名前を入力します。この値はUDCテーブルに設定されている必要があります。
期間 - 総勘定元帳	IAPN	数値	2	総勘定元帳に取引が記録された期間を入力します。
年度	IAFY	数値	2	会計年度の下2桁を入力します。
西暦上2桁	IACTRY	数値	2	会計年度の最初の2桁を入力します。
元帳タイプ	IALT	文字	2	取引の元帳タイプを入力します。この元帳タイプはUDC 09/LTに設定されている必要があります。このフィールドをブランクにすると、元帳タイプAAが使用されます。
伝票会社	IACO	文字	5	取引会社を入力します。入力する会社はF0010テーブルに設定されている必要があります。

### F1001Z1の任意フィールド

これらのフィールドは、F1001Z1テーブルで任意です。これらのフィールドは、複数サイト連結処理に必須ではありません。これらのフィールドの値は、F1001テーブルに書き込まれますが、複数サイト連結プログラムによって使用されることはありません。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
カテゴリ・コード・ファイル送信済	IACCSE	文字	1	この連結で複数サイト連結の転送ファイル・カテゴリ・コード・テーブル (F1003) が作成されたかどうかを示す値を入力します。値は次のとおりです。 ブランクまたは0: テーブルは作成されていません。 1: テーブルが作成されています。
EDI - 行番号	IAEDLN	数値	7	連結処理には使用されません。
EDI - 伝票タイプ	IAEDCT	文字	2	連結処理には使用されません。
トランザクション・タイプ	IATYTN	文字	8	連結処理には使用されません。
EDI - 変換フォーマット	IAEDFT	文字	10	連結処理には使用されません。



フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI - 伝送日付	IAEDDT	日付	6	連結処理には使用されません。
EDI - 処理済明細行数	IAEDDL	数値	5	連結処理には使用されません。
取引先ID	IAPNID	文字	15	連結処理には使用されません。
ファイル伝送状況	IATRFG	文字	1	連結処理には使用されません。
伝送済レコード数	IATRSE	数値	15	連結処理には使用されません。
日付 - 送信	IADTSE	日付	6	連結処理には使用されません。
受信レコード数	IATRRRC	数値	15	連結処理には使用されません。
日付 - 受信	IADTRI	日付	6	連結処理には使用されません。
前期間調整	IAIN01	文字	1	連結処理には使用されません。
借方 = 貸方	IAIN02	文字	1	連結処理には使用されません。
ソースUDC = ターゲットUDC	IAIN03	文字	1	連結処理には使用されません。
ソース主科目 / 補助科目 = ターゲット主科目 / 補助科目	IAIN04	文字	1	連結処理には使用されません。
今月ではなく前月の勘定科目	IAIN05	文字	1	連結処理には使用されません。
今月ではなく前月のビジネスユニット	IAIN06	文字	1	連結処理には使用されません。
前月ではなく今月の勘定科目	IAIN07	文字	1	連結処理には使用されません。
前月ではなく今月のビジネスユニット	IAIN08	文字	1	連結処理には使用されません。
整合性制御状況 9	IAIN09	文字	1	連結処理には使用されません。
整合性制御状況 10	IAIN10	文字	1	連結処理には使用されません。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
整合性制御状況 11	IAIN11	文字	1	連結処理には使用されません。
整合性制御状況 12	IAIN12	文字	1	連結処理には使用されません。

### F1001Z1の無視されるフィールド

次の表に示すフィールドは無視されます。これらのフィールドの値は使用されません。また、F1001テーブルに書き込まれません。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ
ユーザー予約参照	IAURRF	文字	15
ユーザー予約コード	IAURCD	文字	2
ユーザー予約コード	IAURC1	文字	3
ユーザー予約コード	IAURC2	文字	10
ユーザー予約金額	IAURAT	数値	15
ユーザー予約No.	IAURAB	数値	8
取引入力者	IATORG	文字	10

## F1002Z1テーブルのフィールドのマッピング

この項には、F1001Z1テーブルのフィールドの一覧が記載されています。これらのフィールドは、必須フィールド、任意フィールド、および無視されるフィールド別にグループ化されています。

### F1002Z1の必須フィールド

これらのフィールドは、F1002Z1テーブルで必須です。一部のフィールドでは、ブランクが値になります。これらのフィールドの一部は、F1002Z1テーブルからF1002テーブルへの連結情報の転送を識別または制御するために使用されます。その他のフィールドの値は、F1002テーブルに書き込まれます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI-ユーザーID	SZEDUS	文字	10	プロセスを実行しているユーザーのユーザーID、または転送に関するワークフロー・メッセージの受信者のユーザーIDを入力します。このフィールドは、SZEDBTおよびSZEDTNと組み合わせて、特定のトランザクションを一意に識別します。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI- バッチ 番号	SZEDBT	文字	15	処理するトランザクションをグループ化する番号を入力します。このフィールドは、SZEDUSおよびSZEDTNと組み合わせて、特定のトランザクションを一意に識別します。
EDI- トラン ザクション番 号	SZEDTN	文字	22	トランザクションを識別する番号を入力します。このフィールドは、SZRC5と組み合わせて、各トランザクションを区別します。また、SZEDUSおよびSZEDBTと組み合わせて、特定のトランザクションを一意に識別します。
ファイル行ID	SZRC5	数値	5	SZEDTNと組み合わせて各トランザクションの行番号を識別する値を入力します。
送受信イン ディケータ	SZDRIN	文字	1	外部システムによってレコードが書き込まれたこと示す値を入力します。受信トランザクションの場合は、「1」を入力します。
トランザクシ ョン・アクション	SZTNAC	文字	1	トランザクションが処理されるように、「A」を入力します。その他の値は無効です。
EDI- 処理済	SZEDSP	文字	1	このフィールドには自動的に値が入力されるため、ブランクにします。「0」は、トランザクションが処理されずにエラーが発生したことを示します。トランザクションが正常に処理されると、このフィールドの値は「1」に変更されます。
ビジネスユ ニット	SZMCU	文字	12	取引のビジネスユニットを入力します。この値は、勘定科目構造で定義されている形式で入力する必要があります。
主科目	SZOBJ	文字	6	取引の主科目を入力します。この値は、勘定科目構造で定義されている形式で入力する必要があります。
補助科目	SZSUB	文字	8	取引の補助科目を入力します。この値は、勘定科目構造で定義されている形式で入力する必要があります。
記述	SZDL01	文字	30	勘定科目の記述を入力します。

### F1002Z1の任意フィールド

これらのフィールドは、F1002Z1テーブルで任意です。これらのフィールドは、複数サイト連結処理に必須ではありません。これらのフィールドの値は、F1002テーブルに書き込まれますが、複数サイト連結プログラムによって使用されることはありません。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
補助元帳	SZSBL	文字	8	取引の補助元帳を示す値を入力します。このフィールドに入力する場合は、補助元帳タイプ (SZSBLT) の値も入力する必要があります。
補助元帳タ イプ	SZSBLT	文字	1	取引の補助元帳タイプを示す値を入力します。このフィールドに入力する値は、UDCテーブル00/STに設定されている必要があります。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
通貨コード (開始)	SZCRCD	文字	3	取引の通貨を識別するコードを入力します。このフィールドの値は、F0013テーブルに設定されている必要があります。
通貨コード (指定)	SZCRCX	文字	3	取引の通貨を示すコードを入力します。このフィールドの値は、F0013テーブルに設定されている必要があります。
金額 - 期首 残高/前年繰 越	SZAPYC	数値	15	前年度以前の累積残高を入力します。この金額は、貸借対照表および作業原価勘定の期首残高として使用されます。
金額 - 転記 額01から  金額 - 転記 額14	SZAN01から SZAN14	数値	15	指定会計期間中に転記された正味金額を入力します。これらのフィールドは、会計期間01から14を表し、F0010テーブルの会計期間が使用されます。各期間の転記額は、期間の開始日付から終了日付までの借方金額と貸方金額の合計です。
金額 - 前年 度転記額	SZAPYN	数値	15	前年度からの転記額を入力します。この値は、損益計算書での比較に使用されます。
金額 - 過累 計	SZAWTD	数値	15	連結処理には使用されません。
金額 - 当初/ 開始予算額	SZBORG	数値	15	連結処理には使用されません。
申請予算	SZBREQ	数値	15	連結処理には使用されません。
承認予算	SZBAPR	数値	15	連結処理には使用されません。

### F1002Z1の無視されるフィールド

次の表に示すフィールドは無視されます。これらのフィールドの値は使用されません。また、F1002テーブルに書き込まれません。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ
ユーザー予約参照	SZURRF	文字	15
ユーザー予約コード	SZURCD	文字	2
ユーザー予約コード	SZURC1	文字	3
ユーザー予約コード	SZURC2	文字	10
ユーザー予約金額	SZURAT	数値	15
ユーザー予約No.	SZURAB	数値	8
取引入力者	SZTORG	文字	10

## 付録 F

# JD Edwards EnterpriseOne一般会計の標準ワークフロー

この付録では、JD Edwards EnterpriseOne一般会計の標準ワークフローについて説明します。

### 関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Workflow Tools Guide

---

## JD Edwards EnterpriseOne一般会計の標準ワークフロー

この項では、JD Edwards EnterpriseOne一般会計の標準ワークフローについて説明します。

### 仕訳のバッチ承認

この項では、仕訳のバッチ承認ワークフローについて説明します。

#### 内容

ワークフローの概要	入力権限を付与されているユーザーが仕訳を作成すると、指定されたバッチ承認者にワークフロー・メッセージが送信されます。承認者がバッチ状況をA(承認済)に変更しないとバッチ状況はP(保留)のままで、バッチを転記できません。
ワークフロー・トリガー	入力権限を付与されているユーザーによる仕訳バッチの作成。
ワークフロー処理	承認者はワークフロー・メッセージを受け取り、バッチを承認します。承認者がワーク・センターでメッセージを選択すると、「バッチの処理」フォームが表示されます。承認者はバッチを確認し、「ロー」メニューの「バッチ承認」を選択してバッチを承認します。

#### ワークフロー・オブジェクト

システム	09
ワークフロー・オブジェクト名	JDEBCHAPPR
オブジェクトID	W0911A
イベント記述/関数名	Postボタンがクリックされました。
順序/行番号	140

## 経費精算書の承認経路

この項では、経費精算書の承認経路のワークフローについて説明します。

### 内容

ワークフローの概要	ユーザーが経費精算書を提出すると、監査人または管理者にワークフロー・メッセージが送信されます。この監査人または管理者は、経費精算書の承認経路設定規則で指定された承認者です。
ワークフロー・トリガー	ユーザーによる経費精算書の提出。
ワークフロー処理	承認者はワークフロー・メッセージを受け取り、経費精算書を承認します。承認者がワーク・センターでメッセージを選択すると、経費精算書の承認フォームが表示されます。承認者は、このフォームで経費精算書の検討と承認を行います。

### ワークフロー・オブジェクト

システム	09
ワークフロー・オブジェクト名	EXPROUTING
オブジェクトID	N09E0008
イベント記述/関数名	StartWorkflowProcess
順序/行番号	61

## 付録 G

# JD Edwards EnterpriseOne一般会計レポート

この付録では、各種一般会計レポートの概要について説明し、次の情報を提供します。

- 全レポートの一覧表
- アクセスするレポートの詳細とテーブル

---

## 一般会計レポートの種類

この項では、次の種類の一般会計レポートの概要を説明します。

- 仕訳帳レポート
- 試算表レポート
- カテゴリ・コード・レポート
- 総勘定元帳レポート

ほとんどのJD Edwards EnterpriseOne一般会計レポートは、次のいずれかの種類のレポートに分類できます。

### 仕訳帳レポート

通常、仕訳の検討はオンラインで行います。ただし、詳細な分析が必要な場合は、仕訳帳を印刷した方が作業しやすくなります。特に、貸借不一致状況の解決には、印刷した仕訳帳レポートが有効です。未転記仕訳のみ、または転記済仕訳と未転記仕訳が混在する仕訳帳を印刷できます。すべての仕訳帳は、F0911テーブルから取引を印刷します。

多通貨を使用している場合、外貨建て取引に対してCAの外貨建て金額とAAの国内金額の両方が印刷されます。

仕訳帳レポートの処理時間は、F0911テーブルのレコード数によって異なります。

### 試算表レポート

試算表レポートは、個別の勘定科目残高や元帳全体の正確性を検証する必要がある場合に役立ちます。貸借不一致がある場合、このレポートを検討して問題を特定することが可能です。たとえば、試算表レポートを使用して貸借不一致が発生している期間を調べることができます。また、試算表の借方合計と貸方合計を分析することもできます。試算表レポートは、F0902テーブルの情報を使用します。

試算表レポートを使用して、累計残高の情報を検討できます。借方/貸方形式の試算表では、借方と貸方の合計を検討できます。どのレポートも、現行会計期間や、勘定残高テーブルに保存されている過去の会計年度や会計期間に関する情報を印刷できます。

## カテゴリ・コード・レポート

勘定科目表で勘定科目にカテゴリ・コード21から43を割り当てている場合、特定のカテゴリ・コードに関連するすべての勘定科目のデータを印刷できます。

ヨーロッパや中国では、事業で使用するべき勘定科目コードのガイドラインが政府により定められています。このガイドラインに対応するため、1つ以上の代替勘定科目コードをカテゴリ・コード21から43に割り当てることができます。コード(この場合は法定勘定科目コード)は10文字までと規定されているため、これらのカテゴリ・コードが使用されます。必要に応じて、同じカテゴリ・コードを複数の勘定科目に割り当てることもできます。

レポートでは、カテゴリ・コードは法定勘定科目コード、カテゴリ・コード記述は勘定科目名を表します。同じ法定勘定科目コードに関連付けられた複数の勘定科目を集計し、法定勘定科目番号と法定勘定科目名を一覧表示できます。

## 総勘定元帳レポート

総勘定元帳レポートには、勘定取引に関する詳細な情報が印刷されます。個別の勘定科目内の取引の検討、問題の調査、勘定科目の正確性の検証などが必要な場合に、これらのレポートを使用します。

総勘定元帳レポートでは、AAI(自動仕訳)項目GLG6とGLG12を使用して、損益計算書勘定の勘定科目範囲(開始勘定科目と終了勘定科目)を決定します。

総勘定元帳レポートでは、印刷する金額を年累計と現行期間合計から選択できます。また、特定の伝票タイプ(買掛伝票や仕訳入力など)をレポートに含めることもできます。

## JD Edwards EnterpriseOne一般会計のすべてのレポート

次の表は、JD Edwards EnterpriseOne一般会計の全レポートの一覧です。

レポートID/レポート名	説明	ナビゲーション
R00650 ビジネスユニット別補足データ	ビジネスユニットに設定されている補足データを印刷します。	「ビジネスユニット補足データ」(G09312)、「ビジネスユニット別データ」
R09205P 勘定科目マスター・レポートのカテゴリ・コード01から23	勘定科目表の勘定科目でカテゴリ・コード01から23に関連するものを印刷します。	「財務レポート」(G75C09)、「勘定科目マスター・レポートのカテゴリ・コード01-23」
R09206 勘定科目マスター・レポートのカテゴリ・コード24から33	勘定科目表の勘定科目でカテゴリ・コード24から33に関連するものを印刷します。	「財務レポート」(G75C09)、「勘定科目マスター・レポートのカテゴリ・コード24-33」
R09207 勘定科目マスター・レポートのカテゴリ・コード34から43	勘定科目表の勘定科目でカテゴリ・コード34から43に関連するものを印刷します。	「財務レポート」(G75C09)、「勘定科目マスター・レポートのカテゴリ・コード34-43」



レポートID/レポート名	説明	ナビゲーション
R09301 仕訳帳(未転記) 現金主義会計未転記レポート	未転記取引を印刷します。	「仕訳入力、レポート、照会」 (G0911)、「仕訳帳(未転記)」  「現金主義会計」(G09314)、「未転記レポート」
R09301 仕訳帳(バッチ別)	転記済仕訳と未転記仕訳をバッチ番号順に印刷します。	「仕訳入力、レポート、照会」 (G0911)、「仕訳帳(バッチ別)」
R09311 仕訳帳(勘定科目別)	転記済取引と未転記取引を勘定科目別に印刷します。勘定科目コード別の合計も計算します。	「仕訳入力、レポート、照会」 (G0911)、「仕訳帳(勘定科目別)」
R09321 取引仕訳	元帳日付範囲内の取引を印刷します。請求書と買掛伝票の貸借一致仕訳となる借方金額と貸方金額を印刷します。	「レポートおよびオンライン照会」 (G0912)、「取引仕訳」
R09410 試算表	ビジネスユニット別に勘定残高を印刷します。ビジネスユニット別に勘定残高を分析し、ビジネスユニットの合計を取得する場合に使用します。このレポートには詳細レベル集計用の処理オプションがあります。	「レポートおよびオンライン照会」 (G0912)、「試算表」
R094121 試算表(主科目別)	すべてのビジネスユニットの勘定残高を印刷します。このレポートを使用して、すべての現金勘定など類似する主科目を検討し、各主科目グループの合計を取得します。	「レポートおよびオンライン照会」 (G0912)、「試算表(主科目別)」
R09420 総勘定元帳(ビジネスユニット別)	特定のビジネスユニット内の取引を主科目別に印刷します。	「レポートおよびオンライン照会」 (G0912)、「総勘定元帳(ビジネスユニット別)」
R09421 総勘定元帳(主科目別)	すべてまたは複数のビジネスユニットの取引を印刷します。  このレポートでは、取引が勘定科目別に一覧表示されます。このレポートを使用して、すべてまたは複数のビジネスユニットの特定の勘定科目を検討したり、各グループの勘定科目合計を取得します。	「レポートおよびオンライン照会」 (G0912)、「総勘定元帳(主科目別)」
R09422 総勘定元帳(補助元帳合計付き)	取引合計を補助元帳別に印刷します。オンラインで試算表(補助元帳別)プログラムを実行すると、同じ情報が表示されます。	「レポートおよびオンライン照会」 (G0912)、「総勘定元帳(補助元帳合計付き)」
R09423 主科目別取引	指定した会社の各主科目について選択した期間全体の勘定残高と転記済取引を印刷します。	「レポートおよびオンライン照会」 (G0912)、「主科目別取引」

レポートID/レポート名	説明	ナビゲーション
R09424 補助科目別取引	すべての主科目と補助科目について選択した期間全体の勘定残高と転記済取引を印刷します。	「レポートおよびオンライン照会」(G0912)、「補助科目別取引」
R09451 勘定科目合計(仕入先/顧客別)	顧客や仕入先ごとの残高を主科目別に印刷します。	「レポートおよびオンライン照会」(G0912)、「勘定科目合計(仕入先/顧客別)」
R09470 総勘定元帳(カテゴリ・コード別)	カテゴリ・コード21から43に割り当てられた勘定科目の勘定残高を印刷します。	「レポートおよびオンライン照会」(G0912)、「総勘定元帳(カテゴリ・コード別)」
R09472 カテゴリ・コード別試算表(借方/貸方形式)	カテゴリ・コード21から43に割り当てられた勘定科目の勘定残高を含む試算表を印刷します。このレポートを使用して、貸方と借方の合計を確認したり、多国籍企業や法定会計のレポートに使用する勘定科目表を補足します。	「レポートおよびオンライン照会」(G0912)、「試算表(カテゴリ・コード別) - 借方/貸方形式」
R09473 主科目別試算表(借方/貸方形式)	特定の元帳の各勘定科目について借方合計と貸方合計の金額を印刷します。  損益計算書勘定の現行残高には、前年度の残高は含まれません。損益計算書勘定の開始日以降累計額を計算するには、現行残高に過去のすべての年度末残高を加算します。	「レポートおよびオンライン照会」(G0912)、「試算表(主科目別) - 借方/貸方形式」
R11C750 現金主義会計整合性レポート	指定した期間の現金主義仕訳を印刷します。貸借不一致の勘定科目を示す例外レポートが作成されます。元帳AAとAZの間では、現金勘定のみが貸借一致になります。	「現金主義会計」(G09314)、「整合性テスト」
R11C760 現金主義会計監査レポート	取引レベルでの現金主義仕訳に関する情報を印刷します。このレポートは、伝票の転記状況や貸借一致状況を判断する際の強力な検索ツールになります。貸借が一致しない現金主義仕訳は、“貸借不一致”というメッセージで識別されます。	「現金主義会計」(G09314)、「監査レポート」

## JD Edwards EnterpriseOne一般会計の主なレポート

一部のレポートについて、処理オプションの情報などをより詳細に説明します。この付録では、これらのレポートをレポートID順に示します。

## R00650 - ビジネスユニット別データ

ビジネスユニットに設定されている補足データを印刷します。

## ビジネスユニット別データ(R00650)の処理オプション

処理オプションを使用して、レポートのデフォルト処理を指定できます。

## 汎用テキスト

**汎用テキスト・オプション** レポートに汎用テキストを印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: テキストを印刷します。

1: テキストを印刷しません。

## 補足データベース

**補足データベース・コード** レコードを印刷する補足データベース・コードを入力します。ブランクにした場合、ビジネスユニットのレコードが印刷されます。

## R09205P、R09206、R09207 - 勘定科目マスター・レポート

勘定科目が適切なカテゴリ・コードに関連付けられているかどうかの判断に使用します。

- ・ R09205P - 勘定科目マスター・レポートのカテゴリ・コード01から23
- ・ R09206 - 勘定科目マスター・レポートのカテゴリ・コード24から33
- ・ R09207 - 勘定科目マスター・レポートのカテゴリ・コード34から43

## 勘定科目マスター・レポート(R09205P、R09206、R09207)の処理オプション

勘定科目マスター・レポート・カテゴリ・コード01から23(R09205P)、24から33(R09206)、34から43(R09207)の処理オプションは同じです。

印刷

この処理オプションでは、レポートへの情報の印刷方法を指定します。

- |                            |  |
|----------------------------|--|
| <p><b>1. 第3勘定科目コード</b></p> | <p>レポートに第3勘定科目コード(データ項目ANS)を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: 第3勘定科目コード(自由形式勘定科目コード)を印刷しません。</p> <p>1: 第3勘定科目コードを印刷します。</p>         |
| <p><b>2. ビジネスユニット名</b></p> | <p>勘定科目印刷対象のビジネスユニットを変更する際に、勘定科目に関連するビジネスユニットの記述を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: ビジネスユニット名を印刷しません。</p> <p>1: ビジネスユニット名を印刷します。</p> |

## R09301 - 仕訳帳(未転記)、仕訳帳(バッチ別)、現金主義会計未転記レポート

仕訳帳(未転記)、仕訳帳(バッチ別)、および現金主義会計未転記レポートは、総勘定元帳に転記する前に仕訳入力取引を分析するための仕訳帳レポートを印刷します。転記済取引と未転記取引の両方をバッチ別に印刷できます。各バッチの伝票番号別および伝票タイプ別に合計が印刷されます。

### 現金主義会計未転記レポート

仕訳帳: 現金主義仕訳のデモ・バージョンを実行します。このバージョンでは、データ選択は“元帳タイプ = AZ”、“転記コード = ブランク”に設定されています。

現金主義会計未転記レポートの処理時間は、未転記バッチの量によって異なります。現金主義取引をオンラインで検討することもできます。オンラインでは、短時間でより柔軟な検討が可能です。ただし、検証用の監査証跡が必要な場合や貸借不一致がある場合に詳細な分析を行うには、レポートが有効です。

### 現金主義会計未転記レポートのデータ選択とデータ順序

データ選択は追加できますが、データ順序は変更できません。データ順序を変更すると、レポートの合計金額が正しく計算されない可能性があります。

## 仕訳帳(未転記)と現金主義会計未転記レポート(R09301)の処理オプション

処理オプションを使用して、レポートのデフォルト処理を指定できます。

### 勘定科目形式

**勘定科目** 勘定科目を印刷する形式を指定します。値は次のとおりです。

- 1: 勘定科目コード
- 2: 略式ID
- 3: 第3勘定科目
- 4: 入力したコード

### 数量

**数量** 数量を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 数量を印刷しません。

- 1: 数量を印刷します。

## R09311 - 仕訳帳(勘定科目別)

転記済取引と未転記取引の両方を勘定科目別に印刷できます。合計が勘定科目コード別に印刷されます。

## 仕訳帳(勘定科目別)(R09311)の処理オプション

勘定科目別仕訳帳の処理オプションは、未転記仕訳帳の処理オプションと同じです。

参照: 付録 G、「JD Edwards EnterpriseOne 一般会計レポート」、「仕訳帳(未転記)と現金主義会計未転記レポート(R09301)の処理オプション」、530ページ

## R09321 - 取引仕訳

元帳日付範囲内の取引を検討するには、取引仕訳を印刷します。請求書と買掛伝票の貸借一致仕訳となる借方金額と貸方金額が印刷されます。このレポートは、転記プログラムのロジックを使用して、JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムやJD Edwards EnterpriseOne 買掛管理システム、税金などの当初仕訳と相手科目を印刷します。

売掛管理と買掛管理の固定情報で集計方式に「S」(支払項目別)を設定した場合のように、取引仕訳レポートでは1つの仕訳に対する複数の相手科目の金額を1つに集計して表示します。このレポートにはAA元帳金額のみが記載され、会社間決済は含まれません。

## 取引仕訳(R09321)の処理オプション

処理オプションを使用して、レポートのデフォルト処理を指定できます。

### 表示

1. 開始日付、2. 終了日付 レポートに印刷するレコードをF0911から選択する際に使用する元帳日付範囲の開始日付と終了日付を指定します。

### 印刷

1. GLR3参照番号 参照3(GLR3)フィールドをレポートに印刷するかどうかを指定します。GLR3フィールドには、手動の銀行残高調整プロセスで割り当てられる調整番号か、銀行取引明細プロセスで割り当てられる銀行取引明細番号のいずれかが入ります。値は次のとおりです。
- ブランク: GLR3フィールドをレポートに印刷しません。
- 1: GLR3フィールドをレポートに印刷します。
2. カテゴリ・コード21から23 勘定科目コードの印刷に使用する代替勘定科目表を指定します。値は次のとおりです。
- ブランク: "ビジネスユニット.主科目.補助科目"の勘定科目形式を印刷します。
- 21: カテゴリ・コード21を使用して代替勘定科目表を印刷します。
- 22: カテゴリ・コード22を使用して代替勘定科目表を印刷します。
- 23: カテゴリ・コード23を使用して代替勘定科目表を印刷します。

## R09410 - 試算表

ビジネスユニットの残高を検討するには、試算表を印刷します。詳細レベルを指定して集計を実行できます。指定したレベルより下位の詳細情報は印刷されません。このレポートでは、すべての上位レベルでの小計、総計、および会社に対する報告が印刷されます。

---

**注意:** レポートは会社ごとに改ページされます。このページ区切りは削除しないでください。削除するとレポートが読みづらくなります。

---

## 試算表(R09410)の処理オプション

処理オプションを使用して、レポートのデフォルト処理を指定できます。

## 期間

### 年度、期間

試算表を印刷する会計年度と期間の下2桁を指定します。たとえば、2007年の場合は「07」と入力します。

この処理オプションのいずれかに値を入力した場合は、もう一方の処理オプションにも入力する必要があります。ブランクにした場合、JD Edwards EnterpriseOne一般会計システムの「会社の設定」フォームで定義したF0010テーブルの会計年度と現行期間が使用されます。

## 印刷

### 1. 勘定科目コード形式

出力する勘定科目コードの形式を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 標準勘定科目コード。

1: 標準勘定科目コード。デフォルトは、“ビジネスユニット.主科目.補助科目”です。

2: システムによって割り当てられた略式ID。

3: 第3勘定科目。この番号は、勘定科目設定の際に割り当てます。

### 2. 残高0の勘定科目

指定期間における残高がゼロの勘定科目を出力するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 残高が0の勘定科目を印刷します。

1: 残高が0の勘定科目を印刷しません。

---

**注意:** 転記編集コード「N」が割り当てられた勘定科目は、この処理オプションを「1」に設定した場合も印刷されます。転記編集コードが「N」の勘定科目は見出し勘定科目のため、残高はありません。

---

### 3. 改ページ

ビジネスユニット番号が変わるときに改ページする場合は、「1」を入力します。改ページ処理をしない場合は、ブランクにします。

## 詳細レベル

詳細レベルの小計を上位レベルの合計に正しく反映させるには、勘定科目表の設定時に詳細レベルを省略しないでください。詳細レベルを省略すると、合計が正しく計算されません。

### 1. 最下位詳細レベル

レポートに印刷する詳細レベルの最低値を指定します。3から9の値が入力可能です。たとえば、最下位詳細レベルに「7」を指定します。勘定科目表にレベル8とレベル9が設定されている場合、レベル7にはレベル8とレベル9の勘定科目の合計は含まれますが、レベル8とレベル9の詳細は印刷されません。

ブランクにした場合、すべての詳細レベルがレポートに印刷されます。

## 元帳

### 1. 元帳タイプ

レポートが使用する元帳タイプを指定します。UDCテーブル(09/LT)に設定されている値を指定する必要があります。ブランクにした場合、元帳タイプ「AA」(実績金額)の金額が印刷されます。

---

**注意:** 指定した元帳タイプが「CA」(外貨)で、CA元帳タイプに多通貨の金額が含まれている場合、合計が正しく計算されない可能性があります。

---

## 補助元帳

### 1. 補助元帳

補助元帳のある勘定科目の金額を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

特定の補助元帳番号を入力します。このフィールドに値を入力した場合は、“補助元帳タイプ”にも値を入力する必要があります。

すべての補助元帳を含めるには、「\*」を入力します。

補助元帳のない勘定科目のみを含める場合は、ブランクにします。

### 2. 補助元帳タイプ

補助元帳番号を含むテーブルを識別するUDCテーブル(00/ST)のコードを指定します。たとえば、住所録補助元帳の補助元帳タイプ「A」は、F0101テーブルを識別します。

このフィールドに値を入力した場合は、“補助元帳”にも値を入力する必要があります。

## 通貨

この処理オプションは、勘定残高を通貨別に転記する場合にのみ適用されます。

### 1. 通貨コード

レポートが合計する金額を特定の通貨コードに限定するため、通貨を指定します。F0013テーブルに設定されているコードを入力する必要があります。すべての通貨の金額を含めるには、「\*」(アスタリスク)を入力します。通貨別転記を行わない場合は、ブランクにします。

---

**注意:** “元帳タイプ”で指定した元帳タイプが「CA」で、CA元帳タイプに多通貨の金額が含まれている場合、ここで通貨コードを指定しないと合計が正しく計算されない可能性があります。

---

## R094121 - 試算表(主科目別)

すべてのビジネスユニットの残高を主科目別に検討するには、試算表(主科目別)を印刷します。主科目別、会社別、またはその両方で合計を検討できます。レポートには総計が含まれます。

## 試算表(主科目別)(R094121)の処理オプション

処理オプションを使用して、レポートのデフォルト処理を指定できます。

### 選択

#### 1. 会計年度、2. 期間

レポートの印刷時に使用する会計年度と会計期間を指定します。ブランクにした場合、会社名および番号プログラム(P0010)で指定した報告年度が使用されます。

#### 3. 元帳タイプ

レポートの印刷時に使用する元帳タイプを指定します。元帳タイプ・マスターの設定プログラム(P0025)で設定された有効な元帳タイプを入力します。この処理オプションをブランクにすると、元帳タイプAAが使用されます。

- 4. 補助元帳** レポートの印刷時に使用する補助元帳を指定します。すべての補助元帳を指定する場合は、「\*」を入力します。
- 5. 補助元帳タイプ** レポートの印刷時に使用する補助元帳タイプを指定します。“補助元帳”に値を入力した場合は、この処理オプションにも値を入力する必要があります。
- 6. 非転記勘定** レポートにF0902テーブルの非転記勘定を含めるかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 非転記勘定を含めません。  
 1: 非転記勘定を含めます。転記勘定を非転記勘定に変更した場合でも、この勘定科目にまだ残高があれば、その残高はレポートに含まれます。

## 印刷

- 1. 残高が0の勘定科目** 残高が0の勘定科目を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 残高が0の勘定科目を印刷します。  
 1: 残高が0の勘定科目を印刷しません。
- 2. 勘定科目コード形式** 勘定科目コードを印刷する形式を指定します。値は次のとおりです。  
 1: “ビジネスユニット.主科目.補助科目”の形式で勘定科目コードを印刷します。  
 2: 略式IDを印刷します。  
 3: 第3(自由形式)勘定科目コードを印刷します。

## 通貨

- 1. 通貨コード** 処理対象のレコードの選択に使用する通貨コードを指定します。すべての通貨コードを選択する場合は、「\*」を入力します。

## 集計

- 1. 主科目を集計する範囲の開始科目、2. 主科目を集計する範囲の終了科目** レポートに印刷するレコードの選択時に使用する勘定科目範囲の開始主科目と終了主科目を入力します。集計レポートには、指定範囲内の勘定科目ごとに、1件の集計残高として、明細取引が表示されます。ブランクにした場合、勘定科目表のすべての勘定科目に対して詳細レポートが印刷されます。

## R09421 - 総勘定元帳(主科目別)

すべてまたは複数のビジネスユニットの取引を検討するには、総勘定元帳(主科目別)レポートを実行します。このレポートでは、F0911テーブルとF0902テーブルの情報が一覧表示されます。

勘定科目の照会(主科目別)プログラム(P09201)を使用すると、同じ情報を短時間でより柔軟に検討できます。

## 総勘定元帳(主科目別)(R09421)の処理オプション

処理オプションを使用して、レポートのデフォルト処理を指定できます。



## 選択

### 1. 開始期間

レポートに含める残高を指定します。値は次のとおりです。

0: 開始期間として現行会計年度の最初の期間を使用します。これがデフォルトの設定です。すべての勘定科目について、現行年度取引と現行会計年度の期間別の借方合計、貸方合計が印刷されます。貸借対照表勘定科目の繰越残高合計は、開始日から前会計年度の終了日までが対象となります。

1: 開始期間として現行期間を使用します。各勘定科目について、現行会計年度の前回取引の繰越残高合計と現行期間の取引のみが印刷されます。年間の取引活動の中には、印刷されないものもあります。損益計算書勘定の場合、繰越残高合計には前期間終了日までの年累計金額が反映されます。貸借対照表勘定の場合、前期間終了日までの開始日以降累計が反映されます。

2: 開始期間として、JD Edwards EnterpriseOne 一般会計システムの使用を開始した最初の会計年度の最初の期間を使用します。一般会計処理を開始した日から現行期間までの取引情報が印刷されます。このレポートは、データの量によっては非常に長くなる場合があります。

### 2. 開始日付

レポートに印刷するレコードの選択時に使用する日付範囲の開始日付を指定します。空白にした場合、“開始期間”で指定した値が使用されます。

### 3. 終了会計年度

レポートに印刷するレコードの選択に使用する年範囲の終了会計年度を指定します。会計年度の下2桁を入力します。たとえば、2007年の場合は「07」と入力します。

“開始期間”で「0」（年累計残高）を入力し、この処理オプションで年度を入力した場合、この年度は会社名および番号プログラム (P0010) の年度開始日付フィールドで指定した年と同じである必要があります。同じでない場合、繰越残高金額に対する行項目はレポートに含まれません。

### 4. 期間

レポートに印刷するレコードの選択時に使用する期間番号を指定します。

### 5. 終了日付

レポートに印刷するレコードの選択時に使用する日付範囲の終了日付を指定します。空白にした場合、“開始期間”で指定した値が使用されます。

### 6. 補助元帳

レポートに印刷するレコードの選択に使用する補助元帳を指定します。特定の補助元帳か、次の値のいずれかを入力します。

空白: 補助元帳を使用せずにレコードを処理します。

\*: 空白の補助元帳を含むすべての補助元帳のレコードを処理します。

### 7. 補助元帳タイプ

レポートに印刷するレコードの選択時に使用する補助元帳タイプを指定します。UDCテーブル (00/ST) の有効な補助元帳タイプを入力してください。「補助元帳」処理オプションで値を指定した場合は、ここで補助元帳タイプを入力する必要があります。

### 8. 元帳タイプ

レポートに印刷するレコードの選択に使用する元帳タイプを指定します。UDCテーブル (09/LT) のコードを入力してください。この処理オプションを空白にすると、元帳タイプ AA が使用されます。

### 9. 伝票タイプ

レポートに印刷するレコードの選択時に“元帳タイプ”とともに使用する伝票タイプを指定します。UDCテーブル (00/DT) の伝票タイプ・コードを入力してください。空白にした場合、すべての伝票タイプが選択されます。

“元帳タイプ”で値を指定していない場合、ここで指定した値は無視されます。

## 印刷

1. **勘定科目コード形式**

勘定科目コードを印刷する形式を指定します。値は次のとおりです。

  - 1: “ビジネスユニット.主科目.補助科目”の形式で勘定科目コードを印刷します。
  - 2: 略式IDを印刷します。
  - 3: 第3(自由形式)勘定科目コードを印刷します。
2. **数量**

金額のみを印刷するか、金額と数量を印刷するかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 金額のみを印刷します。

  - 1: 数量を印刷します。
3. **残高0の勘定科目**

残高が0の勘定科目を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 残高が0の勘定科目を印刷します。

  - 1: 残高が0の勘定科目を印刷しません。
4. **転記済取引**

転記済取引と未転記取引の両方を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 転記済取引のみを印刷します。

  - 1: 転記済取引と未転記取引の両方を印刷します。

## 集計

- 開始、終了**
- レポートに印刷するレコードの選択時に使用する勘定科目範囲の開始主科目と終了主科目を入力します。集計レポートには、指定範囲内の勘定科目ごとに、1件の集計残高として、明細取引が表示されます。ブランクにした場合、勘定科目表のすべての勘定科目に対して詳細レポートが印刷されます。
- 「\*」を入力してすべての主科目は集計できません。かわりにこの処理オプションで、開始主科目と終了主科目を勘定科目表からそれぞれ入力してください。

## 通貨

1. **通貨コード**

このレポートの処理に使用する通貨コードを指定します。特定の通貨コードを入力するか、「\*」を入力してすべての通貨コードを指定します。
2. **通貨コード範囲の最初の通貨**

仮定通貨の使用によるレポート作成のための通貨コードを指定します。この処理オプションを設定すると、システムに初期入力されている通貨以外で金額を印刷できます。F0013テーブルの有効な通貨を入力してください。ブランクにした場合、初期入力されている通貨で金額が印刷されます。
3. **基準日**

仮定通貨の現行為替レートの処理時に使用する基準日を指定します。ブランクにした場合、“終了日付”で指定した日付が使用されます。

## R09422 - 総勘定元帳(補助元帳合計付き)

取引合計を補助元帳別に検討するには、総勘定元帳(補助元帳合計付き)レポートを実行します。このレポートでは、F0911テーブルとF0902テーブルの情報が一覧表示されます。ビジネスユニット、主科目、補助科目の順に情報が表示されます。また、期間、補助元帳、勘定科目、ビジネスユニット、会社別に合計が計算されます。

## 総勘定元帳(補助元帳合計付き)(R09422)の処理オプション

処理オプションを使用して、レポートのデフォルト処理を指定できます。

### 表示

#### 1. レポートの内容

レポートに含める残高を指定します。値は次のとおりです。

0: 開始期間として現行会計年度の最初の期間を使用します。これがデフォルトの設定です。すべての勘定科目について、現行年度取引と現行会計年度の期間別の借方合計、貸方合計が印刷されます。貸借対照表勘定科目の繰越残高合計は、開始日から前会計年度の終了日までが対象となります。

1: 開始期間として現行期間を使用します。各勘定科目について、現行会計年度の前回取引の繰越残高合計と現行期間の取引のみが印刷されます。年間の取引活動の中には、印刷されないものもあります。損益計算書勘定の場合、繰越残高合計には前期間終了日までの年累計金額が反映されます。貸借対照表勘定の場合、前期間終了日までの開始日以降累計が反映されます。

2: 開始期間として、JD Edwards EnterpriseOne 一般会計システムの使用を開始した最初の会計年度の最初の期間を使用します。JD Edwards EnterpriseOne 一般会計処理を開始した日から現行期間までの取引情報が印刷されます。このレポートは、データの量によっては非常に長くなる場合があります。

#### 2. 会計年度

レポート処理を行う会計年度を入力します。

“レポートの内容”で「0」(年累計残高)を入力し、この処理オプションで年度を入力した場合、この年度は会社名および番号プログラム(P0010)の年度開始日付フィールドで指定した年と同じである必要があります。同じでない場合は、繰越残高に対する行項目の金額はレポートに含まれません。

#### 3. 期間

レポート処理を行う期間を入力します。空白にした場合、財務報告期間が使用されます。

#### 4. 元帳タイプ

レポートに印刷するレコードの選択に使用する元帳タイプを指定します。UDCテーブル(09/LT)のコードを入力してください。この処理オプションを空白にすると、元帳タイプAAが使用されます。

#### 5. 伝票タイプ

レポートに印刷するレコードの選択時に“元帳タイプ”とともに使用する伝票タイプを指定します。UDCテーブル(00/DT)のコードを入力してください。空白にした場合、すべての伝票タイプのレコードが選択されます。

“元帳タイプ”で値を入力していない場合、ここで入力した値は無視されます。

#### 6. 取引状況

転記済取引と未転記取引の両方を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 転記済取引のみを印刷します。

1: 転記済取引と未転記取引の両方を印刷します。

## 印刷

1. **勘定科目コード形式** 勘定科目コードを印刷する形式を指定します。値は次のとおりです。  
ブランクまたは1: 標準勘定科目コード("ビジネスユニット.主科目.補助科目")  
2: 略式ID  
3: 第3勘定科目
2. **数量の印刷** 金額のみを印刷するか、金額と数量を印刷するかを指定します。値は次のとおりです。  
ブランク: 金額のみを印刷します。  
1: 金額と数量を印刷します。
3. **残高が0の勘定科目** 残高が0の勘定科目を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
ブランク: 残高が0の勘定科目を印刷します。  
1: 残高が0の勘定科目を印刷しません。

## 集計

1. **ビジネスユニット・タイプ** 補助元帳を集計するビジネスユニット・タイプを指定します。特定のビジネスユニット・タイプか、次のいずれかの値を入力してください。  
+: すべてのビジネスユニット・タイプが含まれます。  
\*: ブランク以外のすべてのビジネスユニット・タイプが含まれます。
2. **補助元帳を集計する範囲の最初の主科目**、3. **補助元帳を集計する範囲の最後の主科目** 補助元帳を集計する勘定科目範囲の最初と最後の主科目を指定します。

## 通貨

1. **通貨コード** レポート印刷時に使用する通貨コードを指定します。F0013テーブルの有効な通貨コードを入力するか、「\*」を入力してすべての通貨コードを指定します。

## 主科目別取引 (R09423)

主科目別取引レポートでは、指定した会社の選択した期間内の各主科目の勘定残高や転記済取引が表示されます。各勘定科目のすべての転記済取引と勘定残高が、借方/貸方形式で表示されます。

期間内のすべての転記済取引と選択した主科目が、借方、貸方、および合計のカラムに印刷されます。選択した期間に勘定科目に取引が転記されていない場合は、勘定科目合計のみが印刷されます。

主科目別取引レポートの最後に印刷される各合計金額の内容は、次のとおりです。

- 取引合計: 現行期間のすべての取引の合計

- 前期間取引合計: 会計年度内の前期間から現行期間までのすべての取引の合計
- カラム合計: 取引合計と前期間取引合計の合計
- 前年度末残高: 前年度の主科目の残高
- 前期末残高: 前期間のすべての取引と前年度末残高の合計
- 最終残高: 前年度末残高とカラム合計残高の合計

**注意:** 元帳タイプ「CA」を使用している場合は通貨が混在しているため、小計と合計の値が意味をなさないことがあります。その場合、合計には「N/A」と示されます。

## 主科目別取引のデータ選択

このレポートでは、特定のビジネスユニットに対するデータ選択は無視されます。

## 主科目別取引(R09423)と補助科目別取引(R09424)の処理オプション

処理オプションを使用して、レポートのデフォルト処理を指定できます。

### 期間

- 1. 開始期間、2. 終了期間** レポート用取引を取得する期間の最初と最後を指定します。  
 “開始期間”を空白にした場合、データ選択で指定した会社の現行期間が使用されます。  
 “終了期間”を空白にした場合、“開始期間”で指定した値が使用されません。
- 3. 会計年度** レポート印刷対象の会計年度の下2桁を入力します。たとえば、2007年のレポートを印刷する場合は「07」と入力します。

### 元帳

- 1. 元帳タイプ** レポートの元帳タイプを指定します。この処理オプションを空白にすると、元帳タイプAAが使用されます。  
**注意:** 元帳タイプに「CA」を指定すると、小計と合計が意味をなさない場合があります。

### 印刷

- 1. 金額が0の勘定科目を印刷しない** 金額が0の取引を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 金額が0の取引を印刷します。  
 1: 金額が0の取引を印刷しません。
- 2. レポートに合計を印刷しない** 期間合計を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 期間合計を印刷します。  
 1: 期間合計を印刷しません。

## R09424 - 補助科目別取引

補助科目別取引レポートでは、選択した期間のすべての主科目と補助科目について勘定残高と転記済取引が表示されます。各勘定科目と補助科目のすべての転記済取引が借方/貸方形式で表示されます。

期間内のすべての転記済取引および選択した主科目と補助科目が、借方、貸方、および合計のカラムに印刷されます。選択した期間に勘定科目と補助科目に取引が転記されていない場合は、勘定科目と補助科目の合計のみが印刷されます。

補助科目別取引レポートの最後に印刷される各合計金額の内容は、次のとおりです。

- 取引合計: 現行期間のすべての取引の合計
- 前期間取引合計: 会計年度内の前期間から現行期間までのすべての取引の合計
- カラム合計: 取引合計とF0902テーブルの前期間取引合計の合計
- 前年度末残高: F0902テーブルの前年度の主科目の残高
- 前期末残高: 前期間のすべての取引と前年度末残高の合計
- 最終残高: 前年度末残高とカラム合計残高の合計

## 補助科目別取引のデータ選択

このレポートでは、特定のビジネスユニットに対するデータ選択は無視されます。

## 補助科目別取引(R09424)の処理オプション

補助科目別取引レポートの処理オプションは、主科目別取引レポートの処理オプションと同じです。

参照: 付録 G、「JD Edwards EnterpriseOne 一般会計レポート」、「主科目別取引(R09423)と補助科目別取引(R09424)の処理オプション」、539ページ

## R09451 - 勘定科目合計(仕入先/顧客別)

勘定科目合計(仕入先/顧客別)レポートでは、各顧客または仕入先の残高が主科目別に表示されます。各顧客または仕入先のすべての勘定残高合計とともに、顧客または仕入先との取引がある各勘定科目の残高が一覧表示されます。転記済取引のみ、または転記済取引と未転記取引の両方を表示できます。

## 勘定科目合計(仕入先/顧客別)(R09451)の処理オプション

処理オプションを使用して、レポートのデフォルト処理を指定できます。

### レポート明細

1. 開始期間または開始日付      レポートを開始する期間または日付を入力します。
2. 会計年度と期間または終了日付      レポートを終了する会計年度(下2桁)と期間、または日付を入力します。

### 伝票

1. 元帳タイプ      元帳タイプを指定します。ブランクにした場合、元帳タイプ「AA」が使用されます。

- 2. 伝票タイプ** 伝票タイプを指定します。空白にした場合、すべての伝票タイプが使用されます。
- 3. 未転記取引** 転記済取引のみを印刷するか、未転記取引も印刷するかを指定します。値は次のとおりです。
- 空白: 転記済取引のみを印刷します。
- 1: 転記済取引と未転記取引の両方を印刷します。

## 通貨

- 1. 仮定通貨** 仮定通貨金額の印刷に使用する通貨コードを入力します。空白にした場合、会社の基本通貨が使用されます。
- 2. 基準日** 仮定通貨の為替レートを取り込む日付を入力します。空白にした場合、“終了日付”で指定した日付が使用されます。

## R09470 - 総勘定元帳(カテゴリ・コード別)

“ビジネスユニット.主科目.補助科目”のかわりに法定勘定科目コードを使用するには、総勘定元帳(カテゴリ・コード別)レポートを印刷します。カテゴリ・コードは勘定科目コード、カテゴリ・コード記述は勘定科目名を表します。

このレポートは、法定会計に役立つ残高情報を出力するものであり、F0901、F0911、F0902、F0006テーブルの情報を使用します。

## 総勘定元帳(カテゴリ・コード別)(R09470)の処理オプション

処理オプションを使用して、レポートのデフォルト処理を指定できます。

### 選択

- 1. 開始期間** レポートに記載する勘定残高の選択時に使用する開始会計期間を指定します。値は次のとおりです。
- 0: 年累計。開始期間として現行会計年度の最初の期間を使用します。すべての勘定科目について、現行年度取引と現行会計年度の期間別の借方合計、貸方合計が印刷されます。貸借対照表勘定科目の繰越残高合計は、開始日から前会計年度の終了日までが対象となります。
- 1: 現行期間。開始期間として現行期間を使用します。各勘定科目について、現行会計年度の繰越残高合計と現行期間の取引が印刷されます。年間の取引活動の中には、印刷されないものもあります。損益計算書勘定の場合、繰越残高合計には前期間終了日までの年累計金額が反映されます。貸借対照表勘定の場合、前期間終了日までの開始日以降累計が反映されます。
- 2: 開始日以降累計。開始期間として、JD Edwards EnterpriseOne 一般会計システムの使用を開始した最初の会計年度の最初の期間を使用します。JD Edwards EnterpriseOne 一般会計システムの使用を開始した日から現行期間までの取引情報が印刷されます。このレポートは、データの量によっては非常に長くなる場合があります。
- 2. 開始日付** レポートに印刷するレコードの選択時に使用する元帳日付範囲の開始日付を指定します。空白にした場合、“開始期間”で指定した値が使用されます。

- 3. 会計年度** レポートに印刷するレコードの選択時に使用する終了会計年度を指定します。会計年度の下2桁(2007年の場合は「07」)を入力してください。
- 4. 期間** レポートに印刷するレコードの選択時に使用する期間を指定します。
- 5. 終了日付** レポートに印刷するレコードの選択時に使用する元帳日付範囲の終了日付を指定します。空白にした場合、「開始期間」で指定した値が使用されます。

## 印刷

- 1. 元帳タイプ** レポートに印刷するレコードの選択時に使用する元帳タイプを指定します。F0025テーブルの有効な元帳タイプを入力してください。この処理オプションを空白にすると、元帳タイプAAが使用されます。
- 2. 伝票タイプ** レポートに印刷するレコードの選択時に「元帳タイプ」とともに使用する伝票タイプを指定します。UDCテーブル(00/DT)の伝票タイプ・コードを入力してください。空白にした場合、すべての伝票タイプが選択されます。

---

**注意:** 「元帳タイプ」に値を入力していない場合、この処理オプションの値は無視されます。

---

- 3. 取引タイプ** 転記済取引のみを印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
空白: 転記済取引のみを印刷します。  
1: 転記済取引と未転記取引の両方を印刷します。
- 4. 勘定科目カテゴリ・コード (1から23)** レポートに印刷される勘定科目カテゴリ・コード(1から23)を指定します。空白にした場合、カテゴリ・コード21が印刷されます。  
ここで入力した値は、カテゴリ・コードをレポートに印刷する場合にのみ使用されます。データ選択には使用されません。
- 5. 数量** 金額とともに数量も印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
空白: 金額のみを印刷します。  
1: 金額と数量の両方を印刷します。
- 6. 残高が0の勘定科目** 残高が0の勘定科目を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
空白: 残高が0の勘定科目を印刷します。  
1: 残高が0の勘定科目は印刷しません。
- 7. 日付順** 情報を印刷する際の日付順序(昇順または降順)を指定します。値は次のとおりです。  
空白: 日付の降順で情報を印刷します。  
1: 日付の昇順で情報を印刷します。

## 通貨

- 1. 仮定通貨コード** レポートに金額を印刷する際の仮定通貨コードを指定します。この処理オプションを設定すると、システムに保存されている通貨以外の通貨で金額を検討できます。元帳タイプ「AA」に関連する金額のみが仮定通貨に換算されます。空白にした場合、金額は仮定通貨では表示されません。



- 2. 為替レート日付** F0015テーブルから仮定通貨の為替レートを取得する日付を指定します。仮定通貨コードのフィールドに値を入力してこの処理オプションをブランクにした場合、“終了日付”で指定した日付が為替レートに使用されます。

## R09472 – 試算表(カテゴリ・コード別) – 借方/貸方形式

試算表(カテゴリ・コード別) – 借方/貸方形式レポートを使用して、“ビジネスユニット.主科目.補助科目”という勘定科目コード形式のかわりに法定勘定科目(カテゴリ・コード値)を試算表に印刷します。カテゴリ・コードは勘定科目コード、カテゴリ・コード記述は勘定科目名を表します。

## 試算表(カテゴリ・コード別) – 借方/貸方形式(R09472)の処理オプション

処理オプションを使用して、レポートのデフォルト処理を指定できます。

### 選択

- 1. 会計年度** レポートに印刷するレコードの選択時に使用する会計年度を指定します。ブランクにした場合、現行会計年度が使用されます。
- 2. 期間** レポートに印刷するレコードの選択時に使用する期間番号を指定します。ブランクにした場合、現行期間番号が使用されます。
- 3. 元帳タイプ** レポートに印刷するレコードの選択時に使用する元帳タイプを指定します。F0025テーブルの有効な元帳タイプを入力してください。この処理オプションをブランクにすると、元帳タイプAAが使用されます。
- 4. カテゴリ・コード(21から43)** レポートに印刷する勘定科目カテゴリ・コード(21から43)を指定します。ブランクにした場合、カテゴリ・コード21が印刷されます。  
ここで入力した値は、カテゴリ・コードをレポートに印刷する場合にのみ使用されます。データ選択には使用されません。

## R11C750 – 現金主義会計整合性テスト

現金主義会計整合性テストでは、指定期間における現金主義の全仕訳を検討し、貸借不一致の勘定科目を示す例外レポートを作成します。元帳AAとAZの間では、現金勘定のみが貸借一致になります。

このレポートには集計情報または明細情報が印刷されます。取引明細を含む整合性テストは、処理時間が長くなる場合があります。最初に集計情報を印刷して、指定した範囲内に貸借不一致の勘定科目が何件あるか確認することをお勧めします。

処理オプションで取引明細を指定した場合は、AA元帳とAZ元帳のすべての転記済レコードが、貸借不一致がある各期間の元帳残高の上に表示されます。集計情報を印刷するよう指定すると、貸借不一致のある各期間について、AA元帳とAZ元帳の残高が並んで表示されます。

情報は新しい日付から順に表示されます。処理オプションで指定した基準日を起点にして、データ選択で指定した全期間にさかのぼって表示されます。

現金主義会計整合性テストは、F0911とF0902テーブルの取引を表示します。

## 現金主義会計整合性レポートのデータ選択とデータ順序

表示する過去の会計年度を入力します。元帳タイプ「AA」を指定する必要があります。整合性テスト/レポートは、会社別に実行するとより効率的です。

## 現金主義会計整合性テスト(R11C750)の処理オプション

処理オプションを使用して、レポートのデフォルト処理を指定できます。

### 選択

1. 基準日                      整合性テストを実行する基準日を指定します。この処理オプションを空白にすると、現在の日付が使用されます。

### 処理

1. 取引明細                      取引明細を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
空白: 集計情報を印刷します。  
1: 取引明細を印刷します。

## R11C760 – 現金主義会計監査レポート

現金主義会計監査レポート(R11C760)を使用して、取引レベルでの現金主義仕訳に関する情報を出力できます。このレポートは、伝票の転記状況や貸借一致状況を判断する際の強力な検索ツールになります。貸借が一致しない現金主義仕訳は、“貸借不一致”というメッセージで識別されます。

このレポートには、3つのデモ・バージョン(売掛管理、買掛管理、元帳仕訳)があります。

現金主義会計監査レポートは、F0911テーブルの情報を使用します。

## 現金主義会計監査レポートのデータ選択とデータ順序

データ選択の“元帳タイプ = AZ(現金主義会計)”は変更しないでください。データ選択を追加して、転記済レコード、特定のバッチ、元帳日付を選択できます。

データ順序は変更しないでください。データ順序を変更すると、レポートの合計金額が正しく計算されない場合があります。

## 現金主義会計監査レポート(R11C760)の処理オプション

処理オプションを使用して、レポートのデフォルト処理を指定できます。

### 表示

1. 勘定科目コード                      レポートに印刷する勘定科目コード形式を指定します。値は次のとおりです。  
空白: データ入力で指定した勘定科目コード  
1: 標準勘定科目コード  
2: 略式ID  
3: 第3勘定科目コード

# JD Edwards EnterpriseOne用語集

アクセサ・メソッド/アクセサ	値オブジェクトまたはその他のソース・ファイルの要素を参照 (get) および設定 (set) するためのJavaメソッドです。
アクティビティ・ルール、処理規則	フロー内で、あるポイントから次のポイントにオブジェクトが進むための条件です。
追加モード	ユーザーによるデータの入力可能なフォームの状態です。
拡張プランニング・エージェント (APAg)	業務データの抽出、加工、読込みに使用するJD Edwards EnterpriseOneのツールです。APAgは、リレーショナル・データベース、フラット・ファイル・フォーマット、およびXMLのような他のデータまたはメッセージ・エンコーディング形式によるデータ・ソースへのアクセスをサポートしています。
代替通貨	<p>取引通貨 (国内のみの取引の場合は国内通貨) として指定した通貨と異なる通貨です。</p> <p>JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでは、代替通貨を使用することにより、入金や支払を請求時とは異なる通貨で入力できます。</p>
アプリケーション・サーバー	分散環境内のアプリケーション・プログラムにビジネス・ロジックを提供するソフトウェアです。アプリケーション・サーバーの例として、Oracle Application Server (OAS) またはWebSphere Application Server (WAS) があげられます。
仮定通貨処理	取引に実際に使用されている通貨とは異なる通貨で、取引の金額を表示できる処理です。
基準日処理	ある時点を指定して、その日付までの取引を集計する処理です。たとえば、基準日を指定してJD Edwards EnterpriseOneの各種のレポートを実行し、その時点での勘定科目やビジネスユニットなどの残高や処理金額を確認できます。
自動コミット・トランザクション	すべてのデータベース操作をすぐにデータベースに書き込むデータベース接続です。
バック・ツーバック・プロセス	JD Edwards EnterpriseOne供給管理で使用されるプロセスで、別のプロセスで使用されるキーと同じキーが含まれます。
バッチ処理	<p>サード・パーティ・システムからJD Edwards EnterpriseOneにレコードを転送する処理です。</p> <p>JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでは、バッチ処理を使用して、JD Edwards EnterpriseOne以外のシステムで入力された請求書や伝票のデータをJD Edwards EnterpriseOne売掛管理やJD Edwards EnterpriseOne買掛管理のシステムに転送できます。また、顧客レコードや仕入先レコードなどの住所録情報も転送できます。</p>
バッチ・サーバー	バッチ処理リクエストの実行用に指定されたサーバーです。通常、バッチ・サーバーにはデータベースは格納されず、対話型アプリケーションが実行されることもありません。
一括バッチ処理	<p>クライアント・ワークステーション上でアプリケーション処理を実行してから、後続の処理を一度にサーバー・アプリケーションに投入するトランザクションの方式です。バッチ処理はサーバー上で実行されるため、クライアント・アプリケーションは引き続き他のタスクを実行できます。</p> <p>“ダイレクト接続”と“オフライン処理”の説明も参照してください。</p>
ベスト・プラクティス	開発者による設計についての意思決定が最適になるように、任意で従うガイドラインです。

<b>BPEL</b>	Business Process Execution Languageの略語です。個別のサービスを組み合わせてエンドツーエンドのプロセス・フローを作成できる、標準Webサービスのオーケストレーション言語です。
<b>BPEL PM</b>	Business Process Execution Language Process Managerの略語です。BPELビジネス・プロセスを作成、デプロイ、管理する包括的インフラストラクチャです。
<b>ビルド構成ファイル</b>	ANTスクリプトを生成するプログラムで 사용되는、構成の設定が記述されたテキスト・ファイルです。ANTは、ビルド・プロセスを自動化するソフトウェア・ツールです。ANTスクリプトによって、公開ビジネス・サービスが生成されます。
<b>ビルド・エンジニア</b>	アーティファクトの生成、マスタリング、パッケージングの担当者です。ビルド・エンジニアには、アプリケーション・アーティファクトの生成担当者と、基盤のアーティファクトの生成担当者がいます。
<b>ビルド・プログラム</b>	ビルド構成ファイルを読み込み、公開ビジネス・サービスの生成を行うANTスクリプトを生成するWIN32実行ファイルです。
<b>ビジネス・アナリスト</b>	EnterpriseOneのビジネス・サービスの開発を必要とする条件と理由を特定する担当者です。
<b>ビジネス関数</b>	ユーザーによって作成された再利用可能なビジネス・ルールとログのセットで、イベント・ルールを通じて呼び出すことができます。ビジネス関数によって、トランザクションまたはそのサブセットが実行されます（在庫照会、作業オーダー発注など）。また、ビジネス関数にはAPIも含まれているため、フォーム、データベース・トリガー、またはJD Edwards EnterpriseOne以外のアプリケーションから呼び出すこともできます。ビジネス関数は、他のビジネス関数、フォーム、イベント・ルール、その他の構成要素と組み合わせてアプリケーションを構成します。ビジネス関数の作成には、イベント・ルール、またはCなどの第3世代言語を使用します。ビジネス関数の例としては、与信チェック（Credit Check）や在庫照会（Item Availability）などがあげられます。
<b>ビジネス関数イベント・ルール</b>	“ネームド・イベント・ルール（NER）”の説明を参照してください。
<b>ビジネス・サービス</b>	Javaで記述されたEnterpriseOneのビジネス・ロジックです。ビジネス・サービスは、1つ以上のアーティファクトのコレクションです。他に指定されていなければ、ビジネス・サービスは公開ビジネス・サービスとビジネス・サービスの両方を意味します。
<b>ビジネス・サービス・アーティファクト</b>	ビジネス・サービスを開発するために管理され、ビジネス・サービスのビルド・プロセスに必要な、ソース・ファイル、ディスクリプタなどです。
<b>ビジネス・サービス・クラス・メソッド</b>	ビジネス・サービスのフレームワークから提供されるリソースにアクセスするメソッドです。
<b>ビジネス・サービス構成ファイル</b>	interop.ini、JDBj.iniおよびjdelog.propertiesなど（他にもある）の構成ファイルです。
<b>ビジネス・サービス相互参照</b>	オーケストレーション中に使用されるキーと値のデータの組合せです。WSG/XPIベースのシステムにおけるコードとキーの相互参照を表します。
<b>ビジネス・サービス相互参照ユーティリティ</b>	JD Edwards EnterpriseOneのオーケストレーション相互参照データへのアクセスに使用される、BPEL/ESB環境にインストールされたユーティリティ・サービスです。
<b>ビジネス・サービス開発環境</b>	統合開発者がビジネス・サービスを開発および管理する際に必要なフレームワークです。
<b>ビジネス・サービス開発ツール</b>	JDeveloperという名前でも知られています。
<b>ビジネス・サービス EnterpriseOneオブジェクト</b>	EnterpriseOne LCMツールによって管理されるアーティファクトのコレクションです。テーブル、ビュー、フォームなどの他のEnterpriseOneオブジェクトと同様に、EnterpriseOne LCM内に名前付きで表示されます。

ビジネス・サービス・フレームワーク	特にビジネス・サービスの開発を支援する、ビジネス・サービスの基盤の一部です。
ビジネス・サービス・ペイロード	エンタープライズ・サーバーとビジネス・サービス・サーバーとの間で受け渡されるオブジェクトです。ビジネス・サービス・ペイロードには、ビジネス・サービス・サーバーに渡されたときにビジネス・サービスに入力される情報が含まれます。ビジネス・サービス・ペイロードには、エンタープライズ・サービス・サーバーに渡されたときにビジネス・サービスから返される結果が含まれます。通知の際、返されたビジネス・サービス・ペイロードには確認応答が含まれます。
ビジネス・サービス・プロパティ	ビジネス・サービスの動作または機能の制御に使用されるキー値データの組合せです。
ビジネス・サービス・プロパティ管理ツール	開発者および管理者がビジネス・サービス・プロパティのレコードの管理に使用するEnterpriseOneアプリケーションです。
ビジネス・サービス・プロパティのビジネス・サービス・グループ	ビジネス・サービス・プロパティをビジネス・サービス・レベルで分類したものです。通常、ビジネス・サービス名として表されます。1つのビジネス・サービス・レベルには、1つ以上のビジネス・サービス・プロパティ・グループが含まれます。各ビジネス・サービス・プロパティ・グループは、0個以上のビジネス・サービス・プロパティ・レコードを含むことができます。
ビジネス・サービス・プロパティのカテゴリ化	ビジネス・サービス・プロパティをカテゴリ化する方法です。これらのプロパティは、ビジネス・サービス別にカテゴリ化されます。
ビジネス・サービス・プロパティ・キー	ビジネス・サービス・プロパティをシステム全体でグローバルに識別する一意の名前です。
ビジネス・サービス・プロパティ・ユーティリティ	EnterpriseOneのビジネス・サービス・プロパティ・データにアクセスするためにビジネス・サービスの開発で使用するユーティリティAPIです。
ビジネス・サービス・プロパティ値	ビジネス・サービス・プロパティの値です。
ビジネス・サービス・リポジトリ	ビジネス・サービス・アーティファクトおよびビルド・ファイルを格納するClearCaseなどのソース管理システムです。または、ネットワーク内の物理ディレクトリのことをいいます。
ビジネス・サービス・サーバー	ビジネス・サービスが置かれる物理マシンです。ビジネス・サービスは、アプリケーション・サーバー・インスタンス上で実行されます。
ビジネス・サービス・ソース・ファイル/ビジネス・サービス・クラス	ビジネス・サービス・アーティファクトの種類の1つです。Javaコンパイラでコンパイルされるように記述された、javaファイル・タイプのテキスト・ファイルです。
ビジネス・サービス値オブジェクト・テンプレート	Cビジネス関数で使用する、ビジネス・サービス値オブジェクトの構造表現です。
ビジネス・サービス値オブジェクト・テンプレート・ユーティリティ	ビジネス・サービス値オブジェクトからビジネス・サービス値オブジェクト・テンプレートを作成する際に使用されるユーティリティです。
ビジネス・サービス・サーバー・アーティファクト	ビジネス・サービス・サーバーにデプロイされるオブジェクトです。
ビジネス・ビュー	アプリケーションやレポートでデータが使用されているJD Edwards EnterpriseOne テーブル(複数可)から、特定のカラムを選択するために使用されます。ビジネス・ビュー自体には特定のローを選択する機能はありません。また、ビジネス・ビューに実際のデータは含まれていません。ビジネス・ビューは、情報の表示専用の機能であり、このビューを介してデータを操作できます。
セントラル・オブジェクトのマージ	現行のリリースで顧客がオブジェクトに加えた変更を、新規のリリースのオブジェクトに統合する処理です。
セントラル・サーバー	最初にインストールされ、クライアント・マシンに配布されるソフトウェア・バージョン(セントラル・オブジェクト)を格納するために指定されたサーバーです。JD

	Edwards EnterpriseOneの典型的なインストールでは、ソフトウェアは1つのマシン、すなわちセントラル・サーバーにロードされます。次に、セントラル・サーバーにつながっている各種のワークステーションに対して、ソフトウェアのコピーがプッシュ・アウトまたはダウンロードされます。このような構成にすることで、ワークステーション上での使用によってソフトウェアが変更されたり、破損したりした場合でも、常にセントラル・サーバーから変更前のオブジェクトのセット(セントラル・オブジェクト)を入手できます。
チャート	JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアのフォームに表示される表形式の情報です。
チェックイン・リポジトリ	開発者がビジネス・サービス・アーティファクトをチェックインおよびチェックアウトするリポジトリです。チェックイン・リポジトリは複数あります。各リポジトリは、それぞれ別の目的に使用されます(開発、本稼働、テストなど)。
コネクタ	JD Edwards EnterpriseOneとサード・パーティ・アプリケーションの間にロジックとデータの共有を可能にする、コンポーネント・ベースのインタオペラビリティ(相互運用)モデルです。JD Edwards EnterpriseOneコネクタ・アーキテクチャにはJavaコネクタとCOMコネクタが含まれています。
相殺/相手勘定	JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementの一般会計勘定科目であり、仕訳入力の相殺(貸借一致)処理に使用されます。たとえば、相殺/相手勘定を使用して、JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでの配賦によって作成された会計入力の貸借一致を行います。
コントロール・テーブル・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行中に、必要なマージを行うためのバッチ・アプリケーションを実行するアプリケーションです。このマージにより、データ辞書、ユーザー定義コード、メニュー、ユーザー一時変更テーブルが更新されます。
コントロール・テーブルのマージ	顧客がコントロール・テーブルに加えた変更を、新規リリースのデータに統合する処理です。
関連データ	ビジネス・サービス名およびメソッドで構成されるリクエストとHTTPレスポンスとの関連付けに使用されるデータです。
コスト割当	JD Edwards EnterpriseOne収益性分析のプロセスであり、アクティビティまたはコスト・オブジェクトへのリソースの配賦またはトレースに使用されます。
原価要素	JD Edwards EnterpriseOne製造管理において、特定の品目の原価を構成する要素(資材費、人件費、間接費など)を表します。
資格証明	JD Edwards EnterpriseOneのユーザー名/パスワード/環境/ロール、EnterpriseOneセッションまたはEnterpriseOneトークンの有効なセットです。
相互参照ユーティリティ・サービス	EnterpriseOneの相互参照データへのアクセスに使用される、BPEL/ESB環境にインストールされたユーティリティ・サービスです。
セグメント間編集	コンフィギュレーション可能な品目セグメント間の関係を設定する論理ステートメントです。セグメント間編集を使用して、製造不可能なコンフィギュレーションに基づくオーダーを防ぐことができます。
通貨再換算	通貨を別の通貨に換算するプロセスであり、一般的にレポートで使用されます。たとえば、通貨再換算のプロセスを使用して、様々な通貨を単一の通貨に換算する必要がある連結レポートの作成に対応できます。
cXML	伝票と調達アプリケーションとの通信や、電子商取引ハブと仕入先との通信の簡素化に使用されるプロトコルです。
データベース資格証明	有効なデータベース・ユーザー名/パスワードです。
データベース・サーバー	データベースの管理やクライアント・マシンの検索を実行するローカル・エリア・ネットワーク内のサーバーです。

<b>データ・ソース・ワークベンチ</b>	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行中に、インストール・プランに定義されたすべてのデータ・ソースを、プランナのデータ・ソースに含まれるテーブル/データ・ソース・サイジング・テーブルおよびデータ・ソース・マスターから、システムのリリース番号のデータ・ソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、データ・ソース・プラン詳細レコードも更新されます。
<b>期間パターン</b>	標準会計と52期間会計で、会計年度の開始日とその会計年度内の各期間の終了日を表すカレンダーです。
<b>指定通貨</b>	会社の財務レポートで基準として使用される通貨です。
<b>デプロイメント・アーティファクト</b>	サーバー、ポートなど、デプロイメント・プロセスに必要なアーティファクトです。
<b>デプロイメント・サーバー</b>	エンタープライズ・サーバーとクライアント・マシンへのソフトウェアのインストールや、それらのソフトウェアの管理、配布に使用されるサーバーです。
<b>明細情報</b>	JD Edwards EnterpriseOneの取引における個別の行に関する情報です。伝票支払品目や受注オーダー明細行などがあります。
<b>ダイレクト接続</b>	クライアント・アプリケーションとサーバー・アプリケーションが対話形式で直接通信するトランザクション方式です。 “一括バッチ処理”、“オフライン処理”の説明も参照してください。
<b>DNT (Do Not Translate)</b>	BLOBデータの制約のため、iSeriesサーバーに必要なデータ・ソースのタイプです。
<b>2重価格設定</b>	商品やサービスに対し、2種類の通貨で価格を設定するプロセスです。
<b>重複した公開ビジネス・サービス承認レコード</b>	同じユーザー識別情報と公開ビジネス・サービス識別情報を持つ、2つの公開ビジネス・サービス承認レコードです。
<b>埋込みアプリケーション・サーバー・インスタンス</b>	JDeveloperから起動され、完全にJDeveloper内で実行されるOC4Jインスタンスです。
<b>編集コード</b>	レポートやフォーム上の特定の値が、どのように表示またはフォーマットされるべきかを示すコードです。レポートに属するデフォルトの編集コードは大量の情報に関連しているため、使用時には注意が必要です。
<b>編集モード</b>	ユーザーによるデータの変更が可能なフォームの状態です。
<b>編集ルール</b>	ユーザーが入力したデータを、事前に定義されたルールやルールのセットに照合して、フォーマットや検証を行うための方法です。
<b>電子データ交換 (EDI)</b>	JD Edwards EnterpriseOneシステムとサード・パーティ・システムの間で、コンピュータ間の業務取引データの交換をペーパーレスに行うことを可能にするインタオペラビリティ・モデルです。EDIを使用する場合、EDI標準フォーマットから自社システムで使用されているフォーマットにデータを変換するためのソフトウェアを備えている必要があります。
<b>埋込みイベント・ルール</b>	特定のテーブルやアプリケーション専用のイベント・ルールです。たとえば、フォーム間の呼び出し、処理オプションの値に基づくフィールドの非表示化、ビジネス関数の呼び出しなどが含まれます。汎用的な“ビジネス関数イベント・ルール”とは対照的に使用されます。
<b>従業員ワーク・センター</b>	発信側のアプリケーションやユーザーに関係なく、システム生成メッセージとユーザー作成メッセージを含むすべてのJD Edwards EnterpriseOneメッセージの送受信を行うための中心となるロケーションです。各ユーザーには、アクティブ・メッセージなどのメッセージやワークフローを含むメールボックスが割り当てられます。
<b>エンタープライズ・サーバー</b>	JD Edwards EnterpriseOneのデータベースとロジックを格納するサーバーです。

<b>ESB (Enterprise Service Bus)</b>	イベント駆動型のXMLベースのメッセージング・フレームワーク(バス)を使用してサービス指向アーキテクチャを有効にする、Webサービス標準に準拠したミドルウェア・インフラストラクチャ製品またはテクノロジーです。
<b>EnterpriseOne管理者</b>	EnterpriseOne管理システムの担当者です。
<b>EnterpriseOne資格証明</b>	EnterpriseOneユーザーの検証に使用される、ユーザーID、パスワード、環境およびロールです。
<b>EnterpriseOneオブジェクト</b>	アプリケーションのビルドに使用される再利用可能なコードです。オブジェクトのタイプには、テーブル、フォーム、ビジネス関数、データ辞書項目、バッチ処理、ビジネス・ビュー、イベント・ルール、バージョン、データ構造体、メディア・オブジェクトなどがあります。
<b>EnterpriseOne開発クライアント</b>	以前は“ファット・クライアント”と呼ばれていた、Microsoft Windowsのクライアントおよび設計ツールを含む、EnterpriseOneアーティファクトの開発に必要なインストール済EnterpriseOneコンポーネントのコレクションです。
<b>EnterpriseOne拡張機能</b>	EnterpriseOne固有の、JDeveloperのコンポーネント(プラグイン)です。JDeveloperウィザードは、拡張機能の具体例の1つです。
<b>EnterpriseOneプロセス</b>	JD Edwards EnterpriseOneクライアントおよびサーバーで、プロセス・リクエストの処理とトランザクションの実行を可能にするソフトウェア・プロセスです。クライアントでは1つのプロセスが実行され、サーバーでは1つのプロセスの複数のインスタンスを処理できます。JD Edwards EnterpriseOneプロセスを、ワークフロー・メッセージやデータ・レプリケーションなど特定のタスク専用のプロセスに指定することで、サーバーが大量のタスクを処理している場合でも重要なプロセスの実行を確保できます。
<b>EnterpriseOneリソース</b>	権限を持つユーザーに限定された、EnterpriseOneのテーブル、メタデータ、ビジネス関数、辞書情報またはその他の情報です。
<b>環境ワークベンチ</b>	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、環境情報および各環境のオブジェクト構成マネージャ・テーブルを、プランナ・データ・ソースからシステム・リリース番号のデータ・ソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、環境プラン詳細レコードも更新されます。
<b>エスカレーション・モニター</b>	処理待ちのリクエストやアクティビティを監視し、それらが非アクティブの状態のまま指定した時間が経過した場合に、再実行するか、または次のステップやユーザーに処理を進めるバッチ・プロセスです。
<b>イベント・ルール</b>	フォームの入力や、フィールド間の移動など、特定のアプリケーションで実行された操作に基づいて処理(複数可)の実行をシステムに指示する論理ステートメントです。
<b>明示的トランザクション</b>	ビジネス・サービス開発者がビジネス・サービス内のトランザクション境界のタイプ(自動または手動)および範囲を明示的に制御する際に使用されるトランザクションです。
<b>公開されたメソッド/値オブジェクト</b>	公開インターフェイスの一部である、公開ビジネス・サービスのソース・ファイルまたはその一部です。顧客との契約の一部でもあります。
<b>施設、事業所</b>	原価のトラッキングの対象となる業務単位の1つです。たとえば、倉庫所在地、ジョブ、プロジェクト、ワーク・センター、事業所などがあります。“ビジネスユニット”と呼ばれる場合もあります。
<b>略式コマンド</b>	特定のコマンドを使用することで、メニューやアプリケーション間を迅速に移動できるコマンド・プロンプト機能です。
<b>ファイル・サーバー</b>	ネットワーク上で他のコンピュータからアクセスされるファイルを保存するサーバーです。リモート・ディスク・ドライブとしてユーザーに表示されるディスク・サーバーとは異なり、ファイル・サーバーには、単にファイルを保存するだけでなく、ネッ



	トワーク・ユーザーがファイルをリクエストしたりファイルを更新した場合に、それらの要求を整理してファイルを管理するための高度な機能が備えられています。
<b>最終モード</b>	データ・レコードの更新や作成を行うプログラムの処理モードの1つです。
<b>基盤</b>	実行時にビジネス・サービスを実行するためにアクセス可能にする必要のあるフレームワークです。例として、Java ConnectorおよびJDBJがあげられます(この他にもあります)。
<b>FTPサーバー</b>	FTP(ファイル転送プロトコル)を通じてファイルへのリクエストに応答するサーバーです。
<b>見出し情報</b>	テーブルやフォームの先頭に表示される情報です。見出し情報を使用して、付随するレコード・グループの制御情報が識別または提供されます。
<b>HTTPアダプタ</b>	特定のURLを指定したGET、POST、PUT、DELETE、TRACE、HEADおよびOPTIONSなどの基本HTTP操作に使用される、サービスの汎用セットです。
<b>インスタンス化</b>	“作成する”という意味のJava用語です。クラスがインスタンス化されると、新しいインスタンスが作成されます。
<b>統合開発者</b>	EnterpriseOneビジネス・サービスを開発、実行およびデバッグする、システムのユーザーです。統合開発者は、EnterpriseOneビジネス・サービスを使用してそのようなコンポーネントを開発します。
<b>インテグレーション・ポイント(IP)</b>	ドキュメント・レベルのインターフェイスを公開する、EnterpriseOneの以前の実装におけるビジネス・ロジックです。このタイプのロジックは、XBPと呼ばれていました。EnterpriseOne 8.11では、webMethodsのサポートにより、IPがWebサービスゲートウェイに実装されました。
<b>インテグレーション・サーバー</b>	コンピュータが内部および外部のネットワークで接続されたシステム環境で、異なるオペレーティング・システムやアプリケーション間でのデータの交換を行うための機能を提供するサーバーです。
<b>整合性テスト</b>	データの整合性を維持するための社内プロセスを補強するプロセスで、貸借が一致していないデータや矛盾のあるデータの検出と報告を行います。
<b>インターフェイス・テーブル</b>	“Zテーブル”の説明を参照してください。
<b>内部メソッド/値オブジェクト</b>	公開インターフェイスの一部ではない、ビジネス・サービスのソース・ファイルまたはその一部です。privateメソッドまたはprotectedメソッドがこれに相当するといえます。publishedメソッドで使用されない値オブジェクトもこれに相当するといえます。
<b>インタオペラビリティ・モデル</b>	サード・パーティ・システムからJD Edwards EnterpriseOneへの接続やアクセスを行うための機能です。
<b>エラー表示の有効化</b>	JD Edwards EnterpriseOneにおけるフォーム・レベルのプロパティで、有効にすると、アプリケーション・エラーが発生した場合にエラー・メッセージがフォーム上に表示されます。
<b>IServerサービス</b>	Webサーバーに常駐するインターネット・サーバーサービスで、データベースからクライアントへのJavaクラスのファイル配信を高速化するために使用されます。
<b>代替ラベル</b>	代替的なデータ辞書項目のラベルで、使用されているオブジェクトの製品コードに基づいてJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションに表示されます。
<b>Javaアプリケーション・サーバー</b>	サーバー中心のアーキテクチャの中間層に置かれるコンポーネント・ベースのサーバーです。このサーバーは、データのアクセスや永続性ととともに、セキュリティとステータスの管理を行うためのミドルウェア・サービスを提供します。
<b>JDBNET</b>	異種サーバー間でのデータ・アクセスを実現するためのデータベース・ドライバです。

<b>JDEBASEデータベース・ミドルウェア</b>	JD Edwards EnterpriseOne独自のデータベース・ミドルウェア・パッケージで、プラットフォームに依存しないAPIとクライアント/サーバー間のアクセスを提供します。
<b>JDECallObject</b>	ビジネス関数から他のビジネス関数を呼び出すためのAPIです。
<b>jde.ini</b>	JD Edwards EnterpriseOneの初期設定に必要なランタイム設定を提供するJD Edwards EnterpriseOneファイル(またはiSeries用のメンバー)です。JD Edwards EnterpriseOneを実行する各マシンごとに、ファイルまたはメンバーの特定バージョンを常駐させる必要があります。これには、ワークステーションとサーバーも含まれます。
<b>JDEIPC</b>	サーバーコードによって使用される通信プログラミング・ツールであり、マルチプロセス環境における同一データへのアクセス制御、プロセス間の通信と調整、新規プロセスの作成を行います。
<b>jde.log</b>	JD Edwards EnterpriseOneの主要な診断ログ・ファイルです。このファイルは常に主ドライブのルート・ディレクトリに置かれ、JD Edwards EnterpriseOneの起動以降の状況とエラー・メッセージが書き込まれます。
<b>JDENET</b>	JD Edwards EnterpriseOne独自の通信ミドルウェア・パッケージで、ピア・ツーピア、メッセージ・ベース、ソケット・ベースのマルチプロセス通信用のミドルウェア・ソリューションです。JD Edwards EnterpriseOneのすべてのサポート対象プラットフォームでクライアント/サーバー間、サーバー/サーバー間の通信を処理します。
<b>JDeveloperプロジェクト</b>	JDeveloperでソース・ファイルのカテゴリ化およびコンパイルに使用されるアーティファクトです。
<b>JDeveloperワークスペース</b>	JDeveloperでプロジェクト・ファイルの編成に使用されるアーティファクトです。1つ以上のプロジェクト・ファイルがここに配置されます。
<b>JMSキュー</b>	ポイントツーポイントのメッセージングに使用されるJavaメッセージング・サービス・キューです。
<b>リスナー・サービス</b>	HTTP経由でXMLメッセージをリスニングするリスナーです。
<b>ローカル・リポジトリ</b>	ビジネス・サービス・アーティファクトの格納に使用される、開発者のローカル開発環境です。
<b>ローカルのスタンドアロンBPEL/ESBサーバー</b>	アプリケーション・サーバーにインストールされていない、スタンドアロンBPEL/ESBサーバーです。
<b>ロケーション・ワークベンチ</b>	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、インストール・プランに定義されたすべてのロケーションを、プランナ・データ・ソースの保管場所マスターからシステム・データ・ソースにコピーするアプリケーションです。
<b>ロジック・サーバー</b>	アプリケーション・プログラムにビジネス・ロジックを提供する、分散ネットワーク内のサーバーです。典型的なコンフィギュレーションでは、プリスティン・オブジェクトがセントラル・サーバーからロジック・サーバーに複製されます。JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアの実行時に、ロジック・サーバーでは、ワークステーションと連動して、必要な処理が実際に実行されます。
<b>差し込み印刷ワークベンチ</b>	業務文書を自動的に印刷するため、Microsoft Word 6.0またはそれ以上のバージョンの文書とJD Edwards EnterpriseOneのレコードをマージするアプリケーションです。たとえば、雇用の証明に関する文書を印刷する際に、差し込み印刷ワークベンチを使用できます。
<b>手動コミット・トランザクション</b>	コミットがコールされるまで、すべてのデータベース操作によるデータベースへの書き込みが遅延されるデータベース接続です。
<b>マスター・ビジネス関数(MBF)</b>	データベース内の情報の追加、変更、更新を担う中心のロケーションとして機能する対話型のマスター・ファイルです。マスター・ビジネス関数によって、データ入力フォームと該当するテーブル間でのデータの交換が行われます。マスター関数によって、すべての必要なデフォルト値と編集ルールを含む関数の共通セット

	が、関連するプログラムに提供されます。MBFには、データベースの情報を追加、更新、削除する際の整合性を確保するロジックが含まれています。
<b>マスター・テーブル</b>	“パブリッシュ済テーブル”の説明を参照してください。
<b>照合伝票</b>	取引を完了または変更するために、当初伝票と関連付けられる伝票です。たとえば、JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでは、入金請求書の照合伝票に、支払が支払伝票の照合伝票になります。
<b>メディア・ストレージ・オブジェクト</b>	Gxxx、xxxGT、またはGTxxxのいずれかの命名規則を使用するファイルで、テーブルの形で分類されていないオブジェクトです。
<b>メッセージ・センター</b>	発信側のアプリケーションやユーザーに関係なく、システム生成メッセージとユーザー作成メッセージを含むすべてのJD Edwards EnterpriseOneメッセージの送受信を行うための中心となるロケーションです。
<b>メッセージング・アダプタ</b>	サード・パーティ・システムからJD Edwards EnterpriseOneに接続し、メッセージ・キューを使用してデータの交換を行うためのインタオペラビリティ・モデルです。
<b>メッセージング・サーバー</b>	メッセージングAPIを使用して、他のプログラムで使用するために送信されたメッセージを処理するサーバーです。メッセージング・サーバーには、通常、関数を実行するためのミドルウェア・プログラムが配備されます。
<b>中間層BPEL/ESBサーバー</b>	アプリケーション・サーバーにインストールされたBPEL/ESBサーバーです。
<b>監視アプリケーション</b>	管理者が各種EnterpriseOneサーバーの統計情報を取得し、統計をリセットしたり通知を設定したりできる、EnterpriseOneのツールです。
<b>ネームド・イベント・ルール (NER)</b>	カプセル化された再利用可能なビジネス・ロジックです。C言語ではなく、イベント・ルールを使用して作成されます。NERは、ビジネス関数イベント・ルールとも呼ばれます。NERは、複数のプログラムによって、複数の場所で繰り返し使用できます。このようなモジュール方式での提供によって、コードの合理性や再利用性が高まり、必要な作業がより少なくなります。
<b>Nota Fiscal</b>	ブラジルでは、税務処理のためにすべての商取引についてこの書式を作成し、税法で指定された情報を含めることが義務付けられています。
<b>Nota Fiscal Factura</b>	ブラジルで使用する書式です。伝票情報を伴う“Nota Fiscal”です。 “Nota Fiscal”の説明も参照してください。
<b>オブジェクト構成マネージャ (OCM)</b>	JD Edwards EnterpriseOneでは、ランタイム環境で使用されるオブジェクトのリクエスト・ブローカーおよび制御センターとして機能します。OCMによって、ビジネス関数、データ、バッチ・アプリケーションのランタイム・ロケーションが追跡されます。これらのオブジェクトのいずれかが呼び出されると、OCMでは、指定された環境/ユーザーのデフォルト値と一時変更情報に基づいて、そのオブジェクトにアクセスするためのロケーションが特定されます。
<b>オブジェクト・ライブラリアン</b>	アプリケーションのビルドに繰り返し使用できるすべてのバージョン、アプリケーション、ビジネス関数のリポジトリです。オブジェクト・ライブラリアンによって、開発者にチェックアウト機能とチェックイン機能が提供されます。また、JD Edwards EnterpriseOneオブジェクトの作成、変更、使用も管理されます。オブジェクト・ライブラリアンは、稼働環境や開発環境など複数の環境に対応しているため、異なる環境間でオブジェクトを簡単に移動できます。
<b>オブジェクト・ライブラリアンのマージ</b>	これまでのリリースでオブジェクト・ライブラリアンに加えられたすべての変更を、新規リリースのオブジェクト・ライブラリアンに統合する処理です。
<b>オープン・データ・アクセス (ODA)</b>	データの集計とレポート作成のために、SQLステートメントを使用してJD Edwards EnterpriseOneのデータを抽出できるインタオペラビリティ・モデルです。

出力ストリーム・アクセス (OSA)	JD Edwards EnterpriseOneのインターフェイスを設定し、別のソフトウェア・パッケージ (Microsoft Excelなど) にデータを渡して処理を実行するためのインタオペラビリティ・モデルです。
パッケージ	JD Edwards EnterpriseOneオブジェクトは、デプロイメント・サーバーからパッケージとしてワークステーションにインストールされます。パッケージには、部品表やキットなどのように、各ワークステーションに必要なオブジェクトが含まれます。さらに、デプロイメント・サーバー上でのオブジェクトの位置が示されるため、インストール・プログラムがそれらのオブジェクトを検出できるようになっています。パッケージは、ある時点におけるデプロイメント・サーバー上のセントラル・オブジェクトを示すスナップ・ショットでもあります。
パッケージ・ビルド	既存ユーザーに対し、ソフトウェアの変更や新規アプリケーションの反映を容易に行うためのソフトウェア・アプリケーションです。また、JD Edwards EnterpriseOneでは、パッケージ・ビルドとは、ソフトウェアのコンパイル済バージョンを指す場合もあります。たとえば、使用しているERPソフトウェアのバージョンをアップグレードする際に、“パッケージ・ビルド”を使用するという場合があります。  “パッケージ・ビルド”という用語は、たとえば次のようにも使用されます「また、パッケージ・ビルドの間に行われるビジネス関数のグローバル・ビルドには新しい関数が自動的に含まれるため、デプロイの準備ができるまでビジネス関数を本稼働パス・コードに含めないでください」。このように、パッケージ・ビルドを作成するプロセスが“パッケージ・ビルド”と呼ばれる場合もあります。
パッケージ・ロケーション	パッケージとその複製オブジェクトのセットが格納されるディレクトリ構造上の位置です。通常は、“¥¥デプロイメント・サーバー¥リリース¥パス・コード¥パッケージ¥パッケージ名”になります。このパスの下の子ディレクトリに、パッケージの複製オブジェクトが格納されます。パッケージがビルドまたは格納される場所を指す場合もあります。
パッケージ・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、パッケージ情報テーブルを、プランナ・データ・ソースからシステム・リリース番号データ・ソースに転送するアプリケーションです。処理の結果を反映するため、パッケージ・プラン詳細レコードも更新されます。
パスコード・ディレクトリ	EnterpriseOne開発アーティファクトを格納する、EnterpriseOne開発クライアント上にあるファイル・システムの特定の部分です。
パターン	ソフトウェアの設計でよく発生する問題に対し、繰り返して使用される一般的な解決策です。ビジネス・サービスの開発では、オブジェクトのリレーションシップとやり取りに重点が置かれます。オーケストレーションでは、統合パターン (同期/非同期のリクエスト/レスポンス、パブリッシュ、通知、受信/応答など) に重点が置かれます。
計画ファミリ	設計と製造に類似点があるため、まとめて計画する方が合理的である複数の最終品目をグループ化する手段です。
優先プロファイル	品目、品目グループ、顧客、および顧客グループについて、ユーザー定義の階層 (順序) に基づいて指定したフィールドのデフォルト値を定義する機能です。
プリント・サーバー	ネットワークとプリンタ間のインターフェイスであり、ネットワーク・クライアントはこのインターフェイスを介してプリンタに接続し、印刷ジョブを送信します。コンピュータ、独立したハードウェア・デバイス、またはプリンタ内部のハードウェアのどれでも、プリンタ・サーバーとして使用できます。
プリステイン環境	JD Edwards EnterpriseOneのデモ・データを使用した未変更オブジェクトのテストに使用するJD Edwards EnterpriseOne環境です。研修環境としても使用されます。変更したオブジェクトと変更前のオブジェクトを比較するには、この環境が必要になります。
処理オプション	バッチ・プログラムやレポートの実行を制御するパラメータをユーザーが指定するためのデータ構造です。たとえば、処理オプションを使用して、特定のフィールド

	<p>ドのデフォルト値の指定、情報の表示および印刷の方法、日付範囲の指定、プログラムの実行を制御するランタイム値の入力などを行います。</p>
本稼働用環境	<p>ユーザーがJD Edwards EnterpriseOneソフトウェアを実際に使用するJD Edwards EnterpriseOne環境です。</p>
本稼働レベルのファイル・サーバー	<p>品質が保証され商品化されたファイル・サーバーで、通常はユーザーサポート・サービスとともに提供されます。</p>
本稼働公開ビジネス・サービスのWebサービス	<p>本稼働アプリケーション・サーバーにデプロイされた、公開ビジネス・サービスのWebサービスです。</p>
プログラム一時修正 (PTF)	<p>JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアに加えられた変更で、磁気テープやディスクの形式でユーザー企業に提供されます。</p>
プロジェクト	<p>JD Edwards EnterpriseOneでは、オブジェクト管理ワークベンチで開発されたオブジェクトのための仮想コンテナを指します。</p>
プロモーション・パス	<p>ワークフロー内におけるオブジェクトやプロジェクトの進捗状況を示すパスです。標準的なプロモーション・サイクル(パス)は次のとおりです。</p> <p>11&gt;21&gt;26&gt;28&gt;38&gt;01</p> <p>このパスでは、11は検討待ちの新規プロジェクト、21はプログラミング、26は品質管理テスト/検討、28は品質管理テスト/検討の完了、38は本稼働、01はサイクルの完了をそれぞれ表します。たとえば標準的なプロジェクト・プロモーション・サイクルで、開発者は、開発(プログラミング)のパス・コードからチェックアウトしたオブジェクトをチェックインして戻したら、それらのオブジェクトをプロトタイプ(テスト)のパス・コードに進めます。すべての作業が終了したオブジェクトは、完了の前に本稼働のパス・コードに移されます。</p>
プロキシ・サーバー	<p>企業がセキュリティ管理、管理統制、サービスのキャッシュ化を確実に行うことができるように、ワークステーションとインターネットの間で防壁として機能するサーバーです。</p>
公開ビジネス・サービス	<p>EnterpriseOneのサービス・レベルのロジックおよびインターフェイスです。公開ビジネス・サービスに分類されている場合、外部(EnterpriseOne以外)のシステムに公開する意図があることを示しています。</p>
公開ビジネス・サービス識別情報	<p>関係のある承認レコードの特定に使用される、公開ビジネス・サービスに関する情報です。公開ビジネス・サービスとメソッド名、公開ビジネス・サービスのみ、または*ALLが使用されます。</p>
公開ビジネス・サービスのWebサービス	<p>J2EE Webサービスとしてパッケージされた、公開ビジネス・サービスのコンポーネント(つまり、ビジネス・サービス・クラス、ビジネス・サービス基盤、構成ファイルおよびWebサービス・アーティファクトを格納したJ2EE EARファイル)です。</p>
パブリッシュ済テーブル	<p>マスター・テーブルとも呼ばれ、他のマシンにレプリケートされる元のテーブルです。パブリッシュ・マシンに格納されるF98DRPUBテーブルにより、企業内のすべてのパブリッシュ済テーブルと関連するパブリッシュが識別されます。</p>
パブリッシュ	<p>パブリッシュされたテーブルを扱うサーバーです。F98DRPUBテーブルでは、企業内のすべてのパブリッシュ済テーブルと関連するパブリッシュの識別が行われます。</p>
プル・レプリケーション	<p>JD Edwards EnterpriseOneでデータを個別のワークステーションにレプリケートする方法の1つです。レプリケート先のマシンは、JD Edwards EnterpriseOneのデータ・レプリケーション・ツールを使用して、プル・サブスクライバとしてセットアップされます。プル・サブスクライバが情報を要求した場合にのみ、変更、更新、削除が通知されます。通常は起動時に、プル・サブスクライバからF98DRPCNテーブルが置かれているサーバーに対し、要求がメッセージ形式で送信されます。</p>

<b>QBE</b>	Query by Example (例示照会) の略語です。JD Edwards EnterpriseOne では、QBE 行は、詳細グリッドの最上段にあり、データのフィルタリングに使用されます。
<b>リアルタイム・イベント</b>	外部システムで使用するために EnterpriseOne のアプリケーション・ロジックからトリガーされるメッセージです。
<b>リフレッシュ</b>	新規リリースや PTF/累積アップデート・リリース (B73.2 や B73.2.1 など) に問題なく対応できるように、JD Edwards EnterpriseOne ソフトウェアまたはそのサブセット (テーブルや業務データなど) を修正する機能です。
<b>レプリケーション・サーバー</b>	クライアント・マシンへのセントラル・オブジェクトのレプリケーションを扱うサーバーです。
<b>Rt-Addressing</b>	ビジネス・サービス呼出しリクエストのホスト/ポート・ユーザー・セッションを開始するブラウザ・セッションを特定する一意のデータです。
<b>規則</b>	ツールによって強制されるのではなく、目的の結果を得るため、および指定された標準に準拠するために従う必須のガイドラインです。
<b>見積オーダー</b>	JD Edwards EnterpriseOne 調達管理および外注管理では、仕入先からの品目情報と価格情報のリクエストを指します。見積オーダーから購買オーダーを作成できます。  JD Edwards EnterpriseOne 受注管理では、まだ発注を行っていない顧客に対する品目情報と価格情報を指します。
<b>Secure by Default</b>	特定のレコードによってユーザーがオブジェクトの実行権限を持つことが示されないかぎり、ユーザーがオブジェクトの実行権限を持たないとみなすセキュリティ・モデルです。
<b>SSL (Secure Socket Layer)</b>	通信の機密性を提供するセキュリティ・プロトコルです。SSL を使用することで、クライアントとサーバー・アプリケーションは、盗聴、改ざん、なりすましを防ぐように設計された方法で通信できます。
<b>SEI 実装</b>	サービス・エンドポイント・インターフェイス (SEI) を宣言するメソッドを実装する Java クラスです。
<b>選択項目</b>	JD Edwards EnterpriseOne メニューに表示される選択項目は、メニューからアクセスできる各機能を表します。選択するには、関連する番号を選択フィールドに入力して [Enter] キーを押します。
<b>シリアルライズ</b>	オブジェクトやデータを、格納用の形式またはネットワーク接続リンク上で送受信できる形式に変換し、必要なときに元のデータやオブジェクトを再作成できるプロセスです。
<b>サーバーワークベンチ</b>	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、サーバー設定ファイルを、プランナ・データ・ソースからシステム・リリース番号データ・ソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、サーバープラン詳細レコードも更新されます。
<b>サービス・エンドポイント・インターフェイス (SEI)</b>	クライアントからのサービスの呼出しを可能にするメソッドを宣言する Java インターフェイスです。
<b>SOA</b>	Service Oriented Architecture の略語です。
<b>ソフトコーディング</b>	指定されたプロセスの実行に影響するサイト固有の変数を管理者が操作できるコーディング技術です。
<b>ソース・リポジトリ</b>	HTTP アダプタおよびリスナー・サービス開発環境アーティファクト用のリポジトリです。
<b>スポット・レート</b>	取引レベルで入力される為替レートです。このレートは、2 つの通貨の間に設定されている為替レートより優先して使用されます。

スペックのマージ	オブジェクト・ライブラリアン、バージョン・リスト、およびセントラル・オブジェクトの3つのマージで構成されるマージ処理です。この機能を使用して、顧客が変更したデータを新規リリースのデータに統合できます。
スペック	JD Edwards EnterpriseOneオブジェクトを完全に記述したものです。各オブジェクトには、アプリケーションのビルドに使用される固有のスペックまたは名前があります。
スペック・テーブル・マージ・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、スペック・テーブルを更新するためのバッチ・アプリケーションを実行するアプリケーションです。
SSL証明書	ユーザー名およびそのユーザーの公開鍵が記載された、認証局が署名した特別なメッセージです。メッセージが認証局によって正規に署名されたことを誰もが確認でき、そのためユーザーの公開鍵に対する信用が強化されます。
オフライン処理	サーバーに接続していないユーザーがトランザクションを入力し、後でサーバーに接続して、入力したトランザクションをアップロードできる処理モードです。
サブスクリバ・テーブル	F98DRSUBテーブルを指します。このテーブルは、F98DRPUBテーブルとともにパブリッシャ・サーバーに置かれ、各パブリッシュ済テーブルに対するすべてのサブスクリバ・マシンの識別に使用されます。
スーパークラス	クラスは何かのインスタンスであり、それをさらに詳細にしたものであるという、Java言語の継承についての概念です。たとえば、木は樅や榎のスーパークラスであるといえます。
補足データ	<p>マスター・テーブルで管理されないすべての情報を指します。通常、補足データとして、従業員、応募者、購買要求、職務(従業員の技能、取得学位、語学力など)に関する情報があります。補足データを使用することにより、実質的に組織で必要となるすべての情報を追跡管理できます。</p> <p>たとえば、標準のマスター・テーブル(住所録マスター、顧客マスター、仕入先マスター)とは別に、それらのテーブルでは管理されない情報を汎用データベースで管理します。汎用データベースを使用することで、JD Edwards EnterpriseOneシステム全体にわたって、標準的な方法で補足データの入力と管理を行うことができます。</p>
テーブル・アクセス管理(TAM)	ユーザー定義データの保存と取得を行うJD Edwards EnterpriseOneコンポーネントです。TAMには、データ辞書定義、アプリケーション/レポートのスペック、イベント・ルール、テーブル定義、ビジネス関数入力パラメータ、ライブラリ情報などの情報と、アプリケーション、レポート、ビジネス関数を実行するためのデータ構造体の定義が保存されます。
テーブル変換ディレクタ	JD Edwards EnterpriseOneと、JD Edwards EnterpriseOne以外のテーブルを使用するサード・パーティ・システムとの間で、データ交換を行うためのインタオペラビリティ・モデルです。
テーブル変換	JD Edwards EnterpriseOneと、JD Edwards EnterpriseOne以外のテーブルを使用するサード・パーティ・システムとの間で、データ交換を行うためのインタオペラビリティ・モデルです。
テーブル・イベント・ルール	データベース・トリガーに添付されるロジックで、トリガーに指定されたアクションがテーブルに対して発生した場合に起動します。JD Edwards EnterpriseOneでは、イベント・ルールをアプリケーションのイベントに添付できますが、この機能はアプリケーション固有になります。テーブル・イベント・ルールでは、テーブル・レベルで埋込みロジックを提供します。
ターミナル・サーバー	このサーバーを使用して、端末、マイクロコンピュータ、その他の機器を、ネットワーク/ホスト・コンピュータ、または特定のコンピュータに取り付けられたデバイスに接続できます。
3ステップ処理	JD Edwards EnterpriseOneでのバッチ・トランザクションの入力、検討と承認、転記、という3種類のタスクを指します。

<b>3方向伝票照合</b>	JD Edwards EnterpriseOne調達管理および外注管理で、仕入先からの請求書と入荷情報を比較して伝票を作成するプロセスです。3方向照合では、入荷レコードに基づいて伝票を作成します。
<b>トランザクション処理 (TP) モニター</b>	ローカル端末およびリモート端末と、それらを設定したアプリケーションの間でのデータ交換を制御するモニター機能です。また、分散環境でのデータの整合性も確認します。TPモニターには、通常、データの検証と端末画面のフォーマットを行うプログラムが含まれます。
<b>トランザクション処理方法</b>	手動コミットのトランザクション境界の管理に関する方法です (開始、コミット、ロールバック、取消など)。
<b>トランザクション・セット</b>	複数のセグメントで構成されている電子的業務トランザクション (電子データ交換の標準ドキュメント) です。
<b>トリガー</b>	データ辞書項目ごとに定義される複数のイベントの1つです。イベントの発生時にシステム内で自動的に処理されるロジックをデータ辞書項目に添付できます。
<b>トリガーイベント</b>	特殊なアクションが必須であるか、または結果アクションが定義済の特定のワークフロー・イベントです。
<b>2方向認証</b>	クライアントとサーバーがSSL証明書を互いに提供することで相互に認証しあう認証メカニズムです。
<b>2方向伝票照合</b>	JD Edwards EnterpriseOne調達管理および外注管理で、購買オーダーの明細行と仕入先の請求書を比較して伝票を作成するプロセスです。入荷情報は記録されません。
<b>ユーザー識別情報</b>	ユーザーID、ロールまたは*publicです。
<b>ユーザー一時変更のマージ</b>	新規のユーザー一時変更レコードを、顧客が使用しているユーザー一時変更テーブルに追加する処理です。
<b>値オブジェクト</b>	データ構造がデータを渡すのとよく似たように入力/出力データを保持するソース・ファイルの特定のタイプです。値オブジェクトは、公開 (公開ビジネス・サービスで使用) か内部か、および入力か出力かを指定できます。値オブジェクトは、単純な要素および複雑な要素と、要素に対する付属情報から構成されます。
<b>差異</b>	JD Edwards EnterpriseOneキャピタル・アセット・マネジメントでは、1つの設備で発生した収益と、その設備に関連して発生した費用の差を意味します。  JD Edwards EnterpriseOneプロジェクト原価管理とJD Edwards EnterpriseOne製造管理では、同じ品目に対する2つの原価計算方式の間に生じる差異を意味します。たとえば、凍結標準原価と現行原価の差として設計差異が生じます。凍結標準原価は原価要素テーブルから取得され、現行原価は資材、工程、間接費の各レートを使用して計算されます。
<b>公開ビジネス・サービスのバージョン</b>	既存の機能/インターフェイスを変更せずに、他の機能/インターフェイスを公開ビジネス・サービスに追加することです。
<b>バージョン・リストのマージ</b>	バージョン・リストのマージを実行すると、新規リリースで有効なオブジェクトについて、非XJDEおよび非ZJDEバージョンのスペックとその処理オプション・データが維持されます。
<b>ビジュアル・アシスト</b>	ユーザーが各コントロールに属する有効なデータを判別できるように、コントロールからトリガーを介して起動できるフォームです。
<b>用語一時変更</b>	特定のJD Edwards EnterpriseOneフォームやレポートに表示される、データ辞書項目の代替的なラベルです。
<b>wchar_t</b>	ワイド文字の内部タイプです。国際市場向けの移植可能プログラムの記述に使用します。



<b>Webアプリケーション・サーバー</b>	Webアプリケーションと、電子商取引に使用されているバックエンド・システムおよびデータベースとの間で、データ交換を可能にするWebサーバーです。
<b>Webサーバー</b>	ブラウザから送信されたリクエストに応じて、TCP/IPプロトコルを使用して情報を送信するサーバーです。Webサーバーでは、ブラウザからのリクエストに応じるだけでなく、アプリケーションやデータの格納など、通常のサーバーが行うあらゆるタスクを処理できます。どのコンピュータでも、サーバーソフトウェアをインストールし、インターネットに接続すれば、Webサーバーとして使用できます。
<b>WSDL (Web Service Description Language)</b>	ネットワーク・サービスを記述するXML形式です。
<b>WSIL (Web Service Inspection Language)</b>	使用可能なサービスのサイトの検出を支援するXML形式、および検出に関連する情報の作成方法を示す一連の規則です。
<b>Webサービス・プロキシ基盤</b>	WAS上でWebサービスを使用するためにビジネス・サービス・サーバー・アーティファクトに含める必要のある、Webサービス・プロキシの基盤となるクラスです。
<b>Webサービス・ソフトコーディング・レコード</b>	Webサービス・プロキシの構成に使用する値が記述されたXMLドキュメントです。このドキュメントは、エンドポイントを特定し、条件付きでセキュリティ情報を含みます。
<b>Webサービス・ソフトコーディング・テンプレート</b>	ソフトコーディングされたレコードの構造を提供するXMLドキュメントです。
<b>WHERE句</b>	データベース操作の対象となるレコードを指定する、データベース操作の一部分です。
<b>Windowsターミナル・サーバー</b>	マルチ・ユーザー機能を持つサーバーで、単体ではWindowsソフトウェアを実行できない端末や最小限構成のコンピュータでも、このサーバーに接続することにより、Windowsアプリケーションを使用できます。すべてのクライアント処理は、Windowsターミナル・サーバーで集中的に実行されます。画面表示、キー入力、およびマウス操作のコマンドのみが、ネットワーク経由でクライアントの端末機器とターミナル・サーバー間で転送されます。
<b>ウィザード</b>	JDeveloperの拡張機能の1つで、一連のステップを順を追って説明します。
<b>ワークベンチ</b>	関連のあるプログラムのグループに対して、1つのエントリ・ポイントからアクセスすることを可能にするプログラムです。通常、ワークベンチからアクセスするプログラムは、大規模な業務プロセスに使用されています。たとえば、JD Edwards EnterpriseOne給与計算サイクル・ワークベンチ(P07210)を使用して、給与の計算、支給レポートの印刷、給与レポートの作成、仕訳入力の作成、給与履歴の更新に使用されるすべてのプログラムにアクセスできます。JD Edwards EnterpriseOneには、サービス管理ワークベンチ(P90CD020)、ライン・スケジューリング・ワークベンチ(P3153)、計画ワークベンチ(P13700)、監査人ワークベンチ(P09E115)、給与計算サイクル・ワークベンチなどが用意されています。
<b>作業日カレンダー</b>	JD Edwards EnterpriseOne製造管理で、計画の作成に使用されるカレンダーです。このカレンダーには作業日のみが列挙されるので、実際に稼働可能な日数に基づいて構成と作業オーダーのスケジュールを設定できます。作業日カレンダーは、計画カレンダー、製造カレンダー、または製造現場カレンダーと呼ばれる場合もあります。
<b>ワークフロー</b>	ビジネス・プロセスの一部または全体の自動化を意味します。自動化されたプロセス(ワークフロー)では、ドキュメント、情報、タスクが、指定された手順に従ってユーザーからユーザーへ渡されます。
<b>ワークグループ・サーバー</b>	マスター・ネットワーク・サーバーからレプリケートされたデータのサブセットが通常置かれるサーバーです。ワークグループ・サーバーでは、アプリケーションやバッチ処理は実行されません。
<b>XAPIイベント</b>	システム・コールを使用してJD Edwards EnterpriseOneのトランザクションを発生時に取得し、特定のトランザクションが発生した場合に、通知を要求した

	サード・パーティ・ソフトウェア、エンドユーザー、およびその他のJD Edwards EnterpriseOneシステムを呼び出すサービスです。
XML CallObject	ビジネス関数の呼び出しを行うためのインタオペラビリティ機能です。
XMLディスパッチ	JD Edwards EnterpriseOneで応答として受信するすべてのXMLドキュメントに対して、単一のエントリ・ポイントを提供するインタオペラビリティ機能です。
XMLリスト	JD Edwards EnterpriseOneデータベース情報を、チャンク単位でリクエストおよび受信することを可能にするインタオペラビリティ機能です。
XMLサービス	JD Edwards EnterpriseOneシステムからイベントをリクエストし、別のJD Edwards EnterpriseOneシステムから応答を受信するためのインタオペラビリティ機能です。
XMLトランザクション	事前に定義されたトランザクション・タイプを使用して、JD Edwards EnterpriseOneにデータをリクエストしたり、JD Edwards EnterpriseOneからデータを受信するためのインタオペラビリティ機能です。XMLトランザクションでは、インターフェイス・テーブル機能が使用されます。
XMLトランザクション・サービス (XTS)	JD Edwards EnterpriseOneのフォーマットではないXMLドキュメントを、JD Edwards EnterpriseOneで処理可能なフォーマットに変換するサービスです。変換されたドキュメントに対する応答は、発信元(変換前)のXMLフォーマットに変換されます。
Zイベント	インターフェイス・テーブル機能を使用してJD Edwards EnterpriseOneトランザクションを取得し、特定のトランザクションが発生した場合に、通知を要求したサード・パーティ・ソフトウェア、エンドユーザー、およびその他のJD Edwards EnterpriseOneシステムに通知するサービスです。
Zテーブル	JD Edwards EnterpriseOne以外のデータを保存し、JD Edwards EnterpriseOne用に変換できるワークテーブルです。JD Edwards EnterpriseOneデータの取得にもZテーブルを使用できます。Zテーブルはインターフェイス・テーブルとも呼ばれます。
Zトランザクション	JD Edwards EnterpriseOneデータベースで更新できるよう、インターフェイス・テーブルで正しくフォーマットされたサード・パーティのデータです。

# 索引

## 数字/記号

52期間会計  
  会計期間パターン 111  
  会社への報告日付の割当 113  
  概要 309  
  再転記 113  
  仕訳の転記 309  
  損益計算書の作成 312  
  年度締め 310  
  変更 113  
  報告日付の設定 112  
  マルチスレッド・ジョブ待ち行列 309  
52期間会計転記(R098011) 309  
  処理オプション 310  
52期間損益計算書(R10252) 312  
  処理オプション 312  
52期間用年度締め(R09820B) 310  
AAI  
  一般 23  
  概要 23  
  勘定残高調整 67  
  勘定集計 28  
  繰越利益 25  
  現金主義会計 109  
  財務諸表合計 26  
  スピード・コード 27  
  前年度勘定の除去 29  
  調整可能範囲 28  
AAI(自動仕訳)  
  貸借対照表 400  
Customer Connection Webサイト xxxvi  
F48S82テーブル 33  
F48S95テーブル 42  
G/L予算チェック・レポート(R14115) 258  
  処理オプション 260  
P48S83プログラム 38  
P52G30プログラム 170  
PC予算アップロード  
  F0902Z1テーブルのフィールドのマッ  
  ピング 513  
  フィールド・マッピング 269  
  レコードの除去 275  
PeopleCodeの表記規則 xxxviii  
R52G11プログラム 166

  処理オプション 167  
R52G31プログラム 170  
R52G41プログラム 176  
R52G60プログラム 177  
UDC  
  概要 16  
  勘定科目カテゴリ・コード 17  
  キャッシュフロー活動コード 102  
  キャッシュフロー規則 103  
  残高調整コード 17, 68  
  資金タイプ・コード 89  
  自動銀行取引明細 69  
  通常残高コード 102  
  伝票タイプ 17  
  取引コード 17  
  ビジネスユニット・カテゴリ・コード 16  
  補助元帳タイプ 17  
  元帳タイプ 18  
UDC制御ファイルの作成(R10005) 341  
  処理オプション 342  
VERTEX  
  売上税 29

## あ

アップロード/変換(R14110) 273  
  処理オプション 273  
アップロード/変換の改訂  
  (P0902Z1) 266, 273  
  処理オプション 266  
アプリケーションの基礎 xxxv

## い

一般会計  
  機能 7  
  システム設定 11  
  テーブル 479  
  統合 2  
  標準ワークフロー 523  
一般会計の資金予測データの抽出  
  (R09522) 292  
インデックス計算および印刷  
  (R093021) 152  
  処理オプション 155

## う

売掛管理資金予測データの抽出  
(R03B522) 292

## お

オフライン仕訳の処理(P0911Z1)  
処理オプション 141  
オンライン照会  
概要 373  
勘定科目残高(補助元帳別)  
(P092131) 375, 391, 392  
勘定科目の照会(カテゴリ・コード別)  
(P09202) 375, 385, 390  
勘定科目の照会(主科目別)  
(P09201) 375, 385, 389  
勘定残高(月別)(P0902P1) 375, 391  
試算表 374  
試算表(会社別)(P09216) 374, 379,  
383  
試算表(主科目別)(P09214) 374,  
381  
試算表と元帳の比較(P09210A) 374,  
375, 377  
試算表(補助元帳別)(P09215) 374,  
383  
主科目別試算表(P09214) 379  
代替勘定科目の照会(P09218A) 375  
取引明細照会(P09200) 375, 384,  
388  
オンライン予算比較(P09210A) 256  
処理オプション 257  
オンライン連結  
オンライン財務諸表の検討 330  
概要 313  
カテゴリ・コード別のビジネスユニット  
連結 324  
検討 328  
作成 324  
組織レポート構造 317  
組織レポート構造の作成 318  
ビジネスユニットの追加作成 321, 322  
ビジネスユニットの連結 326  
レポート構造の確認 321  
レポート構造のコピー 321, 323  
レポート構造の再編成 321  
レポート構造の作成 319  
レポート構造の追加 320  
レポート構造の定義 318, 319

レポート構造別のビジネスユニットの  
連結 325

オンライン連結(P09218)  
処理オプション 328

## か

買掛管理資金予測データの抽出  
(R04522) 292  
会計期間  
再計算 444  
締め 459, 460  
締め処理 461, 462  
会計期間パターン  
再計算 444  
変更 444  
会計年度  
再計算 444  
締め 468  
締め処理 465, 467  
締め処理の準備 466  
年度締めレポートのエラー・メッセー  
ジ 468  
予算用締め処理 469  
会計年度および期間の計算(R099103)  
処理オプション 446  
架空ビジネスユニット 333  
カスタム再フォーマットUBE  
(R09501) 197  
処理オプション 197  
カテゴリ・コード  
レポート 526, 543  
カテゴリ・コードの更新F0101 -> F0006  
(R098021) 458  
借方と貸方の調整 192  
手動残高調整 192  
処理 191  
借方と貸方の調整(P09131) 191  
仮勘定 203  
カレンダー期間パターン  
再計算 444  
変更 445  
勘定科目  
一括更新 455  
残高調整 427  
変更 455  
勘定科目合計(仕入先/顧客別)  
(R09451) 540  
処理オプション 540  
勘定科目構造  
改訂 448

勘定科目構造の作成(R10430) 343  
 処理オプション 345  
 勘定科目構造の照会/改訂  
 (P10440) 346  
 勘定科目構造の定義(P10430A) 343  
 勘定科目構造レポート(R10445) 346  
 処理オプション 347  
 勘定科目残高(補助元帳別)  
 (P092131) 391  
 勘定科目情報の変更(R09813) 455  
 処理オプション 456  
 勘定科目の照会(カテゴリ・コード別)  
 (P09202) 385  
 処理オプション 388  
 勘定科目の照会(主科目別)(P09201)  
 処理オプション 388  
 勘定科目表  
 改訂 447  
 勘定科目別申請済予算(P14103)  
 処理オプション 247  
 勘定科目別予算明細(P14101) 261  
 勘定科目マスターなしの勘定残高  
 (R097031)  
 処理オプション 433  
 勘定科目マスターなしの取引  
 (R097021) 434  
 処理オプション 434  
 勘定科目マスター・レコードの削除  
 (R09814) 476, 477  
 処理オプション 477  
 勘定残高(月別)(P0902P1) 391  
 処理オプション 391  
 勘定残高と取引の整合性(R09705) 430  
 処理オプション 429  
 間接費  
 F0911Z1テーブルのフィールドのマッ  
 ピング 486  
 R52G11プログラムの実行 166  
 間接費カテゴリ 32  
 基本規則 33, 36  
 計算方法 32, 36  
 処理の概要 165  
 セグメント 32  
 セグメント定義 34  
 定義 31  
 プール・グループ・コード 38, 40  
 プール定義 38, 39  
 レート 42  
 間接費カテゴリ 32  
 間接費基本規則テーブル(F48S82) 33

「間接費基本規則」フォーム 34, 36  
 間接費計算方法 36  
 「間接費計算方法の改訂」フォーム 34,  
 36  
 「間接費計算方法の処理」フォーム 34  
 間接費取引の作成プログラム  
 (R52G11) 166  
 間接費の計算方法 32  
 間接費レート・テーブル(F48S95) 42  
 「間接費レート入力」フォーム 42  
 「間接費レートの改訂」フォーム 42  
 「間接費レートの処理」フォーム 42  
 関連ドキュメンテーション xxxvi

## き

期末, 参照: 会計期間  
 キャッシュフロー計算書 101  
 概要 101, 401  
 キャッシュフロー活動コード 102  
 キャッシュフロー規則 103  
 キャッシュフロー規則の設定 104  
 生成 404  
 通常残高コード 102  
 例 401  
 キャッシュフロー計算書レポート  
 (R10521) 401  
 処理オプション 404  
 共通フィールド xl  
 銀行勘定科目 183  
 関連項目: 銀行勘定残高調整  
 銀行勘定残高調整  
 銀行勘定の手動残高調整 186  
 手動残高調整 187  
 調整済取引の未調整取引への変  
 更 189  
 調整ワークファイルの再作成 184,  
 185  
 無効な支払の残高調整 183  
 無効入金の残高調整 183  
 レポート 186  
 銀行口座  
 相互参照の設定 75  
 銀行テープの残高調整  
 概要 195  
 確認 199  
 勘定科目の残高調整情報の更  
 新 198  
 銀行テープの再フォーマット 197  
 決済済の取引の調整 198  
 レポート 199

銀行取引明細, 参照: 自動銀行取引明細  
 銀行取引明細処理(R09170)  
   処理オプション 213  
 銀行取引明細処理プログラム  
   (R09170) 211  
 銀行取引明細の入力(P09160)  
   処理オプション 205  
 銀行取引明細のロード(R09612) 224  
   処理オプション 224

## け

警告 xxxix  
 現金主義会計  
   AAI 109  
   AA元帳への伝票タイプの割当 109  
   売掛管理の仕訳 300, 301  
   買掛管理の仕訳 300, 301  
   概要 107, 299  
   現金主義仕訳 300  
   現金主義仕訳の検討 307  
   残高調整勘定のAAIの設定 110  
   仕訳の転記 307  
   数量の仕訳 300  
   伝票タイプ 107  
   伝票タイプの設定 108  
   発生主義会計の仕訳 299  
   マルチスレッド・ジョブ待ち行列 304  
   未充当入金AAIの設定 109  
   元帳への入力 300  
   例外レポート 306  
   例外レポートに表示されるエラー 306  
 現金主義仕訳の作成(R11C850) 299,  
   304, 305  
 現金主義仕訳の作成プログラム  
   (R11C850)  
   処理オプション 305

## こ

ご意見 xl  
 固定情報  
   概要 12  
   設定 14  
 ご要望 xl

## さ

再転記  
   再転記の実行状況 442  
   プログラム 441, 443  
 差異分析(5か月分)(R10411A)

処理オプション 409  
 差異分析(R10212A) 409  
   処理オプション 409  
 債務 259  
 財務レポート  
   概要 395  
   貸借対照表 399  
   報告日付の変更 463  
   関連項目: 財務報告日付  
   連結レポート 405  
 作業オーダー  
   スピード勘定科目入力 118  
 残高調整, 参照: 銀行勘定残高調整, 銀行  
 テープの残高調整, 借方と貸方の調整  
 残高調整(P09131)  
   処理オプション 187  
 残高調整グループ  
   グループの銀行取引明細勘定への  
   割当 83  
   自動銀行取引明細 78  
 残高調整テーブルの再作成  
   (R09130) 184, 198, 210  
   処理オプション 185  
 残高調整ルール  
   自動銀行取引明細 78  
   設定 79  
   ルールのグループへの割当 82  
 残高調整レポートの印刷(R09132P) 186

## し

資金タイプ規則  
   設定 91, 94  
 資金予測  
   概要 89  
   資金タイプ規則 90  
   資金タイプ規則の設定 91, 94  
   資金タイプ・コード 89  
   情報の分析 294, 296  
   処理 291  
   データの除去 297  
   データのリフレッシュ 291, 293  
   レポート構造 95  
   レポート構造の定義 97  
 資金予測データの除去(R09522B) 297  
   処理オプション 297  
 資金予測データのリフレッシュ  
   (R00522) 291  
   処理オプション 293  
 資金予測分析(P09522) 291, 294  
   処理オプション 295

- 資金予測レポート(R095221) 294
- 試算表
  - オンライン照会 374
  - 会社別残高の検討 379, 383
  - 主科目別残高の検討 379, 381
  - 照会 374
  - 補助元帳別残高の検討 383
  - 元帳比較の検討 375, 377
  - レポート 525
- 試算表(会社別)(P09216) 379
  - 処理オプション 381
- 試算表(カテゴリ・コード別) - 借方/貸方形式(R09472) 543
- 試算表(主科目別)(R09214)
  - 処理オプション 380
- 試算表(主科目別)(R094121) 533
- 試算表と元帳の比較(P09210A) 375
- 試算表(補助元帳別)(P09215) 379
  - 処理オプション 381
- 試算表/元帳比較(P09210A)
  - 処理オプション 376
- システム設定
  - 概要 11
- 実績レート計算
  - 概要 177
- 実績レート計算処理プログラム
  - 使用 179
  - 処理オプション 178
- 実績レート計算プログラム 177
  - プログラムの実行 180
- 自動銀行取引明細
  - UDC 69
  - 概要 217
  - 銀行勘定残高調整 78
  - 銀行口座相互参照 74
  - 銀行取引明細テーブルへのデータのロード 224
  - グループの銀行取引明細勘定への割当 83
  - 顧客番号のない取引の改訂 228
  - 残高調整グループ 78
  - 残高調整ルール 78, 79
  - 残高調整ルールの割当 82
  - 処理 218, 229
  - 相互参照の設定 75
  - 中間データの改訂 222
  - 中間テーブル 221
  - データの改訂 225, 227
  - テーブルの除去 237
- 変換フローのフィールドのマッピング 499
- 未調整取引の調整 232, 233
- 未調整メッセージ 230
- レポート 230
- 自動銀行取引明細テーブルの削除(R09615)
  - 処理オプション 238
- 自動銀行取引明細の改訂(P09616)
  - 処理オプション 226
- 自動銀行取引明細の処理(R09616) 229
  - 処理オプション 231
- 締め
  - 会計期間 460
- 締め処理
  - 会計期間 459, 461, 462
  - 会計年度 465
- 主科目
  - 一括更新 450, 452
- 主科目別試算表(P09214) 379
- 主科目別取引(R09423) 538
- 主科目/補助科目制御ファイルの作成(R10909) 341
  - 処理オプション 342
- 主科目/補助科目制御例外レポート(R107021)
  - 処理オプション 357
- 受信連結データの改訂(P1002Z1) 366
- 受信連結データの処理(R1002Z1) 365
  - 処理オプション 366
- 手動銀行取引明細
  - 概要 201
  - 仮勘定 203
  - 銀行取引明細取引の入力 204
  - 銀行取引明細の処理 211
  - 調整レポート 215
  - 調整ワークファイルの再作成 210
  - 取引コード 202
  - 取引の入力 208
  - 入金バッチの処理 215
- 手動銀行取引明細の残高照合(P09631) 232
  - 処理オプション 233
- 消去規則 348
- 詳細変数配賦
  - R09123Cのバージョン設定 51
  - R09213Bのバージョン設定 51
  - R0948S84のバージョン設定 51
  - 間接費 159
  - 機能 159

- 計算 161
- 指定 52, 61
- 詳細変数配賦の計算(R09123) 160
- 処理 156
- 設定 45, 47
- ビジネスユニット一時変更 48, 49
- 詳細変数配賦(P09123)
  - 処理オプション 54
- 「詳細変数配賦計算の指定」フォー  
ム 54, 56, 59, 61, 63
- 詳細変数配賦の計算(R09123)
  - 処理オプション 161
- 「詳細変数配賦の処理」フォーム 53
- 「詳細変数配賦の設定」フォーム 45
- 除去
  - 前年度勘定残高 476
  - 前年度レコード 474
- 処理オプション 192, 312
  - 52期間会計転記(R098011) 310
  - G/L予算チェック・レポート  
(R14115) 260
  - UDC制御ファイルの作成  
(R10005) 342
  - アップロード/変換(R14110) 273
  - アップロード/変換の改訂  
(P0902Z1) 266
  - インデックス計算および印刷  
(R093021) 155
  - オフライン仕訳の処理(P0911Z1) 141
  - オンライン予算比較(P09210A) 257
  - オンライン連結(P09218) 328
  - 会計年度および期間の計算  
(R099103) 446
  - カスタム再フォーマットUBE  
(R09501) 197
  - 勘定科目合計(仕入先/顧客別)  
(R09451) 540
  - 勘定科目構造の作成(R10430) 345
  - 勘定科目構造レポート(R10445) 347
  - 勘定科目情報の変更(R09813) 456
  - 勘定科目の照会(主科目別)  
(P09201) 388
  - 勘定科目別申請済予算(P14103) 247
  - 勘定科目マスターなしの勘定残高  
(R097031) 433
  - 勘定科目マスターなしの取引  
(R097021) 434
  - 勘定科目マスター・レコードの削除  
(R09814) 477
  - 勘定残高(月別)(P0902P1) 391
- 勘定残高と取引の整合性  
(R09705) 429
- キャッシュフロー計算書レポート  
(R10521) 404
- 銀行取引明細処理(R09170) 213
- 銀行取引明細の入力(P09160) 205
- 銀行取引明細のロード(R09612) 224
- 現金主義仕訳の作成プログラム  
(R11C850) 305
- 差異分析(5か月分)(R10411A) 409
- 差異分析(R10212A) 409
- 残高調整(P09131) 187
- 残高調整テーブルの再作成  
(R09130) 185
- 資金予測データの除去  
(R09522B) 297
- 資金予測データのリフレッシュ  
(R00522) 293
- 資金予測分析(P09522) 295
- 資金予測レポート構造の設定  
(P09523) 96
- 試算表(会社別)(P09216) 381
- 試算表(主科目別)(R09214) 380
- 試算表(補助元帳別)(P09215) 381
- 試算表/元帳比較(P09210A) 376
- 自動銀行取引明細テーブルの削除  
(R09615) 238
- 自動銀行取引明細の改訂  
(P09616) 226
- 自動銀行取引明細の処理  
(R09616) 231
- 主科目/補助科目制御ファイルの作  
成(R10909) 342
- 主科目/補助科目制御例外レポート  
(R107021) 357
- 受信連結データの処理  
(R1002Z1) 366
- 手動銀行取引明細の残高照合  
(P09631) 233
- 詳細変数配賦(P09123) 54
- 詳細変数配賦の計算(R09123) 161
- 仕訳の検討(P0011) 130
- 仕訳のバッチ処理(R09110Z) 139
- 前期残高の整合性(R10700) 356
- 前年度仕訳の除去(R09911) 475
- 総勘定元帳への転記(R09801) 132
- 組織構造の照会/改訂(P0050) 322
- 損益計算書(R10211B) 398
- 貸借一致の会社間勘定科目  
(R097011) 427



- 貸借対照表(R10111B) 400
  - 貸借不一致のバッチ(R007032) 421
  - 中間テーブルの除去(R09610) 237
  - 月別損益計算書(R10412A) 408
  - 定期仕訳の計算および印刷  
(R09302) 150
  - テープ・ファイルと残高調整ファイルの  
照合(R09510) 199
  - 取引とバッチ見出しの整合性  
(R007021) 414
  - 取引の集計(R09811) 473
  - 取引明細照会(P09200) 386
  - 取引明細の再転記(R099102) 443
  - 年間予算の期間配賦(R14801) 252
  - 年度締め(R098201) 469
  - バッチと取引明細の整合性  
(R007031) 418
  - バッチ別貸借不一致の会社  
(R09706) 423
  - ビジネスユニット/会社の削除  
(R09925) 478
  - ビジネスユニット/勘定科目月次比較  
(R10701)レポート 357
  - ビジネスユニット構造の作成  
(R10450) 319
  - ビジネスユニットなしの勘定科目  
(R097041) 432
  - ビジネスユニット別申請済予算  
(P14102) 247
  - 複数サイト連結データ伝送  
(R10610) 361
  - 補助科目別取引(R09424) 540
  - 前の連結の削除(R10861) 332
  - ユーザー定義コード値制御例外  
(R107011) 356
  - 予算インポート・フィールドのマッピン  
グ(R14110M) 270
  - 予算への予測の適用(R1407) 289
  - 予算ワークシート(R14113) 255
  - 予測基準の作成(R1403) 281
  - 予測結果の作成(R1404) 285
  - 連結コンソール(P10610) 364
  - 連結残高仕訳(R10480) 369
  - 連結処理(R10550) 352
  - 連結損益計算書 - 7析式  
(R103121A) 406
  - 連結損益計算書(R10250) 358
  - 連結貸借対照表(R10150) 357
  - 連結貸借対照表(R10311A) 406
  - 連結データの再作成(R10862) 334
  - 連結の検討(P09210A) 335
  - 仕訳 138
  - 関連項目: バッチ処理
  - エラー・メッセージ 123
  - 概要 115
  - 勘定科目コード・セグメントのコ  
ピー 118
  - 基本 117
  - 基本入力 122
  - 逆仕訳 117, 126
  - 逆仕訳の確認 127
  - 逆仕訳の入力 126
  - 検討 130
  - コピー 125
  - 作業オーダー用仕訳のスピード勘定  
科目入力 118
  - 生成 116
  - タイプ 117
  - 転記 130, 131, 135
  - 転記処理 131
  - 転記済の改訂 135, 136
  - 転記済の無効化 136
  - 添付の追加 124
  - バッチ処理 137
  - パーセント 117
  - パーセントの入力 124
  - 未転記の改訂 125
  - 未転記の削除 126
  - 未転記を逆仕訳に変更 127
  - 未登録勘定科目コードの許可 119
  - 無効化 136
  - モデル 117, 127
  - モデル仕訳のコピー 128
  - モデルの作成 128
  - モデルの選択 129
  - 仕訳帳
  - レポート 525
  - 仕訳帳(勘定科目別)(R09311) 530
  - 仕訳入力マスター・ビジネス関数  
(P0900049) 121
  - 仕訳の検討(P0011)
  - 処理オプション 130
  - 仕訳のバッチ処理(R09110Z) 138
  - 処理オプション 139
- す
- スピード・コード
  - AAI 27
  - 例 28
  - スプレッドシート

月別損益計算書の印刷 407  
月別損益計算書の概要 407

## せ

整合性 355  
  関連項目: レポート  
  エラー・メッセージ 422, 423, 425, 426, 428, 431, 433  
  概要 411  
  貸借不一致状況 424, 427  
  レポート 412, 414, 417, 420, 422, 424, 431, 432  
製品ガイド  
  注文 xxxvi  
政府に対するレポート 373  
セグメント  
  設定 34  
  説明 32  
「セグメント定義の改訂」フォーム 34  
「セグメントの処理」フォーム 34  
前期残高の整合性(R10700)  
  処理オプション 356  
前提知識 xxxv  
前年度勘定残高の除去(R09912) 476  
前年度仕訳の除去(R09911) 474, 475  
  処理オプション 475

## そ

総勘定元帳  
  レポート 526  
総勘定元帳(カテゴリ・コード別)  
  (R09470) 541  
総勘定元帳(主科目別)(R09421) 534  
総勘定元帳への転記(R09801)  
  処理オプション 132  
総勘定元帳(補助元帳合計付き)  
  (R09422) 537  
相互参照 xxxix  
遡及調整  
  処理の概要 169  
  遡及調整グループの削除 175  
  遡及調整グループの詳細の検討 174  
  遡及調整グループの承認 175  
  遡及調整取引グループの処理の概要 174  
  遡及調整取引によるF4812テーブルの更新 176  
  遡及調整取引の作成プログラムの設定 171

遡及調整取引の作成プログラム  
  プログラムの実行 173  
遡及調整取引の処理プログラム 170  
遡及調整ワークファイルの生成プログラム 176  
組織構造の照会/改訂(P0050) 321  
  処理オプション 322  
組織構造の定義(P0050B) 318  
損益計算書 397  
  連結損益計算書の作成 405  
損益計算書(R10211B)  
  処理オプション 398

## た

貸借一致の会社(R097001) 424  
貸借一致の会社間勘定科目  
  (R097011) 427, 428  
  処理オプション 427  
貸借対照表 399  
  生成 400  
  当期利益計算 399  
  連結貸借対照表の作成 406  
貸借対照表(R10111B)  
  処理オプション 400  
貸借不一致のバッチ(R007032) 420  
  処理オプション 421  
貸借不一致のバッチ・レポート  
  (R09706) 422

## ち

注意 xxxix  
注意事項 xxxix  
中間テーブルの除去(R09610)  
  処理オプション 237

## つ

追加ドキュメンテーション xxxvi  
月別損益計算書(R10412A) 407  
  処理オプション 408

## て

定期仕訳の計算および印刷  
  (R09302) 147  
  処理オプション 150  
転記  
  総勘定元帳 131  
電子銀行取引明細の改訂(P09610) 221  
  添付  
    仕訳に追加 124

テープ・ファイルと残高調整ファイルの照  
合(R09510) 198  
処理オプション 199

## と

導入  
一般会計 4  
ドキュメンテーション  
関連 xxxvi  
最新版 xxxvi  
ダウンロード xxxvi  
ドキュメンテーションのダウンロード xxxvi  
取引仕訳(R09321) 531  
取引とバッチ見出しの整合性  
(R007021) 435  
処理オプション 414  
取引の集計(R09811) 471, 472  
処理オプション 473  
取引明細照会(P09200)  
処理オプション 386  
取引明細の再転記(R099102) 441  
処理オプション 443

## ね

年間金額の各期間への配賦  
予算入力時 251  
年間予算の期間配賦(R14801)  
処理オプション 252  
年度締め(R098201) 468  
処理オプション 469

## は

配賦 45  
関連項目: 詳細変数配賦  
インデックス配賦 150, 153, 155  
インデックス配賦例 151  
概要 143  
詳細変数 45  
詳細変数配賦 156  
処理 144  
タイプ 143  
多階層 145  
定期仕訳 147, 148, 150  
バッチ処理  
エラー 138  
間接費設定用のフィールド 486  
システム外で調整した取引のフィールドのマッピング 497

収益性分析システムの必須フィールド 488

処理済バッチ仕訳の転記 142  
処理済レコードの除去 142  
仕訳のアップロード 138  
仕訳のフィールドのマッピング 483  
任意フィールド 488  
バッチ処理の実行 139  
バッチ仕訳処理 140  
バッチ仕訳の処理 137  
必須フィールド 483  
無視されるフィールド 495  
バッチ仕訳処理(R09110Z) 370  
バッチ仕訳の処理  
バッチ仕訳の追加 141  
バッチと取引明細の整合性  
(R007031) 436  
処理オプション 418  
バッチ別貸借不一致の会社(R09706)  
処理オプション 423  
バッチ見出し  
貸借不一致の転記 439  
転記済詳細 417  
不足 417  
レコードの改訂 435, 438  
レコードの検討 437  
レコードの追加 438  
バッチ見出しの改訂(P0011) 435  
バッチ連結  
概要 314, 331  
架空ビジネスユニット 333  
検討 335, 337  
作成 333, 334  
前の連結の削除 332  
例 314

## ひ

ビジネスユニット  
一括更新 452  
会社番号の変更 453  
削除 477  
複数勘定科目の変更 449, 450  
補足データ 29  
ビジネスユニット一時変更  
配賦 48  
「ビジネスユニット一時変更の編集」  
フォーム 50  
ビジネスユニット/会社の削除  
(R09925) 477, 478  
処理オプション 478

ビジネスユニット/勘定科目月次比較  
 (R10701)レポート  
   処理オプション 357  
 ビジネスユニット構造の作成(R10450)  
   処理オプション 319  
 ビジネスユニットなしの勘定科目  
 (R097041) 431  
   処理オプション 432  
 ビジネスユニットの変更(P09812) 449  
 ビジネスユニット別申請済予算(P14102)  
   処理オプション 247  
 表記規則 xxxviii  
 標準勘定科目の仕訳への反映  
 (R09806) 452, 453

## ふ

フォーム  
   「元帳タイプ規則の設定」 21  
 複数サイト連結  
   F1001Z1テーブルの任意フィールドの  
     マッピング 518  
   F1001Z1テーブルの必須フィール  
     ド 517  
   F1001Z1テーブルの無視されるフィー  
     ルド 520  
   F1002Z1テーブルの任意フィールドの  
     マッピング 521  
   F1002Z1テーブルの必須フィール  
     ド 520  
   F1002Z1テーブルのフィールドのマッ  
     ピング 520  
   F1002Z1テーブルの無視されるフィー  
     ルド 522  
 概要 315  
 勘定科目構造 343  
 勘定科目構造の印刷 346  
 勘定科目構造の改訂 346  
 勘定科目構造の作成 343, 345  
 勘定科目構造の定義 343, 344  
 構造の定義 340  
 受信複数サイト連結のフィールドの  
   マッピング 517  
 受信連結の改訂 366, 367  
 受信連結の除去 367  
 受信連結の処理 366  
 状況の確認 360  
 消去規則 348  
 消去規則の定義 350  
 除去 370, 371  
 処理 339, 352, 370

制御ファイル・レポート 341  
 組織構造 342  
 ソース・サイト 339, 340  
 ターゲット・サイト 339, 340  
 伝送プログラム 361  
 バッチ仕訳の処理 371  
 バッチ仕訳の生成 369  
 複数階層 340  
 複数サイトのバッチ仕訳の生成 368  
 レポート 354, 355  
 レポートに表示されるエラー 355  
 連結規則 347  
 連結規則の定義 348  
 連結残高の作成 351  
 連結残高の送信 361, 363, 364  
 連結状況 359  
 連結のアップロード 365  
 複数サイト連結データ伝送  
 (R10610) 361  
   処理オプション 361  
 プールID 38  
 プール・グループ・コード 38, 40  
 「プール・グループ・コードの改訂」フォー  
 ム 39  
 「プール・グループ・コードの処理」フォー  
 ム 39  
 「プール・グループ・コードの追加」フォー  
 ム 39, 40  
 プール定義 38, 39  
 「プール定義の改訂」フォーム 39  
 「プール定義の処理」フォーム 39  
 「プール定義の追加」フォーム 39  
 プール定義プログラム(P48S83) 38

## ほ

法定プログラム 373  
 補助科目  
   一括更新 451, 452  
 補助科目の変更(P09805) 451  
 補助科目別取引(R09424) 540  
   処理オプション 540  
 補足データ  
   ビジネスユニットの設定 29

## ま

前の連結の削除(R10861) 331, 332  
   処理オプション 332  
 マスター・ビジネス関数 121  
 マルチスレッド・ジョブ待ち行列

52期間会計 309  
現金主義会計 304

## み

未転記のバッチ 420  
未転記バッチ(R007011) 420  
未転記レポート(R09301) 307  
未登録勘定科目コード 119

## も

モデル/連結フィールドの更新  
(R0006QD) 457  
元帳タイプ  
規則の設定 20  
設定 18

## ゆ

ユーザー定義コード値制御例外  
(R107011)  
処理オプション 356

## よ

予算 277  
関連項目: 予算の予測と計画  
インポートされたデータのF0902テーブルへのアップロード 273  
インポートされたデータのアップロード 273  
インポートされたデータの改訂 271  
オンラインでの予算/実績比較 258  
オンライン予算検討 256  
概要 239  
勘定科目別の年間予算金額の入力 249  
勘定科目別予算明細 261  
勘定科目別予算明細金額の入力 261  
金額と債務 259  
サイクル 245  
処理済レコードの除去 276  
仕訳 240  
スプレッドシートからのデータのインポート 266, 267  
スプレッドシートのガイドライン 266  
年間金額の配賦 252  
年間予算 245  
年間予算の配賦 250, 251  
ビジネスユニット別の年間金額の入力 248

方法 239  
予算/実績のオンライン比較 258  
予算仕訳 262  
予算仕訳の入力 263  
予算チェック計算 259  
予算超過の管理 258  
予算パターン 240  
予算パターン・コードの作成 242  
予算パターン・コードの変更 243  
ワークシート 253

予算インポート・フィールドのマッピング  
(R14110M) 268, 269  
処理オプション 270  
予算実績差異分析(5か月分)  
(R10411A) 409  
予算のインポート  
F0902Z1テーブルへのデータ変換 268

予算の予測と計画  
勘定科目定義 279  
勘定科目と基準金額の改訂 282  
勘定科目と基準金額の自動作成 279, 281  
基準金額 279  
処理 278  
手作業による勘定科目の定義と基準金額の取込み 279, 280  
予算予測の改訂 285, 286  
予測金額の作成 284, 285  
予測の更新 288  
予測の除去 289  
予測レコードの更新 288  
予算への予測の適用(R1407) 288  
処理オプション 289  
予算ワークシート(R14113) 253  
処理オプション 255  
予測基準の改訂(P1403) 279  
予測基準の作成(R1403) 279  
処理オプション 281  
予測結果の作成(R1404) 284  
処理オプション 285  
予測と計画 282  
関連項目: 予算の予測と計画  
予測レポート構造の設定(P09523)  
処理オプション 96

## れ

レポート  
G/L予算チェック・レポート  
(R14115) 259

## UDC制御ファイルの作成

(R10005) 341

カテゴリ・コード 526

勘定科目合計(仕入先/顧客別)

(R09451) 540

勘定科目構造レポート(R10445) 346

勘定科目マスターなしの勘定残高

(R097031) 413, 432

勘定科目マスターなしの取引

(R097021) 413, 434

勘定残高と取引の整合性

(R09705) 413, 430

キャッシュフロー計算書レポート

(R10521) 401

差異分析(R10212A) 409

残高調整レポートの印刷

(R09132P) 186

資金予測レポート(R095221) 294

試算表 525

試算表(カテゴリ・コード別) - 借方/貸  
方形式(R09472) 543

試算表(主科目別)(R094121) 533

自動銀行取引明細処理(R09616) 230

主科目別取引(R09423) 538

主科目/補助科目制御

(R107021) 355, 356

主科目/補助科目制御ファイルの作  
成(R10909) 341

仕訳帳 525

仕訳帳(勘定科目別)(R09311) 530

前期残高の整合性(R10700) 356

総勘定元帳 526

総勘定元帳(カテゴリ・コード別)

(R09470) 541

総勘定元帳(主科目別)(R09421) 534

総勘定元帳(補助元帳合計付き)

(R09422) 537

損益計算書(R10211B) 397

貸借一致の会社(R097001) 413, 424

貸借一致の会社間勘定科目

(R097011) 427

貸借一致の会社間勘定レポート

(R097011) 413

貸借不一致のバッチ(R007032) 413,  
420

貸借不一致のバッチ(R09706) 422

月別損益計算書(R10412A) 407

取引仕訳(R09321) 531

取引とバッチ見出しの整合性

(R007021) 413, 414

バッチと取引明細の整合性

(R007031) 413, 417

バッチ別貸借不一致の会社

(R09706) 413

ビジネスユニット/勘定科目月次比較

(R10701) 355, 357

ビジネスユニットなしの勘定科目

(R097041) 413, 431

補助科目別取引(R09424) 540

未転記バッチ(R007011) 413, 420

未転記レポート(R09301) 307

ユーザー定義コード値制御

(R107011) 356

ユーザー定義コード値制御例外

(R107011) 355

予算実績差異分析(5か月分)

(R10411A) 409

連結損益計算書(R10250) 355, 358

連結貸借対照表(R10150) 355, 357

連結, 参照: オンライン連結, 複数サイト  
連結, バッチ連結

連結規則 347

連結コンソール(P10610) 359, 363

処理オプション 364

連結残高仕訳(R10480) 368

処理オプション 369

連結処理(R10550) 351

処理オプション 352

連結設定(P10470) 347

連結損益計算書 - 7桁式(R103121A)

処理オプション 406

連結損益計算書(R10250)

処理オプション 358

連結貸借対照表(R10150)

処理オプション 357

連結貸借対照表(R10311A) 406

処理オプション 406

連結データの再作成(R10862) 331, 333

処理オプション 334

連結の検討(P09210A) 335

処理オプション 335

連絡先情報 xl